

科目名	地域社会と大学教育（教育）	学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL11101	研究室	学生セク -
担当者	住吉 廣行	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）							
	A B C								
授業概要									
本講義は、初年次教育の意味合いを持たせています。大学のミッション、大学・学部・学科の3ポリシーについて確認します。大学生の特徴を捉えた教育手法を説明し、課題解決型の学びを展開しようとしていること、学生支援についての大学側の考え方がCSの向上にあるのではなく学生をパートナーと見なすというパラダイムシフトを考えていることを説明します。各種センターの機能について説明し、それらを大学生活の中で活かせるようにします。教育学部に特有の課題についても共に考えます。									
学修到達目標									
大学の教育に対する考え方、大学側が用意している学修支援システムの種類や場所やその機能等について理解している。そしてそれらを活用するためにも、学生一人一人がこれからの大学生活をどのように送るべきかを十分に考え、カリキュラムの組み方、取得すべき資格、地域連携・ボランティア活動等学生の自主的な活動への参加などについてプランニングができる。									
授業の進め方									
事前に配付されたプリントに基づき、パワーポイントを使って進められます。加えて、大学の「自主独立の精神に基づいて、それぞれの学部」に適合した内容で前向きな姿勢で講演して下さるゲストをお招きし、熱く語っていただきます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	カリキュラム構成、教養（モジュール）、コース設定	現時点で思い描く理想の教師像について考えます。教育学部の専門教育のカリキュラム構成を確認し、教養科目のモジュール設定の意図を理解します。そして、教育学部生に開かれた進路について考察します。				事前：履修登録の手引きを熟読する。(2時間)事後：4年間の学修計画を考える。(2時間)			
2	長野県、松本市等の案内と地域の特色、松本大学のミッション	本学が立地する長野県、松本市の特色を理解しこの地域ならではの自然環境、歴史、行政のあり方の特徴を概観します。その後本学設立の経緯、大学のミッション、教育学部が目指す方向性について確認します。				事前：パンフレットは熟読する。(2時間)事後：配布したプリントに基づき復習する。(2時間)			
3	学校法人松商学園や松本大学の組織と各種センターの役割	学校法人松商学園や松本大学の運営のあり方、さらには学生支援や地域連携等の全学的なセンター機能についても言及します。				事前：教職課程履修の手引きを熟読する。(2時間)事後：これまでの授業を振り返る。(2時間)			
4	PROG（ジェネリックスキルテスト）受験 自分を知る	PROGと称されるテストを受けます。これは学力というよりも社会人として必要な力がどの程度備わっているかについて、気付かせるといった内容です。自分自身も知らない自分を見つけます。				事前：教育委員会HPで求められる人材像を調べる。入学前ワークブックを振り返る。(2時間)			
5	特別講義	長野県から岸田先生を迎え、県下における特別支援学校の実情をお聞きする。具体的な仕事内容や教師として求められる素養について語っていただきますが、自由に質疑応答できる時間を設定します。				事前：自身の教師像を振り返る。(2時間)事後：聴講した感想等を受講票に記入。(2時間)			
6	入学前面談の振り返り	入学前に実施したキャリア面談を振り返ります。振り返りによって、これからの大学生活を有意義に送るためのヒントを探ります。				事前：入学前面談内容を整理しておきます(2時間)			
7	地域連携の「帰納的教育手法」	この回以降、八つの力をどのように獲得するのかについての松本大学の考え方を説明する。地域連携を取り入れた帰納的教育手法とアクティブラーニングなどを多くの具体例を使って説明します。				事前：プリントを読む。(2時間)事後：教育学部Bならではの地域活動の具体例を考える。(2時間)			
8	地域連携の「帰納的教育手法」	「帰納的教育手法」を理論的にまとめ、それが研究活動と類似性を持つことを理解し、2回の講義をまとめます。				事前：プリントを読む。(2時間)事後：理論の意味するところをよく吟味する。(2時間)			
9	近隣の学校での現場体験及び教育学部内のセンターとその役割	教育学部内にある「教育」に関する3つのセンターと「研究」に関する2つのセンターについてその役割を説明します。また講義内での学校現場での活動を、専門員や先輩学生からその状況を聞きます。				事前：教職課程履修の手引きを熟読する。(2時間)事後：これまでの授業を振り返る。(2時間)			
10	大学教員の任務、小学校教員に求められる八つの力	大学教員の仕事内容について理解を深める。それに関連させ、小学校教員に必要な八つの力について具体例を挙げ解説し理解を深め、今後の大学生活を考えます。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)			
11	国際交流センターの現状と課題	松本大学や短大で実施されている国際交流の状況を解説し、これからのグローバル化社会への対応について考えると共に、小学校での英語教育の今後を考えます。				事前：グローバル化について検討。(2時間)事後：自身の学修計画に国際を組み込む。(2時間)			
12	地域づくり考房『ゆめ』と健康安全センター	前半は正課外での地域活動を担う、地域づくり考房『ゆめ』の活動例を紹介する。後半は学生の健康を守る砦である健康安全センターの役割を周知し、健康診断の解説や喫煙や受動喫煙の影響に警鐘をならします。				事前：『ゆめ』の活動事例を調べる。(2時間)事後：『ゆめ』を訪問し、活動に触れる。(2時間)			
13	“B”ポリシーの哲学と教育学部における意味	松本大学が考える学生支援に対する考え方を説明する。こうした考え方がどのような状況において成り立つのか、小学生の場合について敷衍して考察します。				事前：事前配布のプリントを読む。(2時間)事後：自分たちに何が出来るかを考える。(2時間)			
14	特別講義	学校職員としてのキャリアを持つ方を招いて話を伺う。職員という立場から見えてくる教育現場の実情を知ることは、未来の教師にも必ず生かせると思われれます。				事前：自身の教師像を振り返る。(2時間)事後：聴講した感想等を受講票に記入。(2時間)			
15	松本大学のCOCと地域活性化の視点	松本大学の地域連携を通じた地域活性化への取組は、全国的にも高い評価を受けCOC大学と認識されている。教育学部としてどのような活動が可能かを考えます。				事前：COCについて調べる。(2時間)事後：地域連携と教育について自身の考えを持つ。(2時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
講義用プリントが配付されます。		定期試験：100% S:大学の使命、教育手法等を正しく理解したうえで、大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画を立て、試験で特に優れた結果を出しすることが出来る。A:大学の使命、教育手法等を理解したうえで、今後の大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画ができ、試験で80点以上である。B:大学の使命、教育手法等を概ね理解したうえで、卒業に向けた準備学修の計画ができ試験で70点以上である。C:大学の使命、教育手法等を踏まえ、準備学修の計画がある程度でき、試験で60点以上である。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「教師が育つ条件」今津孝次郎著（岩波書店）、ISBN：978-4-00-431395-3 その他、本学が発行する各種パンフレットなど。		講義は前の席で聞きたい学生を予め募集し、席を2列ほど確保します。残りの学生は座席指定とします。シラバスをよく読んで、講義に臨んで下さい。受講票に記入された感想、質問、要望には次の時間に応えたいと思います。							

科目名	知の技法	学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ'リング	UL11102	研究室	A-16
担当者	守 一雄	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)							
	A B C								
授業概要									
<p>教養ある大人となるための「知の技法」を実習します。「知の技法」は広範囲に及びますが、この授業では言語の活用技術に絞って「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能について実習を通して学びます。具体的には、3冊の課題図書を読み、レポートを6回書き、本の内容について6回ディベート(聞き、話す)をします。なお、最終試験の受験資格が与えられるのは「ディベートに5回以上出席し、すべての読後レポートを提出」した者としてします。</p>									
学修到達目標									
<p>1) 本を決められた期間内に読めるようになる。2) パラグラフ・ライティングで文章が書けるようになる。3) ディベートで相手の主張を正しく聞き取ることができるようになる。4) ディベートで自分の意見を決められた時間内に話すことができるようになる。</p>									
授業の進め方									
<p>15回の授業のうち、6回を講義と実習、6回を小グループによるディベートにあてます。講義を聞くだけでなく、課題図書を読み、読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	この授業の進め方/ディベートのやり方と利点について説明し、学びます。				課題図書(1)を読む。(4時間)			
2	パラグラフライティング	レポートの書き方実習(三論点意見文章法)/パラグラフライティングについて説明し、学びます。				課題図書(1)の読書(4時間)			
3	ディベート	ディベート導入の是非についてディベートします。				読後レポート(1)の作成、提出(4時間)			
4	相互添削実習	レポート(1)の返却と相互添削実習 文章推敲の意義と方法について学びます。				レポート(1)の書き直し(4時間)			
5	ディベート	ディベート導入の是非について再度ディベートします。				レポート(1)の完成版提出(4時間)			
6	意見と感想	レポート(1)完成版返却とコメント 絶対評価と相対評価について学びます。				課題図書(2)の読書(4時間)			
7	ディベート	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします。				課題図書(2)のレポート(3)提出(4時間)			
8	レポート(3)の相互添削実習	レポート(3)の相互添削実習/三論点文章法の応用について説明し、学びます。				読後レポート(3)の推敲、完成版作成(4時間)			
9	ディベート	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします。				レポート(3)の書き直しと完成版(4)の提出(4時間)			
10	英語を学ぶことの意義	レポート(4)返却とコメント/科学的思考方法について説明し、学びます。				課題図書(3)の読書(4時間)			
11	ディベート	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします。				課題図書(3)のレポート(5)提出(4時間)			
12	英語学習の実際	レポート(5)の相互添削実習/三論点文章法の応用について説明し、学びます。				読後レポート(5)の推敲、完成版(6)作成(4時間)			
13	ディベート	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします。				読後レポート(6)の作成、提出(4時間)			
14	知の技法まとめ	レポート(6)を返却しコメントについて説明します。				総合的復習(4時間)			
15	最終試験・授業アンケート	最終試験(=定期試験)・解答について解説をします。				総合的復習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
<p>「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。) 課題図書  「残念ながら、その文章では伝わりません」山口拓朗著(たいわ文庫) ISBN:978-4479306597(生協で購入してください。) 課題図書  「英語を制するライティング」キム ジョンキユ著(講談社現代新書)(別途、指示します。) 課題図書</p>		<p>定期試験:100%  S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。なお、定期試験として行う最終試験では、知識を問うような試験はしません。</p>							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。		<p>楽な授業ではありませんが、本を読む習慣が付き、文章を書く力がつくはずですが、また、ディベートを通して、自分の主張をわかりやすく話し、相手の主張をしっかりと聞き取れるようになると思います。</p>							

科目名	基礎ゼミナール（教育）		学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UL11103	研究室		
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
			A	B	C						
授業概要											
大学における学修および研究の導入として、初年次に身に付けなければならないライフスキルおよびアカデミックスキルの基礎を学びます。大学における学修では、新しい知識の想像の伝達が重要であり、大学において学修を発展させるために必要な基礎的技能である、文献データ検索、論文の作成、社会人基礎力の理解と修得を目指します。											
学修到達目標											
大学の建学の精神や理念、学部学科のディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを理解した上で、4年間の学修を計画できる力を身に付けている。他者と協働して、課題解決に取り組むことができることができる。社会人基礎力のリテラシー、コンピテンシーを理解し、卒業後に必要なスキルを自ら学ぶ姿勢を身につけている。											
授業の進め方											
授業の学習内容により、グループワークや、講義形式など様々な形態で行います。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	自己紹介、履修相談を行います。					自分の履修計画を作成する（1時間）				
2	プレイスメントテスト省察	プレイスメントテストの返却、及び各ゼミ担当と打ち合わせを行います。					プレイスメントテストの振り返りを行う。（1時間）				
3	フレッシュマンセミナーの準備	担当係りに分かれて、フレッシュマンセミナーの準備を行います。					役割の確認、セミナーの事前準備。リメディアル課題。（1時間）				
4	社会人基礎力試験 1	PROG（ジェネリックスキルテスト）を受験します。					各県の教育委員会ホームページで、求められる人材像を調べる。（1時間）				
5	各ゼミでの振り返り	各ゼミでフレッシュマンセミナーを振り返ります。					フレッシュマンセミナーの振り返り。リメディアル課題。（1時間）				
6	教員採用試験演習	松大模試を受験します。					過去の長野県採用試験問題に取り組めます。（1時間）				
7	前期前半の振り返り	これまでの活動を省察し、基礎ゼミの前半を振り返ります。					基礎ゼミ前半を振り返り、学んだことをレポートする。リメディアル課題。（1時間）				
8	プレゼンテーション講座 1	パワーポイントを使ったプレゼンテーションの概要を理解していきます。					概要を復習し、次回に備える。リメディアル課題。（1時間）				
9	プレゼンテーション講座 2	パワーポイントの操作方法を習得します。					操作方法を復習し、次回に備える。リメディアル課題。（1時間）				
10	プレゼンテーション講座 3	効果的なプレゼンテーションの方法を習得していきます。					紹介された操作を、実際に行ってみる。リメディアル課題。（1時間）				
11	プレゼンテーション講座 4	これまで学んだことをもとに、プレゼンを作成していきます。					作成したプレゼンの見直し。リメディアル課題。（1時間）				
12	大学祭プランニング	大学祭における教育学部の特性を生かしたテーマを考え、プランニングを行います。					役割確認及び準備の実施。リメディアル課題。（1時間）				
13	社会人基礎力試験省察	PROG（ジェネリックスキルテスト）の結果について省察します。					ゼミで指示される課題に取り組む。リメディアル課題。（1時間）				
14	基礎ゼミの振り返り	学年全体で、あるいはゼミごとに前期の基礎ゼミ全体を振り返る。					授業で指示された課題に取り組む。リメディアル課題。（1時間）				
15	リフレクション	夏季休業および後期に向けたオリエンテーションを行います。またゼミナールごとに後期に向けた話し合いを行い、履修カルテやキャリアデザインシートを記入し、学修ポートフォリオの作成を行います。					授業で指示される課題に取り組む。（1時間）				
テキスト			成績評価の方法・基準								
適宜資料を配付します。			受講態度：50% レポート：50% S: 学びの主体者として到達目標達成のために探求姿勢をもって意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、すべてのレポートを提出している。A: 到達目標達成のために探求姿勢をもって取り組み、授業で学んだことを理解し、レポートをほぼ提出している。B: 到達目標達成のために探求姿勢をもって取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、レポートをほぼ提出している。C: 到達目標を理解して取り組み、授業で学んだことを表現でき、レポートをほぼ提出している。								
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）								
特になし。			大学での生活について考え、必要なスキルを身につけることを期待しています。大学生活が充実したものになるかどうかは自分自身に懸かっていることを忘れずに、大学生生活の基本を学ぶという姿勢で本授業に取り組んでください。								

科目名	基礎ゼミナール（教育）		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング	UL11104	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
基礎ゼミナールの内容をさらに発展・深化させるため、場面設定をしてより具体的・実践的に学修を進めていきます。アクティブな学修活動を展開し、ライフスキルのためのコミュニケーション活動の実践場面及び、アカデミックスキルを発揮する場としてグループ演習・発表に取り組んでいきます。										
学修到達目標										
必要な知識を選択して活用する力、多様な人々とコミュニケーションして柔軟に物事を考える力を身につけている。										
授業の進め方										
授業の学習内容により、グループワークや、講義、討論を組み合わせで行います。アウトキャンパスも予定しています。グループ演習では反転授業を行い、事前学修を前提に授業を行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスとグループ演習	グループ演習（序章：現代人に求められる能力）を行います。				自分の履修計画を作成する。グループ演習のテキスト事前学習。（1時間）				
2	グループ演習	グループ演習（1講：情報収集）を行います。				テキスト1講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
3	グループ演習	グループ演習（2講：情報分析）を行います。				テキスト2講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
4	グループ演習	グループ演習（3講：課題発見）を行います。				テキスト3講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
5	グループ演習	グループ演習（4講：構想）を行います。				テキスト4講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
6	グループ演習	グループ演習（5講：書く表現）を行います。				テキスト5講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
7	グループ演習	グループ演習（5講：話す表現）を行います。				テキスト5講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
8	グループ演習	グループ演習（5講：話し合う表現）を行います。				テキスト5講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
9	アウトキャンパスまたはレポートの書き方講座	2クラスに分かれて、アウトキャンパススタディ（保育園・こどもプラザの見学参観）、またはレポートの書き方講座を行います。				レポート課題・アウトキャンパスのリフレクション。（1時間）				
10	アウトキャンパスまたはレポートの書き方講座	前回の2クラスが交代して、アウトキャンパススタディ（保育園・こどもプラザの見学参観）、またはレポートの書き方講座を行います。				レポート課題・アウトキャンパスのリフレクション。（1時間）				
11	グループ演習	グループ演習（6講：実行）を行います。				テキスト6講の事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
12	教員採用模擬試験 1	教員採用試験の模擬試験を体験します。				受験予定の自治体の過去問に取り組む。（1時間）				
13	教員採用模擬試験 2	教員採用試験の模擬試験を体験します。				受験予定の自治体の過去問に取り組む。（1時間）				
14	社会人基礎力試験	PROG（ジェネリックスキルテスト）及びGTEC（スコア型英語4技能検定）を受験します。				受験したテストで測られるスキルの理解とその復習。（1時間）				
15	振り返りワーク	後期を振り返り、ワークシートや履修カルテの作成を行います。				この1年を振り返り、強み・弱みの変化を書き出す。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「リテラシー強化書（講義編）」河合塾PROG開発プロジェクト編（河合塾） 「リテラシー強化書（演習編）」河合塾PROG開発プロジェクト編（河合塾） 2冊ともオリエンテーションで配付します。				受講態度：50% 課題：50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容を深く理解し、グループ内で主体的に問題解決ができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、問題解決ができる。B:到達目標達成のために積極的に課題に取り組み、授業内容を概ね理解し、グループ内で積極的に関わることができる。C:到達目標達成を理解して概ねの課題に取り組み、授業内容を表現できる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
特になし。				問題解決能力は、教師はもちろん社会人として必要なスキルです。1年後期は学校ボランティア活動も始まり、教育現場の課題も見えてくると思います。この授業を通じて仲間と一緒に、真剣に演習に取り組むことを期待しています。						

科目名	総合英語 (教育) Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UC12101	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C					
授業概要										
本授業ではリーディングスキルを高めるとともに、文章を読んで得た知識を展開し発表やディスカッションができるようになることを目指します。様々なテーマを持った英文を読んだあと、そのテーマに沿ったアウトプット活動をしていきます。アウトプット活動としてディスカッション、プレゼンテーション、クラスメイトへのインタビューなどを行います。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で表現することができる。GTEC-Academicのリーディングにおいて80点程度取得できる。										
授業の進め方										
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行ったり、ペアで意見交換を行う場を多く設けます。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業の概要と目標 英語学習について					単語 Pre-reading tasks Reading予習(1時間)			
2	Unit 1 To Drive or to Ride?	トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解					単語 Reading予習 音読 Traveling abroad makes our life richerのwriting(1時間)			
3	Unit 2 Help Yourself	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 原因と結果に注意して読む					単語 Reading予習 音読 社会問題についての英文を完成させてくる(1時間)			
4	Unit 3 What I Learned from Fay	経験を語る(物語)クラスメイトへのインタビュー Reading 物語を「登場人物」、「場面」、「展開」、「結末」などを整理しながら読む					単語 Reading予習 音読 思い出についてのwritingを完成させてくる(1時間)			
5	Unit 4 Ways to Help Others	分類しながら説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 関連する情報を整理しながら分類する練習					単語 Reading予習 音読 スポーツに関する英文を完成させてくる(1時間)			
6	Unit 5 Can Fish Fall from the Sky?	報告する(時事ニュース) Reading ニュースを聞き概要を把握する					単語 Reading予習 完成したニュースの概要の音読練習(1時間)			
7	Unit 6 How to Prepare for a Presentation	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 分かりやすい発表の準備の仕方 小グループでプレゼン練習					単語 Reading パーティの計画について表を完成させてくる(1時間)			
8	中間テスト Unit 7	中間テスト 時系列に沿って説明する 自伝に関するwriting					単語 Reading予習 音読 自伝のwritingを完成させてくる(1時間)			
9	Unit 8 What is Friendship?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading 英単語の定義を英語で説明する					単語 Reading予習 音読 3つの単語について英語で定義を考えてくる(1時間)			
10	Unit 9 Entering a Photo Contest	効率的に情報を伝える(e-mail) クラスメイトへのインタビュー Reading E-mail writingの練習					単語 Reading予習 音読 宿題 について問い合わせる英文e-mailを講師に送信する(1時間)			
11	Unit 10 Getting Money for a Big Project	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading 類似点と相違点をあげる練習					単語 Reading予習 音読 Writing 類似点と相違点について(1時間)			
12	Unit 11 Accepting the "Salesperson of the Year" Award	スピーチの文体に慣れる クラスメイトへのインタビュー Reading スピーチ音声のディクテーション					単語 Reading予習 音読 感謝の意を伝えるスピーチ原稿を完成させてくる(1時間)			
13	Unit 13 Life Advice Q & A with Dr. Joyce Green	目的をもって尋ねる(人生相談)クラスメイトへのインタビュー Reading 忙しいときの対処方法についてクラスメイトにインタビュー 表を完成させる					単語 Reading予習 音読 writing課題(1時間)			
14	Unit 15 Not Hearing a Gorilla	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading プレゼンテーションの練習					単語 Reading予習 音読 プレゼン準備(1時間)			
15	Presentation	与えられたテーマに関するプレゼンテーション					期末試験範囲の学習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「English stream Elementary インプットからアウトプットへ:初級編」竹内理ほか著(金星堂) ISBN:9784764740792(生協で購入してください。)					受講態度:10% 定期試験:30% 課題:40% 小テスト:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:ISBN:978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。					インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語を話す自分をイメージし、楽しみながら受講してください。					

科目名	総合英語 (教育) Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UC12101	研究室	非常勤	
担当者	梅本 めぐみ		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
本授業ではリーディングスキルを高めるとともに、文章を読んで得た知識を展開し発表やディスカッションができるようになることを目指します。様々なテーマを持った英文を読んだあと、そのテーマに沿ったアウトプット活動をしていきます。アウトプット活動としてディスカッション、プレゼンテーション、クラスメイトへのインタビューなどを行います。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で表現することができる。GTEC-Academicのリーディングにおいて70点程度取得できる。											
授業の進め方											
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行ったり、ペアで意見交換を行う場を多く設けます。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の概要と目標 英語学習について					単語 Pre-reading tasks Reading予習(1時間)				
2	Unit 1 To Drive or to Ride?	トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解					単語 Reading音読 Traveling abroad makes our life richerについて書く(1時間)				
3	Unit 2 Help Yourself	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 原因と結果に注意して読む					単語 Reading音読 社会問題についての英文を完成させてくる(1時間)				
4	Unit 3 What I Learned from Fay	経験を語る(物語)クラスメイトへのインタビュー Reading 物語を「登場人物」、「場面」、「展開」、「結末」などを整理しながら読む					単語 Reading音読 思い出についてのwritingを完成させてくる(1時間)				
5	Unit 4 Ways to Help Others	分類しながら説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 関連する情報を整理しながら分類する練習					単語 Reading音読 スポーツに関する英文を完成させてくる(1時間)				
6	Unit 5 Can Fish Fall from the Sky?	報告する(時事ニュース) Reading ニュースを聞き概要を把握する					単語 Reading音読 完成したニュースの概要の音読練習(1時間)				
7	Unit 6 How to Prepare for a Presentation	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 分かりやすい発表の準備の仕方 小グループでプレゼン練習					単語 Readingパーティの計画について表を完成させてくるプレゼンテーション練習(1時間)				
8	中間テスト Unit 7	中間テスト 時系列に沿って説明する 自伝に関するwriting					単語 Reading 自伝のwritingを完成させてくる(1時間)				
9	Unit 8 What is Friendship?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading 英単語の定義を英語で説明する					単語 Reading音読 3つの単語について英語で定義を考えてくる(1時間)				
10	Unit 9 Entering a Photo Contest	効率的に情報を伝える(e-mail) クラスメイトへのインタビュー Reading E-mail writingの練習					単語 Reading音読 宿題について問い合わせる英文e-mailを講師に送信する(1時間)				
11	Unit 10 Getting Money for a Big Project	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading 類似点と相違点をあげる練習					単語 Reading音読 Writing 類似点と相違点について(1時間)				
12	Unit 11 Accepting the "Salesperson of the Year" Award	スピーチの文体に慣れる クラスメイトへのインタビュー Reading スピーチ音声のディクテーション					単語 Reading音読 感謝の意を伝えるスピーチ原稿を完成させてくる(1時間)				
13	Unit 13 Life Advice Q & A with Dr. Joyce Green	目的をもって尋ねる(人生相談)クラスメイトへのインタビュー Reading 忙しいときの対処方法についてクラスメイトにインタビュー表を完成させる					単語 Reading音読 writing課題(1時間)				
14	Unit 15 Not Hearing a Gorilla	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading プレゼンテーションの練習					単語 Reading音読 プレゼン準備(1時間)				
15	Presentation	与えられたテーマに関するグループプレゼンテーション					期末試験範囲の学習(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準								
「English stream Elementary インプットからアウトプットへ:初級編」竹内理ほか著(金星堂) ISBN:9784764740792(生協で購入してください。)			受講態度:10% 定期試験:30% 課題:40% 小テスト:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:ISBN:978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。			インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。								

科目名	総合英語 (教育) Cクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UC12101	研究室	非常勤	
担当者	小西 さやか	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-				
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
	A B C									
授業概要										
本授業ではリーディングスキルを高めるとともに、文章を読んで得た知識を展開し発表やディスカッションができるようになることを目指します。様々なテーマを持った英文を読んだあと、そのテーマに沿ったアウトプット活動をしていきます。アウトプット活動としてディスカッション、プレゼンテーション、クラスメイトへのインタビューなどを行います。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で表現することができる。GTEC-Academicのリーディングにおいて60点程度取得できる。										
授業の進め方										
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行ったり、ペアで意見交換を行う場を多く設けます。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業の概要と目標 英語学習について					単語 Pre-reading tasks Reading予習(1時間)			
2	Unit 1 To Drive or to Ride?	トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解					単語 Reading音読 Traveling abroad makes our life richerについて書く(1時間)			
3	Unit 2 Help Yourself	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 原因と結果に注意して読む					単語 Reading音読 社会問題についての英文を完成させてくる(1時間)			
4	Unit 3 What I Learned from Fay	経験を語る(物語)クラスメイトへのインタビュー Reading 物語を「登場人物」、「場面」、「展開」、「結末」などを整理しながら読む					単語 Reading音読 思い出についてのwritingを完成させてくる(1時間)			
5	Unit 4 Ways to Help Others	分類しながら説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 関連する情報を整理しながら分類する練習					単語 Reading音読 スポーツに関する英文を完成させてくる(1時間)			
6	Unit 5 Can Fish Fall from the Sky?	報告する(時事ニュース) Reading ニュースを聞き概要を把握する					単語 Reading音読 完成したニュースの概要の音読練習(1時間)			
7	Unit 6 How to Prepare for a Presentation	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 分かりやすい発表の準備の仕方 小グループでプレゼン練習					単語 Readingパーティの計画について表を完成させてくるプレゼンテーション練習(1時間)			
8	中間テスト Unit 7	中間テスト 時系列に沿って説明する 自伝に関するwriting					単語 Reading 自伝のwritingを完成させてくる(1時間)			
9	Unit 8 What is Friendship?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading 英単語の定義を英語で説明する					単語 Reading音読 3つの単語について英語で定義を考えてくる(1時間)			
10	Unit 9 Entering a Photo Contest	効率的に情報を伝える(e-mail) クラスメイトへのインタビュー Reading E-mail writingの練習					単語 Reading音読 宿題について問い合わせる英文e-mailを講師に送信する(1時間)			
11	Unit 10 Getting Money for a Big Project	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading 類似点と相違点をあげる練習					単語 Reading音読 Writing 類似点と相違点について(1時間)			
12	Unit 11 Accepting the "Salesperson of the Year" Award	スピーチの文体に慣れる クラスメイトへのインタビュー Reading スピーチ音声のディクテーション					単語 Reading音読 感謝の意を伝えるスピーチ原稿を完成させてくる(1時間)			
13	Unit 13 Life Advice Q & A with Dr. Joyce Green	目的をもって尋ねる(人生相談)クラスメイトへのインタビュー Reading 忙しいときの対処方法についてクラスメイトにインタビュー表を完成させる					単語 Reading音読 writing課題(1時間)			
14	Unit 15 Not Hearing a Gorilla	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading プレゼンテーションの練習					単語 Reading音読 プレゼン準備(1時間)			
15	Presentation	与えられたテーマに関するグループプレゼンテーション					期末試験範囲の学習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「English stream Elementary インプットからアウトプットへ:初級編」竹内理ほか著(金星堂) ISBN:9784764740792(生協で購入してください。)		受講態度:10% 定期試験:30% 課題:40% 小テスト:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:ISBN:978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。		インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのはずれが必要。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。								

科目名	総合英語 (教育) Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UC12101	研究室	非常勤	
担当者	櫻井 智子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
本授業ではリーディングスキルを高めるとともに、文章を読んで得た知識を展開し発表やディスカッションができるようになることを目指します。様々なテーマを持った英文を読んだあと、そのテーマに沿ったアウトプット活動をしていきます。アウトプット活動としてディスカッション、プレゼンテーション、クラスメイトへのインタビューなどを行います。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で表現することができる。GTEC-Academicのリーディングにおいて60点程度取得できる。											
授業の進め方											
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行ったり、ペアで意見交換を行う場を多く設けます。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の概要と目標 英語学習について					単語 Pre-reading tasks Reading予習(1時間)				
2	Unit 1 To Drive or to Ride?	トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解					単語 Reading音読 Traveling abroad makes our life richerについて書く(1時間)				
3	Unit 2 Help Yourselves	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 原因と結果に注意して読む					単語 Reading音読 社会問題についての英文を完成させてくる(1時間)				
4	Unit 3 What I Learned from Fay	経験を語る(物語)クラスメイトへのインタビュー Reading 物語を「登場人物」、「場面」、「展開」、「結末」などを整理しながら読む					単語 Reading音読 思い出についてのwritingを完成させてくる(1時間)				
5	Unit 4 Ways to Help Others	分類しながら説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 関連する情報を整理しながら分類する練習					単語 Reading音読 スポーツに関する英文を完成させてくる(1時間)				
6	Unit 5 Can Fish Fall from the Sky?	報告する(時事ニュース) Reading ニュースを聞き概要を把握する					単語 Reading音読 完成したニュースの概要の音読練習(1時間)				
7	Unit 6 How to Prepare for a Presentation	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading 分かりやすい発表の準備の仕方 小グループでプレゼン練習					単語 Readingパーティの計画について表を完成させてくるプレゼンテーション練習(1時間)				
8	中間テスト Unit 7	中間テスト 時系列に沿って説明する 自伝に関するwriting					単語 Reading 自伝のwritingを完成させてくる(1時間)				
9	Unit 8 What is Friendship?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading 英単語の定義を英語で説明する					単語 Reading音読 3つの単語について英語で定義を考えてくる(1時間)				
10	Unit 9 Entering a Photo Contest	効率的に情報を伝える(e-mail) クラスメイトへのインタビュー Reading E-mail writingの練習					単語 Reading音読 宿題について問い合わせる英文e-mailを講師に送信する(1時間)				
11	Unit 10 Getting Money for a Big Project	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading 類似点と相違点をあげる練習					単語 Reading音読 Writing 類似点と相違点について(1時間)				
12	Unit 11 Accepting the "Salesperson of the Year" Award	スピーチの文体に慣れる クラスメイトへのインタビュー Reading スピーチ音声のディクテーション					単語 Reading音読 感謝の意を伝えるスピーチ原稿を完成させてくる(1時間)				
13	Unit 13 Life Advice Q & A with Dr. Joyce Green	目的をもって尋ねる(人生相談)クラスメイトへのインタビュー Reading 忙しいときの対処方法についてクラスメイトにインタビュー表を完成させる					単語 Reading音読 writing課題(1時間)				
14	Unit 15 Not Hearing a Gorilla	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading プレゼンテーションの練習					単語 Reading音読 プレゼン準備(1時間)				
15	Presentation	与えられたテーマに関するグループプレゼンテーション					期末試験範囲の学習(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「English stream Elementary インプットからアウトプットへ:初級編」竹内理ほか著(金星堂) ISBN:9784764740792(生協で購入してください。)					受講態度:10% 定期試験:30% 課題:40% 小テスト:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:ISBN:978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。					インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。						



科目名	総合英語 (教育) Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
総合英語Iで学んだ内容をさらに発展させていきます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。またライティングの課題にも取り組み自分の考えを簡潔にまとめる練習を行います。4技能の中で特にリーディング、ライティングの力を発展させていきます。プレースメント成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で詳しく表現することができる。また、簡潔に書いてまとめることができる。GTEC-Academicのリーディングで100点程度、ライティングで110点程度取得できる。										
授業の進め方										
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。各トピックについてクラスメイトにインタビューをします。ライティング課題は2週に渡りフィードバックを受け3週目に提出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 Are you ready for a pet?	クラスメイトへのインタビュー Reading パラグラフの理解				単語 Reading予習 賛成意見を英語でまとめる(1時間)				
2	Unit 2 Gap Year	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解 ライティングワーク1-1				単語 Reading予習 ライティング Show and Tell Sheetを完成させてくる(1時間)				
3	Unit 3 What is Wealth?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading テキストに示された言葉のオリジナル定義を作成 ライティングワーク1-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
4	Unit 4 Globalization	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 要約文の作成 ライティングワーク1-3				単語 Reading予習 要約文に評価とコメントを記入(1時間)				
5	Unit 5 What I Learned in College	経験を語る(物語) クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-1				単語 Reading予習 ライティング 物語を完成させる(1時間)				
6	Unit 6 How Paper is Recycled	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-2				単語 Reading予習 ライティング 地震避難訓練の手順を完成させ覚えてくる(1時間)				
7	中間テスト	中間テスト ライティングワーク2-3				単語 Reading予習 スラッシュリーディング(1時間)				
8	Unit 7 Life Expectancy	グラフなどを使いながら事実を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading				単語 Reading予習(1時間)				
9	Unit 8 From "Snail Mail" to PDAs in Barely Thirty Years	事実を時系列に沿って説明する スマートフォンをデザインし特徴を説明する Reading ライティングワーク3-1				単語 Reading予習 スピーチの音声を聞き誤りを6つ見つける ライティング(1時間)				
10	Unit 9 Rules for Success	グループプレゼンスピーチの文体になれる Reading 成功するための3つのルールを考えスピーチの原稿を書く ライティングワーク3-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
11	Unit 10 Paid Leave and Public Holidays	分類しながら説明する 質問を作成しクラスメイトへインタビュー Reading ライティングワーク3-3				単語 Reading予習 職業と人工知能に関する表をまとめる(1時間)				
12	Unit 11 A Suitable Hotel	効率的に情報を伝える(e-mail) e-mailの内容理解とListening Reading 描かれている人や物を英語で描写する ライティングワーク4-1				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
13	Unit 12 Another Earth?	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading ニュースの原稿を聞き表を完成させる ライティングワーク4-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
14	Unit 13 An Interview with a New Student Union President	目的をもって尋ねる(インタビュー) クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク4-3				単語復習 ライティング練習(1時間)				
15	まとめ	ライティング練習 GTEC対策				期末試験対策(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「English Stream: Pre-intermediateインプットからアウトプットへ: 準中級編」竹内理はか著(金星堂) ISBN:9784764740600 (生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 40% 小テスト: 20% S: 授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN: 978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語 (教育) Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	梅本 めぐみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
総合英語Iで学んだ内容をさらに発展させていきます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。またライティングの課題にも取り組み自分の考えを簡潔にまとめる練習を行います。4技能の中で特にリーディング、ライティングの力を発展させていきます。プレースメント成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で詳しく表現することができる。また、簡潔に書いてまとめることができる。GTEC-Academicのリーディングで80点程度、ライティングで90点程度取得できる。										
授業の進め方										
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。各トピックについてクラスメイトにインタビューをします。ライティング課題は2週に渡りフィードバックを受け3週目に提出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 Are you ready for a pet?	クラスメイトへのインタビュー Reading パラグラフの理解				単語 Reading予習 賛成意見を英語でまとめる(1時間)				
2	Unit 2 Gap Year	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解 ライティングワーク1-1				単語 Reading予習 ライティング Show and Tell Sheetを完成させてくる(1時間)				
3	Unit 3 What is Wealth?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading テキストに示された言葉のオリジナル定義を作成 ライティングワーク1-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
4	Unit 4 Globalization	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 要約文の作成 ライティングワーク1-3				単語 Reading予習 要約文に評価とコメントを記入(1時間)				
5	Unit 5 What I Learned in College	経験を語る(物語) クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-1				単語 Reading予習 ライティング 物語を完成させる(1時間)				
6	Unit 6 How Paper is Recycled	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-2				単語 Reading予習 ライティング 地震避難訓練の手順を完成させ覚えてくる(1時間)				
7	中間テスト	中間テスト ライティングワーク2-3				単語 Reading予習 スラッシュリーディング(1時間)				
8	Unit 7 Life Expectancy	グラフなどを使いながら事実を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading				単語 Reading予習(1時間)				
9	Unit 8 From "Snail Mail" to PDAs in Barely Thirty Years	事実を時系列に沿って説明する スマートフォンをデザインし特徴を説明する Reading ライティングワーク3-1				単語 Reading予習 スピーチの音声を聞き誤りを6つ見つける ライティング(1時間)				
10	Unit 9 Rules for Success	グループプレゼンスピーチの文体になれる Reading 成功するための3つのルールを考えスピーチの原稿を書く ライティングワーク3-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
11	Unit 10 Paid Leave and Public Holidays	分類しながら説明する 質問を作成しクラスメイトへインタビュー Reading ライティングワーク3-3				単語 Reading予習 職業と人工知能に関する表をまとめる(1時間)				
12	Unit 11 A Suitable Hotel	効率的に情報を伝える(e-mail) e-mailの内容理解とListening Reading 描かれている人や物を英語で描写する ライティングワーク4-1				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
13	Unit 12 Another Earth?	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading ニュースの原稿を聞き表を完成させる ライティングワーク4-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
14	Unit 13 An Interview with a New Student Union President	目的をもって尋ねる(インタビュー) クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク4-3				単語復習 ライティング練習(1時間)				
15	まとめ	ライティング練習 GTEC対策				期末試験対策(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「English Stream: Pre-intermediateインプットからアウトプットへ: 準中級編」竹内理はか著(金星堂) ISBN:9784764740600 (生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 40% 小テスト: 20% S: 授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN: 978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語（教育）Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
総合英語Iで学んだ内容をさらに発展させていきます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。またライティングの課題にも取り組み自分の考えを簡潔にまとめる練習を行います。4技能の中で特にリーディング、ライティングの力を発展させていきます。プレースメント成績に基づく少人数クラス（原則20名以下）で行います。										
学修到達目標										
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で詳しく表現することができる。また、簡潔に書いてまとめることができる。GTEC-Academicのリーディングで70点程度、ライティングで80点程度取得できる。										
授業の進め方										
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。各トピックについてクラスメイトにインタビューをします。ライティング課題は2週に渡りフィードバックを受け3週目に提出します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 Are you ready for a pet?	クラスメイトへのインタビュー Reading パラグラフの理解				単語 Reading予習 賛成意見を英語でまとめる（1時間）				
2	Unit 2 Gap Year	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解 ライティングワーク1-1				単語 Reading予習 ライティング Show and Tell Sheetを完成させてくる（1時間）				
3	Unit 3 What is Wealth?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading テキストに示された言葉のオリジナル定義を作成 ライティングワーク1-2				単語 Reading予習 ライティング（1時間）				
4	Unit 4 Globalization	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 要約文の作成 ライティングワーク1-3				単語 Reading予習 要約文に評価とコメントを記入（1時間）				
5	Unit 5 What I Learned in College	経験を語る（物語） クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-1				単語 Reading予習 ライティング 物語を完成させる（1時間）				
6	Unit 6 How Paper is Recycled	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-2				単語 Reading予習 ライティング 地震避難訓練の手順を完成させる（1時間）				
7	中間テスト	中間テスト ライティングワーク2-3				単語 Reading予習 スラッシュリーディング（1時間）				
8	Unit 7 Life Expectancy	グラフなどを使いながら事実を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading				単語 Reading予習（1時間）				
9	Unit 8 From "Snail Mail" to PDAs in Barely Thirty Years	事実を時系列に沿って説明する スマートフォンをデザインし特徴を説明する Reading ライティングワーク3-1				単語 Reading予習 スピーチの音声を聞き誤りを6つ見つける ライティング（1時間）				
10	Unit 9 Rules for Success	グループプレゼンスピーチの文体になれる Reading 成功するための3つのルールを考えスピーチの原稿を書く ライティングワーク3-2				単語 Reading予習 ライティング（1時間）				
11	Unit 10 Paid Leave and Public Holidays	分類しながら説明する 質問を作成しクラスメイトへインタビュー Reading ライティングワーク3-3				単語 Reading予習 職業と人工知能に関する表をまとめる（1時間）				
12	Unit 11 A Suitable Hotel	効率的に情報を伝える(e-mail) e-mailの内容理解とListening Reading 描かれている人や物を英語で描写する ライティングワーク4-1				単語 Reading予習 ライティング（1時間）				
13	Unit 12 Another Earth?	報告する（科学）クラスメイトへのインタビュー Reading ニュースの原稿を聞き表を完成させる ライティングワーク4-2				単語 Reading予習 ライティング（1時間）				
14	Unit 13 An Interview with a New Student Union President	目的をもって尋ねる（インタビュー） クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク4-3				単語復習 ライティング練習（1時間）				
15	まとめ	ライティング練習 GTEC対策				期末試験対策（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「English Stream: Pre-intermediateインプットからアウトプットへ：準中級編」竹内理ほか著（金星堂） ISBN:9784764740600（生協で購入してください。）				受講態度：10% 定期試験：30% 課題：40% 小テスト：20% S:授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「GTEC 公式ガイドブック Basic」（ベネッセコーポレーション） ISBN：978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語 (教育) Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
総合英語Iで学んだ内容をさらに発展させていきます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。またライティングの課題にも取り組み自分の考えを簡潔にまとめる練習を行います。4技能の中で特にリーディング、ライティングの力を発展させていきます。プレースメント成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分が見聞きしたものや自分の考えを自らの言葉で英語で詳しく表現することができる。また、簡潔に書いてまとめることができる。GTEC-Academicのリーディングで60点程度、ライティングで70点程度取得できる。										
授業の進め方										
毎回異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。各トピックについてクラスメイトにインタビューをします。ライティング課題は2週に渡りフィードバックを受け3週目に提出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 Are you ready for a pet?	クラスメイトへのインタビュー Reading パラグラフの理解				単語 Reading予習 賛成意見を英語でまとめる(1時間)				
2	Unit 2 Gap Year	比較する クラスメイトへのインタビュー Reading トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスの理解 ライティングワーク1-1				単語 Reading予習 ライティング Show and Tell Sheetを完成させてくる(1時間)				
3	Unit 3 What is Wealth?	定義を示して例示する クラスメイトへのインタビュー Reading テキストに示された言葉のオリジナル定義を作成 ライティングワーク1-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
4	Unit 4 Globalization	原因と結果を述べる クラスメイトへのインタビュー Reading 要約文の作成 ライティングワーク1-3				単語 Reading予習 要約文に評価とコメントを記入(1時間)				
5	Unit 5 What I Learned in College	経験を語る(物語) クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-1				単語 Reading予習 ライティング 物語を完成させる(1時間)				
6	Unit 6 How Paper is Recycled	手順を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク2-2				単語 Reading予習 ライティング 地震避難訓練の手順を完成させる(1時間)				
7	中間テスト	中間テスト ライティングワーク2-3				単語 Reading予習 スラッシュリーディング(1時間)				
8	Unit 7 Life Expectancy	グラフなどを使いながら事実を説明する クラスメイトへのインタビュー Reading				単語 Reading予習(1時間)				
9	Unit 8 From "Snail Mail" to PDAs in Barely Thirty Years	事実を時系列に沿って説明する スマートフォンをデザインし特徴を説明する Reading ライティングワーク3-1				単語 Reading予習 スピーチの音声を聞き誤りを6つ見つける ライティング(1時間)				
10	Unit 9 Rules for Success	グループプレゼンスピーチの文体になれる Reading 成功するための3つのルールを考えスピーチの原稿を書く ライティングワーク3-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
11	Unit 10 Paid Leave and Public Holidays	分類しながら説明する 質問を作成しクラスメイトへインタビュー Reading ライティングワーク3-3				単語 Reading予習 職業と人工知能に関する表をまとめる(1時間)				
12	Unit 11 A Suitable Hotel	効率的に情報を伝える(e-mail) e-mailの内容理解とListening Reading 描かれている人や物を英語で描写する ライティングワーク4-1				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
13	Unit 12 Another Earth?	報告する(科学)クラスメイトへのインタビュー Reading ニュースの原稿を聞き表を完成させる ライティングワーク4-2				単語 Reading予習 ライティング(1時間)				
14	Unit 13 An Interview with a New Student Union President	目的をもって尋ねる(インタビュー) クラスメイトへのインタビュー Reading ライティングワーク4-3				単語復習 ライティング練習(1時間)				
15	まとめ	ライティング練習 GTEC対策				期末試験対策(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「English Stream: Pre-intermediateインプットからアウトプットへ: 準中級編」竹内理ほか著(金星堂) ISBN:9784764740600 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 定期試験:30% 課題:40% 小テスト:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-482886888 その他の参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語 (教育) Aクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパ'リング	UC22103	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
総合英語・英会話で培った4技能をさらに発展させ、自分の考えを自由に表現できることを目指します。英語で聞く・話す・読む・書くことに抵抗をなくすようアウトプットのトレーニングを重ねます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志やその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A1以上のレベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で480点程度取得できる。										
授業の進め方										
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 The power of Imagination and Effort	オリエンテーション 英語学習ロードマップ 原因と結果を述べる Reading ライティング・スピーキングワーク1-1				英語学習ロードマップ Reading予習 英作文(1時間)				
2	Unit 1 The power of Imagination and Effort	原因と結果を述べる 表の作成 クラスメートヘインタビュー ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
3	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する 語句の定義 業の年表作成 企業の歴史を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1				企 単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 3 To Long Life!	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 3 To Long Life!	比較する 語句の定義 パラグラフ構成 ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1				英作文 (1時間)				
9	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる 語句の定義 自分の物語を英語で語る ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 5 Baseball and Cricket	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク4-1				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 5 Baseball and Cricket	"ルームメイト" Strategies for communication/action ライティングワーク4-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する 要約 大学についての英文を書く				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	まとめ 期末試験(スピーキング)	期末スピーキングテスト				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808(生協で購入してください。)		受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%が英作文となります。S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づいて課題に取り組み、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組み、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した課題に対応ができる。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868882 その他の参考書は授業内で案内します。		インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。								

科目名	総合英語 (教育) Bクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパ'リング	UC22103	研究室	非常勤
担当者	三浦 藍子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
総合英語・英会話で培った4技能をさらに発展させ、自分の考えを自由に表現できることを目指します。英語で聞く・話す・読む・書くことに抵抗をなくすようアウトプットのトレーニングを重ねます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志やその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A1以上のレベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で390点程度取得できる。										
授業の進め方										
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 The power of Imagination and Effort	オリエンテーション 英語学習ロードマップ 原因と結果を述べる Reading ライティング・スピーキングワーク1-1				英語学習ロードマップ Reading予習 英作文(1時間)				
2	Unit 1 The power of Imagination and Effort	原因と結果を述べる 表の作成 クラスメートインタビュー ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
3	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する 語句の定義 業の年表作成 企業の歴史を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1				企 単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 3 To Long Life!	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 3 To Long Life!	比較する 語句の定義 パラグラフ構成 ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1				英作文 (1時間)				
9	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる 語句の定義 自分の物語を英語で語る ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 5 Baseball and Cricket	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク4-1				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 5 Baseball and Cricket	"ルームメイト" Strategies for communication/action ライティングワーク4-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する 要約 大学についての英文を書く				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	まとめ 期末試験(スピーキング)	期末スピーキングテスト				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808(生協で購入してください。)		受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%が英作文となります。S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づいて課題に取り組み、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組み、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した課題に対応ができる。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868882 その他の参考書は授業内で案内します。		インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。								

科目名	総合英語 (教育) Cクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	UC22103	研究室	非常勤
担当者	胡桃澤 良知		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
総合英語・英会話で培った4技能をさらに発展させ、自分の考えを自由に表現できることを目指します。英語で聞く・話す・読む・書くことに抵抗をなくすようアウトプットのトレーニングを重ねます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志やその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A1以上のレベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で350点程度取得できる。										
授業の進め方										
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 The power of Imagination and Effort	オリエンテーション 英語学習ロードマップ 原因と結果を述べる Reading ライティング・スピーキングワーク1-1				英語学習ロードマップ Reading予習 英作文(1時間)				
2	Unit 1 The power of Imagination and Effort	原因と結果を述べる 表の作成 クラスメートヘインタビュー ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
3	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する 語句の定義 業の年表作成 企業の歴史を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1				企 単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 3 To Long Life!	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 3 To Long Life!	比較する 語句の定義 パラグラフ構成 ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1				英作文 (1時間)				
9	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる 語句の定義 自分の物語を英語で語る ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 5 Baseball and Cricket	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク4-1				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 5 Baseball and Cricket	"ルームメイト" Strategies for communication/action ライティングワーク4-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する 要約 大学についての英文を書く				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	まとめ 期末試験(スピーキング)	期末スピーキングテスト				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808(生協で購入してください。)		受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%が英作文となります。S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づいて課題に取り組み、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組み、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した課題に対応ができる。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868882 その他の参考書は授業内で案内します。		インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。								

科目名	総合英語 (教育) Dクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	UC22103	研究室	非常勤
担当者	上條 美香		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
総合英語・英会話で培った4技能をさらに発展させ、自分の考えを自由に表現できることを目指します。英語で聞く・話す・読む・書くことに抵抗をなくすようアウトプットのトレーニングを重ねます。各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志やその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A1以上のレベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で310点程度取得できる。										
授業の進め方										
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit 1 The power of Imagination and Effort	オリエンテーション 英語学習ロードマップ 原因と結果を述べる Reading ライティング・スピーキングワーク1-1				英語学習ロードマップ Reading予習 英作文(1時間)				
2	Unit 1 The power of Imagination and Effort	原因と結果を述べる 表の作成 クラスメートヘインタビュー ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
3	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 2 The History of Jeans	事実を時系列に沿って説明する 語句の定義 業の年表作成 企業の歴史を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1				企 単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 3 To Long Life!	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 3 To Long Life!	比較する 語句の定義 パラグラフ構成 ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1				英作文 (1時間)				
9	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 4 Be Careful What You Wish For	物語の文体に慣れる 語句の定義 自分の物語を英語で語る ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 5 Baseball and Cricket	比較する Reading ライティング・スピーキングワーク4-1				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 5 Baseball and Cricket	"ルームメイト" Strategies for communication/action ライティングワーク4-3(提出)				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 6 In Our Blood or in Our Minds?	分類しながら説明する 要約 大学についての英文を書く				単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	まとめ 期末試験(スピーキング)	期末スピーキングテスト				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題の20%が英作文となります。S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づいて課題に取り組み、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組み、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した課題に対応ができる。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「GTEC 公式ガイドブック Basic」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868882 その他の参考書は授業内で案内します。		インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。								



科目名	総合英語 (教育) Aクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UC22104	研究室	非常勤	
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
総合英語 で力をつけた4技能を發展させ、自分の考えをさらに自由に表現できるようになることを目指します。引き続き各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志とその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A2レベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で500点程度取得できる。											
授業の進め方											
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	目的をもって尋ねる(インタビュー) Reading ライティング・スピーキングワーク1-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
2	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	不動産屋で部屋探しをしている場面を想定し、ロールプレイ ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
3	Unit 8 Brainstorming	手順を説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 8 Brainstorming	要約 3つのテーマから1つを選び、目的と手順を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 9 A Good Consumer	定時を示して例示する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 9 A Good Consumer	オリジナルの定義と具体例を考える ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策					中間試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
9	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	スピーチの文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	要約 成功の秘訣に関するスピーチの草稿を書く ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 11 Special Circumstances	異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文) Reading ライティング・スピーキングワーク4-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 11 Special Circumstances	テーマを選び、e-mailを書く ライティング・スピーキングワーク4-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 12 Lies and Statistics	グラフなどを使いながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 12 Lies and Statistics	音声を聞いて折れ線グラフを作成する 厚生労働省や総務省統計局のデータを元にグラフを作成し、英語で説明する					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	期末試験	期末テスト GTEC					復習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808 前期のテキストを引き続き使用します。					受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%を英作文とし、期末試験はGTECを用います。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおよそを理解し、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、授業で示した課題に対応ができる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GTEC公式ガイドブック Advanced」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868875 その他参考書は授業内で紹介します。					インターネットでダウンロードした音声を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。						

科目名	総合英語 (教育) Bクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UC22104	研究室	非常勤	
担当者	三浦 藍子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
総合英語 で力をつけた4技能を發展させ、自分の考えをさらに自由に表現できるようになることを目指します。引き続き各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志とその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A2レベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で410点程度取得できる。											
授業の進め方											
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	目的をもって尋ねる(インタビュー) Reading ライティング・スピーキングワーク1-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
2	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	不動産屋で部屋探しをしている場面を想定し、ロールプレイ ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
3	Unit 8 Brainstorming	手順を説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 8 Brainstorming	要約 3つのテーマから1つを選び、目的と手順を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 9 A Good Consumer	定時を示して例示する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 9 A Good Consumer	オリジナルの定義と具体例を考える ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策					中間試験に向けての自己学習 (1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
9	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	スピーチの文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	要約 成功の秘訣に関するスピーチの草稿を書く ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 11 Special Circumstances	異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文) Reading ライティング・スピーキングワーク4-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 11 Special Circumstances	テーマを選び、e-mailを書く ライティング・スピーキングワーク4-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 12 Lies and Statistics	グラフなどを使いながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 12 Lies and Statistics	音声を聞いて折れ線グラフを作成する 厚生労働省や総務省統計局のデータを元にグラフを作成し、英語で説明する					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	期末試験	期末試験 GTEC					復習(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準									
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808(生協で購入してください。)前期からのテキストを引き続き使用します。		受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%を英作文とし、期末試験はGTECを用います。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおよそを理解し、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、授業で示した課題に対応ができる。									
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)									
「GTEC公式ガイドブック Advanced」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868875 その他参考書は授業内で紹介します。		インターネットでダウンロードした音声を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。									

科目名	総合英語 (教育) Cクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UC22104	研究室	非常勤	
担当者	胡桃澤 良知		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
総合英語 で力をつけた4技能を發展させ、自分の考えをさらに自由に表現できるようになることを目指します。引き続き各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志とその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A2レベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で370点程度取得できる。											
授業の進め方											
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	目的をもって尋ねる(インタビュー) Reading ライティング・スピーキングワーク1-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
2	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	不動産屋で部屋探しをしている場面を想定し、ロールプレイ ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
3	Unit 8 Brainstorming	手順を説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 8 Brainstorming	要約 3つのテーマから1つを選び、目的と手順を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 9 A Good Consumer	定時を示して例示する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 9 A Good Consumer	オリジナルの定義と具体例を考える ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策					中間試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
9	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	スピーチの文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	要約 成功の秘訣に関するスピーチの草稿を書く ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 11 Special Circumstances	異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文) Reading ライティング・スピーキングワーク4-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 11 Special Circumstances	テーマを選び、e-mailを書く ライティング・スピーキングワーク4-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 12 Lies and Statistics	グラフなどを使いながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 12 Lies and Statistics	音声を聞いて折れ線グラフを作成する 厚生労働省や総務省統計局のデータを元にグラフを作成し、英語で説明する					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	期末試験	期末試験 GTEC					復習(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準									
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808 (生協で購入してください。) 前期のテキストを引き続き使用します。		受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%を英作文とし、期末試験はGTECを用います。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおよそを理解し、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、授業で示した課題に対応ができる。									
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)									
「GTEC公式ガイドブック Advanced」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868875 その他参考書は授業内で紹介します。		インターネットでダウンロードした音声を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。									

科目名	総合英語 (教育) Dクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパ'リング	UC22104	研究室	非常勤	
担当者	上條 美香		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
総合英語 で力をつけた4技能を發展させ、自分の考えをさらに自由に表現できるようになることを目指します。引き続き各ユニットのリーディングの題材について深く掘り下げる活動を通じ段階を追いながら自らの意見を発信すること、見聞きした情報をまとめ英語で発表する力を養います。GTECスコアに基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
社会生活の身近な話題について理解し、自分の意志とその理由をある程度英語で表現できる。自分とは異なる文化や考えを理解し、自身の考えを深めることが自発的・積極的にできる。4技能5領域においてCEFR A2レベルに達している。目安としてGTEC-Academicの4技能で330点程度取得できる。											
授業の進め方											
異なるトピックの文章を読んで、自分の意見をまとめグループ内で発表やディスカッションを行います。英作文は1つの課題について2週に渡りフィードバックを受け完成したものが評価対象です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	目的をもって尋ねる(インタビュー) Reading ライティング・スピーキングワーク1-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
2	Unit 7 Know Yourself, Know the Market	不動産屋で部屋探しをしている場面を想定し、ロールプレイ ライティング・スピーキングワーク1-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
3	Unit 8 Brainstorming	手順を説明する Reading ライティング・スピーキングワーク1-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
4	Unit 8 Brainstorming	要約 3つのテーマから1つを選び、目的と手順を述べる ライティング・スピーキングワーク2-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
5	Unit 9 A Good Consumer	定時を示して例示する Reading ライティング・スピーキングワーク2-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
6	Unit 9 A Good Consumer	オリジナルの定義と具体例を考える ライティング・スピーキングワーク2-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間) (1時間)				
7	まとめ 中間試験対策	今までのまとめ 中間試験対策					中間試験に向けて自己学習(1時間)				
8	中間テスト	オーラル・リーディングテスト 中間筆記試験 ライティング・スピーキングワーク3-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
9	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	スピーチの文体に慣れる Reading ライティング・スピーキングワーク3-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
10	Unit 10 Welcome to the Hall of Fame!	要約 成功の秘訣に関するスピーチの草稿を書く ライティング・スピーキングワーク3-3(提出)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
11	Unit 11 Special Circumstances	異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文) Reading ライティング・スピーキングワーク4-1					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
12	Unit 11 Special Circumstances	テーマを選び、e-mailを書く ライティング・スピーキングワーク4-2(フィードバック)					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
13	Unit 12 Lies and Statistics	グラフなどを使いながら説明する Reading ライティング・スピーキングワーク4-3					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
14	Unit 12 Lies and Statistics	音声を聞いて折れ線グラフを作成する 厚生労働省や総務省統計局のデータを元にグラフを作成し、英語で説明する					単語 Reading 音読 英作文(1時間)				
15	期末試験	期末試験 GTEC					復習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「ENGLISH STREAM Intermediate」(金星堂) ISBN:978-4-7647-40808 前期のテキストを引き続き使用します。					受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:35% 小テスト:25% 課題の20%を英作文とし、期末試験はGTECを用います。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、深い考察と豊かな表現ができる。A:授業内容を理解し、優れた考察と表現ができる。B:授業内容のおよそを理解し、考察と表現ができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、授業で示した課題に対応ができる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GTEC公式ガイドブック Advanced」(ベネッセコーポレーション) ISBN:978-4828868875 その他参考書は授業内で紹介します。					インターネットでダウンロードした音声を使った課題が出ます。授業でノートパソコンが必要になります。授業ではペア・グループワークを多く行いますので積極的に参加してください。						

科目名	英会話 (教育) Aクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナパ'リング	UC12105	研究室	非常勤
担当者	ｽﾌﾟﾙ' ﾉ' ﾁ' ﾂ' ﺱ ﻳ' ﺩ' ﮔ' ﺭ' ﺍ' ﺱ	必修選択	選択	科目種別	講義	ﾓ' ﺍ' ﺱ' ﺍ' ﺭ' -			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。									
学修到達目標									
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る技術と姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。									
授業の進め方									
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズのペア・グループワークで基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。				自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる (1時間)			
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay1を覚える、自己紹介 スピーチ練習(1時間)			
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay2を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay3を覚える、連絡先を 聞く表現練習(1時間)			
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)			
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay5を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay6を覚える、疑問文の 練習(1時間)			
8	Unit7: What time is it?	時間を聞いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay7を覚える、時間の表 現練習(1時間)			
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay8を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay9を覚える、家族紹介 の準備(1時間)			
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay10を覚える、友達の人 柄紹介の準備(1時間)			
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay11を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay12を覚える、服装の 表現練習(1時間)			
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay13を覚える、予定を 表現する練習(1時間)			
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリ ッシュを覚える、期末テストの 学習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組む、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。		英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話 (教育) Bクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナパ'リング'	UC12105	研究室	非常勤
担当者	ローランド アマダ	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C						
授業概要									
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。									
学修到達目標									
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る技術と姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。									
授業の進め方									
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズのペア・グループワークで基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。					自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる (1時間)		
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay1を覚える、自己紹介 スピーチ練習(1時間)		
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay2を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)		
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay3を覚える、連絡先を 聞く表現練習(1時間)		
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)		
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay5を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)		
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay6を覚える、疑問文の 練習(1時間)		
8	Unit7: What time is it?	時間を聞いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay7を覚える、時間の表 現練習(1時間)		
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay8を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)		
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay9を覚える、家族紹介 の準備(1時間)		
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay10を覚える、友達の人 柄紹介の準備(1時間)		
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay11を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)		
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay12を覚える、服装の 表現練習(1時間)		
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay13を覚える、予定を 表現する練習(1時間)		
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					既習内容のクラスルーム・イングリ ッシュを覚える、期末テストの 学習(4時間)		
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組む、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。		英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話 (教育) Cクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UC12105	研究室	非常勤
担当者	ジョシア ウェイン	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。									
学修到達目標									
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る技術と姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。									
授業の進め方									
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズのペア・グループワークで基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。				自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる (1時間)			
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay1を覚える、自己紹介 スピーチ練習(1時間)			
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay2を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay3を覚える、連絡先を 聞く表現練習(1時間)			
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)			
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay5を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay6を覚える、疑問文の 練習(1時間)			
8	Unit7: What time is it?	時間を聞いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay7を覚える、時間の表 現練習(1時間)			
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay8を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay9を覚える、家族紹介 の準備(1時間)			
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay10を覚える、友達の 人柄紹介の準備(1時間)			
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay11を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay12を覚える、服装の 表現練習(1時間)			
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay13を覚える、予定を 表現する練習(1時間)			
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組む、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。		英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話 (教育) Dクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナパ'リング'	UC12105	研究室	非常勤
担当者	フリステイ'ット'	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。									
学修到達目標									
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る技術と姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。									
授業の進め方									
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズのペア・グループワークで基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。				自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる (1時間)			
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay1を覚える、自己紹介 スピーチ練習(1時間)			
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay2を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay3を覚える、連絡先を 聞く表現練習(1時間)			
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)			
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay5を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay6を覚える、疑問文の 練習(1時間)			
8	Unit7: What time is it?	時間を聞いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay7を覚える、時間の表 現練習(1時間)			
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay8を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay9を覚える、家族紹介 の準備(1時間)			
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay10を覚える、友達の人 柄紹介の準備(1時間)			
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay11を覚える、小テスト スピーチ練習(1時間)			
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay12を覚える、服装の 表現練習(1時間)			
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュと キクタンDay13を覚える、予定を 表現する練習(1時間)			
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリ ッシュを覚える、期末テストの 学習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。		英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							



科目名	英会話 (教育) Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパ リング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業では、英会話 で学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のやりとりができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。</p>										
学修到達目標										
<p>相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。          授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチで自分の考えを表現することができる。          人前でも堂々と積極的に英語で話せる技術と姿勢を身に付けている。</p>										
授業の進め方										
<p>外国人講師による英語での授業です。英会話 より長めの会話やスピーチ発表を行い、互いに評価し合います。ペア・グループワークを用いて個々が発言する機会を多く設けます。プレズメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit15:What do you do first?	時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習(1時間)				
2	Unit16: What are you doing?	進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習(1時間)				
3	Unit17:What's your place like?	自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?	小テスト:スピーチ発表 相手のおすそめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習(1時間)				
5	Unit19: Where's the mall?	場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習(1時間)				
6	Unit20:Take a left	道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?	小テスト:スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習(1時間)				
8	Unit22: Will you take \$20?	値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習(1時間)				
9	Unit23: Do you ever buy books?	頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!	モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習(1時間)				
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?	Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習(1時間)				
12	Unit26: We need onions.	必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?	食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習(1時間)				
14	Unit28: How does it taste?	食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習(1時間)				
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend	Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke 著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。)</p> <p>「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN: 978-4757422926(生協で購入してください。)</p> <p>英会話 で使用したものを引き続き使用します。</p>				<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。						

科目名	英会話 (教育) Bクラス	学年学期	1年後期	単位数	1	ナパ'リツ'	UC12106	研究室	非常勤
担当者	ローランド アマダ	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C						
授業概要									
本授業では、英会話 で学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のやりとりができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。									
学修到達目標									
相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。 授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチで自分の考えを表現することができる。 人前でも堂々と積極的に英語で話せる技術と姿勢を身に付けている。									
授業の進め方									
外国人講師による英語での授業です。英会話 より長めの会話やスピーチ発表を行い、互いに評価し合います。ペア・グループワークを用いて個々が発言する機会を多く設けます。プレズメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	Unit15:What do you do first?	時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習(1時間)			
2	Unit16: What are you doing?	進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習(1時間)			
3	Unit17:What's your place like?	自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)			
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?	小テスト:スピーチ発表 相手のおすそめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習(1時間)			
5	Unit19: Where's the mall?	場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習(1時間)			
6	Unit20:Take a left	道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)			
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?	小テスト:スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習(1時間)			
8	Unit22: Will you take \$20?	値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習(1時間)			
9	Unit23: Do you ever buy books?	頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習(1時間)			
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!	モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習(1時間)			
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?	Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習(1時間)			
12	Unit26: We need onions.	必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)			
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?	食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習(1時間)			
14	Unit28: How does it taste?	食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習(1時間)			
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend	Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke 著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN: 978-4757422926(生協で購入してください。) 英会話 で使用したものを引き続き使用します。		受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。		英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話 (教育) Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパ リング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	ジ ョシア ウェイン		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業では、英会話 で学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のやりとりができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。</p>										
学修到達目標										
<p>相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。          授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチで自分の考えを表現することができる。          人前でも堂々と積極的に英語で話せる技術と姿勢を身に付けている。</p>										
授業の進め方										
<p>外国人講師による英語での授業です。英会話 より長めの会話やスピーチ発表を行い、互いに評価し合います。ペア・グループワークを用いて個々が発言する機会を多く設けます。プレズメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit15:What do you do first?	時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習(1時間)				
2	Unit16: What are you doing?	進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習(1時間)				
3	Unit17:What's your place like?	自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?	小テスト:スピーチ発表 相手のおすそめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習(1時間)				
5	Unit19: Where's the mall?	場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習(1時間)				
6	Unit20:Take a left	道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?	小テスト:スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習(1時間)				
8	Unit22: Will you take \$20?	値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習(1時間)				
9	Unit23: Do you ever buy books?	頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!	モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習(1時間)				
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?	Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習(1時間)				
12	Unit26: We need onions.	必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?	食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習(1時間)				
14	Unit28: How does it taste?	食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習(1時間)				
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend	Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke 著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。)</p> <p>「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN: 978-4757422926(生協で購入してください。)</p> <p>英会話 で使用したものを引き続き使用します。</p>				<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。						

科目名	英会話 (教育) Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパ'リング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	フリステイ'イット'		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業では、英会話 で学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のやりとりができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。</p>										
学修到達目標										
<p>相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。          授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチで自分の考えを表現することができる。          人前でも堂々と積極的に英語で話せる技術と姿勢を身に付けている。</p>										
授業の進め方										
<p>外国人講師による英語での授業です。英会話 より長めの会話やスピーチ発表を行い、互いに評価し合います。ペア・グループワークを用いて個々が発言する機会を多く設けます。プレズメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Unit15:What do you do first?	時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習(1時間)				
2	Unit16: What are you doing?	進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習(1時間)				
3	Unit17:What's your place like?	自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?	小テスト:スピーチ発表 相手のおすそめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習(1時間)				
5	Unit19: Where's the mall?	場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習(1時間)				
6	Unit20:Take a left	道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?	小テスト:スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習(1時間)				
8	Unit22: Will you take \$20?	値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習(1時間)				
9	Unit23: Do you ever buy books?	頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!	モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習(1時間)				
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?	Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習(1時間)				
12	Unit26: We need onions.	必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?	食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習(1時間)				
14	Unit28: How does it taste?	食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習(1時間)				
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend	Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke 著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。)</p> <p>「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN: 978-4757422926(生協で購入してください。)</p> <p>英会話 で使用したものを引き続き使用します。</p>				<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持っていて、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵です。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。						

科目名	英会話 (人間・教育)	学年学期	2年前期	単位数	1	ナバ'リング	UC22107	研究室	非常勤
担当者	フレッドリック ガース	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
これまで積み上げてきた英文読解の知識を活かし、リーディング力とスピーキング力の強化を行います。身近な時事問題などの簡単なニュース記事を題材に、英文の要点を素早くつかみ、それを基に自分の意見をどう発するか、その方法や伝え方、質問の仕方を学んで、実践の中で読む・話す・聞く力を強化します。									
学修到達目標									
英会話 で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的话题について自信をもってコミュニケーションをとることができる。									
授業の進め方									
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。少人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	Guidance	Introduction to the class					Useful language; Getting started.(1h)		
2	Getting to know each other(1)	Ask and answer questions about yourself					Write about yourself.(1h)		
3	Getting to know each other(2)	Get to know your classmates and teacher					Write about a classmate.(1h)		
4	Talking about interests(1)	Ask and answer questions about things you like/dislike					Write about things you like/dislike.(1h)		
5	Talking about interests(2)	Discuss interests; talk about abilities					Write about your abilities.(1h)		
6	Talking about family(1)	Ask and answer questions about families					Bring some pictures of your family.(1h)		
7	Talking about family(2)	Ask and answer questions about families					Prepare to talk about English reading.(1h)		
8	Talking about people(1)	Match descriptions with pictures of people					Write a description of a friend.(1h)		
9	Talking about people(2)	Practice describing people					Write a description of a famous person.(1h)		
10	Talking about work(1)	Describe a job					Write a description of a job.(1h)		
11	Talking about work(2)	Telling time; describing jobs					Write a description of your dream job.(1h)		
12	Talking about past experiences(1)	Talk about what you did yesterday					Write about what you did yesterday.(1h)		
13	Talking about past experiences(2)	Talk about a vacation; Play the Past Tense Game					Write about what you did on vacation.(1h)		
14	Telling stories	Tell a story (based on the T.V. talk show Gokigenyou)					A story about something that happened to you.(1h)		
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination					Prepare for final examination.(1h)		
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Talk a Lot, Book One, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)		課題: 25% 定期試験: 25% 授業への参加度: 25% 努力点: 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25%。S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
辞書 Any dictionary		いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.							

科目名	英会話 (人間・教育)	学年学期	2年後期	単位数	1	ナバ'リング	UC22108	研究室	非常勤
担当者	フレデリック 加ース	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
総合英語 で学ぶ英文ライティングの知識を活かし、英会話 で学んだ内容をさらに応用して、自分の意見を英文で書いてまとめ発話するスキルを養っていきます。グループワークを通じて、自分の趣味や興味のあることを題材に簡単に英語にして発話、それに対して質問をする形式を繰り返し、英語の4技能の全てを定着させていきます。									
学修到達目標									
英会話 . . . で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的な話題について自信をもってコミュニケーションをとることができる。									
授業の進め方									
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。少人数クラス(原則20名以下)で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	Guidance	Introduction to the class					Useful language: Getting started.(1h)		
2	Talking about sports(1)	Pronunciation, discussion about sports					Explain your feelings about sports.(1h)		
3	Talking about sports(2)	Q&A and listening about sports					Prepare to talk about a reading book.(1h)		
4	Talking about other countries(1)	Discuss foreign countries, people and food.					Extensive reading.(1h)		
5	Talking about other countries(2)	Talk about foreign countries and languages.					Write about foreign food.(1h)		
6	Talking about experiences(1)	Talk about things you have done or haven't done.					Extensive reading.(1h)		
7	Talking about experiences(2)	Interview classmates about their experiences; listening					Write about an interesting experience.(1h)		
8	Talking about places(1)	Talk about indoor places.					Extensive reading.(1h)		
9	Talking about places(2)	Giving subway and street directions.					Write about how to get somewhere.(1h)		
10	Traveling to Hawaii(1)	Making restaurant and airplane reservations.					Extensive reading.(1h)		
11	Traveling to Hawaii(2)	Plan to visit other Hawaiian islands.					Write about a trip.(1h)		
12	Talking about Japanese things(1)	Describing Japanese places and things					Extensive reading.(1h)		
13	Talking about Japanese things(2)	Talk about Japanese New Year and prices in Japan.					Write about what you do for New Year.(1h)		
14	Talking about future events	Making plans					Extensive reading.(1h)		
15	Review	Review course. Prepare for final examination.					Prepare for final examination.(1h)		
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Talk a Lot, Book One, Second edition」David Martin著(EFL Press)(生協で購入してください。)		課題:25% 定期試験:25% 授業への参加度:25% 努力点:25% Reports:25%, Final examination:25%, Class Attitude:25%, Assignments:25%。S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
辞書 Any dictionary		いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.							

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で500点以上の取得を目指します。プレイズメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で450点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングで弱点克服や学習方法についてフィードバックを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEICテストとは何か	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考えます。				自分に合った学習計画を作成する Eラーニング(EL)英単語(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL500点コースU001,U002 (Stage1,2)(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U003,U004 単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U005,U006 単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U009,U010 単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U011,U012 単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U013,U014 単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 単語、文法問題(1時間)				
10	カウンセリング 小テスト	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス 品詞チャレンジドリル				Lesson14 音読・復習 EL U017,U018 単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) 動詞基本ドリル				Lesson15 音読・復習 EL U019,U020 単語、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Lesson5 問かけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) 動詞復習、動詞チャレンジドリル				音読トレーニング EL U023,U024 単語、文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	Part3 Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) 品詞問題の復習				音読トレーニング EL U025,U026 単語、文法問題(1時間)				
15	まとめとリスニングテスト	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組みます。				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	上條 美香		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で450点以上の取得を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で400点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEICテストとは何か	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考えます。				自分に合った学習計画を作成する Eラーニング(EL)英単語(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL500点コースU001,U002 (Stage1,2)(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U003,U004 単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U005,U006 単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U009,U010 単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U011,U012 単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U013,U014 単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 単語、文法問題(1時間)				
10	カウンセリング 小テスト	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス 品詞チャレンジドリル				Lesson14 音読・復習 EL U017,U018 単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) 動詞基本ドリル				Lesson15 音読・復習 EL U019,U020 単語、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Lesson5 問かけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) 動詞復習、動詞チャレンジドリル				音読トレーニング EL U023,U024 単語、文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	Part3 Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) 品詞問題の復習				音読トレーニング EL U025,U026 単語、文法問題(1時間)				
15	まとめとリスニングテスト	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組みます。				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						



科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	山内 志野		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で420点以上の取得を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で370点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEICテストとは何か	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考えます。				自分に合った学習計画を作成する Eラーニング(EL)英単語(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL500点コースU001,U002 (Stage1,2)(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U003,U004 単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U005,U006 単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U009,U010 単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U011,U012 単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U013,U014 単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 単語、文法問題(1時間)				
10	カウンセリング 小テスト	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス 品詞チャレンジドリル				Lesson14 音読・復習 EL U017,U018 単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) 動詞基本ドリル				Lesson15 音読・復習 EL U019,U020 単語、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Lesson5 問かけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) 動詞復習、動詞チャレンジドリル				音読トレーニング EL U023,U024 単語、文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	Part3 Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) 品詞問題の復習				音読トレーニング EL U025,U026 単語、文法問題(1時間)				
15	まとめとリスニングテスト	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組みます。				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイズメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで340点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEICテストとは何か	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考えます。				自分に合った学習計画を作成する Eラーニング(EL)英単語(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL500点コースU001,U002 (Stage1,2)(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U003,U004 単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U005,U006 単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) 品詞基本ドリル				音読トレーニング EL U009,U010 単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) 品詞基本ドリル、復習				音読トレーニング EL U011,U012 単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U013,U014 単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 単語、文法問題(1時間)				
10	カウンセリング 小テスト	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス 品詞チャレンジドリル				Lesson14 音読・復習 EL U017,U018 単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) 動詞基本ドリル				Lesson15 音読・復習 EL U019,U020 単語、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) 動詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Lesson5 問かけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) 動詞復習、動詞チャレンジドリル				音読トレーニング EL U023,U024 単語、文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	Part3 Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) 品詞問題の復習				音読トレーニング EL U025,U026 単語、文法問題(1時間)				
15	まとめとリスニングテスト	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組みます。				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業ではTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC Bridgeで55点程度取得できる。      自然なスピードでの会話を聞き、ある程度概要が把握できる。英語で基本的な応答ができる。基礎的な文法事項を理解している。</p>										
授業の進め方										
<p>講義形式ではなく受講生の参加形式です。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニングやペアワークなどで統合的に学びます。文法演習やTOEIC Bridgeの問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要説明 TOEIC がどのようなテストかを知る				今後の学習計画を立てます 単語リスト1 Eラーニング(EL)単語初級U001~U004 テスト01(1時間)				
2	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬1,2 Part 2 模擬33,18,20 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト1 EL英単語初級 U005~U008 テスト02(1時間)				
3	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬4,6,9,12,14 Part 2 模擬24,34 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 EL英単語初級U009~U012 テスト03(1時間)				
4	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬3,10,11,15,8 Part 2 模擬29 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 文法問題 EL英単語初級 U013~U016 テスト04(1時間)				
5	リスニング Part 1,2 文法演習 小テスト	Part 1 模擬5,7 Part 2 模擬25 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 文法問題 EL英単語初級 U017~U020 テスト05(1時間)				
6	リスニング 1,2 文法演習 長文読解	Part 1 模擬13 Part 2 模擬19 Part 5 請求書・領収書 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 模擬 98,99,100 EL英単語初級 U021~U024 テスト06(1時間)				
7	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬17 Part 3 模擬48,50 Part 5 表 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 模擬81,82 EL英単語初級 U025~U028 テスト07(1時間)				
8	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬27 Part 3 模擬36,46 Part 5 料理法 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 品詞ドリル EL英単語初級 U029~U032 テスト08(1時間)				
9	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬16,35 Part 3 模擬40,44 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト5 文法問題 EL英単語初級 U033~U036 テスト09(1時間)				
10	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬23,26,30 Part 3 模擬37,42 Part 5 広告・記事 模擬85,86 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 模擬95,96,97 単語リスト5 EL英単語初級 U037~U040 テスト10(1時間)				
11	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬21,28 Part 3 模擬39 Part 5 掲示 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬83,84 EL英単語初級 U041~U044 テスト11(1時間)				
12	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬31 Part 3 模擬41 Part 5 手紙文・E-mail 模擬93,94 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬90,91,92 EL英単語初級 U045~U048 テスト12(1時間)				
13	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬32 Part 3 模擬43,45,47 品詞チャレンジドリル				音読、音読筆写 模擬87,88 文法問題 EL英単語初級 U049~U052 テスト13(1時間)				
14	リスニング演習 文法演習	Part 3 模擬 Part 1,2 復習 品詞問題の復習				音読、音読筆写 文法問題 EL英単語初級 U053~U056 テスト14(1時間)				
15	ハーフ模擬テスト	ハーフ模試 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版)      ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。)      「TOEIC L&amp;Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク)      ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)</p>				<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%      受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	中田 順		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業ではTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC Bridgeで50点程度取得できる。      自然なスピードでの会話を聞き、ある程度概要が把握できる。英語で基本的な応答ができる。基礎的な文法事項を理解している。</p>										
授業の進め方										
<p>講義形式ではなく受講生の参加形式です。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニングやペアワークなどで統合的に学びます。文法演習やTOEIC Bridgeの問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要説明 TOEIC がどのようなテストかを知る				今後の学習計画を立てます 単語リスト1 Eラーニング(EL)単語初級U001~U004 テスト01(1時間)				
2	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬1,2 Part 2 模擬33,18,20 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト1 EL英単語初級 U005~U008 テスト02(1時間)				
3	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬4,6,9,12,14 Part 2 模擬24,34 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 EL英単語初級U009~U012 テスト03(1時間)				
4	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬3,10,11,15,8 Part 2 模擬29 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 文法問題 EL英単語初級 U013~U016 テスト04(1時間)				
5	リスニング Part 1,2 文法演習 小テスト	Part 1 模擬5,7 Part 2 模擬25 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 文法問題 EL英単語初級 U017~U020 テスト05(1時間)				
6	リスニング 1,2 文法演習 長文読解	Part 1 模擬13 Part 2 模擬19 Part 5 請求書・領収書 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 模擬98,99,100 EL英単語初級 U021~U024 テスト06(1時間)				
7	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬17 Part 3 模擬48,50 Part 5 表 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 模擬81,82 EL英単語初級 U025~U028 テスト07(1時間)				
8	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬27 Part 3 模擬36,46 Part 5 料理法 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 品詞ドリル EL英単語初級 U029~U032 テスト08(1時間)				
9	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬16,35 Part 3 模擬40,44 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト5 文法問題 EL英単語初級 U033~U036 テスト09(1時間)				
10	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬23,26,30 Part 3 模擬37,42 Part 5 広告・記事 模擬85,86 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 模擬95,96,97 単語リスト5 EL英単語初級 U037~U040 テスト10(1時間)				
11	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬21,28 Part 3 模擬39 Part 5 掲示 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬83,84 EL英単語初級 U041~U044 テスト11(1時間)				
12	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬31 Part 3 模擬41 Part 5 手紙文・E-mail 模擬93,94 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬90,91,92 EL英単語初級 U045~U048 テスト12(1時間)				
13	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬32 Part 3 模擬43,45,47 品詞チャレンジドリル				音読、音読筆写 模擬87,88 文法問題 EL英単語初級 U049~U052 テスト13(1時間)				
14	リスニング演習 文法演習	Part 3 模擬 Part 1,2 復習 品詞問題の復習				音読、音読筆写 文法問題 EL英単語初級 U053~U056 テスト14(1時間)				
15	ハーフ模擬テスト	ハーフ模試 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版)      ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。)      「TOEIC L&amp;Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク)      ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)</p>				<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%      受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Gクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	小沼 さつき		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業ではTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC Bridgeで45点程度取得できる。          自然なスピードでの会話を聞き、ある程度概要が把握できる。英語で基本的な応答ができる。基礎的な文法事項を理解している。</p>										
授業の進め方										
<p>講義形式ではなく受講生の参加形式です。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニングやペアワークなどで統合的に学びます。文法演習やTOEIC Bridgeの問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要説明 TOEIC がどのようなテストかを知る				今後の学習計画を立てます 単語リスト1 Eラーニング(EL)単語初級U001~U004 テスト01(1時間)				
2	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬1,2 Part 2 模擬33,18,20 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト1 EL英単語初級 U005~U008 テスト02(1時間)				
3	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬4,6,9,12,14 Part 2 模擬24,34 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 EL英単語初級U009~U012 テスト03(1時間)				
4	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬3,10,11,15,8 Part 2 模擬29 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 文法問題 EL英単語初級 U013~U016 テスト04(1時間)				
5	リスニング Part 1,2 文法演習 小テスト	Part 1 模擬5,7 Part 2 模擬25 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 文法問題 EL英単語初級 U017~U020 テスト05(1時間)				
6	リスニング 1,2 文法演習 長文読解	Part 1 模擬13 Part 2 模擬19 Part 5 請求書・領収書 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 模擬98,99,100 EL英単語初級 U021~U024 テスト06(1時間)				
7	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬17 Part 3 模擬48,50 Part 5 表 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 模擬81,82 EL英単語初級 U025~U028 テスト07(1時間)				
8	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬27 Part 3 模擬36,46 Part 5 料理法 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 品詞ドリル EL英単語初級 U029~U032 テスト08(1時間)				
9	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬16,35 Part 3 模擬40,44 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト5 文法問題 EL英単語初級 U033~U036 テスト09(1時間)				
10	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬23,26,30 Part 3 模擬37,42 Part 5 広告・記事 模擬85,86 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 模擬95,96,97 単語リスト5 EL英単語初級 U037~U040 テスト10(1時間)				
11	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬21,28 Part 3 模擬39 Part 5 掲示 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬83,84 EL英単語初級 U041~U044 テスト11(1時間)				
12	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬31 Part 3 模擬41 Part 5 手紙文・E-mail 模擬93,94 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬90,91,92 EL英単語初級 U045~U048 テスト12(1時間)				
13	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬32 Part 3 模擬43,45,47 品詞チャレンジドリル				音読、音読筆写 模擬87,88 文法問題 EL英単語初級 U049~U052 テスト13(1時間)				
14	リスニング演習 文法演習	Part 3 模擬 Part 1,2 復習 品詞問題の復習				音読、音読筆写 文法問題 EL英単語初級 U053~U056 テスト14(1時間)				
15	ハーフ模擬テスト	ハーフ模試 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版)          ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。)          「TOEIC L&amp;Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク)          ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)</p>				<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%          受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Hクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業ではTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC Bridgeで40点程度取得できる。      自然なスピードでの会話を聞き、ある程度概要が把握できる。英語で基本的な応答ができる。基礎的な文法事項を理解している。</p>										
授業の進め方										
<p>講義形式ではなく受講生の参加形式です。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニングやペアワークなどで統合的に学びます。文法演習やTOEIC Bridgeの問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要説明 TOEIC がどのようなテストかを知る				今後の学習計画を立てます 単語リスト1 Eラーニング(EL)単語初級U001~U004 テスト01(1時間)				
2	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬1,2 Part 2 模擬33,18,20 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト1 EL英単語初級 U005~U008 テスト02(1時間)				
3	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬4,6,9,12,14 Part 2 模擬24,34 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 EL英単語初級U009~U012 テスト03(1時間)				
4	リスニング Part 1,2 文法演習	Part 1 模擬3,10,11,15,8 Part 2 模擬29 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト2 文法問題 EL英単語初級 U013~U016 テスト04(1時間)				
5	リスニング Part 1,2 文法演習 小テスト	Part 1 模擬5,7 Part 2 模擬25 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 文法問題 EL英単語初級 U017~U020 テスト05(1時間)				
6	リスニング 1,2 文法演習 長文読解	Part 1 模擬13 Part 2 模擬19 Part 5 請求書・領収書 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト3 模擬98,99,100 EL英単語初級 U021~U024 テスト06(1時間)				
7	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬17 Part 3 模擬48,50 Part 5 表 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 模擬81,82 EL英単語初級 U025~U028 テスト07(1時間)				
8	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬27 Part 3 模擬36,46 Part 5 料理法 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト4 品詞ドリル EL英単語初級 U029~U032 テスト08(1時間)				
9	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬16,35 Part 3 模擬40,44 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト5 文法問題 EL英単語初級 U033~U036 テスト09(1時間)				
10	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬23,26,30 Part 3 模擬37,42 Part 5 広告・記事 模擬85,86 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 模擬95,96,97 単語リスト5 EL英単語初級 U037~U040 テスト10(1時間)				
11	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬21,28 Part 3 模擬39 Part 5 掲示 品詞基本ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬83,84 EL英単語初級 U041~U044 テスト11(1時間)				
12	リスニング Part 2,3 文法演習 長文読解	Part 2 模擬31 Part 3 模擬41 Part 5 手紙文・E-mail 模擬93,94 品詞復習ドリル				音読、音読筆写 単語リスト6 模擬90,91,92 EL英単語初級 U045~U048 テスト12(1時間)				
13	リスニング Part 2,3 文法演習 小テスト	Part 2 模擬32 Part 3 模擬43,45,47 品詞チャレンジドリル				音読、音読筆写 模擬87,88 文法問題 EL英単語初級 U049~U052 テスト13(1時間)				
14	リスニング演習 文法演習	Part 3 模擬 Part 1,2 復習 品詞問題の復習				音読、音読筆写 文法問題 EL英単語初級 U053~U056 テスト14(1時間)				
15	ハーフ模擬テスト	ハーフ模試 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版)      ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。)      「TOEIC L&amp;Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク)      ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)</p>				<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%      受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				スマートフォン、PC、タブレット等のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で500点以上の取得を目指します。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で480点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	授業概要説明 カウンセリング 目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考える				学習計画 Eラーニング(EL)500点 コースU001,U002(Stage3)英単語 初級U001~U003(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Lesson7 動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) きほんのきほんLesson8動詞復習				音読トレーニング EL U003,U004 英単語初級 U004~U006 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5,6) きほんのきほんLesson9品詞復習				音読トレーニング EL U005,U006 英単語初級 U007~U009 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5,6) 代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 英単語初級 U010~U012 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 小テスト	Lesson22 図表問題の解き方(Part3,4) 代名詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U009,U010 英単語初級 U013~U015 文法問題(1時間)				
6	リーディング演習	Lesson19 関連語句(Part5,6) 前置詞基本ドリル				音読トレーニング EL U011,U012 英単語初級 U016~U018 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3,4) 前置詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U013,U014 英単語初級 U019~U021 文法問題(1時間)				
8	リーディング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) 接続詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 英単語初級 U022~U024 文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 小テスト	Lesson20 接続詞系の問題(Part5,6) 接続詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U017,U018 英単語初級 U025~U027 文法問題(1時間)				
10	カウンセリング	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイスを受ける ミニ模試				音読トレーニング EL U019,U020 英単語初級 U028~U030 文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) 関係代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 英単語初級 U031~U033 文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) 関係代名詞復習ドリル、チャレンジ				音読トレーニング EL U023,U024 英単語初級 U034~U036 文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 小テスト	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり 品詞問題復習				音読トレーニング EL U025,U026 英単語初級 U037~U039 文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3,Part7) 動詞問題復習				音読トレーニング EL U027,U028 英単語初級 U040~U042 文法問題(1時間)				
15	ミニ模試	ミニ模試				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) TOEIC より継続使用です。 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC より継続使用です。 「TOEIC L&R TEST 標準模試 2」神崎 正哉、Daniel Warriner著(やどかり出版) ISBN:978-4-7946-0466-8(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	上條 美香		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で500点以上の取得を目指します。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で480点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、エラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	授業概要説明 カウンセリング 目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考える				学習計画 Eラーニング(EL)500点 コースU001,U002(Stage3)英単語 初級U001~U003(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Lesson7 動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) きほんのきほんLesson8動詞復習				音読トレーニング EL U003,U004 英単語初級 U004~U006 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5,6) きほんのきほんLesson9品詞復習				音読トレーニング EL U005,U006 英単語初級 U007~U009 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5,6) 代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 英単語初級 U010~U012 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 小テスト	Lesson22 図表問題の解き方(Part3,4) 代名詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U009,U010 英単語初級 U013~U015 文法問題(1時間)				
6	リーディング演習	Lesson19 関連語句(Part5,6) 前置詞基本ドリル				音読トレーニング EL U011,U012 英単語初級 U016~U018 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3,4) 前置詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U013,U014 英単語初級 U019~U021 文法問題(1時間)				
8	リーディング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) 接続詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 英単語初級 U022~U024 文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 小テスト	Lesson20 接続詞系の問題(Part5,6) 接続詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U017,U018 英単語初級 U025~U027 文法問題(1時間)				
10	カウンセリング	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイスを受ける ミニ模試				音読トレーニング EL U019,U020 英単語初級 U028~U030 文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) 関係代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 英単語初級 U031~U033 文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) 関係代名詞復習ドリル、チャレンジ				音読トレーニング EL U023,U024 英単語初級 U034~U036 文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 小テスト	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり 品詞問題復習				音読トレーニング EL U025,U026 英単語初級 U037~U039 文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3,Part7) 動詞問題復習				音読トレーニング EL U027,U028 英単語初級 U040~U042 文法問題(1時間)				
15	ミニ模試	ミニ模試				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) TOEIC より継続使用です。 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC より継続使用です。 「TOEIC L&R TEST 標準模試 2」神崎 正哉、Daniel Warriner著(やどかり出版) ISBN:978-4-7946-0466-8(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						



科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	山内 志野		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で420点以上の取得を目指します。プレースメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で400点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	授業概要説明 カウンセリング 目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考える				学習計画 Eラーニング(EL)500点 コースU001,U002(Stage3)英単語 初級U001~U003(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Lesson7 動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) きほんのきほんLesson8動詞復習				音読トレーニング EL U003,U004 英単語初級 U004~U006 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5,6) きほんのきほんLesson9品詞復習				音読トレーニング EL U005,U006 英単語初級 U007~U009 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5,6) 代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 英単語初級 U010~U012 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 小テスト	Lesson22 図表問題の解き方(Part3,4) 代名詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U009,U010 英単語初級 U013~U015 文法問題(1時間)				
6	リーディング演習	Lesson19 関連語句(Part5,6) 前置詞基本ドリル				音読トレーニング EL U011,U012 英単語初級 U016~U018 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3,4) 前置詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U013,U014 英単語初級 U019~U021 文法問題(1時間)				
8	リーディング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) 接続詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 英単語初級 U022~U024 文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 小テスト	Lesson20 接続詞系の問題(Part5,6) 接続詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U017,U018 英単語初級 U025~U027 文法問題(1時間)				
10	カウンセリング	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイスを受ける ミニ模試				音読トレーニング EL U019,U020 英単語初級 U028~U030 文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) 関係代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 英単語初級 U031~U033 文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) 関係代名詞復習ドリル、チャレンジ				音読トレーニング EL U023,U024 英単語初級 U034~U036 文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 小テスト	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり 品詞問題復習				音読トレーニング EL U025,U026 英単語初級 U037~U039 文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3,Part7) 動詞問題復習				音読トレーニング EL U027,U028 英単語初級 U040~U042 文法問題(1時間)				
15	ミニ模試	ミニ模試				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。TOEIC より継続使用です。TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。TOEIC より継続使用です。				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で370点程度取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	授業概要説明 カウンセリング 目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを考える				学習計画 Eラーニング(EL)500点 コースU001,U002(Stage3)英単語 初級U001~U003(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Lesson7 動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) きほんのきほんLesson8動詞復習				音読トレーニング EL U003,U004 英単語初級 U004~U006 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5,6) きほんのきほんLesson9品詞復習				音読トレーニング EL U005,U006 英単語初級 U007~U009 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5,6) 代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U007,U008 英単語初級 U010~U012 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 小テスト	Lesson22 図表問題の解き方(Part3,4) 代名詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U009,U010 英単語初級 U013~U015 文法問題(1時間)				
6	リーディング演習	Lesson19 関連語句(Part5,6) 前置詞基本ドリル				音読トレーニング EL U011,U012 英単語初級 U016~U018 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3,4) 前置詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U013,U014 英単語初級 U019~U021 文法問題(1時間)				
8	リーディング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) 接続詞基本ドリル				音読トレーニング EL U015,U016 英単語初級 U022~U024 文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 小テスト	Lesson20 接続詞系の問題(Part5,6) 接続詞基本ドリル、復習、チャレンジ				音読トレーニング EL U017,U018 英単語初級 U025~U027 文法問題(1時間)				
10	カウンセリング	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイスを受ける 関係代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U019,U020 英単語初級 U028~U030 文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) 関係代名詞基本ドリル				音読トレーニング EL U021,U022 英単語初級 U031~U033 文法問題(1時間)				
12	リーディング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) 関係代名詞復習ドリル、チャレンジ				音読トレーニング EL U023,U024 英単語初級 U034~U036 文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 小テスト	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり 品詞問題復習				音読トレーニング EL U025,U026 英単語初級 U037~U039 文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3,Part7) 動詞問題復習				音読トレーニング EL U027,U028 英単語初級 U040~U042 文法問題(1時間)				
15	ミニ模試	ミニ模試				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) TOEIC より継続使用です。 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC より継続使用です。				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
前期に引き続きTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeの更なるスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで60点程度取得できる知識・技能を身につけている。リスニングでは少し長めの会話やアナウンスを聞き概要が把握できる。リーディングでは長文のおおまかな概要をつかむことができ、詳細を問う問題にも対処することができる。基礎文法が理解できている。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC Bridgeの問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	模試の結果に基づきカウンセリングを行う				音読 Eラーニング(EL) 英単語初級U057~U060, テスト15 単語リスト 文法問題(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 1 Activities 品詞問題チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U061~U064, テスト16 単語リスト 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 2 Eating Out 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U065~U068, テスト17 単語リスト 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 3 Entertainment 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U069~U072, テスト18 単語リスト 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 4 Travel 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U073~U076, テスト19 単語リスト 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 5 Housing 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U077~U080, テスト20 単語リスト 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 6 School 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U081~U084, テスト21 単語リスト 文法問題(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 7 Health 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U085~U088, テスト22 単語リスト 文法問題(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 8 Shopping 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U089~U092, テスト23 単語リスト 文法問題(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 9 Family 動詞チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U093~U096, テスト24 単語リスト 文法問題(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 10 News 代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U097~U100, テスト25 単語リスト 文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 11 Job Hunting 前置詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U101~U104, テスト26 単語リスト 文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 12 Advertisements 接続詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U105~U108, テスト27 単語リスト 文法問題(1時間)				
14	リスニング模擬試験 文法演習	リスニング演習 Part1~4 関係代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U109~U112, テスト28 単語リスト 文法問題(1時間)				
15	リーディング模擬試験 まとめ	リーディング演習 Part1~3 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Practical TOEIC BRIDGE® L&R Tests」Alison Kitzman / 三原 京 / 田中 善紀 / 木村 博是著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17908-5(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC からの継続使用のテキストです。				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC Bridgeを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	中田 順		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
前期に引き続きTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeの更なるスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで55点程度取得できる知識・技能を身につけている。リスニングでは少し長めの会話やアナウンスを聞き概要が把握できる。リーディングでは長文のおおまかな概要をつかむことができ、詳細を問う問題にも対処することができる。基礎文法が理解できている。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC Bridgeの問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	模試の結果に基づきカウンセリングを行う				音読 Eラーニング(EL) 英単語初級U057~U060, テスト15 単語リスト 文法問題(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 1 Activities 品詞問題チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U061~U064, テスト16 単語リスト 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 2 Eating Out 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U065~U068, テスト17 単語リスト 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 3 Entertainment 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U069~U072, テスト18 単語リスト 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 4 Travel 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U073~U076, テスト19 単語リスト 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 5 Housing 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U077~U080, テスト20 単語リスト 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 6 School 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U081~U084, テスト21 単語リスト 文法問題(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 7 Health 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U085~U088, テスト22 単語リスト 文法問題(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 8 Shopping 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U089~U092, テスト23 単語リスト 文法問題(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 9 Family 動詞チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U093~U096, テスト24 単語リスト 文法問題(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 10 News 代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U097~U100, テスト25 単語リスト 文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 11 Job Hunting 前置詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U101~U104, テスト26 単語リスト 文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 12 Advertisements 接続詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U105~U108, テスト27 単語リスト 文法問題(1時間)				
14	リスニング模擬試験 文法演習	リスニング演習 Part1~4 関係代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U109~U112, テスト28 単語リスト 文法問題(1時間)				
15	リーディング模擬試験 まとめ	リーディング演習 Part1~3 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Practical TOEIC BRIDGE® L&R Tests」Alison Kitzman / 三原 京 / 田中 善紀 / 木村 博是著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17908-5(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC からの継続使用のテキストです。				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC Bridgeを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Gクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	小沼 さつき		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
前期に引き続きTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeの更なるスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで50点程度取得できる知識・技能を身につけている。リスニングでは少し長めの会話やアナウンスを聞き概要が把握できる。リーディングでは長文のおおまかな概要をつかむことができ、詳細を問う問題にも対処することができる。基礎文法が理解できている。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC Bridgeの問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	模試の結果に基づきカウンセリングを行う				音読 Eラーニング(EL) 英単語初級U057~U060, テスト15 単語リスト 文法問題(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 1 Activities 品詞問題チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U061~U064, テスト16 単語リスト 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 2 Eating Out 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U065~U068, テスト17 単語リスト 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 3 Entertainment 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U069~U072, テスト18 単語リスト 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 4 Travel 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U073~U076, テスト19 単語リスト 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 5 Housing 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U077~U080, テスト20 単語リスト 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 6 School 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U081~U084, テスト21 単語リスト 文法問題(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 7 Health 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U085~U088, テスト22 単語リスト 文法問題(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 8 Shopping 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U089~U092, テスト23 単語リスト 文法問題(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 9 Family 動詞チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U093~U096, テスト24 単語リスト 文法問題(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 10 News 代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U097~U100, テスト25 単語リスト 文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 11 Job Hunting 前置詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U101~U104, テスト26 単語リスト 文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 12 Advertisements 接続詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U105~U108, テスト27 単語リスト 文法問題(1時間)				
14	リスニング模擬試験 文法演習	リスニング演習 Part1~4 関係代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U109~U112, テスト28 単語リスト 文法問題(1時間)				
15	リーディング模擬試験 まとめ	リーディング演習 Part1~3 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Practical TOEIC BRIDGE® L&R Tests」Alison Kitzman / 三原 京 / 田中 善紀 / 木村 博是著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17908-5(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC からの継続使用のテキストです。				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC Bridgeを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Hクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
前期に引き続きTOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身に付け、TOEIC Bridgeの更なるスコアアップを目指します。また、TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストですのでペアワークやグループワークを通じ英語を話す機会を多く設けます。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで45点程度取得できる知識・技能を身につけている。リスニングでは少し長めの会話やアナウンスを聞き概要が把握できる。リーディングでは長文のおおまかな概要をつかむことができ、詳細を問う問題にも対処することができる。基礎文法が理解できている。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC Bridgeの問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォンを用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カウンセリング	模試の結果に基づきカウンセリングを行う				音読 Eラーニング(EL) 英単語初級U057~U060, テスト15 単語リスト 文法問題(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 1 Activities 品詞問題チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U061~U064, テスト16 単語リスト 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 2 Eating Out 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U065~U068, テスト17 単語リスト 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 3 Entertainment 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U069~U072, テスト18 単語リスト 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 4 Travel 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U073~U076, テスト19 単語リスト 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 5 Housing 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U077~U080, テスト20 単語リスト 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 6 School 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U081~U084, テスト21 単語リスト 文法問題(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 7 Health 動詞基本ドリル				音読 EL 英単語初級U085~U088, テスト22 単語リスト 文法問題(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 8 Shopping 動詞基本ドリル 復習ドリル				音読 EL 英単語初級U089~U092, テスト23 単語リスト 文法問題(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 9 Family 動詞チャレンジドリル				音読 EL 英単語初級U093~U096, テスト24 単語リスト 文法問題(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 10 News 代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U097~U100, テスト25 単語リスト 文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 11 Job Hunting 前置詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U101~U104, テスト26 単語リスト 文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習 文法演習	Unit 12 Advertisements 接続詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U105~U108, テスト27 単語リスト 文法問題(1時間)				
14	リスニング模擬試験 文法演習	リスニング演習 Part1~4 関係代名詞基本ドリル 復習、チャレンジ				音読 EL 英単語初級U109~U112, テスト28 単語リスト 文法問題(1時間)				
15	リーディング模擬試験 まとめ	リーディング演習 Part1~3 解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Practical TOEIC BRIDGE® L&R Tests」Alison Kitzman / 三原 京 / 田中 善紀 / 木村 博是著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17908-5(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) TOEIC からの継続使用のテキストです。				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC Bridgeを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				受講にはスマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。継続してTOEICを受講することを強く推奨します。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで600点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで520点程度修得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。基礎的な文法問題に確実に対処できる。長めの文章の概要を把握でき、詳細情報を瞬時に読み取ることができる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成とIP結果に基づくカウンセリング					Eラーニング(EL) 英単語中級 U001~U004, テスト01 学習計画を完成させてくる(1時間)			
2	リスニング・リーディング問題演習	Unit 1 Travel 名詞を学ぶ					EL 英単語中級 U005~U008, テスト02 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング・リーディング問題演習	Unit 2 Dining Out 形容詞を学ぶ					EL英単語中級 U009~U012, テスト03 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング・リーディング問題演習	Unit 3 Media 副詞を学ぶ					EL英単語中級 U013~U016, テスト04 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 4 Entertainment 時制を学ぶ					EL英単語中級 U017~U020, テスト05 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング・リーディング問題演習	Unit 5 Purchasing 主語と動詞の一致を学ぶ					EL英単語中級 U021~U024, テスト06 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング・リーディング問題演習	Unit 6 Clients 能動態・受動態を学ぶ					EL英単語中級 U025~U028, テスト07 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング・リーディング問題演習	Unit 7 Recruiting 動名詞・不定詞を学ぶ					EL英単語中級 U029~U032, テスト08 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 8 Personnel 代名詞を学ぶ					EL英単語中級 U033~U036, テスト09 音読 問題演習(1時間)			
10	リスニング・リーディング問題演習	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ					EL英単語中級 U037~U040, テスト10 音読 問題演習(1時間)			
11	カウンセリング ミニ模擬試験	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施					EL英単語中級 U041~U044, テスト11 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング・リーディング問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ					EL英単語中級 U045~U048, テスト12 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ					EL英単語中級 U049~U052, テスト13 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング・リーディング問題演習	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ					EL英単語中級 U053~U056, テスト14 音読 問題演習(1時間)			
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験試と解説					定期試験に向けて自己学習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE」 番場 直之、小山 克明著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4090-7(生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業内で紹介します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで550点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC &Rで420点程度取得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。基礎文法が理解できる。やや長めの文章の概要が理解できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業概要、学習計画の作成 リスニング・リーディング 問題演習	授業概要説明 グループごと学習計画の作成とカウンセリング Unit 1 Travel				Eラーニング(EL) 英単語中級 U001~U004、テスト01 問題演習(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 Dining Out				EL英単語中級 U005~U008、テスト02 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 Media				EL英単語中級 U009~U012、テスト03 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 4 Entertainment				EL英単語中級 U013~U016、テスト04 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 5 Purchasing				EL英単語中級 U017~U020、テスト05 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 Clients				EL英単語中級 U021~U024、テスト06 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 Recruiting				EL英単語中級 U025~U028、テスト07 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 8 Personnel				EL英単語中級 U029~U032、テスト08 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 9 Advertising				EL英単語中級 U033~U036、テスト09 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings				EL英単語中級 U037~U040、テスト10 音読 問題演習(1時間)				
11	カウンセリング ミニ模擬試験	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施				EL英単語中級 U041~U044、テスト11 音読 (1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 11 Finance				EL英単語中級 U045~U048、テスト12 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 12 Offices				EL英単語中級 U049~U052、テスト13 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 13 Daily Life				EL英単語中級 U053~U056、テスト14 音読 問題演習(1時間)				
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験試と解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)		受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
授業内で紹介します。		今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。								



科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	三浦 藍子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで450点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC L&Rで390点程度取得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業概要、学習計画の作成 リスニング・リーディング 問題演習	授業概要説明 グループごと学習計画の作成とカウンセリング Unit 1 Travel				Eラーニング(EL) 英単語初級 U045～U048、テスト12、音読、問題演習(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 Dining Out				EL英単語初級U049～U052、テスト 13、音読、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 Media				EL英単語初級U053～U056、テスト 14、音読、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 4 Entertainment				EL英単語初級U057～U060、テスト 15、音読、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 5 Purchasing				EL英単語初級U061～U064、テスト 16、音読、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 Clients				EL英単語初級U065～U068、テスト 17、音読、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 Recruiting				EL英単語初級U069～U072、テスト 18、音読、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 8 Personnel				EL英単語初級U073～U076、テスト 19、音読、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 9 Advertising				EL英単語初級U077～U080、テスト 20、音読、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings				EL英単語初級U081～U084、テスト 21、音読、問題演習(1時間)				
11	カウンセリング ミニ模擬試験	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施				EL英単語初級U085～U088、テスト 22、音読、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 11 Finance				EL英単語初級U089～U092、テスト 23、音読、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 12 Offices				EL英単語初級U093～U096、テスト 24、音読、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 13 Daily Life				EL英単語初級U097～U100、テスト 25、音読、問題演習(1時間)				
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験試と解説				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)		受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC LPテストを用います。受講態度は発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
授業内で紹介します。		今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。								

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	山内 志野		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで420点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学習到達目標										
「TOEIC L・」で学習した内容を復習しながら、TOEIC R&Lで360点程度取得できる。 リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業概要、学習計画の作成 リスニング・リーディング 問題演習	授業概要説明 グループごと学習計画の作成とカウンセリング Unit 1 Travel				Eラーニング(EL) 英単語初級 U045～U048、テスト12、音読、問題演習(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 Dining Out				EL英単語初級U049～U052、テスト 13、音読、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 Media				EL英単語初級U053～U056、テスト 14、音読、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 4 Entertainment				EL英単語初級U057～U060、テスト 15、音読、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 5 Purchasing				EL英単語初級U061～U064、テスト 16、音読、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 Clients				EL英単語初級U065～U068、テスト 17、音読、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 Recruiting				EL英単語初級U069～U072、テスト 18、音読、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 8 Personnel				EL英単語初級U073～U076、テスト 19、音読、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 9 Advertising				EL英単語初級U077～U080、テスト 20、音読、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings				EL英単語初級U081～U084、テスト 21、音読、問題演習(1時間)				
11	カウンセリング ミニ模擬試験	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施				EL英単語初級U085～U088、テスト 22、音読、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 11 Finance				EL英単語初級U089～U092、テスト 23、音読、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 12 Offices				EL英単語初級U093～U096、テスト 24、音読、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 13 Daily Life				EL英単語初級U097～U100、テスト 25、音読、問題演習(1時間)				
15	まとめとリスニング	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組む				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。 TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UC22111	研究室	非常勤	
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで380点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学習到達目標											
「TOEIC L・」で学習した内容を復習しながら、TOEIC330点程度修得できる。 リスニングでは、自然なスピードの会話を聞き、おおまかな内容が理解できる。文法事項において品詞問題が解ける。											
授業の進め方											
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで総合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業概要、学習計画の作成 リスニング・リーディング 問題演習	授業概要説明 学習計画の作成とカウンセリング Unit 1 Travel 名詞を学ぶ					Eラーニング 500点突破 Stage 1,2 U001, U002 単語初級U001, U002 音読 問題演習(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 Dining Out 形容詞を学ぶ					EL 500点 Stage 1,2 U003, U004 単語初級U003, U004 テスト1 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 Media 副詞を学ぶ					EL 500点 Stage 1,2 U005, U006 単語初級U005, U006 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 4 Entertainment 時制を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U007, U008 単語初級U007, U008 テスト2 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 5 Purchasing 主語と動詞の一致を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U009, U010 単語初級U009, U010 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 Clients 能動態・受動態を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U011, U012 単語初級U011, U012 テスト3 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 Recruiting 動名詞・不定詞を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U013, U014 単語初級U013, U014 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 8 Personnel 代名詞を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U015, U016 単語初級U015, U016 テスト4 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U017, U018 英単語初級U017, U018 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U019, U020 単語初級U019, U020 テスト5 音読 問題演習(1時間)				
11	カウンセリング ミニ模擬試験	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施					EL 500点 Stage1,2 U021, U022 単語初級U021, U022 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U023, U024 単語初級U023, U024 テスト6 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ					EL 500点 Stage1,2 U025, U026 単語初級U025, U026 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 13 Personnel 語彙の結びつき(名詞・形容詞)					EL 500点 Stage1,2 U027, U028 単語初級U027, U028 テスト7 音読 問題演習(1時間)				
15	まとめとリスニング	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組む					定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER」早川幸治、岸 洋一著 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4088-4(生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 受講態度は授業中の発言回数や意欲等を評価します。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで350点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC300点程度修得できる。 リスニングでは、自然なスピードの会話を聞き、おおまかな内容が理解できる。文法事項において品詞問題が解ける。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで総合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業概要、学習計画の作成 リスニング・リーディング 問題演習	授業概要説明 学習計画の作成とカウンセリング Unit 1 Travel 名詞を学ぶ				Eラーニング 500点突破 Stage 1,2 U001, U002 単語初級U001, U002 音読 問題演習(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 Dining Out 形容詞を学ぶ				EL 500点 Stage 1,2 U003, U004 単語初級U003, U004 テスト1 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 Media 副詞を学ぶ				EL 500点 Stage 1,2 U005, U006 単語初級U005, U006 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 4 Entertainment 時制を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U007, U008 単語初級U007, U008 テスト2 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 5 Purchasing 主語と動詞の一致を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U009, U010 単語初級U009, U010 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 Clients 能動態・受動態を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U011, U012 単語初級U011, U012 テスト3 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 Recruiting 動名詞・不定詞を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U013, U014 単語初級U013, U014 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 8 Personnel 代名詞を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U015, U016 単語初級U015, U016 テスト4 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U017, U018 英単語初級U017, U018 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U019, U020 単語初級U019, U020 テスト5 音読 問題演習(1時間)				
11	カウンセリング ミニ模擬試験	6月20日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施				EL 500点 Stage1,2 U021, U022 単語初級U021, U022 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U023, U024 単語初級U023, U024 テスト6 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ				EL 500点 Stage1,2 U025, U026 単語初級U025, U026 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 13 Personnel 語彙の結びつき(名詞・形容詞)				EL 500点 Stage1,2 U027, U028 単語初級U027, U028 テスト7 音読 問題演習(1時間)				
15	まとめとリスニング	これまでの復習およびTOEICのリスニング(100問)に取り組む				定期試験に向けて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER」早川幸治、岸 洋一著 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4088-4(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで600点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで550点程度修得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。基礎的な文法問題に確実に対処できる。長めの文章の概要を把握でき、詳細情報を瞬時に読み取ることができる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成とTOEIC IPの結果に基づくカウンセリング					EL 英単語中級U057~U060 テスト15 音読 問題演習(1時間)			
2	リスニング・リーディング問題演習	Unit 1 人物の動作表現 品詞・代名詞					EL 英単語中級U061~U064 テスト16 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング・リーディング問題演習	Unit 2 疑問詞で始まる疑問文 態・分詞					EL 英単語中級U065~U08 テスト17 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング・リーディング問題演習	Unit 3 店・ホテルでの会話 読解の基礎を身に付ける					EL 英単語中級U069~U072 テスト18 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 4 留守番電話 詳細情報の特定					EL 英単語中級U073~U076 テスト19 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング・リーディング問題演習	Unit 5 物に関する描写 話の展開を読み取る					EL 英単語中級U077~U080 テスト20 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング・リーディング問題演習	Unit 6 Yes/No疑問文・選択疑問文 接続詞・前置詞					EL 英単語中級U081~U084 テスト21 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング・リーディング問題演習	Unit 7 日常生活における会話 内容把握問題に挑戦する					EL 英単語中級U085~U088 テスト22 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 8 アナウンス・宣伝 語彙問題・その他					EL 英単語中級U089~U092 テスト23 音読 問題演習(1時間)			
10	カウンセリング ミニ模擬試験	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施					EL 英単語中級U093~U096 テスト24 音読 問題演習(1時間)			
11	リスニング・リーディング問題演習	Unit 9 ステートメント・付加疑問文 時制・代名詞・語彙					EL 英単語中級U097~U100 テスト25 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング・リーディング問題演習	Unit 10 オフィスでの会話 マルチプルバッセージ					EL 英単語中級U101~U104 テスト26 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 11 トーク(会議・イベント) Part 5の復習					EL 英単語中級U105~U108 テスト27 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング・リーディング問題演習	Unit 12 Officeでの会話 つなぎ語・文選択					EL 英単語中級U109~U112 テスト28 音読 問題演習(1時間)			
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験と解説					定期試験に向けて自己学習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「Mastery Drills fo the TOEIC L&R Test All in one advanced (Target 650)」早川幸治著(桐原書店) ISBN:978-4-342-55022-5(生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は発言回数や意欲等を評価します。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業内で紹介します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。					

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで550点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで460点程度修得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。基礎的な文法問題に確実に対処できる。やや長めの文章でも大まかな意味を把握できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成とIPの結果に基づくカウンセリング					EL英単語中級 U057~U060, テスト15 問題演習(1時間)			
2	リスニング・リーディング問題演習	Unit 1 Travel 名詞を学ぶ					EL英単語中級 U061~U064, テスト16 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング・リーディング問題演習	Unit 2 Dining Out 形容詞を学ぶ					EL英単語中級 U065~U068, テスト17 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング・リーディング問題演習	Unit 3 Media 副詞を学ぶ					EL英単語中級 U069~U072, テスト18 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 4 Entertainment 時制を学ぶ					EL英単語中級 U073~U076, テスト19 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング・リーディング問題演習	Unit 5 Purchasing 主語と動詞の一致を学ぶ					EL英単語中級 U077~U080, テスト20 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング・リーディング問題演習	Unit 6 Clients 能動態・受動態を学ぶ					EL英単語中級 U081~U084, テスト21 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング・リーディング問題演習	Unit 7 Recruiting 動名詞・不定詞を学ぶ					EL英単語中級 U085~U088, テスト22 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 8 Personnel 代名詞を学ぶ					EL英単語中級 U089~U092, テスト23 音読 問題演習(1時間)			
10	カウンセリング ミニ模擬試験	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施					EL英単語中級 U093~U096, テスト24 音読 問題演習(1時間)			
11	リスニング・リーディング問題演習	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ					EL英単語中級 U097~U100, テスト25 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング・リーディング問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ					EL英単語中級 U101~U104, テスト26 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ					EL英単語中級 U105~U108, テスト27 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング・リーディング問題演習	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ					EL英単語中級 U109~U112, テスト28 音読 問題演習(1時間)			
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験と解説					定期試験に向けて自己学習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE」 番場 直之、小山 克明著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4090-7(生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は発言回数や意欲等を評価します。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業内で紹介します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。					

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UC22112	研究室	非常勤	
担当者	三浦 藍子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスワ-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで450点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで420点程度修得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。基礎的な文法問題に確実に対処できる。やや長めの文章でも大まかな意味を把握できる。											
授業の進め方											
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成とTOEIC IPの結果に基づくカウンセリング					EL 英単語中級U001~U004, テスト1 音読 問題演習(1時間)				
2	リスニング・リーディング問題演習	Unit 1 Travel 名詞を学ぶ					EL 英単語中級U005~U008, テスト2 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング問題演習	Unit 2 Dining Out 形容詞を学ぶ					EL 英単語中級U009~U012, テスト3 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング問題演習	Unit 3 Media 副詞を学ぶ					EL 英単語中級U013~U016, テスト4 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 4 Entertainment 時制を学ぶ					EL 英単語中級U017~U020, テスト5 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング問題演習	Unit 5 Purchasing 主語と動詞の一致を学ぶ					EL 英単語中級U021~U024, テスト6 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング問題演習	Unit 6 Clients 能動態・受動態を学ぶ					EL 英単語中級U025~U028, テスト7 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング問題演習	Unit 7 Recruiting 動名詞・不定詞を学ぶ					EL 英単語中級U029~U032, テスト8 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 8 Personnel 代名詞を学ぶ					EL 英単語中級U033~U036, テスト9 音読 問題演習(1時間)				
10	カウンセリング ミニ模擬試験	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施					EL 英単語中級U037~U040, テスト10 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング問題演習	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ					EL 英単語中級U041~U044, テスト11 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ					EL 英単語中級U045~U048, テスト12 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ					EL 英単語中級U049~U052, テスト13 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング問題演習	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ					EL 英単語中級U053~U056, テスト14 音読 問題演習(1時間)				
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験と解説					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE」溝口 優美子 柳田 真知子著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4089-1 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	山内 志野		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで420点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで390点程度修得できる。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。基礎的な文法問題に確実に対処できる。やや長めの文章でも大まかな意味を把握できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成とTOEIC模試の結果に基づくカウンセリング					EL 英単語中級U001~U004, テスト1 音読 問題演習(1時間)			
2	リスニング・リーディング問題演習	Unit 1 Travel 名詞を学ぶ					EL 英単語中級U005~U008, テスト2 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング・リーディング問題演習	Unit 2 Dining Out 形容詞を学ぶ					EL 英単語中級U009~U012, テスト3 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング・リーディング問題演習	Unit 3 Media 副詞を学ぶ					EL 英単語中級U013~U016, テスト4 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 4 Entertainment 時制を学ぶ					EL 英単語中級U017~U020, テスト5 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング・リーディング問題演習	Unit 5 Purchasing 主語と動詞の一致を学ぶ					EL 英単語中級U021~U024, テスト6 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング・リーディング問題演習	Unit 6 Clients 能動態・受動態を学ぶ					EL 英単語中級U025~U028, テスト7 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング・リーディング問題演習	Unit 7 Recruiting 動名詞・不定詞を学ぶ					EL 英単語中級U029~U032, テスト8 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 8 Personnel 代名詞を学ぶ					EL 英単語中級U033~U036, テスト9 音読 問題演習(1時間)			
10	カウンセリング ミニ模擬試験	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施					EL 英単語中級U037~U040, テスト10 音読 問題演習(1時間)			
11	リスニング・リーディング問題演習	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ					EL 英単語中級U041~U044, テスト11 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング・リーディング問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ					EL 英単語中級U045~U048, テスト12 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング・リーディング問題演習 小テスト	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ					EL 英単語中級U049~U052, テスト13 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング・リーディング問題演習	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ					EL 英単語中級U053~U056, テスト14 音読 問題演習(1時間)			
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験と解説					定期試験に向けて自己学習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE」溝口 優美子 柳田 真知子著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4089-1(生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は発言回数や意欲等を評価します。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業内で紹介します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれかが必要です。					



科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで400点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで360点程度修得できる。 リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要をおおまかに把握できる。基礎的な文法問題にある程度対処できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成と模試の結果に基づくカウンセリング				Eラーニング(EL) 500点コース U001,U002 Stage3 英単語初級 U029~U030 (1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 1 オフィスで 自動詞と他動詞				EL U003,U004 Stage3 英単語初級 U031~U032 テスト8 音読 問題 演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 買い物 形容詞・副詞・前置詞				EL U005,U006 Stage3 英単語初級 U033~U034 音読 問題演習 (1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 食事 名詞と冠詞				EL U007,U008 Stage3 英単語初級 U035~U036 テスト9 音読 問題 演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 4 観光 進行形				EL U009,U010 Stage3 英単語初級 U037~U038 音読 問題演習(1時 間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 5 宣伝・広告 完了形				EL U011,U012 Stage3 英単語初級 U039~U040 テスト10 音読 問 題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 数字 不定詞				EL U013,U014 Stage3 英単語初級 U041~U042 音読 問題演習 (1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 日常生活 動名詞				EL U015,U016 Stage3 英単語初級 U043~U044 テスト11 音読 問 題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 8 エンターテイメント 関係代名詞と関係副詞				EL U017,U018 Stage3 英単語初級 U045~U046 音読 問題演習(1時 間)				
10	カウンセリング ミニ模擬試験	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施				EL U019,U020 Stage3 英単語初級 U047~U048 テスト12 音読 問 題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ				EL U021,U022 Stage3 英単語初 級 U049~U050 音読 問題演習 (1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ				EL U023,U024 Stage3 英単語初級 U051~U052 テスト14 音読 問 題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ				EL U025,U026 Stage3 英単語初級 U053~U054 音読 問題演習 (1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ				EL U027,U028 Stage3 英単語初級 U055~U056 テスト14 音読 問 題演習(1時間)				
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験と解説				定期試験に向けて自己学習(4時 間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 350」田辺 正美/湯本 久美子 /Geoffrey Tozer/George W. Pifer著(センゲージ・ラーニング) ISBN:978-4-86312-257-4(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は授業中の発言回数や意欲等を評 価します。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、難し い応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解 し、積極的に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそ を理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程 度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解 ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講 経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれ かが必要です。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。TOEIC L&Rで350点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで330点程度修得できる。 リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要をおおまかに把握できる。基礎的な文法問題にある程度対処できる。										
授業の進め方										
文法演習やTOEIC 問題に取り組み、文法力とリスニング力の向上を目指します。スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。カウンセリングを行い弱点克服や学習方法について個別に計画します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	学習計画の作成とカウンセリング	学習計画の作成と模試の結果に基づくカウンセリング				Eラーニング(EL) 500点コース U001,U002 Stage3 英単語初級 U029~U030 (1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 1 オフィスで 自動詞と他動詞				EL U003,U004 Stage3 英単語初級 U031~U032 テスト8 音読 問題 演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 2 買い物 形容詞・副詞・前置詞				EL U005,U006 Stage3 英単語初級 U033~U034 音読 問題演習 (1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 3 食事 名詞と冠詞				EL U007,U008 Stage3 英単語初級 U035~U036 テスト9 音読 問題 演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 4 観光 進行形				EL U009,U010 Stage3 英単語初級 U037~U038 音読 問題演習(1時 間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 5 宣伝・広告 完了形				EL U011,U012 Stage3 英単語初級 U039~U040 テスト10 音読 問 題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 6 数字 不定詞				EL U013,U014 Stage3 英単語初級 U041~U042 音読 問題演習 (1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 7 日常生活 動名詞				EL U015,U016 Stage3 英単語初級 U043~U044 テスト11 音読 問 題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 8 エンターテイメント 関係代名詞と関係副詞				EL U017,U018 Stage3 英単語初級 U045~U046 音読 問題演習(1時 間)				
10	カウンセリング ミニ模擬試験	11月28日の模試の結果を元にカウンセリング、個別アドバイス カウンセリングの間ミニ模擬試験を実施				EL U019,U020 Stage3 英単語初級 U047~U048 テスト12 音読 問 題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 9 Advertising 比較を学ぶ				EL U021,U022 Stage3 英単語初 級 U049~U050 音読 問題演習 (1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 10 Meetings 前置詞を学ぶ				EL U023,U024 Stage3 英単語初級 U051~U052 テスト14 音読 問 題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習 小テスト	Unit 11 Finance 接続詞を学ぶ				EL U025,U026 Stage3 英単語初級 U053~U054 音読 問題演習 (1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit 12 Offices 前置詞と接続詞の違いを学ぶ				EL U027,U028 Stage3 英単語初級 U055~U056 テスト14 音読 問 題演習(1時間)				
15	ミニ模擬試験	ミニ模擬試験と解説				定期試験に向けて自己学習(4時 間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 350」田辺 正美/湯本 久美子 /Geoffrey Tozer/George W. Pifer著(センゲージ・ラーニング) ISBN:978-4-86312-257-4(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。受講態度は授業中の発言回数や意欲等を評 価します。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、難し い応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解 し、積極的に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそ を理解し、与えられた課題に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程 度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解 ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講 経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレットのいずれ かが必要です。						

科目名	ICTと情報倫理		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL12201	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子・國府田 祐子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
インターネット利用が日常化し、メディアの特性や価値を理解することなく情報の受発信を行うことにより、著作権侵害、個人情報の漏洩、不正アクセス、ネット詐欺などで、意図せずに法令に違反するなどの例があります。このような情報化社会に対応できる情報活用能力を養成するため、情報モラルに関する教育、課題解決に必要な情報を探索するための図書館利用法・文献検索、情報のアウトプットに関するレポート・論文の書き方等を扱います。										
学修到達目標										
情報化社会の現状を理解し、情報セキュリティの重要性や情報倫理(情報モラル)についての知識を修得している。データベースやインターネットを活用し、必要な情報を検索・探索することができる。文献を正しく利用し、自身の論文作成に情報活用ができる。										
授業の進め方										
各回のテーマに応じて、授業教材(動画教材含む)・事前事後学修指示をポータルサイト等を通じて双方向型で行います。到達目標ごとの確認テストやレポート作成、ディスカッション、グループワークも取り入れます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスと学内ICT環境	この科目のねらい、学修到達目標を解説します。また、松本大学のICT環境とその利用方法についても説明します。				学生便覧および新入生オリエンテーション資料を事前に読む(4時間)				
2	情報セキュリティとさまざまな脅威	インターネットの様々な脅威について知識を深め、被害にあわないための対策について学びます。				事前チェックシートに必要な事項を記入して持参する(4時間)				
3	情報倫理とネット利用の心得	安全・快適なネット利用のルール・マナーを知りましょう。また、知らなかったでは済まされない法令などについても学びます。				情報倫理に関する事前課題に取り組み、発表準備を行う(4時間)				
4	メディア・リテラシーの必要性	大量のデジタルデータが溢れる時代。自分にとって必要な情報を探し出す力、選別する力を身につけましょう。				メディア・リテラシーに関する事前課題に取り組み、発表準備を行う(4時間)				
5	ソーシャルメディアとどう付き合うか	新しいコミュニケーション空間であるソーシャルメディアのメリットとデメリットについて考えましょう。				ソーシャルメディアへに関する事前課題に取り組み、発表準備を行う(4時間)				
6	知的財産権およびコンテンツの著作権	情報の持つ経済価値が高まっています。そこで著作権を中心に自分の権利、他人の権利について学びましょう。				知的財産権に関する事前課題に取り組み、発表準備を行う(4時間)				
7	個人情報やプライバシーの漏洩	ネット上のビッグ・データの活用と個人情報の漏洩リスクについて考えましょう。				個人情報に関する事前課題に取り組み、発表準備を行う(4時間)				
8	情報を伝える基本的な型	レポート・論文の書き方に通底する基本的な構成を知り、文章を書きます。				テキストを事前に読み、重要事項にマークをしておく。(4時間)				
9	情報を伝える基本的な型	レポート・論文の書き方に通底する基本的な構成を踏まえ、各部分の役割と働きを知り、文章を書きます。				課題提出の下準備をする。(4時間)				
10	情報を伝える基本的な型	レポート・論文の書き方に通底する各部分の役割と働きを知り、テーマに沿って文章を書きます。				課題を執筆して提出する。(4時間)				
11	図書館の活用法	図書館には膨大な数の資料があります。その中から自分が必要としている情報にいち早くたどり着く方法について学びます。				事前課題で、大学図書館で本を1冊借り書誌情報を書き出す。借りた本は11回授業に持参。(4時間)				
12	情報の正確な伝え方	情報を正確に伝えるには守るべき作法があります。倫理的な視点から学び、文章を書きます。				テキストを事前に読み、ふせん等でまとめる。(4時間)(4時間)				
13	情報の正確な伝え方	情報を正確に伝えるには守るべき作法があります。それを書き手と読み手の双方の視点から学び、文章を書きます。				テキストを事前に読み、付箋等でまとめる。(4時間)				
14	情報の正確な伝え方	情報を正確に伝えるには守るべき作法があります。書き手と読み手の双方の視点から学び、テーマに沿って文章を書きます。				これまでの課題を踏まえ試験に向けて準備する。(4時間)				
15	電子的な情報源を用いた文献探索法	図書館だけでなく、電子的な情報源を活用することで文献探索の幅は広がります。電子的な情報源を用いた探索法について学びます。				事前課題で、OPACへログインする。Ciniiでゼミ担当教員の論文を検索、書誌情報を書き出す。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「大学での学び方」(株式会社旺文社)(別途、指示します。) 教育学部は入学前課題として利用したテキストです。「わかりやすく伝える技術」池上彰著(講談社現代新書) ISBN:9784062880039(生協で購入してください。)		レポート:20% 課題:10% 定期試験:20% テーマごとに到達度を確認するレポートや課題を課します。第2回~第7回は上記評価とは別に、授業ごとの課題レポートで評価します(割合50%) S:各回の授業内容を超越して理解し、適切な情報活用・表現ができる。 A:各回の授業内容をほぼ理解し、適切な情報活用ができる。 B:各回の授業内容を理解し、大学生として求められる情報活用ができる。 C:各回の授業内容の概要を理解し、大学生として最低限の情報活用ができる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
講義内で適宜、紹介します。		情報社会において真偽が定かでない情報が氾濫しています。この時代に生きて未来を創造する学生の皆さんは、情報に流されないように、どう生きるかしっかりと自己確立しコミュニケーション能力の向上を目指してください。								

科目名	情報処理 (WORD)	学年学期	1年前期	単位数	1	ナパリング	UL12202	研究室	非常勤
担当者	内川 小百合	必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスワ-			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C					
授業概要									
<p>情報処理を学ぶことは、ひとつはコンピュータ・リテラシーを学ぶこと、つまりコンピュータを使いこなしていくことです。文字を入力することは、その基礎です。さまざまな文書をコンピュータで作成し、編集し、そして保存し、また再利用することは、現代社会の中で、必須の技能といえるでしょう。本講義では、ワープロソフトWordを使った正しく速い入力技術の習得、ビジネス文書・図形・表などを作成していくための機能、クラウド上の文書管理やビジネスメールの送り方を学んでいきます。</p>									
学修到達目標									
<p>正しいキータッチを習得し、ワープロソフトWordを使ってビジネス文書・表作成・図形挿入・クリップアートや写真の挿入と編集ができ、日本情報処理検定協会ワープロ検定3級～2級を取得できる力を身につけます。Office365の機能を習得し、ファイルの送受信などビジネスで使えるスキルを身につけます。</p>									
授業の進め方									
<p>演習形式で進めます。特に正確で素早いキータッチの技術を身につけるために、毎回スピードテストを行います。Wordの機能を知り、その機能を使いこなせるように多くの演習をこなしていきます。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	Office365の概要	Office365の機能と操作方法を学びます。Office365でメールを送る手順を学び、テストメールを送受信します。				Office365の操作方法、メール機能について復習する。(1時間)			
2	レポート送信、クラウド機能	レポート送信の手順やマナーについて学び、送信練習をします。クラウド機能について学びます。				レポート送信方法について復習する。(1時間)			
3	キータッチについて	Wordの画面構成について学習します。正しいキータッチについて学び、英語文章の入力を練習します。				テキスト第1講のキータッチ練習、英文入力を練習する。(1時間)			
4	日本語入力基礎	日本語変換モード、IMEパッド、ファンクションキーについて学習します。キータッチ練習・日本語の入力練習を行います。				テキスト第1講のキータッチ練習、日本語入力を練習する。(1時間)			
5	漢字変換について	漢字変換(変換、文節区切り、文字の修正)について学び、短文入力・記号の入力を練習します。				キータッチ練習、テキスト第2講の短文入力を練習する。(1時間)			
6	特殊文字の入力	特殊文字の入力を学びます。アルファベット、カタカナ、特殊文字を含む文章の入力演習を行います。				テキスト第2講の特殊文字入力、第2講、第3講の短文入力を練習する。(1時間)			
7	文書の保存・編集機能	文書の保存、読み込み、再保存について学びます。文字の修正、移動、コピーの方法を学び、日本語および英語文章の入力を練習します。				テキスト第1講～第4講の入力を練習する。(1時間)			
8	文字の書式	文字の書式(フォント・サイズ・ボールド体・イタリック体・下線・囲み・網掛け)について学び、入力練習を行います。				テキスト第5講の練習問題を行う。(1時間)			
9	文字の書式	文字の書式(拡大縮小・下付き文字・上付き文字・取り消し線・影付きなど)について学び、入力練習を行います。				テキスト第5講の練習問題を行う。(1時間)			
10	ページレイアウト	ページ設定と右詰め、中央揃え、インデント、段落番号、箇条書きなどについて学び、ビジネス文書を作成します。				テキスト第6講の文書入力を練習する。(1時間)			
11	表作成	罫線機能、表挿入、線種変更、列幅行高変更、セルの結合と分割、列や行の挿入と削除について学びます。				テキスト第7講の表入力を練習する(1時間)			
12	ビジネス文書	前付けや本文、付記事項のほか時候のあいさつ・敬称のつけ方などを学び、ビジネス文書を作成します。				テキストの検定練習問題を入力し、保存してレポートを提出する。(1時間)			
13	図形描画	図形描画機能および図形の塗りつぶしや線などの編集について学びます。図形機能を使った地図の作成を練習します。				テキスト第9講の練習問題を行う。(1時間)			
14	画像編集	画像の挿入(ワードアート、スマートアート、オンライン画像)について学び、画像の入った文書を作成します。				テキスト第10講の画像を含む文書の入力を練習する。(1時間)			
15	ビジネス文書	会社見学礼状や、内定時の礼状など、学生として出す文書の作成と留意点について学びます。				さまざまな文書を自分の立場で作成してみる。(1時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
<p>「Wordの基礎」内川小百合著(丸の内ハイデ出版)(生協で購入してください。)  「ISBNコードなし」  「日本語ワープロ検定問題模擬問題集」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。)</p>		<p>受講態度：40% 定期試験：60%  受講態度は、授業への参加度(授業への取組、発言等)で評価します。  S：9割以上の理解度+授業への参加度+実技点が100点。  A：8割以上の理解度+授業への参加度+実技点が80点以上。  B：8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が70点以上。  C：8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が60点以上。</p>							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
<p>「逆引き Wordパワーテクニック601+66Tips」西上原裕明著(技術評論社)  ISBN：4774171158,978-4774171</p>		<p>コンピュータの入力技術は本講義でしっかりと身につけてください。講義以外の時間を利用してできるだけキーボードに慣れ、Wordの機能についてよく復習してください。日本語ワープロ検定をぜひ受験しましょう。</p>							

科目名	情報処理 (EXCEL初級)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング	UL12203	研究室	非常勤	
担当者	河西 文子・永田 綾子・花里 育恵		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-				
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)								
			A	B	C						
授業概要											
Microsoft Excelを用いた数値情報の加工・分析は、大学における研究分野のみならず、ビジネスシーンでも幅広く用いられています。身の回りの数値データを的確に処理し、自分に必要な情報を加工する道具としてExcelを使いこなせるようにしていきます。入力や計算式の作り方の基本から、セル参照の種類やよく使う算術・論理関数、グラフ作成、印刷の方法などについて学びます。											
学修到達目標											
日本情報処理技能検定協会が実施している「表計算検定2級」の資格を取得します。または、それと同等の実力を養い、Excelを用いて素早く数値データの集計・加工、グラフ作成ができるようにします。											
授業の進め方											
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。資格取得のためには、作業スピードも重要な要件となるため、時間外にも繰り返し操作練習が必要です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス 基本操作と計算式	授業の進め方、評価方法について説明し、確認します。 Excelのデータ入力の基本、演算記号を使った計算、書式設定について学習します。(表計算検定4級レベル)					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
2	IF関数と端数処理	IF関数や端数処理を行うROUND系関数について学習します。 (表計算検定3級レベル)					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
3	セルの相対参照・絶対参照	セルの参照方式(相対参照・絶対参照)の違いについて学習します。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
4	判断文の処理(2分岐と3分岐)	IF関数による条件判断、IF関数のネストや順位付け関数について学習します。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
5	表計算検定3級レベルのまとめ	これまで学習してきた表計算検定3級のまとめの回です。次回から2級の内容となるため、その準備学習も行います。					3級レベルの確認課題を配布するので、次回までに提出できるように準備しておく。(2時間)				
6	表検索とセル証明・グラフ作成	Vlookup関数を用いた表検索やセル証明、グラフ作成について学習します。(表計算2級レベル)					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
7	高度なグラフ作成	グラフ作成方法(特に円グラフ)とデータラベル、凡例の設定方法について学習します。					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
8	論理演算子を使った判定	論理関数AND関数、OR関数を理解し、IF関数と組み合わせた複雑な処理について学習します。					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
9	論理演算・平均との比較	論理関数AND関数、OR関数の復習と、平均との比較の方法を学習します。					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
10	論理演算子を使った判定	論理関数AND関数が2回登場するIF関数と組み合わせた複雑な処理について学習します。					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
11	2分岐と端数処理の組み合わせ	IF関数と端数処理を組み合わせた処理2パターンについて学習します。					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
12	文章による評価の指示	評価の方法が文章によって指示されるパターンについて学習します。 IF関数による2分岐に、AND関数、OR関数を組み合わせるパターンです。					指定された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
13	表計算検定2級対策	過去問題を使って規定時間内に解答できるよう練習します。					2級レベルの確認課題を配布するので、次回までに提出できるように準備しておく。(2時間)				
14	表計算検定2級対策	自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるよう練習します。					時間を計りながら課題を解き、次の授業で提出する。(1時間)				
15	表計算検定2級対策	時間内に解答を行うためのポイントや試験の注意事項を説明します。					時間を計りながら課題を解き、次の授業で提出する。(1時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準								
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算2・準2級編」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。)			課題:20% 定期試験:80% S:課題に誠実に取り組むとともに、検定において上位級を取得した。 A:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において8割程度の技能が認められる。 B:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において7割程度の技能が認められる。 C:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において6割程度の技能が認められる。								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「情報処理技能検定試験・表計算検定対策問題集(過去問題集)」日本情報処理技能検定協会編			収集した数値データや膨大な情報をいかに正確に効率よく取り扱えるかで、今後の問題解決のスピードが大きく変わります。ぜひともExcel操作に精通してほしいと思います。								

科目名	情報処理 (EXCEL上級)		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	UL22204	研究室	非常勤	
担当者	松澤 みわ子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
Microsoft Excelの本格的な使い方を身につけ、研究・調査やビジネスシーンで実際に活用できるようにしましょう。身の回りに溢れたビッグデータの集計、解析にExcelは欠かせない道具です。「情報処理」では登場しなかった文字列関数や特殊関数、データベース関数、並べ替え(ソート)や抽出(フィルター)についても学びます。											
学修到達目標											
日本情報処理検定協会が実施している「表計算検定1級」の資格を取得する。または、それと同等の実力を養い、Excelを用いて複雑な条件を指定しながら、数値データの集計・加工ができる。											
授業の進め方											
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。資格取得のためには、作業スピードがかなりのウエイトを占めます。時間外にも繰り返し操作練習が必要です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス 基本操作の復習	授業の進め方、評価方法について説明し、確認します。 Excel操作の確認と表計算3級~2級レベルの復習を行います。					2級レベルに不安がある場合は、同じ問題を何度も繰り返し練習する。(2時間)				
2	多重判断文の復習	2級レベルのIF関数とAND関数を組み合わせた多重判断の復習を行います。また新しくIF関数とVLOOKUP関数のネストについて学びます。					2級レベルに不安がある場合は、同じ問題を何度も繰り返し練習する。(2時間)				
3	データベース関数	表全体から指定した条件に一致するデータだけを計算対象とするデータベース関数について学びます。セルの絶対参照についても復習します。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
4	データベース関数	DSUM関数、DAVERAGE関数などの具体的なデータベース関数の活用方法を学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
5	データベース関数	DMAX関数、DMIN関数、DCOUNT関数などの具体的なデータベース関数の活用方法を学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
6	データベース関数	様々な場面で利用できるデータベース関数ですが、集計表の形式以外に文章で条件が指定された場合の使い方について学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
7	VLOOKUP関数の応用	計算式内でVLOOKUP関数を用いたり、列番号の指定に計算式を用いるなど、VLOOKUP関数の応用的な使い方を学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
8	高度な抽出と並べ替え	膨大なデータから必要なものだけを抽出するフィルター機能や、高度な並べ替え処理について学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
9	文字列関数	セルから特定の文字を取り出すLEFT関数やRIGHT関数について新しく学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
10	文字列を連結する演算子	セル同士を連結して1つの情報として扱う"&"演算子について新しく学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
11	絶対値を求める関数	セルの値が負であってもそこから絶対値を取り出すABS関数について新しく学びます。					配布された類似問題を次回までに復習しておく。(1時間)				
12	表計算検定1級対策	過去問題を使って既定時間内に解答できるように練習します。					1級レベルの確認課題を配布するので、次回までに提出できるように準備しておく。(2時間)				
13	表計算検定1級対策	自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるように練習します。					時間を計りながら課題を解き、次回授業で提出する。(1時間)				
14	表計算検定1級対策	自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるように練習します。					時間を計りながら課題を解き、次回授業で提出する。(1時間)				
15	表計算検定1級対策	時間内に解答を行うためのポイントや試験の注意事項を説明します					時間を計りながら課題を解き、次回授業で提出する。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算1・準1級編」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。)					定期試験：80% 課題：20% S:課題に誠実に取り組むとともに、検定において上位級を取得した。 A:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において8割程度の技能が認められる。 B:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において7割程度の技能が認められる。 C:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において6割程度の技能が認められる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「カラー図解Excel「超」効率化マニュアル」立山 秀利著(講談社) ISBN: 978-4062579995 なし					定期試験は、表計算検定1級と同等の問題を予定しています。「情報処理」を履修する学生は「情報処理」を履修し、2級を取得していることが望ましい。Excelの幅広い分野への応用力を養いましょう。						

科目名	情報処理（パワーポイント）	学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22205	研究室	非常勤	
担当者	松澤 みわ子・永田 綾子	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスワ-				
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）								
	A B C									
授業概要										
プレゼンテーションは、研究発表や教育現場、ビジネスシーンなどで幅広く用いられています。本講義ではプレゼンテーションの特色をよく理解し、企画立案の段階から訴求力の高い視覚資料の作成、内容が伝わる発表技法など、プレゼンテーション全般を扱います。										
学修到達目標										
効果的なプレゼンテーションのために一連の作業（企画立案～視覚資料の作成～発表まで）ができる。また、PowerPointの操作技能としては、デザインに重点を置き、視覚効果を多様化した資料作成ができる。日本情報処理検定協会が実施している「プレゼンテーション作成検定2級」に合格する。										
授業の進め方										
講義は主にパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。使用ソフトは「Microsoft PowerPoint」です。検定試験の日程によっては、授業計画の順番が前後することがあります。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明します。PowerPointの基本的な機能を使用して、プレゼンテーション資料の作成方法を確認します（プレゼンテーション作成検定4級レベル）。					シラバスの内容を事前に確認する。事後は類似問題で復習を行うこと（1時間）			
2	プレゼンの企画立案	プレゼンテーションの初期段階で最も重要な企画立案について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料の企画立案を進める（1時間）			
3	わかりやすいストーリー構成	論理的でわかりやすいストーリー構成の組み立て方や情報収集の手法について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料のストーリー構成を考える（1時間）			
4	レイアウト・デザイン	視覚資料のデザイン決定において重要なことや、テーマの活用方法を学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料のチャート化を進める（1時間）			
5	視覚に訴えるチャート化	目に見えない概念や考え方、手順などを説明する際にチャートを活用する方法について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料のカラー化を進める（1時間）			
6	訴求力を上げるカラー化	カラーの基礎知識や配色の基本テクニック、カラー化によってプレゼン資料の訴求力を上げるためのポイントを学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料のカラー化を進める（1時間）			
7	数値のビジュアル化とイメージ伝達	数値を目的に合わせてビジュアル表現するため、表やグラフの活用方法や具体的なイメージを伝える手段について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料のビジュアル化を進める（1時間）			
8	効果的なアニメーション	アニメーション効果、画面切り替えなど特殊効果の活用方法と、事前に行っておくべきさまざまな準備作業について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料の特殊効果設定を進める（1時間）			
9	プレゼン3級対策	プレゼンテーション作成検定3級の模擬問題を解きながら、PowerPointの操作スピードを向上させます。					類似問題を配布するので、次回までに復習しておく（1時間）			
10	プレゼン3級対策	プレゼンテーション作成検定3級の模擬問題を解きながら、PowerPointの操作スピードを向上させます。					3級レベルの確認課題を配布するので、次回までに提出できるように準備しておく（2時間）			
11	プレゼン2級対策	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、アニメーションや画面切り替えなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めます。					類似問題を配布するので、次回までに復習しておく（1時間）			
12	プレゼン2級対策	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、PowerPointの操作スピードの向上と適切なスライド作成技能を磨きます					類似問題を配布するので、次回までに復習しておく（1時間）			
13	プレゼン2級対策	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、PowerPointの操作スピードの向上と適切なスライド作成技能を磨きます					2級レベルの確認課題を配布するので、次回までに提出できるように準備しておく（2時間）			
14	プレゼン準備とリハーサル	実際にプレゼンする場合、その当日までに必要な準備や配布資料、発表者用ノートの印刷方法について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料の配布資料の準備を進める（1時間）			
15	発表スキルと質疑応答	内容を効果的に相手に伝えるための様々なテクニックや質疑応答の進め方について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン資料課題を完成させ、期限までに提出する（2時間）			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint 2016対応」山崎 紅著（日経BP社） ISBN:9784822297978（生協で購入してください。） 教科書は全員が購入してください。		課題：40% 定期試験：60% S:課題に誠実に取り組むとともに、検定において上位級の取得を行った A:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において8割程度の技能が認められる B:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において7割程度の技能が認められる C:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において6割程度の技能が認められる								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
「プレゼンテーション検定模擬問題集1・2級編」（日本情報処理技能検定協会） 検定受験を予定している方は購入をしてください。		プレゼンテーションとPowerPointの精通することで、円滑なコミュニケーション能力の向上も期待できます。他の授業などでも積極的にプレゼン資料の作成や発表の機会を得るように心がけてください。								

科目名	情報処理 (ホームページ)	学年学期	3年前期	単位数	1	ナパリング	UL32206	研究室	非常勤	
担当者	河西 文子	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-				
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C						
授業概要										
ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアと言えます。本講義では、ホームページ作成における初中級レベルの知識と技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎であるHTML・CSSを学び、さらにホームページ内で用いるWebコンテンツ(画像、ロゴ、アニメーション)の作成についても学びます。										
学修到達目標										
ホームページビルダーを使った一連の作業(サイト作成~Webページやコンテンツ類作成まで)ができる。日本情報処理検定協会が実施している「ホームページ作成検定2級」に合格する。										
授業の進め方										
本講義はコンピュータ教室での実習となります。使用ソフトは「ホームページ・ビルダー」、「Webアートデザイナー」、「Webアニメーター」です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明します。ホームページビルダーを使って初歩的なホームページの作り方を学びます。まずはホームページ作成検定4級レベルの内容を見ていきます。					4級の類似問題を配布するので、復習をしておくこと(1時間)			
2	ホームページビルダー基本操作	ホームページビルダーの基本操作を習得します。この回はホームページ作成検定3級レベルの内容を紹介します。					3級の類似問題を配布するので、復習をしておくこと(1時間)			
3	ページの属性	教科書に従い、トップページの作成、およびページ属性について学びます。また、ホームページ作成検定3級の出題範囲について学習します。					ページの属性に関する復習をしておくこと(1時間)			
4	書式の設定	教科書に従い、さまざまな書式設定やWebで扱うカラーや画像の特徴について学びます。また、ホームページ検定3級の出題範囲について学習します。					書式設定や画像の特長について復習をしておくこと(1時間)			
5	表の作成	教科書に従い、表挿入や表編集の方法を学びます。この回からホームページ検定2級に挑戦します。					表の作成や編集方法について復習をしておくこと(1時間)			
6	リンクの設定	教科書に従い、各ページにリンクを設定する方法を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。					リンク設定の基本について復習をしておくこと(1時間)			
7	リンクの応用	教科書に従い、ラベルリンク、ロールオーバー、イメージマップなど、リンクの応用を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。					リンク設定の応用について復習をしておくこと(1時間)			
8	HP作成検定2級対策	よく出題されるプロパティを含むHP2級の問題の解き方の手順を学習します。					2級の類似問題を配布するので、復習をしておくこと(1時間)			
9	HP作成検定2級対策	ボーダーなどのプロパティを含むHP検定2級の問題の解き方の手順を学習します。					2級の類似問題を配布するので、復習をしておくこと(1時間)			
10	HP作成検定2級対策	ラベルリンクなどを用いた難易度の高いHP検定2級の問題の解き方の手順を学習します。					2級の類似問題を配布するので、復習をしておくこと(1時間)			
11	HP作成検定2級対策	検定模擬を実施し、弱点の抽出を行います。					時間を計りながら課題を解き、次の授業で提出する(1時間)			
12	HP作成検定2級対策	検定模擬を実施し、弱点の抽出を行います。					時間を計りながら課題を解き、次の授業で提出する(1時間)			
13	Webコンテンツの制作	Webアートデザイナーを利用し、写真の加工や合成の方法、タイトルロゴやボタンなど、個人課題で使用する素材を制作していきます。					課題の中で利用するオリジナル素材をWebアートデザイナーを用いて作成する(2時間)			
14	Webコンテンツの制作	Webアニメーターを利用した文字バナー広告など、個人課題で使用するアニメーション素材を制作します。					課題の中で利用するオリジナル素材をWebアニメーターを用いて作成する(2時間)			
15	Webコンテンツの制作	ホームページ「京都物語」に対して、各自で作成したオリジナルの画像コンテンツを配置し、課題を完成させます。HP作成検定2級に関する復習も行う予定です。					Web用の画像コンテンツ課題を期限までに提出する(2時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「よくわかるホームページ・ビルダー19」(FOM出版) ISBN:978-4-86510-207-9(生協で購入してください。)教科書に従って演習を進めていきますので、必ず購入してください。		課題:40% 定期試験:60% S:課題に誠実に取り組むとともに、検定において上位級の取得を行った A:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において8割程度の技能が認められる B:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において7割程度の技能が認められる C:課題に誠実に取り組むとともに、定期試験または検定において6割程度の技能が認められる								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「ホームページ作成検定試験模擬問題集2級編」日本情報処理検定協会編 検定試験を受験する方はできる限り購入してください。		パソコン操作に慣れていることが前提ですが、複雑な操作は多くありませんので誰でも受講可能です。今後、「ホームページ実践」の履修、またはHP作成検定1級取得を目指す人はぜひ履修をしてください。								



科目名	こころと体の健康			学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UL13101	研究室	S-02
担当者	青木 雄次・廣田 直子・中島 節子・矢崎 久			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>大学生を送る上で、また卒業後の社会生活を送る上で、学生自身が自分の心や体について十分な知識を持ち、健康で安全な日常生活を営むことが必要です。そのため、健康日本21の標語にもなっている「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、5にクスリ」のそれぞれに対応して、専門的な視点からその基礎的知識を学び、自らの生活に結びつけて実践し、健康で安全な学生生活が送れることを目的とします。</p>											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活を送るために必要な運動、栄養、休養の必要性について理解し、実践できる。</li> <li>・生活習慣病の発症について理解し、予防策を説明することができる。</li> <li>・安全な生活を送るために必要な知識と技術を説明することができる。</li> </ul>											
授業の進め方											
各専門分野の教員がオムニバス形式で進めます。講義、演習・実習を含めて実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション 健康とは	講義の進め方のオリエンテーションを行います。健康の概念、健康日本21の取り組みについて学びます。健康長寿についてDVDを上映します。					健康の概念について予習復習する。(4時間)				
2	飲酒、喫煙について がんの発症と予防	飲酒、喫煙のからだへの影響について学び、がんなどの病気との関連について学びます。					飲酒、喫煙、がんについて予習復習する。(4時間)				
3	生活習慣に関連する病気	生活習慣と関連の深い高血圧、高脂血症について、疾病の症状や要因、予防方法、治療方法について学びます。					生活習慣病について予習復習する。(4時間)				
4	生活習慣病 とまとめ	糖尿病、肥満など異常の早期発見のための健康診断の必要性や項目について学びます。1~4回のまとめのプリントを配布します。					健康診断や検査について予習復習する。(4時間)				
5	メンタルヘルス	代表的な精神疾患の特徴について学び、それらの対応について学びます。					精神疾患について予習復習する。(4時間)				
6	メンタルヘルス	現代社会の精神的な課題やストレスへの対応などを学び、予防と相談方法について学びます。					メンタルヘルスについて予習復習する。(4時間)				
7	栄養・食生活	栄養についての基礎知識を学び、健康的な食生活について考えます。					栄養・食生活について予習復習する。(4時間)				
8	健康と食生活	食生活と疾病との関連を学び、食事についての現代的な課題について解決策を考えます。					食生活と疾病についてレポートを作成する。(4時間)				
9	健康と食生活 休養	健康的な食生活について考えます。健康づくりのための休養指針について学び、健康づくりのための休養について考えます。					休養について予習、復習する。(4時間)				
10	健康づくりと運動	運動と健康の関連について学びます。					運動と健康との関連について予習復習する。(4時間)				
11	健康づくりと運動の実際	運動不足に起因する生活習慣病を予防するために必要な体力要素について学びます。					体力測定項目について予習復習する。(4時間)				
12	健康づくりと運動の実際	効果的な運動についての課題と対応策を考え、健康づくりのための運動を行います。					健康づくりのための運動について予習復習する。(4時間)				
13	安全と救急法について	安全について考え、けがの予防と応急手当について学びます。救命救急法について学び、演習を行います。					けがの予防と応急手当、救急法について予習復習をする。(4時間)				
14	生と性について	生と性について考えます。性の多様性LGBT、妊娠、出産について学びます。					生と性について予習復習する。(4時間)				
15	感染症と予防について	感染症と感染予防について学びます。					感染症について予習復習する。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
必要な資料をその都度配布します。					定期試験：100% S：授業内容を高度に理解し、自己の健康課題を解決する方法に応用することができる。 A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。 B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。 C：授業内容の60%は理解でき、健康の重要性を説明できる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理 2018」山本真由美著(岐阜新聞社) ISBN: 978-4877972240					大学生生活を健康で安全に送る基礎を学び、実践に結びつけられるように努力してください。この講義は、医師、臨床心理士、管理栄養士、健康運動指導士、保健師等それぞれ実務経験のある教員が担当します。						

科目名	子どもの育ちと教育			学年学期	1年前期	単位数	2	ナパ'リング	UL13102	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b> 子どもの成長発達には連続しています。そのことの理解が十分でないと、子どもの育ちが円滑に進まないことがあります。そこで本授業では、小学校へとつながる幼児期に着目し、その成長発達の特徴及びその時期の子どもの成長発達のために重要である教育の基本を理解することを目的とします。具体的には、映像資料を活用して3歳から5歳までの子どもの成長発達の特徴を考えます。さらに、幼児教育の基本を、映像資料や幼稚園教育要領等を資料として考えます。											
<b>学修到達目標</b> 1. 幼児期の子どもの成長発達の特徴を理解し、説明できる。 2. 幼児期の子どもの育ちのために重要な教育の基本を理解し、説明できる。 3. 子どもの育ちをめぐる今日的課題に興味関心を持ち、その一つについて自分の意見を表明できる。											
<b>授業の進め方</b> 講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、さらに発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方を説明します。					シラバスを読む、幼稚園教育要領解説等を読む。(4時間)				
2	子どもの育ち1	3歳児の成長の様子を映像を通して確認します。					第1回授業で配布した資料の該当箇所を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
3	子どもの育ち2	3歳児の成長とその特徴を説明します。					前時の復習、第1回授業で配布した資料の該当箇所を読む(2時間)。ワークを完成させる。(2時間)				
4	子どもの育ち3	4歳児の成長の様子を映像を通して確認します。					前時の復習、第3回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成させる。(2時間)				
5	子どもの育ち4	4歳児の成長とその特徴を説明します。					前時の復習、第3回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成させる。(2時間)				
6	子どもの育ち5	5歳児の成長の様子を映像を通して確認します。					前時の復習、第5回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成させる。(2時間)				
7	子どもの育ち6	5歳児の成長とその特徴を説明します。					前時の復習、第5回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成させる。(2時間)				
8	ここまでの授業のまとめ	第7回までの授業内容を振り返り、総括します。					第7回までの授業内容を復習する、幼稚園教育要領解説等を再読する。(4時間)				
9	子どもの育ちのために1	子どもの今と子どもの最善の利益について考えます。					第8回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
10	子どもの育ちのために2	養護と教育について説明します。					前時の復習、第9回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
11	子どもの育ちのために3	環境を通して行う教育について説明します。					前時の復習、第10回授業で配布した資料を読む。(4時間)				
12	子どもの育ちのために4	遊びを通して行う教育について説明します。					前時の復習、第11回授業で配布した資料を読む。(4時間)				
13	子どもの育ちのために5	主体的活動の展開について説明します。					前時の復習、第12回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
14	子どもの育ちのために6	子どもの育ちをめぐる今日的課題について説明します。					前時の復習、第13回授業で配布した資料を読む。(4時間)				
15	まとめ	第9回から第14回の授業を振り返り、総括します。また、授業全体のまとめを行います。					これまでの授業の復習をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
必要に応じて資料を配布します。				出席レポート：50% 課題：30% 定期試験：20% 出席レポート(毎時間後の感想・質問)、課題(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内での課題の取り組み)、定期試験を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「幼稚園教育要領解説」文部科学省著(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省著(フレーベル館)				家族や家庭、その中で子どもに対して行われる教育的営みは身近な事柄です。自分の経験と比較しながら聴講して下さい。また、積極的な授業参加を期待しています。受講者数により参加型の授業を取り入れていきます。							

科目名	心理学概論	学年学期	1年前期	単位数	2	ナパリング	UL13103	研究室	A-18
担当者	川島 一夫	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日4限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
心理学は科学であることを中心テーマに、心理学全般について学びます。心理学についてのビデオをみて、その領域についての説明を行います。また、授業の途中での小テストや、課題の本を読みテーマを決めての討論を行います。一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことが授業の目的です。なお、締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。レポートを期日どおりに出すこともこの授業の目的です。									
学修到達目標									
心理学について、幅広い知識を習得し、一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことができる。また、人間関係を含めた社会的な事象について客観的なデータをもとに解釈することができる。									
授業の進め方									
ビデオ心理学への招待(DISCOVERING PSYCHOLOGY)を視聴し、その中で出てくる内容についての講義を行います。また、小テスト、討論も行います。さらに質問に回答すること。レポートは、それぞれ2000文字以上です。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	研究を理解する	研究を理解する Understanding Researchを資料による説明とDVD視聴を行います。				資料を参照して心理学の研究についてレポートする。(4時間)			
2	反応する脳	反応する脳 The Responsive Brain資料による説明とDVD視聴を行います。				宿題の小テストを資料を見て回答する。(4時間)			
3	子供の発達	子供の発達 The Developing Childを資料による説明とDVD視聴を行います。				宿題の小テストを資料を見て回答する。(4時間)			
4	感覚と知覚	感覚と知覚 Sensation and Perceptionを資料による説明とDVD視聴を行います。				「面白いほどよくわかる」前半を読んでレポート 2000文字で書き提出する。(4時間)			
5	学習理論	学習 Learningを資料による説明とDVD視聴を行います。				「面白いほどよくわかる」後半を読んでレポート 2000文字で書き提出する。(4時間)			
6	討論と質問回答 「心理学ってどんなもの」	「面白いほどよくわかる!」心理学の本について討論と質問回答を行います。				「面白いほどよくわかる!」心理学の本 討論の感想文を提出する。(4時間)			
7	記憶と忘却	記憶と忘却 Remembering and Forgettingを資料による説明とDVD視聴を行います。				宿題の小テストを資料を見て回答する。(4時間)			
8	判断と意思決定	判断と意思決定 Judgment and Decision Makingを資料による説明とDVD視聴を行います。				アリエー教授の「行動経済学」前半を読んでレポートを作成する。(4時間)			
9	動機づけと情動	動機づけと情動 Motivation and Emotionを資料による説明とDVD視聴を行います。				アリエー教授の「行動経済学」後半を読んでレポートを作成する。(4時間)			
10	討論と質問回答 アリエー教授の「行動経済学」	アリエー教授の「行動経済学」について討論と質問回答を行います。				アリエー教授の「行動経済学」討論の感想文を提出する。(4時間)			
11	認知過程	認知過程 Cognitiveを資料による説明とDVD視聴を行います。				宿題の小テストを資料を見て回答する。(4時間)			
12	成熟と老化	成熟と老化 Maturing and Agingを資料による説明とDVD視聴を行います。				身体が生み出すクリエイティブ前半を読んでレポートを作成する。(4時間)			
13	状況の力	状況の力 The Power of the Situationを資料による説明とDVD視聴を行います。				身体が生み出すクリエイティブ後半までを読んでレポートを作成する。(4時間)			
14	討論と質問回答「脳科学より心理学」	身体が生み出すクリエイティブの討論と質問回答を行います。				「脳はなにかと言い訳する」討論の感想文を提出する。(4時間)			
15	心理療法	心理療法 Psychotherapyを資料による説明とDVD視聴を行います。				宿題の小テストを資料を見て回答する。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準				
「面白いほどよくわかる不思議な心理学」ライフ・エキスパート著(河出書房新社) ISBN:978-4309498300(生協で購入してください。) 「アリエー教授の「行動経済学」入門(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)」「ダン・アリエー著(早川書房) ISBN:978-4150505011(生協で購入してください。) 「身体が生み出すクリエイティブ 新書」諏訪正樹著(ちくま新書) ISBN:978-4480071248(生協で購入してください。) レポート課題対象となる新書・文庫3冊は別途指示する。					小テスト:70% レポート:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。				
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)				
参考図書は、授業時に紹介します。					締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。				

科目名	哲学			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	UL23104	研究室	非常勤
担当者	護山 真也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
私たちの常識的な世界の見方に対して、一歩ひいたところから、その価値を疑い、批判的な考察をくわえることで、その真価を見極めていくことが「哲学」の実践です。そのような哲学は、古今東西、さまざまな場所、さまざまな時代で行われてきました。この授業では、西洋哲学のみならず、東洋哲学にも目を配り、それらに共通するテーマを設定し、それに対する異なるアプローチの仕方を学んでいきます。											
学修到達目標											
哲学・倫理学・宗教学で問われる諸問題を理解し、それらに対して批判的に考えることのできる力を身につける。											
授業の進め方											
プリントを用いて講義形式で進めます。映像資料を利用する回もあります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	哲学への招待	授業全体の見取り図を示し、授業のガイダンスを行います。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
2	プラトンと愛の哲学	プラトンの『饗宴』を素材として、ギリシア哲学の特質について学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
3	キリスト教の愛とフロムの『愛するということ』	キリスト教のアガペーとフロムが説く愛の技法について学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
4	アリストテレスと幸福の哲学	アリストテレスの思想と幸福についての考え方を学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
5	デカルトが見出した自己	デカルトの思想とコギトの哲学について学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
6	観念論の系譜	ロックの観念論とパークリの観念論について学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
7	マトリックスの世界	観念論の世界を描いた映画『マトリックス』を通して観念論の復習をします。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
8	カントとコペルニクスの転回	カントの認識論についてコペルニクスの転回を中心に学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
9	ニーチェのニヒリズムの思想	ニーチェのニヒリズムの思想とデカルト以来の哲学への批判を学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
10	現代哲学の課題 自己	現代の哲学的課題として、人格の同一性(アイデンティティ)の問題を学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
11	現代哲学の課題 自由	現代の哲学的課題として、決定論と自由意志の問題を学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
12	現代哲学の課題 心のありか	現代の哲学的課題として、AIに心は宿るのか、心の謎について学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
13	ブッダの教えたこと	仏教思想の基礎をブッダの言葉から学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
14	『般若心経』と空の思想	大乘仏教の空の思想を『般若心経』から学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
15	日本哲学の可能性	西田幾多郎の思想を中心に日本哲学の可能性を学びます。					授業で配付するプリントを読み直す。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
授業中にプリントを配布します。					定期試験:90% 受講態度:10% 定期試験で授業の理解度を問います。試験の論述では、(1)与えられた哲学的問題を正しく理解し、(2)自らの考えを、(3)論理的に、(4)独自の考察を加えて、表現することができる。(1)のみはC、(2)まででB、(3)まででA、すべて満たせばS評価とします。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
『愛するということ』エーリッヒ・フロム著(紀伊国屋書店) 『しぶん・この不思議な存在』鷲田清一著(講談社) 『観念論の教室』富田泰彦著(筑摩書房)					今学期の最後の13-15の3回分は補講で開講します。授業計画については初回で説明します。						

科目名	生命倫理		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	UL23105	研究室	C-7
担当者	福島 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
生命をめぐる倫理(道徳・規範)的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対処できる思考力を養います。生命倫理学の歴史的背景と今日の課題について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。1960年代以降、医療領域において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ考察します。										
学修到達目標										
生命科学、医療領域における具体的な倫理的問題に、一個人として対峙し、個別の倫理的判断を導き出すことができる。										
授業の進め方										
授業内容に応じてグループ報告(プレゼンテーション)、グループ討論(ディスカッション)を実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	生命倫理学の成立背景	生命倫理学の歴史と現状について概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
2	健康と病気	健康と病気、正常と異常、それぞれの概念について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
3	治療と人体実験	医療の目的と人体実験の歴史について学びます。					事前配布資料を読んで下調べをする。(4時間)			
4	Quality of LifeとSanctity of Life	Quality of Life(生命の質)とSanctity of Life(生命の神聖性)について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
5	生殖技術	生殖技術の発展とそれに伴う倫理的問題について学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
6	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の関係について、現状と課題について学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
7	安楽死と尊厳死	安楽死・尊厳死と治療停止の現状と課題について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
8	ケアの倫理	医療福祉分野におけるケアの倫理について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
9	医師 患者関係	医師-患者関係の変容と今日的課題について学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
10	インフォームド・コンセントと情報開示	インフォームド・コンセントの歴史と医療領域における情報開示について概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
11	医療資源の配分	医療資源の配分における公正さと正義について考えます。					事前配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
12	パーソン論	パーソン(人格)とは何かについて学びます。					配布資料の要点をまとめる。(4時間)			
13	老人介護と世代間倫理	少子高齢化と介護問題について概説します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
14	生命倫理学の比較考察	諸外国と日本における生命倫理学の比較をします。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
15	まとめ	講義全体のまとめ。					総復習。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
学生が選択するグループディスカッションのテーマによって、使用テキストは異なりますので個別に指定します。					受講態度:20% 出席レポート:20% レポート:30% 受講態度にはグループディスカッションへの参加状況が含まれます。 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「生命倫理とは何か」市野川容孝編(平凡社) 「生命倫理学を学ぶ人のために」加藤尚武・加茂直樹編(世界思想社)					ひとつひとつの事例について、学生自身考えることが要求されます。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。					

科目名	対人関係の心理学		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバ`リング	UL33106	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日4限、木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
対人行動や集団とのかかわりかたなどを、個人の特性や環境の面から考察し、人との関係で悩んだり、喜びを感じたりする心理的なメカニズムや、人の行動の生成について学びます。講義を中心に進めますが、グループワークやグループラーニングを取り入れ、演習形式での学びも体験します。										
学修到達目標										
対人行動を心理学的に理解することは、知識として自己と他者を理解することになります。実際に演習を行いながら、自己理解や他者理解の促進、人との関係のあり方の理解がどれほど促進されたかを客観的に理解していることが到達目標です。										
授業の進め方										
1回から9回までは講義を中心に対人関係を心理学的に理解します。10回以降は実生活や人生で出会うであろう問題に対処するために、スキルを身につけることを目標にして、体験的な演習や討論を取り入れます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	自己と対人行動(授業ガイドランスを含む)	人は人の中に生まれ、人の中で育ち成長します。多くの人間関係の中で心理や行動に影響を与えているのが対人行動です。また自分の対人行動のあり方が人間関係を築いていることを事例を通して理解します。				シラバスを熟読し、自分の対人行動についての特徴を整理する。(4時間)				
2	自己開示とコミュニケーション	自分を語ることで得意な人と苦手な人がいる。自己開示の方法や心理学実験などを通して自己開示の理論を学び、自己開示(自己紹介)の演習を通して、自分の対人行動の特徴を理解します。				配布の資料を熟読しまとめるとともに、時間内で自己紹介する訓練を行う。(4時間)				
3	自己評価と対人行動	他者への評価や他者からの評価も含め、自己評価の高低は対人行動に大きな影響をもたらすことを、実験事例をとおして学びます。また自己評価のコントロールが人付き合いを変えてしまうことを学びます。				配布資料を熟読しまとめるとともに、質問項目を考える。前回の自己紹介の練習をする。(4時間)				
4	対人魅力と好意	好意の感じ方によって人との付き合い方は変わります。外見の魅力なども含めて互いの好意の持ち方と対人行動の関係を学びます。				配布の資料を熟読しまとめるとともに、課題「魅力的な人」をレポートする。(4時間)				
5	援助の心理と対人行動	援助行動は個人的特性だけではなく、周囲の人の様子や状況によって変化します。また自分に利益をもたらすという理由から、自己犠牲を払うという援助行動もあることを学びます。				配布の資料を熟読しまとめるとともに、対人援助の体験をレポートする。(4時間)				
6	攻撃的な対人行動	いじめや暴力、体罰などは大きな社会問題になっています。しかし世の中からなくなることはありません。人はなぜ攻撃するのかを、4つの心理的メカニズムから学びます。				配布の資料を熟読しまとめるとともに、自分や人の攻撃行動を観察しレポートする。(4時間)				
7	同調的な対人行動	自分の考え(認知)と行動が不協和状態のとき、あるいは自分の行動と周囲の人の行動とが違つときに、その矛盾を解消しようとして起こる心理的メカニズムを学びます。				配布の資料を熟読しまとめるとともに、自分(他者)の同調行動をレポートする。(4時間)				
8	リーダーシップと対人行動	PM理論を中心にリーダーのあり方を理解し、効果的なリーダーシップの発揮の仕方と集団の特性について、具体的な事例をもとに学びます。				配布資料を熟読しまとめるとともに、自分のリーダーシップについて分析しレポートする。(4時間)				
9	社会的ジレンマ	人との関わりの中でジレンマに陥ることはよくある。個人の利益追求が全体の不利益になるような事例では、どのように行動すればよいのだろうか。対人行動を円滑にするための方法を学びます。				配布の資料を熟読しまとめるとともに、ジレンマに陥った体験を考察しレポートする。(4時間)				
10	本音で交流できる対人関係づくり	安心できる不安のない集団に属したいと願いつつも、集団の中では様々な葛藤や困難が起きる。構成的グループエンカウンター(SGE)を体験してよりよい対人関係の築き方を学ぶ。				SGEの配布資料を熟読する。事後はエンカウンター体験をレポートする。(4時間)				
11	本音で交流できる対人関係づくり	構成的グループエンカウンター理論と方法を学び、実際に体験と照らし合わせて自己理解の促進と、本音の交流のあり方を学びます。				理論的背景を実際の体験と照らし合わせて考察し、レポートする。(4時間)				
12	不安や緊張のない集団づくり	不安や緊張を感じない、安心できる集団を築くための理論と方法を対人関係ゲーム(SIG)を、実際に体験しながら学びます。				SIGの配布資料を熟読する。事後は体験したことをレポートする。(4時間)				
13	不安や緊張のない集団づくり	対人関係ゲームの「交流」「協力」「折り合い」のゲームを中心に実際に行い、自己を振り返りながら、人との付き合い方を学びます。				第12回と第13回をまとめて体験したことをレポートする。(4時間)				
14	さわやかな自己主張	相手を尊重しながら、自分の言いたいことをしっかりと主張できる「アサーション」の理論と方法を学び、対人関係の中での自分の特性を理解します。				アサーションの配布資料を熟読し、自分のアサーションの特性を分析する。(4時間)				
15	さわやかな自己主張	アサーショントレーニングの方法を身につけ、実際に体験することで相手も自分も大切に自己表現の大切さを学びます。				アサーショントレーニングの体験をレポートする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
授業中に適宜配布する。				定期試験：70% 受講態度：30% S：知識的理解に優れ、体験から教育分析(自己分析)ができる。 A：知識的理解がおおむね可能で、積極的に体験参加ができ、レポートが充実している。 B：知識的理解がおおむね可能で、体験内容をレポートできる。 C：学んだ知識をもとにして、積極的にSGEやSIGに参加できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識」(新星出版社) 「イラストレート心理学入門」斎藤勇著(誠信書房)				講義のみならず、参加体験型のグループワークを含んだ内容です。人と関わること(対人関係)を知識と体験から学びます。						

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志・齋藤 茂・伊藤 真之助	必修選択	必修	科目種別	実技	アイスア-	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
実施種目は集团的スポーツの特性を踏まえ「ハンドボール」「ソフトバレーボール」「ソフトボール」の3種目とします。全体を30名前後の3クラスに編成し、クラス毎に種目をローテーションしながら、各種目の基本技術と簡易なルールによるゲームを通して、種目の特性を理解し、楽しいスポーツの運営方法について学びます。運動技術の獲得の仕方や指導方法を理解することで、スポーツを楽しむために必要な要素について学修していき、スポーツが人間にとってどのような存在であるべきかを実践します。									
学修到達目標									
各種集团的スポーツの実践を通して、スポーツの本質的な楽しさや人間にとっての価値を理解し、小学校の教員として生涯にわたってスポーツに親しむ資質と能力を育てるスポーツの在り方について、自身の考えを持つことができる。									
授業の進め方									
ゲームを通して、各回のテーマを焦点化し、ベースボール型のおもしろさを知ること、生涯にわたってスポーツに親しむ資質と能力を育てていきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	基本技術の習得	ハンドボール(1) ハンドボールの基本技術 各種パス、シュート					基本的なルールを理解し、各種パス・シュート方法を予習する(1時間)		
2	攻撃の方法	ハンドボール(2) ハンドボールの攻撃の基本的な戦術					ポジションの役割を理解する(1時間)		
3	守備の方法	ハンドボール(3) ハンドボールの守備の基本的な戦術					守備の方法を理解する(1時間)		
4	ゲーム	ハンドボール(4) ハンドボールの易しいルールによるゲーム					ポジション別の基本的な攻撃、守備を復習し、ゲームで実践できるようにする(1時間)		
5	ゲーム	ハンドボール(5) ハンドボールのやや複雑なルールによるゲーム					攻守の入れ替わりが素早くできるように、総合的に理解を深める(1時間)		
6	基本技術の習得(パス)	ソフトバレーボール(1) ソフトバレーボールの基本技術 各種パス					基本的なルールを理解し、各種パスの方法を予習する(1時間)		
7	基本技術の習得(サーブ・アタック)	ソフトバレーボール(2) ソフトバレーボールの基本技術 サーブ・アタック					基本的なルールを理解し、サーブ・アタックの方法を予習する(1時間)		
8	基本的な戦略	ソフトバレーボール(3) ソフトバレーボールの基本的な戦術					戦術について理解する(1時間)		
9	ゲーム	ソフトバレーボール(4) ソフトバレーボールの易しいルールによるゲーム					誰でも参加できるゲームの方法を理解する(1時間)		
10	ゲーム	ソフトバレーボール(5) ソフトバレーボールのやや複雑なルールによるゲーム					より工夫したゲームの方法を理解する(1時間)		
11	守備の方法	ソフトボール(1) ソフトボールの守備の基本技術					守備の方法を理解する(1時間)		
12	攻撃の方法	ソフトボール(2) ソフトボールの攻撃の基本技術					攻撃の方法を理解する(1時間)		
13	戦略・戦術・作戦	ソフトボール(3) ソフトボールの基本的な戦術					戦略・戦術・作戦の違いを理解する(1時間)		
14	ゲーム	ソフトボール(4) ソフトボールの易しいルールによるゲーム					誰でも参加できるゲームの方法を理解する(1時間)		
15	ゲーム	ソフトボール(5) ソフトボールのやや複雑なルールによるゲーム					より工夫したゲームの方法を理解する(1時間)		
テキスト		成績評価の方法・基準							
学習内容に応じてプリントを配布		実技:60% レポート:40% S:実技が高い完成度ですべて実施でき、分かりやすく納得性の高いレポートが書ける。A:実技がほぼ実施でき、分かりやすいレポートが書ける。B:実技が概ね実施でき、レポートに誠実に取り組める。C:実技が実施でき、レポートに取り組める。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
学習内容に応じてプリントを配布		ゴール(侵入)型、ネット型、ベースボール型のボールゲームの構造はどうなっているのか、競争課題はなにかを考えてください。							

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）	学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL13108	研究室	A-09	
担当者	濱田 敦志・田邊 愛子・伊藤 真之助	必修選択	必修	科目種別	実技	オイスア-	火曜日2限、金曜日3限			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業における実施種目は個人的スポーツの特性を踏まえ「ニュースポーツ」「トレーニング実技」「バドミントン」の3種目とします。全体を30名前後の3クラスに編成し、クラス毎に種目をローテーションしながら、各種目の基本技術や簡易なルールによるゲームを通して、それぞれの種目の特性を理解し、楽しいスポーツの運営方法について学びます。学生が主体となって学修を展開していくことで、スポーツを楽しむためのマネジメントの仕方を実践的に理解していきます。</p>										
学修到達目標										
生涯スポーツの内容をさらに深化させ、スポーツの本質の意味や価値について個人的スポーツを通して理解し、小学校の教員として生涯にわたってスポーツに積極的に関わる資質や能力を育てるスポーツ学習の在り方について、自身の考えを持つことができる。										
授業の進め方										
各回のニュースポーツを実際に体験するとともに、そのニュースポーツが生まれてきた背景を知り、生涯にわたってスポーツに積極的に関わる資質や能力を育みます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	スラックライン	ニュースポーツ(1) スラックライン 検定をやる					考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)			
2	バブルサッカー	ニュースポーツ(2) バブルサッカー ゲームを行う					考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)			
3	アルティメット	ニュースポーツ(3) アルティメット(フライングディスク) ゲームを行う					考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)			
4	ベタンク	ニュースポーツ(4) ベタンク ゲームを行う					考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)			
5	ダブルダッチ	ニュースポーツ(5) ダブルダッチ グループでジャンパーとターナーになり行う					考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)			
6	総合的な体力評価について	トレーニング実技(1) 体ほぐしの運動に関連するトレーニング(柔軟性・巧緻性)					柔軟性、巧緻性を含めた評価方法について理解する(1時間)			
7	筋力について	トレーニング実技(2) 体力を高める運動に関連するトレーニング(筋力)					筋肉についての基本的な理解を深める(1時間)			
8	持久力について	トレーニング実技(3) 体力を高める運動に関連するトレーニング(持久力)					持久力についての基本的な理解を深める(1時間)			
9	ダンス	トレーニング実技(4) ダンスに関連するトレーニング					エアロビックダンスの特性を学びその効能を理解する(1時間)			
10	ダンス	トレーニング実技(5) 現代的なリズムのダンスに関連するトレーニング					様々な音楽を利用したダンスを知る(1時間)			
11	基本技術の習得(ロングハイサービス、攻撃的ストローク)	バドミントン(1) バドミントンの基本技術 ロングハイサービス、攻撃的ストローク					基本的なルールを理解し、ロングハイサービス、攻撃的ストロークの方法を予習する(1時間)			
12	基本技術の習得(ショートサービス、守備的ストローク)	バドミントン(2) バドミントンの基本技術 ショートサービス、守備的ストローク					基本的なルールを理解し、ショートサービス、守備的ストロークの方法を予習する(1時間)			
13	基本技術と戦術(ダブルス)	バドミントン(3) ダブルスの基本技術と戦術					ダブルスの基本技術と戦術について理解する(1時間)			
14	ゲーム	バドミントン(4) バドミントンの易しいルールによるゲーム					誰でも参加できるゲームの方法を理解する(1時間)			
15	ゲーム	バドミントン(5) バドミントンのやや複雑なルールによるゲーム					より工夫したゲームの方法を理解する(1時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
学習内容に応じてプリントを配布		<p>実技：60% レポート：40%</p> <p>S：実技が高い完成度ですべて実施でき、分かりやすく納得性の高いレポートが書ける。A：実技がほぼ実施でき、分かりやすいレポートが書ける。B：実技が概ね実施でき、レポートに誠実に取り組める。C：実技が実施でき、レポートに取り組める。</p>								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
学習内容に応じてプリントを配布		ニュースポーツの発生や広がり、歴史、トレーニングの実技の方法、バドミントンの歴史や攻め方・守り方など、予習をしておいてください。								



科目名	スポーツとノーマライゼーション		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UL23109	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	火曜日3限、木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
スポーツは誰もが享受することのできる権利です。その上で、誰もが参加できるユニバーサルスポーツについて学修し、スポーツがノーマライゼーション社会の実現にどのように貢献するか考えます。さらに身近なユニバーサルデザインを調査し、「障がいには人に帰属するのではなく、人と環境の間に存在する」ことの意味について理解を深めます。ボランティアを含めた「支えるスポーツ」について学修し、「我々にできること・行動するための要因」について考えます。										
学修到達目標										
障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の実際について理解し、ノーマライゼーション社会の実現とスポーツについて説明できる。さらに「共にスポーツを楽しむこと」への理解を深め、「我々にできること・行動するための要因」について柔軟で幅の広い考え方を身につけている。										
授業の進め方										
基本的には配布資料を基に授業を展開し、視聴覚教材を使用し障がいのある方々のスポーツへの理解を深めます。その上で、ノーマライゼーション社会の実現とスポーツについて考えを深めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)とは何か。	授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。「障がい者スポーツ」ではなく「アダプテッドスポーツ」の意味を学びます。				アダプテッドスポーツ関連の書籍・記事を読み事前学習する。授業の内容を復習する。(1時間)				
2	アダプテッドスポーツの基本理念	アダプテッドスポーツの基本理念を学習します。基本的な「障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)」に関連する言葉を解説します。				アダプテッドスポーツの基本理念について予習する。関連語句を復習する。(1時間)				
3	パラリンピックの歴史・変遷と発展の背景	視聴覚教材を使用し、パラリンピックについて学びます。その開催意義や発展を支えた社会的背景について理解し、人間とスポーツについての考えを深めます。				パラリンピックについて事前学習する。パラリンピックの歴史について復習する。(1時間)				
4	障がいとは	WHOの障害分類を学習し、人間が心身共に健康で、生きがいをもち豊かに暮らす上での各因子の相互作用について考えます。				障害分類について事前学習する。WHOの障害分類について復習する。(1時間)				
5	ノーマライゼーションについて	ノーマライゼーションの概念について学びます。さらに、現在の福祉政策についての理解を深めます。				共生社会についての基礎知識を事前に学習する。共生社会の考え方について復習する。(1時間)				
6	障がいのある人を取り巻く障壁について	障がいのある人々が地域で暮らす上での障壁について考えます。その上で、誰もが豊かに暮らせる環境について考えを深めます。				身近な環境のバリアについて事前学習する。障がい者にとっての障壁とは何か復習する。(1時間)				
7	アダプテッドスポーツを支える人々について	アダプテッドスポーツに関わっている人々を紹介します。アダプテッドスポーツにおけるボランティアの意味を考え、私たちにできることを見つけ、行動計画をたてます。				支援の内容について事前学習する。スポーツを支える人々について復習する。(1時間)				
8	障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の魅力について	アダプテッドスポーツの目的は多岐にわたります。地域でスポーツを楽しむ障がいのある方々について学び、スポーツを行うことの魅力について考えます。				アダプテッドスポーツ選手について事前学習する。スポーツの魅力について復習する。(1時間)				
9	視覚障害とスポーツについて	視覚障害者のサポートの方法、スポーツの実際、ルールや用具の工夫について学びます。その上で、共に楽しむための工夫を考え理解を深めます。				視覚障害者の困難性を事前学習する。視覚障害者のスポーツのルール等復習する。(1時間)				
10	ユニバーサルスポーツルール用具の工夫	現在行われているユニバーサルスポーツについて学びます。その理念、実施方法などについて理解を深め、共にスポーツを楽しむ要因について考えます。				アダプテッドスポーツ種目の事前学習を行う。ユニバーサルスポーツについて復習する。(1時間)				
11	重症心身障害児・者のスポーツの意義について	重度の障がいのある方にとってのスポーツとは何か考える。またどのようなことができるのか、その可能性について理解を深めます。				重度障がいの方のスポーツ種目を調べる。重症心身障害者のスポーツについて復習する。(1時間)				
12	インクルーシブ教育とアダプテッドスポーツについて	ノーマライゼーションの思想を背景に行われる教育「インクルージョン」について学びます。学校におけるアダプテッドスポーツについての理解を深めます。				スポーツと共生社会について事前学習を行う。インクルージョン教育の復習をする。(1時間)				
13	障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)とボランティアについて	アダプテッドスポーツは支援者によって競技が成立する要素が高いことから、ボランティアの在り方について理解を深めます。				自分が行ったボランティアをまとめる。スポーツとボランティアについて復習する。(1時間)				
14	アダプテッドスポーツ体験	車いすバスケットを体験します。車いす操作、ルールを理解し、簡易ゲームを行います。方法やルールを工夫することで誰もが楽しめることへの理解を深めます。				今までに体験した障がい者とのかわりを事前にまとめておく。事例の復習をする。(1時間)				
15	スポーツとノーマライゼーション社会の実現について	現代社会の問題点を明らかにし、ノーマライゼーション社会実現のための行動計画をたてよう。				共生社会における課題を事前学習する。共生社会とスポーツの関わりについて復習する。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
随時資料を配布します。				レポート:70% 出席レポート:30% S:基本的な概念や理論を正確に把握し説明できる。探求姿勢を持ち課題に取り組み、高い意欲を示している。A:授業内容を理解し、基本的な概念を正確に把握している。B:授業内容をおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組みほぼ説明できる。C:授業内容の60%を理解し説明できる。与えられた課題をすべて行っている。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「障害者スポーツの環境と可能性」藤田 紀昭著(創文企画) ISBN: ISBN978-4-86413-043-1				体験を通じて学ぶことが沢山あります。積極的にボランティアなどに参加しながら学習を進めてください。						

科目名	日本国憲法（教育）		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ`リング`	UL13201	研究室	W-04
担当者	眞次 宏典		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア`	火曜日2限		
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、日本国憲法についての基本的な知識を獲得することを目的としています。日本国憲法の基本的な枠組、背景、その意義などを理解するために、近代憲法の基本原理（基本的人権の保障と権力分立制）、日本における二つの憲法（明治憲法と日本国憲法）の異同、日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）などを明かにした上で、具体的な政府の仕組みと人権保障のあり方についての基本論点を検討しながら理解を深めて行くことにします。										
学習到達目標										
日本国憲法を近代立憲主義の歴史の中に位置づけた上で、日本における憲法学説・判例を手がかりにしながら、日本国憲法の人権および統治機構（政府の仕組み）の基本的なあり方を理解する。										
授業の進め方										
講義は、六法（毎時間必携）で条文（憲法、関連諸法令）を参照しながら進めていきます。なお、ほぼ毎時間、講義テーマまたは人権、憲法に関連した新聞・雑誌などの記事を配布し、解説を加えることにします。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	近代憲法の成立と構成	ガイダンス、憲法の諸概念				テキストUnit1を読む（4時間）				
2	統治総論と国民主権	統治機構の理論と国民主権の概念				テキストUnit2を読む（4時間）				
3	国民主権と天皇	日本国憲法の成立過程と象徴天皇制				テキストUnit3,4を読む（4時間）				
4	国会と選挙制度	国会、議院、議員、選挙制度				テキストUnit5を読む（4時間）				
5	内閣	内閣、首相、議院内閣制				テキストUnit8を読む（4時間）				
6	裁判所1	裁判所の組織、司法権				テキストUnit9を読む（4時間）				
7	裁判所2	違憲審査制				テキストUnit10を読む（4時間）				
8	戦争放棄と自衛隊	憲法9条と自衛隊				テキストUnit12を読む（4時間）				
9	基本的人権1	基本的人権の観念				テキストUnit13を読む（4時間）				
10	基本的人権2	思想・良心の自由				テキストUnit14を読む（4時間）				
11	基本的人権3	信教の自由、政教分離				テキストUnit15を読む（4時間）				
12	基本的人権4	表現の自由				テキストUnit17を読む（4時間）				
13	基本的人権5	集会・結社の自由				テキストUnit20を読む（4時間）				
14	職業選択の自由と財産権	職業選択の自由、財産権				テキストUnit21, 22を読む（4時間）				
15	まとめ	平等原則とプライバシーの権利				テキストUnit27, 28, 29を読む（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「一歩先への憲法入門」片桐直人・井上武史・大林啓吾著（有斐閣） ISBN: 978-4641131965（生協で購入してください。） 「ポケット六法 令和2年度版」（有斐閣） ISBN: ISBN 978-4-641-00920-2（生協で購入してください。）				定期試験：90% 受講態度：10% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
なし				講義の中では、授業の受け方、ノートの取り方、六法の使い方など大学で学ぶために必要な技術についても教えます。学生諸君は、講義内容そのものだけでなく、学ぶための技術についても学ぶと考えるとください。						

科目名	新聞に見る社会の動き			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	UL23202	研究室	非常勤
担当者	江成 康明			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>新聞を使って社会の動きを考えていきます。インターネットの普及により活字離れが目立ち、読書や手書きの習慣が薄れてきました。一番身近なはずの新聞も無読層の増加によって、読まれなくなっています。新聞には政治、経済、外交や社会の動向などが凝縮されており、情報の収集だけでなく、どう読みこなすかが必要になってきます。記事の内容を読み、理解したうえで自分の考えをまとめるという習慣をつけるための授業です。乱れ始めた日本語の良さや文章の作り方も授業の中で実施していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>4年間の大学生活中に就職活動という社会人への第一歩が始まります。社会の動きを知っていることは企業側へ有利な評価を与えるとともに、面接でも自信を持って臨むことができます。情報収集、読解力、理解力、筆記力を高め、最終的には学生自らがひとつのテーマを選んで「私の考察」をまとめられることが可能になります。</p>											
授業の進め方											
<p>主に新聞のコピーを資料とします。新聞にはニュースの情報発信のほか解説、コラムなども掲載されており、一つの出来事に対して幅広い知識が得られます。今起きているニュースの問題点や価値判断などの理解度が深まります。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	総論 新聞の価値と役割	新聞には多くの情報が詰まっています。1面から最終面までにどのようなものが載っているかなど新聞の全体像を紹介しながら、トップ記事の意味やベタ記事、焦点、解説、コラム記事とは、などを説明します					この1週間の新聞の中から興味があったニュースを取り上げ、感想を書く。(4時間)				
2	新聞を読む必要性	ネット社会の中で、新聞は不要という若者が多くいます。しかし、ネット情報だけだと偏りがちで、幅広い知識は得られません。社会を知る意味では新聞を読み、「なぜ」「どうして」を考えることが必要です。					疑問の沸いたニュースを選び、疑問を持ちながらまとめてみる。(4時間)				
3	各論 硬派記事についての考察	政治、経済、国際外交などは硬派記事と呼ばれます。授業のころに起きている問題を取り上げ、硬派面を騒がしているニュースを検証します。					この日に取り扱った記事の感想や意見を書く。(4時間)				
4	各論 軟派記事についての考察	社会の動きやスポーツ、暮らしなどを軟派記事と呼びます。社会ではいったい何が起きているのかを新聞をもとに検証します。					この日の話題に対して、どう思ったかをまとめる。(4時間)				
5	グループ討論	ひとつのテーマについての新聞記事を読み、そのあとのグループ討論でその話題について話し合ってみましょう。自分の気付かなかったことを知るはずですよ。					グループ討論を経験して、という内容でレポートを提出する。(4時間)				
6	グループ討論	5回目と違ったテーマで、同様に進めます。考えながらしっかり読むことは、書くことが上達に必ずつながります。					読んだ記事に対してどう感じたかをレポートに書き、提出する。(4時間)				
7	新聞社見学	地元紙で伝統のある信濃毎日新聞社(予定)を訪ね、編集局などを見学。政治(県政担当)、社会部記者などの話を聞き、新聞作りに携わる人たちの意識などを学びます。					見学の感想や意見を書く。(4時間)				
8	日本語の美しさ	最近は日本語が乱れている、と言われる。若者が普段使っている言葉が正反対の場合もあります。正しい日本語の意味を考えてみましょう。					テキストにある例と普段の自分の言葉が適切かどうか考える。(4時間)				
9	文章の書き方	新聞は中学生にも理解できるような平易な言葉で書いてあります。文章を書くときには難しい言葉はいりません。相手が読みやすいような文章を書くにはどうしたらよいかを学びます。					気に入ったコラムを探してみる。(4時間)				
10	特別講演	2012年、年間でただ一人に送られる「日本記者クラブ大賞」に輝いた毎日新聞・萩尾信也氏を招き、講演していただきます。記者として頂点に立った取材力、執筆力に興味はわくはずですよ。					事前配布の萩尾氏の記事を読み、質問を考えておく。(4時間)				
11	社会現象の自由研究	過去1年間の政治、経済、国際、社会問題などの動きの中で、自身が最も注目すべき課題をひとつ決めて下さい。どうしてそれを選んだのかをグループ討論で意見発表しましょう。					自分の選んだテーマの記事を集める。(4時間)				
12	社会現象の自由研究	新聞に書いてあることを鵜呑みにするのではなく、疑問や幅広い考え方をもち問題点を探して下さい。いくつもの新聞や新聞コピーを読んでまとめる力をつけましょう。					800字にまとめられるように準備と整理をする。(4時間)				
13	社会現象の自由研究	自分のテーマについて、800字にまとめてみましょう。問題を深く掘り下げて書く習慣を身につけるだけでなく、しっかりとした言葉遣いも重要なポイントです。					自分の書いた文章を思い出し、再考してみる。(4時間)				
14	自由研究の成果と課題	受講生がまとめた内容についての考察をします。同じテーマで臨んだ人々たちによるグループ討論も行い、足りなかった点などさらにテーマを深めることに努めて下さい。					この科目に対する感想を書く。(4時間)				
15	まとめ	新聞の役割や機能と必要性をもう一度再確認します。ネット社会に慣れていても、「新聞を読む習慣」を持ち続けてほしいものです。					15回目のまとめのテキストを熟読する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
毎回、テキストを配布します。				<p>受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30%</p> <p>S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書き力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
毎回、テキストを配布します。				<p>毎回の授業で感じる事が必ずあるはずですよ。受講票には名前だけでなく、感想や意見を書いて下さい。書き慣れることが頭の整理につながります。図書館などで普段から新聞に接するようにしましょう。</p>							

科目名	日本地理		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	UL23203	研究室	非常勤
担当者	川上 浄明		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
地理的に地域を見る目・方法が身につくように、日本全体・各地域の地理的特徴を世界的視点も持ちながら学習します。										
学修到達目標										
日本全域や各地域を地理的視点を持つてみるができる。										
授業の進め方										
作業学習やグループ討議などアクティブ・ラーニングを取り入れます。テレビ番組の視聴・フィールドワークも行う予定です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	日本という地域の概要をつかもう	プリント資料の作業をしながら、日本の位置・領域・標準時・地域区分を理解します。				プリントの作業内容を確認して、理解を深める。(4時間)				
2	世界の地形を学ぼう	世界の地体構造の特徴をプリント作業をしながら学びます。				プリントを復習して学習を深める。(4時間)				
3	日本の地形を学ぼう	日本列島のでき方の番組の視聴と作業を通して日本の地形の特徴を学びます。				番組の視聴メモをまとめる。(4時間)				
4	世界と日本の気候を学ぼう	ケッペンなどの気候区分とそれに基づく気候区分の特徴を学びます。				選んだ地点のハイサ グラフを作成する。(4時間)				
5	日本の人口の特徴とその変化を学ぼう	日本の人口の特徴・変化・構成・移動などを人口ピラミッドを作成するなどして理解します。				自分の出身地域の人口の特徴を調べ理解する。(4時間)				
6	地理院地図の読み方を学ぼう	テキストの作業・大学周辺の地理院地図の作業を通じて、地形図読図の基本を学びます。				地理院地図の興味ある地域を閲覧して、地図の見方を学ぶ。(4時間)				
7	地域を見る目を「プラタモリ」を視聴することによって養おう	「プラタモリ」を視聴して、地表面の現象から地域を理解する方法を学びます。				「プラタモリ」の視聴メモをまとめる。(4時間)				
8	大学周辺を巡検し、地域を見る目を養おう	松本の扇状地をテーマに巡検します。				巡検で気づいたことを整理する。(4時間)				
9	大学周辺を巡検し、地域を見る目を養おう	安曇野の扇状地と河岸段丘をテーマに巡検します。				巡検で気づいたことを整理する。(4時間)				
10	大学周辺の地域的特色を理解しよう	大学周辺の地域的特色を巡検を経た視点で理解します。				討議を経て、巡検レポートを完成させる。(4時間)				
11	地域を見る目を養おう	黒部ダム・安曇野の特徴を取り上げた番組視聴を通して、大学周辺地域を理解します。				対象地域を地理院地図を閲覧して理解する。(4時間)				
12	中部地方を理解しよう。	中部地方のある地域を取り上げた番組視聴、関連するテキストによって中部地方を理解します。				関連する作業学習をする。(4時間)				
13	近畿地方を理解しよう	近畿地方のある地域を取り上げた番組視聴、関連するテキストによって近畿を理解します。				関連する作業学習をする。(4時間)				
14	東北地方を理解しよう	東日本大震災関連番組の視聴、関連するテキストによって東北地方を理解します。				地域調査レポートをまとめる。(4時間)				
15	日本の地域的特色を考えよう	その他の地域の作業学習などもしながら、日本の地域的特色を考えてみます。				日本の地域的特色をまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「グラフィックワイド地理日本2019」東京法令出版教育事業推進部編(東京法令出版)(別途、指示します。) 「最新基本地図帳」(帝国書院) ISBN:978-4-8071-6418-9(生協で購入してください。) 高等学校の地理の授業で使った地図帳がある人はそれで可				レポート:40% 定期試験:60% S:授業内容を高度に理解し詳細なレポートを作成した。特に高い地理的思考力を身につけた。A:授業内容を理解していいレポートを作成した。高い地理的思考力を身につけた。B:授業内容をおおよそ理解しレポートを作成した。地理的思考力をおおよそ身につけた。C:授業内容を60%程度理解した。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「東京学芸大学地理学会シリーズ 日本を学ぶ」(古今書院) 「はじめでの自然地理学」吉田英嗣著(古今書院) ISBN:978-4-7722-7148-6				高校生用の副教材をテキストとします。高校で地理を学んでいない人にも理解できるように心がけたいと思います。また地図などを作業する学習も行います。12色程度の色鉛筆を持参してください。						

科目名	近代日本の歴史		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	UL33204	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
本講義では、地域にのこる身近な歴史に触れながら、幕末期以降の日本の歴史を見ていきます。いつ、どこで、何が起きたかといった網羅的な日本史ではなく、日本の歴史事象をいくつか選び、当時の人物、記録、時代をとらえていきます。										
学修到達目標										
歴史をみる眼、歴史観を新たに構築できる。										
授業の進め方										
今ものこる歴史資料などを紹介しながら、毎回10頁のレジメをもとに講義を進めます。講義は教室で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	歴史像と歴史理論	日本史の時代区分、歴史を学ぶにあたって(小さな歴史から大きな歴史へ)				シラバスを熟読したうえで講義にのぞむこと。(4時間)				
2	幕末から明治へ	佐久間象山、赤松小三郎、松尾多勢子、近藤茂左衛門らの信濃の人物をとおして、幕末維新期の日本をみる。				これらの人物を調べておくこと。(4時間)				
3	藩から県へ	廃藩置県以降の県の時代への推移をみる。県歌「信濃の国」を読み解く。				自分の出身地が、どこの藩、どこの県であったか調べておくこと。(4時間)				
4	自由民権運動と秩父事件	松本の自由民権運動、佐久での秩父事件を主導した人物をとおして、その全体像にせまる。				これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)				
5	普選の父、中村太八郎	日本の普通選挙運動発祥の地は松本。中村太八郎・木下尚江らの活動をさぐる。				普通選挙運動について調べておくこと。(4時間)				
6	養蚕・製糸業の発展	日本一の蚕糸王国長野県の製糸業と工女の生活。				なぜ製糸業が長野県で栄えたのかを事前に調べておくこと。(4時間)				
7	日清・日露戦争	福島安正、河原操子という人物をとおして戦争を考える。				ふたりの人物について調べておくこと。(4時間)				
8	松本からみた「大逆事件」	事件の発端は松本平から。信州との関わりの深い人物をみながら「大逆事件」を考える。				養蚕・製糸業について調べておくこと。(4時間)				
9	大正期の教育	川井清一郎訓導が関わった学校での事件から信州教育を考え、鳩山春子と沢柳政太郎をとおして日本の教育をみる。				「信州教育」とは何かを調べておくこと。(4時間)				
10	鉄道網の発展	長野県の明治期の鉄道、大正期の私鉄の敷設の歩みをみる。				身近な鉄道敷設の歩みを調べておくこと(4時間)				
11	戦時下の日本(1)	「15年戦争」と「満洲移民」				昭和6年から20年までの日本の戦争を調べておくこと。(4時間)				
12	戦時下の日本(2)	工場疎開・学童疎開・「きけわだつみの声」				戦争の時代の話聞いてくること(4時間)				
13	変わる生活	高度経済成長期の前と後の変容を、ひとりの女性の日記から読み解く。				昭和期からの身近な生活の変化を整理しておくこと。(4時間)				
14	戦後75年の日本	昭和20年以降の日本の首相と米国の大統領の動きから、戦後の日本をふりかえる。				記憶に残る日本の首相を整理しておくこと。(4時間)				
15	歴史的文化財の保護	文化財の保護・保存、歴史文書の保存・利用について考える。				地元にどのような文化財があるか、事前に調べて来ること。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。				出席レポート：30% 定期試験：50% 講義後のコメント：20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				講義ごとに感想を受講票に記入して提出してください。質問があればあわせて記入してください。次回の講義で答えます。						

科目名	経済入門（人間・教育）		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UL13205	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
<p>経済学は大きく「マルクス経済学」と「近代経済学」に分けることができます。また、「近代経済学」はマクロ経済学とミクロ経済学に分けることができます。本授業では、資本主義的な生産様式の生成と資本の蓄積体制の成立について講義し、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎概念について整理します。特に、マクロ経済学は失業問題や通貨価値の安定など、皆さんの経済生活に直結する内容ですので、本授業の中心テーマになります。また、本授業では、授業の理解を確認するため「出席レポート」の提出を求めます。</p>										
学修到達目標										
<p>本授業の学修到達目標は、「『出席レポート』の提出を通して、文章力や理解力、論理的思考などの汎用的能力（コンピテンス）を高めるとともに、テレビや新聞などでの経済問題について考え、自分の意見を持ち、これを表現することができるようになること」、です。</p>										
授業の進め方										
<p>授業内容は下記の計画に従って展開されますが、授業内容は相互に関連性があり、積み重ねながら全体が理解できるようになっています。したがって、一方方向の授業に加えて、必要に応じて質疑応答やテーマについての議論も行います。</p>										
<p>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	経済学の概要説明	マルクス経済学と近代経済学の特徴について整理します。また、マクロ経済学とミクロ経済学の特徴にも言及します。				マルクス経済学と近代経済学の特徴を「出席レポート」に整理します。（4時間）				
2	資本主義的生産様式の生成（ ）	人類の歴史における生産体制を概観するとともに、資本主義的な生産体制の特徴について理解します。特に、資本の蓄積を可能にした宗教改革を中心に整理します。				ルネサンス以降の欧州の歴史について、特に宗教改革と資本の蓄積について学ぶ。（4時間）				
3	資本主義的生産様式の生成（ ）	資本主義の成立に必要な“土地と労働力の分化”と“土地と労働力の再結合”について整理します。				欧州における農奴制の特徴、産業革命や市民革命の経済学的な意味を整理します。（4時間）				
4	資本の蓄積と銀行制度	資本主義的生産体制の下では、資本の蓄積手段として銀行制度と株式会社制度が生まれ出されました。授業では、銀行制度について説明します。				宗教改革以後の欧州における資本主義の発展について復習し、授業を整理して提出する。（4時間）				
5	資本蓄積と株式会社制度	株式会社制度の仕組みについて整理します。また、所有と経営の分離についても説明し、今日の経営統合や企業合併等についても講義します。				「出席レポート」で資本の蓄積制度を整理する。事前のプリントを読み、予習する。（4時間）				
6	マクロ経済学の基礎概念	マクロ経済学の理論を理解するために、基礎的な概念について理解します。具体的には、ストックとフロー、三面等価の原則などの概念を説明します。				「出席レポート」に授業内容を整理します。ICTを活用して三面等価について調べる。（4時間）				
7	自由貿易の利益	保護貿易主義に対する自由貿易主義の利益について、余剰概念を用いて整理します。				余剰概念について調べ、「出席レポート」に整理します。（4時間）				
8	有効需要の原理とセイ法則	産業の発展に伴う市場調整メカニズムについて、価格調整（ワルラス的安定）と数量調整（マーシャル的安定）について学修します。				図を用いてワルラス的安定条件とマーシャル的安定条件について調べ、整理します。（4時間）				
9	労働市場分析	労働市場における屈折供給曲線について説明し、自発的失業と自発的失業の概念を整理します。また、労働組合の役割や非自発的失業対策としての財政金融政策の役割についても説明します。				ICTを用いて非自発的失業を調べ「出席レポート」に整理する。（4時間）				
10	有効需要の原理と消費関数	有効需要の原理とセイ法則について説明します。また、ケインズの絶対消費関数について解説し、限界消費性向や限界貯蓄性向の役割について整理します。				ICTを用いて、消費関数について調べる。「出席レポート」で45度線分析を整理する。（4時間）				
11	投資関数と財政政策の効果	ケインズの乗数理論について説明します。また、財政政策の波及メカニズムや、限界消費性向の差異による財政政策の効果の違いについて整理します。				ICTを活用して乗数理論について調べる。財政政策の有効性について整理する。（4時間）				
12	租税乗数と貿易乗数	租税政策の効果について、また貿易依存度の違いによる財政政策の効果について整理します。				ICT等により乗数理論について調べ「出席レポート」に財政政策の効果を整理する。（4時間）				
13	貨幣の機能	貨幣の機能と貨幣数量説について説明します。また、貨幣需要理論としての貨幣数量説についても整理し、ケンプリッジ現金残高数量説を説明します。				ICTを用いて貨幣数量説を調べる。「出席レポート」に貨幣数量説について整理する。（4時間）				
14	流動性選好理論	貨幣需要動機について整理し、確定利付債券について説明します。そして、ケインズの流動性選好利子論について説明します。				「出席レポート」で貨幣需要理論としての貨幣数量説について整理する。（4時間）				
15	信用創造論	預金準備制度について整理し、信用創造について説明します。また、預金準備率が通貨供給量に与える影響や、金融政策が実体経済に波及するメカニズムについて説明します。				「出席レポート」で信用創造について整理し、ICTを活用して金融政策について調べる。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
開講時に指示します。				<p>出席レポート：30% 小テスト：20% 定期試験：50%          評価は、出席レポート、小テスト、定期試験での総合評価を基本としますが、定期試験が特に優れている場合には、定期試験の得点を重視して評価します。また、評価の目安は、「S」：授業内容を良く理解し、授業内容を他者に説明できる、「A」：授業内容を理解し、自分の考えを表明できる、「B」：授業内容を理解し、「出席レポート」などで整理できる、「C」：授業内容を重要な点を理解し、重要な点については「出席レポート」などで整理できる、です。</p>						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
開講時に指示します。				<p>授業外学修の「出席レポート」は、文章力や表現力などのコンピテンスを育成し、「論理的思考力」も高めますので、積極的に取り組んでください。</p>						

科目名	国際経済			学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ`リング	UL23206	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
今日の国際経済は様々な分野で相互依存関係が深化し、一国経済が他国に強い影響を与える経済に変質してきています。本授業では、経済のグローバル化の背景やその方向性について講義します。また、授業は「経済入門」を受講していることを前提としますが、必要に応じて「経済入門」の内容を復習しながら進めます。また、「出席レポート」の提出により様々なコンピテンスを育成するとともに、「論理的思考力」についても高めていきますので、新聞等で積極的に実社会を確認してください。											
学修到達目標											
授業内容の理解を通して実社会に興味を持ち、特に国家間の経済的な結びつきを理解することを通して、国際経済の構造を自分なりに理解する。特に、長野県は海外拠点を持つ企業が多く、外国為替市場の動向に収益が左右される企業が多いため、外国為替市場の動向と地域経済との関係が理解できるようになる。											
授業の進め方											
授業は講義形式で実施しますが、「出席レポート」等を通して受講者の理解を確認しながら授業を進めます。また、人数が少ない場合、双方向型のアクティブ・ラーニング授業を行い、その場で理解を確認しながら進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	国際経済と国際通貨制度	国際通貨制度について、19世紀に確立した金本位制度について説明します。また、貨幣の機能についても整理します。					ICT等を活用して金本位制について調べ、「出席レポート」に整理する。(4時間)				
2	戦後の国際通貨制度	戦後の「ブレトン・ウッズ体制(通称「IMF・GATT体制」)」について説明します。また、固定相場制と変動相場制についても説明します。					ICT等を活用して「ブレトン・ウッズ体制」などを調べ、整理する。(4時間)				
3	国際通貨制度の矛盾とニクソン・ショック	外国為替制度について説明します。また、今日の国際通貨制度の矛盾についても説明します。					ICT等を活用して「ニクソンショック」などを調べ、整理する。(4時間)				
4	金融経済の進展と要因	拡張的な財政金融政策の功罪について説明し、金融経済の進展が意味することを説明します。					ICT等を活用して「財政金融政策」の手法などを調べ、整理する。(4時間)				
5	プラザ合意と国際的政策協調体制の成立	グローバルな国際経済における「インバランス」の問題と、それに対する国際的な協調体制成立の背景等について説明します。					ICT等を活用して「プラザ合意」などを調べ、整理する。(4時間)				
6	アジア通貨危機	1990年代のアジア通貨危機の背景や、この危機に対する各国の対応、さらにはIMFの対応等について説明します。					ICT等を活用して「アジア通貨危機」などを調べ、整理する。(4時間)				
7	各国の財政金融政策と世界経済	今日の世界経済は、外国為替相場の変動を通して各国の経済に強い影響を与える経済に変質してきていますが、その影響について説明します。					ICT等を活用して「欧州信用不安」などを調べ、整理する。(4時間)				
8	後期金融経済と金融機関規制	今日、金融機関の破綻の影響を最小限に抑えるため、金融機関行動を国際的に規制するBIS規制が導入されています。ここでは、この規制について説明します。					ICT等を活用して「BIS規制」などを調べ、整理する。(4時間)				
9	日本企業の海外進出	戦後の高度経済成長期以後の日本企業の海外進出について、外国為替相場の変動の側面を中心に説明します。					ICT等を活用して円高・円安の進行に伴う日本企業の行動変化について調べ、整理する。(4時間)				
10	企業活動のグローバル化と国際分業	今日の各国企業のグローバル化と、ビジネスモデルの変化について説明します。					ICT等を活用して、1990年以降の日本企業の行動変化について調べ、整理する。(4時間)				
11	企業活動のグローバル化と労働	企業活動のグローバル化に伴って労働力も国境を越えて移動しますが、その状況について説明します。					ICT等を活用してわが国の労働力受入等について調べ、整理する。(4時間)				
12	多文化共生社会と企業経営	外国人労働者の増加など、多様化する社会において求められる「ダイバシティ・マネジメント」について説明します。					ICT等を活用して「ダイバシティ・マネジメント」について調べ、整理する。(4時間)				
13	自由主義と保護主義	貿易自由化と保護貿易主義の歴史について説明し、今日の世界経済における貿易の方向性について説明します。					ICT等を活用して「貿易戦争」について調べ、整理する。(4時間)				
14	世界経済の拡大と日本経済	世界経済の動向が日本経済にどのような影響を与えるのかについて説明します。					ICT等を活用して世界経済について調べ、整理する。(4時間)				
15	全体のまとめ	14回の授業のまとめをします。また、まとめを通して、今後の国際経済の動向や課題についても説明します。					各自で国際経済の方向性について整理する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
プリントや資料を配布します。				出席レポート:30% 課題:10% 小テスト:20% 定期試験:40% 評価の目安は、「S」:事前事後学修の成果を含めて授業内容を理解し、その内容を文章等を含めて他者に分かりやすく説明できる、「A」:事前事後学修の成果を含めて授業内容を理解し、その内容を文章等で明確に整理できる、「B」:事前事後学修の成果を含めて授業内容の要点を理解し、文章等で整理できる、「C」:授業内容を理解し、その内容を文章等で整理できる、です。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
国際経済、国際金融関係の図書を開講時に指示します。				本授業は、経済学関係の基礎科目を履修しているという前提で展開されます。授業中に経済学に関する復習等も行いますので、受講者は、経済学関係の基礎科目のノートを持って出席することをすすめます。							

科目名	地域の歴史			学年学期	1年前期	単位数	2	ナパリング	UL13301	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
政治・教育・文化・諸産業・交通運輸等々にわたる。長野県の歴史上の人物の生き様や業績をとおして、その生きた時代を、日本の歴史上に位置付けながら検証していきます。古代・中世・近世・近代・現代と、それぞれの時代の群像を取り上げます。そのなかで、地域の歴史の学び方を、歴史資料の所在・調査・研究などの面から、自分なりにどのように取り組んでいくのかを考えていきます。											
学修到達目標											
地域で、何をどのように学び、それを様々な教育等の場でいかに生かしていけたらよいのか、自分なりに課題をみつけ、具体的に調べ、伝えていくことができる。											
授業の進め方											
具体的にいくつかの資料を紹介しながら、レジュメをもとに講義をすすめます。講義は教室で行いません。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	小さな歴史と大きな歴史	日本史の時代区分、歴史を学ぶにあたって(小さな歴史から大きな歴史へ)					今まで学んできた日本の歴史を振り返り、この講義の全体の流れを把握しておくこと。(4時間)				
2	旧石器・縄文の時代	野尻湖人、縄文時代の人びとなどをとおして、その時代の生活をみていく。					地元の遺跡や遺物を調べておくこと。(4時間)				
3	物くさ太郎の時代	御伽草子「物くさ太郎」を読み解きながら、中世の人びとの暮らしを考える。					大学近くにある「物くさ太郎」の碑を事前に見ておくこと。(4時間)				
4	真田氏・小笠原氏三代	真田氏三代と小笠原氏三代をとおして、戦国時代をみる。					これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)				
5	江戸時代の領主たち	松本の領主をもとに、その時代背景をみる。					これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)				
6	江戸時代の村びとたち	百姓一揆の多田加助、この時代の村びとの暮らしをみる					加助騒動の身近な史跡を調べておくこと。(4時間)				
7	藩から県へ	廃藩置県以降の県の時代への推移をみる。県歌「信濃の国」を読み解く					自分の出身地が、どこの藩、どこの県であったか調べておくこと。(4時間)				
8	自由民権運動と秩父事件	松本の自由民権運動、佐久での秩父事件を主導した人物をとおしてその全体像にせまる。					これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)				
9	普選の父、中村太八郎	日本の普通選挙運動発祥の地は松本。中村太八郎・木下尚江らの活動をさぐる。					普通選挙運動について調べておくこと。(4時間)				
10	製糸王国長野県	製糸王今井五介と工女の生活をとおして、日本一の長野県の養蚕製糸業の発展をみる。					養蚕・製糸業について調べておくこと。(4時間)				
11	松本からみた「大逆事件」	事件の発端は松本平から。信州との関わりの深い人物をみながら「大逆事件」と日本を考える。					これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)				
12	大正期の教育	川井清一郎訓導が関わった学校での事件から信州教育を考え、鳩山春子と沢柳政太郎をとおして日本の教育をみる。					「信州教育」とは何かを調べておくこと。(4時間)				
13	戦争の時代(1)	「15年戦争」と「満洲移民」					昭和6年から20年までの日本の戦争を調べておくこと。(4時間)				
14	戦争の時代(2)	工場疎開・学童疎開・「きけわだつみの声」					左記テーマについて調べておく事。(4時間)				
15	戦後の日本	戦後75年間の日本の首相と米国の大統領をとおして、日本の政治史をみる。					記憶にのこる日本の首相を整理しておくこと。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
講義ごとに担当者が作成したレジュメを、出席者に配布します。					出席レポート:30% 定期試験:50% 講義後のコメント:20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし					講義ごとに感想や質問を受講票に記入して提出してください。質問については、次回の講義で答えます。						



科目名	地域と文学		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	UL13302	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
信州にゆかりのある文学者や研究者を取り上げ、出身地や歴史的背景、代表作等を紹介し、担当者が実際に代表作品を紹介したことをもとに、表現の味わいを学びます。各自で選択した作品や分担した箇所について調べ学習を行ったものを元にして発表を行い、解釈を共有して自分の読みを確立していきます。ゲストティーチャーによる講義やアウトキャンパススタディによる実体験を通して力を高め、まとめとして自分の興味・関心に沿って学生がさまざまな作家を調査し発表し共有します。										
学修到達目標										
1 信州の主たる代表作を知り、その実際を広く理解する。 2 文学作品に対する知見を深め、文学に関する考察力や研究力を身につける。 3 作品に対する自分の考察を持ち、わかりやすく発表、論述することができる。										
授業の進め方										
講義、発表、演習です。教員が文学作品の読み方講義をします。その後作品を自分の力で読み進めプリントを作成し発表します。最後に各自が自分の興味・関心に応じて調べ学習をし発表します。週末にアウトキャンパススタディに出かける予定です。(日程は初回に提示)										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 文学の読み方	文学作品の読み方について基本的な観点を講義します。発表方法を知ります。				シラバスから全体を概括する。読み方の基本の視点をまとめ、担当箇所を調査する。(4時間)				
2	信州の作家(1)	島崎藤村『千曲川のスケッチ』を読み作品の背景を学びます。各自が読んだ内容を発表し合います。交流を通して各自が考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間)				
3	信州の作家(2)	『千曲川のスケッチ』を読み進めます。各自が読んだ内容を発表し合い、互いの読みを交流し各自が考察を持ち、自分の読みに生かします。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間)				
4	信州の作家(3)	『千曲川のスケッチ』を読み、同時代作家との関係等を知ります。互いの読みを交流し、各自考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間)				
5	信州の詩人	信州にゆかりのある詩人についてその特色を学びます。各自で考察を持ちます。(ゲストティーチャーによる授業を予定)				授業内容を考察しまとめる。(4時間)				
6	信州の作品(1)	『夜明け前』の時代背景を理解します。互いの読みを共有しながら自分の読みの確立を目指します。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間)				
7	信州の作品(2)	『夜明け前』を読み、互いの読みを共有しながら自分の読みを確立して行きます。各自で考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間)				
8	信州の作品(3)	『夜明け前』と外国作品との関連を知り読み進めます。互いの読みを共有しながら自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。				授業内容をまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間)				
9	信州の歌人(1)	窪田空穂の業績を知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。(ゲストティーチャーによる授業を予定)				授業内容をまとめる。窪田空穂の業績の概略をまとめる。(4時間)				
10	信州の歌人(2)	窪田空穂の業績を知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。(アウトキャンパススタディを予定。詳細は別途)				アウトキャンパススタディをまとめ、レポートを書く。(4時間)				
11	信州の歌人(3)	窪田空穂の生きざまを知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。(アウトキャンパススタディを予定。詳細は別途)				アウトキャンパススタディをまとめ、レポートを書く。(4時間)				
12	信州の童話・昔話(1)	信州にゆかりのある童話作家について学びます。各自で考察を持ちます。				授業内容をまとめ、発表準備をする。(4時間)				
13	信州の童話・昔話(2)	信州にゆかりのある童話作家について、自分の地元の昔話や伝承を紹介し合います。各自で考察を持ちます。				講義内容についてまとめる。(4時間)				
14	信州の童話・昔話(3)	信州にゆかりのある童話作家について学びます。(ゲストティーチャーによる授業を予定)				講義内容についてまとめる。発表の準備をする。(4時間)				
15	信州ゆかりの作品、総括	各自が自分の興味・関心に応じて調べ、その内容や作品解釈、作品研究結果を発表します。				15回を総括する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「千曲川のスケッチ」島崎藤村著(新潮文庫) ISBN:9784101055138(生協で購入してください。) 「夜明け前 第1部(上)」島崎藤村著(新潮文庫) ISBN:9784101055084(生協で購入してください。) 「大造じいさんとガン」椋鳩十著(偕成社文庫) ISBN:978-4-03650620-0(生協で購入してください。)				受講態度:20% 課題:60% レポート:20% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき、適切に表現し高い意欲を示している。 A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。 B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題を全て行っている。 C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題を全て行っている。受講態度には毎回出すシートの出来映え、発表等を含む。欠席4回で単位を認定しません。遅刻・早退2回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「島崎藤村 吉田精一著作集6」吉田精一著(桜楓社) 「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編修所編(三省堂) 「漢字筆順ハンドブック 第3版」江森賢治著(三省堂)				その他参考書は講義で適宜紹介します。レポートや課題は手書きによる提出が主です。用具等は第1回授業で指示します。アウトキャンパススタディが企画できた際は必ず出席してください。						

科目名	地域の伝統行事		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	UL23303	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
日頃から体験している年中行事から始まり、各地に伝わる伝統行事について学びます。長野県内の代表的な行事を、それぞれの地域ごとに扱い、地域に残る歴史と民俗事象を掘り下げていきます。さらに、身の回りの暮らしのなかでの伝統行事を、今日までの変容を追いながら、どのように調べて記録としてのこしていくのか、それを後世にどのように伝えていったらよいのかを、具体的な事例を挙げながら考えていきます。										
学修到達目標										
地域で、何をどのように学び、それを様々な教育等の場でいかに生かしていったらよいのか、自分なりに課題をみつけ、具体的に調べ、伝えていくことができるようになる。										
授業の進め方										
いくつかの資料を紹介しながら、レジメをもとに講義をすすめます。講義は教室で行ないます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	変わる生活	昭和30年代からの高度経済成長期を境にして変わる生活のなかでの年中行事を、ひとりの女性の日記をもとにみます。					三世代のお話を聞いて、暮らしの変容の一部を調べておくこと。(4時間)			
2	年中行事(1)	信州の春のさまざまな年中行事をみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)			
3	年中行事(2)	信州の夏のいろいろな年中行事・祭りをみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)			
4	年中行事(3)	信州の秋の各地の年中行事・祭りをみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)			
5	年中行事(4)	信州の冬のいくつかの年中行事をみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)			
6	人の一生(1)	誕生から成人までの儀礼をみていきます。					誕生から今日までの自分の儀礼を調べておくこと。(4時間)			
7	人の一生(2)	成人からの人の一生をみます。					親の世代などの儀礼の例を聞いておくこと。(4時間)			
8	人の一生(3)	一生を終える儀式とその変容を、時代とともにみていきます。					葬儀の変容について調べておくこと。(4時間)			
9	善光寺	善光寺仏の流転、善光寺信仰、御開帳などを調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)			
10	御柱	信州各地の御柱のようす、歴史などを調べます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)			
11	石造物を調べる	石仏、道祖神などを調べます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)			
12	伊那谷の芸能	伊那地域にのこる様々な芸能、それをいかにのこしていくかを考えます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)			
13	家と女	時代とともに変わってきた女性の暮らし、生き方を学びます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)			
14	民俗知識	昔から伝えられてきた人びとの民俗知識には、どのようなものがあるか調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)			
15	伝説	信州の各地に伝わる伝説には、どのようなものがあるか調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。					出席レポート:30% 定期試験:50% 講義後のコメント:20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					講義ごとに感想や質問を受講票に記入して提出してください。質問については、次回の講義で答えます。					

科目名	地域社会と学校教育		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	UL33304	研究室	A-01	
担当者	征矢野 達彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
<p>学校教育では、新学習指導要領で「生きる力」を育成するという基本理念が継承され、「確かな学力」や「豊かな人間性」などを育むことが求められています。知識・技能を実生活で活用する力や、異なる文化や背景を持つ人々との関係を構築する力が、今後必要とされています。それらの力を育成するには、外部の力を有効に活用していく必要があります。地域社会における学校の意味を問い直し、「信州型コミュニティスクール」の取り組みを研究すると共に、地域社会に根ざした学校づくりを追究していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>地域社会における教育計画の理念や背景を学び、地域社会に支えられた学校や教師のあり方の理解を深め、豊かな人間観、教育観、教師観を形成する。地域社会と学校との関わり方について学び、教員としての資質を身につける。</p>											
授業の進め方											
<p>学校と地域との関わりについての歴史や変容、展望を講義で学び、小・中学校の実際の教育現場でのアウトキャンパスを通して、地域と共にある学校づくりを学びます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	学校と地域社会との関わりについての学び方を理解します。					地域社会の概念を理解する。(4時間)				
2	近代学校の成立	学校の成立と学校統合、通学区の再編について学びます。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
3	開かれた学校	地域社会に「開かれた学校」の動向と展望について理解します。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
4	学校と家庭	少子化社会における家庭の教育機能の変容について理解します。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
5	国・県の教育計画	国及び県の教育計画、長野県の求める教師像について理解します。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
6	信州型コミュニティスクールの取り組み	信州型コミュニティスクールの理念と取り組みについて学びます。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
7	松本市の教育行政	松本市の教育行政と学校の教育計画について学びます。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
8	アウトキャンパス	信州型コミュニティスクールの取り組みを小学校で参観します。					参観観点別評価表に記入する。(4時間)				
9	アウトキャンパス	信州型コミュニティスクールの取り組みを中学校で参観します。					参観観点別評価表に記入する。(4時間)				
10	参観報告会	小・中学校の地域と共にある学校づくりの成果と課題を話し合い、共有します。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
11	アウトキャンパス	地域社会の特性を生かした特別支援学校の取り組みの様子を参観します。					参観観点別評価表に記入する。(4時間)				
12	参観報告会	地域社会と特別支援学校との関わり方の成果と課題を話し合い、共有します。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
13	教師像	保護者や地域社会が求める学校と教師像を学びます。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
14	まとめ	地域社会と学校との関わり方をみんなでシェアします。					本時の学習内容の整理をする。(4時間)				
15	まとめ	これまでの総括として、地域社会と学校教育の将来像を明らかにします。					総合レポートをまとめる。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「コミュニティ・スクール入門」貝ノ瀬 滋著(一藝社) ISBN:978-4-86359-124-0(生協で購入してください。)</p>					<p>受講態度:30% レポート:70%  S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、授業で学んだことを表現できる。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「小・中一貫コミュニティ・スクールのつくりかた」貝ノ瀬 滋著(ポプラ社) ISBN:978-4-591-11748-4  必要に応じて提示します。</p>					<p>外部での授業があるので、学校現場に入るときに諸注意を遵守してください。</p>						

科目名	地域経済史		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリノ	UL33305	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	月曜日1限、火曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
わが国が工業化される過程で発展あるいは衰退した地域(地場)産業の全体像を踏まえた上で、地域経済の形成に大きな影響を与えた地域産業を取り上げ、それらの歴史的展開について講義します。特に、本学が立地する信州の地域産業については、工場形態での発展によりわが国最大の外貨獲得産業となった器械製糸業、および、一時期は地域経済に大きな比重を占めながらも戦後の経済発展のなかで産業としての影響力を失い、伝統工芸としての業態で存続した他の絹関係品生産を対比しながら、地域産業の動きを理解します。										
学修到達目標										
明治以降の日本がたどった歴史を、地域産業を通じて理解し、最終的には地域産業の持つ強さ・弱さ、そしてその将来像を把握する。地域に展開した産業(特に長野県では製糸業)がどのような発展の仕方をしてきたか、そしてそれがいまだ地域で展開する産業とどのような関係にあるかを理解する。										
授業の進め方										
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと講義に向けての基礎知識について説明します。				テキスト1~5頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
2	繊維産業と日本経済	繊維産業、特に製糸業が日本経済にどのように位置づけられるかを詳述します。				テキスト6~13頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
3	地主制と製糸業	器械製糸の中心地は長野県であることを踏まえ、地主制との関連を詳述します。				テキスト13~18頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
4	器械製糸業	長野県が器械製糸の中心になった背景と要因について詳述します。				テキスト20~23頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
5	田中組の金融活動	長野県にも大きな政商が(小野組と田中組)関わっていたことを詳述します。				テキスト23~26頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
6	洋銀取引との関係	「金の国」日本(小判とドル銀貨)と銀貨の関係について述べます。				テキスト26~29頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
7	外国為替相場の出現	日本初の相場師が長野県出身の商人である事実と長野県の機械製糸業との関係を詳述します。				テキスト29~32頁を熟読する(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
8	片倉製糸	日本最大の生糸メーカー、片倉製糸の成長過程について詳述します。				テキスト34~35頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
9	蚕網の生産	重要な養蚕具として江戸期から信州で使われていた蚕網が全国に普及してゆく過程を詳述します。				テキスト35~39頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
10	戦時下の製糸業	戦時下で切り捨てられる製糸業の姿を詳述します。				テキスト40~42頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
11	戦時下の地域経済	戦争直後の混乱のなか日本経済がどう変わったかを基礎に、地域産業の変貌について詳述します。				テキスト48~53頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
12	戦後の農地改革	戦争直後の混乱を経て日本の農業はどう変わったかを詳述します。				テキスト55~58頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
13	戦後の軽工業と重工業	戦後、地域産業として何が製糸業に取って替わったかについて詳述します。				テキスト58~60頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
14	地域経済の転換	戦前と比較して大変貌を遂げた信州の経済構造について詳述します。				テキスト60~61頁を熟読する。(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べる。(2時間)。				
15	総括	信州の地域産業が軽工業から精密工業へと転換するまでの流れを詳述します。				テキスト全体を通読する。(3時間)。事後、授業での総括を復習する(3時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「地域経済史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(松本大学)(生協で購入してください。)				レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を十分に理解し、地域産業について解説ができる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「長野県史(各巻)」長野県編(長野県)				期末の試験は、難易度がかなり高く設定されているので、普通の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。						

科目名	地域課題研究Aクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13306	研究室	W-34
担当者	白戸 洋			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：金曜日3限 後期：金曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>学生が地域の直面する課題について、その現状を学ぶとともに、実験的なまちづくりの実践活動を通じて具体的に課題解決を図るうえで重要なことを理解し、履修者同士で議論を行い、今後の地域における取り組みのきっかけづくりを目的とします。</p>											
学修到達目標											
<p>地域課題について理解をするとともに、実験的な実践活動の成果を分析・評価し、その成果を踏まえて具体的な解決にむけたアクションを自ら計画し実施する技術及び能力を身に付ける 活動を通じコミュニケーション能力や課題解決能力、社会的課題に対する関心、地域に向き合う意識などを身に付ける グループで議論を行いまちづくりに関すな視点や価値観の中で自らの視野を広げていく</p>											
授業の進め方											
<p>地域についての講義、実態把握のための調査、その解決を図るための実験的な実践活動、成果に関するディスカッションによって構成されます。テーマとなる地域課題については履修学生が決定した後、それぞれの問題意識を踏まえて教員と相談して設定を行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	講義の内容及び進め方を説明し履修者シートの作成し、各自の問題意識を共有します。					小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
2	地域課題に関する講義	まちづくりをめぐる地域課題について講義します。					小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
3	地域課題に関する講義	まちづくりと高齢者の問題(買い物弱者問題など)について講義します。					高齢者の問題について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
4	地域課題に関する講義	まちづくりと子育て・子どもをめぐる問題について講義します。					子育て・子どもをめぐる問題について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
5	地域課題に関する講義	居場所とまちづくりについて講義します。					居場所とまちづくりについて小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
6	地域課題に関する講義	その他のまちづくりに関わる地域課題について講義します。					まちづくりに関わる地域課題について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
7	地域課題の把握	地域での実態の把握(現地踏査)を行います。					現地踏査について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
8	地域課題の把握	地域での実態の把握(現地踏査)を行います。					地域での実態の把握について復習				
9	地域課題の把握	地域における課題を整理し、地域課題を把握します。					地域課題に関する小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
10	地域課題解決事業の実施準備	地域課題について討論し実験的事業のイメージを考えます。					実験的事業のイメージについて小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
11	地域課題解決事業の実施準備	地域において実施する実験的な事業について検討を行います。					実験的な事業について検討し小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
12	地域課題解決事業の実施準備	地域において事業を実験的な事業について準備を行い、地域において実験的な事業を実施します。					事業の報告の小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
13	地域課題解決事業の実施準備	地域において事業を実験的な事業について準備を行います。					事業の概要について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
14	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。					事業実施の経過 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
15	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。					事業実施の経過 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
16	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。					事業実施の経過 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
17	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。					事業実施の経過 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。				
18	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。					小レポートを含む事後学習を1時間行う。				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	事業の中間評価	実験的な事業についてその成果等について振り返りを行います。	事業の中間評価 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
20	事業の中間評価	事業について地域住民にインタビューし成果と課題を把握します。	事業の中間評価 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
21	事業の中間評価	実験的な事業についてディスカッションを通じて評価し今後の計画を策定します。	事業の中間評価 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
22	地域課題解決事業の実施	事業の内容を見直し今後の取り組みについて検討を行い計画を策定します。	事業の内容を見直しについて小レポートを含む事後学習を1時間行う。
23	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。	実験的な事業 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
24	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。	実験的な事業 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
25	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。	実験的な事業 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
26	地域課題解決事業の実施	地域において実験的な事業を実施します。	実験的な事業 について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
27	事業の成果分析	対象地区等での成果と課題の把握（ヒアリング調査等）を行います。	ヒアリング調査等について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
28	事業の成果分析	対象地域における事業の効果の検証を行い今後の取り組みを検討します。	小対象地域における事業の効果の検証を行い今後の取り組みについて事後学習を1時間行う。
29	講義全体の振り返り	ディスカッションを通じて講義での全体の成果と課題を検討します。	全体の成果と課題について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
30	まとめ	個人別学修達成目標の評価を行います。	個人別学修達成目標の評価について小レポートを含む事後学習を1時間行う。
テキスト		成績評価の方法・基準	
「買い物難民を救え!移動スーパーとくし丸の挑戦」村上 稔著（緑風出版） ISBN:978-4-8461-1411-4（生協で購入してください。）		レポート：60% 課題：40% S:講義の成果を活かして持続的に課題解決のために具体的な活動を行うことができる A:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言し解決を試みた B:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言 C:実践活動を通じて地域課題を把握し概ね具体的な解決策を提言	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
そのつど資料配布します。		PBL（問題解決）型の授業として、みなさんの身近な社会問題に対して実践的にアプローチし、解決方法を学びます。積極的に参加してください。	

科目名	地域課題研究Bクラス		学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13306	研究室	C-5
担当者	廣田 直子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：水曜日3限 後期：水曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この授業では地域全体を学びの場とし、フィールド活動により地域課題を見出し、その解決に向けて皆でディスカッションし、提案という形にまとめます。Bクラスでは人の一生を「健康」の視点で概観し、まずは、乳幼児期、学童・青年期、壮年期、高齢期といったライフステージごとの特徴をとらえます。その上で、地域活動に参画して生活者である地域の人々が直面する健康課題を発見し、グループ討議を経て解決に向けて考え合い、提案をまとめます。										
学修到達目標										
フィールド活動において学習課題に応じて対象者を観察する力、課題について自らの考えをまとめ、積極的にディスカッションする力の修得をめざします。健康を栄養と運動、社会生活の視点からとらえ、近隣社会の現状を踏まえて地域が抱える健康問題・課題への認識を深めて自分たちの提案をまとめることを具体的到達目標とします。										
授業の進め方										
前半はオムニバス形式で、講義を中心に進めます。後半は、周辺地域で行なわれている「健康」への取り組みを、実習体験を通じて学び、グループで地域課題に向けた解決法を探り、提案をまとめます。(履修者数を制限することがあります。)										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業の進め方と、後半に行う実習参加について実習先や実習内容の説明をします。決定している範囲で参加実習の情報を提示します。					各自で、予定されている実習に参加するための日程を調整し、参加意欲を高める。(1時間)			
2	社会生活と健康	4~5人のグループをつくります。自己紹介に加え、自身の健康観について自由に語ることで互いの考えを知り、その後「社会生活と健康」を考える次回以降の講義の意味について学びます。					健康観について、自身の健康に対する受け止め方や考え方をまとめて記述する。(1時間)			
3	ライフステージと健康 (1) 乳幼児期	乳幼児期の発育発達の大枠を捉え、生涯にわたって健康な生活を送るための基盤となる育ちの環境について、栄養・運動の両面から学びます。					身近に暮らす乳幼児に関心を寄せ、乳幼児期に重要な育ちの環境についてまとめる。(2時間)			
4	ライフステージと健康 (2) 学童・青年期	長野県内の児童の生活習慣の実態について学びます。生活習慣が子どもの発育発達に及ぼす影響について県内の実態からとらえ、改善に向けた栄養と運動両面からの支援の可能性を探ります。					学童期の生活時間、生活習慣の実態を知り、問題の所在について考えレポートを作成する。(2時間)			
5	ライフステージと健康 (3) 壮年期	体力をはじめ諸機能の衰えを感じ始めるのが壮年期です。健康上の様々な問題を感じるようになるこの年代は、健康への関心が高まる時期でもあります。栄養・運動の両面からの指導や支援の表情を学びます。					身近な大人との会話から、働き盛り世代の健康への意識・関心を聞き取ってまとめる。(2時間)			
6	ライフステージと健康 (4) 高齢期	元気な高齢者、支援が必要な高齢者など、「高齢期」とひとくくりにしてもその幅は広く、人生における喜・哀のイベントが健康に影響を及ぼす年代でもあります。様々な観点から健康維持について学びます。					高齢期に生じる体の生理的衰えを知り、健康であることの価値について考え、まとめる。(2時間)			
7	地域課題 (健康と栄養)	これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている栄養指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。					これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「食」のあり方を考え、まとめる。(2時間)			
8	地域課題 (健康と運動)	これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている運動指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。					これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「運動」の必要性を考え、まとめる。(2時間)			
9	松本市の健康づくりの取り組み	健康寿命延伸都市松本の制度や健康づくりに関する様々な取り組みについて知り、若者(学生)の視点からの行政への要望・提案についてディスカッションし、その中から自分たちで対応可能な課題を発見します。					市の活動内容をまとめ、行政が取り組みにくい課題に関するレポート執筆の準備をする。(3時間)			
10	市民運動としての健康づくりの取り組み	NPOや地域の自主運営による健康の取り組みについての実態を学びます。実際の事業例を参考に、健康に関する地域課題について考えます。					前回に続き、地域の健康課題を、実際の事例からとらえてレポートを作成させる。(3時間)			
11	情報収集の方法	これまでに学習した健康に関する様々な情報を、さらに幅広く収集するための方法とその活用方法について学びます。その際、今後の活動で必要とされるルール、マナーについても学修します。					以後の報告や発表資料に役立てるための健康情報、地域情報などの情報を収集する。(3時間)			
12	プレゼンテーションの方法	本講義後半では、グループで「地域における健康課題(仮)」を発表するので、収集した資料や実習での体験をまとめる際に必要となるプレゼンテーションの方法として、パワーポイントの作成技法を学びます。					パソコンの操作に慣れ、パワーポイントを活用し、プレゼンファイル作成の練習をする。(3時間)			
13	地域課題を探る	3~4人のグループになり、健康観について話し合いを持ちます。初回講義でそれぞれが感じていた健康観を振り返り、あらためて地域の健康課題について考え、ディスカッションを通してメンバーと共有します。					グループで共有した問題について地方紙などから情報を収集し、次回講義時に持ち寄ります。(2時間)			
14	地域課題を提起1	前回授業に続き、KJ法やブレインストーミングなどで情報を出しあい、グループワークを通してグループの関心事をまとめて発表します。グループで収集した地域課題について問題の所在を探ります。					グループで決めたテーマを咀嚼し、実習の際のモチベーションの向上を図る。(1時間)			
15	地域課題を提起2	グループで決めた地域課題(テーマ)を再確認します。何が問題で、どうしていくことが求められるのか、自分たちにはできないことは何かなど具体化させ、グループワークを通してグループの意思決定を図ります。					後期に行う実習を意味あるものにするため、積極的に必要な準備を整える。(3時間)			
16	オリエンテーション(後期)	グループワークにより進めます。前半の学習やグループの課題・目標を再確認します。今後実施する実習参加について説明を受けます。実習記録ノートを配布します。					実習記録ノートを確認し、実習参加の準備と心構えを確固としたものにする。(1時間)			
17	実習事前指導	実習の事前指導を受けます。実習に臨む姿勢、記録の取り方、事後報告について理解するとともに、実習先や対象者によって参加時の配慮や参加姿勢が異なることを理解します。					実習先について事前に情報収集し(1時間)、実習ごとの目標を定めて臨みます。(1時間)			
18	実習(栄養指導場面1)	アウトキャンパスでの見学体験や、実際に地域で実施されている活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。					実習記録ノートをまとめる。(3時間)			

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	実習（栄養指導場面1-2）	アウトキャンパスでの見学体験や、実際に地域で実施されている活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
20	実習（栄養指導場面1-3）	アウトキャンパスでの見学体験や、実際に地域で実施されている活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
21	実習を振り返る（栄養）	グループ毎、体験から得た学びを共有します。互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気づきを話題提供し、地域社会に求められている健康づくりの課題を探ります。	実習での振り返りや気づきを次回実習に活かすために、自身の課題目標を明確にする。（1時間）
22	実習（運動指導場面1）	アウトキャンパスでの見学体験や、実際に地域で実施されている活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
23	実習（運動指導場面1-2）	アウトキャンパスでの見学体験や、実際に地域で実施されている活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
24	実習（運動指導場面1-3）	アウトキャンパスでの見学体験や、実際に地域で実施されている活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習での振り返りや気づきを報告会に活かすため、自分の考えや意見をまとめる。（2時間）
25	実習を振り返る	前期講義で得た学びや地域活動での実習体験をふまえ、グループで話し合い、報告会での発表を前提にした討議をします。地域社会に求められている健康づくりの課題と解決方法を探ります。	自分の考えや意見を、体験と理論の両面から語れるように準備を進める。（2時間）
26	報告会の準備	グループワークにより、お互いの実習記録を振り返り、各場面での気づきとして話題提供し、地域社会に求められる健康づくりの課題とその解決方法に向けた提案をまとめ、報告会での発表資料を作成します。	発表の準備・練習（2時間）、自分の考えや意見を体験と理論の両面から語れるようにする。
27	実習報告会（1）	互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。	「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間）
28	実習報告会（2）	互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。	「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間）
29	実習報告会のまとめ	報告会での発表を受けて、地域課題解決に向けた方途についてグループディスカッションをします。	ディスカッションを踏まえて地域課題解決のための方途についてまとめる。（3時間）
30	地域課題 まとめ	一人ひとりが本講義の学びをまとめ、それをお互いに聴取し合い多様な考えがあることを知ります。それを通して個々の学生が大学生活及び将来の健康課題について、地域という視点で考え続ける姿勢を培います。	記録ノートや発表から、地域社会における健康課題解決の方途に関するレポートを作成する。（3時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
(別途、指示します。) 配布資料(プリント)で進めます。		出席レポート：50% 課題：50% S:積極的な地域活動参加を通し、多角的な観察による気づきや提案を的確に文章表現できる。集団討議ではリーダーシップを発揮できる。A:積極的な地域活動での観察から、気づきや提案を文章表現できる。集団討議での確かな意見を述べる事ができる。B:地域活動での観察による気づきを文章表現できる。集団討議で自分の意見を述べる事ができる。C:地域活動に参加して学修した内容を文章表現できる。グループワークで自分の意見を述べる事ができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
配布資料で進めます。		学生だから体験できる地域社会との交流を通じ、誰もが大切にしたい「健康」への認識を深め、自身の健康についても考えください。また、地域に目を向け、学修を通して社会の健康課題と向き合い、その解決方法を考えましょう。	



科目名	地域課題研究Cクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13306	研究室	W-19
担当者	矢崎 久			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日5限、火曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
買い物難民、老老介護、孤独死など高齢化社会に共通した課題に加えて、豪雨や地震など近時増加する自然災害への対処など地域が抱える課題は少なくありません。これら諸課題から今年度は「防災」「減災」をテーマとして、地域における防災の現状と課題について学ぶとともに、具体的な活動を通じた課題解決能力の獲得を図ります。											
学修到達目標											
地域における「防災」をテーマに、課題の発見、解決目標の設定、目標達成にむけた実践計画の立案と実行、評価までの流れを学修します。											
授業の進め方											
火災、地震、豪雨などの災害や防災初動組織と地域連携のありかたについての座学、グループワーク、減災や防災と社会資源の活用、災害支援ボランティア体験、さらに自治防災組織に関わることで「防災士」としての実践力を涵養します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	地域課題とはなにか	地域社会とはなにか、地域社会の課題とは何かを学びます。					事前：配布資料(地域社会と課題)を講読する(2時間)事後：研究の概要をまとめる(2時間)				
2	地域と防災	地域社会における防災の意義、その現状と課題を学びます。					事前：配付資料(地域防災)を講読する(2時間)事後：課題を作成する(2時間)				
3	地域と防災	地域社会における防災の実情を知り、その課題を抽出します。					事前：実情を調査する(3時間)事後：課題抽出表を作成する(3時間)				
4	地域課題としての防災	抽出された地域社会における防災の課題と、その解決策を検討します。					事前：解決目標を絞り込む(2時間)事後：解決計画を検討する(2時間)				
5	地域課題としての防災	課題ごとの解決策の決定、解決策を実践するための計画を作成します。					事前：課題の整理と解決策を研究する(4時間)事後：実践計画案を作成する(2時間)				
6	防災と社会資源	地域防災に求められる資源とはなにかを調べます。					事前：求められる資源を調査する(4時間)事後：資源マップを作成する(2時間)				
7	防災と社会資源	地域災害の想定規模を知り、災害発生時に活用可能な資源を調べます。					事前：災害想定を調査する(3時間)事後：社会資源を調査する(3時間)				
8	災害と危機管理	危機管理とはなにか。何を、どのように管理すべきなのか。そのポイントを学びます。					事前：危機管理について調べる(3時間)事後：管理ポイントを整理する(2時間)				
9	災害と危機管理	災害の予防、災害の状況把握、防災と減災の対策検討、対策の実施計画を策定します。また実施計画書の実現可能性を検討します(図上訓練の準備)。					事前：訓練の手順を調査する(4時間)事後：訓練計画書を作成する(4時間)				
10	災害と危機管理	実施計画書に基づいた図上訓練を実施します。					事前：訓練手順を確認する(2時間)事後：訓練報告書を作成する(3時間)				
11	地域住民の防災意識	地域に住む人々の防災意識を知るための調査準備(アンケート作成)について学びます。					事前：アンケートの内容を検討する(4時間)事後：アンケートの作成と調査依頼をする(5時間)				
12	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識を知るためのアンケート調査をおこないます。					事前：アンケート手順表を作成する(5時間)事後：結果の分析と集計をおこなう(5時間)				
13	地域住民の防災意識	アンケート調査の結果集計と分析をおこないます。					事前：集計と分析をおこなう(5時間)事後：報告書を作成する(5時間)				
14	地域防災組織との交流	アンケートの集計結果に基づいた地域防災組織の必要性、果たす役割、望まれる体制、防災訓練の実際について学びます(消防団の見学準備・訪問依頼)。					事前：消防団を調べる(4時間)事後：報告書を作成する(3時間)				
15	地域防災組織との交流	消防団を訪問して防災訓練の実際を学びます。					事前：見学依頼書を作成し依頼する(4時間)事後：報告書を作成する(3時間)				
16	地域防災組織との交流	消防団以外の地域防災組織、自治防災組織について学びます。					事前：防災組織を調査し報告書を作成する(4時間)事後：調査結果をまとめる(3時間)				
17	防災訓練	地域防災組織、自治防災組織による防災訓練に企画段階から参画します。					事前：訓練企画に参画する(5時間)事後：訓練計画案を作成する(3時間)				
18	防災訓練	防災訓練との協働と防災訓練に係る部門との調整について学びます。					事前：計画案を修正する(3時間)事後：計画書を作成する(3時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	防災訓練	防災訓練計画書に基づいた防災訓練を実施します。	事前：訓練計画を確認する（2時間）事後：報告書を作成する（3時間）
20	災害とボランティア	被災後の地域で何が求められるのかを調べます。	事前：調査をおこなう（5時間）事後：報告書を作成する（3時間）
21	災害支援とボランティア	被災地のニーズに基づいた災害支援ボランティア活動の実際を学びます（東日本大震災派遣松本大学ボランティア活動）。	事前：実践報告書を読む（2時間）事後：ボランティア活動をまとめる（3時間）
22	災害支援とボランティア	日本各地の被災地支援がどのようにおこなわれたのかを調べます。	事前：実践報告書を読む（4時間）事後：報告書を作成する（3時間）
23	災害支援とボランティア	被災地支援ボランティアを体験します（参加可能な場合）。	事前：支援を準備し活動計画書を作成する（5時間）事後：活動報告書を作成する（3時間）
24	災害と自治防災組織	防災士の果たす役割、地域防災組織との連携・協働による地域防災をありかたを調べます。	事前：地域防災組織を調査する（5時間）事後：報告書を作成する（3時間）
25	災害と自治防災組織	地域防災における防災士の果たす役割とそのあり方を研究します。	事前：防災士の役割を検討する（3時間）事後：役割をまとめる（3時間）
26	自治防災組織と防災士	自治防災組織と防災士の連携について研究します。	事前：連携を研究する（3時間）事後：防災組織案を作成する（3時間）
27	災害と地域防災組織1	災害時に機能する地域防災組織のあり方、防災訓練のあり方を研究します。	事前：地域防災組織と活動案を作成する（4時間）事後：防災訓練計画書を作成する（4時間）
28	災害と地域防災組織2	地域防災組織と協働した防災訓練（図上・実践）を実施し、その結果を分析します。	事前：訓練計画書の見直しと確認をおこなう（3時間）事後：実施報告書を作成する（3時間）
29	実践の検証	地域課題の解決にむけた一連の学び・実践を検証します。	事前：報告書を見直す（4時間）事後：研究報告書を作成する（4時間）
30	実践の検証	これまでの地域課題研究の成果をまとめます。	事前：研究報告書を作成する（4時間）事後：まとめ（5時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜配布します。		出席レポート：30% 実技：30% 定期試験：40% 「防災士」資格の理念である自助・共助・協働の姿勢があるか、演習および訓練に求められる知識と技能を發揮しているかを総合的に判定します。 成績評価基準「S」レポート、演習と実技、定期試験のすべてが90%以上 「A」" 80%以上 「B」" 70%以上 「C」" 60%以上	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜プリントを配布します。		履修は「防災士養成講座」を受講し認証試験に合格している者、あるいは地域防災に関心があり「防災士」の取得を目指している者に限定します。	

科目名	地域課題研究Dクラス		学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13306	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日3限		
関連資格					履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
地域社会を支える人材の育成は地域社会の存続や発展にとって大きな課題です。地域の様々なひとづくり(教育)に関わる活動に参加することを通して、地域が抱える教育課題を発見することを目的とします。さらに、現在そして将来にわたり、教育を巡る課題の解決のためにできることは何かを考えることも目的とします。										
学修到達目標										
1.地域のひとづくり(教育)の活動に参加し、コミュニケーション力を高めようとする事ができる。2.地域のひとづくり(教育)の実際を知り、その意義や役割、特徴を理解することができる。3.地域のひとづくり(教育)を巡る課題について考えることができる。4.地域のひとづくり(教育)を巡る課題の解決に向けた取り組みの方法を考え、実行に結びつけていくことができる。										
授業の進め方										
講義とフィールドワークで学んだ内容を基にして課題を発見し、グループワークでは課題解決に向けた取り組み方法について考え、それらを実行に結び付けていきます。またプレゼンテーションや報告書などを通して学んだ内容を発信することも重視していきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス1	授業内容及び授業の進め方を説明します。				シラバスを読み、授業全体のイメージを持つ(1時間)。				
2	地域とひとづくり(1)	松本市の地域における教育活動の現状について学びます。				松本市のHPを読む(1時間)。				
3	地域とひとづくり(2)	地域教育の意義や役割、特徴について学びます。				前時の復習、関連する資料を読む(1時間)。				
4	地域とひとづくり(3)	地域教育の意義や役割、特徴について体験を通して理解を深めます。				前時の復習、体験のまとめ(1時間)。				
5	地域とひとづくり(4)	地域のひとづくりを巡る課題について考察します。				前時の復習、課題のまとめ(1時間)。				
6	地域とひとづくり(5)	地域のひとづくりに関わる環境と歴史について学びます。				関連する資料を読む、学習内容をまとめる(1時間)。				
7	地域とひとづくり(6)	地域のひとづくりに関わる環境と歴史について学んだことをまとめ、考察を深めます。				前時の復習、関連する資料を読む(1時間)。				
8	地域とひとづくり(7)	地域と学校、家庭の連携の実践例を調べます。				前時の復習、実践例をまとめる(1時間)。				
9	地域とひとづくり(8)	信州型コミュニティ・スクールの実践例を調べます。				前時の復習、実践例をまとめる(1時間)。				
10	地域とひとづくり(9)	これまでに学んだことをもとに地域のひとづくりを巡る課題について考えを深め、今後の学習課題について話し合います。				これまでの学習内容をまとめる。(1時間)。				
11	地域とひとづくり(10)	地域のひとづくりを巡る課題の解決に向けた取り組み方法を考えます。				前時の復習、課題解決の方法をまとめる(1時間)。				
12	活動参加の準備(1)	地域のひとづくりを巡る課題の解決に向けた取り組みの準備をします。				前時の復習、準備が十分にできたかどうかの確認する(1時間)。				
13	活動参加の準備(2)	活動に参加する時に配慮する事項について学びます。				前時の復習、配慮事項についての確認する(1時間)。				
14	地域の自然環境を生かした取り組み(1)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。				活動の事前設定と片づけを行う(1時間)。				
15	地域の自然環境を生かした取り組み(2)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。				お礼状の作成と送付、活動メモの作成をする。(1時間)。				
16	地域の文化資源を生かした取り組み(1)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。				活動の事前設定と片づけ(1時間)。				
17	地域の文化資源を生かした取り組み(2)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。				お礼状の作成と送付、活動メモの作成(1時間)。				
18	中間報告の準備	これまでの活動内容についてまとめ、プレゼンテーションの準備をします。				前時の復習、プレゼンテーション内容の確認(1時間)。				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間報告会	これまでの活動内容についてまとめたことを発表します。	プレゼンテーションの役割分担、発表の振り返り(1時間)。
20	地域とひとづくり(11)	地域のひとづくりの巡る課題についての聞き取り調査を行います。	聞き取り調査を行うための注意点の確認、調査メモの整理(1時間)。
21	地域とひとづくり(12)	聞き取り調査の内容についてグループでまとめます。	前時の復習、調査内容のまとめ(1時間)。
22	活動参加の準備(3)	地域のひとづくりを巡る課題の解決に向けた取り組みの準備をします。	体験の振り返り(1時間)。
23	地域の伝承文化を生かした取り組み(1)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。	活動の事前設定と片づけ(1時間)。
24	地域の伝承文化を生かした取り組み(2)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。	活動の事前設定と片づけ(1時間)。
25	地域の伝承文化を生かした取り組み(3)	地域の課題解決に向けた取り組みを実行します。	お礼状の作成と送付、活動メモの作成(1時間)。
26	報告書作成に向けた準備	これまでに地域での課題解決に向けた取り組みとして行ったことや地域のひとづくりを巡る課題について考えたことなど、報告書にまとめる内容を考えます。	これまでの活動メモや調査メモの整理、報告書作成の見直しをもつ(1時間)。
27	報告書の作成(1)	地域での課題解決に向けた取り組みとして行ったことや地域のひとづくりを巡る課題について考えたことなどを報告書にまとめます。	報告書作成作業の進捗確認(1時間)。
28	報告書の作成(2)	地域での課題解決に向けた取り組みとして行ったことや地域のひとづくりを巡る課題について考えたことなどを報告書にまとめます。	報告書作成作業の進捗確認(1時間)。
29	報告書の作成(3)	地域での課題解決に向けた取り組みとして行ったことや地域のひとづくりを巡る課題について考えたことなどを報告書にまとめ、完成させます。	報告書作成作業の進捗確認、点検作業(1時間)。
30	まとめ	完成した報告書を読みあい、これまでの授業を総括します。	これまでの授業の復習(1時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要に応じて適宜資料を配布します。		受講態度：50% 課題：50% 受講態度(授業・活動への意欲、理解度)、課題(中間報告、報告書等)を総合して評価します。 <評価基準> S:授業や体験に意欲的に参加し、地域の教育課題とその解決方法について自分なりの考えを論理的に説明できる。A:授業や体験に意欲的に参加し、地域の教育課題を説明できる。B:授業や体験に積極的に参加し、体験で学んだことを整理して説明できる。C:授業や体験に参加し、体験で学んだことを説明できる。	
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)	
「まちが変わる 若者が育ち、人が元気になる 松本大学がかかわった」白戸洋著(松本大学出版会) 「ローカルメディアのつくりかた」影山裕樹著(学芸出版社)		地域の教育に関する課題を解決する方法などについて、体験を通して考える授業ですので、意欲的な授業参加を期待しています。	

科目名	日本文化		学年学期	1年前期	単位数	2	ナパ'リング	UC13401	研究室	W-26	
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日1限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>本授業では、日本で培われてきた芸能・文化芸術・自然観・食生活・住生活・建築・武道・宗教などを全般にわたって学び、日本文化の基礎知識を総合的に養います。ジャポニズムからディスカバー・ジャパン、クール・ジャパンなど日本文化ブームになっています。一過性ではなく、総合的に日本文化の豊かさ、真の魅力の理解を深めていきます。</p>											
学修到達目標											
<p>日本の文化、美意識を学び、暮らしの中に息づいている多くの文化に気付き、それを享受でき、説明することができる。さらに、日本人としての誇りを感じ、外国人にも伝えることができる。</p>											
授業の進め方											
<p>市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義になります。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価について案内します。					日本文化で魅力を感じるものとその要因について考える。(4時間)				
2	日本の美(自然・建築)	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)					後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
3	日本の美(伝統文化)	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)					後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
4	日本の伝統文化 華道	いけばなと日本人の自然観について述べます。					日本の伝統芸能についてどのようなものがあるか考える。(4時間)				
5	日本の伝統文化 茶道	「茶の文化 利休の心・42の教え」とホスピタリティについて述べます。					茶道から学ぶおもてなしの心について考える。(4時間)				
6	日本の伝統工芸と民藝	日本の工芸品と柳宗悦によって提唱された民藝運動について述べます。					身の周りにおける生活雑器を探し、魅力を考える。(4時間)				
7	和食「和食の魅力とは」	古代から現在までの食文化と食生活を解説します。					食生活についての課題について考える。(4時間)				
8	日本の宗教 仏教と神道	仏教と神道についての考え方や日々の暮らしにある宗教行事について解説します。					各家庭の宗教と教えについて考える。(4時間)				
9	江戸文化と武士道	武士道と城下町・国宝の城について講義します。武士道では、今も息づいている日本人の精神性についてあるいは、ビジネスに活かせる宮本武蔵の思考を説明します。					武士道と言われ思いつくもの考える。(4時間)				
10	浮世絵とジャポニズム	なぜ、西洋画家が浮世絵を愛したのか 日本の美と文化について、モネやゴッホやエミール・ガレの作品をみながら解説します。					モネ・ゴッホについて調べる。(4時間)				
11	現代の日本文化 大衆文化	大衆文化として漫画文化について歴史から読み解きます。					漫画の魅力を考える。(4時間)				
12	現代の日本文化 農村文化	現代日本の生活文化 農村文化の魅力 について理解を深めます。					日々の生活文化について考える。農村文化の魅力について考える。(4時間)				
13	現代の日本文化 芸術振興(文化の活かし方)	文化の活かし方、楽しみ方について解説し、暮らしの中で文化芸術が活きるための施策について解説します。					自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
14	現代の日本文化 芸術振興(芸術の活かし方)	文化の活かし方、楽しみ方について解説し、暮らしの中で文化芸術が活きるための施策について解説します。					自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
15	まとめ	日本文化の魅力についてのまとめをします。					全講義の復習をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
特になし。				<p>定期試験：70% 課題：30%</p> <p>S：授業内容を高度に理解し、提案力が特に優れている。</p> <p>A：授業内容を高度に理解し、探究心・提案力が優れている。</p> <p>B：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力がある。</p> <p>C：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力が60%程度である</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				<p>あたりまえのような暮らしの中に、日本人の美意識が宿っています。この講義でそれらの多くからいくつかを選択して日本人としての美しい心と伝統芸能、伝統工芸について講義します。皆さんも日本の魅力を探してください。</p>							

科目名	異文化理解		学年学期	1年前期	単位数	2	ナパリング	UC13402	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業では、自分自身の文化と他者の文化を比べ、それらを意識することによって、どのように文化間において差が見られるか、英文等を通して理解していきます。その際に、それらの異文化間での違いについての事象を分類化して理解したり、その事象を具体化して自分自身のケースと比較することで理解していきます。これらにより、自身の文化をさらに意識していくと共に、他の文化に対し自文化の観点からのみ理解していくことを避ける考え方を身につけます。授業は全て英語で行われます。</p>										
学修到達目標										
異なる文化においてお互いを理解しあうために、英語で様々なことが理解できる。また文化を理解するために、自分自身の文化を考えながら、それとは異なる文化を知り、その価値観等を理解できる。										
授業の進め方										
学習内容に応じ、グループワークや講義形式、英語による発表など様々な形態で行います。また授業は英語で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・文化とは	授業の進め方、異文化理解の考え方について。				異文化理解の概要について理解する。(4時間)				
2	文化とは 1	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解します。				自身の文化におけるのNon-Material cultureについて具体的に理解を深める。(4時間)				
3	文化とは 2	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解し、まとめます。				自身の文化におけるのNon-Material cultureについて具体的に理解を深める。(4時間)				
4	文化のルールと許容される行動 1	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解します。				自身の文化のNormsについて振り返り、自文化・多文化での受容について深く理解する。(4時間)				
5	文化のルールと許容される行動 2	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解し、まとめます。また調べたものについて発表します。				自身の文化のNormsについて振り返り、自文化・多文化での受容について深く理解する。(4時間)				
6	ステレオタイプ 1	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解します。				ステレオタイプについて振り返り、自文化・多文化での受容について深く理解する。(4時間)				
7	ステレオタイプ 2	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解し、まとめます。				ステレオタイプについて振り返り、自文化・多文化での受容について深く理解する。(4時間)				
8	メディアと文化 1	メディアによる考え方への影響について理解します。				メディアの自身の考え方、文化への影響を深く理解する。(4時間)				
9	メディアと文化 2	メディアによる考え方への影響について理解し、まとめます。				メディアの自身の考え方、文化への影響を深く理解する。(4時間)				
10	非言語コミュニケーション 1	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をします。				非言語コミュニケーションの自文化と多文化の違いを深く理解する。(4時間)				
11	非言語コミュニケーション 2	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をし、まとめます。				非言語コミュニケーションの自文化と多文化の違いを深く理解する。(4時間)				
12	時間の考え方 1	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解します。				文化間での時間の感覚の違いを深く理解する。(4時間)				
13	時間の考え方 2	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解し、まとめます。				文化間での時間の感覚の違いを深く理解する。(4時間)				
14	接触と空間 1	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解します。				身体的接触と空間の使用の仕方の文化差について深く理解する。(4時間)				
15	接触と空間 2	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解し、まとめます。				身体的接触と空間の使用の仕方の文化差について深く理解する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「This Is Culture」梶浦麻子・Gregory Goodmacher著TA/YK編(南雲堂) ISBN:978-4-5231-7489-9(生協で購入してください。)				<p>受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50%</p> <p>S:授業を高度に理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書より難しい英語とテーマが理解できる。A:授業をよく理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語とテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題を誠実にやり、教科書レベルの英語やテーマが理解できる。C:授業が理解でき、課題を誠実にやり、教科書の英語とテーマが理解できる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				<p>授業は全て英語で行われます。復習とまとめ課題をして下さい。異文化の例等に対し偏見を持たないようにして下さい。原則、欠席は2回までです。授業では自分の意見を英語で言うなど積極的に取り組んでください。</p>						

科目名	比較文化		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UC13403	研究室	E-18
担当者	松原 健二		必修選択	選択	科目種別	講義	ワイズア-			
関連資格					履修条件	履修者が100名を大きく超えた時は抽選となる場合があります				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読書科目)					
		A	B	C						
授業概要										
アメリカ文化を代表とする欧米文化と日本文化を比較することによって、欧米的な考え方や欧米文化への理解を深めると共に、我々が親しんでいる日本文化を客観的に見直していくことをめざします。題材として、贈答・挨拶・食事・住居・買物など、日常生活上の身近なものを取り上げて進めて行きます。										
学修到達目標										
自分たちが慣れ親しんでいる日本文化が、唯一絶対のものではないことを理解できる。また、言葉と文化の密接なつながりや、言葉の探求によって人々の生活様式や文化を類推できる。										
授業の進め方										
まず、「日米異文化間適応訓練」のクイズに取り組みます。その後、プリント教材を用いて講義を進めて行きます。学習内容の理解を助けるために、スライドやビデオなどの視聴覚教材も利用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	文化とは/贈答習慣	人々の暮らしの中で、贈答というものが人間関係の潤滑油として機能している実態を学びます。そして日本人に多く見られる旅行土産について、その歴史的な成立過程を踏まえて考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
2	おごりと食事習慣	「おごる」行為の背後にある人間関係について考えます。また日常生活の中で非常にありふれた食事習慣の中に、異文化が潜んでいる事実を検証します。食器とプライバシーについても、考察します。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
3	挨拶	挨拶というものが、文化により、性別により、また時代により違いが認められるものであることを学びます。日本語と英語の挨拶言葉の違いから、その背後にある、社会における人間関係の違いを考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
4	客/人格構造の比較	社会における人間関係や、家族間の人間関係を、「人間関係のベクトル」の観点から考えます。そして三重の同心円のモデルを使って、日本人とアメリカ人の人格構造の違いを比較します。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
5	家と住まいの文化論	アメリカ開拓史についてその概要を学び、17世紀初頭に開拓者たちがどのようにして住宅建築をしたのかを学びます。そして、伝統的な日本の住宅とどのような違いがあるのかを、検証して行きます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
6	家と住まいの文化論	建築工法や建築材料によって、窓の造形に違いが生まれることを学びます。石造りの建築においてアーチ様式が生まれた理由や、ドームへの発展、気候風土と建築様式の関連性についても考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
7	エチケット/羞恥心	羞恥心の感じ方は、文化の影響を受けていることを学びます。そしてその違いがエチケットという社会規範に影響していることを検証して行きます。中国に生まれた纏足という珍しい文化についても考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
8	事故と謝罪(1)	謝罪言葉と責任の所在という問題について、日米を比較しながら考えます。題材として「えひめ丸事故」を取り上げ、米側からの謝罪がなぜ長い期間行われなかったのかという問題を、文化的視点から考えます。				えひめ丸事故について調べる/授業プリントの復習(4時間)				
9	事故と謝罪(2)	謝罪行動の日米での違いを、「ファイアストンタイヤ破裂事故」を題材にして考えます。フォード社とプリヂストン社の対応の違いは、深い文化的な問題に根ざすものであることを学びます。				「ファイアストンタイヤ破裂事故」について調べる/授業プリントの復習(4時間)				
10	結婚と離婚の国際比較	初婚年齢や婚姻率の国際比較から、結婚というものを取り巻く諸文化を学びます。また日本における結婚は伝統的に「家と家」の結びつきである歴史が長かった実態も検証します。また離婚についても考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
11	おつりの比較文化論	日本では、おつりは引き算で渡されますが、欧米では足し算で渡されていることを学びます。そしてこの社会習慣の違いの背景には、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを検証して行きます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
12	決済方法の比較文化論	決済方法の選択にも、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを学びます。そして、この問題が小切手や口座振替の普及率と密接に関連していることを検証して行きます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
13	広告の比較文化論	同じメーカーの洗顔クリームを題材にして、日米の広告を比較します。広告の仕方やキャッチフレーズの違いの背景には、売り手側の会社と買い手側の消費者との人間関係の捉え方の違いがあることを学びます。				Culture Assimilatorの予習/同一商品の広告を、日米で比較する。(4時間)				
14	個人と集団の関係	童話「アリとキリギリス」を題材に、日本では従来、異文化的改変が施された翻訳が広く読まれていた実態を検証します。そして、社会における個人と集団の関係が、日本と欧米では大きく異なることを学びます。				家にあるインソップ童話を調べる/意図的な改変が施された翻訳事例を調べる。(4時間)				
15	まとめ	今までの14回の講義の中で最も印象に残った講義の一つを取り上げ、「講義前の考え」「講義で学んだこと」「講義の後の考え」という構成でまとめる。				授業で配布されたプリントを見直し、半期で学んだことを整理しておく。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
独自のプリント教材を作成し、毎回の授業で配布します。				受講態度:30% レポート:70% S:探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して自分なりの解決方法を見つけ出すことができる。A:探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して解決方法を見つけ出すことができる。B:授業に参加し、各回の講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を考えることができる。C:授業に参加し、講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を探ることができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				この講義では、異文化衝突の場面において、どのような問題があり、いかなる解決方法があるかを考えてもらいます。「課題解決能力」						

科目名	文化人類学	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	UC33404	研究室	C-7
担当者	福島 智子	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C						
授業概要									
異文化を知ることで自らを確認し、その上で両者を相対化しうる感受性を多少でも身につけること。これが本講義のめざすところです。あたりまえの世界を疑い、文化とは何かを考えます。文化人類学は難しい学問ではありません。抽象度の高い理論についても触れますが、基本的には身近にある(「理由はわからないけど、そうになっている」)事例を捉えなおしてみることが重要です。内容については講義計画を参考にしてください。									
学修到達目標									
自身が属する集団(地域社会、日本)の文化を理解し、異文化を学ぶことで自文化を相対化できる。									
授業の進め方									
講義形式で行います。講義で学んだ視点から各自の生活を振り返ってもらうため、講義後に小レポートを課す場合があります。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	文化人類学とは	文化人類学とは何か概説します。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
2	文化相対主義と自文化中心主義	文化の捉え方である文化相対主義と自文化中心主義について概説します。				事例研究として各自リサーチする。(4時間)			
3	文化相対主義とFGM	事例研究としてFGM(Female Genital Mutilation)を取り上げます。				ドキュメンタリー映像に対する意見をまとめる。(4時間)			
4	神話(1)	神がこの世を作る話である神話(物語)の構造について学びます。				具体的な神話を取り上げ、調べる。(4時間)			
5	神話(2)	神話の具体的事例を紹介します。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
6	信仰と世界観(1)	世界宗教と民族宗教、一神教と多神教など、宗教の分類について学びます。				配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
7	信仰と世界観(2)	呪術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。				配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
8	信仰と世界観(3)	妖術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。				配布プリントの要点をまとめる(4時間)			
9	信仰と世界観(4)	日本人の宗教観の特徴について概説します。				配布資料の要点をまとめる。(4時間)			
10	通過儀礼	人が一生のうちに経験する通過儀礼とは何かを学びます。				授業中に配布する課題プリントを取り組む。(4時間)			
11	文化と身体(1)	葬送儀礼について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
12	文化と身体(2)	事例研究として特定の地域の葬送儀礼を取り上げます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
13	病気と治療の文化人類学：総論	病気と治療をテーマとした文化人類学について概説します。				授業中に配布する課題プリントを取り組む。(4時間)			
14	病気と治療の文化人類学：各論	特定の地域の治療実践を、文化人類学の観点から紹介します。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
15	まとめ	講義全体のまとめ				総復習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
さまざまな具体的事例を通して考えるという科目の特性からテキストは指定せず、プリントと資料を配布します。		定期試験：60% 課題：40% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。A：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「文化人類学」波平恵美子編(医学書院)		同一テーマで講義が続いている場合は欠席しないように心がけてください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。							



科目名	音楽の歴史と鑑賞			学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	UC33405	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
西洋音楽史を中心にどのように音楽文化が発展してきたのか、また日本の伝統文化や西洋から影響を受けた現代日本の音楽界の現状について各回のテーマを取り上げます。邦楽と洋楽の音律や様式、楽器の違いなど、講義と鑑賞及び実演体験を通して音楽の多様性について理解し感じ取り学んでいく授業です。さらにグループで興味ある作曲家や楽曲を紹介し合い共有します。											
学修到達目標											
各回のテーマに沿ってそれぞれの時代や地域を代表する楽曲を鑑賞したり演習したりしながら、時代の流れと共に音楽がどのように発展し人間の生活と関わっているのかについてまとめレポートすることができることです。また自分の興味のある作曲家や楽曲について紹介することができることです。											
授業の進め方											
毎回テーマに沿ってパワーポイントで時代背景や楽曲様式の特徴、聴く観点等を説明し、課題ワークシートにキーワードを記入しながら鑑賞します。歌ったり楽器に触れたり能動的な活動も取り入れます。作曲家新聞の作成とプレゼンテーションを行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス 音楽の始まり	授業の進め方についての説明と自己紹介を含めたアンケートを記入します。音楽の始まりとして古代ギリシャから中世、ルネッサンスの音楽を紹介し、グレゴリア聖歌を歌います。					自分の生活における音楽の意味について考えてくる。(4時間)				
2	バロックの音楽	楽器の発達やバロック期の作曲技法について学び、ビバルディ、バッハ、ヘンデルの楽曲を取り上げ鑑賞します。					バロック音楽を聴き感想をまとめる。(4時間)				
3	ウィーン古典派の音楽	ハイドン、モーツァルトの器楽曲からソナタ形式について学びます。またオペラについても触れます。					ウィーン古典派の音楽を聴き、感想をまとめる。(4時間)				
4	古典派の音楽～交響曲	ベートーベンの交響曲を鑑賞し、第九の合唱部分をドイツ語で歌います。					第九の練習と古典派の音楽を聴き感想をまとめる。(4時間)				
5	ロマン派の音楽～歌曲	ロマン主義について取り上げシューベルト、シューマン等の歌曲を中心に鑑賞します。					ロマン派の歌曲を聴き、感想をまとめる。(4時間)				
6	ロマン派の音楽～器楽曲	標題音楽と交響詩や、サロン文化などに触れ、ブラームス、リスト、ショパン等の器楽曲を中心に鑑賞します。					ロマン派の音楽を聴き、感想をまとめる。(4時間)				
7	オペラ	イタリアオペラからワーグナーの楽劇までを概観します。					作曲家新聞の構想を練り資料を集める。(4時間)				
8	バレエ音楽	チャイコフスキーの3大バレエ曲を中心に鑑賞します。					作曲家新聞を作成する。(4時間)				
9	国民楽派その他	様々な国を代表する国民楽派や民族主義の作曲家と代表曲を紹介します。作曲家新聞をグループで発表します。					国民楽派の音楽を聴き、感想をまとめる。(4時間)				
10	印象派 フランス音楽	ドビュッシーを中心に、フォーレ、ラベルの楽曲を絵画や文学と関連させて鑑賞します。作曲家新聞をグループで発表します。					印象派の音楽を聴き、感想をまとめる。(4時間)				
11	20世紀の音楽 無調音楽	新ウィーン楽派やストラヴィンスキーなどから調性の崩壊と12音技法の音楽を紹介し、					現代音楽を聴き、感想をまとめる。(4時間)				
12	アメリカ音楽	ジャズ、ポップ、ロック、ラテン音楽を鑑賞し体験します。					ジャズやロックを聴き、感想をまとめる。(4時間)				
13	日本の伝統文化について (1)古代から安土桃山	雅楽、能、狂言と宗教や政治との関わりについて概観し鑑賞します。笙、箏などの和楽器体験や謡いにも挑戦します。					最終レポートの準備、資料を集める。(4時間)				
14	日本の伝統文化について (2)江戸時代	琴、尺八、三味線などの和楽器の体験と共に文楽や歌舞伎を鑑賞し簡単な場面の演習を行います。					最終レポートを作成する。(4時間)				
15	現代の日本音楽とまとめ	明治以降の西洋音楽の影響を受けた日本の音楽教育や現代曲を鑑賞し、総括します。					総復習と最終レポートを完成させる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜プリントを配布します。				受講態度：50% レポート：50% S:意欲的に課題に取り組み、学習内容をすべて理解し文章表現できる。A:意欲的に課題に取り組み、学習内容を概ね理解し文章表現できる。B:意欲的に課題に取り組み、学習内容をまとめることができる。C:課題に取り組み学習内容をまとめることができる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで」久保田慶一 他著久保田慶一編(教育芸術社) ISBN: 948-4-87788-788-9 「もう一度学びたいクラシック」西村理 監修著(西東社)				CDやDVDを鑑賞しながら、実際歌ったり演奏もします。私語を慎み、意欲的に読んでください。毎回プリントを配布しますので自己管理してください。							

科目名	海外研修		学年学期	1・2・3・4年通年	単位数	2	ナパリング	UC13406	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業は、事前学修、現地研修、事後学修から構成されています。事前学修では、「研修目的」、「研修先調査」、「わが町紹介」の3つのテーマでのプレゼンや英語集中学修(Survival English)を行います。なお、プレゼンは日本語と英語で行います。現地研修先は、神奈川県湘北短期大学との共催によるニューカッスル大学(オーストラリア)での語学・文化体験研修です。また、授業外学修では「English Cafe」や「E-Learning」での学修、現地研修終了後の事後学修では報告書とレポートを作成します。</p>										
学修到達目標										
<p>学修到達目標は、異文化について学び、異文化の相手を尊重しつつ自分の考えを明確に相手に伝えることができる。また、プレゼンテーションや英語学修を通して、コミュニケーション能力を育成する、です。</p>										
授業の進め方										
<p>事前学修と事後学修は、座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行います。また、授業日時は不規則で、外部講師による土曜・日曜授業もあります。下記の授業計画は参考です。現地研修の内容や費用は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。</p>										
<p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業概要と現地研修先の紹介	本授業の特徴と、現地研修先であるオーストラリアのニューカッスル大学のプログラムに関して説明します。					各自の留学目標や抱負についてまとめ、プレゼンテーションの準備をします。(1時間)			
2	プレゼンテーション(留学の目標)	履修者各自の留学の目標を設定し、整理する。また、各自の留学目標をレポートにまとめるとともに、パワーポイントで報告します。					各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)			
3	プレゼンテーション(留学の抱負と期待)	履修者各自の留学への抱負を整理する。また、各自の留学の抱負と期待をレポートにまとめるとともに、パワーポイントで報告します。					各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)			
4	プレゼンテーション(研修先の政治・経済)	各自で研修先の政治、経済などについて調べ、10分程度の報告に整理してパワーポイントで報告します。					各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)			
5	プレゼンテーション(研修先の社会・文化)	各自で研修先の社会や文化などについて調べ、10分程度の報告に整理してパワーポイントで報告します。					各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)			
6	渡航準備と危機管理	渡航の準備状況を確認し、渡航時と留学先での様々なリスクについて説明します。					外務省のホームページで海外のリスク状況を確認し、「たびレジ」等に登録します。(1時間)			
7	プレゼンテーション(日本社会の紹介)	10分程度で日本社会についてを英語で紹介し、また、相互にプレゼンテーションの評価を行います。					各自がパワーポイントでのプレゼンテーションの準備をします。(1時間)			
8	プレゼンテーション(長野県の紹介)	10分程度で長野県の産業や文化について英語で紹介し、また、相互にプレゼンテーションの評価を行います。					各自がパワーポイントでのプレゼンテーションの準備をします。(1時間)			
9	プレゼンテーション(わが町紹介)	10分程度、自分が住んでいる町を英語で紹介し、また、相互にプレゼンテーションの評価を行います。					各自がパワーポイントでのプレゼンテーションの準備をします。(1時間)			
10	サバイバル・イングリッシュ(挨拶)	挨拶などの会話能力をアクティブラーニングにより育成します。また、英語によるコミュニケーション力の育成を図ります。					授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)			
11	サバイバル・イングリッシュ(買い物)	アクティブラーニングを通して、買い物の際に必要な会話を学修します。また、英語によるコミュニケーション力の育成を図ります。					授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)			
12	サバイバル・イングリッシュ(交通)	アクティブラーニングを通して、目的地に行くための会話について学修します。また、英語によるコミュニケーション力とプレゼンテーション力の育成を図ります。					授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)			
13	サバイバル・イングリッシュ(病気)	アクティブラーニングを通して、病気になった場合の会話について学修します。また、英語によるコミュニケーション力とプレゼンテーション力の育成を図ります。					授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)			
14	サバイバル・イングリッシュ(各種テーマ)	アクティブラーニングを通して様々なテーマで会話し、英語によるコミュニケーション力とプレゼンテーション力の育成を図ります。					授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)			
15	体験報告	日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。					日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
開講時に指示します。また、適宜、プリント等の資料を配布します。					<p>受講態度：50% レポート：30% 実技：20%</p> <p>「受講態度」にはプレゼンテーション等、「レポート」には課題レポートや報告書、「実技」には現地研修の修了書が含まれます。また、評価「S」は、外国語と日本語で円滑なコミュニケーションや発表ができる。評価「A」は、外国語と日本語で伝えたいことを明確に伝えることができる。評価「B」は、外国語と日本語で伝えたいことを伝えることができる。評価「C」は、外国語と日本語で簡単な内容を伝えることができる。以上が目安です。</p>					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレットなどを使用します。					<p>本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク(危険)が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講状況に加えて、必要に応じてゼミ担当教員や語学教員等の意見を参考に決定します。</p>					

科目名	海外研修		学年学期	1・2・3・4年通年	単位数	2	ナパリング	UC13407	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業は、「海外研修」同様、事前学修、現地研修、事後学修の3つの部分で構成されています。事前・事後学修については「海外研修」を参照してください。現地研修先は、英国(Aberystwyth Uni.)、カナダ(Thompson Rivers Uni.)、オーストラリア(Australian Catholic Uni.)、台湾(義守大学)などです。研修では2~5週間程度現地の家庭や大学寮に滞在し、語学力の向上と異文化理解を深めます。また、事前学修では、English CafeやE-Learningでの学修を必修とします。</p>										
学修到達目標										
<p>本授業では、異文化の相手を尊重しながら自分の考えを明確に伝えることを教育目的にします。また、外国人との交流を通してプレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上を図り、企業が求めるグローバル・コンピテンスの育成を目指します。したがって、到達目標は、下記の評価基準に従って「英語と日本語で異文化の人たちと円滑なコミュニケーションがとれる」です。</p>										
授業の進め方										
<p>事前学修と事後学修は、座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行います。また、授業日時は不規則で、外部講師による土曜・日曜授業もあります。下記の授業計画は参考です。現地研修の内容や費用は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業概要と現地研修先の紹介	本授業の特徴と、現地研修先である大学等のプログラムに関して説明します。				各自の留学目標や抱負についてまとめ、プレゼンテーションの準備をします。(1時間)				
2	プレゼンテーション(留学の目標)	履修者各自の留学の目標を設定し、整理する。また、各自の留学目標をレポートにまとめるとともに、パワーポイントで報告します。				各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)				
3	プレゼンテーション(留学の抱負と期待)	履修者各自の留学への抱負を整理する。また、各自の留学の抱負と期待をレポートにまとめるとともに、パワーポイントで報告します。				各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)				
4	プレゼンテーション(研修先の政治・経済)	各自で研修先の政治、経済などについて調べ、10分程度の報告に整理してパワーポイントで報告します。				各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)				
5	プレゼンテーション(研修先の社会・文化)	各自で研修先の社会や文化などについて調べ、10分程度の報告に整理してパワーポイントで報告します。				各自がパワーポイントでの報告の準備をします。(1時間)				
6	渡航準備と危機管理	渡航の準備状況を確認し、渡航時と留学先での様々なリスクについて説明します。				外務省のホームページで海外のリスク状況を確認し、「たびレジ」等に登録します。(1時間)				
7	プレゼンテーション(日本社会の紹介)	10分程度で日本社会についてを英語で紹介し、また、相互にプレゼンテーションの評価を行います。				各自がパワーポイントでのプレゼンテーションの準備をします。(1時間)				
8	プレゼンテーション(長野県の紹介)	10分程度で長野県の産業や文化について英語で紹介し、また、相互にプレゼンテーションの評価を行います。				各自がパワーポイントでのプレゼンテーションの準備をします。(1時間)				
9	プレゼンテーション(わが町紹介)	10分程度、自分が住んでいる町を英語で紹介し、また、相互にプレゼンテーションの評価を行います。				各自がパワーポイントでのプレゼンテーションの準備をします。(1時間)				
10	サバイバル・イングリッシュ(挨拶)	挨拶などの会話能力をアクティブラーニングにより育成します。また、英語によるコミュニケーション力の育成を図ります。				授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)				
11	サバイバル・イングリッシュ(買い物)	アクティブラーニングを通して買い物の際に必要となる会話を学修します。また、英語によるコミュニケーション力の育成を図ります。				授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)				
12	サバイバル・イングリッシュ(交通)	アクティブラーニングを通して目的地に行くための会話について学修します。また、英語によるコミュニケーション力とプレゼンテーション力の育成を図ります。				授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)				
13	サバイバル・イングリッシュ(病気)	アクティブラーニングを通して病気になった場合の会話について学修します。また、英語によるコミュニケーション力とプレゼンテーション力の育成を図ります。				授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)				
14	サバイバル・イングリッシュ(各種テーマ)	アクティブラーニングを通して様々なテーマで会話し、英語によるコミュニケーション力とプレゼンテーション力の育成を図ります。				授業準備と宿題対応。ICTを活用した課題を行う。(1時間)				
15	体験報告	日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
開講時に指示します。また、適宜、プリント等の資料を配布します。				<p>受講態度：50% レポート：30% 実技：20%</p> <p>「受講態度」にはプレゼンテーション等、「レポート」には課題レポートや報告書、「実技」には現地研修の修了書が含まれます。また、評価「S」は、外国語と日本語で円滑なコミュニケーションや発表ができる。評価「A」は、外国語と日本語で伝えたいことを明確に伝えることができる。評価「B」は、外国語と日本語で伝えたいことを伝えることができる。評価「C」は、外国語と日本語で簡単な内容を伝えることができる。以上が目安です。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレットなどを使用します。				<p>本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク(危険)が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講状況に加えて、必要に応じてゼミ担当教員や語学教員等の意見を参考に決定します。</p>						

科目名	海外事情	学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	UC13408	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫	必修選択	選択	科目種別	講義	ワイズア-	火曜日3限		
関連資格				履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
本授業は、海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、中山大學(中華人民共和国)の先生、義守大学(台湾)の先生が講義する予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきていますので、隣国の社会や日本とのかかわりを理解することはとても重要です。開講時期は8月5日(月)~10日(土)を予定しています。また、授業内容の詳細は開講時に提示します。									
学修到達目標									
本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について学ぶとともに、特に中国や韓国などのアジア地域における日本の立場について自分の意見を説明できる」ことです。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」や「コミュニケーション力」の育成も図ります。									
授業の進め方									
授業は日本語による集中講義形式で行われます。また、時期は夏休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介、並びに協定校の嶺南師範学院と台湾の協定校の義守大学、韓国の東新大学等の紹介を行います。					ICTを活用し、指示されたプリントで講義内容を予習すること。(4時間)		
2	中国社会(歴史)	前半の7回は「中国の事情」を講義します。ここでは、中国社会の現状を歴史的な視点を含めて解説します。					配布プリント等を参考に中国近代史について把握する。(4時間)		
3	中国社会(現状)	ここでは、中国社会の現状を説明します。特に、生活、流行、等、文化的な面を取りあげます。					配布プリントやインターネット等により授業内容の理解を深め、発表の準備する。(4時間)		
4	中国経済(現状)	中国の経済状況について説明します。中国の経済は成長著しい状況がありますが、格差の問題等、様々な経済的な問題を抱えています。これらについて説明します。					配布プリントやインターネット等により授業内容を確認し、日本の状況も整理する。(4時間)		
5	中国経済(将来)	中国の人口は今後減少に転じ、日本以上の少子高齢化社会になることが懸念されています。ここでは、中国経済の将来について考えていきます。					現存する日中間の課題について調べ、レポートとして整理する。(4時間)		
6	中国の教育(制度)	中国の教育制度について解説します。また、中国の高等教育改革の現状について説明します。					わが国の高等教育についてその課題を調べ、レポートとして整理する。(4時間)		
7	日中の教育比較	中国と日本の教育制度や教育内容の比較を通して、高等教育の在り方を考えます。また、受講者にも学生時代に何をしておくべきかを考えてもらいます。					受講者各自が、学生生活に関するレポートを作成する。(4時間)		
8	まとめ	これまでの講義のまとめを行います。また、質疑応答を通して中国の実情の理解を深めます。					中国について理解したこと、考えたことについてレポートにまとめる。(4時間)		
9	台湾の歴史	台湾と日本との関係史について講義します。また、台湾と中国との関係についても言及します。					配布プリント等で授業内容を確認し、理解を深める。(4時間)		
10	日本統治以後の台湾	日清戦争以後の台湾の歴史について概観し、日本との結びつきについて考えます。					台湾社会の歴史について調べ、レポートとして整理する。(4時間)		
11	台湾社会の現状と将来	戦後の対中関係を踏まえた歴史について概観し、今後を展望します。					台湾と中国との関係について調べ、レポートとして整理する。(4時間)		
12	台湾の社会と教育	現代の台湾社会や若者の動向について概観するとともに、台湾の教育について整理する。					台湾は親日派が多い国として有名だが、その理由について考える(4時間)		
13	多様性の台湾	台湾は10を超える部族が共存する社会であるが、このような他部族国家台湾の部族政策等について考える。					台湾部族の独自性の維持、保護・支援政策について調べ、整理する(4時間)		
14	台湾の文化と宗教	台湾は原住民の文化、日本の文化、中国の文化が混在する国であるが、台湾文化の独自性や生活に溶け込んでいる宗教観について調べ、整理する。					日本のアイヌ民族や沖縄の問題について調べ、レポートに整理する。(4時間)		
15	日台中の諸問題	これまでの授業内容を参考にして、中国、台湾、日本の教員と学生諸君がいくつかのテーマを出し合い、議論をします。					議論内容をレポートとして提出する。(4時間)		
テキスト		成績評価の方法・基準							
プリント等を配布します。		出席レポート：50% レポート：20% 受講態度：30% 本授業での受講態度は、留学生等との積極的な意見交換や、自分の意見の発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
プリント等を配布します。		本授業は海外の大学の教員との連携授業です。従って、本務校の事情や本学の学生の事情により、お願する講師の変更や開校日の日程が変更になることもあります。日程変更等は掲示等で随時連絡します。							

科目名	海外事情		学年学期	1・2・3・4年後期	単位数	2	ナパリング	UC13409	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	ワイズア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業は、本学の教員と海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、協定校である台湾の義守大学の教員2名が担当する予定です。授業は、1名が観光関連の内容の授業を英語で、1名が台湾の歴史や文化、社会についての授業を日本語で行います。英語での授業は、ゆっくりとした分かりやすい授業で、必要に応じて英語の言い回しや文法等も学修します。</p>										
学修到達目標										
<p>本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について理解することと、日本と国際社会の関係について自分の意見を持ち、これを表現できること」です。また、アジアの諸国の歴史を通して米国や欧州の知識を深め、興味を持つことも目標としています。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、「論理的思考」の育成も図ります。</p>										
授業の進め方										
<p>授業は集中講義形式で行われます。また、時期は2月上旬の1週間を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	台湾の歴史(概論)	原住民時代、オランダ占領時代、明鄭統治時代、滿清支配時代、日本統治時代、中華民国統治時代、南京国民政府、台湾国民政府、民主化後について説明します。				講師が所属する国や大学、台湾の歴史等について調べ、整理します。(4時間)				
2	日本統治後の台湾	台湾が本格的に開発された日本統治時代以降について説明します。特に、「農業は台湾、工業は日本」と分担することを目的にした台湾農業振興策について説明します。				授業内容を整理し、レポートにまとめるとともに、日本と魚地時代を調べます。(4時間)				
3	台湾社会の現在と将来	台湾は日本以上の少子高齢化が進んでおり、その対策として多くの外国人労働者を受け入れてきた。現在は中国の影響が増してきており、国際的な独立国としての存続が難しい状況にある。				台湾社会を調べ、他国との国際関係について整理します。(4時間)				
4	台湾の教育	台湾の教育制度について説明します。台湾では172大学院校が高等教育を提供しており、毎年14万人が1~2月の全国統一試験を経て高等教育を受けます。このような台湾の現状を説明します。				台湾の教育制度と状況を調べ整理します。(4時間)				
5	多様性の台湾	台湾は移民国家です。多くの台湾人は、400~500年もの間助け合い、互いに学びあう精神移民の精神を大切に、原住民と共に「フォルモア(癒しの島)」を築いてきました。これを説明します。				台湾の原住民について調べ、整理します。(4時間)				
6	台湾の文化と宗教	台湾では、様々な民族が共存していることから多くの宗教があり、また多くの文化が根づいています。授業では、台湾の様々な宗教と文化について説明します。				台湾の宗教について調べ、整理します。(4時間)				
7	総まとめ	これまでの授業内容である、台湾の歴史と文化、民族多様性について再整理し、台湾についての印象等、受講者相互で発表し、意見交換します。				これまでの授業を振り返り、自分の意見をまとめます。(4時間)				
8	観光とホスピタリティ	観光とホスピタリティについて概念的な説明をします。				観光業とホスピタリティについて調べ、整理します。(4時間)				
9	台湾の観光地と世界遺産	世界遺産について考えます。問題点、課題について整理するとともに台湾の観光地を紹介します。				世界遺産の制度について調べ、整理します。(4時間)				
10	台湾の観光地の魅力	台湾の観光地の魅力を写真、スライドなどを使用して説明します。				台湾の観光地について調べ、整理します。(4時間)				
11	台湾の原住民と博物館	台湾には10を超える原住民が暮らしています。原住民の文化を知らせる博物館などの施設は台湾の文化を理解するうえで大変重要です。授業では、台湾の博物館や美術館について説明します。				台湾の原住民について調べ、整理します。(4時間)				
12	台湾の博物館と美術館	台湾には中国大陸の文化を継承した文化が台湾の北部を中心に残っています。授業では、台湾における中国大陸の文化を継承している博物館や美術館について説明します。				大陸文化の継承について、台湾北部の博物館や美術館について調べ、整理します。(4時間)				
13	台湾の寺院と宗教	台湾は多宗教社会であり、様々な寺院が混在しています。この寺院も重要な観光資源です。授業では、このような台湾を代表する寺院について説明します。				台湾の宗教と寺院の特徴について調べ、整理します。(4時間)				
14	台湾の映画産業と観光	台湾には映画撮影で使用されたり題材になる場所が数多くあります。授業では、そのような場所と観光について整理します。				どのような映画で台湾が使用されたのかを調べ、整理します。(4時間)				
15	総まとめ	これまでの授業を振り返り、再度ポイントを整理します。				議論内容についてレポートに整理する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリント等を配布します。				<p>出席レポート：50% レポート：20% 受講態度：30%</p> <p>本授業では、提出された出席レポートを中心に総合的に評価します。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
プリント等を配布します。				<p>本授業は、台湾の義守大学の教員2名が担当する授業です。授業は英語と日本語で実施されますので、台湾や海外に興味があり、留学前や留学後で英語のスキルアップを図りたい学生は是非参加してください。</p>						

科目名	数学の基礎			学年学期	1年前期	単位数	2	ナパ`リング	UL13501	研究室	S-03
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	水曜日3限		
関連資格						履修条件	履修者上限数を80名とします。				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
どちらかという数学は苦手だったという学生を対象に、数学に興味を持てるような、論理的にものを考える習慣を身につけることができる講義にしたいと考えています。管理栄養士として必要とされる数学力は、濃度計算やモル計算など基本的な数と式の計算、データを分析する力、そして統計学とされています。例題の解説と演習形式の授業を通して、実践的な計算力やデータの解析力を身につけるとともに、後期に開講される基礎統計学の基礎となる数学力を身につけます。											
学修到達目標											
数学に対する苦手意識の克服と、数学に興味を持ち、論理的に考える習慣を身に付けることを講義の目的、到達目標とします。また、演習問題として、SPIの非言語分野の問題や、就職時に課せられる数理系の試験問題を選んでるので、これらの問題を解くことによって就職試験に対応できる力も身につけましょう。											
授業の進め方											
紙に書いて考える、問題を解く、得意な問題は他の人に教えるなど、学生が能動的に関与する演習型講義です。配布するプリントの問題を解きながら、論理的思考に慣れ、あわてずに完全に理解、納得してから先に進むようにします。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	数と式(1)	基本的な計算問題を解きます(平方根、累乗根、指数、対数の計算など)。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
2	数と式(2)	基本的な計算問題を解きます(式の計算と展開、因数分解、分式・無理式の計算など)。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
3	方程式と不等式	基礎的な1次、2次方程式、不等式を解きます。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
4	計算力を身につける(1)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(割合と比の計算、濃度計算)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
5	計算力を身につける(2)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(損益計算、分割払い、料金割引など)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
6	計算力を身につける(3)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(仕事算、水槽問題、表の読み取り問題など)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
7	計算力を身につける(4)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(速さの計算、旅人算、流水算、通過算など)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行う。(4時間)				
8	集合と論理的な考え方	集合の考え方を復習し必要条件、十分条件、命題の真偽など、集合を使った論理的な考え方に対するアレルギーを克服しましょう。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
9	データの分析	データの散らばりやデータの相関など、データ分析の基本を学び、統計処理に必要な基礎力を身につけます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
10	場合の数	数え上げの基本、樹形図を使えるようになりましょう。また、集合を使った数え上げにも慣れてもらいます。SPIに出題される問題を解き、苦手意識をなくしましょう。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
11	順列・組合せ	順列の公式、組合せの公式の使い方を習得します。また、順列・組合せを応用した、様々な問題の解法に取り組みます。SPIに出題される問題も解いてみます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
12	確率の基本	確率とは何か、確率の意味や考え方とその基本的な法則を復習し、実際に問題を解いてみます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
13	確率	SPIに出題される問題を例に、確率問題の解法に慣れます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
14	確率と統計	確率分布や確率変数に慣れ、統計学の基礎を身につけます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
15	推論・資料解釈の実際	SPIで出題される推論、資料解釈の問題を解き、これら問題の実践的な解法を身につけます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直す。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
必要な資料等は授業時間に配布します。				定期試験:100% 基礎的な計算力が身につけており、シンプルな計算問題がすらすら解ければC、文章問題を理解し、数式を立てて問題が解ければB、集合の考え方を理解し、確率計算まで展開できればA、実験や実習などで必要となる溶液や試薬の調製に必要な計算、実験データの統計学的処理ができるようになればS。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「Ability大学生の数学リテラシー」(共立出版株式会社) 「SPI3能力テスト対応必出問題完全攻略」伊坂孝史著(学研メディコン) 3年生はキャリアセンターから配布されます。				大学までに、数学をあまりやってこなかった学生を前提とした授業です。積極的に授業に参加することを期待しています。誰でも得手、不得手な分野があります。得意なところは伸ばし、苦手なところを減らしましょう。							

科目名	生物学の基礎		学年学期	1年前期	単位数	2	ナパリング	UL13502	研究室	S-03
担当者	木藤 伸夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	水曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
現代を生きるには、生物学の知識は必須です。生物学の進歩は急速で、マスコミなどで報道される健康や病気に関わるニュース、さらには環境問題などの内容を正しく理解するために、生物学に関する知識の重要性は増しています。本講義ではヒト(生物として人間を扱うときはカタカナで表す)の生物学に重点を置き、食品、医療、環境といった複数の視点から、「ヒトの生物学」を学修します。										
学修到達目標										
生物の基本単位である細胞の構造や、細胞の中で起こる様々な化学反応を、私たち自身の体や私達の日常生活に関わる食品を通じて理解する。さらに、医療に関する諸問題を通じて、感染症、免疫、生殖について学び、ゲノム情報の活用と倫理面での課題についての理解を深める。また、環境汚染とその対策について学び、私達を取り巻く環境問題についての考え方を身につける。										
授業の進め方										
教科書と配布資料を使って講義を行います。また、毎回小テストを行い理解度を確認します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	微生物と食品生産	微生物を利用した食品を紹介し、それに関わる微生物を材料に、細胞の基本的な構造と、細胞を構成する分子や小器官について学習します。				教科書の第1章の1を予習するとともに、高校教科書の細胞の構造を復習する。(2時間)				
2	食品生産における発酵技術	発酵食品を通じて、発酵とは何か、それに関わる代謝について学びます。				教科書の第1章の2を予習するとともに、解糖系を復習する。(2時間)				
3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換え食品とは何か、どのような遺伝子が「組換え」られているのか、私達や身の回りの生態系にどのような影響を与えるのか考える。				教科書の第1章の3を予習するとともに、遺伝子について復習し要点をまとめる。(4時間)				
4	抗生物質	感染症の治療薬である抗生物質とはどのような物質か学ぶ。また、抗生物質を使うことで細菌は退治できるのに、どうして私達の体は平気なのかを理解するために、いくつかの細胞構造を比較する。				教科書の第2章、29-40ページを予習し、細胞の構造を復習する。(4時間)				
5	ワクチンと臓器移植	ワクチン接種でどうして病気を予防することができるのか学び、私達の体を守る免疫に関する知識を身につける。また、体を守る免疫が作用することで起こる拒絶反応やアレルギーについても学ぶ。				教科書の第2章、40-54ページと、85-89ページを予習する。(4時間)				
6	第5回目までのまとめと確認テスト	第5回目までに学習した内容のまとめと、内容をどの程度理解しているか確認するために、確認テストを行います。さらに、解答例の説明を通して、学習内容の要点を確認します。				教科書54ページまでのまとめと、確認テスト対策を行う。(6時間)				
7	遺伝子の構造と突然変異	全ての生物がもつ遺伝子の構造について学び、遺伝子のどのような変化が、がんや遺伝病などの原因となる突然変異となるか理解する。				高校の教科書などで遺伝子の構造、DNA二重らせんなどを復習しておく。(4時間)				
8	遺伝子の発現とタンパク質合成	遺伝情報の流れ、いわゆるセントラルドグマについて学び、遺伝子に記録された情報がどのようにして機能分子となるか学修する。				高校の教科書などで、遺伝子の転写、タンパク質の合成について復習しておく。(4時間)				
9	遺伝病の検査と治療	遺伝子の発現や遺伝の法則について学び、遺伝子の変異が病気の原因となることについて学ぶ。また、遺伝病の検査技術や、治療法の最前線についても学ぶ。				教科書第2章の3、4を予習し、高校の教科書などで遺伝の法則を復習しておく。(4時間)				
10	生物の生殖、発生、成長、老化	ヒトの受精から誕生について学習します。さらに、生物の成長と老化について学習し、生命の連続性について考えます。また、先端技術を応用した生殖補助医療に関する課題について考えます。				教科書第2章の5を予習しておく。(4時間)				
11	第7回~第10回までのまとめと、学習内容の整理	第7回~第10回で学習した内容のまとめと、内容をどの程度理解しているか確認するために、確認テストを行います。さらに、解答例の説明を通して、学習内容の要点を確認します。				教科書54-90ページまでのまとめと、確認テスト対策を行う。(6時間)				
12	生態系と外来種の侵入	生態系とは何か、また外来種によって生態系がどのように変化するかを学びます。また、地球における炭素循環、窒素循環についても学習します。				教科書第3章の1を予習するとともに、高校の教科書で生態系を復習しておく。(4時間)				
13	環境汚染物質	いくつかの環境汚染物質と、それらが引き起こした環境問題、公害について学習し、これ以上環境破壊を行わないためにはどのような対策が必要か考えます。				教科書第3章の2を予習する。(4時間)				
14	地球温暖化とバイオ燃料	地球温暖化の原因と地球の表面温度を決めているメカニズムに対する理解を深め、対策としてどのようなことが考えられ、実行されているか学修します。				教科書第3章の3を予習する。(4時間)				
15	学修のまとめ	これまで学習した14回の内容について、理解が不十分なところを各自で補います。また、自信のある分野については、受講者の前で説明して、さらに理解を深めます。				これまでの学修内容を復習し、理解できた所、できなかった所を明らかにしておく。(6時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「高校で教わりたかった生物」趙大衛(編著)松田良一(監訳、編著)著(日本評論社) ISBN:978-4-535-60033-1(生協で購入してください。)				定期試験:100% 生物の基本単位である細胞の構造と各細胞小器官の機能を説明できればC、細胞を構成する各種物質の基本構造、機能、特徴を説明できればB、それらの基礎知識をもとに、生物によるエネルギー産生や多細胞生物の恒常性維持など、複雑な生命現象が説明できればA、マスコミなどで話題となった生物に関わるトピックを正確に説明できればS。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「ヒューマンバイオロジー、人体と生命」坂井建雄、岡田隆夫 監訳著(医学書院) 坂井建雄ほか監訳「ワークブックヒトの生物学」八杉貞夫著(裳華房)				高等学校で生物学を履修していない人や苦手だった人は、必ず受講してください。						

科目名	化学の基礎			学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ`リング	UL13503	研究室	S-03
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
私達の体を作る細胞は、他の生物、動物や植物、細菌と共通の構造・機能をもっています。私達は食べた物を材料にしてエネルギーを作り出し、物事を考えたり体を動かしたりしています。この時、体のいろいろな細胞で起こっている反応は化学反応です。また、身体を動かすときはもとより、音を聞いたり物を見たりするときには、様々な物理現象が起こっています。この講義では、化学だけに限定せず、教育学部で学ぶ学生に必要な生物、化学、物理の視点から人体のしくみを考えます。											
学修到達目標											
人体で起こる様々な現象を、生物、化学、物理の視点から考える。自分が食べているものはどんな物質か、食べたものが体内でどのように変化していくか説明できる。息を吸うときどうやって肺は膨らむのか、コンタクトレンズで視力矯正はどうしてできるのかなど、普遍的に行っている行為を、科学の言葉で説明できる。											
授業の進め方											
教科書と配布資料を使って講義を行います。高校時代、生物、化学、物理、地学などを勉強しなかった人、理系科目が苦手だった人は是非講義を聞いて下さい。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生物の基本単位	生物の基本単位である細胞の基本構造を学修します。また、最初は受精卵という一つの細胞が、どのようにして一人の人間になっていくか、発生と細胞分裂について学びます。					教科書の第1章、1.1~1.4を予習してから講義に出席してください。(2時間)				
2	遺伝と遺伝子	遺伝の法則や遺伝子の構造について学びます。遺伝子がどのような物質でできていて、遺伝情報はどのような形で子孫に伝わっていくのか理解しましょう。					教科書の第1章、1.5~1.7の予習をしてください。(4時間)				
3	エネルギー産生	生命活動を営むにはエネルギーが必要です。そのエネルギーを生み出すのは栄養素です。三大栄養素からエネルギーを生み出すしくみを学修します。					教科書の第1章、1.8と1.14を予習してください。(4時間)				
4	体内環境と恒常性	春夏秋冬、暑い時も寒い時も体の中は一定の状態に保たれています。体内環境を一定に保つための神経系やホルモンののはたらきについて学修します。					教科書の第1章、1.9の予習をしてください。(4時間)				
5	微生物と免疫	目には見えないけれどもいたるところにいる微生物、それらが引き起こす感染症と、私達の体が抵抗するしくみについて学びます。また、私たちの生活に役に立つ微生物についても紹介します。					教科書の第1章、1.10~1.11の予習をしてください。(4時間)				
6	刺激への反応と内臓の機能	外部からの刺激、情報を私たちの体はどのように処理しているのか、神経系について学びます。また代表的な内臓の役割についても学習します。					教科書の第1章、1.12~1.13の予習をしてください。(4時間)				
7	物質の構成粒子	私たちの体は様々な物質でできあがっています。それらの物質を化学の目で見るための基礎を学修します。					教科書の第2章、2.1の予習をしてください。(5時間)				
8	化学結合	化学結合の種類を最初に学修し、体内の主な化学結合について学びます。また、エネルギー産生や細胞構造の、化学的基盤を学修します					教科書の第2章、2.2~2.7の予習をしてください。(4時間)				
9	体内の無機化学	酸・塩基や体内の無機物質に関する基礎知識を修得し、ヒトの病気との関連を学修します。					教科書の第2章、2.8~2.10の予習をしてください。(3時間)				
10	有機化合物	生物の体を構成する主要な物質である有機物について、その複雑さと系統的な考え方を学びます。また、体内の化学反応を邪魔する物質が医薬品として利用されていることにも目を向けます。					教科書の第2章、2.11~2.15の予習をしてください(4時間)				
11	圧力と気体	大気圧を理解し、さらに人体や疾病との関係を学びます。					教科書の第3章3.1を復習し、課題を行ってください。(4時間)				
12	波、光、音	波の性質を理解し、光や音について学びます。レンズのしくみを理解します。					教科書の第3章3.7を復習し、課題を行ってください。(4時間)				
13	電気	電気の性質、電流の回路について理解します。さらに電力量を学びます。					教科書の第3章3.9を復習し、課題を行ってください。(4時間)				
14	水圧と浮力	水圧を理解して浮力が生じることを学びます。さらに人体や疾病との関係を理解します。					教科書の第3章3.11を復習し、課題を行ってください。(4時間)				
15	力	力の基本を理解し、人体の動きのしくみを考えます。					教科書の第3章3.12を復習し、課題を行ってください。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「人体の中の自然科学 生物学・化学・物理学から学ぶヒト」川畑龍史著(東京教学社) ISBN:978-4-8082-6057-6(生協で購入してください。)						定期試験:100% 自然科学の考え方や方法論を身につけることを目標とします。自然科学は積み上げる学問ですから、人体で起こる諸現象に関係する基礎的な用語を記憶し使いこなせば、それらの内容を説明できれば、専門用語を用いて人体で起こる基礎的な諸現象を説明できればA、免疫や体外からの刺激の認知などの代表される高次の生命現象を科学的に説明できればS。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「新しい高校物理の教科書」山本明利 左巻健男編(講談社) ISBN:4-06-257509-4						高校時代に使った生物、化学、物理学の教科書を復習しておいてください。また、理解できないところがあったら、積極的に教員に質問しましょう。					



科目名	基礎統計学(教育)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ'リング	UL23504	研究室	W-18	
担当者	林 昌孝		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日2限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
本講義は、データの客観的な分析手法について学ぶことを目的とします。はじめに、量的なデータおよび質的なデータを整理して検討する方法について講義します。次に、データを集約して全体像を把握する方法について学びます。また、集約された数値の見方と意味について考えます。さらに、サンプルデータを調べることにより全体像となる母集団を把握する手法について基本的な考え方と手法を学びます。											
学修到達目標											
対象となるデータの統計的な特性値を算出することができる。また、特性値をもとにデータの母集団の変化を検証する方法を修得している。											
授業の進め方											
データの整理検討をする分野では、データの分析手法の講義と演習を中心とした内容になります。データから全体像を把握する手法については講義を中心に進め、実践的な問題を解きながらフィードバックして理解深めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	尺度とデータについての基礎知識を説明します。					シラバスとテキストのはじめページを読んでください(4時間)。				
2	量的データの整理	数値で表すことのできるデータの整理と表現方法を学びます。					テキスト(量的データの整理)を読んでください(4時間)。				
3	質的データの整理	数値で示すことのできないデータの整理と表現方法を学びます。					テキスト(質的データの整理)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
4	データを代表する値	データを集約して代表値として表す方法を学びます。					テキスト(統計学のキーワード・分布の特性値)を読んでください(4時間)。				
5	平均と標準偏差	平均と標準偏差の持つ意味と計算方法を学びます。					テキスト(統計量の計算)を読んでください(4時間)。				
6	統計量の計算練習	いろいろな統計量の計算方法の確認と練習をします。					テキスト(分布の特性値と計算練習・問題)を読んでください(4時間)。				
7	正規分布	データの持つ規則性を知ることによりデータの形式が変化することを説明します。					テキスト(確率と確率分布)を読んでください(4時間)。				
8	数値表の使い方	確率分布に従うデータの性質を数値表を用いながら学びます。					テキスト(一様分布と正規分布)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
9	信頼係数と有意水準	統計的有意性について説明して、信頼係数と有意水準の表し方を学びます。					テキスト(信頼係数と有意水準)を読んでください(4時間)。				
10	母集団と標本の定理	母集団と標本間の性質について定理をまじえて説明します。					テキスト(母集団と標本)を読んでください(4時間)。				
11	母平均の推定	標本平均から母平均を知る(推定する)方法について説明します。					テキスト(母平均の推定)を読んでください(4時間)。				
12	t分布を用いた推定	データに制約がある場合の推定方法について説明します。					テキスト(t分布と推定)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
13	仮説検定	統計的な仮説検定の原理と基本手順について説明します。					テキスト(仮説検定)を読んでください(4時間)。				
14	t分布を用いた仮説検定	データに制約がある場合の検定方法について説明します。					テキスト(検定の例題)を読んでください(4時間)。				
15	まとめ	よく使われる統計的仮説検定の方法について説明します。また、今後の発展分野についてまとめます。					テキスト(いろいろな統計的検定)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「基礎統計学テキスト」林昌孝編著(松本大学)(生協で購入してください。)					定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「はじめての統計学」鳥居康彦著(日本経済新聞社)ほか適時紹介します。					数学が苦手な人でも統計的な考え方は必要です。メーカーに所属し経営管理部門での経験を活かしています。						

科目名	地球環境と人間生活		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ`リッ`	UL23505	研究室	S-03
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男		必修選択	選択	科目種別	講義	ワイ`スワ`	水曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
ビッグバン宇宙、地球の生成、生命の誕生と進化のおおよその流れを把握します。その中でオゾン層の出現やその破壊と克服の過程について学びます。次に地球温暖化のメカニズムを学び、産業革命以降人類の生活の進歩・発展とその裏側で進んでいた二酸化炭素の大量発生に伴う地球温暖化現象を概観します。エネルギー源の変遷(木炭・石炭・石油・原子力)を理解し、それぞれの長所・短所を調べながら、生活水準を維持できるだけの自然エネルギーの可能性があるかについても検討していきます。										
学修到達目標										
環境問題、エネルギー問題についての新聞報道、TV報道に接して自分なりの視点でそれらを解釈でき、求められれば見解を述べるができる。										
授業の進め方										
配布したプリントに基づく講義、ビデオ鑑賞、グループに分かれてのディスカッションなどを交えることで、各学生が自分の意見を纏めていけるようなプロセスを予定しています。毎回クイズ形式の受講票を配付します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	宇宙・元素合成、地球形成の道筋	授業の狙いを説明します。ビッグバン宇宙論、元素合成、地球の形成など、自分達が住む地球の生成について大まかな道筋を理解します。受講票は環境問題に関するクイズ付きです。				事前：シラバスを読む。(1時間)事後：クイズに解答、疑問・質問を受講票に記入する。(2時間)				
2	生命の進化、オゾン層の形成	生命の誕生・進化と植物の発生、酸素、オゾン層の形成を考えます。オゾン層がどれくらいの時間を掛けて、どの様に出来てきたのか、破壊の原因は何かについて考えます。				事前：前回の講義の復習(2時間)事後：クイズに答える。疑問・質問をまとめる。(2時間)				
3	オゾン層破壊とそれへの対応	オゾン層が果たす役割と、その破壊のメカニズムとフロンガスへの配慮の必要性を理解します。オゾン層の破壊による影響を知る。モントリオール議定書について知ります。				事後：前回クイズの解答を配布するのそれを読み理解を深める。(4時間)				
4	温暖化機構理解とCO2増加の原因	温室効果の機構を理解し、温室効果ガスの種類を把握します。産業革命で文明の発達が加速化し、その結果大気中のCO2が急激に増加していることを理解します。				事前：配布のプリント(温暖化のメカニズム)を読む。(2時間)事後：疑問点を整理する。(2時間)				
5	COPなど人類の温暖化への取組	地球温暖化対応の国際的な動きを把握します。リオデジャネイロでの地球サミット、京都議定書、パリ協定などIPCCやCOPの動きについて知ります。グループディスカッションを取り入れます。				事前：IPCCをネットで調査する。(2時間)事後：COPのこれまでの流れをネットで調べる。(2時間)				
6	フィードバックシステムとしての地球	循環系としての地球の特徴を理解します。可逆、不可逆の意味と地球温暖化についてIPCCからの警告の意味を理解します。臨界点という考え方を提示します。				事後：IPCCの活動を再度調査し、理解を深める。(4時間)				
7	大量生産・消費・廃棄の生活の実態	大量生産、大量消費、大量廃棄の生活スタイルがいかに現代人の生活に浸透しているかを実感してみます。グループワークによるアクティブラーニング形式を採用します。				事後：自分の生活を振り返り、是正できる点をまとめレポート提出する。(4時間)				
8	地球温暖化の影響を考える	地球温暖化が人類や地球上の生命に与える影響を考えます。絶滅危惧種の存在、熱帯生物の北上、海面上昇、砂漠化などなどについて考えます。新聞記事の読み合わせを実施します。				事前：前回配布のプリントを読む。(2時間)事後：温暖化の実情をネットで調査する。(2時間)				
9	ビデオ鑑賞	地球温暖化の影響を被っている世界で見られる実態を、映像によって、視覚にも訴えながら理解します。				事後：鑑賞した感想を受講票に記入する。仲間と話し合う。(4時間)				
10	日本の発電量の現状をつかむ	火力、原子力、水力、風力など多様な発電様式があるが、その原理を理解します。ファラデーの電磁誘導などにも簡単に触れ、発電様式による違いはどこにあるかを知ります。				事後：電力の節約について考えておく。(4時間)				
11	石油の使用量と埋蔵量	全て石油で火力発電を行った場合の必要量を、百万トンタンカーを単位として考えます。化学製品の製造にも利用しており、その量の膨大さを知り地球の有限性を認識します。				事前：プラスチック製品の投棄とそこから生じる問題点をネットで調査する。(4時間)				
12	太陽エネルギーの利用を考える	太陽から地球上に降り注ぐ太陽エネルギーの膨大さを考え、再生可能エネルギー、自然エネルギーの在り方をみんなで考えます。アクティブラーニング方式とします。				事後：世界的に見た自然エネルギーの利用状況を調査する。(4時間)				
13	原子力発電と原爆の違いを知る	原子力発電のメカニズムを知ります。アインシュタインのE=mc <sup>2</sup> の有名な式の意味を説明し、実際の発電様式について説明します。				事前：配布のプリントを読む。(2時間)事後：原子と原子核のサイズの違いを認識する。(2時間)				
14	原子力発電の利点と問題点を知る	温室効果ガスを出さないが、放射性廃棄物の処理について問題があること、地震やテロからどう護るかなど、考えられる課題を取り上げます。				事前：配布している新聞記事を読む。(2時間)事後：家族・友人等と話し合う。(2時間)				
15	日本のエネルギー政策を考える	これまでの学びを通じて得た知識を基に、日本のこれからのエネルギー政策の在り方についてグループディスカッションで深めます。				事前：グループディスカッションの準備(2時間)事後：試験に備えた学習する。(2時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
講義用プリントを配布します。		定期試験：100% S:定期試験において90点以上。 A:定期試験において80点以上。 B:定期試験において70点以上、80点未満。 C:定期試験において60点以上、70点未満。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「グリーン経済最前線」井田徹治・末吉竹二郎著(岩波新書) 「低炭素経済への道」諸富徹・浅岡美恵著(岩波新書)		講義を聞き、自分の見解を述べ、多くの学生と意見交換する中で、環境問題の本質を掴めるようにして欲しい。そのためにも、配布したプリント、新聞記事等に目を通し、自分なりの意見を纏めるように努力して下さい。								

科目名	地域環境と生態			学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	UL33506	研究室	S-03
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義の前半では、地球の環境がどのように形成されたか、現在の地球環境問題はどのような原因で生じているかなどを解説します。さらに、生態系の構成と、生態系がどのように維持されているかを学修し、環境の維持に微生物が果たす役割について考えます。後半では人間活動と環境問題を考えます。人間活動が原因で進む地球温暖化問題をじっくり考えていきます。さらに、異常気象のしくみを理解するために、大気と海洋の相互作用、テレコネクションについても学びます。											
学修到達目標											
前半では、地球における物質循環を理解するとともに、それに関わる微生物が地球環境の維持にいかに関与しているかという点に気がつく。後半では、天気や気候の変化における大気と海洋の役割を理解し、人間の活動と地球環境の変化の関係を理解します。											
授業の進め方											
配布資料に基づいて講義形式で授業を行います。講義内容を理解するには物理学、化学、生物学、地学などの理系基礎科目の知識が必要です。毎回小テストを行い、授業の理解度を確認します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生物の進化と環境形成	46億年前に誕生した地球の環境がどのように変化して現在の環境になったかを解説します。「地球と生命の共進化」ともよばれる、地球環境の変化と生物進化の密接な関係を理解します。					配布資料を復習する。(4時間)				
2	地球環境の変化	近年問題になっている地球環境の変化、すなわち地球温暖化や、水質、大気、土壌などの環境汚染の原因物質は何か、汚染はどのようにして起こるのかを学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
3	生態系と環境の維持	生態系がどのように構成されているか、生態系による物質循環やエネルギー循環が環境保全にいかに関与するか学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
4	物質循環と微生物	地球レベルでの物質循環を知るために、炭素循環と窒素循環を取り上げて解説します。物質循環には生物が関与しない無機物的な循環と、生物が関与するものがあります。違いを明確に理解します。					配布資料を復習する。(4時間)				
5	極限環境微生物	微生物は地球上の様々な環境に生息していますが、特に変わった環境(高温、強酸・強アルカリなど)で生きている微生物がいること、私達の日常生活でこれらの微生物がどのように利用されているか学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
6	微生物による有害物質除去・分解の原理	微生物を使った環境浄化の方法、特に排水処理法、重金属汚染や有機塩素化合物などの除去、分解法などを理解します。					配布資料を復習する。(4時間)				
7	バイオレメディエーション	微生物による環境浄化(バイオレメディエーション)について学習します。原油や界面活性剤の汚染除去への応用、土壌や地下水の汚染除去が実際どのように行われているか学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
8	確認テスト	第1回~7回までの内容の理解度を筆記試験で確認します。					これまでに配布された資料などに基づき、講義内容を振り返っておく。(6時間)				
9	太陽系の中の地球	地球大気の起源と進化について学びます。					配布資料を復習する。課題を課し提出を求める場合があります。9回~15回まで。(4時間)				
10	大気の鉛直構造	対流圏、成層圏とオゾン層、中間圏、熱圏について学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
11	地球のエネルギー収支	地球のエネルギー収支を理解し温室効果について学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
12	地球をめぐる大気の流れ	風の吹き方を理解し大気の大循環を学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
13	海水の循環	海水の流れを理解し海洋と気候について学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
14	気候変動	エルニーニョ、異常気象について学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
15	地球環境	都市気候、酸性雨、地球温暖化について学びます。					配布資料を復習する。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「絵でわかる地球温暖化」渡部雅浩著(講談社) ISBN:978-4-06-511946-4(生協で購入してください。)					定期試験:100% 地球環境を決める複数の要因をあげることができればC、それらが地球環境にどのような影響を与えるか説明できればB、地球における物質循環やエネルギー収支について説明できればA、現代起こっている様々な環境問題や環境保全、環境改善などについて、自分の考えを述べることであればS。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「地球環境46億年の大変動史」田近英一著(化学同人) ISBN:978-4-7598-1324-1 他にも講義の内容に合わせて適当な参考図書を紹介いたします。					物理、化学、生物学、地学のどれか1科目でも良いので、高校で学んだ理系科目を復習しておいて下さい。						

科目名	ごみ処理と循環型社会		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ'リング	UL33507	研究室	S-24
担当者	丸山 文男・木藤 伸夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
持続可能な社会にするために、地球科学を学び、環境問題を科学的に学びます。さらに、一番身近な環境問題であるごみ問題を考えます。										
学修到達目標										
人間生活と環境の関りを科学的に理解し正しく対処できることを目標とします。										
授業の進め方										
教科書と配布資料を用いて授業を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	地球環境をどうとらえるか	自然と人間の関係を整理します。				教科書1章の問題を解き復習します。(4時間)				
2	物質の循環と資源	ミクロな世界から宇宙に至る自然の組み立てを理解し、固体地球の姿を学びます。				教科書3章の問題を解き復習します。(4時間)				
3	地球と月について	地球と月のユニークな関係を学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
4	惑星について	太陽系天体が液体を持つ条件を学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
5	松本市のごみ処理施設	松本市の一般廃棄物の中間処理施設(松本クリーンセンター)と最終処分場(エコトピア山田)について学びます。				中間処理施設と最終処分場の設置の目的と現状を整理します。(4時間)				
6	ごみ処理施設整備の課題について	ごみ処理施設整備の問題と課題について学びます。				ごみ処理施設整備に対する問題点を調べます。(4時間)				
7	エネルギーと環境	エネルギーの種類とその役割を学びます。				教科書4章の問題を解き復習します。(4時間)				
8	生命の誕生と環境形成	地球上で生命が誕生し、現在の環境ができるまでを概説します。生物の進化と共に地球環境も変わってきたことを学びます。				教科書第2章を予習するとともに、配布資料を復習する。(4時間)				
9	生態系と物質循環	生態系はどのように構成されているか学び、生態系で行われる物質循環やエネルギー循環について具体的に学修します。				教科書81~84ページを予習し、配布資料を復習する。(4時間)				
10	環境問題と物質循環	これまで問題になった公害や、現在の環境問題を素材とし、物質循環の停滞や障害が、地球に生きる様々な生物の外になることを学修します。				教科書128~136ページを予習し、配布資料を復習する。(4時間)				
11	ごみや産業廃棄物の処理	ごみや産業廃棄物の処理について、物質循環の視点からもう一度見直します。自分たちが今日から取り組める活動について考えてみましょう。				自分が今行っている環境に関わる取り組みを考えてみましょう。(4時間)				
12	水と大気循環	地球規模の大気循環や気候の変化を学びます。				教科書5章の問題を解き復習します。(4時間)				
13	光と環境	太陽光と環境との関りを学びます。				教科書6章の問題を解き復習します。(4時間)				
14	人間活動と環境問題	地球温暖化問題について学びます。				教科書7章の問題を解き復習します。(4時間)				
15	核エネルギー	原子力の問題を学びます。				教科書8章の問題を解き復習します。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「地球と環境の科学」木下紀正 八田明夫著(東京教学社) ISBN:ISBN978-4-8082-5014-0(生協で購入してください。)教科書は必ず購入してください。必要に応じて資料を配布します。				定期試験:80% レポート:20% S評価は、定期試験、レポートが特に優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポートが良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「絵でわかる地球温暖化」渡部雅浩著(講談社)				循環型社会を構築するために、私たちが何をなすべきがしっかり考えてみましょう。叢智を結集して青く美しい地球とともに生き延びる努力をしなければいけません。						

科目名	環境社会学		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	UL33508	研究室	非常勤
担当者	江成 康明		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
人々が生きて行くうえで欠かせないのは周囲の環境です。一番身近な家族や仲間、そして自治体や日本、世界、宇宙と環境は広がっていきます。それらと関連しながら生活するには、世の中の動向を意識しなければなりません。今の社会に何が起きているのか、どう対応しなければならぬのかを考え、自分を高めていくことが求められています。殺伐とした事件の増加やネット社会にまつわる犯罪などを例に社会学を学び、多層的に研究、発表するのが目的です。										
学修到達目標										
社会を営む時代背景やその国の環境などに自分がどう対応したらいいのかを学び、その中で自らの立ち位置を心がける。みんなが心地よく生活し、生きていくためには一人一人の思いやりや気配りが必要なことを知ることで、社会構成員の一人であることを自覚する。										
授業の進め方										
講義は毎回配布するプリントを基に教室でのディスカッションを中心に進めます。グループ討論やクロスロード(分岐点)のほか、受講生全員で創作する「ネット社会で守るべき10か条」を完成させます。見分を広めるためのアウトキャンパススタディも実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	環境社会学とは何か?	環境といっても、「地域」だけを考えるのではなく、それを支える「人間」や「自然」にまで興味を持って対応する必要があります。授業全体の基本となる環境社会学を幅広い視点で学びます。				思い浮かべる環境社会学のイメージを事前に考えておく。(4時間)				
2	地域環境と民度の関係性	第一回授業で提出したレポートから様々な意見や提案をピックアップし、学生自身が社会の一員として環境社会学をどう捉えているかを探ります。そのうえで、人間としての役割を考えていきます。				新聞のコピーを読んで、事後に感想を書く。(4時間)				
3	ネット社会で変化する社会	日本人は思いやりや気配りのある人種と言われています。しかし、ネット社会の到来で変化してきました。社会の動きに真剣に向き合わなければなりません。ネットで隔りやすい犯罪や危険性を学びます。				ネット関連の事件事故について、一番気になったものを考える。(4時間)				
4	ネット社会の危険性についての研究	現状では、生活や仕事をするうえでネットは欠かせません。しかし、ネットを使った犯罪が増え、反面、人との直接対話が少なくなっています。過激派組織ISやネット犯罪の愚かさを研究します。				安易にネットを使ってないかを見直す。(4時間)				
5	それぞれ違う民度のあり方	グループに分かれ、クロスロード(分岐点)をそれぞれの班で討論します。それをもとに、全体でディスカッションします。				クロスロードでの自分の意見、考え方と人の意見の相違を改めて振り返る。(4時間)				
6	続クロスロード	社会は人それぞれの民度によって安全、安心な暮らしが保たれています。しかし、クロスロードで体験するように、考え方はまちまちです。幅広い民度の意識を持つために、前回に続き話し合いを継続します。				自分の考え方による民度が正しいのかどうかを推量する。(4時間)				
7	学外専門家の特別講演	簡単で便利なネットには様々な落とし穴があります。著作権について詳しい学外専門家を招き、特別講演及び討論会を実施します。				事後に講演会の感想レポートを提出する。(4時間)				
8	(野外実習)場所は未定	地域全体が民度の高い場所を訪ね、地域環境を守るためにどのような戦略が図られているかを体験します。				事後にレポートを書く。9回目に提出する。(4時間)				
9	地球温暖化に見る人類の危機	近年の地球温暖化は異常な速度で進んでいます。今の学生が世の中の中心となり、子供を育てるころには考えられないほど自然環境が変化すると考えられます。異常気象について熟考することは必要不可欠です。				授業でのコピー以外のテーマに沿って、レポート提出する。(4時間)				
10	ネット社会を生き抜くための10か条づくり	ネットが欠かせない現実の中で、自ら犯罪に巻き込まれたり、他人に迷惑をかけるためにはどうしたらいいのかをグループで話し合い、10か条を作成します。				授業終了と同時に、当日の担当はグループ10か条を書いて提出する。(4時間)				
11	各グループの10か条発表	前回作ったグループ10か条を班の代表が発表。それをもとに、受講生全体の10か条を作り上げますので、各グループによるプレゼンが大事になってきます。				全員で作った10か条を自分なりに実践する意識を高める。(4時間)				
12	10か条の絞り込み	各グループから出てきた10か条は相当数に上ります。その中から、受講生による10か条を選択していきます。創作する難しさや楽しさを実感できるはずで。				10か条は常に心掛けておく必要があります。人にも言えるほど反復して覚える。(4時間)				
13	学外専門家の特別講義	受講生が作ったネット社会と民度10か条について、専門家の意見を聴きます。				感想をレポートにまとめて提出する。(4時間)				
14	政治の変化	国を動かすのは「政治」です。ところが政治家そのものが弱体化し、国会で討論すらしっかりできない状況です。民主主義の意義を考えながら政治の大切さを学びます。				これまでの自分と政治の関わりを考え、政治家に求める自分の意見をまとめる。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返って総括します。				社会の中で生きていくために必要なテーマを自分なりに見つける。(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
毎回プリントまたは資料を配布します。			受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
毎回プリントまたは資料を配布する。			講義ではグループ別に分けた学生の皆さんとのディスカッションを中心に進めますので積極的な参加を期待します。受講票には、名前だけでなくその日の感想や意見を必ず書いて下さい。							

科目名	キャリア入門		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL14101	研究室	S-12
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業ではキャリア教育の初歩的段階として、自らのキャリアを考える上で必要となる情報を提供し、併せてこれらの情報を基に「考えてもらう」ことを目的としています。具体的には「自らのキャリアを考える上での情報提供」「実際に自らのキャリアを考える」「就職活動の基礎事項の情報提供」の3点に焦点を絞って展開します。学習到達目標に示す通り、働くことに対する初期ビジョン形成が目的のため、1年次生及び2年次生のための履修とし、教員の許可がない場合の3年次生以降の履修は認めません。</p>										
学修到達目標										
現在の若年者の就職・労働に関する知識を修得し、大学生の就職活動の流れを理解した上で、自らの「働くこと」への初期ビジョンを形成できること。										
授業の進め方										
配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。毎回の講義においてメソフィアを用いて出席確認と小テストを実施しますのでスマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持参して下さい。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	導入 - キャリアとは何か、そしてなぜ重要か -	キャリアという言葉の説明を行うとともに、本講義で扱う内容等について説明します。				「キャリア」とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	企業における人事管理の基盤 - 企業の社員区分制度の概要 -	人事管理の基盤システムの一つである社員区分制度について解説します。				社員区分制度とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	企業における人事管理の基盤 - 社員区分制度の詳細と学歴との関係 -	社員区分制度が学歴別管理とリンクしている点について説明します。				学歴別の賃金カーブについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
4	フリーターとしての働き方 - フリーターのタイプと所得の問題 -	フリーターの現状やタイプを説明した後、フリーターと正社員の生涯所得について説明します。				フリーターのデメリットについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	フリーターとしての働き方 - 雇用・能力開発・年金の問題 -	フリーターと正社員の違いについて、雇用の安定や老後など、所得以外の面から比較し、説明します。				国民年金と厚生年金の違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	産業研究 - どのような産業・業種があるのか -	社会にはどのような産業(業界)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く産業を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	職種研究 - どのような職種・仕事があるのか -	社会にはどのような職種(仕事)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く職種を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	転職のメリットとデメリット	転職した場合に有利になる点、不利になる点について解説します。				転職した場合に不利になる点について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	ライフデザイン - 人生設計 -	人生の節目のイベントを経済的側面からみることで、生涯にどれだけのお金が必要かを解説します。				自らのライフデザインについて考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	働く上でのリスク	会社の倒産やリストラ、病気など、働く上でのリスクについて説明します。				企業の人員整理に関する事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	大学生の就職活動 - 大学生の就職活動の流れ -	大学生の就職活動の大きな流れについて説明します。				就職活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	大学生の就職活動 - データでみる大学生の就職活動 -	大学生の就職活動について、就職支援企業の調査結果を基に、その概要を説明します。				企業の採用活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	松本大学生の就職活動	松本大学生の就職活動をデータを用いて説明します。				就職活動の流れを調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	先輩たちから学ぶ就職活動	就職活動を終えた先輩方の経験談を聞きます。				先輩方に対する質問を考えて下さい。講義後、先輩方の就活成功の秘訣を考えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義内容を簡単にレビューします。				これまでの講義での不明点を確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。				小テスト: 55% 出席レポート: 45% 小テストと出席レポートの合計点が90点以上の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「キャリアデザイン入門 1 基礎力編」大久保幸夫著(日経文庫)				実務経験を持つ教員が担当。実務経験の内容: 民間企業において、人事担当者として採用をはじめとする人事施策全般に携わった。都道府県職員として自治体の労働政策立案に携わった。						

科目名	キャリアデザイン (教育)	学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UL34102	研究室	非常勤	
担当者	道幸 俊也	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスワ-				
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
	A B C									
授業概要										
この講義は、自分の性格の特徴について性格心理検査(MBTI)を用いて、心理学的類型論という観点から理解を深め、強みや課題を理解します。それによって、自分の動機付けとなる自分の軸はどのようなことなのかを見出し、社会人として、また教員としての自分らしさや今後の成長のヒントから自分はどうかありたいのかを考えます。後半では、Global Proficiency Skills programテストを用いて思考、姿勢・態度、経験についてアセスメントし、今後のキャリアをデザインします。										
学修到達目標										
様々な演習を通して、自分のベストフィットタイプを見出す自己理解のプロセスから、自分の特徴や動機付けとなるものは何か、また、そのタイプが示唆するこれからの課題を理解し、自分らしさを自分の言葉で表現できる。自己理解ワークに主体的に取り組み、基礎的な自己分析ができる。										
授業の進め方										
教室での講義を主としますが、「セルフワーク」「グループワーク」を組み合わせながら進めます。グループワークの成果を様々な形式の全体共有の方法を取り入れるなどアクティブラーニングの形式を積極的に取り入れます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	今の自分を知る	本講義の流れ、学びの目的、成績評価等についてガイダンスします。					前期末に作成した振り返りシートを見直し、2年後期の目標を設定する(1時間)			
2	MBTIの基本的概念の理解	MBTIを正しく理解するための基本的概念である心理学的類型論と二律背反について学ぶ。					タイプ論と特性論、二律背反について調べてくる(1時間)			
3	心的態度と心的機能	心理学的類型論(タイプ論)の構成概念である心的態度と心的機能を学ぶ。					学んだ各指向について体験談で説明できるようノートにまとめる(1時間)			
4	MBTIの受検	MBTIを実際に受検し、手採点で自分の「報告されたタイプ」(レポートタイプ)を見出します。					各指向の明確度に関する表記について、その根拠を考えノートに書き出しておく(1時間)			
5	タイプ検証1(直観と感情)	前回受検して見出されたレポートタイプについて、ワークを通して検証します。今回は、知覚機能の「直観」と「感情」です。					検証した結果について、自分の体験談で具体的に説明してみる(1時間)			
6	タイプ検証2(感情と思考)	レポートタイプについて、ワークを通して検証します。今回は、判断機能の「感情」と「思考」です。					検証した結果について、自分の体験談で具体的に説明してみる(1時間)			
7	タイプ検証3(外向と内向)	レポートタイプについて、ワークを通して検証します。今回は、「外向」と「内向」です。					検証した結果について、自分の体験談で具体的に説明してみる(1時間)			
8	タイプ検証4(知覚的態度と判断的態度)とまとめ	レポートタイプについて、ワークを通して検証します。今回は、「知覚的態度」と「判断的態度」です。また、これまでのまとめとして振り返りをします。					検証した結果について、自分の体験談で具体的に説明してみる(1時間)			
9	同じ指向同士(課題)	同じ動機付けの指向同士でグループを作り、各グループで同じテーマのワークに取り組み、そのテーマに対する成果物を考え、作成します。					ワークに取り組みながら、自分たちの特徴を書きだし、成果物を完成させる(2時間)			
10	成果物の全体共有	前回、取り組んだ成果物を指定した方法で全体共有し、より自己理解を深めます。					自分の指向の特徴を示す体験談を書きだしておく(1時間)			
11	異なるグループ同士(課題)	異なる動機付けの指向同士でグループを作り、各グループで同じテーマのワークに取り組み、そのテーマに対する成果物を考え、作成します。					ワークに取り組みながら、自分たちの特徴を書きだし、成果物を完成させる(2時間)			
12	成果物の全体共有とまとめ	前回、取り組んだ成果物を指定した方法で全体共有し、より自己理解を深めます。また、MBTIを自己PRなどにどのように活かせるかを概説する。					異なる指向同士のワークから分かった自分らしさを書きだしておく(1時間)			
13	先輩学生によるパネルディスカッション	大学4年生の内定者に登壇してもらい、2年次から4年次までの学修計画や、就職活動を通じた学びなどについて、理解を深めます。自分自身のキャリアデザインの参考にします。					自身の進路を踏まえ、登壇者の事前資料を読み、質問・確認事項をリストアップする(1時間)			
14	Global Proficiency Skills program	これまでの学生生活で培われた汎用的能力を客観的に測定します。「問題を解決する力」の現状を「思考力」「姿勢・態度」「経験」の観点で確認するアセスメントを受験します。					これまでの自己分析結果を踏まえに、これまでの経験を棚卸する(1時間)			
15	振り返り・アセスメントフィードバック	14回の授業を通じて学んだこと振り返り、GPS結果のフィードバックを行い、自身のキャリアビジョンをワークシートに記入します。キャリアデザインへの準備事項を明らかにします。					これまでの授業の振り返り、要点まとめ。自分自身のキャリアプラン作成(2時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
適宜資料を配付します。また、自主学修用のワークブックを配付します。これは授業を補完するもので課題として成績に加味されます。		レポート: 50% 課題: 50% S: 働くことの意味や社会人になるための基礎力を十分に理解し、積極的に課題に取り組むことができる。A: 働くことの意味や社会人になるための基礎力を概ね理解し、積極的に課題に取り組むことができる。B: 働くことの意味や社会人になるための基礎力を概ね理解し、与えられた課題に取り組むことができる。C: 働くことの意味や社会人になるための基礎力を知り、与えられた課題に取り組むことができる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし。		主体的に参加することを心がけてください。はじめは、このようなテーマについて考えることが難しく感じるかもしれませんが、考えてやってみることで自分が重要で、自分のペースで慣れていってください。								

科目名	キャリアデザイン (教育)	学年学期	3年前期	単位数	1	ナパリング	UL34103	研究室	非常勤	
担当者	濱野 裕貴子	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-				
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
	A B C									
授業概要										
本講義では、大学卒業後の自分のキャリアを主体的に考え、それを実現していくための手法を応用的に学んでいくことを目的としています。納得のできる進路を選択するには、自己理解を深めること、社会や職業に対する知識と自分なりの考えを持つこと、またそれらをわかりやすく他者に伝えるスキルを身に付けることなどが重要となります。本講義では、これらの知識やスキルを身に付けるために、これまでの大学生活での経験を振り返り、自己のキャリア形成のための具体的計画を行います。										
学修到達目標										
自己の将来のキャリア形成について向き合い、卒業後の進路選択や目標を実現するための計画を立て、実行に移すためのスキルを身に付けることを目標とします。特に、言語による自己表現、進路選択に伴う就職活動のための情報収集の仕方を学び得るものです。										
授業の進め方										
講義形式を主としながらも、「セルフワーク」や「解説」、さらに「社会人による講演」や「ロールプレイ」などを組み合わせながらアクティブに授業を進めます。また、毎回授業の振り返りを行い、次の授業でフィードバックします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	自律的なキャリア形成に向けて(ガイダンス)	本講義の流れやねらい、自己のキャリア形成への向き合い方について説明します。そのうえで、就職活動準備についても概観します。					キャリアデザイン で学んだことを見直し、卒業後の目標について考えてください(1時間)			
2	自分について深く知る コンピテンシー分析	適性検査の結果を確認し、自身のコンピテンシーを把握します。キャリア形成に役立つ自己分析法のレクチャーに基づき、実際にワークに取り組みます。					自身のコンピテンシー及びワークについて周囲の社会人1名以上と意見交換してください(1時間)			
3	職業世界を知る (業界)・仕事(職種)の 理解	日本における産業(業界)や仕事(職種)について概観し、それぞれの調査方法を解説します。					授業内で紹介した情報源に実際に当たり、業界・職種についての理解を深めてください(1時間)			
4	職業世界を知る 調査方法の理解	進路先調査を行うにあたって確認する項目や参照すべき情報源等について、解説します。					<事後課題>興味のある自治体や教育政策、企業について、詳しく調査を行ってください(1時間)			
5	日本の社会情勢と雇用・採用慣行	近年の日本の社会情勢および雇用・採用慣行を解説します。そのうえで、Webを活用した情報収集の方法について説明します。					授業後、紹介したWebツールを閲覧してください(1時間)			
6	職業世界を知る 就業体験を通じた仕事への理解	インターンシップについて学び、就業意識を高め、進路選択を明確にします。					インターンシップフェア冊子を読み、5社以上の企業研究を行ってください。(1時間)			
7	自分について深く知る 強みの把握とPR	ペアワーク(他者との対話)を通して、自己の強みを客観視します。そのうえで、自身の強みを文章化する際のポイントを学びます。					<事後課題>履歴書フォーマットの自己PR欄を完成させ次週持参してください(1時間)			
8	職業世界を知る 思の把握とPR	社会で求められる、文書でのコミュニケーションについて、履歴書の作成を通して実践的に学びます。					<事後課題>履歴書フォーマットの志望動機を含めた全ての欄を完成させてください(1時間)			
9	これからの社会におけるキャリア形成	これからの社会においてキャリア形成をしていくにあたり、重要な考え方や情報について解説します。その上で、職業キャリア形成の第一歩としての就職活動において学生に求められることについて説明します。					受講前に、新聞等で現在の社会情勢について調べてください(2時間以上)			
10	職業世界を知る 求める人材の理解	企業の人事担当者から、社会が求める人材像、および大学時代に身につけておいてほしいことなどについて、お話を伺います。					<事後課題>講演の感想、および自身の成長展望を、400字でまとめてください(1時間)			
11	自分について深く知る 能力	自身の言語面および非言語面に関する「能力」を把握するために、能力適性テスト(SPI)の模擬試験を受験します。					SPIの授業外学修を振り返り、苦手分野の対を十分に行って臨んでください(1時間以上)			
12	職業世界を知る コミュニケーション	模擬面接を通して、仕事や就活での口頭コミュニケーション(自己プレゼン)について実践的に学びます。					第7回、第8回の授業を振り返り、自己PRと志望動機の準備をしてください(1時間)			
13	職業世界を知る コミュニケーション	模擬GDを通して、仕事や就活での口頭コミュニケーション(合意形成)について実践的に学びます。					第12回で指示する事前課題に取り組みてください(1時間)			
14	自分について深く知る 力の分析と向上対策	能力適性テスト模擬試験の結果を振り返り、自身の能力の現状を把握します。試験解説に基づき、さらなる能力向上のための演習に取り組みます。					分野別に弱点を分析し、テキストの復習・基礎教育センターの活用を行ってください(2時間以上)			
15	まとめ	講義内容を振り返り、今後キャリア形成に向けてどのような行動を取っていくか考え、ポートフォリオを作成します。					ポートフォリオの指定箇所を完成させてください(1時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
レジュメ・資料を配布します。ポートフォリオファイルに綴って活用してください。なお、SPIの授業外学修用テキストとして、「SPI必出問題完全攻略」を配布します(購入は不要です)。		受講態度:30% 課題:40% 出席レポート:30% 課題点は提出期限を遵守(社会人マナーの実践)し、遅れた場合の評価は内容に問わず加点半分とします。 S:職業観を十分養い、自己分析が明確に伴い、他の学生への手本ともなる社会人マナーが身につけている。 A:職業観を養い、自己分析が明確で社会人マナーを理解している。 B:職業観を理解し、自己分析がある程度進み社会人マナーを理解している。 C:職業観を理解し、社会人マナーを理解している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「マイナビ2021就職活動がまるごと分かる本」(マイナビ出版) 「キャリア心理学ライフデザイン・ワークブック」(ナカニシヤ出版) 「働き方の哲学」(Discover21) ほか		社会に出るための準備をする授業です。主体的に取り組むことが大切です。授業の一環として夏季就職対策講座への参加が必要となります。また、ポートフォリオファイルを配布します。授業の資料などを綴って保管してください。								



科目名	ワークインフォメーション(人間・教育)	学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	UL44104	研究室	非常勤
担当者	野村 尚	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
本講義では、これから「社会人として、そして労働者として働く」学生が、働く上での諸問題をきちんと克服し、より良い働き方を実現できるための授業です。大きく「働く上での中心的な法律の説明、仕事と生活のバランスの取り方、社会保険の説明、働くことで問題が生じた際の解決方法、万が一転職や失業した際の手続などを学びます。									
学修到達目標									
働くうえで知っておくべき法律の一般的知識について習得している。									
授業の進め方									
基本的には講義形式で進めますが、授業の内容によりグループワークの形態で行うこともあります。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	ガイダンス	自己紹介、働く場面で生じるあらゆる問題を紹介し、労働法の基本的枠組みについて解説します。					話題となっている身近な法律問題を調べておく。(4時間)		
2	労働法の歴史	労働法の背景、歴史について学びます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
3	労働法総論	労働法の基本構造、労働法上の当事者、労働法の法源について学びます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
4	労働基本権	労働基本権の性格、内容について学びます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
5	労働関係の成立	募集、採用等労働関係の成立の際に発生する諸問題をとりあげます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
6	労使関係	労使関係の基本的枠組み、労働者、使用者と労働組合との集団的な関係を規律する法律について学びます。					労働基準法・労働組合法の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
7	雇用関係の展開	人事、職場規律と懲戒について学びます。					配付する就業規則等のサンプルを読む。授業後は振り返りをする。(4時間)		
8	雇用関係の終了	解雇、解雇以外の終了事由について学び、その際に発生する諸問題についてとりあげます。					配付する就業規則等のサンプルを読む。授業後は振り返りをする。(4時間)		
9	賃金	賃金の種類と体系、賃金の法規制について学びます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
10	労働時間	労働時間制度の基本的枠組み、特則について学びます。					労働基準法等の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
11	労働者の安全	労災補償制度の枠組み、内容について学びます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
12	労働組合	労働組合の組織と運営、その限界について学びます。					労働組合法の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
13	団体行動権、不当労働行為の禁止	労働者の団体行動についてその概念や法的枠組みを学ぶとともに、不当労働行為の救済について学びます。					労働者の権利についての条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
14	雇用保険制度と失業給付	雇用保険制度の概要、失業給付の概要について学びます。					基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
15	労働紛争の解決	労働審判、訴訟等労使関係における紛争解決手段について学びます。					該当法令を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間)		
テキスト					成績評価の方法・基準				
「労働法入門(有斐閣双書)」外尾健一著(有斐閣) ISBN:978-4641112759 (生協で購入してください。)					受講態度:50% レポート:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、授業では誠実に取り組み、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートを作成できている。A:授業内容を理解し、授業では誠実に取り組み、積極的な探求姿勢をもってレポート作成ができている。B:授業内容のおおよそを理解し、授業では誠実に取り組み、レポート作成ができている。C:授業の内容の60%程度を理解し、授業では誠実に取り組み、レポート作成ができている。				
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)				
「労働法」水町勇一郎著(有斐閣) 本格的なものなので、深く知りたい人が参考書等として利用してください。					戦後労働者が権利を確立するまでの歴史を知り、それに基づき、正当な労働者の権利及び義務とは何かを知る手がかりとなれば幸いです。				

科目名	学校ボランティア活動		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパ'リング	AA14105	研究室	A-01	
担当者	征矢野 達彦・佐藤 茂太郎・大蔵 真由美・内藤 千尋		必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスワ-				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>教員に求められる資質を理解し、自らの教員としての適格性を把握する機会とし、大学で学ぶ理論と小学校現場での体験に基づく省察を繰り返すことで、教員としての実践的指導力の基礎の育成を目的としています。特に、小学校生活の1日を理解し、小学校教諭の職務、校務分掌、役割、児童への関わり方、同僚性などを実際の生活の中で観察したり、実際のボランティア活動を通して学んだりして、教員を目指す自分自身の願い・課題を明確にし、課題解決に向けて自分自身への理解を深めていきます。</p>											
学修到達目標											
<p>1 自己の教員としての適格性を把握するとともに、自己課題をはっきりさせその克服に向けた見通しを持っている。  2 教育現場での体験をもとに、教職に必要な資質・能力の理解を深めている。  3 自発的、積極的態度を身につけ、人間関係構築の仕方、社会人としての常識の基本を修得している。</p>											
授業の進め方											
<p>最初に本授業の意義やねらい、学校現場に入る上での諸注意を理解した上で、小学校(児童館等)にわたるボランティア活動に参加します。また、活動状況を発表したり活動したことを振り返ったりしてレポートにまとめます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	学校ボランティア活動とは	学校ボランティア活動の授業の意義とねらい、参加態度と心構え					シラバスの読み、実施校調査等(1時間)				
2	学校ボランティア活動の実際	学校ボランティア活動における注意事項、お礼状の書き方					第1回授業の復習と自己の活動計画の作成(1時間)				
3	学校ボランティア活動への参加1	学校ボランティア活動への参加					学校ボランティア活動先についての理解(1時間)				
4	学校ボランティア活動への参加2	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
5	学校ボランティア活動への参加3	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
6	学校ボランティア活動への参加4	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
7	学校ボランティア活動への参加5	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
8	中間のまとめ	学校ボランティア活動の中間報告会					中間まとめのレポート作成、パワーポイント資料作成、発表原稿作成(1時間)				
9	学校ボランティア活動への参加6	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
10	学校ボランティア活動への参加7	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
11	学校ボランティア活動への参加8	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
12	学校ボランティア活動への参加9	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
13	学校ボランティア活動への参加10	学校ボランティア活動への参加					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
14	学校ボランティア活動振り返り	学校ボランティア活動振り返り、学校ボランティア活動先へのお礼状作成					お礼状下書き(1時間)				
15	活動のまとめ	学校ボランティア活動報告会					まとめのレポート作成、パワーポイント資料作成、発表原稿作成(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜必要資料を配付します。				<p>受講態度：70% 課題：30%  課題は、レポート等の記述内容で評価する。受講態度は、事前事後指導の態度、活動態度等で評価する。S:到達目標達成のために探求心をもって自己課題に誠実に意欲的に取り組み、論理的に表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって自己課題に取り組み、活動内容と自己課題を表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって自己課題に取り組み、各回の活動で学んだことの振り返りをし、表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の活動で学んだことが表現できる。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
必要に応じて提示します。				<p>本授業は、松本市内外の小学校でのボランティア活動を主要な内容とするため、活動を行う際の諸注意を遵守し、社会人としての常識を守って下さい。</p>							

科目名	インターンシップ			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	S-12
担当者	上野 隆幸			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C	2018年度～						
授業概要											
<p>企業・自治体・団体等が実施する5日間のインターンシップに参加し、実際のビジネスの現場に触れてもらいます。またインターンシップ前に事前研修を行い、企業研究やビジネスマナー等について学習してもらいます。インターンシップ終了後は事後研修として自らの経験を振り返ってもらい、その成果や自らの成長を報告会にて発表してもらいます。これらを通じて社会人基礎力の向上を目指します。</p>											
学修到達目標											
<p>事前研修、インターンシップ実習、事後研修を通じて、自らのキャリアについて深く考えるための情報や知識、また社会人としてのマナーやプレゼンテーション等のビジネススキルを身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>事前研修、インターンシップ実習、事後研修の3つに分けて実施します。本講義は前期開講科目ですが、インターンシップ実習は夏季休業中に、事後研修は後期初めに実施します。インターンシップ実習は5日間となります。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	事前研修	インターンシップ実習先の企業等に提出する自己紹介書の自己PRについて、自己分析を実施した上で、自己PR文の作成方法を学びます。					講義内容に従い、自己PR文を作成してください(7時間)				
2	事前研修	インターンシップ実習先の企業等に提出する志望動機について、企業研究を行うとともに、志望動機文の作成方法を学びます。					講義内容に従い、志望動機文を作成してください(7時間)				
3	事前研修	ビジネスマナー、特に身だしなみ挨拶について学びます。					テキストの指示部分を講義前・講義後に熟読して下さい。(6時間)				
4	事前研修	ビジネスマナー、特にメールや電話での対応も含めたコミュニケーションスキルについて学びます。					テキストの指示部分を講義前・講義後に熟読するとともに、課題を作成して下さい。(6時間)				
5	直前研修	インターンシップ中の課題、インターンシップ後の課題について学びます。併せてインターンシップに参加する上での注意点についても説明します。					テキストの指示部分を講義前・講義後に熟読するとともに、課題を作成して下さい。(6時間)				
6	インターンシップ実習	インターンシップの派遣先企業等において、5日間、実際の業務に従事し、「ビジネス」について学びます。					担当した仕事を振り返り、反省を日報に記入し、企業等へ提出してください(5日×2時間=10時間)				
7	事後研修	インターンシップを振り返り、学び得たことを確認します。また報告会向けのPPT資料の作成方法を学びます。					報告会に向けての資料(PPT)を作成し、大学へ提出してください。(6時間)				
8	事後研修	インターンシップを振り返り、学び得たことを確認します。また大学が発行する報告書向けの資料の作成方法を学びます。					報告書向けの資料(WORD)を作成し、大学へ提出してください。(6時間)				
9	インターンシップ報告会への参加	インターンシップ報告会に出席の上、発表またはポスター展示のいずれかの形でインターンシップの成果を報告します。					報告会に向けての資料準備、報告準備を行って下さい(6時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
講義内で必要に応じてプリント、テキスト等を配布します。					<p>課題：100% P：インターンシップ先での実習、事前研修・直前研修・事後研修への参加、報告会での発表または展示、のすべてがなされ、併せて学修到達目標を達成している。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
必要に応じてプリント、資料等を配布します。					<p>本授業の性格から、すべての授業に参加することを履修の条件とします。また講義とは別に実施する説明会(4月上旬開催予定)に参加していない場合は履修できません。【主として実践的教育から構成される授業科目】</p>						

科目名	教職論（初中等）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナパ`リツ	AL15001	研究室	A-13
担当者	今泉 博		必修選択	必修	科目種別	講義	ワイズア-			
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度（読替科目）							
	A	B	C	～2018年度 教職論（初等）						
授業概要										
学校現場には「いじめ」「暴力」「不登校」をはじめ、授業が成立しないなど、解決が求められる課題が山積しています。しかし教師の対応によっては、学級の状況が大きく変わります。現場での具体的な事例をもとに、問題の分析や対応の仕方、解決法について、学生自身が探っていくように、授業に対話・討論を取り入れ深めていきます。1年の前期の段階で、教育実践や教師の仕事イメージができるようになることは、教師をめざす学生には不可欠です。										
学修到達目標										
(1) 学校現場で教師が抱える困難と解決が求められている課題を理解している。(2) 「いじめ」「不登校」などの実態と対応の基本的視点を理解している。(3) 実践例をもとに、児童・生徒が生き生き学ぶ授業づくりの基本を修得している。(4) 災害や学校での事故から児童・生徒を守る教育の重要性を理解している。(5) 教師の仕事には研究・研修や豊富な体験が不可欠であると理解している。										
授業の進め方										
間違い失敗をだいにしながら、自分の考えを自由に表現し合えるような授業を共に目指します。授業は講義やグループ討論、アクティブラーニングなどを適宜取り入れながら進めていきます。考えること、発言すること、書くことをだいにしていきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業で学ぶことは何か、だいにしていきたいことは何かを最初に話します。毎回の授業の流れについて、イメージできるようにします。公教育の重要性を理解できるようにします。				ガイダンスで感じたこと及びこの授業で学んでいく自分の決意を文章にまとめる。(4h)				
2	教職の意義及び教員の役割	学級担任の役割。教師の対応・指導によって、学級は大きく変わっていきます。どうすれば児童・生徒が生き生き生活・学習できるようになるか、これまでの学校体験をもとに探ります。				学級づくりで大事にすべきことは何かを、自分の学校体験をもとに文章にまとめる。(4h)				
3	教職の意義及び教員の役割	「いじめ」「暴力」への対応。依然として「いじめ」や「暴力」による自殺など、深刻な事態が続いています。あらためて「いじめ」とは何かを知り、その発見や対応について学びます。				自分の学校体験をもとに、「いじめ」についてあらためて考え、文章にまとめます。(4h)				
4	教員の職務（研修と服務）	不登校問題。不登校の子はここ数年、十数万人という状況が続いています。現代の学校のあり方が問われているとも言えます。安心して学び生活できるようにするには、どんなことがだいを学びます。				不登校児に担任教師は自分たちはどのように対応していたかを振り返り文章にまとめる。(4h)				
5	教員の職務内容	教師が困難な壁に直面したとき（学級崩壊・いじめ）。「いじめ」・暴力があり、授業が成立しない6年生の学級が、一定の取り組みで大きく変わっていきます。何をだいに、どう対応したかを学びます。				自らの学校体験を振り返り、学級が荒れたりしたときに、教師はどう対応されたかを書きます。(4h)				
6	教員の職務内容	教師が困難な壁に直面したとき（児童・生徒と教師の関係）。児童・生徒との関係もうまくいかず、精神的にも困難に直面した教師がどんなことを考えどう対応することで教師を続けることができたかを学びます。				授業で扱った事例を参考にしながら、教師が直面する困難について考え、文章にまとめる。(4h)				
7	教員の役割	児童・生徒と共に授業を創る（国語の授業：漢字）漢字を単なる練習・習熟の対象にするのではなく、成り立ちなどを豊かに学習することで、子どもたちは意欲的に学習に参加するようになります。				自分が受けてきた漢字学習がどうであったかを振り返り、感じたことを文章にまとめる。(4h)				
8	教員の役割	児童・生徒と共に授業を創る（算数の授業：広さ）。児童・生徒は対立・討論しながら学習の課題に迫っていきます。そしてついに課題を解き明かしていきます。児童・生徒が「意欲的になるとき」を考えます。				自分の体験から教師がどういう対応したとき、児童・生徒は意欲的になるかを考え文章にまとめる。				
9	教員の役割	児童・生徒と共に授業を創る（社会科の授業：歴史）。歴史は暗記する教科ではありません。いくつかの事実をもとに想像し考える学習です。学習における推理・想像の重要性を学びます。				自分が受けてきた歴史の授業はどうであったかを、あらためて振り返り、文章にまとめる。(4h)				
10	教員の役割	児童・生徒と共に授業を創る（理科の授業：てこ）科学的な認識は、生活と結びついたときに、確かなものになります。そのためには教材が重要です。学習における教材の重要性を学びます。				印象に残っている理科の授業から、知的好奇心が生まれる条件について考え文章にまとめる。(4h)				
11	教員の役割	児童・生徒と共に授業を創る（道徳の授業：人権）。モラルや確かな人権感覚を育てていくことは、教育の重要な課題です。そのような教育のためには、何をだいにしていくかを考えていきます。				自分が受けてきた道徳の授業で感じたことを文章にまとめる。(4h)				
12	教員の役割	学校・学級の行事を創る。学校では、年間さまざまな行事が行われます。その中からいくつか取り上げ、協力し合いながら行事を創る教育的な意義を学びます。				これまでの学校生活で、強く印象に残っている行事について書く。(4h)				
13	教員の役割	児童・生徒のいのちを守る教育。津波によってほとんどの児童・生徒の命が失われてしまった学校がありました。対応を間違えれば、重大な事態になってしまうことを学びます。				資料を読んで感じたことを文章にまとめる。(4h)				
14	保護者と共に	保護者と信頼・共感をし合える学級づくり。どのようなことをだいに取り組んだら、保護者との信頼関係が築かれていくかを考えます。				自分が教師だったら、どういうことをだいにして保護者との信頼関係を作っていくかを書く。(4h)				
15	教員の職務内容（研修と身分保障等）	教師の学び・研究、教師という仕事の魅力。教師がどれだけ深く学び・研究しているかで、教育実践の内容・質が決まると言っても過言ではない。児童・生徒が生き生き学ぶ生活姿が、教師の生き甲斐です。				教師になっていく上で、これからどんなことを深く学ぶ必要があるかを文章にまとめる。(4h)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「教職論」岩田康之、高野和子 編（学文社） ISBN:978-4-7620-1652-3（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領」（東洋館出版社）（生協で購入してください。）			レポート：30% 課題：35% 定期試験：35% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力と探究的姿勢で課題に取り組む。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢で課題に取り組む。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組む。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組む。							
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）							
その他は必要に応じて適宜紹介する			【実務経験のある教員が担当】小学校教員として30数年勤務し、「いじめ」や「不登校」の克服や、子どもたちが生き生き学ぶ授業の実践経験をもとに、教育の本質に迫る授業を対話・討論しながら創っていききたいと思えます。							

科目名	教育基礎論（初中等）		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ'リング	AL15002	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美・山崎 保寿		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限、金曜日3限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	~2018年度 教育基礎論(初等)					
授業概要										
<p>高度に発達し複雑化した現代社会において、全ての人の成長に関わる教育という営みについて、その理念や意義、その背景となる思想や歴史を考え理解することは、教職に関する基礎的な資質を養う上で必要不可欠です。さらに、教育の原理として、教育の機会均等を理念とする学校が果たす役割について考察するとともに、教育に関する基礎的問題を取り上げ、その背景にある要因を理解することによって、現代の教育問題に対する分析視角を身につけることを目的とします。</p>										
学修到達目標										
<p>1)教育の原理として、現代社会における教育の理念と意義を理解し、説明できる。 2)教育が目指す理念と学校が果たす役割について関係的に理解し、説明できる。 3)教育の基礎的問題を取り上げ、背景にある要因を理解し、その一つについて説明できる。 4)人間の特質と人間の発達要件としての環境の重要性について説明できる。 5)代表的な教育思想について理解し、説明できる。</p>										
授業の進め方										
講義形式を主として進めます。グループ方式の探求活動を適宜取り入れます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	授業内容や進め方の説明などについて説明します。(大蔵)					シラバスを読み、授業全体のイメージをつかむ(4時間)。			
2	教育の理念	現代社会の特徴と人の成長及び教育の理念について説明します。(山崎)					新聞記事のスクラップブック作成、テキストの予習(4時間)。			
3	教育の意義	現代社会における教育の重要性とその意義について説明します。(山崎)					新聞記事のスクラップブック作成、テキストの予習(4時間)。			
4	教育と学校	教育の機会均等の理念と学校が果たす役割について説明します。(山崎)					卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
5	学校の目的	法的に見た学校の種類とその基礎的な目的について説明します。(山崎)					卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
6	教育の使命	教育のあり方及び教職の使命とその重要性について説明します。(山崎)					長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
7	教育の原理	教育の問題に関する背景の要因とその原理について説明します。(山崎)					長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
8	教育の将来	教育に関する動向変化と今後に向けた展望について説明します。(山崎)					長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
9	人間の本質1	人間の新生児の特質について説明します。(大蔵)					第8回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
10	人間の本質2	発達の要件としての環境について説明します。(大蔵)					前時の復習、第8回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
11	教育の思想1	子ども観、発達観、教育観の変遷について説明します。(大蔵)					前時の復習、第10回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
12	教育の思想2	子どもの権利、子どもの最善の利益について説明します。(大蔵)					前時の復習、第10回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
13	教育の歴史1	近代公教育制度の成立について説明します。(大蔵)					前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
14	教育の歴史2	近代公教育制度の発展について説明します。(大蔵)					前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
15	教育の歴史3	近代以降における学校教育の役割について説明します。(大蔵)					前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「学校教育の基礎知識(全訂版)」小島弘道編(協同出版) ISBN:978-4319002719(生協で購入してください。)					<p>受講態度:40% レポート:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度とは毎回の授業時に提出する意見カードを指します。S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しながら論理的に自分の考え、意見を述べる事ができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。</p>					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「小・中・高等学校学習指導要領」(小:東洋館出版社 中・高:東山書房) 「解説教育六法」解説教育六法編修委員会編(三省堂) 「教育小六法」市川須美子他編(学陽書房)					学校教育に関する基本的事柄を学ぶ授業ですので、積極的な授業参加を期待しています。受験予定教育委員会、長野県教育委員会、信濃教育会、松本市教育委員会等の資料を自ら探して読み込んで下さい。					

科目名	教育史（初中等）		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AL35003	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日3限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
近世から昭和戦後期にいたる日本における教育の展開を概観し、日本の教育の発展に関する歴史的知見を得るとともに、歴史的視点から現在の学校や社会が直面しているさまざまな教育問題を読み解く力の基礎を身につけることを目的とします。										
学修到達目標										
(1)近世の教育について事例をあげて説明できる。(2)小学校の成立とその普及について理解している。(3)学校教育と家庭、学校教育と社会の関係について理解し、説明できる。(4)大正期の自由教育の思想及び実践について理解している。(5)第二次世界大戦後の教育制度の成立とその変遷、思想について理解している。										
授業の進め方										
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方について説明します。				シラバスの読み及び教育史に関して興味を持ってそうなテーマを見つける(4時間)。				
2	近世の教育1	武家の教育について説明します。				第1回授業で配布した資料の読み、授業時に指示された内容を行う(4時間)。				
3	近世の教育2	庶民の教育について説明します。				前時の復習、第2回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
4	近代の教育1	近代学校教育制度の成立について説明します。				前時の復習、第3回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
5	近代の教育2	小学校の成立と普及及び家庭教育の誕生について説明します。				前時の復習、第4回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
6	近代の教育3	教育制度成立期の学校教育と家庭との関係について説明します。				前時の復習、第5回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
7	ここまでの授業のまとめ	近世から近代にかけての教育の変化についてのまとめを行います。				第6回までの授業内容を復習する(4時間)。				
8	近代の教育4	大正期の自由教育の思想1：活動、経験について説明します。				第7回授業で配布した資料の該当箇所の読み、授業時に指示された内容を行う(4時間)。				
9	近代の教育5	大正期の自由教育の思想2：学校教育と社会について説明します。				前時の復習、第7回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
10	近代の教育6	大正期の自由教育の実践について説明します。				前時の復習、第7回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
11	近代の教育7	教授法の変遷について説明します。				前時の復習、第10回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
12	昭和期の教育1	戦時下の教育について説明します。				前時の復習、第11回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
13	昭和期の教育2	戦後期の学校教育制度の成立と変遷について説明します。				前時の復習、第11回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
14	昭和期の教育3	戦後期の学校教育制度を支えた思想について説明します。				前時の復習、第13回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
15	まとめ	大正期から戦後までの授業を振り返っての総括と授業全体のまとめを行います。				ここまでの授業内容を復習する(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
使用しません。必要な資料を適宜配布します。				出席レポート：50% 定期試験：30% 課題：20% 出席レポート(毎時間後の感想・質問)、定期試験、課題(授業内容の理解度を高める為に書く授業内での課題への取り組み)を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「新訂版資料で考える子ども・学校・教育」遠藤孝夫他著（学術図書出版） 「解説教育六法2019」姉崎洋一他著（三省堂） その他は適宜紹介します。				昔の人々は何に悩み、次世代を育てるための教育という営みをつくり上げたのでしょうか。時代を越えた身近な営みとして教育について考える機会として下さい。						

科目名	教育心理学(中等)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ`リング	AL25004	研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～ ～2018年度 教育心理学(初等)					
授業概要										
教育心理学は教育についての科学的な研究をする学問です。教育心理学を構成する四領域「発達」「教授・学習」「人格・社会」「測定・評価」のうち、「教授・学習」「測定・評価」に重点を置いた授業をします。「発達」に関する領域も含まれます。教育心理学全般については、教科書で自習する「反転学習」の形式をとります。授業では、教育の効果についてエビデンスを求める考え方を『中学生の数学嫌いは本当なのか』を題材にして実習をしながら学びます。										
学修到達目標										
1) 証拠に基づく教育(Evidence-based Education)についてその理論的意義を理解している。 2) 学校教育に用いられる種々の測定評価方法について理解している。 3) 学校教育におけるディベートの効用について実体験を通して理解している。										
授業の進め方										
全部で15回の授業のうち6回を講義、6回をディベートに充てます。講義を聞くだけでなく、教科書や課題図書を読み、4つの読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。英語も活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のやり方についてオリエンテーションします。				授業シラバスをよく読んでおく。事後は『ザ・ディベート』を読む。(4時間)				
2	文章の書き方	「3論点意見文章法」による意見文の書き方について実習します。				『ザ・ディベート』を読んでおく。事後は課題図書読後レポートを書く。(4時間)				
3	ディベートの是非についてのディベート	『ザ・ディベート』読後レポートを提出します。ディベートの是非についてディベートをします。時間の錯誤について学びます。				『ザ・ディベート』読後レポートを書く。(4時間)				
4	測定と誤差	平均と標準偏差について実習を通して学びます。				『驚きの心理学』『教育心理学』の第2章までを読んでおく。(4時間)				
5	標準偏差についてディベート	標準偏差についてディベートをします。相関関係と因果関係について学びます。				『教育心理学』付章3「統計用語」を復習する。(4時間)				
6	テストの作成	「松本大学検定」のためのテスト作成を実習します。				付章3「統計用語」を復習する。『おどろきの心理学』読後レポートを書く。(4時間)				
7	血液型ディベート	『おどろきの心理学』読後レポートを提出します。課題図書の内容についてディベートをします。				『教育心理学』の第5章までをよんでおく。(4時間)(4時間)				
8	中間テスト	講義前半部分の復習テストとその解説をします。				授業の前半部分について各自復習をしておく。(4時間)				
9	統計的検定の実習	「超能力の検定」を実習します。				『中学生の数学嫌いは本当なのか』を読み始める。(4時間)				
10	証拠に基づく教育の是非	「証拠に基づく教育の是非」についてディベートをします。				『中学生の数学嫌いは本当なのか』の読後レポートを提出します。(4時間)				
11	教育目標の分類学	教育目標の分類と教育評価について実習します。				ブルームの教育目標の分類学について自習をしておく。(4時間)				
12	褒めることの是非ディベート	褒めることの是非についてディベートをします。				『教育心理学』の6-8章を読む。(4時間)				
13	ほめ方叱り方	ほめ方叱り方の効果とその誤謬について実習で学びます。				教科書第9-10章をよく読んでおく。(4時間)				
14	主体的学習の是非	「反転学習」の是非についてディベートをします。				『教育心理学』の読後レポートを書く。(4時間)				
15	まとめ	証基教育についてのまとめをします。				この授業で学んだことについて全般的な復習をしておく。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「教職課程コアカリキュラムに対応した教育心理学」守一雄著(松本大学出版会)(講義にて配布します。)(授業内で配布します。) 『ザ・ディベート』茂木秀昭著(筑摩書房) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。) 課題図書 『おどろきの心理学』妹尾武治著(光文社新書) ISBN:978-4334039042(生協で購入してください。) 課題図書 『中学生の数学嫌いは本当なのか-証拠に基づく教育のススメ』内田昭利・守一雄著(北大路書房) ISBN:978-4762830150(オリエンテーション時に)				定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
『「学力」の経済学』中室牧子著(ディスカバー21) さらに勉強したい人のための参考図書です。				反転学習で学ぶ教職科目です。おそらく唯一のディベートを学ぶ授業です。そして、唯一の科学的教育を学ぶ授業です。						

科目名	発達心理学 ( 初中等 )		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ' リング	AL35005	研究室	A-18
担当者	川島 一夫		必修選択	必修	科目種別	講義	ワイスア-	木曜日4限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
授業のねらいは発達心理学の研究を学習すると同時にレポートの提出とその討論によって進めて行きます。この授業の内容は1)講義で知識を身につける。2)本を読み、レポートを書くことで自分の考えをはっきりさせる。3)他の人と話をすることで、いろいろな意見があることを知ります。2回目と5回目の授業は教育心理学の内容を含みます。										
学修到達目標										
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)についての知識を身につけ、さらにより実践に対応できる理解を深めることができる。各授業時間では、小項目についての小テストおよび課題としての図書を読み感想レポートを書き、討論を行うことで、児童・生徒の理解を深めることができる。										
授業の進め方										
この授業は、「講義形式」および「討論形式」で授業を行います。講義とある時間は、ビデオ・パワーポイントによる講義を行い各章の終了後「小テスト」を行います。討論ではまた、質問の回答は松大かわティプログで答えます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、教育相談を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。				本授業への期待と、発達心理学について学びたいことをレポートする(4時間)				
2	生命誕生の不思議を探る(発達とライフスパン心理学)	発達を考えると、出生することから始まると考えがちです。しかし、人間としての生命は受精によって、すでに始まっているのです。胎児は母親の胎内で刻々と環境の影響を受け成長を続けることを理解する。				テキストの該当ページを読み、わからないことは自ら調べ質問の回答を考えておくこと(4時間)				
3	子どもの目に映るもの(知覚の発達)	言語等を使用して測定しにくい乳児の知覚について測定方法を基本として、その結果を学びます。また、知覚の発達が、量的な変化だけでなく、質的な変化を伴うことを学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
4	動物としての人(身体発達と比較心理学)	人は、乳児の初期において、他の動物と同様に反射を基本とした行動を示す。また、動物としての乳児は生まれた時から反射として多くの種類の行動を持っていることを学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
5	討論と質問の回答 世界の子どもの教育(教育心理学)	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
6	ピアジェの発達段階 感覚運動期と前操作期	ピアジェは、人間の認識の起源を系統発生と個体発生両面から発生的認識論で、同化と調節という概念をもちいて、子どもの認識の発達を4つの段階にわけた。等を学びます				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
7	ピアジェの発達段階 具体的操作期と形式的操作期	ピアジェの発達段階の考え方には、発達の順序性、普遍性、どの領域においても同じような質的な変化がおこるといった領域性が反映されていることを学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
8	感情とはなんだろう(感情の発達)	感情がどのような現象をさすのか明らかにしてゆく。その中で、一般的に「感情」には、悲しい、うれしい、幸せ、楽しい、思いやりの気もちなど、様々な心の働きがあることを学びます。				テキストの該当部分を読み、わからないことは自ら調べ、回答を考えておくこと(4時間)				
9	討論と質問の回答(子どもの才能は3歳、7歳、10歳)	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
10	ことばが意味をもつ(言語と認知発達)	胎児の段階から声の韻律を聞きながら育っている子どもは、生まれた時から母国語を話す方向で注意を向けている。その結果、子どもは母国語を獲得するのに有利な状況にあることを学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
11	親と子のつながり(家族関係の発達)	乳児は、3ヵ月を過ぎると、次第に、母親との愛着を基本とした人間関係を学ぶことを理解します。また、その基本は2次の動因によるものでなく、身体的接触による愛着に基づくことを学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
12	頭が良いってどういうこと?(教育心理学)	知能とは、推論し、計画を立て、問題を解決し、抽象的に考え、複雑な考えを理解するだけでなく、経験から学習するための能力を含む知的能力であることを学びます。知能テストについても学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
13	討論と質問の回答 発達障害とことばの相談	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
14	子どもの発達における障害について	発達の中で、認知、社会性、注意力、学習能力、言語能力、運動機能様々な特定領域に遅れと凸凹のある状態を発達障害という。知的障害(精神遅滞)、自閉症、欠陥多動性障害、学習障害などについて学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
15	欲求と意欲の発達(動機づけと達成動機の発達)	生涯発達における自己概念の領域とコンピテンスについて学習します。肯定的な自己評価からくる感情であるコンピテンスは、自己価値(自尊心)などの側面は年齢とともに低下する傾向にあることを学びます。				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「図で理解する 発達 新しい発達心理学への招待」川島一夫・渡辺弥生編(福村出版) ISBN:978-4571230493(生協で購入してください。)		小テスト:50% レポート:50%								
「子どもの脳を傷つける親たち」友田明美著(NHK出版) ISBN:978-4480072559(生協で購入してください。)		S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。								
「発達障害とことばの相談 子どもの育ちを支える言語聴覚士のアプローチ」中川信子著(小学館) ISBN:978-4098250479(生協で購入してください。)										
「ことばの発達謎を解く」今井むつみ著(ちくまプリマー新書) ISBN:978-4480688934(生協で購入してください。)										
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
参考書は授業時に別途指示します。		本を読んだレポートと討論があります。 【重要】尚、締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。								



科目名	教育制度論(初中等)		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AL35006	研究室	A-14
担当者	御代田 桜子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、火曜日2限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
現在の学校教育は、社会的諸条件の影響を受けながら、公法的秩序のもとで行われています。そのため、教師を目指す私たちは、教育的諸活動の諸々の側面に関心を寄せ、学校教育を成り立たせている諸条件、組織関係等に関心を払い、それらを検討、見直していくことが必要なのです。本授業では、現在の学校教育を支える基本的事柄を取り上げ、現在の学校教育を理解することを目的としています。さらに、それらを検討、見直すための視点を得ることをも目的としています。										
学修到達目標										
教育の制度、それを支える法令・行政、経営の基礎を理解し、現代の公教育を支えている基本原理を理解し説明できる。学校制度に関わる今日的課題及び動向を理解し、その一つについて説明できる。教育制度を支えている法制、教育行政の基本を理解し、文部科学省及び教育委員会の役割について説明できる。教育経営の基本を理解し、身近な学校の教育経営の特徴について説明できる。										
授業の進め方										
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて追加資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方などを説明します。				シラバスの読み、および新聞に目を通し教育制度に関する時事問題を1つ以上集めておく。(4時間)				
2	教育行政の基本原則(1)	教育と国民主権及び法律主義の関係について解説します。				第1回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
3	教育行政の基本原則(2)	教育行政の一般行政からの独立について、その考え方と背景について解説します。				第2回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
4	教育行政の基本原則(3)	教育における地方分権と地方自治について、その考え方と背景について解説します。				第3回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
5	教育行政の基本原則(4)	教育の一定水準の確保と指導助言について、その考え方と背景について解説します。				第4回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
6	教育行政の基本原則(5)	教育の中立性について、その考え方と背景について解説します。				第5回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
7	中央教育行政の仕組みと役割	文部科学省の組織とその役割について解説します。				第6回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
8	地方教育行政の仕組みと役割	教育委員会の組織とその役割について解説します。				第7回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
9	教員人事行政(1)	教員の養成・採用・研修の考え方とその運用について解説します。				第8回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
10	教員人事行政(2)	教員の服務・監督、懲戒処分と分限処分の考え方とその運用について解説します。				第9回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
11	学校経営	学校と教育行政とのかかわり、校務分掌などについて解説します。				第10回授業で配布された資料を読む。母校や実習先のHP、学校要覧等を確認する。(4時間)				
12	学校事故	子どもをめぐる物的事故や人的事故の代表例と事前・事後対応について解説します。				第11回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
13	教育振興基本計画と総合教育計画	国・都道府県・市町村の教育振興基本計画と総合教育計画について、具体例をみながら解説します。				第12回授業で配布された資料を読む。都道府県・市町村の教育計画を調べてくる。(4時間)				
14	諸外国の教育行政改革	欧米やアジアの教育行政や学校経営の改革動向を解説します。				第13回授業で配布された資料を読む。(4時間)				
15	まとめ	今日の教育行政と学校経営の改革動向を説明するとともに、講義全体のまとめを行ないます。				前時までに配布の資料からまとめて読む。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
テキストは使用しません。必要な資料を適宜配布します。必ず保管しておいてください。				定期試験：50% 出席レポート：20% レポート：30% 出席レポートとは毎回の授業後の感想・質問カード、レポートとは授業内容の理解度を高めるため課題レポート、課題とは期末課題、をそれぞれ指します。 S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的に自分の考えを述べるができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。 B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「教育小六法2020年度版」市川須美子、小野田正利、勝野正章、窪田真二、中嶋哲彦、成嶋隆編(学陽書房) 授業時に適宜紹介します。				教育の社会的価値、組織運営について学ぶ内容です。授業づくりや子ども指導とはかなり異質に感じるかもしれませんが、公教育は何か、公教育と私教育の線引きを理解するうえで非常に重要な内容です。						

科目名	学校経営（初中等）		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AL35007	研究室	A-14
担当者	御代田 桜子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日4限、火曜日2限		
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
<p>今日は、明治初期、第二次大戦直後に続く第三の学制改革期にあると言われ、教育の理念を定めた教育基本法、学校の目的や組織について定めた学校教育法、教職員の種類や職務について定めた教育職員免許法などが、この十年で大きく改正されました。こうした諸法と学校制度の関係を中心に、制度原理の変更、学校組織と運営の再編、教職員組織と人事の改革、開かれた学校づくり、世界の学校制度の改革との関連などを概説します。</p>										
学修到達目標										
<p>教育諸法に基づく学校の組織・運営について理解している。現代の子ども・学校をめぐる様々な問題状況に関心を寄せつつ、学校の組織と運営の多様な当事者とフィールドについて理解できる。日本の学校経営を世界の中においた時の特徴及び今日的な学校経営の課題を把握し、自分なりの見解を持つことができる。</p>										
授業の進め方										
<p>講義を手がかりにして、学生諸君が母校や地元の学校、教育実習先として予定している学校を対象として、学校の組織と運営、学校づくりの特色などを調べ、それをもとにグループワークを行うこと（アクティブラーニング）も予定しています。</p>										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	教育の三つの場・・・家庭、地域、学校について解説します。					シラバスの事前確認。第1回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
2	公と私の教育	公教育としての「学校」と私教育としての「学校」について解説します。					第1回授業で配布された資料の読み。第2回授業では配布された資料の確認。（4時間）			
3	学び舎	「子ども」の発見と成長発達の保障の場について解説します。					第2回授業で配布された資料の読み。第3回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
4	様々の学習施設	「おとな」の学び舎と「子ども」の学び舎について解説します。					第3回授業で配布された資料の読み。第4回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
5	学校の段階	幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・特別支援学校について解説します。					第4回授業で配布された資料の読み。第5回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
6	学校の種類	国・公・私立学校、全日制学校・定時制学校・通信制学校について解説します。					第5回授業で配布された資料の読み。第6回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
7	就学学校	通学区域と学校選択について解説します。					第6回授業で配布された資料の読み。第7回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
8	学校の組織と運営（1）	校内：教職員のいろいろ、校務分掌、チーム学校について解説します。					第7回授業で配布された資料の読み。第8回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
9	学校の組織と運営（2）	校外：教育委員会との関係、教職員の人事について解説します。					第8回授業で配布された資料の読み。第9回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
10	地域にねざす学校（1）	PTA、学校評議員、学校運営協議会、学校支援地域本部について解説します。					第9回授業で配布された資料の読み。第10回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
11	地域にねざす学校（2）	三者協議会、四者会議、地域フォーラムについて解説します。					第10回授業で配布された資料の読み。第11回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
12	新しいタイプの学校	株式会社立学校、夜間中学校、フリースクールについて解説します。					第11回授業で配布された資料の読み。第12回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
13	学校の危機管理の法制度	学校保健安全法、個人情報保護法、危機管理マニュアル、学校安全計画について解説します。					第12回授業で配布された資料の読み。第13回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
14	今日の学校の制度をめぐる改革	平成の学制改革について解説します。					第13回授業で配布された資料の読み。第14回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
15	今日の学校の運営をめぐる課題	開かれた学校づくり、コミュニティスクールについて解説します。					第14回授業で配布された資料の読み。第15回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
テキスト		成績評価の方法・基準								
授業時に配布するレジュメ及び資料によって進めます。		<p>出席レポート：40％ 課題：60％  出席レポートとは、毎回の授業時に提出する意見・質問カードを指します。課題とは期末課題を指します。  S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら、論理的に自分の見解・意見をまとめることができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。</p>								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
「学校経営」浜田博文編（ミネルヴァ書房） ISBN：978-4-623-08503-3 授業の中で適宜紹介する。		3年生配当の選択授業です。教育制度論をはじめ2年生までに履修した授業の基礎の上に立って、授業が進みます。また、教師の仕事の裏方的な部分や広い意味の学校を対象としています。意欲的かつ積極的な授業参加を求めます。								

科目名	教育課程総論（初中等）		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	AL25008	研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・田村 徳至		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C	2019年度～					
授業概要										
前半では、教育課程の歴史と学習指導要領、教科・領域の横断と長期的カリキュラム、カリキュラム・マネジメントについて学びます。後半では、教育課程の編成の考え方と具体編成についての講義、地域と連携した教育課程づくりや教材選択と使用の模擬体験など、教育課程づくり、キャリア教育の考え方と実際について学びます。										
学修到達目標										
本講義では教育受講者が課程の意義全般に関する知識を獲得しているとともに、実際の教育課程の編成の考え方と実際のスキルを身につけている。その具体的な目標は、教育課程、カリキュラム及び教育課程の歴史の理解、カリキュラムと学力の関係の理解、教育課程編成の考え方の理解、教育課程づくりの実際のスキルの獲得、キャリア教育の実践例である。										
授業の進め方										
講義形式が基本ではありますが、調べ学習やグループワーク、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを適宜取り入れます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	導入	シラバスと授業の進め方を説明するとともに、半年間のこの講義の追究テーマである「教育課程とは何か」を中心に教育課程の意義について問題提起します。（山崎・武者）				シラバスの確認。第1回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
2	教育課程の基本原則	教育課程の基本原則と社会的役割について解説します。（山崎）				第1回授業で配布された資料の読み。第2回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
3	教育課程と学習指導要領	教育課程と学習指導要領の関係及び次期学習指導要領の特徴について解説します。（山崎）				第2回授業で配布された資料の読み。第3回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
4	学習指導要領の改訂	学習指導要領改訂の変遷と内容の変化、現学習指導要領の内容について解説します。（山崎）				第3回授業で配布された資料の読み。第4回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
5	教育課程と子どもの発達	教育課程と子どもの発達の関係について解説します。キャリア教育の理解を深めます。（山崎）				第4回授業で配布された資料の読み。第5回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
6	教科横断的カリキュラム	教科のカリキュラムと教科外のカリキュラム、教科・領域を横断した教育内容の選択・配列について解説します。（山崎）				第5回授業で配布された資料の読み。第6回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
7	教育課程とカリキュラム	隠れたカリキュラムと学力の考え方について解説します。特別講師の授業も計画します。（山崎）				第6回授業で配布された資料の読み。第7回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
8	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントのあり方とカリキュラム評価の方法について解説します。（山崎）				第7回授業で配布された資料の読み。第8回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
9	教育課程の編成	教育課程の編成の考え方について、学習指導要領の総則を手がかりに解説します。（武者）				第8回授業で配布された資料の読み。第9回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
10	教育課程の編成と学校	教育課程の編成に、校長と校務分掌（教務委員会、学級担任・教科担任など）がどのように関わっているのかについて解説します。（田村）				第9回授業で配布された資料の読み。第10回授業で配布された資料の整理。（4時間）				
11	特色ある学校づくりと教育課程の編成	特色ある学校づくりを進めるうえで、教育課程の位置づけやその編成の具体について解説します。（田村）				第10回授業で配布された資料の読み。第11回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
12	学校経営計画(1)	学校目標と年間指導計画の作成の実際について解説します。（田村）				第11回授業で配布された資料の読み。第12回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
13	学校経営計画(2)	時間配当表の作成の実際について解説します。（田村）				第12回授業で配布された資料の読み。第13回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
14	教材の選択と使用	具体の県と学校を例にとり、教材の選択と使用について解説します。（田村）				第13回授業で配布された資料の読み。第14回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
15	地域とともにつくる教育課程	実際に、地域とともに教育課程をつくった事例をもとに解説します。（田村）				第14回授業で配布された資料の読み。第15回授業で配布された資料の確認。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「中学校学習指導要領」（東山書房）（生協で購入してください。） 「高等学校学習指導要領」（東山書房）（生協で購入してください。） 「未来を拓く教師のための教職課程論」山崎保寿編（学陽書房）（生協で購入してください。） 上記のほか、授業時にレジュメ及び資料を配布します。				定期試験：40％ レポート：40％ 小テスト：20％ 特色ある教育課程づくりや教材選択と使用の模擬授業について、アクティブ・ラーニングを取り入れて学び、その成果を学生のプレゼンテーションによって評価します。S：授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用し自分の意見を論理的にまとめ、発表できる。A：授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B：授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C：授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「「社会に開かれた教育課程」のカリキュラム・マネジメント」山崎保寿著（学事出版） 教師として必要な図書を適宜紹介します。				小中学校教員は教育課程づくりの力量が不可欠です。この点で、この授業は小中学校教員を目指すうえで要の一つとなる、必修の授業です。主体的で積極的な授業への参加を期待します。						

科目名	初等国語科指導法		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバ`リング	AA15009	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日5限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
国語科は全教科の基礎基本であり中心的教科です。国語科の教師は子どもたちに対して、人間形成や社会力及び創造力に必須の知識・理解と実践力を育てる立場にあります。小学校学習指導要領の示す「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」と、「知識及び技能」の書写を含む「我が国の言語文化」、ICTの活用を含んだ「情報の扱い方」等の事項について、各学年に応じた目標、内容及び指導法を理解し実践できるようにします。										
学修到達目標										
1 小学校学習指導要領「国語科」の目標及び内容を理解している。 2 国語科教材の内容を知り、教材研究の仕方を身につけている。 3 国語科授業の展開及び評価法を知り、学習指導案を作成できる。										
授業の進め方										
講義形式が基本です。講義内容の理解は全体の音読で行っていきます。講義に加えて演習や発表、板書を行います。内容によってはグループワークや討議を行います。ポータルサイトを利用した双方向型の課題提出や授業を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	講義の全体像を知り、見通しを持ちます。				シラバスを読み、今まで受けた国語の授業について想起する。(4時間)				
2	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷及び新学習指導要領について、新しい事項「情報の扱い方」を含んで理解します。				新学習指導要領の該当箇所を読み、講義内容を踏まえまとめる。(4時間)				
3	これまでの国語科教育の主な指導理論	これまでの国語科教育の主な指導理論を知り、指導案の意義や目的、構造を理解します。				テキスト及び配布資料等を読み指導案の用語についてノートにまとめる。(4時間)				
4	これまでの国語科教育と評価論	指導案の構造を踏まえ、評価とその意義、評価方法について理解します。				評価についての配布資料を読み、ノートにまとめる。(4時間)				
5	「話すこと・聞くこと」の全体像と授業の実践	学習指導要領をふまえた「話すこと・聞くこと」の授業の全体像を知り、模擬授業の体験を通して理解します。				学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の該当箇所を読みノートにまとめる。(4時間)				
6	我が国の言語文化に関する事項	学習指導要領をふまえた「我が国の言語文化に関する指導」の全体像を知る。模擬授業を想定し、実際の授業を体験的に理解します。				学習指導要領の「我が国の言語文化」の該当箇所を読みノートにまとめる。(4時間)				
7	論理的文章を「読むこと」の授業の構想	論理的文章を「読むこと」の授業の全体像及び指導項目を理解します。模擬授業を想定し指導案の作り方を学びます。				テキスト及び配布資料等を読んで指導項目をノートにまとめる。(4時間)				
8	論理的文章を「読むこと」の授業の実践と展開	論理的文章を「読むこと」の授業の学習指導案を作成し、実際の授業を通して指導と評価の一体化とは何かを学びます。				指導案の出来を精査し改善指導案を書く。(4時間)				
9	文学的文章を「読むこと」の授業の構想	文学的文章を「読むこと」の授業の全体像及び指導項目を理解します。模擬授業を想定し指導案の作り方を学びます。				テキスト及び配布資料を参考にし、指導案の大枠を立てる。(4時間)				
10	文学的文章を「読むこと」の授業の実践と展開	文学的文章を「読むこと」の授業の学習指導案を作成し、実際の授業を通して発問と指示、板書等の関連性を理解します。				これまでの資料を参考にしながら学習指導案を書く。(4時間)				
11	文学的文章を「読むこと」の授業の実践と指導案作成	文学的文章を「読むこと」の授業の学習指導案の細案を作成し、実際の模擬授業を通して検証し、振り返りをします。				実際の授業を想定した学習指導案(細案)を書く。(4時間)				
12	文学的文章を「読むこと」の指導案作成と検証	文学的文章を「読むこと」の授業の学習指導案の細案を作成して検証し、改善案を作成します。				模擬授業を振り返り、改善指導案をポータルサイトから提出する。(4時間)				
13	論理的文章を「書くこと」の授業の構想	「書くこと」の指導事項を踏まえ、学習指導案を基にした指導の方法を理解します。				これまで学んだ授業の構想についてレポートにまとめ、ポータルサイトから提出する。(4時間)				
14	言葉の特徴や使い方に関する事項、書写	言葉の特徴や使い方、書写に関する事項についてICT機器の効果的な活用を含んで理解します。				学習指導要領の「知識・技能」に関する箇所を読み、ノートにまとめる。(4時間)				
15	国語科と他教科・他領域との連動の重要性、総括	他教科・領域を支える国語科教育の在り方を理解します。				講義内容のノートを整理し、定期試験に向けた準備を行う。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 国語編(平成29年告示)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 小学校」長谷川祥子他著(明治図書出版) ISBN:9784182157523 (生協で購入してください。) 「国語五 銀河」常田 寛編(光村図書出版)(別冊、指示します。) 「増補 日本語が亡びるとき - 英語の世紀の中で」水村美苗著(ちくま文庫) ISBN:978-4-480-43266-7 (生協で購入してください。) 「小学校国語科 論理的文章を書く力を育てる書き方指導」長谷川祥子著				受講態度:20% 課題:40% レポート:10% 定期試験:30% S:基本的な概念や理論を正確に説明し適切に表現し、高い意欲を示している。 A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明し適切に表現している。 B:基本的な概念や理論を一部説明でき表現している。課題をすべて行っている。 C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。 「受講態度」には毎回提出のシート、考察、発表等を含む。欠席4回で単位を認定しません。遅刻2回で1回の欠席扱い、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編集所編(三省堂) 「小学校学習指導要領(新・旧)」(新:東洋館出版、旧:東京書籍) 「漢字筆順ハンドブック 第3版」江森賢治著(三省堂)				座席指定。レポートや課題は手書きやメソフィアによる提出です。詳細は第1回講義で指示します。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の国語科指導に携わった。						

科目名	初等社会科指導法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	AA25010	研究室	A-06
担当者	秋田 真		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
小学校社会科で扱う具体的な単元及び授業について学びます。ICTを用いた資料活用を行い、実際の授業の様子をVTRや模擬授業にて確認したり、教材研究や指導案作成を行ったりすることで、暗記中心の社会科ではない、児童の主体的な学びを重視した指導を身につけていきます。										
学修到達目標										
小学校社会科で扱う単元から具体的な社会事象を取り上げ、教材研究を行い、指導案を作成し、指導ができる。										
授業の進め方										
講義の他、教師役・児童役・参観者役に分かれての模擬授業を行います。特に省察場面を大切にしたアクティブ・ラーニングを重視し、展開していきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社会科授業の概要	小学校社会科授業の概要について学びます。				要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
2	社会科授業の目標	社会科授業の目的を知り、「暗記教科である」という認識からの脱却を図ります。				要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
3	地域学習(概要)	第3学年及び4学年「地域学習」における授業概要について学びます。				教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
4	地域学習(指導案作成)	第3学年及び4学年「地域学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。				模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
5	地域学習(模擬授業)	第3学年及び4学年「地域学習」における模擬授業を行います。				模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
6	産業学習(概要)	第5学年「産業学習」における授業概要について学びます。				教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
7	産業学習(指導案作成)	第5学年「産業学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。				模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
8	産業学習(模擬授業)	第5学年「産業学習」における模擬授業を行います。				模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
9	歴史学習(概要)	第6学年「歴史学習」における授業概要について学びます。				教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
10	歴史学習(指導案作成)	第6学年「歴史学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。				模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
11	歴史学習(模擬授業)	第6学年「歴史学習」における模擬授業を行います。				模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
12	公民学習(概要)	第6学年「公民学習」における授業概要について学びます。				教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
13	公民学習(指導案作成)	第6学年「公民学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。				模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
14	公民学習(模擬授業)	第6学年「公民学習」における模擬授業を行います。				模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
15	ALの視点を授業に生かす	小学校社会科で求められるアクティブ・ラーニングの具体について学びます。				要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 社会編」(日本文教出版)(生協で購入してください。) 「新編 新しい社会3～6年(上)(下)」(東京書籍)(別途、指示します。)				定期試験：40% 受講態度：30% 指導案作成やレポート作成：30% S:小学校社会科授業について、中心発問やねらい・まとめが一貫した指導案を作成し、発達段階に応じた指導ができる。A:小学校社会科授業について、中心発問やねらいが一貫した指導案を作成し、指導ができる。B:小学校社会科授業についてのねらいや中心発問が明確な指導案を作成し、指導ができる。C:小学校社会科授業の指導案を作成し、指導ができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校学習指導要領」文部科学省編(東洋館出版)				教師役・児童役・参観者役等の役割があります。役割を意識して取り組む姿勢が必要です。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容：小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の社会科指導に携わった。						

科目名	初等算数科指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ'リング	AA25011	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限、木曜日4限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A B C									
授業概要											
数量や図形などの基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用する問題解決力の育成という小学校算数科の目標に迫るための、指導のあり方を学んでいきます。低学年から高学年への学年進行に従って指導の系統を考察し、各段階の算数科の学びの基本や、その内容や指導方法を「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域で考察していきます。また、授業設計への適切な反映ができるよう、算数科におけるICTの活用法についても学びます。											
学修到達目標											
学生自らが主体的に、数、量、図形概念を獲得する過程を知り、子どもが形成していく数学的概念を、数学的活動と関連を重視し、小学校の学年進行に合わせた問題解決学習の指導法を体感している。											
授業の進め方											
児童の興味を引き出すための教材研究を重視し、実際に指導計画を作成し、その中から指導案を作成し、やがて模擬授業へと結びつけていきます。アクティブラーニングの指導の在り方を体験的に学んでいきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	算数科の第1学年内容を理解し、指導計画を作ろう	ガイダンス、小学校における算数科の役割を考えます。数学的な見方考え方の指導のあり方を学びます。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P20まで読み、概説を理解します。(4時間)				
2	算数科の第1学年内容を理解し、模擬授業をしよう	数感覚、個数を数えること、1対1対応の指導を具体化します。低学年の数学的活動を考えます。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P74まで読み、目標を理解します。(4時間)				
3	算数科の第2学年内容を理解し、指導計画を作ろう	加法減法の指導を具体化します。数理的処理する技能を身につけさせる指導を考えます。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P100まで読み、第1学年内容を理解します。(4時間)				
4	算数科の第2学年内容を理解し、模擬授業をしよう	乗法の指導を具体化します。日常の数理的処理について考察します。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P100まで読み、第1学年の指導計画を考えます。(4時間)				
5	算数科の第3学年内容を理解し、指導計画を作ろう	小数の指導を具体化します。評価のあり方を検討し考察します。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P131まで読み、第2学年内容を理解します。(4時間)				
6	算数科の第3学年内容を理解し、模擬授業をしよう	長さ・重さの指導を具体化します。日常の数理的にとらえる指導について考えます。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P131まで読み、第2学年の指導計画を考えます。(4時間)				
7	算数科の第4学年内容を理解し、指導計画を作ろう	除法の指導を具体化します。簡潔明瞭に処理する力の育成のための教材研究のあり方を考えます。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P175まで読み、第3学年内容を理解します。(4時間)				
8	算数科の第4学年内容を理解し、模擬授業をしよう	平行四辺形の指導を具体化します。中学年の数学的活動を考察します。(増田)					小学校学習指導要領解説算数編P175まで読み、第3学年内容を理解します。(4時間)				
9	算数科の第4学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう	グラフの指導を具体化します。数理的に処理する力について考察します。(佐藤)					小学校学習指導要領解説算数編P227まで読み、第4学年内容を理解します。(4時間)				
10	算数科の第5学年内容を理解し、指導計画を作ろう	分数の指導を具体化します。筋道を立てる力の育成を考察します。(佐藤)					小学校学習指導要領解説算数編P227まで読み、第4学年の指導計画を考えます。(4時間)				
11	算数科の第5学年内容を理解し、模擬授業をしよう	立体図形の指導を具体化します。簡潔明瞭の確に表現する力について考察します。(佐藤)					小学校学習指導要領解説算数編P278まで読み、第5学年内容を理解します。(4時間)				
12	算数科の第5学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう	異種の2量の指導を具体化します。数学的活動の楽しさを考察します。(佐藤)					小学校学習指導要領解説算数編P278まで読み、第5学年の指導計画を考えます。(4時間)				
13	算数科の第6学年内容を理解し、指導計画を作ろう	統計的な問題解決の指導を具体化します。数学的活動のよさを考察します。(佐藤)					小学校学習指導要領解説算数編P316まで読み、第6学年内容を理解します。(4時間)				
14	算数科の第6学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう	縮図拡大図の指導を具体化します。学んだことを生活や学習に生かす力の育成を考察します。(佐藤)					小学校学習指導要領解説算数編P316まで読み、第6学年の指導計画を考えます。(4時間)				
15	算数科の第6学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう	比例の指導を具体化します。振り返り学習の指導のあり方を考察します。(佐藤)					講義内容のまとめをします。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 算数編」(日本文京出版)(生協で購入してください。)				小テスト:40% 課題:30% 実技:30% S:授業内容を高度に理解し子どもの発達段階に応じた育ちを理解し小テストでは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、子どもの発達段階に応じた育ちを理解し小テストでは応用問題が解ける。B:授業内容を理解し子どもの発達段階に応じた育ちを理解し小テストでは応用問題に誠実に取り組み授業で示した小テストを支援を受けながら解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)				算数・数学の学力向上の課題意識を持って授業に参加するようにしてください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の算数科指導に携わった。							

科目名	初等理科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ`リング	AA25012	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
小学校第3学年～第6学年理科における学習内容を系統的に整理したり、同一単元における多様な指導法を比較・検討したりして、本質的な概念を抽出します。また、ICT等を効果的に活用し、アクティブラーニング型の授業のよさについて考えます。											
学修到達目標											
小学校理科における理科教育の内容および実践的な基礎知識、技能等について理解を深めるとともに、単元構想や45分の授業構成に関わるの見方・考え方等の諸能力を身につけ、主体的に授業を構想しようとすることができる。											
授業の進め方											
実際の授業VTRを視聴して討論したり、実際に教科書に出ている観察・実験をグループワークで行ったりして、初等理科の指導法について実践的に学びます。また、模擬授業等のプレゼンテーションを行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	A物質・エネルギー(1)	風やゴムの働き、振り子の運動、てこ等主に力学単元の系統性について、グループワークによる観察・実験を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生活の中の力学的事象を整理する(4時間)。				
2	A物質・エネルギー(2)	電気の通り道、電気のはたらき、電気の利用等、主に電気単元の系統性について、グループワークによる観察・実験を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生活の中の電気に関わる事象を整理する(4時間)。				
3	A物質・エネルギー(3)	物と重さ、空気の性質等、主に物質観や粒子に関する単元の系統性について、グループワークによる観察・実験を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生活の中の物質に関わる概念を整理する(4時間)。				
4	観察・実験の意義(1)	小学校理科における観察・実験の意義および安全指導等について、実際の授業VTRの視聴やグループ討論を通して学びます。					身の回りの出来事から、危険予知について具体的な事例を挙げて考える(4時間)。				
5	観察・実験の意義(2)	小学校理科における一人一実験の意義、教材を作成するための基本的な技能とポイントをグループワークを通して学びます。					観察・実験の体験を基にグループ内の役割の軽重について具体的な事例を挙げて考える(4時間)。				
6	B生命・地球(1)	人や動物の体等、生命構造や進化に関する単元の系統性について、グループワークによる観察・実験を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生活の中の生命に関わる事象を整理する(4時間)。				
7	B生命・地球(2)	季節と生物、生物と環境等に関する単元の系統性について、グループワークによる観察・実験を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生物と環境に関わる事象を整理する(4時間)。				
8	B生命・地球(3)	流水の働き、大地のつくり等、主に地球に関する単元の系統性について、グループワークによる観察・実験を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生活の中の地形や岩石に関わる事象を整理する(4時間)。				
9	栽培・飼育活動の意義(1)	小学校理科における栽培・飼育活動の意義を知り、栽培・飼育活動を行う際の留意事項について、グループ討論を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、飼育や栽培に関わる体験や事象を整理する(4時間)。				
10	栽培・飼育活動の意義(2)	生や死と向き合う具体的な場面や、その際の留意事項について、実際の授業VTR視聴やグループ討論を通して学びます。					小学校理科の教科書の該当単元を読み、生命について考えた体験を整理する(4時間)。				
11	理科授業の構想と実践(1)	理科の物理、化学単元を1つ選び、課題や発問、学習者の反応予測等の観点から構想を立て、集団で討論しながら練り上げます。					小学校理科の指導書を読み、参考となるアイデアを練り上げ(4時間)。				
12	理科授業の構想と実践(2)	理科の生物、地学単元を1つ選び、実際に扱う教材を準備し、授業の組み立てを想定しながら具体的な学習指導案を作成します。					小学校理科の指導書を読み、他者の意見を生かして作成した案を修正する(4時間)。				
13	理科授業の指導と評価	理科の単元を1つ選び、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、集団で検討します。					小学校理科の指導書や他者の案を読み、よりよい案を練り上げる(4時間)。				
14	今日的な理科授業	博物館等との連携やICT機器等の活用等、今日的な理科授業の工夫や課題について授業VTR視聴やグループ討論を通して考えます。					博物館等の具体的な活用事例やICT機器の活用のアイデアについて考える(4時間)。				
15	講義の総括	各学年の内容や系統性を整理し、授業者としての役割について授業VTR視聴やグループ討論を通して考えます。					小学校理科の指導内容の学年間系統性を理解し、授業者の創造性を生かす視点について考え(4時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 理科編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校理科の観察・実験の手引き」文部科学省(別途、指示します。) 各自で文科省HPからPDFを印刷することも可能(別途指示)。						レポート:40% 小テスト:20% 受講態度:40% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を拡張しながら思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲をもって取り組み、各回の内容を全て理解するとともに、正しく工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の主要な内容を正しく表現することができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「理科の学ばせ方・教え方事典」角屋重樹 林四郎 石井雅幸著(教育出版) ISBN:978-431680265-7 必要部分について、別途、指示します。 その他、授業VTR、実験資料、実験プリント						授業の作り方について授業者や子どもの側に立って討論したり、実際にものづくりをしながら考えたりします。準備物等は別途連絡します。【実務経験のある教員が担当】内容:小学校教員として理科指導に携わった。					

科目名	初等生活科指導法		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ`リング	AA25013	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳・秋田 真		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日5限、水曜日4限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
生活科における多様な指導法を比較・検討して、授業者の役割の違いについて考察します。また、生活科の年間指導計画、単元構想、授業構成、指導案作成、発問計画、ICTの活用等について学びます。前半では、主に自分と自然とのかかわりに関するもの(「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」等)の内容を例に、後半では、「学校を探検しよう」、「先生の仕事」、「秋祭りをしよう」、「私の成長調べ」などを例に学びます。										
学修到達目標										
小学校生活科の目的、目標、内容、方法について理解を深め実践的な基礎知識や技能等の諸能力を身につけるとともに、単元構想や授業構成に関わる考え方を身に付け、意欲的に授業を構想しようとする事ができる。										
授業の進め方										
実際の授業のVTR映像や実践記録等をもとに、児童の発言や授業者の役割等を分析し、グループワークで討論を深めながら進めます。また、市内の博物館や公共施設へ出かけアウトキャンパススタディを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	生活科の理念	生活科の理念を理解し、その理念を具現化するための様々な取り組みについて学び、グループ討論によって分析します。(澤柿)				生活科の様々な学習活動を想起し、自分なりの観点でグループ分けしてみる(4時間)。				
2	季節の変化と生活	自然観察を行う際に見られる子どもの行動やその背景を、フィールドワークを通して学びます。(澤柿)				身近な植物や小動物をできるだけ詳しくスケッチする(4時間)。				
3	自然や物を使った遊び	身の回りの物を使った遊びをグループワークで体験することを通して、児童の気づきがどのように深まるかについて考えます。(澤柿)				必要な物を身の回りから集め、そらを遊びに生かす方途について考える(4時間)。				
4	動植物の飼育・栽培(1)	淡水魚や昆虫等の小動物を飼育する準備を整える体験を通して、児童の気づきがどう深まるかグループ討論によって考えます。(澤柿)				みんなと一緒に飼育してみたい小動物の飼い方と留意点について調べる(4時間)。				
5	動植物の飼育・栽培(2)	花や野菜等を栽培する準備を整える体験を通して、児童の気づきがどう深まるかについてグループ討論によって考えます。(澤柿)				みんなと一緒に育ててみたい植物の栽培方法と留意点について調べる(4時間)。				
6	生活科の指導と評価	学習活動が自立への基礎に結びつくための指導の在り方と評価の方法について、授業VTRの視聴等を通して学びます。(澤柿)				子どもの活動をとらえたり、評価したりする方法を具体的に考える(4時間)。				
7	授業の構想と実践	生活科の単元を構想したり、学習指導案を作成したり、ICTの活用場面を考えたりします。(澤柿)				自分が実践してみたい生活科の単元についてアイデアを集め構想してみる(4時間)。				
8	講義の総括	生活科のねらいや内容を整理し、授業における子ども理解や授業者の役割を意識しながら、模擬授業を創ります。(澤柿)				構想した単元について、子どもの学習活動を想定し、授業者の発問や場づくりを吟味する(4時間)。				
9	生活科の授業の概要(1)	単元名「がっこうをたんけんしよう」の授業の概要について考えます。(秋田)				単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える(4時間)。				
10	生活科における教材研究と学習指導案(1)	単元名「がっこうのせんせいおしごとたんけんたい」に関わる教材研究及び学習指導案の作成について考えます。(秋田)				指導案を作成できるよう、省察を行っておく。(4時間)。				
11	生活科の授業の概要(2)	単元名「まつもとの「やさしささがし」をしよう」の授業の概要について考えます。(秋田)				指導案を作成できるよう、省察を行っておく。(4時間)。				
12	生活科における教材研究と学習指導案(2)	単元名「まつもとあきまつり」をしよう」に関わる教材研究及び学習指導案の作成について考えます。(秋田)				教科書と要領の該当部分を見直し、理解を深めておく(4時間)。				
13	模擬授業(1)	単元名「まつもとあきまつり」をしよう」の模擬授業を通して、本単元のねらいに迫る方途について考えます。(秋田)				導入部分の授業ができるようにしておく。(4時間)。				
14	生活科における教材研究と学習指導案(3)	単元名「おおきくなったね～せいちょうしらべ～」に関わる教材研究及び学習指導案の作成について考えます。(秋田)				教科書と要領の該当部分を見直し、理解を深めておく(4時間)。				
15	模擬授業(2)	単元名「おおきくなったね～せいちょうしらべ～」の模擬授業を通して、本単元のねらいに迫る方途について考えます。(秋田)				導入部分の授業ができるようにしておく(4時間)。				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 生活編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)			レポート:40% 定期試験:40% 受講態度:20% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「対話が授業を変える」富山大学附属小学校著(富山大学出版会) ISBN:978-434053008-3 必要部分について、別途、指示します。 その他、授業VTR、実験資料、実験プリント			教材作成や模擬授業等、役割分担をしておの活動が多くなりますので、積極的にコミュニケーションをとって参加することが望まれます。【実務経験のある教員が担当】小学校教員として、生活科指導に携わった。							



科目名	初等英語科指導法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ'リング	AA25014	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスア-	月曜日2限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
小学校の外国語活動・外国語科において、児童の状況を考慮し、児童に身近な事柄を取り入れ、教材を作成し、英語で児童に指示し、活動(ICTの活用を含む)を実施します。また授業に対しフィードバックをすること、されることを通し授業を改善します。										
学修到達目標										
小学校外国語活動・外国語科において小学生の状況を考慮しながら、適切な教材を工夫し作成し、英語で授業を実施することができる。										
授業の進め方										
学習内容に応じ、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	学習指導要領の理解。外国語活動、外国語科の目標。5領域の目標と言語活動の理解します。				復習をし、学習指導要領を読み、学習指導要領について深く理解する。(4時間)				
2	学習指導要領の理解	資質・能力の3本柱の理解。中学年・高学年の主たる内容の理解します。				復習をし、学習指導要領を読み、学習指導要領について深く理解する。(4時間)				
3	外国語科・外国語活動の学習過程・授業デザイン、Teacher talkの基本の理解	主体的・対話的で深い学びの理解。コミュニケーションにおける見方・考え方の理解します。				復習をし、学習指導要領を読み、学習指導要領について深く理解する。(4時間)(4時間)				
4	Teacher Talkマイクロティーチング	Teacher Talkの在り方を知り、MERRIERアプローチの基本を理解します。				Teacher Talkが児童が理解しやすくなるまでできるよう、復習し身に付ける。(4時間)				
5	外国語科・外国語活動の授業の在り方	中学年・高学年での具体的指導の在り方・活動、チームティーチングについて理解します。				教科書を復習し、活動のポイントを理解し、実際に英語で授業ができるようにする。(4時間)				
6	カリキュラム・マネジメントと年間学習指導計画	年間指導計画の在り方を理解し、言語活動や使用する教材の在り方について理解します。				年間指導計画の在り方と、言語活動・指導教材の関係を深く理解する。(4時間)				
7	単元計画・指導案作成	年間指導計画を基に、単元計画、指導案の在り方を理解します。				単元計画を基に、教材の在り方を考え、指導案に活かせるようそれらの関係を深く理解する(4時間)				
8	聞く活動 Three Hints Quizの基本の理解	聞くことの具体的活動であるThree Hints Quiz等を理解し、その基本にある考え方を理解します。				聞く活動の背景を理解し、具体的活動でその理解を実施できるようにする。(4時間)				
9	Three Hints Quizマイクロティーチング	Three Hints Quizのマイクロティーチングを実施し、自身と他者の活動から示唆を得て、改善を図ります。				自身のマイクロティーチングを振り返り次の活動に活かせるようリフレクションを行う。(4時間)				
10	小中高の連携、コミュニケーションの目的・状況・場面の充実	小・中・高の英語の連携とコミュニケーションの目的・場面・状況を理解し、小学校の外国語活動・外国語科の在り方を理解します。				コミュニケーションの目的・場面・状況を理解し、実際の活動に活かせるようにする。(4時間)				
11	話す活動・書く活動 Missing Game・アルファベットの表記の基本の理解	話す活動と書く活動においてMissing Gameを活用し、アルファベットの導入の仕方や他の活動を理解します。				具体的活動の各領域における活用を理解し、実際に活動できるようにする。(4時間)				
12	Missing Game・アルファベットを書くことのマイクロティーチング	Missing Gameを活用した話す活動・聞く活動を主とした活動を行います。				自身のマイクロティーチングを振り返り次の活動に活かせるようリフレクションを行う。(4時間)				
13	障害・コミュニケーションの課題のある児童への対応、文化に関する気づき	障害を持つ児童の留意を理解する。またCulture Talkの基本を理解します。				Culture Talkの基本を理解し、ポイントを押さえ、Culture Talkができるようにする。(4時間)				
14	授業観察、ディスカッション、指導案作成	小学校での授業を見て、これまでの学習等を深く理解する。また指導案の在り方を理解し、作成します。				授業を見て、これまでの学習を振り返る。また指導案の活用を理解する。(4時間)				
15	指導案作成とフィードバック	指導案の在り方を深く理解し、自分自身の指導に活かせるようにします。				学習指導要領を理解し、指導案の活動等に活用できるようにする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校 新学習指導要領ポイント総整理」大城賢著(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-03406-5(生協で購入してください。) 「小学校外国語活動基本の「き」」酒井英樹著(大修館書店) ISBN:978-4-469-24584-4(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領」(東洋館出版社) 購入済 「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」文部科学省著(開隆堂出版) ISBN:978-4-304-05168-5(生協で購入してください。) 購入済				受講態度:10% 課題:20% 実技:20% 定期試験:50% S:授業を高度に理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、実際に授業で優れた実践ができる。A:授業をよく理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、実際に授業で応用できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、授業で実践ができる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、実際に授業で基本的なことが実践できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「楽しみながら信頼関係を築くゲーム集」高久啓吾著(学事出版) 「英語活動ネタのタネ」小泉清裕著(アルク)				原則、欠席は2回までです。英語力考査を実施し、評価に加え、常に英語の勉強をしておいてください。参考書は指示があるまで購入しないようにしてください。						

科目名	初等音楽科指導法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	AA25015	研究室	非常勤
担当者	中山 裕一郎		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
まず、「小学校学習指導要領」に基づいて小学校音楽科教育の目標や指導内容について学びます。次に指導案の作成及び模擬授業を実施します。講義を主体としますが、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの教育用小楽器、及びピアノ弾き歌いなどの実技指導もおこないます。										
学修到達目標										
小学校音楽科の授業実践及び教育実習に必須な基礎的知識と技能を修得している。										
授業の進め方										
講義形式を基本としますが、各授業の後半部では弾き歌い(歌とピアノ伴奏)などの実技を毎回行います。また15回の授業全体における後半部では実際の小学校音楽科教育の実際に即した指導案作成と、グループによる模擬授業も実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	小学校音楽科教育の目標・指導内容について理解します。				授業終了後、講義内容を確認し、わからない点については出来る範囲で調べておく(4時間)。				
2	「学習指導要領」	「小学校学習指導要領」の歴史及び音楽科に関わる内容を中心に学びます。				「学習指導要領」の歴史、憲法及び他の法令との関連を確認しておく(4時間)。				
3	小学校低学年の歌唱指導法	わらべ歌及び1・2年次の歌唱共通教材について学びます。				自身の歌い遊んだわらべうたについて考え、授業に臨む(4時間)。				
4	低学年の器楽指導	リズム打楽器(タンバリン、カスタネットなど)及び鍵盤ハーモニカ奏法について学びます。				出来るだけ鍵盤ハーモニカを帯同し授業に臨み、事前事後に練習も行う(4時間)。				
5	中学年の歌唱指導法	おもに、3・4年次の歌唱共通教材とピアノによる伴奏法について学びます。				授業の事前事後にテキストにある伴奏譜を練習する(4時間)。				
6	中学年の器楽指導法	おもに鍵盤ハーモニカ奏法について学びます。				小学校時代に使用した鍵盤ハーモニカを帯同し、練習をする(4時間)。				
7	高学年の歌唱指導法	おもに、5・6年次の歌唱共通教材とピアノによる伴奏法について学びます。				授業の事前事後にテキストにある伴奏譜を練習する(4時間)。				
8	高学年の器楽指導法	リコーダー(ソプラノ)奏法の基礎を学びます。				授業へのリコーダー(ソプラノ)帯同を必須とする。練習し、授業に臨む(4時間)。				
9	鑑賞の指導法	鑑賞教材(曲)の選定及び指導法(情報機器及び教材の活用を含む)について学びます。				指定された楽曲についての研究(教材研究)を十分に行う(4時間)。				
10	「音楽づくり」の指導法	クラッピング・ミュージック、ボディー・ミュージック、ドラムサークル、バンブーダンスのいずれかを体験し、グループによる音楽づくりと表現について学びます。				既存の楽器以外で音楽表現に使用できそうな音源を探し、表現について考えてみる(4時間)。				
11	日本音楽の指導	日本音楽の教材及び指導法について学びます。				日本音楽の代表的なジャンル、代表的な楽器、代表的な楽曲について調べておく(4時間)。				
12	学習指導案の作成	学習指導案の作成について学びます。				授業以外の時間にグループ別に指導案の作成作業を行う(4時間)。				
13	模擬授業(1)	歌唱、器楽領域の模擬授業をグループ別に行います。				指導案の作成同様、模擬授業に向けたグループ別の準備を行う(4時間)。				
14	模擬授業(2)	鑑賞、音楽づくり領域の模擬授業をグループ別に行います。				指導案の作成同様、模擬授業に向けたグループ別の準備を行う(4時間)。				
15	音楽科における評価について	指導要領に示された観点別評価の他、音楽活動を評価することはどうか。また、評価規準と評価基準の違いについて学びます。				評価に関わる語句及びその意味について理解するための学修を十分に行う(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
『最新初等科音楽教育法』初等科音楽教育研究会編(音楽之友社) ISBN:978-4276821019(生協で購入してください。)				定期試験:70% レポート:15% 実技:10% 受講態度:5% S:学ぶべき内容の本質を深く理解し、深い洞察力と積極的な探求姿勢をもって課題に取り組んでいる。実技も、十二分に達成している。A:学ぶべき内容の本質を理解し、洞察力と探求姿勢をもって課題に取り組んでいる。実技も、十分に達成している。B:授業のおおそを理解し、課題の習得に誠実に取り組んでいる。実技も、求められる基準を達成している。C:授業を60%程度理解し、課題に対し誠実に取り組んでいる。実技も、求められる最低限の水準を達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
『小学校学習指導要領(平成29年3月31日告示)』(東洋館出版) 『小学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年7月)』(東洋館出版社)				実技をとまなう教科なので、そのための練習に時間をかけ十分に組み込んで下さい。リコーダー(ソプラノ)は必ず個人で帯同し授業に臨んで下さい。						

科目名	初等図画工作科指導法		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AA25016	研究室	非常勤
担当者	岡田 匡史		必修選択	必修	科目種別	講義	ワイズア-			
関連資格	小一種				履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C					
授業概要										
本授業科目は、学習指導要領の領域構成に準じ、表現領域は絵、造形遊び、工作(含デザイン)、立体の順に講義し、続いて鑑賞領域を概説します。終盤に学習指導案の書き方を指導し、教材研究の成果を学習指導案にまとめます。総括的課題として模擬授業を体験します。										
学修到達目標										
図画工作科の目標・理念及び指導内容について学習指導要領を基に理解し、指導能力及び題材開発能力を身に付けている。										
授業の進め方										
授業冒頭と各分野の講義終了時と模擬授業終了時にレポートを課します。終盤で知識・理解と図工題材開発能力の伸長を総合的に見る集大成的内容となる学習指導案を課し、模擬授業も課します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	図画工作科とは?	オリエンテーション(授業計画の概説/導入部の講義):授業計画を概説した後、本講義全体の導入として、H29『小学校学習指導要領』第7節図画工作における主要事項(教科構造・目標・造形概念等)を講義する。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
2	絵について(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/絵(主に学習指導要領概説):A表現から絵を取り上げ、指導要領記述事項を押さえた上で、描画指導、材料・用具、水彩画基礎、ICT活用等を説明し、解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
3	児童画と描画発達	A表現/絵(絵の発達の変遷、写実性の2範疇):絵の発達段階を概説、写実期に向かう移行期の理解に不可欠な写実性の2様態(知的写実性と視覚的写実性)を講義する。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
4	児童画の通覧と指導・評価	A表現/絵(絵の見方/小学校全6学年の特徴的作例):絵の発達段階の理解に立って、小学校6年間の各種絵を通覧する中で、絵の見方、指導上の要点、評価等を講義する。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
5	造形遊びについて(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/造形遊び(主に学習指導要領概説):A表現から造形遊びを取り上げ、指導要領記述事項を押さえた上で、各学年段階の特徴、ICT活用等を説明する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
6	造形遊びの基本類型	A表現/造形遊び(造形原理と各種活動様態):幼児造形や現代美術も視野に入れ、造形遊びの諸様態を整理すべく、計17項目で構成される造形原理を講義する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
7	造形遊びの学習構造と指導・評価	A表現/造形遊び(授業設計と諸留意点):造形遊びの授業設計で要請される、学習活動の流れ(計10段階)を説明し、造形遊びを動かす変数4種も概説する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
8	工作について(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/工作(工作全般):A表現から工作を取り上げ、指導要領記述事項を押さえた上で、機能用途目的、工作題材の要点、デザイン、ICT活用等を説明する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
9	立体について(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/立体(立体全般):A表現から工作との関連性が高い立体を取り上げ、指導要領記述事項を押さえた上で、立体題材の基本範疇、ICT活用等を説明する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
10	立体(工作も関連)の表現・鑑賞の基礎的観点と指導・評価	A表現/立体系譜(立体的な児童作品等概観[見方に習熟]):立体分野の理解に有益と判断される事項(材料と技法、表現主題、造形特性等)を講義する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
11	鑑賞について(学習指導要領・ICT活用等)	B鑑賞(主に学習指導要領概説/基本的な鑑賞指導メソッド):B鑑賞を取り上げ、指導要領記述事項を押さえた上で、4種鑑賞指導法、ICT活用等を説明する。解説も参照。意見交換・自由討議等の時間を設ける。				学習指導要領解説の予習及び講義での説明箇所の復習(4時間)				
12	図画工作科における学習指導案の書き方	学習指導案の目的・形式・記載事項等:本時に続く模擬授業を想定する形で、図画工作科学習指導案の書き方について範例を基に詳細説明する。				教材研究成果を基礎とした題材構想と講義での説明箇所の復習(4時間)				
13	教材研究と模擬授業(絵や立体)	班内討議:模擬授業実施に当たり、班を複数作り、ここ迄の授業内容を振り返り、諸種題材の省察を基に、各班でどのような模擬授業を実施するかを多角的に検討し合う。				講義全体の振り返り・総復習(図工題材イメージの拡充)(4時間)				
14	教材研究と模擬授業(工作)	準備作業:模擬授業の概要が決まった段階で、題材名、対象学年、総時間数、題材設定理由、目標、評価規準等を確定し、模擬授業で使う本時案を含む学習指導案を作成する。				講義全体の振り返り・総復習(図工題材イメージの拡充)(4時間)				
15	教材研究と模擬授業(鑑賞)	発表段階:材料・用具を準備し、学習指導案(本時案)に則り、班毎に模擬授業を実施し、受講者はそこで得た体験を基盤に省察レポートを執筆・提出する。				講義全体の振り返り・総復習(図工題材イメージの拡充)(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(日本文教出版)(生協で購入してください。) 「ベーシック造形技法-図画工作・美術の基礎的表現と鑑賞-」宮脇監修著 山口喜雄・天形健編(建帛社) ISBN:9784767920863 (生協で購入してください。)			レポート:10% 課題:85% 受講態度:5% S:授業内容を高度に理解し、学んだ事柄を基盤に密度濃く思考できる探求姿勢をもって課題に取り組み、群を抜くと判断できる緻密で充実した学習成果を示す。A:授業内容を良く理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、充実した学習成果を示す。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的を満たす学習成果を示す。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的をほぼ満たす学習成果を示す。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。			レポートは、氏名・学籍番号等明記し、指定件名(図工指導法)で、担当教員宛(makada@shinshu-u.ac.jp)添付送信。5班前後で模擬授業を実施。学習指導案(自作題材)は全員提出(e-mail別添)。							

科目名	初等家庭科指導法		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AA25017	研究室	非常勤
担当者	河村 美穂・瀬川 朗		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種				履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C					
授業概要										
小学校家庭科では何を対象としてどのように学ぶのかという問いを、子どもの生活課題と家庭科教育の歴史の変遷から考え、子どもの発達段階や生活課題から授業を構想し実践することを学びます。										
学修到達目標										
・家庭科教育の歴史の変遷を踏まえた上で、小学校における家庭科の教育目標を理解する。 ・小学校家庭科の目標・内容と学習方法・評価方法を理解する。 ・子どもの生活実態を踏まえた学習指導案を作成できる。										
授業の進め方										
ワークすることを重視した授業内容とする。自ら感じ・考え・悩み、授業づくりを実際に体験する。 授業をどのように設定するか、授業の目標設定、評価と併せて検討する。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	講義の概要・学習の進め方・評価、教科書・参考書等の紹介をします 受講上の注意事項についての説明も行います。				小学校学習指導要領解説家庭編 授業力UPの関心のあるページを読んでくる。				
2	家庭科教育の歴史的特徴	家庭科という教科の成り立ちと近年の教科の課題等を学校教育という制度とともに理解します。				小学校学習指導要領解説家庭編 授業力UP				
3	小学校家庭科学習指導要領の解説	小学校学習指導要領家庭編について、目標、内容をよく読み内容の取扱いについても詳しく理解するように、ワークを通して学びます。				学習指導要領解説家庭編 授業力UP、小学校家庭科教科書				
4	データから見る小学生の生活の変容	小学生の実態を各種統計調査結果や実体験をもとに理解します。 マクロの視点、ミクロの視点から物事をとらえることを学びます。				授業力 子どもに関する各種統計調査の結果をインターネット上で入手する				
5	小学生の心身発達と生活	小学生という発達段階を日常生活を営むという視点から理解し、心身の発達については発達心理学の知見も理解し学習につなげる視点を整理します。				授業力UP 発達心理学関連の書籍をさがして読む。				
6	家庭科の指導案を理解する	小学校家庭科に関する実践報告を書籍やインターネット上で探し、よく読んで指導案の流れや学習方法について具体的に学びます。				小学校家庭科の指導案をさがして読んでくる。				
7	衣生活領域の学習について	小学校家庭科学習指導要領C「快適な衣服と住まい」のうち布を使った小物の製作について実習を通して学びます。教科書や各種書籍を使って製作物を決めて計画し、作業工程を考えて取り組みます。				小物の製作に必要な材料・道具をそろえて持参する。				
8	基礎縫いを用いて布で作る小物の製作を行う	基礎縫いの練習もかねて布で作る小物を製作します。実際に縫いながら道具の使い方や布の見分け方など実用的な知識も習得します。				布で作る小物の材料を用意する				
9	基礎縫いを用いて布で作る小物の製作を行う	製作を行いながら評価項目について考え作品の評価方法についても考えます。				小物製作に必要な指導書をさがす。				
10	授業づくり… 様々な家庭科の評価	家庭科の評価方法を小物製作の体験を振り返り学びます。いすこれまでの教育経験についても振り返り評価を行う上での必須事項を考えます。				事前にこれまでの学校経験で、いずれかの教科で体験した、理不尽な評価についてエピソードを書く				
11	指導案作成の要点	学習指導案の要点を教科書を用いて整理します・現職の教員が作成した指導案についても学び、要点を押さえます。				小学校家庭科の学習指導案を読んでくる。				
12	指導案作成上の困難	各種指導案を読んで、自身の指導案の原案を作成する。その過程でわからないことをグループで話し合い解決する手立てを考えます。				学習指導案原案成し、持参する。				
13	学習指導案の発表と検討	完成した学習指導案を持ち寄り、小グループで紹介し、必要に応じて修正するために議論する。				作成した指導案に対する意見を整理してメモをつくる。				
14	学習指導案の発表	前回の検討事項を踏まえて改善した学習指導案を発表し、授業の導入部分または展開部分模擬授業をし、コメントペーパーを用いてまたは議論の時間をとって全体で検討します。				模擬授業後の振り返りをコメントペーパーをもとに整理する。				
15	まとめ	指導案について教員から講評するとともに、本授業全体を通して家庭科の授業づくりについて要点を整理します。				ポートフォリオを作成する				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 家庭編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)			定期試験:40% 課題及び発表:50%(模擬授業、学習指導案とその修正)、リアクションペーパーや、授業への貢献度(質問や意見等):10%							
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)			S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づき探求姿勢をもって課題に取り組み、指定以外の資料も調べ、考察できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、十分考察できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察できる。C:授業の内容の60%程度を理解し与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例と同レベルの考察ができる							
「新編 新しい家庭5・6」(東京書籍)(別途、指示します。)										
「小学校わたしたちの家庭科5・6」(開隆堂)(別途、指示します。)										
「新 授業力UP 家庭科の授業」伊藤葉子編著(日本標準) ISBN:978-4820804161(生協で購入してください。)										
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「未来の生活をつくる」日本家庭科教育学会著日本家庭科教育学会編(明治図書) ISBN:978-4-18-062424-9C3037			積極的に参加して家庭科を理解してください。グループでの学びも多くあります。コミュニケーションをとって学びあってください。							

科目名	初等体育科指導法		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	AA25018	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
小学校体育授業の「体づくり運動」「器械運動」「水泳」「表現運動」について、実技能力(示範能力)と指導能力を身につけていきます。そのために、技術や指導のポイント、基本的知識を理解するとともに、基本技術を獲得していきます。										
学修到達目標										
小学校学習指導要領解説体育編に基づき、小学校体育授業の各領域について、理論と指導の両面から学習し、実践的な指導法の習得として指導案が作成できる。										
授業の進め方										
各領域の担当を決め、指導案を作成します。指導案検討を行い、修正した指導案で、授業実践を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション、授業デザイン	小学校における体育科教育と学習指導要領にみる体育科の目標と内容構成と指導計画。担当領域を決めます。学習内容と教材づくり、情報機器及び教材の活用、指導と評価の一体化について学びます。				体育科の目標と内容について理解する。授業デザインの考え方を理解する。(4時間)				
2	体づくり運動	各領域の内容(1) 体づくり運動の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討をします。				体づくり運動の意図を理解し、指導案を修正する。(4時間)				
3	体づくり運動	授業実践(1) 体づくり運動の模擬授業とその検討をします。				模擬授業を振り返り、体づくり運動の指導法を理解する。(4時間)				
4	器械運動	各領域の内容(1) 器械運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討をします。				器械運動系の運動系統や構造を理解する。(4時間)				
5	器械運動	器械運動系の模擬授業とその検討をします。				模擬授業を振り返り、器械運動の指導法を理解する。(4時間)				
6	水泳	各領域の内容(3) 水泳系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討をします。				水泳の特性を理解し、指導案を修正する。(4時間)				
7	陸上運動	各領域の内容(2) 陸上運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討をします。				走跳運動の特性を理解し、指導案を修正する。(4時間)				
8	陸上運動	授業実践(3) 陸上運動系の模擬授業とその検討をします。				模擬授業を振り返り、陸上運動の指導法を理解する。(4時間)				
9	ボール運動	各領域の内容(4) ボール運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討をします。				ゲーム構造を理解し、指導案を修正する。(4時間)				
10	ボール運動	授業実践(4) ボール運動系の模擬授業とその検討をします。				模擬授業を振り返り、ボール運動の指導法を理解する。(4時間)				
11	表現運動	各領域の内容(5) 表現運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討をします。				表現系の運動の特性を理解し、指導案を修正する。(4時間)				
12	表現運動	授業実践(5) 表現運動系の模擬授業とその検討をします。				模擬授業を振り返り、表現運動の指導法を理解する。(4時間)				
13	保健	各領域の内容(6) 保健「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」の授業づくりの視点及び指導案作成をします。				学習内容を理解し、指導案を修正する。(4時間)				
14	保健	授業実践(6) 保健の模擬授業とその検討をします。				模擬授業を振り返り、保健の指導法を理解する。(4時間)				
15	これからの小学校体育	これからの小学校体育を考えます。(まとめ)				これからの小学校体育についての考えをもつ。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「新編新しいほけん3・4年」(東京書籍)(生協で購入してください。) 「新編新しいほけん5・6年」(東京書籍)(生協で購入してください。)				定期試験:50% 課題:30% 実技:20% S:各領域の指導法を高度に理解するとともに、従来の指導法を批判的思考に基づく探求姿勢をもって課題に取り組める。A:各領域の指導法をよく理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組める。B:各領域の指導法を概ね理解し、与えられた課題に誠実に取り組める。C:各領域の指導法の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組める。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)				事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切です。 【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の体育科指導に携わった。						

科目名	道徳教育指導論（初中等）		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	AL25019	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C	2018年度～ ～2018年度 道徳教育指導論（初等）					
授業概要										
学習指導要領改訂で、確かな学力を基盤とした生きる力の育成を目的に、道徳教育は最重点課題の一つとして、道徳の教科化が決まり、小学校は30年度から中学校では31年度から「道徳科」として実施されます。そこで、その課題や今後の具体的な授業の工夫等を扱い理解を深めます。この講義では、上記を踏まえ道徳の理論と指導法について講義します。										
学修到達目標										
道徳教育の目標の理解と共に、道徳教育の理論と指導法の理解と実践力を身につけている。										
授業の進め方										
前半に道徳授業の基礎・基本(道徳教育の変遷、道徳学習方法論、心に響く授業のあり方、教材開発、指導案の書き方)の理解を深めます。後半には、模擬授業を行い、道徳の授業の実践力を高めます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	道徳の理論	道徳教育の基礎理論					シラバスの読みおよび小学校学習指導要領の熟読（4時間）			
2	道徳の理論	道徳性とは何か、道徳の目標					課題レポート - 道徳教育の目標 - （4時間）			
3	道徳の理論	道徳性の発達理論、道徳性発達理論に基づく道徳教育					課題レポート - 道徳性発達理論 - （4時間）			
4	道徳の理論	日本における道徳教育の歴史、諸外国の道徳教育					課題レポート - 道徳教育の歴史 - （4時間）			
5	道徳の指導法	道徳教育の計画、道徳科の基本方針					課題レポート - 道徳科の目標 - （4時間）			
6	道徳の指導法	道徳科の学習指導の展開、道徳教材の活用					課題レポート - 学習指導案 - （4時間）			
7	道徳の指導法	道徳科における問題解決的な学習					課題レポート - 問題解決学習 - （4時間）			
8	道徳の指導法	道徳科における体験的な学習					課題レポート - 体験的な学習 - （4時間）			
9	道徳の指導法	道徳科の多様な授業展開例					課題レポート - 多様な道徳授業展開 - （4時間）			
10	道徳の指導法	教師に求められる道徳的指導力					参観授業観点別評価表の作成（4時間）			
11	学習指導案の作成	学習指導案の作成					学習指導案の検討、作成（4時間）			
12	模擬授業 - 模擬授業	導入の工夫					本日の模擬授業学習シートの記入（4時間）			
13	模擬授業 - 模擬授業	発問の工夫					本日の模擬授業学習シートの記入（4時間）			
14	模擬授業 - 模擬授業	板書の工夫					本日の模擬授業学習シートの記入（4時間）			
15	まとめ	道徳の評価、全体でのシェアリング					総合レポート（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（廣済堂あかつき）（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「道徳の理論と指導法」柳沼良太著（図書文化）（生協で購入してください。）					出席レポート：30% レポート：40% 模擬授業30%。レポート提出と模擬授業を単位認定の条件とします。S:授業内容を確かに理解し、道徳の授業に探求姿勢を持って意欲的に取り組み、創意工夫した道徳の授業ができる。A:授業内容を確かに理解し、道徳の授業に意欲的に取り組み、論理的な指導案が書け、発問を工夫した授業ができる。B:授業内容を理解し、道徳の授業に意欲をもって取り組み、指導案がかけ、道徳の授業ができる。C:授業内容を概ね理解して、道徳の授業に取り組み、児童のための授業をしようとする。					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「やさしい道徳授業の作り方」鈴木由美子・宮里智恵編著（淡水社） 「心に響く道徳教育講義」赤坂雅裕著（北樹出版）					模擬授業は、受講人数によりグループ分けして行う場合もあります。					

科目名	特別活動指導論（初中等）		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ'リング	AL25020	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘		必修選択	必修	科目種別	講義	ワイスア-	火曜日4限、木曜日4限		
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度（読替科目）							
	A	B	C	2018年度～ ～2018年度 特別活動指導論（初等）						
授業概要										
特別活動の意義や目的、実施上の課題等を考察し、その重要性を理解します。特に各内容（学級活動・児童会（生徒会）活動・クラブ活動・学校行事）が教科学習や教師の学級経営、あるいは児童・生徒の学校適応などに深く関わることから、各教科・領域（生徒指導、教育相談等）との関連を理解します。										
学修到達目標										
特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけ及び活動内容を理解し、特別活動の学習指導案、指導資料の作成ができることはもとより、児童生徒同士の関係や教師との関係などがその活動の基本になることから、人間関係のリレーションについても理解を深め、社会参画と自己実現の視点もふまえて、特別活動を学校教育全体の中に積極的に位置づけて推進することができる。										
授業の進め方										
講義を中心に、特別活動年間計画や指導案の作成、模擬授業等の演習を取り入れます。講義では事前に出された課題に対してレポートを作成し、レポートの内容をグループや全体で、あるいは教師と熟議しながら進めていきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	特別活動とはなにか	小中学校時代の印象深い思い出を出し合い、そのほとんどが特別活動（学級活動、学校行事など）であることに気づき、教育課程上の特別活動の意義と重要性を理解する。				シラバスとテキスト第1章総説P1～7を熟読する。事後は要点をまとめる（4時間）				
2	特別活動は何を目標としているか	特別活動の全体の目標を理解する。事前に学修した「望ましい集団活動」の内容をグループ等で議論することで理解を深め、個人的な資質や社会的な資質の育成や自分の人生に自己を活かすという意味を考える。				事前に特別活動の目標を暗記し、テキストP11～22のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
3	学級活動（理論編）	学級活動の目標とその内容を理解する。特に事前の学修をふまえて、学級活動を通して望ましい人間関係を形成することの意味を議論し、また各学年の目標と共通事項について具体的に理解する。				事前に学級活動の目標を暗記し、テキストP40～62のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
4	学級活動（実践編）	学級活動の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、外国語活動、総合的な学習などとの関連について理解するとともに、学級経営と深く関わっていることを理解する。				学校時代の学級活動を思い出し、その意味をまとめておく。テキストP62～73のノート作り（4時間）				
5	学級活動（習得編）	学級独自の活動を展開するためには、児童生徒の興味関心と教員の資質や児童生徒理解のうえに内容と展開の方法が決まる。また、学級の課題を話し合いによって解決するために、話し合い活動の指導法を学ぶ。				学級活動の学習指導案を書いてくる。事後は学習指導案の修正をする（4時間）				
6	生徒会活動（理論編）	生徒会活動の目標とその内容を理解する。特に事前の学修をふまえて、生徒会活動を通して自主的で実践的な態度を形成することの意味を議論する。またその内容について具体的に理解する。				事前に生徒会活動の目標を暗記し、テキストP74～91のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
7	生徒会活動（実践編）	生徒会活動の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、総合的な学習などとの関連について理解するとともに、学級経営と深く関わっていることを理解する。				全国で行われている生徒会活動の事例を集め、まとめておく。事後は目標を覚える（4時間）				
8	クラブ活動（理論編）	小学校で行われるクラブ活動の目標とその内容を理解する。特にクラブ活動を通して望ましい人間関係の形成や個性の伸長を図ることの意味を議論する。またその内容について具体的に理解する。				事前にクラブ活動の目標を暗記し、テキストP102～115のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
9	クラブ活動（実践編）	クラブ活動の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、外国語活動、総合的な学習などとの関連について理解する。また人間関係づくりや集団適応に深く関わっていることを理解する。				クラブ活動の特性をまとめ、その内容の取り扱いについてまとめる（4時間）				
10	学校行事（理論編）	学校行事の目標とその内容を理解する。学校行事を通して望ましい人間関係の形成や公共の精神、連帯感を深めることの意味を、具体的な経験や事前の学習を元に議論する。				事前に学校行事の目標を暗記し、テキストP92～112のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
11	学校行事（実践編）	学校行事の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、総合的な学習などとの関連について理解する。また公共の精神や集団適応に深く関わっていることを理解する。				学校行事の特性をまとめ、その内容の取り扱いについてまとめる（4時間）				
12	特別活動の基本的な性格と教育的意義	特別活動が人間形成に大きな役割を果たしていることを各活動（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）の学修から再認識し、学校における意味のある集団活動や体験的な活動の大切さを理解する。				テキストP1～10のノートをつくる。事後は議論の内容をまとめる（4時間）				
13	特別活動の指導計画作成と内容の取り扱い	特別活動の課題を整理し、その指導計画の作成にあたっては家庭や地域との連携の大切さを学ぶ。また、創意工夫や自主的・実践的な活動を展開するための工夫を学修する。				テキストP113～124のノート作り。事後は議論をまとめる（4時間）				
14	特別活動の内容の取り扱いについての配慮事項と評価	児童生徒の自主的、実践的な活動にまかせせるのではなく、教師の適切な指導のもとで行われることの意味を理解する。また、活動の評価の考え方や方法を学ぶ。				テキストP125～133のノート作り。事後は議論をまとめる（4時間）				
15	特別活動の時数と国旗・国歌の取り扱いについて	行事などでの国旗の掲揚と国歌の斉唱の指導について理解するとともに、年間の取り扱い時数や評価のあり方について具体的に考える。				テキストP134～137のノート作り。事後は議論をまとめる（4時間）				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1562-7（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」（東洋館出版） ISBN:978-4-491-03469-0（生協で購入してください。）			定期試験：70% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解し、授業中のグループ討議やそのレポートで自身の考えを述べることができる。A：知識的理解がおおむね可能で、積極的に体験参加ができ、レポートが充実している。B：知識的理解がおおむね可能で、体験内容をレポートできる。C：学んだ知識をもとにして、自身の特別活動の体験を意味づけることができる。							
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「キーワードで学ぶ 特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著（金子書房）			誰もが体験してきた特別活動ではあるが、その教育的意義はなかなか理解されにくい。しかし、特別活動が学校教育のメインディッシュとなる意義とその方法を、事例や議論によって学んでほしいと思います。							

科目名	総合的な学習の時間の指導法（初中等）		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	AL35021	研究室	A-06
担当者	秋田 真・澤柿 教淳		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度（読替科目）							
		A	B	C						
授業概要										
総合的な学習の時間について、その概要や指導法を身につけます。自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考えるといった学習の計画方法や授業方法身につけ、学習成果をICTや言語活動等を用いて発表させる方法を学んでいきます。										
学修到達目標										
総合的な学習の時間の特性より教材研究を行い、指導案を作成し、指導ができる。										
授業の進め方										
講義の他、教師役・児童役・参観者役に分かれての模擬授業を行います。特に探究的な学習について扱い、共同的な学びを体験的に理解できるよう展開します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	総合的な学習の時間の概要	総合的な学習の時間の概要について学びます。（秋田、澤柿）				学習指導要領より、総合的な学習の時間の項を読む。（4時間）				
2	総合的な学習の時間の具体	特色ある教育活動と横断的・総合的な指導の具体について学びます。（秋田）				自己が学んできた特色ある取り組みを想起する。（4時間）				
3	探究的な過程と共同的な学び	学習指導のポイントとなる探究的な学習過程と共同的な学びについて理解していきます。（秋田）				自己が学んできた特色ある取り組みを想起する。（4時間）				
4	地域の文化的特色を生かした学習（概要）	地域の文化的特色を生かした学習の授業概要について学びます。（秋田）				自己が学んできた地域の文化的特色ある取り組みを想起する。（4時間）				
5	地域の文化的特色を生かした学習（資料作り）	児童が資料を作成する際の留意点について学びます。（秋田）				次回の指導案作りのための素材を準備する。（4時間）				
6	地域の文化的特色を生かした学習（指導案作り）	教材研究及び指導案を作成します。（秋田）				指導案作成を引き続き行う。（4時間）				
7	地域の文化的特色を生かした学習（模擬授業）	模擬授業を行い、省察します。（秋田）				模擬授業の準備及び省察を行う。（4時間）				
8	地域人材や施設を用いた授業	地域人材や地域の施設活用について学びます。（秋田）				自己が学んできた地域人材や地域の施設活用を行った取り組みを想起する。（4時間）				
9	様々な発表の在り方	様々な発表方法について、具体例と共に学びます。（澤柿）				学修した発表のあり方について復習する。（4時間）				
10	ICTを用いた提示法	ICTの効果的な活用について学びます。（澤柿）				学修したICT活用について復習する。（4時間）				
11	地域の自然的特色を生かした学習（概要）	地域の自然的特色を生かした学習の授業概要について学びます。（澤柿）				自己が学んできた地自然的特色を生かした学習を行った取り組みを想起する。（4時間）				
12	地域の自然的特色を生かした学習（資料作り）	児童が資料を作成する際の留意点について学びます。（澤柿）				次回の指導案作りのための素材を準備する。（4時間）				
13	地域の自然的特色を生かした学習（指導案作り）	教材研究及び指導案を作成します。（澤柿）				指導案作成を引き続き行う。（4時間）				
14	地域の自然的特色を生かした学習（模擬授業）	模擬授業を行い、省察します。（澤柿）				模擬授業の準備及び省察を行う。（4時間）				
15	家庭及び地域との連携法	家庭や地域との連携における留意点について学びます。（澤柿）				これまでの学修より地域連携についての復習を行う。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」文部科学省著（東洋館出版社） 「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」文部科学省著（東山書房）				定期試験：40％ 課題：40％ 受講態度：20％ S:指導する児童の発達段階や地域を考慮した教材を開発し、かつ、具体的な指導上の留意点を考慮することができる。A:指導する児童の発達段階や地域のいずれかを考慮した教材を開発し、かつ、指導上の留意点を考慮することができる。B:指導する児童に対し教材を提示することができ、かつ、指導上の留意点を知っている。C:指導する児童に対し、教材を提示することができる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「小学校学習指導要領」文部科学省編（東洋館出版） 他は別途指示します。				模擬授業では教師役・児童役・参観者役等の役割があります。役割を意識して取り組む姿勢が必要です。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容：小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の指導に携わった。						



科目名	教育方法論(中等)	学年学期	1年前期	単位数	2	ナパリング	AL15022	研究室	A-15	
担当者	羽田 行男・狩野 浩二・安達 一寿	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限			
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
	A B C	~2018年度 教育方法論(初等)								
授業概要										
小・中・高等学校教育における教育の方法の基礎を学修します。教育方法の基礎的理論に関して、教育学及び心理学の視座に立って理解します。その上で、学習指導の原理と方法について、学習教材、学習形態、相互交流の観点から考察します。また、情報機器及び教材の活用を通して、これからの授業実践のあり方について基礎的な能力を身に付けます。最後に、授業の質を高めるための授業研究と授業改善のあり方について、構造的にとらえます。										
学修到達目標										
教育方法に関する基本的な理論を学習するとともに、これらの理論に基づいた具体的な実践方法についても修得している。										
授業の進め方										
講義形式の授業に加えて、学習内容によってはグループワークやアクティブラーニングなどの授業形態も取り入れます。第9回から第11回の授業では、ノートパソコンを持参し電子黒板等を使用した双方型授業を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	はじめに	本科目の目的と授業指針について理解します。教育方法について問い直すとともに、小・中・高等学校教育における教育の方法に関して具体的に考えます。(羽田)					小学校における学びを振り返り、レポートを作成する。(4時間)			
2	教育方法の理論と歴史1	教育方法の歴史について学びます。教授法について歴史的な文脈の中でとらえるとともに、それらの理論的な特徴について比較検討することを通して、教育方法に関する理解を深めます。(羽田)					配布プリントを読み、教授法に関するレジュメを作成する。(4時間)			
3	教育方法の理論と歴史2	発達心理学にもとづいた学習の過程について学習します。ピアジェやヴィゴツキー等の発達理論について学ぶこととおして、児童期を中心に学習の特質について考えます。(羽田)					配布プリントを読み、発達理論に関するレジュメを作成する。(4時間)			
4	教育方法の理論と歴史3	認知心理学にもとづいた教授・学習理論について学習します。具体的には、素朴概念・メタ認知・条件付けによる学習・観察による学習・自己強化による学習、および評価に関する理論を学びます。(羽田)					配布プリントを読み、教授・学習理論に関するレジュメを作成する。(4時間)			
5	学習指導の原理と方法1	教材・教具の理論と学習の成立要件について教授学の理論と実践をもとに学習します。教材とは何か、教材を解釈するとはどのようなことなのかを実際の授業を素材として考えます。(狩野)					配付資料および、示範授業映像を見て、学修事項をノートにまとめる。(4時間)			
6	学習指導の原理と方法2	学習形態に応じた教育方法を考察します。一般的な班学習と異なる学習形態論について、これからの時代に必要となるアクティブラーニングを素材にし、実践的に学びます。(狩野)					配付資料および、模擬授業を見て、学習形態論を考察し、ノートにまとめる。(4時間)			
7	学習指導の原理と方法3	授業における発話とコミュニケーションについて学びます。教師のことばの四形態と竹内敏晴による発話のワークショップを経験します。子どもの腹に落ちる言葉について、考えます。(狩野)					ワークショップに参加し、教師のことばの意味を学び、日々の生活に生かす。(4時間)			
8	中間のまとめ	参考資料等にあたり、学修内容の統合を図ります。受講生が自ら学んだことを基にし、模擬授業を行ったり、討論したりする活動に取り組みます。必要に応じて、担当者からアドバイスを行います。(狩野)					ワークショップに参加し、学修の整理を行い、学修事項をノートにまとめる。(4時間)			
9	教育メディアとICTの活用1	情報教育、及びICT活用の教育に関する理論と現在の施策動向について学習します。その中で、教員及び教育メディアの特性に関して把握し、効果的な教育メディアの活用方法について検討します。(安達)					配付資料に関連する情報を検索し、課題をノートにまとめる。(4時間)			
10	教育メディアとICTの活用2	学習指導要領にあるICT活用の内容・方法に関して整理し、授業及び学習活動のデザインと導入について、事例研究をおこします。また、デジタル教科書や電子黒板の導入状況や活用例を検討します。(安達)					関連情報をインターネットで検索し、課題をノートにまとめる。(4時間)			
11	教育メディアとICTの活用3	ICTを活用した場合の情報活用能力と教育効果、ICTとアクティブラーニングの関係、プログラミング、情報モラルなど新しいICT活用での指導法とその課題に関して学習します。(安達)					議論を通して課題を明確にし、自らの課題を整理し、レポートにまとめる。(4時間)			
12	授業研究と授業改善1	教材内容の提示とプレゼンテーションについて学びます。視覚、聴覚、触覚、味覚などの感覚により、教材はどのように受けとめられるのかについて、具体的な事例をもとに考察します。(狩野)					配付資料および、示範・模擬授業を通して、教材の提示方法についてノートに省察する。(4時間)			
13	授業研究と授業改善2	アクティブラーニングの方法と技術について学びます。個別・相互・組織学習により、児童が主体的、自主的に学習するために、課題の設定が必要となります。それらを相互学修により追究します。(狩野)					配付資料および、相互学修の成果をノートに整理する。(4時間)			
14	授業研究と授業改善3	アクティブラーニングの評価と改善について学びます。児童の瞬間瞬間に現れるしぐさや表情、つぶやきなど授業展開を劇的に向上させる契機はどのように把握できるのかを具体的な授業を通して考えます。(狩野)					配付資料、示範授業を通してアクティブラーニングの評価と指導改善について省察する。(4時間)			
15	まとめ	本科目の振り返りと総括について、取り組みます。本講座の全体を振り返り、疑問点を整理し、さらに内容について小レポートを作成します。(狩野)					配付資料および、相互学修を通して、自己の課題を認識し、小レポートを作成する。(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
適宜、授業のなかで配布します。		レポート:50% 小テスト:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社) 「中学校学習指導要領」(東山書房) 「高等学校学習指導要領」(東山書房)		集中講義があるので、開講日程に注意すること。								

科目名	生徒指導・進路指導（初中等）		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	AL25023	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘・川島 一夫		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日4限		
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度（読替科目）							
	A	B	C	～2018年度 生徒指導・進路指導（初等）						
授業概要										
「生徒指導提要」により生徒指導とはなにか、進路指導を含めて考えます。講義後に小テストをすると同時に、討論およびレポートの提出によって考えていきます。教科書として、「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」を使用し、生徒指導について講義を進めていきます。また、副読本の読書感想文提出後にグループでの討論も行う予定です。										
学修到達目標										
生徒指導および進路指導とは何かということについての理解を深め、学校での児童生徒の問題行動に対応するための知識を身につけている。										
授業の進め方										
教科書に従って講義を行い、数回の小テストを行います。副読本についてのレポートと討論も行い、レポートは、提出期日を遅れると受け取りません。レポートはワープロで提出してください。質問は、松大かわテブログで答えます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、生徒指導と進路指導を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。（川島・岸田）				本授業への期待と生徒指導について学びたいこと、学ぶべきだと考えることをレポートする（4時間）				
2	生徒指導・進路指導を考える	生徒指導・進路指導・キャリア・カウンセリングについて学校での必要性を講義で理解し、学校における生徒指導・進路指導の実態やその大切さを理解します。（川島）				自分の経験からの生徒指導をイメージして、そのとき気付きや思いをまとめる（4時間）				
3	発達を考慮した生徒指導・進路指導とはなにか	学習理論を応用した教室の行動変容を生徒指導・心理指導で応用するために、その効果と生徒への影響を理解します。（川島）				生徒指導・進路指導に関連して「友達地獄」を読み感想文を書く（4時間）				
4	キャリア・カウンセリングの基礎と発達心理学	発達心理学の理論を応用してキャリア・カウンセリングを理解するために、テクニカルタームの意味を学習し、その効果と生徒への影響を理解します。（川島）				学校における学習理論を応用した教室の行動変容の具体的な利用の事例を考えまとめる（4時間）				
5	討論と質問の回答読書感想レポート	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）				
6	学校におけるシステム・アプローチの利用	システム・アプローチが、対象をシステムという観点で捉え、階層性があることを理解します。（川島）				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる（4時間）				
7	進路指導・キャリア教育と家庭・地域社会（発達障害児の進路指導を含む）	軽度発達障害児の心理を中心に、その基盤となる心理学・医学的な知識について講義します。軽度発達障害に関する学校での指導・支援と、将来に向けての進路指導の在り方を理解に努めます。（川島）				軽度発達障害について理解した上で、教育現場などで、より適切な対処が考へる。（4時間）				
8	討論と質問への回答、「教育の職業的意義」	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行う。討論は、指定された項目に従って、各自の意見を述べる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）				
9	問題行動・不登校等の現状と課題	様々な発達課題についての小中高等学校での現状を理解し、生徒指導提要と参考図書から基本的な対応策の概略を学びます。併せてキャリア教育の視点と指導のあり方から児童生徒の発達課題を理解します。（岸田）				テキスト第5章を読む。（4時間）				
10	個別の課題への対応「いじめ」	いじめ発生の解釈と対応の原則を学び、具体的な事例についてグループ討論を行い、自らの体験等による狭い解釈のみならず、人権・福祉・対人関係などの広い視点から考察します。（岸田）				テストの回答と授業の振り返り（4時間）				
11	個別の課題への対応「不登校」	不登校の定義と実態、これまでの施策の変遷、教師による支援の特徴などを理解することで、不登校児童生徒への理解を深めます。（岸田）				テキスト 第4節を読む（4時間）				
12	個別の課題への対応「非行・暴力・自殺」	児童生徒の暴力行為や性に関する問題、自殺の実態を知り、家庭や地域（警察・福祉・医療等）との連携を視野に入れた支援と予防の在り方を、ロールプレイなどの方法によって具体的に学びます。（岸田）				テキスト 第4節を読む（4時間）				
13	チームとして取り組む生徒指導の理論と方法	主に学校心理学の理論から、生徒指導をヒューマンサービスの視点でとらえ直し、チーム支援としての問題解決的な方法のみならず、予防的、開発的な支援の理論と方法を講義によって学びます。（岸田）				テキスト 第9節読む。（4時間）				
14	ヒューマンサービスとしての新しい生徒指導の考え方	問題解決的支援をチームで行う方法について事例をもとにロールプレイを通して学びます。また様々な発達課題に対応できる学級集団づくりと人間関係づくりの理論と方法を学びます。（岸田）				テキスト 第12節読む。（4時間）				
15	進路指導とキャリア教育	進路指導とキャリア教育中で具体的にどのように指導を行うか考へる。教科書を使用しての講義と小テストを行います。（川島）				講義を通してのまとめ（4時間）				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」川島 一夫、勝倉 孝治著（おうふう出版） ISBN:978-4273035693（生協で購入してください。） 「生徒指導提要」文部科学省 著（教育図書） ISBN:978-4877302740（生協で購入してください。） 「友だち地獄」空気を読む、世代のサバイバル、土井隆義著（ちくま新書） ISBN:978-4480064165（生協で購入してください。） 「発達障害の子どもたち」杉山登志郎著（講談社） ISBN:978-4062800402（生協で購入してください。） 他1冊あり。掲示や初回授業で確認してください。			レポート：70% 小テスト：30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。							
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考文献は、授業時に、紹介します			【重要】本を読んだレポートと討論があります。締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。大変ですが楽しみにしてください。							

科目名	教育相談（初中等）		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	AL25024	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘・川島 一夫		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日4限		
関連資格	小一種、中一（英語）、高一（英語）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度（読替科目）							
		A	B	C						
授業概要										
いじめ等の問題行動や不登校などの不適応行動、学級崩壊などに対して、それらが発生する背景や原因を考察するとともに、時代によってどのような教育施策がとられてきたのかを概観し、今日的な課題を明らかにします。その上でこれらの問題行動は発達の過程で周囲の家族や友人、先生との人間関係の中で何らかの葛藤を抱えていることを学び、「受容」「共感」「自己一致」を基本概念としたカウンセリングの理論をもとに、教育相談の考え方やその方法について実践的に学びます。										
学習到達目標										
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法についての知識を修得し、さらにより実践に対応できる実践力を身につける。学校場面を中心に、児童生徒や保護者からの相談と、教師側からの生徒指導上の面談場面なども想定して、理論と知識を駆使した実践の方法を修得している。										
授業の進め方										
この授業は、「講義形式」や「ロールプレイによる演習」、「グループによる討議」等で授業を行います。講義形式ではビデオ・パワーポイントによる講義を行い各章の終了後「小テスト」を行います。後半は読書レポートの提出と討議を行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、教育相談を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。（岸田・川島）				本授業への期待と生徒指導について学びたいこと、学ぶべきだと考えることをレポートする（4時間）				
2	発達を考慮した教育相談を考える	教育相談の基礎的な知識としての児童生徒の発達について理解し、その過程で誰もが会おうであろう様々な発達課題とその対応について、事例を交えて考察します。（川島）				自分の発達課題を明確に自覚し、そのときの解決策を思い出し、レポートする（4時間）				
3	学校でのカウンセリングを考える	教育相談とカウンセリングの違いを講義で理解し、学校における相談活動の実態やその大切さを理解します。その基本として来談者中心のカウンセリングについて詳しく学びます。（川島）				児童から先生への相談をイメージして、そのとき気付きや思いをまとめる（4時間）				
4	討議と質問の回答	課題図書を読み、グループ学習による、討議を行う。討議は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討議は、司会を決め、討議を行うために必要な技術も学びます。（川島）				討議の内容についてまとめ、討議を通して学んだことをまとめる（4時間）				
5	学校でのカウンセリングを考える	学校で行われるカウンセリングには、来談者中心療法に基づく、カウンセリング・マインドやエンカウンターグループなどの基本的知識の応用が含まれることを学びます。（川島）				カウンセリングの理論を応用した学校での教育相談ではどのようなことが可能かを考える（4時間）				
6	スクールカウンセラーの利用を考える	学校で、スクールカウンセラーがどのような仕事をしているのか、また、教師・学校の側からスクールカウンセラーをどのように活用することで教育相談を円滑に行うことができるのかについて考えます。（川島）				討議の内容についてまとめ、討議を通して学んだことをまとめる（4時間）				
7	学校におけるブリーフセラピーの利用を考える	ブリーフセラピーを応用して間接的に褒めることを学ぶ。過去や現在の成功(例外)を探る、将来の成功(解決後のイメージ)、状態を数字で表す、本人の関与を尋ねる、の5つの方法を理解します。（川島）				学校におけるブリーフセラピーの具体的な利用の事例を考えまとめる（4時間）				
8	教育相談の事例に学ぶ	カウンセリング、エンカウンター、対人関係ゲーム等の技法を駆使して、いじめ問題や不登校を解決した事例についてグループで討議し、これまで学んできた理論と方法について理解を深めます。（岸田）				肯定的メッセージを活用して、良い雰囲気のカラス作りを考えレポートする（4時間）				
9	教育相談の演習 保護者への対応（その1）	保護者から学校への苦情を想定して、3人グループで教育相談のロールプレイを行います。教師役、保護者役、観察者をそれぞれ体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験から学びを深めます。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
10	教育相談の演習 保護者への対応（その2）	前回と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行います。違う役割を体験して、新たな気づきをシェアしあい、さらに役割をローテーションして3人がすべての役割を担います。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
11	教育相談の演習 児童生徒への対応（その1）	前回と違うグループで3人が役割を交代してロールプレイを行います。教師役、児童生徒役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合い、新しい気づきを得ます。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
12	教育相談の演習 児童生徒への対応（その2）	前回と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行います。違う役割を体験して、新たな気づきをシェアしあい、さらに役割をローテーションして3人がすべての役割を担います。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
13	チームによる相談の進め方	1対1の教育相談ではなく、その事例をチームにより組織として対応するためのヒューマンサービスの理論と方法を、演習を通して学びます。（岸田）				配布される資料からヒューマンサービスの理論と方法をまとめ、事後はレポートする（4時間）				
14	チームによる相談の進め方	学校内に限らず、地域の専門機関や保護者などとの連携支援の大切さを理解し、ヘルパーの考え方やシートを活用したアセスメントと支援策決定の方法を学びます。（岸田）				配布された事例について自分なりにアセスメントし、事後は支援策を立てレポートする（4時間）				
15	教育相談の意義と方法	教育相談活動の促進のために、教員の被援助志向性と教員集団の疎結合システムを理解し、これまでの学修内容を自分の相談活動にどのように生かしていくかをグループで討議し、理解を深めます。（岸田）				ディスカッションの内容をレポートする（4時間）				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」川島一夫、勝倉孝治著（おうふう出版） ISBN:978-4273035693（生協で購入してください。） 「子ども虐待」西澤哲著（講談社） ISBN:978-4062880763（生協で購入してください。） 「すごい「会話力」」齋藤孝著（講談社） ISBN:978-4062883962（生協で購入してください。）			レポート：60% 受講態度：20% 小テスト：20% S：内容を高度に理解し、グループディスカッションに積極的に参加しロールプレイでは役割演技によって受容や共感を十分に理解する。A：内容を理解し、相談のロールプレイでは役になりきって演技して新しい気付きを得る。B：内容をおおむね理解し、役割によって体験できる内容が違うことを理解する。C：内容を60%程度理解し、与えられた課題に対して誠実に取り組むことができる。							
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「実践スクールカウンセリング・学級担任ができる不登校児童・生徒への援助」田上不二夫著（金子書房） 「学校現場で使えるカウンセリング・テクニク（上・下）」			講義のみならず、体験によって学ぶことが多い授業です。グループワークを行い、シェアリングやグループ討議が中心になりますから、欠席せずに体系的に体験できれば深い学びが期待できます。							

科目名	国語科概論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ`リング	AA15025	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠です。加えて子どもたちに対して国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語(日本語)に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身につけることが大切です。指導者が言語感覚・能力を培い、自らの思考力・判断力・表現力を育成することが、子どもたちの感性や情緒を育て人間形成や社会参加につながっていくことを理解していきます。										
学修到達目標										
1 言語の機能としての国語の特質を理解し、説明できる。 2 教材としての「国語科」を理解し、論理的な思考力・表現力を身につけている。 3 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向け自らの国語力を伸ばすことができる。										
授業の進め方										
講義形式が基本です。講義内容の理解は音読で行います。講義に加えて演習や発表、板書を適宜取り入れます。必要に応じてペア学習やグループ討議を行います。小学校の教員として不可欠な言語力をつけるための指導をくり返し行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスを聞き、国語科教育の概要及び講義全体の見通しを持ちます。				テキスト2~15ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
2	文章の種類とは - 詩の言葉と論理の言葉 -	文学的文章と論理的文章の特質について、それぞれの概要及び学校教育における指導の目的を知ります。				テキスト16~24ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
3	文学的文章の指導の目的	学校教育における文学的文章の指導の目的を知り、発達段階に即した教材の特徴を知ります。				テキスト38~48ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
4	文学的文章の構成要素	学校教育における文学的文章の指導の目的を知り、文学的文章の主な構成要素を具体的な作品を読んで理解します。				テキスト49~59ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
5	文学的文章の構成要素 -粗い文章と詳しい文章-	場面の役割や段落の働きにおいて、描写が表す意義を中心に作品に対する理解を深めます。				指導事項が実際の教材にどう表れているかを具体的にノートにまとめる。(4時間)				
6	文学的文章の構成要素 -バイアス・ワード-	言語が持つ特質の一つとしてのバイアス・ワードを理解し、作品の中における表出について理解します。				テキスト60~70ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
7	我が国の言語文化	学習指導要領「知識・技能」から、我が国の言語文化に関する事項について理解します。				テキスト121~132ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
8	言葉の特徴や使い方 -漢字や書写-	学習指導要領の内容「知識及び技能」から、言葉の特徴や使い方に関する事項を学びます。				課題図書についてレポートを書き、ポータルサイトから提出する。(4時間)				
9	音声言語の指導 -事実と感想・意見-	現在の子どもたちに求められる言語力について、各種の調査から実態を知り、音声言語力における課題を知り解決の方向性を考えます。				テキスト109~120ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
10	論理的文章の指導の目的	論理的文章の種類と運用場面を理解します。				テキスト71~91ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
11	論理的文章の構成要素	文章構成や段落、主要語句(キーワード)を理解します。特質としての名づけの重要性を知ります。				テキスト92~107ページを読み、講義内容を踏まえてノートにまとめる。(4時間)				
12	論理的文章の構成要素 -帰納的思考-	論理的文章の構成要素のひとつである帰納的思考について理解します。				テキスト25~36ページを読み、これまでの講義内容を踏まえてノートをもとめ提出する。(4時間)				
13	論理的文章の構成要素 -演繹的思考-	論理的文章の構成要素のひとつである演繹的思考について理解し、命題について理解します。				課題図書についてレポートを書き、ポータルサイトから提出する。(4時間)				
14	論理的文章の構成要素 -具体と抽象-	論理的文章に認められる特色の一つから、具体と抽象についてその効果を理解し表現します。				配付資料を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)				
15	学習指導要領の構造 -主語と述語-	学習指導要領、教科書、教材、授業の関連性を把握しまとめます。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。定期試験に向けて準備を行う。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説国語編」(東洋館)(生協で購入してください。) 「はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説」長谷川祥子編著者(明治図書) ISBN:9784182157523(生協で購入してください。) 「国語五 銀河」常田寛著(光村図書出版)(別途、指示します。) 「子どもの図書館」石井桃子著(岩波文庫) ISBN:978-4006022549(生協で購入してください。) 「頭のいい子」は音読と計算で育つ川島隆太ほか著(二見書房) ISBN:978-4576152110(生協で購入してください。)				受講態度:20% 課題:40% レポート:10% 定期試験:30% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。「受講態度」とは毎回出すシート、考察文、発言・発表等です。欠席4回以上で単位を認定しません。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編集所著(三省堂) 「漢字筆順ハンドブック 第3版」江森賢治著(三省堂) その他は講義中に適宜紹介します。				遅刻・早退2回で1回の欠席、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。指定の原稿用紙を生協で購入し、他の用具類は第1回の説明に従ってください。【実務経験のある教員が担当】小学校教員として国語を主に児童の指導に						

科目名	社会科概論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	AA25026	研究室	A-06
担当者	秋田 真		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスカー	火曜日5限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>小学校教育の中で、社会科はどんな位置付けなのか、そしてどんな理論で指導していけばよいのかについて学びます。さらに、各学年の学習内容に合った教材の配列や知識の構造について知ることで、社会科教育を理解する基礎を身に付けていきます。</p>										
学修到達目標										
<p>教科としての小学校社会科の位置付けを理解している。また、社会科学習理論や各学年の目標や内容等を理解し、授業の組み立てに必要な教材研究の進め方の基礎を身に付けている。</p>										
授業の進め方										
<p>講義の他、児童役となつての模擬授業やロール・プレイング、シミュレーション等、アクティブ・ラーニングの視点をういた場面を必要に応じて取り入れ行います。また、ポータルサイトを利用した双方向型の課題提出や授業を行います。</p>										
<p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社会科の概要	小学校教育の中での社会科の位置付けについて学びます。				社会科の位置付けについて省察し、まとめる。(4時間)				
2	社会科の歴史	小学校社会科学習指導要領の変遷について学びます。				社会科の歴史の変遷について、まとめる。(4時間)				
3	社会科と他教科(1)	社会科と他教科との関連について学びます。				他教科や総合との関わりを要領上で確認しておく。(4時間)				
4	社会科と他教科(2)	社会科と総合的な学習の時間との違いについて学びます。				他教科や総合との関わりを要領上で確認しておく。(4時間)				
5	学習理論(1)	社会科学習理論についてについて学びます。				学習理論を整理し、自分が学んできた社会科と比較しておく。(4時間)				
6	学習理論(2)	公民的資質が示すものについて学びます。				学習理論を整理し、自分が学んできた社会科と比較しておく。(4時間)				
7	3・4年の扱い(1)	第3学年及び第4学年社会科「地域学習」の目標・内容及び単元計画について学びます。				3・4年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
8	3・4年の扱い(2)	第3学年及び第4学年社会科「地域学習」で扱う知識の構造について学びます。				3・4年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
9	5年の扱い(1)	第5学年社会科の目標・内容及び単元計画について学びます。				5年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
10	5年の扱い(2)	第5学年「国土学習」で扱う知識の構造について学びます。				5年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
11	5年の扱い(3)	第5学年「産業学習」で扱う知識の構造について学びます。				5年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
12	6年の扱い(1)	第6学年社会科の目標・内容及び単元計画について学びます。				6年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
13	6年の扱い(2)	第6学年「歴史学習」で扱う知識の構造について学びます。				6年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
14	6年の扱い(3)	第6学年「政治学習」で扱う知識の構造について学びます。				6年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
15	6年の扱い(4)	第6学年「国際理解学習」で扱う知識の構造について学びます。				6年の要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)  「小学校学習指導要領解説 社会編」(日本文教出版)(生協で購入してください。)  「新しい社会6年(上)(下)」北俊夫他著(東京書籍)(別途、指示します。)</p>				<p>定期試験：50% 受講態度：20% レポート：30%  S:小学校社会科学習理論を活用し、各学年の発達段階に応じた適切な発問や指示を具体的に想定でき、さらに各学年で扱う内容や発問を理解している。A:小学校社会科学習理論を用いて発問を想定でき、さらに各学年で扱う内容や発問を理解している。B:小学校社会科学習理論や各学年で扱う内容や発問を知っている。C:小学校社会科の各学年で扱う内容や発問を知っている。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「社会科固有の授業理論・30の提言 - 総合的学習との関係を明確にする視点」若田一彦著(明治図書) ISBN: 978-4184543133</p>				<p>小学校教員養成の目的のため、児童役となり役割演技を行う場面もありますが、そのような場面では特に積極的な姿勢で臨むことを求めます。【実務経験のある教員が担当】小学校に教員として勤務。学級担任として社会科指導。</p>						

科目名	算数科概論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	AA15027	研究室	A-03
担当者	増田 吉史		必修選択	必修	科目種別	講義	ホワイト	火曜日5限、木曜日4限、金曜日1限		
関連資格	小一種			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>数学的思考法の指南書として愛され続けてきたポリア『いかにして問題をとくか』を教科書に、実際に問題解決をしていきます。中学高校で数学嫌いになった経験がある学生には、その原因がわかるかもしれない興味深い内容の本です。1954年に刊行してから半世紀以上、日本でも算数数学教師を目指す者たちのバイブル的存在であり続けてきました。多くの有名な問題解決問題を厳選するので、それに挑戦していきます。</p>										
学修到達目標										
<p>学生自らが主体的に教科書であるポリアの『いかにして問題をとくか』を読み進め、小学校学習指導要領解説算数編にも常にふれ、算数教育の本来の姿を求め、子どもが数学的な概念や、数学的な考えを獲得する過程を知り、小学校算数科の内容と関連づけたり説明できたり、問題解決学習の重要性を修得している。</p>										
授業の進め方										
<p>ポリアの『いかにして問題をとくか』や小学校学習指導要領解説算数編を読みながら、多くの有名な問題解決問題に挑戦し、実際に自ら問題解決を行い実感しながら進めていきます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	問題解決に取り組み、問題理解段階の指導の在り方を考えよう。	学校における算数数学の役割について考えます。				「学生を助けること」など、テキストP15まで読み進みます。(4時間)				
2	問題理解段階の指導の在り方を考えよう。	学習指導要領における算数数学の概要をつかみます。				「問題を理解すること」など、テキストP30まで読み進みます。(4時間)				
3	問題理解段階の指導の在り方を考えよう。	幼児からの経験と算数数学の関係を考察します。				「計画の仕方」など、テキストP45まで読み進みます。(4時間)				
4	問題解決に取り組み、計画段階の指導の在り方を考えよう。	いかに問題を解くか、実際の指導の在り方を学びます。				「計画の実行の仕方」など、テキストP60まで読み進みます。(4時間)				
5	計画段階の指導の在り方を考えよう。	問題解決に挑戦し、数学的活動を体験します。				「実行を振り返る」など、テキストP75まで読み進みます。(4時間)				
6	計画段階の指導の在り方を考えよう。	問題解決を通して数学的活動を体験します。				「発見的学習」など、テキストP90まで読み進みます。(4時間)				
7	問題解決に取り組み、計画の実行段階の指導の在り方を考えよう。	数と計算領域の問題解決の実際を知ります。				「帰納的な考え方」など、テキストP105まで読み進みます。(4時間)				
8	計画の実行段階の指導の在り方を考えよう。	図形領域の問題解決の実際を知ります。				「帰納的な考え方」など、テキストP120まで読み進みます。(4時間)				
9	計画の実行段階の指導の在り方を考えよう。	測定領域の問題解決の実際を知ります。				「演繹的な考え方」など、テキストP135まで読み進みます。(4時間)				
10	問題解決に取り組み、振り返り段階の指導の在り方を考えよう。	データの活用領域の問題解決の実際を知ります。				「問題がとけなかったとき」など、テキストP150まで読み進みます。(4時間)				
11	振り返り段階の指導の在り方を考えよう。	和算に挑戦し、算数教育の歴史に触れます。				「パズル的な問題」など、テキストP165まで読み進みます。(4時間)				
12	振り返り段階の指導の在り方を考えよう。	和算に挑戦し、算数教育の歴史に触れます。				「パズル的な問題」など、テキストP180まで読み進みます。(4時間)				
13	練り上げ段階の指導の在り方を考えよう。	教員採用試験(一般教養や専門教養)でよく出る問題を通して、学びをまとめます。				「回答の質」など、テキストP195まで読み進みます。(4時間)				
14	練り上げ段階の指導の在り方を考えよう。	何のための数学かにも触れます。				「よい思いつき」など、テキストP210まで読み進みます。(4時間)				
15	問題解決に取り組み、まとめ段階の指導の在り方を考えよう。	学習を振り返りとまとめをします。				「予想する力」など、テキストを最後まで読み進みます。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「いかにして問題をとくか」G.ポリア 柿内賢信訳著(丸善出版) ISBN:978-4-62104593-0(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領解説 算数編」(日本文教出版)(生協で購入してください。)		小テスト:40% レポート:40% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解し探求姿勢をもって課題に取り組み教科書を読み進められる。A:授業内容を理解し子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解し探求姿勢をもって教科書を読める。B:授業内容を理解し子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解し教科書に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し与えられた課題に誠実に取り組み教科書を読む努力をしている。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「何のための数学か-数学本来の姿を求めて」モーリス・クライン著(紀伊国屋書店)		算数・数学の真の学力とは何かという問題意識を持って授業に参加するようにしてください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の算数科指導に携わった。								

科目名	自然科学概論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	AA25028	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限、水曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
身近に見られる自然現象に潜む自然の法則や科学の本質を体験的に理解します。また、「ろうそくの科学」(ファラデー)を通読し、科学者の姿勢を感得したり、科学史の歩みを追体験したりします。											
学修到達目標											
自然の事物・現象に興味をもち、人として謙虚かつ素直に自然と向き合う考え方を深めるとともに、科学的に探究することの有用性を実感を伴って理解できる。											
授業の進め方											
実際に自然体験をしたり、グループワークで簡単な実験をしたりして、疑問をもつことの大切さや、それを追究することの楽しさを体感しながら進めます。また、ICTやプログラミングツールを活用しながら実際に観察・実験を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	風車の不思議	風車が見せる様々な事象、ICT教材の利用等のグループ実験を通して、力のモーメントについて討論しながら考えます。					身近な物を利用して風車を作ってみる(4時間)。				
2	電気の消費、発電、蓄電	電気の発電、蓄電、プログラミング教材の利用等のグループ実験を通して、エネルギーの効果的利用について討論しながら考えます。					身の回りから、電気を工夫して利用したり制御したりしている実態について調べる(4時間)。				
3	磁石の力	様々な種類の磁石を操作するなどグループ実験や討論等を通して、磁石の性質と磁化について考えます。					身の回りから、磁石を利用している実態とその工夫について調べる(4時間)。				
4	空気の性質	空気砲ロケットや、空気でっぼうを作るグループ実験を通して、空気の性質や質量保存の法則等について考えます。					よく飛ぶ空気でっぼうの仕組みについて考える(4時間)。				
5	浮くもの 沈むもの	身の回りの様々な物を水に浮かべたり、沈めたりして比べるグループ実験を通して、物質の密度について考えます。					身近な物の内から、浮くもの、沈むものについて具体的に試しながら調べる(4時間)。				
6	「とける」ということ	様々な物を溶かしたり、析出させたりする観察や実験を通して、溶解度と質量保存について考えます。					食塩が水に溶けるときのイメージ図を書く(4時間)。				
7	「蒸発する」ということ	沸騰による蒸発と自然蒸発との違いを比べたり、水の循環についてグループで討論したりして考えます。					地球上で水があると思われる全ての場所を図に書く(4時間)。				
8	「燃える」ということ	ろうそく作りや炎の観察等の活動を通して、酸化の概念やそれにまつわる科学史について学びます。					「ろうそくの科学」を通読する(4時間)。				
9	人や動物の骨と体のつくり	骨格の比較や、簡単な解剖、ICT教材の利用等のグループ実験や観察を通して、生命の進化について考えます。					ウマやワシなど生物を一つ取り上げ、その進化の系統図を書く(4時間)。				
10	バランスドアクアリウム	小さな水槽の中でメダカが生き続けることが出来る環境を作ることを通じて、生態系と食物連鎖について考えます。					メダカの生態や飼育方法について調べる(4時間)。				
11	ジャガイモの成長	実際にジャガイモを育てたり、でんぷんを取り出したりグループ実験を通して、炭素同化・炭素循環について考えます。					ジャガイモを育てる実験用教材園を準備したり、継続的に世話をしたりする(4時間)。				
12	月と太陽の観察と気象	1月1日に初めて登る月が、いつ、どの方角から、どんな形で昇って来るかをデータをもとに予測し、グループで討論します。					自分で記録した日々の天候の観察データや、他の多様な気象データ等を集める(4時間)。				
13	上流と下流	上流と下流の様子を比べたり、流水の実験をしたりして、大地のつくりと水のはたらきについて考えます。					洪水災害の歴史について調べる(4時間)。				
14	地球温暖化	南極観測に関するVTR視聴や実物の観察を通して、地球温暖化について考えます。					日本の南極観測隊の研究活動について調べる(4時間)。				
15	講義の総括	身近な自然現象について、素朴な疑問を大切にしたり、科学的な理解を深めたりすることの大切さについてグループで討論しながら考えます。					身近な自然を教材化するアイデアを挙げる(4時間)。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 理科編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)					レポート:40% 小テスト:20% 受講態度:40% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「教材研究の事典」丸本喜一著(初教出版) 必要部分について、別途、指示します。 「問題解決の深化」日本初等理科教育研究会著(初教出版) 必要部分につ					簡単な観察・実験に取り組んだり、科学工作をしたりすることに対して積極的な参加が望まれます。準備物等は別途ご連絡します。【実務経験のある教員が担当】小学校の教員として児童の理科指導に携った。						

科目名	生活科概論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ'リング	AA15029	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳・秋田 真		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
生活科の学習中に見られる子どもの姿から、生活科とはどのような教科であるかを考察します。前半では、子どもの学習活動を追体験して多様な気付きから新たな価値を生み出す子どもの姿をとらえながら授業方法を具体的に検討します。後半では、身近な人々や社会とのかわりを子どもにもたせる授業の在り方について取り上げ、理解を深めます。										
学修到達目標										
教科としての生活科の位置付けを理解し、人が身近な社会や自然、他者と関わりながら成長していくことの大切さについて思考するとともに、よりよ生活科の授業を構想しようとする事ができる。										
授業の進め方										
地域探検や飼育栽培、ものづくり、実際の授業風景VTRの視聴等、具体的な活動や体験を通して気付きを深めたり、集団討論を通して深めたりします。また、市内の公園や商店街へ出かけアウトキャンパススタディを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	生活科とは何か	授業VTR視聴等を通して徹底した子ども理解を行い、子どものすごさを見出します。(澤柿)					学習指導要領解説編=生活科=に目を通す(4時間)。			
2	生活科の学習活動	グループ討論を通して「活動から学ぶこと」と「はいまわる活動」との違いを比べながら考えます。(澤柿)					生活科の教科書の活動場面の写真や図に目を通し、その意義を考える(4時間)。			
3	生活科における話し合い	話し合いを契機に自立への基礎に迫っていく具体的な姿について、グループ討論によって実態を解釈し分析しながら考えます。(澤柿)					「自立への基礎」について調べる(4時間)。			
4	生活科における授業者の役割	子ども主体の生活科の中で授業者は何をすべきか、授業VTR視聴等を通して授業者の出場を見極めます。(澤柿)					自分ならどんな学習活動を仕組み、その中の中心的な役割は何かを想定する(4時間)。			
5	生活科の評価	学習活動を自立への基礎へとつなげるための評価方法について、具体的な評価活動の模擬体験を通して考えます。(澤柿)					「自立への基礎」や「生きる力」はどう評価するか、考えを整理しておく(4時間)。			
6	生活科における子どもの発達と成長	授業VTR視聴等を通して、子どもが自信をもち自尊感情を高めていく具体を学びます。(澤柿)					自分が小学生だった頃の生活科の学習について、そのよさと疑問点を整理する(4時間)。			
7	生活科と総合的な学習の時間	「探究的に学ぶ」ことについて、低学年の学びと中・高学年の学びを比較し、グループで討論しながら考察します。(澤柿)					生活科と総合的な学習の時間の類似点と相違点を整理する(4時間)。			
8	講義の総括	人が成長する段階に必要な学びの在り方について、生活科と他教科を比較し、グループで討論しながら考えます。(澤柿)					生活科と他教科・領域等との類似点と相違点を整理する(4時間)。			
9	生活科の内容	生活科における「主に自分と人や社会との関わり」の内容構成及び視点について考えます。(秋田)					生活科の内容構成について調べる(4時間)。			
10	教科書分析(1)	1学年における自分と人や社会との関わりの扱いについて考えます。(秋田)					自分と人や社会との関わりについて調べる(4時間)。			
11	教科書分析(2)(秋田)	2学年における自分と人や社会との関わりの扱いについて考えます。(秋田)					自分と人や社会との関わりについて調べる(4時間)。			
12	生活科における思考と表現	自分と人や社会との関わりにおける思考と表現の一体化について考えます。(秋田)					「思考と表現の一体化」について調べる(4時間)。			
13	生活科の実践事例(1)	複数学年及び校種を跨いだ生活科の実践について考えます。(秋田)					自分が小学生だった頃の生活科の学習について振り返る(4時間)。			
14	生活科の実践事例(2)	公共物や公共施設を生かした生活科の実践について考えます。(秋田)					自分が小学生だった頃の生活科の学習について振り返る(4時間)。			
15	生活科の在り方	自分の成長を認識させる生活科の在り方について考えます。(秋田)					子どもの成長過程における生活科の役割について考える(4時間)。			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 生活編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)					レポート:40% 定期試験:40% 受講態度:20% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業VTR、授業実践記録、ワークシート					地域探検や飼育栽培、ものづくり、VTRの視聴等の活動や、集団で討論する体験的な内容に積極的に参加する姿勢が求められます。【実務経験のある教員が担当】内容:小学校教員として児童の生活科の指導をした。					



科目名	英語科概論	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	AA25030	研究室	A-08
担当者	和田 順一	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	小一種				履修条件				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
小学校外国語活動・外国語科のあり方を知り、その背景にある理論を学びます。また実際にその活動が英語のみで行えるようにします。またその際には小学校と中学校・高等学校接続について考え、小学校外国語活動・外国語の授業の在り方を理解します。									
学修到達目標									
小学校外国語活動・外国語科のあり方を知り、どのような理論により児童の活動が実施されているか、どのように児童は活動に取り組んでいくかを理解している。また実際にそれらの活動が英語で行うことができる。									
授業の進め方									
学習内容に応じ、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。また、ポータルサイトを利用した双方向型の課題提出や授業を行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション コミュニケーション能力	コミュニケーション、コミュニケーション能力を詳細に理解します。またCEFRについて理解を深めます。				教科書等を再読し、理解を深めておく。事例に関し自分自身の考えを明確にしておく。(4時間)			
2	第二言語習得理論(習得過程・習得理論)	第二言語の習得課程や習得理論についてこれまでの考えと現在の考えを理解します。				教科書等を再読し、必要に応じ書籍を読み、第二言語習得理論について理解を深める。(4時間)			
3	第二言語習得理論(学習者要因)	第二言語習得課程や習得理論にまつわる学習者の要因について理解します。				教科書等を再読し、必要に応じ書籍を読み、第二言語習得理論について理解を深める。(4時間)			
4	英語の音声	英語の音素、プロソディーや音連結について理解します。				教科書等を再読し、音素・プロソディー・連結について理解を深め実践する。(4時間)			
5	英語の文字	英語の文字やその書記法について理解します。				教科書等を再読し、英語の文字の基本と書記法を理解する。(4時間)			
6	英語の発音と綴り	英語の発音とその綴りの関係を母音、子音の発音と共に理解します。				教科書等を再読し、母音・子音をマスターし、綴りとの関係を理解する。(4時間)			
7	英語の書き方・ローマ字	英語の書記法と日本語のローマ字についての理解を深めます。				教科書等を再読し、国語教育との連携を深く理解する。(4時間)			
8	英語の語彙	英語の歴史を理解し、語族の特徴を理解する。また言語接触による言語の変化について理解します。				教科書等を再読し、言語の歴史並びに言語に起こる現象について深く理解する。(4時間)			
9	英語の文法	基本的英語の文法を理解し、正確な英語文法の運用ができるようになります。				教科書・文法書等を再読し、英語の文法が正確に運用できるようにする。(4時間)			
10	場面状況における英語の意味(語用論)	英語の社会的使用(語用論)について学び、コミュニケーションの中での働きについて理解し、コミュニケーションで実際に用いられ指導できるよう理解します。				教科書等を再読し、語用論を理解し、実際の小学校の指導で活用できるようにする。(4時間)			
11	現代社会における英語	英語の位置を理解し、どのように英語を扱っていくべきか、また授業で教えていく位置を取るかを理解します。				英語の位置を理解し、実際の指導の基本とできるように理解し、指導できるようにする。(4時間)			
12	コーパス	コーパスを理解し、その検索方法と結果の活用の仕方を理解する。またその結果を実際に活かし指導できるようにします。				教科書等を再読し、コーパスを実際に使用し、実際の指導に活用できるようにする。(4時間)			
13	絵本を選ぶ視点	読み聞かせるための絵本の選択について、児童の理解の焦点を把握し理解します。				教科書等を再読し、絵本の選択方法を理解し、効果的に読み聞かせられるようにする。(4時間)			
14	英語教育と国語教育で扱われる児童文学	英語教育と国語教育で扱われる児童文学の類似性・相違性を理解し、どのような思想に基づき考えられているかを知る。またそこから比較文化的視点を問い考えます。				教科書等を再読し、英語と国語の文学の背景を深く理解し、比較文化的視点を持つ。(4時間)			
15	異文化理解	文化の在り方を知り、様々な特徴を理解する。またその現在の中心的考えを理解し、外国語教育での在り方を理解します。				教科書等を再読し、小学校での異文化理解の活用を考え、実践できるようにする。(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ」酒井英樹ほか編(三省堂) ISBN:9784385361383(生協で購入してください。)		受講態度:10% 小テスト:20% レポート:10% 定期試験:60%							
「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」(開隆堂出版)(生協で購入してください。)		S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。							
「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂出版)(生協で購入してください。)									
「中学校学習指導要領」(東山書房)(生協で購入してください。)									
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社) 購入済									
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
なし		原則、欠席は2回までです。英語力考査を実施し、評価に加え。常に英語力を向上させてください。							

科目名	音楽（歌唱）		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリノ	AA15031	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	必修	科目種別	実技	ワイスア-	火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限		
関連資格	小一種			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
音楽の基礎的な楽典の知識や読譜力を養い、様々な楽典の歌唱やリズム唱を通して音感やリズム感を体験的に身に付けていきます。毎回リクエスト唱や季節の歌を歌い体を動かす活動やリズム遊び等を取り入れながら、協働的な音楽活動の楽しさを味わい、豊かな音楽表現を探究していく授業です。										
学修到達目標										
小学校教諭として必要とされる音楽の基礎的な知識と読譜力が身に付き、主体的・協働的に音楽活動に取り組み、歌唱や身体リズム活動による豊かな音楽表現ができることです。										
授業の進め方										
学習内容に沿って、講義(楽典の課題ワークシート)と演習実技(個人、パート、全体)、またグループワークによる創作や発表会に向けての練習など、様々な形態で行います。ワークシートは毎週添削して返却し理解を深めます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 春の歌	ガイダンスとしてアンケートや自己紹介、授業の進め方、練習室の使い方等を説明します。「うたはともだち」からリクエスト唱をしたり春の歌を歌いながら音楽遊びやわらべうた遊びをして体と心を開放します。				今までの音楽経験について整理しておく(1時間)				
2	楽譜の基礎理解 音名と階名	五線の理解とト音記号の楽譜の読み方を学び、音高を意識して音感を付けていきます。春の歌を中心に模倣唱、リレー唱、部分唱、階名唱また手話や体を動かす活動も取り入れて歌います。				課題ワークを復習し、音名と階名を理解する(1時間)				
3	リズムの理解 拍子と音価	リズムの基礎を学び、拍子と音価を理解してリズム譜の読み方を練習します。また歌唱と一緒に手拍子や動く活動を通して身体全体で拍感を習得していきます。				課題ワークを復習し、ト音記号の楽譜を読めるよう練習する(1時間)				
4	リズム活動	低学年の歌唱共通教材を用いて拍子に合わせて動きながら様々なリズムを習得し、模倣やリレーで簡単なリズム創作及び言葉の抑揚と関連したヴォイスアンサンブルを経験します。				課題ワークを復習し、リズム譜を読めるように練習する(1時間)				
5	ボディーパーカッション	リズムに合わせて歌いながら動く、ボディーパーカッションを行います。強弱、速度などの変化も感じながら表現します。簡単な合唱曲のパート練習をして合わせます。				課題ワークを復習し、拍子や強弱について理解する(1時間)				
6	わらべ歌とは	様々なわらべ歌や絵かき歌、あそび歌などを発表しながら全員で共有していきます。その音楽的特徴や教育的意義について学びます。				子どもの頃のわらべ歌や遊び歌について調べておく(1時間)				
7	わらべ歌と民謡音階	多くのわらべうたに使われ、日本の音階の一つである民謡音階を理解し、簡単なアンサンブルをします。				課題ワーク復習し、音階について理解する(1時間)				
8	長音階の仕組みと音程	中学年の歌唱共通教材を中心に長音階の仕組みと音程を理解し、八長調の旋律の特徴を感じながら歌います。ハ音記号についても扱い、合唱曲のパート練習をします。				課題ワークを復習し、八長調について理解する(1時間)				
9	主要三和音の理解 夏の歌	八長調の主要三和音の仕組みについて理解します。音の重なりを感じながら旋律と和声(ハーモニー)の関係を知覚・感受します。夏の歌や合唱曲のパート練習と全体練習をします。				課題ワークを復習し和音について理解する(1時間)				
10	コードネームの理解	和音の基本形と転回形及び対応するコードネームについて学び、キーボードでの伴奏法を習得します。合唱練習をします。				課題ワークを復習しコードネームを理解して練習する(1時間)				
11	音の重なりと合唱	中・高学年の歌唱教材を用いて輪唱、カノンなど様々な音の重なり方を知り、重唱します。指揮者を決め合唱の仕上げに取り組みます。				歌唱共通教材の復習 合唱の練習(1時間)				
12	グループアンサンブルの創作と合唱パート練習	今まで学習してきた内容を応用して、グループワークとしてアンサンブルを創作します。新たな合唱曲に取り組みパートを決めて音取りをします。				歌唱教材の練習と各自必要なパートの練習(1時間)				
13	グループアンサンブルの練習と合唱練習	グループアンサンブルの練習と、合唱曲のパート練習、全体練習をします。				歌唱教材の練習とグループで必要な練習(1時間)				
14	グループアンサンブルと合唱の仕上げ	グループアンサンブルを仕上げます。合唱は指揮者、伴奏者を決めて全体の仕上げをします。またこれまでの楽典の課題ワークの復習をします。				各自必要な練習 試験対策ワークの復習(1時間)				
15	発表会とまとめ	合唱とグループアンサンブルの発表会を行い、互いに鑑賞して振り返ります。前期の学習のまとめと試験対策として楽典の総復習をします。				発表演奏会の感想レポート 課題ワークの総復習(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「歌はともだち5訂版」教芸音楽研究グループ編（教育芸術社）（生協で購入してください。）		受講態度：40% 定期試験：30% 実技：30% S:探求姿勢を持って意欲的に取り組み他者と関わって積極的に発信し、授業内容をすべて理解し豊かな歌唱表現ができる。A:探求姿勢を持って協力的に取り組み、授業内容を理解し歌唱表現できる。B:探求姿勢を持って取り組み、授業内容を概ね理解し歌唱表現できる。C:課題に取り組み理解しながら歌唱できる。								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
「小学生の音楽1～6」小原光一他著（教育芸術社）		音楽は誰もが楽しめる活動であることを実践的に経験できるよう、いつでも動ける準備をして、積極的に臨んでください。楽典は小中学校の内容を中心に復習しますが、わからないことはいつでも質問してください。								

科目名	音楽（器楽）		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	AA15032	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	選択	科目種別	実技	オイスカー	月曜日3限、火曜日4限、木曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
小学校で扱う楽曲を中心に、ピアノ、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、リズム打楽器など様々な楽器に触れ体験していきます。楽器の種類や奏法による音色の違いを意識して基本的な演奏技能を習得し、グループアンサンブルを通して豊かな音楽表現を探究し、他者と共感する喜びを味わう授業です。										
学修到達目標										
小学校教諭として必要とされる音楽の基礎的な知識と読譜力を身に付け、リコーダーと歌唱教材のピアノ伴奏ができることです。。またアンサンブルでは様々な楽器を用いて自分以外の音にも耳を傾け協働的に豊かな音楽表現を探究して発表することです。										
授業の進め方										
学習内容に沿って楽器の奏法を確認しリズム譜や旋律譜、へ音記号の楽譜やコードネームを読みながら演奏することができるよう進めていきます。課題ワークの添削や、各自のレベルに応じた楽曲を選択して練習し歌唱教材の伴奏ができるように指導します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 楽器の種類	授業の進め方について説明します。様々な楽器を分類しながら音色や奏法の違いを体感し、簡易リズム楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダーの導入を行います。				前期の楽典の復習(1時間)				
2	鍵盤ハーモニカとリコーダーの基礎	鍵盤ハーモニカの吹き方や弾き方の奏法やソプラノリコーダーの運指とタンギングを確認し、歌唱教材や簡単な旋律を演奏します。				歌唱教材の旋律を鍵盤楽器やリコーダーで練習する(1時間)				
3	鍵盤楽器とリコーダーのアンサンブル 秋の歌	歌唱共通教材の旋律を鍵盤ハーモニカやキーボード、アコーディオンなどの鍵盤楽器で練習し習得します。ソプラノリコーダーでは簡単な楽曲をアンサンブルします。秋の歌も歌います。				鍵盤楽器、リコーダー等の練習(1時間)				
4	イ短調の音階と派生音	イ短調の音階の仕組みと などの派生音の理解を深め、息の使い方による奏法や音色の違いを意識してアンサンブルをします。また歌唱共通教材の伴奏法を学びます。				歌唱教材の伴奏の練習と課題ワークの復習(1時間)				
5	トーンチャイムとギター	主要三和音の復習とともに短調とマイナーコードの仕組みについて学びます。トーンチャイムとギターで音の重なりを感じながら簡単なアンサンブルをします。				課題ワークを復習しマイナーコードについて理解する(1時間)				
6	器楽アンサンブルの構成	既習の楽器に木琴、鉄琴なども加え、グループに分かれて簡単なアンサンブルをします。楽器の組み合わせやパートの役割を考へてアンサンブルを構成します。				自分のパートの練習(1時間)				
7	アンサンブルの発表と和楽器	グループアンサンブルの発表を行います。また箏、篠笛、雅楽や能に用いられる和楽器を紹介し簡単な演奏を行います。日本の音階についても学びます。				課題ワークを復習しマイナーコードについて理解する(1時間)				
8	コンサートの準備	コンサートに向けて楽曲決めとパート決め、楽譜の分担を行い、個人練習で譜読みを始める。				各自で必要な練習(1時間)				
9	コンサートに向けての個人練習	各自コンサートに向けての練習をします。楽曲ごとのリーダーを決め、パートごとに協力して練習し合わせてみる。				各自で必要な練習(1時間)				
10	コンサートに向けてのグループ練習	リーダーを中心に楽曲ごとのグループで練習をします。全体合唱奏にも取り組みます。				各グループで必要な練習(1時間)				
11	コンサートに向けての仕上げ 全体合唱奏	各グループアンサンブルの仕上げと全体合唱奏の練習をします。				各自、各グループで必要な練習(1時間)				
12	全体リハーサル	発表会のプログラム順に出入りを含めてリハーサルを行います。				各自、各グループで必要な練習(1時間)				
13	発表演奏会	コンサートの運営、進行をしながら全体で発表会を行い互いに鑑賞します。終了後振り返りをします。				各自必要な練習 発表演奏会後の感想レポート(1時間)				
14	楽典の復習と冬の歌	高学年の歌唱共通教材を用いて、コードネームを中心に楽典の復習をします。冬の歌も歌います。				課題ワークを復習し伴奏を練習する(1時間)				
15	学習の総まとめと試験に向けて	後期の学習のまとめとして調性や調号、コードネームと伴奏法などの総復習をします。				試験対策課題ワークの総復習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
適宜プリントを配布する。				受講態度：40% 定期試験：30% 実技：30% S:探求姿勢を持ち意欲的に取り組み積極的なリーダーシップを発揮し、授業内容をすべて理解し、豊かな演奏表現ができる。A:探求姿勢を持ちグループで協力して取り組み、授業内容を理解し、演奏表現できる。B:探求姿勢を持って取り組み、授業内容を概ね理解し演奏表現できる。C:課題に取り組み理解しながら演奏表現できる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「小学生の音楽1～6」小原光一他著（教育芸術社）				楽器の技能習得には日々の練習が欠かせません。授業時間外にも練習する時間を設定して取り組みましょう。課題等わからないことはいつでも質問しに来てください。						

科目名	基礎造形		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング	AA15033	研究室	非常勤
担当者	岡田 匡史		必修選択	選択	科目種別	実技	オフィスワ-			
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
本授業科目は、前半を鉛筆主体の素描課題、後半を水彩絵の具主体の着色課題で構成します。前半では写実表現の基礎をその原理から学び、後半では水彩絵の具の特徴に習熟しつつ色彩表現の基礎を学びます。										
学修到達目標										
図工美術題材の構想・開発に有益な鉛筆・水彩絵の具を中心とした諸課題を通じ、描画着色技法の系統的習得をしている。										
授業の進め方										
設定主題に基づく課題を各回行います。毎回の実技課題(作品)は撮影機器(デジカメ・携帯電話・スマホ等)で記録し、その画像を貼付した省察レポートを授業担当教員にメールで提出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	2種類の絵と塗り潰し	オリエンテーションと基礎的な鉛筆実技				基礎的な鉛筆実技課題の省察と発展的探求(1時間)				
2	鉛筆で描く(多様な線)	基礎的な鉛筆実技(線の特質)				基礎的な鉛筆実技課題(線)の省察と発展的探求(1時間)				
3	純粹&修正輪郭画法	基礎的な鉛筆実技(観察描写と認識変換)				基礎的な鉛筆実技課題(2種輪郭画法)の省察と発展的探求(1時間)				
4	複雑な対象を描く	基礎的な鉛筆実技(輪郭[形]の抽出)				基礎的な鉛筆実技課題(輪郭[形])の省察と発展的探求(1時間)				
5	明暗諧調練習	基礎的な鉛筆実技(グラデーション)				基礎的な鉛筆実技課題(グラデーション)の省察と発展的探求(1時間)				
6	消し具+鉛筆で描く(球)	応用的な鉛筆実技(明暗法[光と影]と三次元像)				応用的な鉛筆実技課題(球[明暗法])の省察と発展的探求(1時間)				
7	立体練習(円筒と円錐)	応用的な鉛筆実技(基礎的幾何形体の写実的描写)				応用的な鉛筆実技課題(円筒と円錐[観察描写])の省察と発展的探求(1時間)				
8	石ころを描く	応用的な鉛筆実技(モチーフの多角的観察と特徴記録)				応用的な鉛筆実技課題(石ころ[多様な造形特性])の省察と発展的探求(1時間)				
9	倒立像を使う逆転素描	応用的な鉛筆実技(変種的方法[逆様の真実])				応用的な鉛筆実技課題(倒立像)の省察と発展的探求(1時間)				
10	一点透視図法に挑戦	応用的な鉛筆実技(室内コーナーの計測と再現)				応用的な鉛筆実技課題(一点透視図法)の省察と発展的探求(1時間)				
11	混色と重色	基礎的な水彩実技(色のサンプル表作成)				基礎的な水彩実技課題(混色と重色)の省察と発展的探求(1時間)				
12	点描練習	基礎的な水彩実技(筆触と反復)				基礎的な水彩実技課題(点描)の省察と発展的探求(1時間)				
13	虹と滲み	基礎的な水彩実技(水彩絵の具の流動的特性)				基礎的な水彩実技課題(滲み)の省察と発展的探求(1時間)				
14	野菜を描く	応用的な水彩実技(モチーフの多角的観察と賦彩[色彩表現])				応用的な水彩実技課題(静物画[野菜])の省察と発展的探求(1時間)				
15	果物を描く	応用的な水彩実技(素描と着色, 2段階の総合)				応用的な水彩実技課題(静物画[果物])の省察と発展的探求(1時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
特になし。			課題:65% レポート:30% 受講態度:5% S:授業内容を高度に理解し、旺盛な創造意欲と密度濃く考える熱心な探求姿勢をもって課題に取り組み、群を抜くと判断できる緻密で充実した学習成果を示す。A:授業内容を良く理解し、創造意欲と積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、充実した学習成果を示す。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的を満たす学習成果を示す。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的をほぼ満たす学習成果を示す。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。			レポートは、氏名・学籍番号等明記し、指定件名(基礎造形1)で、担当教員宛(maokada@shinshu-u.ac.jp)添付送信。授業時に指示する材料・用具を準備・持参。撮影機材が毎回必要。							

科目名	基礎造形		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング	AA15034	研究室	非常勤
担当者	岡田 匡史		必修選択	選択	科目種別	実技	オフィスア-			
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
毎回の授業内容は大きく次の4つのパートで構成されます。主題理解を狙う概説(板書形式)。提起された主題と係り系統的に配列した実技課題(メイン・パート)。相互鑑賞。映像資料鑑賞(パワーポイント)を主軸とした総括です。										
学修到達目標										
図工美術題材の構想・開発に有益な造形原理的内容の理論的・体験的理解を深め、一連の実技課題に習熟している。										
授業の進め方										
系統的に組織した主題で毎回進めます。毎回の実技課題(作品)は撮影機器(デジカメ・携帯電話・スマホ等)で記録し、その画像を貼付した省察レポートを授業担当教員にメールで提出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	造形原理	オリエンテーション(授業計画の概説):シラバスを基に授業計画初め、授業概要・学修到達目標・授業の進め方等を概説し、中盤で図工指導の根幹を成す「造形原理」を事例・活動例を示して説明する。				シラバスの確認、造形原理の省察と発展的探求(1時間)				
2	インスタレーション	置く展開(並べる・積む):指導要領第7節図画工作の造形遊びと係る第1・2学年記述事項「並べたり、つないだり、積んだり」を主題に、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(インスタレーション)の省察と発展的探求(1時間)				
3	コンポジション	構成的展開(組む):指導要領第7節図画工作の造形遊びと係る第3・4学年記述事項「組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたり」を主題に、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(コンポジション)の省察と発展的探求(1時間)				
4	作・造・創	工作活動(生き物を作る):身近材で生き物を作る実技課題(含相互鑑賞)を実施し、夢中になって作る喜びを体感すると共に、概説・映像資料鑑賞を通じ「作る」という人間の根源的営みへの関心の喚起を図る。				解説事項及び課題(工作[作る活動])の省察と発展的探求(1時間)				
5	ラッピング	梱包の面白さ(包む):日常的行為である「包む」に着目し、包むことの目的及び造形的可能性の多角的理解を図り、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(ラッピング)の省察と発展的探求(1時間)				
6	カット&ペースト	切り貼り:薄手の材料を準備し、「切る+貼る」が可能とする視覚表現の意義・可能性や絵とは異なる手法の特徴を理解すべく、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(切り貼り)の省察と発展的探求(1時間)				
7	糊貼り(物質篇)	身近材を使うコラージュ:多種材料を台紙に構成してゆく物質主体のコラージュの特徴を理解すべく、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説(パピエ・コレの発生状況も扱う)・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(コラージュ[物質篇])の省察と発展的探求(1時間)				
8	糊貼り(イメージ篇)	印刷物を使うコラージュ:デベイズマン理論を参照し、画像を自由に糊貼りしてゆくイメージ合成主体のコラージュの特徴を理解すべく、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(コラージュ[イメージ篇])の省察と発展的探求(1時間)				
9	表面の凹凸記録	転写実験(フロッターージュ):種々対象の表面に紙を置き、凹凸(材質特性)を鉛筆等で擦り出すフロッターージュの図工題材の可能性を知るべく、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(フロッターージュ)省察と発展的探求(1時間)				
10	偶然的痕跡の制御	絵の具の可能性(デカルコマニー):デカルコマニーで得られるイメージの多様性を体感すると共に、絵の具の表現的可能性の幅広さを認識すべく、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(デカルコマニー)の省察と発展的探求(1時間)				
11	型押し(元祖版画)	反復型没入体験(スタンピング):諸物でスタンピングを展開する中で、造形活動の没入性の重要性や行為・結果間の増幅的循環の意義を理解すべく実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(スタンピング)の省察と発展的探求(1時間)				
12	モダンテクニック	抽象画に挑戦!:絵の具の物質的特性が可能とする、偶然性を伴う視覚表現の多面的把握を図り、各種モダンテクニックを扱う実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(モダンテクニック)の省察と発展的探求(1時間)				
13	生活圏の音の視覚化	音の風景(サウンドスケープ):教科横断の見地から、絵画と音楽の相関性を扱う主題を設け、その基本的理解を基盤に環境音を視覚化する実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(サウンドスケープ)の省察と発展的探求(1時間)				
14	連想(形・色・状態・機能等から)	見立て課題(描画と撮影):造形活動全般に認め得る見立ての原理を理解すべく、何かに見立てられる対象を身の周りに探し描画・撮影する実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(見立て)の省察と発展的探求(1時間)				
15	パフォーマンス	仮装表現:材料を身に付け、仮装初め、装飾・変身等を楽しむ身体表現(パフォーマンス)的活動の意義を理解すべく、実技課題(含相互鑑賞)を実施し、概説・映像資料鑑賞を行う。				解説事項及び課題(仮装表現)の省察と発展的探求(1時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
特になし。			課題:65% レポート:30% 受講態度:5% S:授業内容を高度に理解し、旺盛な創造意欲と密度濃く考える熱心な探求姿勢をもって課題に取り組み、群を抜くと判断できる緻密で充実した学習成果を示す。A:授業内容を良く理解し、創造意欲と積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、充実した学習成果を示す。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的を満たす学習成果を示す。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的をほぼ満たす学習成果を示す。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。			レポートは、氏名・学籍番号等明記し、指定件名(基礎造形2)で、担当教員宛(maokada@shinshu-u.ac.jp)添付送信。授業時に指示する材料・用具を準備・持参。撮影機材が毎回必要。							

科目名	家庭科概論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	AA25035	研究室	非常勤
担当者	河村 美穂・瀬川 朗		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種			履修条件		(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
小学校家庭科の指導内容に関する家庭生活や家族のこと、衣食住、消費生活と環境について、知識・技能を習得します。現代に生きる児童の生活課題および長野県の特徴や課題を勘案して、児童の生活を理解するために、まず自分の手で生活を創り出すために基本的な事柄を学びます。										
学修到達目標										
広い視野で多面的に考えて生活に主体的に関わり、生活をつくるための基本的事項について学びます。生活を成り立たせている様々な要因についても理解を深め、生活を豊かにするということを考えます。										
授業の進め方										
実際に体験することを重視し、調理や小物製作など実習の形態もとり入れます。生活に関する調査活動も取り入れて行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスとして、講義の概要・学習の進め方・評価、教科書等の紹介を行います。受講生に出来るだけ合う内容とするために、家庭科学習アンケートも行います。				自分の生活を成り立たせている家事について考え、書き出し持参する。				
2	生活を見つめなおす(家庭科の学びの要点)	身の回りにある生活に関する事象(衣食住)について具体的に見つめ直し、日常生活が家族による家事労働をはじめとして、知識と技能によって成り立っていること、社会と関連していることを理解する。				学習指導要領解説、教科書該当頁を理解する。				
3	炒める調理の理論と実習	炒める調理の理論と初回の実習指導について学びます。洗う・切る・フライパンをはじめとする調理器具の扱い・調味 食塩分・盛り付け・野菜を十分とるとは?・環境に配慮した後片付けを学びます。				調理実習レポートを書く。『これからの家庭科』の「緑黄色野菜」の頁を理解する。(4h)				
4	ゆでる調理の理論と実習	ゆでる調理の理論と、包丁を扱う技能として皮むきの指導について学びます。栄養素として特に脂質・たんぱく質について学び、卵の衛生的な扱いについても学びます。				調理実習レポートを書く。				
5	生活を科学する(科学的な視点をもって暮らすこと)	生活に関わる様々な事象の相互の関連や、その成り立ちを、科学的な視点をもって理解し、具体的な問題解決にあたるための要件を考える。従来家庭科の自然科学的な視点に加えて社会科学的な視点も理解します。				生活の中の科学について作文する				
6	食べる(からだと心の健康をつくる基礎)	五大栄養素を中心として食品にふくまれている栄養と、その特徴を理解するとともに、食べるという行為が、健康な生活を営み、食事をするによって人間関係をつくることを学びます。				楽しかった食事場面のエピソードを書く。				
7	食べることと食育(家庭科と他教科との関連)	家庭科の学習内容と近接領域との関連を理解し、なかでも、近年学校教育他で推進されている食育と家庭科教育の関連、それぞれの独自性について理解します。				他教科での食育の実践例を収集して読む。				
8	消費する(賢い消費者となるための基礎)	消費活動と衣食住生活との関連を理解し、現代生活における消費者としての権利と責任について学びます。とくに小学生段階で習得すべき消費生活に関する基本的事項について理解し、知識を習得します。				消費者の権利と責任がどのように考えられてきたのかを調べる。				
9	手縫いの基礎	手縫いの基礎実習として基礎縫いやボタン付けの実習を行います。互いに教え合い、励まし合うことも実践します。				実習レポートを書く。(4h)				
10	ミシン縫いの基礎	ミシン縫いの基礎としてミシン操作と直線縫いについて、実習により学びます。互いに教え合い、励まし合うことも実践します。				実習レポートを書く。(4h)				
11	着る(気候にあわせ、私を表現する衣生活の基礎)	日常着の成り立ちを形状、性状より理解し、その手入れの方法について学びます。さらに、衣服が個性の表現のためのツールであることを理解したうえで、日常生活における衣服の役割を理解します。				自分の衣生活を振り返る。				
12	地球に優しく暮らす(環境に配慮した暮らしを理解する基礎)	消費活動と、環境に配慮した生活との関連を理解し、具体的に実行するための手だてを考えます。小学校段階で可能な環境に配慮した生活への取り組みを考えます。				自宅または自室の見取り図を描く				
13	住まう(住環境を整えるための基礎)	人の生活を支える住まいの環境について理解を深め、心地よく住まうための条件について具体的に考え実行する能力を培います。				自宅の改善点を具体的に書き出す。				
14	家族・家庭とともに暮らす(人と関わり、人と繋がるスキルを磨く基礎)	家族との関係、家庭の機能について理解し、人とつながる関係づくり、人間関係スキルを習得することの重要性について学びます。				家族の誰かを取り上げ作文する。				
15	学習のまとめ	学習のまとめとして、小レポートの解説・補足について学びます。返却レポートへのコメントも含めて、疑問点があれば質問をします。				受講してきた授業を振り返り、ノートにまとめる。(4h)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 家庭編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「新編 新しい家庭5・6」(東京書籍)(別途、指示します。) 「小学校わたしたちの家庭科5・6」(開隆堂)(別途、指示します。)				レポート:40% 課題:55% 受講態度:5% 受講態度は、授業への貢献度(質問や意見)、実習での協力等 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、指定以外の資料も調べ、考察できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、十分考察できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察できる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例と同レベルの考察ができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「新版授業力UP 家庭科の授業」伊藤葉子編著(日本標準) ISBN:978-4-8208-0646-2C3037				まず、自分の生活を見つめなおすことをいたしましょう。受講後に生活が変わったかと思うように。						

科目名	体育		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	AA15036	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志		必修選択	必修	科目種別	実技	オイスカー	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
陸上運動では「短距離走」「ハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」について、ボール運動では「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」について、各学年の内容を体験的に学習し、学習内容を理解していきます。										
学修到達目標										
小学校体育授業の「陸上運動」及び「ボール運動」についての授業デザインの考え方や、実技能力(示範能力)と指導能力を身につけている。そのために、各運動の特性や技術、指導のポイント、ルールなど、基本的な知識を理解するとともに、基本技術を習得できている。										
授業の進め方										
2~3人のグループをつくり、教師役になって授業前半に模擬授業を行います。授業後半に授業デザインの考え方やマネジメントの方法、子どもの見とり方や支援の仕方を学んでいきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、担当する授業を決定します。					担当した単元の指導略案を作成する(1時間)			
2	短距離走・リレーの授業づくり	陸上運動(1) 短距離走・リレーの学習内容					短距離走・リレーについて、学習内容をまとめる(1時間)			
3	ハードル走の授業づくり	陸上運動(2) ハードル走の学習内容					ハードル走について、学習内容をまとめる(1時間)			
4	走り幅跳びの授業づくり	陸上運動(3) 走り幅跳びの学習内容					走り幅跳びについて、学習内容をまとめる(1時間)			
5	走り高跳びの授業づくり	陸上運動(4) 走り高跳びの学習内容					走り高跳びについて、学習内容をまとめる(1時間)			
6	3種競技の授業づくり	陸上運動(5) 3種競技(ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び)					3種競技について、授業デザインをまとめる(1時間)			
7	バスケットボールの授業づくり	ゴール型(1) バスケットボールのゲーム理解と学習内容					バスケットボールについて、学習内容をまとめる(1時間)			
8	サッカーの授業づくり	ゴール型(2) サッカーのゲーム理解と学習内容					サッカーについて、学習内容をまとめる(1時間)			
9	ハンドボールの授業づくり	ゴール型(3) ハンドボールのゲーム理解と学習内容					ハンドボールについて、学習内容をまとめる(1時間)			
10	フラッグラグビーの授業づくり	ゴール型(4) フラッグラグビーのゲーム理解と学習内容					フラッグラグビーについて、学習内容をまとめる(1時間)			
11	ブレルボールの授業づくり	ネット型(1) ブレルボールのゲーム理解と学習内容					ブレルボールについて、学習内容をまとめる(1時間)			
12	ソフトバレーボールの授業づくり	ネット型(2) ソフトバレーボールのゲーム理解と学習内容					ソフトバレーボールについて、学習内容をまとめる(1時間)			
13	ソフトバレーボールの授業づくり	ネット型(3) ソフトバレーボールの集団技能 戦術 ゲーム					ソフトバレーボールについて、ゲームの学習内容をまとめる(1時間)			
14	ティーボールの授業づくり	ベースボール型 ティーボールのゲーム理解と学習内容					ティーボールについて、学習内容をまとめる(1時間)			
15	授業デザイン	学習者が夢中になれる授業デザイン					体育授業をどのようにデザインしていけばよいかをまとめる(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 体育編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)					定期試験:40% 実技:40% レポート:20% S:各領域の実技が高い完成度ですべて実施でき、分かりやすく納得性の高いレポートが書ける。A:各領域の実技がほぼ実施でき、分かりやすいレポートが書ける。B:各領域の実技が概ね実施でき、レポートに誠実に取り組める。C:各領域の実技が実施でき、レポートに取り組める。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切です。 【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の体育科指導に携わった。					

科目名	体育		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	AA25037	研究室	A-09	
担当者	濱田 敦志		必修選択	必修	科目種別	実技	アイスアー	木曜日2限、金曜日1限			
関連資格	小一種				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>体づくり運動については学習のねらいと内容について実践的に学習していきますが、低学年の器械・器具を使っの運動遊びと関連させながら学習を進めます。器械運動については「マット運動」「鉄棒運動」「跳び箱運動」の各種目の各学年で示されている基本技を中心に学習していきます。「水泳」は発展性を考えた指導内容と安全指導について学習します。表現運動は「表現」と「リズムダンス」の基本的な動きを使った踊りについて学習します。</p>											
学修到達目標											
<p>小学校体育授業の「体づくり運動」「器械運動」「水泳」「表現運動」について、実技能力(示範能力)と指導能力を身につけている。そのために、技術や指導のポイント、基本的知識を理解するとともに、基本技術を習得できている。</p>											
授業の進め方											
<p>2~3人のグループをつくり、教師役になって授業前半に模擬授業を行います。授業後半に授業デザインの考え方やマネジメントの方法、子どもの見とり方や支援の仕方を学んでいきます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、担当する授業を決定します。					担当した単元の指導略案を作成する(1時間)				
2	体づくり運動の授業づくり	体づくり運動 体ほぐしの運動、体力を高める運動の基本的な学習内容、運動の行い方を工夫して組み合わせた指導方法					体づくり運動について、学習内容をまとめる(1時間)				
3	水遊び、浮く・泳ぐ運動の授業づくり	水泳(1) 水遊び、浮く・泳ぐ運動の学習内容					水遊び、浮く・泳ぐ運動について、学習内容をまとめる(1時間)				
4	水泳の授業づくり	水泳(2) 各種泳法に関する学習内容					水泳について、学習内容をまとめる(1時間)				
5	水泳の授業のマネジメント	水泳(3) 安全の心得に関する基本的な指導内容					水泳について、安全に関する内容をまとめる(1時間)				
6	マット運動の授業づくり	器械運動(1) マット運動 基本的な「動き」の学習内容					マット運動について、基本的な「動き」の学習内容をまとめる(1時間)				
7	マット運動の授業づくり	器械運動(2) マット運動 技の組み合わせ方の学習内容					マット運動について、発展的な学習内容をまとめる(1時間)				
8	鉄棒運動の授業づくり	器械運動(3) 鉄棒運動 基本的な「動き」の学習内容					鉄棒運動について、基本的な「動き」の学習内容をまとめる(1時間)				
9	鉄棒運動の授業づくり	器械運動(4) 鉄棒運動 技の組み合わせ方の学習内容					鉄棒運動について、発展的な学習内容をまとめる(1時間)				
10	跳び箱運動の授業づくり	器械運動(5) 跳び箱運動 切り返し系の技の学習内容					跳び箱運動の切り返し系について、学習内容をまとめる(1時間)				
11	跳び箱運動の授業づくり	器械運動(6) 跳び箱運動 回転系の技の学習内容					跳び箱運動の回転系について、学習内容をまとめる(1時間)				
12	フォークダンスの授業づくり	表現運動(1) フォークダンスの学習内容					フォークダンスについて、学習内容をまとめる(1時間)				
13	リズムダンスの授業づくり	表現運動(2) リズムダンスの学習内容					リズムダンスについて、学習内容をまとめる(1時間)				
14	表現運動の授業づくり	表現運動(3) 表現運動の学習内容、表現運動の発表会の運営方法					表現運動について、学習内容をまとめる(1時間)				
15	授業デザイン	学習者が夢中になれる授業デザイン					体育授業をどのようにデザインしていけばよいかをまとめる(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 体育編」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)				<p>定期試験：40% 実技：40% レポート：20%</p> <p>S：各領域の実技が高い完成度ですべて実施でき、分かりやすく納得性の高いレポートが書ける。A：各領域の実技がほぼ実施でき、分かりやすいレポートが書ける。B：各領域の実技が概ね実施でき、レポートに誠実に取り組める。C：各領域の実技が実施でき、レポートに取り組める。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「小学校学習指導要領」(東洋館出版社)				<p>事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切です。 【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容：小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の体育科指導に携わった。</p>							



科目名	社会科教材研究		学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナバリング	AA26002	研究室	A-06
担当者	秋田 真		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
小学校社会科授業で扱う教材の開発方法について学びます。単に教科書を漫然と教えるのではなく、児童の発達段階や地域を考慮し、教材開発について体験を通して学びます。また、学習指導要領と指導上の留意点との関わりについても併せて学んでいきます。										
学修到達目標										
教師として将来出会う児童を想定し、適切な教材とは何かを考え、指導に活かす能力を修得している。また、単元計画の中で、社会科見学や体験的な学習活動をどのように活かすか考えることができる。										
授業の進め方										
講義の他、社会科見学、実践発表等があります。社会科見学は学校を離れ、集中で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	社会科教材研究の基礎	社会科教材研究の基本的な考え方について学びます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)			
2	教材作成及び提示の基本	教材を作成する際の素材選びや提示の仕方について学びます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)			
3	学校行事と地域教材	地域素材を教材へ活用する方法について学びます。					見学で質問したいことや調べたいことをまとめておく。(1時間)			
4	実地踏査(集中1)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)			
5	実地踏査(集中2)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)			
6	実地踏査(集中3)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)			
7	実地踏査(集中4)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)			
8	授業計画案作成	社会科見学で学んだことを活かし、授業を組み立てます。					模擬授業に向け、授業計画案を完成させること。(1時間)			
9	授業計画発表(1)	組み立てた授業を発表します。(模擬授業)					模擬授業の発問・指示を見直し、改善点について検討すること。(1時間)			
10	授業計画発表(2)	組み立てた授業を発表します。(模擬授業)					模擬授業の発問・指示を見直し、改善点について検討すること。(1時間)			
11	現職教員講話	現職の小学校教員から教材づくりのヒントを得ます。					講演内容について復習し、理解を深める。(1時間)			
12	現職教員模擬授業	現職の小学校教員の模擬授業を体験することで、授業の具体を学びます。					授業記録を見返し、理解を深める。(1時間)			
13	学習指導要領の留意点(1)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)			
14	学習指導要領の留意点(2)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)			
15	学習指導要領の留意点(3)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 社会編(新)」(日本文教出版社)(生協で購入してください。)					定期試験:50% 受講態度:20% レポート:30% S:指導する児童の発達段階や地域を考慮した教材を開発し、かつ、具体的な指導上の留意点を考慮することができる。A:指導する児童の発達段階や地域のいずれかを考慮した教材を開発し、かつ、指導上の留意点を考慮することができる。B:指導する児童に対し教材を提示することができ、かつ、指導上の留意点を知っている。C:指導する児童に対し、教材を提示することができる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					社会科見学を行いますので、入場料が発生する場合があります。また、講話は講演者の都合により回が前後する場合があります。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校教員として、社会科授業に携わった。					

科目名	算数科教材研究			学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナパ <sup>®</sup> リング	AA26003	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・佐藤 茂太郎			必修選択	選択	科目種別	演習	ホワイト	火曜日5限、水曜日4限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
「数学的な考えを育てる指導のあり方」「問題解決力を育てる指導のあり方」「個に応じた指導のあり方」「評価のあり方」「指導体制や家庭との連携のあり方」「補充的な学習、発展的な学習やコース選択の指導の実際」を順次取り上げていきます。											
学修到達目標											
子どもたちに6年間を通して数学的に考える資質能力を育成するために、子どもの実態と教材の内容を分析し、指導法の工夫を教材研究の観点から学生自らが主体的に考え、子どもの主体性を尊重した指導のあり方を修得している。											
授業の進め方											
指導計画立案や学習指導案作成に重きを置き、これをもとに模擬授業を充実させていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	基礎基本を確実に身につける指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、基礎基本を確実に身につける指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
2	個に応じた指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、個に応じた指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
3	学力のとらえ方と評価の関係	学習指導案の作成と模擬授業を通し、学力のとらえ方と評価の関係を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
4	一人一人の学力を向上させる指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、一人一人の学力を向上させる指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
5	校内の指導体制と保護者の意識	学習指導案の作成と模擬授業を通し、校内の指導体制と保護者の意識を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
6	学校間の研究協力と授業力アップの方策	学習指導案の作成と模擬授業を通し、学校間の研究協力と授業力アップの方策を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
7	問題解決指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、問題解決指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
8	補充的な学習の指導と教材開発のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、補充的な学習の指導と教材開発のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
9	発展的な学習の指導と教材開発のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、発展的な学習の指導と教材開発のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
10	発展的な学習の指導の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、発展的な学習の指導の実際を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
11	習熟度に応じた指導計画の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、習熟度に応じた指導計画の実際を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
12	コース選択とコースガイダンスの実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、コース選択とコースガイダンスの実際を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
13	学習カードと評価を生かした指導の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、学習カードと評価を生かした指導の実際を考えます。					学習指導案と模擬授業の振り返りをします。(1時間)				
14	評価のあり方と工夫の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、評価のあり方と工夫の実際を考えます。					学習指導案と模擬授業の振り返りをします。(1時間)				
15	振り返りとまとめ	学習指導案の作成と模擬授業を通し、振り返りとまとめをします。					学習指導案と模擬授業の振り返りをします。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 算数編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。)						課題:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し子どもの実態と教材の内容を分析し指導法の工夫を優れた実践と対比しながら指導案を多数作成している。A:授業内容を理解し子どもの実態と教材の内容を分析し指導法の工夫を優れた実践と対比し指導案を複数作成している。B:授業内容を理解し子どもの実態と教材の内容を知り指導法の工夫優れた実践と対比しながら指導案を作成している。C:授業内容を理解し指導法の工夫を優れた実践を見ながら指導案を作成する努力をしている。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じて提示します						算数・数学嫌いの子どもたちを育てないための問題意識を持って授業に参加してください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の算数科指導に携わった。					

科目名	理科教材研究		学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナパリング	AA26004	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
子どもの思考が活性化する局面や、新たな概念を獲得していく様相を、実際の授業記録やVTRの視聴から捉えていきます。また、その時の教材の働きや役割等について議論を深め、その成果を実際の授業作りに役立てていきます。										
学修到達目標										
子どもの自然認識や素朴概念、思考過程等を理解するとともに、子ども理解に立脚した理科教材の在り方についての考え方を深め、よりよい教材を研究、開発していこうとすることができる。										
授業の進め方										
実際の授業VTRを視聴したり、グループワークで教科書に出ている観察・実験を行ったりして実践的に学びます。また、オリジナル教材を作成したり、互いにプレゼンテーションをしたりして小学校理科で用いられる教材について理解を深めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	理科教育が目指す子ども像	問題解決に取り組む子どもの様相や、その変容について、具体的な教材や授業VTRの視聴を通して考えます。				小学校理科の目標を調べる(1時間)。				
2	教材論からみた教材(1)	身近な素材を教材化することのよさを知り、グループ活動を通して具体的に作成し、プレゼンテーションをします。				小学校理科のオリジナル教材や教材開発の事例について調べる(1時間)。				
3	教材論からみた教材(2)	安全性、美しさ等、手作り教材作成のポイントについてグループで討論しながら学びます。				小学校理科の教材を作成する上で必要となる工具やその使い方について調べる(1時間)。				
4	教材論からみた教材(3)	単元の本質をとらえた教材とは何かをグループ討論を通して具体物から分析します。				小学校理科の同一単元における教材を調べて比較する(1時間)。				
5	子ども論からみた教材(1)	子どもにとっての「おや?あれ?なぜ?」が生まれる教材について、グループで討論しながら考えます。				小学校理科の教材の事象提示の仕方について考える(1時間)。				
6	子ども論からみた教材(2)	子どもにとっての矛盾が生まれる教材について、グループで討論しながら学びます。				自然事象に対する子供の素朴概念について調べる(1時間)。				
7	子ども論からみた教材(3)	子どもが、知識や技能等を総動員する教材について、授業VTR視聴等を通して学びます。				小学校理科の教科書の内、試してみたいと思う教材とその理由について考える(1時間)。				
8	教師論からみた教材(1)	子どもの実態に応じた教材化のポイントを実際の教材教具を分析しながら学びます。				小学校理科の教科書の内、改善してみたいと思う教材とその理由について考える(1時間)。				
9	教師論からみた教材(2)	授業の中で教材を生かす授業者の役割について、授業VTR視聴等を通して学びます。				小学校理科の教材のよさをプレゼンテーションする内容について考える(1時間)。				
10	教師論からみた教材(3)	説明教材から脱却するための役割について、グループで討論しながら考えます。				他者の教材のプレゼンテーションを基に考えを練り上げる(1時間)。				
11	学習環境としての教材(1)	植物の特性を生かした実験用農園の作り方についてグループで討論しながら考えます。				小学校理科の実験用農園の在り方についてアイデアを練り上げる(1時間)。				
12	学習環境としての教材(2)	子どもの観察・実験を充実させる理科室環境についてグループで討論しながら考えます。				小学校理科室における配慮事項や工夫点について考える(1時間)。				
13	今日的な課題に対応する教材(1)	プログラミング教育等、今日的な課題に対応する教材について、具体物を用いながら考えます。				プログラミング教育の導入に関わる今日的な課題について考える(1時間)。				
14	今日的な課題に対応する教材(2)	エネルギー環境教育、防災教育等、今日的な課題に対応する教材について、具体物を用いながら考えます。				エネルギー問題や防災教育等、今日的な課題について考える(1時間)。				
15	講義の総括	子どもの思考、授業者の役割、教材の働き、今日的な課題等を踏まえた学習について考え、プレゼンテーションをします。				小学校理科の学習指導案に事前に記載しておくことについて考える(1時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 理科編(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)				レポート:40% 小テスト:20% 受講態度:40%						
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)				S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業VTR、実験資料、実験プリント				実際の授業VTRの視聴、教科書の観察・実験、オリジナル教材作成等に積極的に参加することが望まれます。準備物等は別途連絡します。【実務経験のある教員が担当】小学校教員として、児童の理科指導に携わった。						

科目名	英語科教材研究		学年学期	3・4年前期	単位数	1	ナパリング	AA36005	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
小学校外国語活動において児童の状況に合った活動のあり方を理論的に扱います。児童の理解を観察し、徐々に英語で発話する必要性を作り出す教材の在り方を考えます。また小学校外国語活動と中学校との接続を考慮し、小学校外国語活動を英語で実施できるようにします。小学校外国語活動において実際の授業の場面を想定しながら、小学生の状況に応じた適切な教材を作成したり選択したりすることができるようにします。										
学修到達目標										
小学校外国語活動においてその理論を理解し、小学生の状況に応じた適切な教材を選択し、英語で授業を実施できる。										
授業の進め方										
学習内容に応じ、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション 言語習得理論 母語の習得と第二言語習得	母語の習得理論と第二言語習得理論を理解し、その考え方をういて外国語活動を考えます。				第二言語習得理論を理解し、その観点から活動の際の留意ポイントを明確にする。(1時間)				
2	カリキュラム・年間指導計画作成のポイント	児童において育成したい力などを考え、それに応じ年間を通したカリキュラムやその指導・計画の在り方のポイントの基本を理解し、計画を立てられるようにします。				年間指導計画を児童の育成する力から考え、基本的ポイントを理解しておく。(1時間)				
3	年間指導計画	年間指導計画の基礎的ポイントを応用し、各単元の中でそれらの意向が反映され、積み重ねながら実践されていくような計画の作成を理解します。				年間指導計画から、各単元で実践する活動を考え、年間指導計画の全体像を理解する。(1時間)				
4	担任が行う授業づくりの視点	HRTの特性を活かした授業計画・実施のポイントとその活動を理解します。				活動の選定の際のポイントを考え理解する。(1時間)				
5	授業展開	授業展開の基本とその展開の中で留意すべきポイントについて理解し、授業を計画します。				授業を展開していく際の基本的構成と、実施の際の留意ポイントに考えを明確にする。(1時間)				
6	教室英語	教室で使用する英語はどのような英語であるかを理解し、基本的な英語の表現を適切に使用します。				基本的な教室英語を使用できるようにする。状況に合わせて発展した表現を理解する。(1時間)				
7	教材の使い方・選び方と開発方法	外国語活動の教材において、どのように教材を使用するか、また作成するのであればどのようなポイントに留意をして作成するのかを理解します。				教材の使用・作成のポイントを理解し、教材の在り方について理解する。(1時間)				
8	ICTのよりよい活用を考える	ICTの使用に関し、その使用方法を理解し、その特徴から効果的な使用方法を理解します。				ICTの特徴を理解し、有効な使用方法を理解する。(1時間)				
9	国際理解教育と英語教育	外国語活動の中で育成すべき異文化理解の考え方、異文化に対する理解、児童の態度や姿勢について理解します。				異文化理解への児童の姿勢を考え、指導に生かせるよう考える。(1時間)				
10	コミュニケーションを図ろうとする態度 Three Hints Game	児童が友人とのコミュニケーションを図っていく際に留意すべきポイントを活動の在り方から理解します。				活動に留意ポイントが反映でき実施できるようにする。(1時間)				
11	マイクロティーチング：コミュニケーションの態度	コミュニケーションを図る態度に留意をし、実際に活動を英語で指示・実施し、フィードバックを受け授業を改善します。				事前にコミュニケーションを図る態度を考慮し、活動が英語でできるようにする。(1時間)				
12	言語に関する気づきの基本 歌、チャンツ	歌やチャンツの背景にある考え方を理解し、どのように実施していくかを理解します。				歌やチャンツの導入に関して、背景にある考え方を理解し、導入できるようにする。(1時間)				
13	マイクロティーチング：言語に関する気づき	歌やチャンツの背景理論を理解し、それらを取り入れながら、補助教材を使用し、英語で導入し実施します。				事前準備し、補助教材等を活用しながら、英語で歌やチャンツを導入できるようにする。(1時間)				
14	音声や表現への慣れ親しみ Simon Says	音声や表現に慣れ親しみ、表現を理解しながら触れる機会を増やしていくために必要な活動とその実践方法と背景の考え方を理解します。				音声や表現を理解させながら導入できる活動を実施できるようにする。(1時間)				
15	マイクロティーチング：音声や表現への慣れ親しみ まとめ	音声や表現に慣れ親しませるポイントや理論を理解し、実際に英語で実施し、フィードバックより改善を行います。				事前準備し、児童の理解を伴いながら音声や表現に親しませる活動できるようにする。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校外国語活動 基本の「き」」酒井英樹著(大修館書店) ISBN: 978-4469245844 英語科概論で購入済 「小学校学習指導要領」文部科学省著(東洋館出版社) 購入済 「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」文部科学省著(開隆堂出版) 購入済				受講態度：10% 課題：20% 実技：20% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有している。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
別途指示します。				教科書・参考書は別途指示します。原則、欠席は2回までです。英語力査定を実施し、評価に加えます。常に英語の勉強をしておいてください。参考書は指示があるまで購入しないようにしてください。						

科目名	体育科教材研究		学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナパ <sup>®</sup> リング	AA26006	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、金曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業は「初等体育科指導法」で学修した内容を発展させ、子どもたちの学びを促進するような教材開発を含む教材研究についての基本を学修した上で、実際に指導案を作成し、模擬授業を実施します。模擬授業では指導要領に示された各領域についてバランスよく取り扱い、小学校の体育授業について総合的な理解を深めます。模擬授業後の授業検討会やレポートによる意見交換を経て、授業の展開構成について振り返りを行い、より実践的な指導について学び、授業力を高めます。</p>										
学修到達目標										
学習者中心の体育授業の考え方をもち、指導案を作成できるようになるとともに、子どもたちへの支援ができる。										
授業の進め方										
各領域の担当を決め、指導案を作成します。指導案検討を行い、修正した指導案で、授業実践を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	各領域の担当を決め、指導案の作成をします。				担当した指導案の作成(1時間)				
2	体づくり運動	授業実践(1) 体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動の模擬授業とその検討				体づくり運動の学習内容を理解する。(1時間)				
3	体づくり運動	授業実践(2) 用具を操作する運動、体力を高める運動の模擬授業とその検討をします。				授業の進め方を理解する。(1時間)				
4	マット運動	授業実践(3) マット運動の模擬授業とその検討をします。				マット運動の技の系統を理解する。(1時間)				
5	鉄棒運動	授業実践(4) 鉄棒運動の模擬授業とその検討をします。				鉄棒運動の技の系統を理解する。(1時間)				
6	跳び箱運動	授業実践(5) 跳び箱運動の模擬授業とその検討をします。				跳び箱運動の技の系統を理解する。(1時間)				
7	ハードル走	授業実践(6) ハードル走の模擬授業とその検討をします。				ハードル走の運動の特性を理解する。(1時間)				
8	走り幅跳び	授業実践(7) 走り幅跳びの模擬授業とその検討をします。				走り幅跳びの運動の特性を理解する。(1時間)				
9	走り高跳び	授業実践(8) 走り高跳びの模擬授業とその検討をします。				走り高跳びの運動の特性を理解します。(1時間)				
10	ゴール型ゲーム	授業実践(9) ゴール型ゲームの模擬授業とその検討をします。				ゴール型のゲーム構造を理解します。(1時間)				
11	ネット型ゲーム	授業実践(10) ネット型ゲームの模擬授業とその検討をします。				ネット型のゲーム構造を理解する。(1時間)				
12	ベースボール型ゲーム	授業実践(11) ベースボール型ゲームの模擬授業とその検討をします。				ベースボール型のゲーム構造を理解する。(1時間)				
13	表現運動・リズムダンス	授業実践(12) 表現運動とリズムダンスの模擬授業とその検討をします。				表現・リズムダンスの運動の特性を理解する。(1時間)				
14	保健	授業実践(13) 保健の模擬授業とその検討をします。				保健の学習内容を理解する。(1時間)				
15	これからの小学校体育	これからの小学校体育について(まとめ)				これからの小学校体育についての考えをもつ。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編」(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-03467-6(生協で購入してください。)				課題:50% 出席レポート:30% 実技:20% S:各領域の教材を高度に理解するとともに、従来の教材を批判的思考に基づく探求姿勢をもって課題に取り組める。A:各領域の教材をよく理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組める。B:各領域の各領域の教材を概ね理解し、与えられた課題に誠実に取り組める。C:各領域の教材を60%程度を理解し、与えられた課題に取り組める。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック」文部科学省著 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm</a>				事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切です。 【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の体育科指導に携わった。						

科目名	国語科教材演習		学年学期	3・4年前期	単位数	1	ナパ'リング	AA36007	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
必修科目である「国語科概論」「初等国語科指導法」を基盤とし、義務教育段階における教材研究と開発を中心とした演習を行います。文学的文章を読むことや、論理的文章を読むことや書くこと、伝統的な言語文化の教材の特質を生かした学習指導案を書いていきます。授業は受講者による教材研究とそれらに基づいた学習指導案の立案、模擬授業実践が中心です。										
学修到達目標										
1 小学校国語の主たる教材の全体像を知り、領域や事項ごとの特色を理解している。2 文学的文章や論理的文章の特徴を知り、「読むこと」の教材研究を行い指導案を立案できる。3 伝統的な言語文化の特色を知り、教材の特性を生かした指導案を書く力を身につけている。4 教材選択の視点を深めている。										
授業の進め方										
授業は講義部分と実践部分に分かれます。実践部分においては、演習、発表、討論、全体討論などを行って主体的・対話的・協働的に学びます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	論理的文章と文学的文章の内容や目的、指導方法の違いについて概観する。				指定された教材文を確実に音読できるようにする。文体分析を行う。(1時間)				
2	文学的文章指導の演習(1)	初等教育における文学教材を読むための観点を理解します。				指定教材を読み、観点到に沿って文体分析を行う。(1時間)				
3	文学的文章指導の演習(2)	教材の特色を踏まえ学習指導案を書きます。				指定教材を読み、観点到に沿って文体分析を行う。(1時間)				
4	文学的文章指導の演習(3)	教材の特色を踏まえ学習指導案を書き、内容を精査しあいます。。				教材を読み、観点到に沿って文体分析を行う。学習指導案を書く。(1時間)				
5	文学的文章指導の演習(4)	学習指導案を共有し、批判、検討を行います。				学習指導案の修正と模擬授業の準備を行う。(1時間)				
6	文学的文章指導の演習(5)	学習指導案を共有し、模擬授業を通して批判、検討を行います。				学習指導案の修正と模擬授業の準備を行う。(1時間)				
7	文学的文章指導の演習(6)	学習指導案を共有し、模擬授業を通して批判、検討を行います。				修正指導案を書き、提出する。(1時間)				
8	文学的文章指導の演習(7)	学習指導案に基づいた授業展開を行い、各自が考察を持ちます。				文学的文章指導を総括しまとめる。(1時間)				
9	伝統的な言語文化の指導の演習(1)	小学校における伝統的な言語文化の指導の目的と内容を理解します。(ゲストティーチャーによる講義を予定)				GTによる講義等をまとめる。(1時間)				
10	伝統的な言語文化の指導の演習(2)	指導の目的と内容を踏まえ、学習指導案の書き方を知ります。				学習指導案の基本を踏まえ、模擬授業の準備を行う。(1時間)				
11	伝統的な言語文化の指導の演習(3)	学習指導案を共有し合います。				教材選択を行い、模擬授業の準備を行う。(1時間)				
12	伝統的な言語文化の指導の演習(4)	学習指導案に基づいて、模擬授業を検討し合います。				指導案を修正し、反省点と考察をまとめる。(1時間)				
13	伝統的な言語文化の指導の演習(5)	学習指導案に基づいて、模擬授業を発表し合います。				指導案を修正し、反省点と考察をまとめる。(1時間)				
14	論理的文章指導の演習(1)	論理的文章を指導する観点について知ります。論理的文章を「書くこと」の指導の手順の基本を理解します。				論理的文章指導の教材を実際に執筆する。(1時間)				
15	論理的文章指導の演習(2)、総括	論理的文章を「書くこと」の指導の手順の基本および評価を理解します。				学習内容をまとめ、提出する。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新型学習指導案集「伝統的な言語文化」編」日本言語技術教育学会盗用神田支部者(別途、指示します。)				受講態度:10% 課題:70% 実技:20% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。 「受講態度」には毎回の考察、発言・発表等を含みます。欠席4回で単位を認定しません。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に適宜紹介しますので入手してください。				国語科の必修(2科目)以上の内容のため、修得済みであることが望ましいです。【実務経験のある教員が担当】小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の国語科指導に携わった。						

科目名	算数科教材演習		学年学期	3・4年前期	単位数	1	ナパ <sup>®</sup> リング	AA36008	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・佐藤 茂太郎		必修選択	選択	科目種別	演習	ホワイト	火曜日5限、木曜日4限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
学生同士の研究協議を行い、小学校算数科目標、内容、指導方法を理解することにねらいを置きます。実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行います。行った模擬授業に対し指導を行うと共に学生による相互評価を行う授業です。										
学修到達目標										
学生自らが主体的に、算数科の学びの基本や、その内容や方法を「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」領域で考察し説明できる。子どもの主体的な学びを促す指導法のあり方、教材の内容、指導法の工夫等を、優れた実践を参考に検討し、模擬授業や研究協議会を実施できる。										
授業の進め方										
教材の準備、指導内容、指導法の工夫等を模擬授業を通して分析し、授業のあり方を模擬研究協議会を通して考えていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス。指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行います。指導のポイントについて考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
2	算数科の指導内容と指導上の留意点	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、算数科の指導内容と指導上の留意点を押さえます				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
3	数量関係の授業と評価	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、数量関係の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
4	図形の授業と評価	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、図形の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
5	年間計画と学習指導案の書き方	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、年間計画と学習指導案の書き方を体験します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
6	数と計算の授業と評価(低学年)	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、数と計算の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
7	教材研究と学習指導案の作成	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、教材研究と学習指導案の作成を体験します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
8	測定の授業と評価	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、測定の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
9	教育機器を利用した授業と評価(低学年)	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、教育機器を利用した授業とその評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
10	数と計算の授業と評価(高学年)	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、数と計算の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
11	データの活用領域の授業と評価	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、データの活用領域の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
12	教育機器を利用した授業と評価(高学年)	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、教育機器を利用した授業とその評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
13	小学校6年間を通した算数科指導における留意点	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、小学校6年間を通した算数科指導における留意点を押さえます				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
14	小学校6年間を通した算数科指導における留意点	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、小学校6年間を通した算数科指導における留意点を押さえます				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)				
15	まとめ	指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、まとめをします				今までやってきたことをまとめます。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 算数編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。)				課題:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し算数科の学びの基本や内容や方法を高度に説明でき、子どもの主体的な学びを促す優れた模擬授業や研究協議会を多数行っている。 A:授業内容を理解し子どもの主体的な学びを促す指導法の模擬授業や研究協議会を複数行っている。B:授業内容を理解し、子どもの主体的な学びを促す指導法の模擬授業や研究協議会を行っている。C:授業内容を理解し、算数科の学びの基本や内容や方法を考察し模擬授業や研究協議会を支援を受けながら行っている。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
必要に応じ提示します				算数・数学好きの子どもたちを育てるための問題意識を持って授業に参加してください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:小学校に教員として勤務し、学級担任として児童の算数科指導に携わった。						

科目名	授業法の基礎		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ'リング	AA26009	研究室	A-13
担当者	今泉 博		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
授業を創ることは、教師の最も重要な仕事のひとつだと言えます。すぐれた教材を発掘・選択し、子どもの姿をイメージしながら、授業を構想していきます。実際の授業では、子どもたちの知恵と力を引き出しながら、授業の課題に挑むことになります。皆さんは「模擬授業」という形で、「授業」を体験します。										
学修到達目標										
授業の目的に合わせて教材を選択し、子どもたちが生き生き参加できるように工夫して学習指導案を作成できる。最終的には、その指導案をもとに模擬授業を行うことができる。										
授業の進め方										
講義、グループ討論、アクティブラーニングなどを適宜行いながら授業を進めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	最初に、この授業の目的と、授業でだいたいしたいことを話します。その上で、現場の実践をもとに、授業とは何かということを考え合います。				これまで小中高と受けてきた授業をもとに、自分なりに「授業とはなにか」を文章にまとめる。(4h)				
2	授業のねらいや教材と授業法	授業法は、固定されたものではなく、教師が創造していくものです。基本的には、授業のねらいや教材、子どもたちの実態に規定されざるを得ません。教材等と授業法の関係を具体例をもとに学びます。				これまで様々な方法で指導を受けてきたと思います。授業法について感じたことをまとめる。(4h)				
3	教室になんでも言える人間的な自由を(間違い・失敗の保障)	教師がどんなに準備して授業に臨んだとしても、誰も発言したりしなければ、授業の成立は困難です。子どもたちが生き生き参加する授業を創るには、なんでも言える自由な雰囲気不可欠です。				学校体験から、教師がどんな対応のときに、みんなが生き生き参加できたかを文章にまとめる。(4h)				
4	集中は「させるもの」ではなく「生まれるもの」	教材がよければ、その出合わせ方がよければ、子どもたちは自然に集中しだすものです。集中は「させるもの」ではなく「生まれるもの」です。集中が「生まれる」ような授業が求められます。				これまでの学校体験から、みんなが集中して取り組んだときの授業について書く。(4h)				
5	想像・推理を重視することで	想像・推理は、過去の歴史を学ぶ上でも未知のことを学ぶ上でも、欠かせません。その偉力は、とてつもないものです。想像・推理を重視することで、子どもたちは学ぶ楽しさを実感していきます。				想像・推理は、どんなときによく働くか、これまでの授業体験を踏まえて、文章にまとめる。(4h)				
6	教材研究(教材を決める)	教科書や学習指導要領などを参考にしながら、さまざまな視点から検討し、何の教科の何年生の何の授業にするかを考え、決めます。				自分としては、何の教科の何年生の何の授業をしたいかを考えておきます。(4h)				
7	教材研究(教材そのものを深く研究)	扱う教材そのものを深く研究します。この段階で教師が驚いたり、再発見するようなものがあれば、子どもたちが興味をもって参加する授業の可能性が大きくなります。				自分が授業をしようとする教材の価値・おもしろさはどこにあるかをまとめる。(4h)				
8	教材研究(教材の配列)	今回の授業を何時間で指導するか、教材の配列をどのようにするかを考えます。(授業計画)				子どもたちが興味をもって学習するようにするには、教材をどのように配列するかを考える。(4h)				
9	学習指導案の作成(時間配分と授業の流れ)	現場で使われている実際の学習指導案を例にして、形式や必要事項などを確認し、本時の学習指導案の作成に取りかかります。				本に載っているものや先輩の作成した指導案等を事前に調べる。(4h)				
10	学習指導案の作成(発問に対する予想される子どもの意見)	授業を構想する上で、発問と予想される子どもの意見をイメージしておくことは欠かせません。また、個別に考える時間や、討論、活動、書くことなども授業の中に位置づけられる必要があります。				自分の授業で必要ないくつかの発問と、予想される子どもの意見を想定し、メモしておく。(4h)				
11	学習指導案の作成(指導案をもとに板書を考える)	指導案ができあがった段階で、板書を考えることは不可欠です。板書が決まることで、授業の流れや授業のポイントが明確になります。				学習指導案や板書をもとに、実際の授業の練習をし、模擬授業に備えます。練習の感想を書く。(4h)				
12	模擬授業と振り返り	実際に模擬授業を行い、よかった点を大いに出し合います。今後の課題についても、少し触れることにします。				模擬授業を行って(観て)感じたこと考えたことを、文章にまとめる。(4h)				
13	模擬授業と振り返り	実際に模擬授業を行い、よかった点を大いに出し合います。今後の課題についても、少し触れることにします。				模擬授業を行って(観て)感じたこと考えたことを、文章にまとめる。(4h)				
14	模擬授業と振り返り	実際に模擬授業を行い、よかった点を大いに出し合います。今後の課題についても、少し触れることにします。				模擬授業を行って(観て)感じたこと考えたことを、文章にまとめる。(4h)				
15	まとめ	模擬授業の体験をもとに、「授業を創る上で何がだいじか」「今後どのようなことを学び考えていく必要があるか」を話し合い、自分の今後の課題を明確にとらえるようにします。				自分が教師になって授業を創っていく上で、どういうことを学び考えていくべきかをまとめる。(4h)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
テキストは使用しません。必要な資料を適宜配布します。		レポート:50% 課題:50% S:授業づくりに意欲的・創造的に取り組み、課題も探究的にやり遂げる。水準の高い学習指導案を作成し、模擬授業も立派にできる。A:授業づくりの基本を理解し、課題に積極的に取り組む。工夫して学習指導案を作成し、模擬授業もしっかりできる。B:授業づくりのおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組む。学習指導案を作成し、模擬授業ができる。C:授業づくりの基本を60%程度を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業ができる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
参考書は学習指導要領と教科書です。その他は必要に応じて適宜配布します。		いざ授業するとなると、うまくできるか心配になると思います。なんでもそうであるように、授業力も失敗しながら育っていきます。模擬授業に積極的に挑むようにしましょう。小学校に教員として勤務した実務経験のある教員が担当								



科目名	教育制度研究		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AA36010	研究室	A-14
担当者	御代田 桜子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限、水曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
日本の教育統治(教育ガバナンス)のシステムは、学制導入期(第一期学制改革)、戦後改革期(第二期学制改革)と並ぶ抜本的な改革が、1990年代後半以降今日まで(第三期学制改革)進んでいます。本講義では、第三期学制改革を対象とした研究書をテキストとして、特に教育制度改革と地方自治体の教育改革を取り上げ、学修到達目標の追求と学制改革の理解を深めます。理解が一定程度深まり、受講生と訪問先の条件が整えば、本講義の時間外で、教育機関・関係者への調査訪問ないしは見学訪問を行いません。										
学修到達目標										
教育制度の今について、歴史的な文脈と社会的な文脈の中で理解することが目的となる。具体的な到達目標は、新たな教育統治システムの理念、その実際、特に近年の教育法制度改革を理解していることである。										
授業の進め方										
この授業は講義となっていますが、学修到達目標の実現のため、演習形式を多用します。毎時、教員からは必要最小限の解説にとどめ、レポーターによる報告とこれに対する討議によって、各回のテーマを一人ひとり追究し、理解を深めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方などについて説明します。				シラバスの読み。第1回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
2	国家と教育法	国民主権と教育における法律主義の関係、法令の序列や効力について解説します。				第1回授業で配布された資料の読み。第2回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
3	自治体と教育法	教育における地方自治と法令、条例や教育委員会規則との関係について解説します。				第2回授業で配布された資料の読み。第3回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
4	学校改革と教育法	学校の社会的な位置づけ、守備範囲、担い手と法令との関係について解説します。				第3回授業で配布された資料の読み。第4回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
5	学校管理と教育法	学校の組織や運営と法令との関係について解説します。				第4回授業で配布された資料の読み。第5回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
6	教育課程と教育法	教育課程の基準や編制等と法令との関係について解説します。				第5回授業で配布された資料の読み。第6回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
7	教師の身分・サービスと教育法	教師の採用・人事、身分・サービス等と法令との関係について解説します。				第6回授業で配布された資料の読み。第7回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
8	教師の資格・力量と教育法	教員免許や研修と法令との関係について解説します。				第7回授業で配布された資料の読み。第8回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
9	いじめ・自殺と教育法	子どものいじめ・自殺と法令との関係について解説します。				第8回授業で配布された資料の読み。第9回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
10	不登校と教育法	子どもの不登校と法令との関係について解説します。				第9回授業で配布された資料の読み。第10回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
11	学校事故と教育法	学校事故(対物事故や生徒間事故)の法的責任と法令との関係について解説します。				第10回授業で配布された資料の読み。第11回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
12	学校の危機管理と教育法	学校の危機管理と法令との関係について解説します。				第11回授業で配布された資料の読み。第12回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
13	学校参加と教育法	学校参加(PTA、学校評議員、学校運営協議会、三者・四者会議等)と法令との関係について解説します。				第12回授業で配布された資料の読み。第13回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
14	生涯学習と教育法	子どもに関わる生涯学習や社会教育と法令との関係について解説します。				第13回授業で配布された資料の読み。第14回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
15	まとめ	本講義で学んできたことを整理します。また受講生には、今日の教育法制度改革の特質について発表してもらいます。				前時までに配布の資料からまでの読み。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
必要に応じて資料を配布します。必ず保管し、授業時は持参してください。				出席レポート:35% レポート:35% 課題:30% 出席レポートとは毎回の授業後の感想・質問カード、レポートとは授業内容の理解度を高めるため課題レポート、課題とは期末課題、をそれぞれ指します。それらを総合して評価します。 S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的かつ説得的に自分の考えを発表できる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「教育小六法2020年度版」市川須美子、小野田正利、勝野正章、窪田真二、中嶋哲彦、成嶋隆編(学陽書房) 「教育と教育行政」井深雄二、大橋基博、中嶋哲彦、川口洋誉編(勁草書房)				専門的・応用的な講義内容のため、履修は「教育制度論」(2単位)の単位を修得済みの学生に限ります。専門書読解、レポート報告、討議、教育機関への訪問を、途中でリタイアすることなく意欲的にやり遂げられる学生を求めます。						

科目名	教育史研究		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	AA36011	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、金曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
地域の教育の歴史から現在の教育を考えるをテーマとし、これまでに学修してきた教育の理念、歴史および思想に関する基礎的、基本的な知見を前提として、受講者それぞれの関心に基づいて、地域(松本地域あるいは信州など)の教育的営みに関わる歴史的事柄について幅広く取り上げます。そして、それらの歴史的意義や役割を、現在の教育と比較しながら考察し、現在の教育を取り巻く諸問題に関する理解をさらに深めます。なお、授業は受講者の報告を中心に進めていきます。										
学修到達目標										
(1)地域の教育の歴史遺産について理解している。(2)教育的営みに関わる歴史的事柄について各自の興味関心を深め、その一つについて説明できる。(3)現在の教育を相対化するための視点を修得している。										
授業の進め方										
講義や歴史遺産の見学を通して、地域における学校の役割などについて基本的な共通理解をもった後、各自のテーマを決定し、その内容に関する各自の報告とディスカッションを行っていきます。報告は、各自が複数回担当することになります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容及び授業の進め方について説明します。				シラバスの読み及び教育史に関して興味のあるテーマを明らかにする(4時間)。				
2	地域における学校1	地域における学校教育の成立と普及について説明します。				第1回授業で配布した資料の該当箇所の読み、地域の歴史遺産を調べる(4時間)。				
3	地域における学校2	地域における学校の歴史的意義について説明します。				前時の復習、第1回授業で配布した資料の該当箇所の読み、地域の歴史遺産を調べる(4時間)。				
4	歴史遺産の見学1	松本市内の教育に関わる歴史遺産を見学します。				見学する歴史遺産について調べる、これまでの学修内容を参考に各自のテーマを考える(4時間)。				
5	歴史遺産の見学2	松本市周辺の教育に関わる歴史遺産を見学します。				見学する歴史遺産について調べる、これまでの学修内容を参考に各自のテーマを考える(4時間)。				
6	テーマの決定	各自のテーマ及び報告順を決定します。さらに、報告方法について説明します。				これまでの授業を振り返り、各自のテーマを考える(4時間)。				
7	地域と学校1	地域と学校との関わりについて、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
8	地域と学校2	家族・家庭と学校との関わりについて、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
9	地域と学校3	子どもの生活と学校との関わりについて、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
10	教育の内容と方法1	教科書の内容の変化について、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
11	教育の内容と方法2	さまざまな教材と教具の使用方法について、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
12	教育の内容と方法3	教師の役割について、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
13	教育の歴史と現在1	地域、保護者、学校の関係について、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
14	教育の歴史と現在2	主体的な学びについて、報告とディスカッションを行います。				報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
15	まとめ	ここまでの授業を振り返り、総括します。				ここまでの授業内容を復習する(4時間)。				
テキスト			成績評価の方法・基準							
必要な資料を配布します。			受講態度：25% レポート：50% 課題：25% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(報告、その報告に関するディスカッションへの参加状況とまとめ)、課題(期末課題)を総合して評価します。 <評価基準> S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
授業の進捗状況に合わせて適宜紹介します。			受講者の報告とディスカッションが中心となる授業であるため、積極的な授業参加を期待しています。							

科目名	教職教養特別演習		学年学期	3年後期	単位数	1	ナパリング	AA36012	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・國府田 祐子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日4限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
これからの教育職員に求められる資質や能力及び心構えなどについての認識を深めることをねらいとし、これからの学校教育や教育職員のあり方などについて、具体的な課題を取り上げて理解を深めます。										
学修到達目標										
学生自らが主体的にかつ自律的に学修するとともに、大学での学業生活がより豊かなものになることを目指し、かつ将来の夢に備えるために、これからの教育職員に求められる資質や能力および心構えなどについての認識を深めている。										
授業の進め方										
演習科目なので、具体的な事例を通して、教師としての自分の考えを、グループ協議を通し確立していきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	服務や教職員事故防止	服務や教職員事故防止や倫理観の確立など押さえ、新しい時代の教師のありかたを考え集団討論し、教職教養の資料をまとめる方法を考えます				服務など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
2	生き生きした授業と教材研究	生き生きした授業と十分な教材研究のあり方の基本を押さえ、児童生徒を伸ばす学習指導のあり方を考え、集団討論し、教職教養の情報を整理していきます				教材研究のあり方など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
3	心の通う生徒指導の基本	心の通う生徒指導の基本を押さえ、生徒指導の実際を考え、集団討論をし、教職教養の情報の表現方法を学びます				生徒指導の基本など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
4	夢をはぐくむ進路指導とキャリア教育の基本	夢をはぐくむ進路指導やキャリア教育の基本を押さえ、その実際を知り、集団討論し、教職教養の情報の表現方法を身につけます				進路指導など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
5	校務分掌の実際	校務分掌の実際を知り、望ましい学校運営の一員としての資質を考え、集団討論し、教職教養の情報を増やしていきます。				学校運営など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
6	様々な教育答申	様々な教育答申を知り、教職教養の情報をまとめ、論文に備えます。				教育答申など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
7	教師の日常と職務内容	教師の日常と職務内容と教職教養の情報をまとめ、論文に備えます				職務内容など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
8	教員の身分保障と服務義務	教員の身分保障と服務義務など教職教養の情報をまとめ、論文に備えます。				服務義務など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
9	子どもの発達課題	幼児・児童・生徒の発達課題と近年の傾向など教職教養の情報をまとめ、論文に備えます				発達課題など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
10	いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為	いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為など様々な問題行動とその対応を考え個人面接を体験します				問題行動の対応などをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
11	学校・家庭・地域の役割と連携	学校・家庭・地域の役割と連携における教師の役割をまとめ個人面接を体験します。				教師の役割など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
12	教師のライフステージと研修制度	教師に求められる資質能力と、教師のライフステージと研修制度について自分の考えを持ち、個人面接を体験します				教員研修など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
13	教職の適性と進路選択	教職に対する適性と進路選択についての見識を高め、個人面接を体験します				進路選択など学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
14	公立学校教員の採用状況	公立学校教員の採用状況とその対応を知り、自らのこれからのあり方をまとめていきます。				教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
15	教職教養の情報をまとめます	教員をめざし、自らのこれからのあり方をまとめ発表し合い、自己評価や他者評価を体験します。				評価の重要性をノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領総則編」文部科学省著(東洋館出版)(生協で購入してください。)				課題:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し、優れた模擬授業や協議を行っている。A:学びの基本を押さえ、模擬授業や協議を確実にこなしている。B:基本を理解し、模擬授業や協議に努力をしている。C:内容の理解や模擬授業や協議を支援を受けながら行っている。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
その都度紹介していきます				学校教員としての教職に関する知識(教養)をしっかりと身につける意欲をしっかりと持って授業に参加してください。						

科目名	特別支援教育入門		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ'リング	AL16013	研究室	A-12	
担当者	小島 哲也・内藤 千尋・小林 敏枝		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C						
授業概要											
<p>インクルージョン(共生)理念の普及とともに教師を志す者すべてが特別な教育的ニーズをもつ子どもについて正しく理解し、適切な対応ができることが求められています。本授業では、障害のある子どもの教育(特別支援教育)に関する基礎的知識を修得することを目的とし、特別支援教育が果たすべき役割とその目的、特別支援学級、通級による指導、特別支援学校におけるそれぞれの教育の仕組みとその内容、障害のある子どもの支援と指導の方法など、基礎的な事柄について分かりやすく解説します。</p>											
学修到達目標											
<p>特別支援教育の発展の歴史的背景について学び、理解している。特別支援教育の仕組み、果たすべき役割、その目的について学び理解している。特別支援学級、通級による指導、特別支援学校における教育の仕組みと内容について学び理解している。障害のある子どもの特性に応じた支援・指導の方法について学び理解している。</p>											
授業の進め方											
講義形式を基本に進めます。授業の学習内容に応じてグループワークや討論も取り入れます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。(小林・小島・内藤)					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	障害とは何か	子どもの発達と障害に関する基礎的事項について解説します。(小島)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	障害とは何か	障害をどのように理解すればいいか。考え方の歴史的変化と現状について解説します。(小島)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	特別支援教育とは何か	わが国の特別支援教育の仕組みを概観し、その目的と意義について考えます。(内藤)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	特別支援教育とは何か	特別支援学級と通級による指導の目的と意義、教育内容と課題について解説します。(内藤)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	特別支援教育とは何か	特別支援学校の目的と意義、教育内容と課題について解説します。(小島)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
7	中間のまとめ	これまでの授業と振り返り、講義内容に関する補足と質疑応答を行います。(小林・小島・内藤)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	子どもの支援と方法	知的障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。(小島)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	子どもの支援と方法	発達障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。(小島)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	子どもの支援と方法	視覚障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。(内藤)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	子どもの支援と方法	聴覚障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。(内藤)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	子どもの支援と方法	肢体不自由児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。(小林)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	子どもの支援と方法	重複障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。(小林)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	子どもの支援と方法	外国籍、貧困、虐待等の問題と地域生活支援について解説します。(内藤)					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義を振り返り今後の学習の指針を提供します。(小林・小島・内藤)					全授業ノートを振り返り最終レポート作成に向けた準備をする(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準								
特になし。			<p>レポート：50% 定期試験：50%  成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。  S: 授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A: 授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B: 授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C: 授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。</p>								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
<p>「発達障害白書(最新年度版)CD-ROM付」日本発達障害連盟著日本発達障害連盟編(明石書店)  「改訂版 特別支援教育の基礎」宮本信也ほか著(東京書籍)</p>			<p>授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。</p>								

科目名	子どもの学びをつくる		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ`リング	AA36014	研究室	A-13
担当者	今泉 博		必修選択	選択	科目種別	講義	ワイズア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
受験ともかかわって、意味のわからないことでも、とにかく練習・習熟して身につけるという学習スタイルが多かったのではないのでしょうか。「勉強からの逃走」という状況は、これまでの学校教育の問題点を浮き彫りにしました。これからの教育、学びのあり方を考えるためには、まず自分たちが受けてきた教育のよかった点や改善すべき点を振り返ってみる必要があります。学びは本来、知的好奇心に満ちた感動的なものです。そのような授業では自然に集中が生まれます。学ぶことで自然や社会や人間が見えてきます。										
学修到達目標										
自分が受けてきた授業の良かった点と問題点を振り返り、授業ではなにが課題かを把握している。その上で、現場での実践を手がかりに、子どもたちが目を輝かせて取り組むような学びが、どうしたら可能になるかを理解している。										
授業の進め方										
講義、グループ討論、アクティブラーニングなどを適宜行いながら授業を進めていきます。間違い・失敗をだいにしながら、誰もが安心して授業に参加できるようにしていきたいと思っています。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス(学びを振り返る)	この授業では、何をだいにしていくかを最初に語ります。その後、自分たちが受けてきた授業で、「よかった」と思うことを交流します。				自分が受けてきた授業で、よかったと思ったり、強く印象に残っていることを文章にまとめる。(4h)				
2	授業の問題点	自分たちが受けてきた授業で、問題だったと感じたことを交流し深めます。このことを通して、授業の課題を把握します。				自分が受けてきた授業の問題点や課題と思われることを、文章にまとめる。(4h)				
3	子どもを変える教材の力	学級にはさまざまな子がいます。自分は塾ですでに習っているからという態度で、もっぱら本を読んでいる子がいました。その子が、ある教材との出会いをきっかけに、大きく変わっていきます。				きょうの授業を振り返りながら、あらためて教材のもつ力について文章にまとめる。(4h)				
4	子どもの問いで授業を創る	社会科の時間に、子どもから出された問いを取り上げ、算数で解き明かすことにしたのです。問いは学習の重要な教材です。問いが子どもたちから生まれるような授業が求められます。				問いが生まれるような授業にしているためには、どのようなことを心がけたらよいかを書く。(4h)				
5	ブラックボックスだから興味津々	学ぶ対象が未知のものだからこそ、子どもたちの知的好奇心が高まります。箱の中に入っている見えないものを、想像・推理しながら突き止め、議論しながら学習の課題にたどり着きます。				本日の授業をもとにしながら、学習における未知(ブラックボックス)の重要性について書く。(4h)				
6	想像・推理を重視することで	遠い過去のことや未知のことを探究するには、想像・推理することは不可欠です。子どもたちは科学者のように、いくつかの事実から、課題を解き明かしていきます。				これまでの自分の学びを振り返り、想像・推理の重要性について文章に書く。(4h)				
7	知りたくなったときの子どもたちの集中力	学ぶことで生活が見えてくることは、子どもにとってもうれしいことなのです。自分が食べている魚の卵の数に、子どもたちは驚きます。卵の数と産卵の仕方が密接に関係していることを理解していきます。				小中高の授業をとおして、学ぶことで生活が見えてきた体験を文章にまとめる。(4h)				
8	抽象的な事柄を具体的に	地図記号などは極めて抽象的なものです。そういうものは、とにかく憶えるしかないと思われがちですが、抽象的なものであっても、具体的に豊かに扱うことが可能です。				抽象的なものを具体的なものに変えていくには、何ををだいにしていく必要があるかを書く。(4h)				
9	できるだけ子どもの発想で	算数の時間に、どっちが液量が多いのかを確認するとき、その方法をすべて子どもたちの発想で進めていきました。比較の条件を子どもたちが見つけていくことで、深い学びができます。				子どもの発想で授業を進めていくためには、どういうことがだいにできるかを書く。(4h)				
10	「 」だけでも何を表現しているかが見えてくる	子どもたちの感性が研ぎ澄まされていくと、抽象的な表現であっても、みんなでイメージを響き合わせていくと、何を表現しているのかが見えてきます。				きょうの授業をもとに、イメージを響き合わせることのだいじさを書く。(4h)				
11	対立・討論で思考が深まる	友だちが作ったたし算の文章題をめぐって、それは「たせる」「たせない」で議論が起きました。子どもたちの考えには驚かされます。				子どもたちの議論について、感じたことを文章に書く。(4h)				
12	新聞記事を使うことで	学ぶことは、自然や社会で起こっていることを深く知ることでありまます。新聞記事を使うことで、今なにが起きているかが解ります。新聞記事も使い方を工夫すれば、重要な教材になります。				新聞記事を教材のひとつとして使うことについて、感じたことを書く。(4h)				
13	発問する間もなく、質問で進む授業	教師が発問しなくても、子どもたちから次々と質問が出され、授業が進んでいったのです。どんな主体的に質問できるようになると、授業は大きく変わっていきます。				子どもたちがどんどん質問したり発言できるようにするためには、何がだいじかを書き文章に書く。(4h)				
14	教えたいことは教えない	「教えたいことは教えない」。この矛盾を解決していくのが授業だと思っています。子どもたちが知恵を出し合い、想像・推理し、ときには対立や討論しながら課題や本質にたどり着きます。				子どもたちに深く考えさせるには、どのようにすればよいかを文章にまとめる。(4h)				
15	まとめ	これまでの授業をもとに、どうすれば子どもの学びを豊かにしていくことができるかを考えます。				この授業を通して、あらたに気づかされたことや、強く印象に残ったことを書く。(4h)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
テキストは使いません。必要な資料は適宜配布します。				レポート：30% 課題：30% 定期試験：40% S:学びを創る基本を深く理解し、探究的姿勢で子どもの学びについて考察する。それを論理的に文章にまとめることができる。A:学びを創る基本を理解し、探究的姿勢で子どもの学びについて考察する。それを丁寧に文章にまとめることができる。B:学びを創る基本を概ね理解し、探究的姿勢で子どもの学びを考察する。それを誠実に文章にまとめることができる。C:学びを創る基本を概ね理解し、子どもの学びを考察する。それを文章にまとめることができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
とくに参考書は使いません。必要な資料は適宜配布します。				学びに関心のある皆さんは、ぜひ受講してみてください。現場で実際に授業を創るときに、大いに役立つはず。生き生き学ぶ授業ができれば、教師という仕事はやり甲斐のある楽しいものになります。						

科目名	義務教育の未来を考える		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AA36015	研究室	A-14
担当者	御代田 桜子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日4限、水曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
インターネットの普及やAIの登場といった技術の革新、そしてそれに伴う様々な教育サービスが展開される一方、子どもが学校に通う意味や従来型の学校の存在意義が問われはじめています。特に、オルタナティブ・スクールや非通学型学校の登場により、学びの枠が広がるのと引き換えに、学校や教師の専門性とは何か、その社会的意義とは何かが揺らいでいるとも言えるでしょう。この授業では、こうした学校や学校を取り巻く環境の変化を捉えつつ、義務教育を中心としたこれからの学校教育のあり方について考えていきます。										
学修到達目標										
学校や学校を取り巻く環境の変化について理解し、近年進められている義務教育改革との関わりを思索することができる。複雑に変化する現在の義務教育の課題を自らにつなげるものとして捉えられるとともに、深い思考・判断・表現の力を身につけ、他者と協働して課題に向き合う態度を身につけることができる。										
授業の進め方										
この授業は講義となっておりますが、学修到達目標の実現のため、演習形式を多用します。毎時、教員からは必要最小限の解説にとどめ、レポーターによる報告とこれに対する討議によって、各回のテーマを一人ひとり追究し、理解を深めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方などについて説明します。				シラバスの読み。第1回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
2	義務教育の基本原則	義務教育の成り立ちやその基本原則について読解します。				第1回授業で配布された資料の読み。第2回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
3	現代の義務教育改革	義務教育に関わる近年の改革動向について解説します。				第2回授業で配布された資料の読み。第3回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
4	現代の義務教育の課題	学校に求められる福祉的役割について読解します。				第3回授業で配布された資料の読み。第4回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
5	現代の義務教育の課題	日本における学校という枠組みの特質について読解し、家庭や地域との関係も踏まえながらその意義と課題について思索します。				第4回授業で配布された資料の読み。第5回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
6	現代の義務教育の課題	学校における教育と管理について読解します。				第5回授業で配布された資料の読み。第6回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
7	現代の義務教育の課題	人口減少下における教育の課題、地域格差について読解します。				第6回授業で配布された資料の読み。第7回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
8	現代の義務教育の課題	教育政策の立案・実施とエビデンスについて読解します。				第7回授業で配布された資料の読み。第8回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
9	現代の学校論 伝統的の学校論	近代学校の成立とそれ以降の学校の役割について読解します。				第8回授業で配布された資料の読み。第9回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
10	現代の学校論 学校論のパラダイム転換	1970年代以降の学校懐疑論、学校化社会論について読解します。				第8回と第9回授業で配布された資料の読み。第10回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
11	現代の学校論 学校と社会	学校の在り方と社会との関係性について読解します。				第10回授業で配布された資料の読み。第11回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
12	学校で教える内容 誰が教育内容を決めるのか	教育内容の決定主体について読解します。				第11回授業で配布された資料の読み。第12回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
13	学校で教える内容 学校で何を教えるのか	学校で教える内容の変遷について読解します。				第12回授業で配布された資料の読み。第13回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
14	学校で何を教えるのか 教えない教育	諸外国の教育内容を読解し、学校での学びについて思索します。				第13回授業で配布された資料の読み。第14回授業で配布された資料の整理。(4時間)				
15	まとめ	これからの時代の義務教育について、これまでの授業で学んだこと、自らの学校生活のあゆみの振り返りを手がかりに、一人ひとりが考え発表し全員で討議します。				前時までに配布の資料からまでの読み。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
資料を配布します。必ず保管し、授業時は持参してください。				出席レポート：35% レポート：35% 課題：30% 出席レポートとは毎回の授業後の感想・質問カード、レポートとは授業内容の理解度を高めるため課題レポート、課題とは期末課題、をそれぞれ指します。それらを総合して評価します。S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的かつ説得的に自分の考えを発表できる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「現代の学校を読み解く」末松裕基編(春風社) ISBN:978-4-86110-504-3 授業時に適宜紹介します。				専門的な内容のため、履修は「教育制度論」(2単位)の単位を修得済みの学生に限ります。専門書読解、レポート報告、討議等を、途中でリタイアすることなくやり遂げられる意欲のある学生を求めます。						

科目名	学校心理学	学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AA36016	研究室	A-17	
担当者	岸田 幸弘	必修選択	選択	科目種別	講義	ワイスアワ	火曜日4限、木曜日2限			
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
	A B C									
授業概要										
生徒指導や教育相談および特別支援教育において行われるようになってきた「チーム支援」の理論と方法を学ぶと共に、中心概念である心理教育的援助サービスの視点から、これからのヒューマンサービスとしての学校教育のあり方の理解を図ります。子ども達が幸せになることを教師はどのように支援すべきかについて理解を深め、講義によってヒューマンサービスの視点から学校教育を捉え直し、演習によって困難を抱えた子どもの支援方法の策定を具体的に扱います。										
学修到達目標										
ヒューマン・サービスを具現するための心理教育的援助サービスの理論を理解することで、これまでの日本の学校教育システムを「チーム学校」の視点でとらえなおし、子供たちが幸せになるための援助の仕方について、具体的に実践できる。										
授業の進め方										
前半の授業は講義を中心にすすめ、後半は困難を抱えた子供や保護者への対応のために、組織としてチームで支援する方法を、演習形式で学びます。具体的なシートを活用して、支援策の策定ができるように実践的に学びます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	新しい学校教育を目指して	個に応じる教育を問い直し、ヒューマン・サービスとしての学校教育について考えます。周辺領域(福祉、医療、看護、警察、矯正、保育等)との連携の実態を知り、これからの学校がなすべきことを考察します					資料の第1章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
2	アメリカの学校心理学	そもそも学校心理学(school psychology)とは何か、アメリカの実態から学びます。アメリカの学校心理学と学校システムを知ることで、日本の学校の支援体制のあり方を問い直します。					資料の第2章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
3	日本の学校心理学	確立されていない日本の学校心理学を、実態に即して当てはめ、教育相談や特別支援教育、生徒指導、チーム学校などの今日的な教育課題と関連させて理解します。					資料の第3章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
4	心理教育的援助サービスの基礎概念	学校心理学の基本的中心概念である「心理教育的援助サービス」について概観します。援助サービスの対象、援助の内容など、援助する人などについて理解します。					資料の第4章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
5	援助を担う4種類のヘルパー	専門的ヘルパー(スクールカウンセラー等)、複合的ヘルパー(教員)、役割的ヘルパー(保護者)、ボランティアヘルパーについてその職責と役割について学びます。					資料の第5章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
6	3段階の心理教育的援助サービス	理論的基盤としてのサービスの3段階を理解します。治療的なサービス、予防的なサービス、開発的なサービスを日本の生徒指導や教育相談と比較しながら考察します。					資料の第6章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
7	事例から心理教育的援助サービスを学ぶ	第1章から第6章までの理論や知見を活かして、実際の事例を考察する。グループ討議により心理教育的援助サービスのより良い展開を模索します。					第1章から第6章までの理論を復習する。事後はグループ討議で学んだことをレポートする(4時間)			
8	心理教育的アセスメントの考え方	事例からアセスメントの考え方とその方法を理解します。援助資源チェックシートや援助チームシートの活用方法を理解して、アセスメントの基本を身につけます。					資料の第8章を熟読してまとめておく。アセスメントの考え方と理論をレポートする(4時間)			
9	心理教育的アセスメントの実際	グループワークにより援助資源チェックシートや援助チームシートを実際に活用して事例を分析し、支援案を作成します。ロールプレイ方式でグループワークを行い、新たな体験や感情に気づきます。					事前配布の事例資料を熟読し、自分なりの支援方法を考察する。事後は支援案をつくる(4時間)			
10	コンサルテーションとは何か	コンサルテーションの基本概念を学び、異なる専門家同士のアドバイスで自分の資質を伸ばすことを理解する。学校では相互コンサルテーションが普通に行われることを理解します。					資料の第10章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く(4時間)			
11	事例研究 Aさんの不登校事例	Aさんの不登校の事例を心理教育的援助サービスの観点からアセスメントし、グループワークによって具体的な援助案を作成します。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする(4時間)			
12	事例研究 Bさんの不登校事例	Bさんの不登校の事例を心理教育的援助サービスの観点からアセスメントし、グループワークによって具体的な援助案を作成します。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする(4時間)			
13	事例研究 Cさんの発達障害の事例	発達障害をもつCさんを心理教育的援助サービスの観点からアセスメントし、グループワークによって具体的な援助案を作成します。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする(4時間)			
14	事例研究 崩壊学級の建て直し事例	学級崩壊状態のクラスをどう立て直したらよいか、児童、担任、学年、学校等の援助資源を活用してグループワークにより支援案を作成します。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする(4時間)			
15	支援と指導を考え直す	グループ討議によって、これまで学校が行ってきた生徒指導の概念を心理教育的援助サービスの観点からとらえなおし、個に応じた支援のあり方を再確認します。					これまでの資料を再読しておき、グループ討議から学んだことをレポートする(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
資料を配布します		レポート:70% 課題:30% グループ討議や事前のレポートと、グループワークへの参加とそのレポート(課題)を重視します。S:心理教育的援助サービスの理論を高度に理解し、グループワークによるアセスメントと支援案の作成ができる。A:チーム支援の考え方を理解し、グループによる支援案の作成ができる。B:3段階の支援や4種類のヘルパーの考え方が理解でき、支援案を作成できる。C:チームによる支援案の作成と具体的な支援の方法が分かる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「学校心理学」石隈利紀著(誠信書房) ISBN:4-414-30149-1 「チーム援助入門 学校心理学・実践編」石隈利紀・田村節子著(図書文化) ISBN:978-4-8100-3392-2		これまでの生徒指導の概念が変わります。困った子は困っている子であり、そうした子供たちを支援する新しい理論とスキルはこれからの学校教育に必要です。								

科目名	認知心理学		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AA36017	研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
認知心理学は私たち人間の心の働きのうち、学習や、記憶、思考、推論といった知的な側面について研究する学問です。その基本的な研究手法について演習形式で授業をします。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知心理学の基本的研究手法について理解している。</li> <li>・基本的研究手法の内のいくつかについて活用ができる。</li> <li>・教育に関わる事象について認知心理学的な観点から批判分析ができる。</li> </ul>										
授業の進め方										
テキストに沿って授業を進めますが、適宜、関連する実験を実習します。講師自身の研究についても紹介します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	はじめに	オリエンテーション				テキストの目次をざっと見ておく / 課題図書「はじめに」を読む。 (4時間)				
2	認知の誤り	私たちの認知メカニズムには「誤り」を起こしやすいことを学びます。				テキスト第1章を読んでくること / 課題図書『チビクロころ』を読む。 (4時間)				
3	感覚	私たちが外界についているいろいろな情報を得る際の基本となる感覚について学びます。盲点の大きさ測定をします。				テキスト第2章を読んでくること / 課題図書『チビクロころ』を読む。 (4時間)				
4	知覚	五感と呼ばれる機能は認知の入口です。その仕組みについて視覚を中心に学びます。「こめかみ鏡映書字」の実験をします。				テキスト第3章を読んでくること / 課題図書『チビクロころ』レポート準備。 (4時間)				
5	ディベート実習1	科学的心理学を学ぶことの是非についてディベートします。				課題図書『チビクロころ』レポート提出。 (4時間)				
6	記憶(作業記憶)	作業記憶に関する実験実習をします。				テキスト第4章を読んでくること。 (4時間)				
7	記憶(記憶術)	認知心理学の応用研究としての記憶術について実験実習をします。				テキスト第5章を読んでくること。 (4時間)				
8	知識	知識と自己認識の関係について、自伝的記憶に関する実験実習でまなびます。				テキスト第6章を読んでくること。 (4時間)				
9	推論	論理判断の誤りやすさについて実験実習で学びます。				テキスト第7章を読んでくること / 課題図書2のレポート提出準備。 (4時間)				
10	ディベート実習2	記憶に関するテーマでディベートをします。				課題図書2のレポート提出(4時間)				
11	判断と意思決定	確率判断について実験実習で学びます。				テキスト第8章を読んでくること。 (4時間)				
12	潜在意識	私たちの認知過程のほとんどが実は無意識のうちになされていることについて学びます。プライミング効果の実験をします。				テキスト第9章を読んでくること / 課題図書3レポート提出準備。 (4時間)				
13	歴史	認知心理学の歴史を学びます。また、潜在的な認知の測定手法について実習します。				テキスト第9章を読んでくること / 課題図書3レポート提出準備。 (4時間)				
14	ディベート実習3	認定心理学全体にかかわるテーマについてでいべーとします。				課題図書3の読後レポートを提出する。 (4時間)				
15	まとめと最終試験	全体のまとめと後半のテストを行い、理解不足分について補講します。				後半部分についての復習をしておくこと。 (4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「基礎から学ぶ認知心理学」服部 雅史, 小島 治幸, 北神 慎司著(有斐閣) ISBN:978-4641150270(生協で購入してください。)				定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「チビクロころ」森まりも著(北大路書房) 「詳細未定」 「脳はなぜ「心」を作ったのか」前野隆司著(ちくま文庫)				事前学習では課題についてA4版1枚に「要約」と「内容に関する質問1つ」を書いてきて下さい。						



科目名	臨床心理学（発達障害入門）		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	AA36018	研究室	A-15
担当者	羽田 行男		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
臨床心理学の知見に基づき、発達障害に関する基礎的な知識を確実に定着させ、この障害のある児童の特性に応じた教育の方法について理解し、その活用の仕方について扱います。発達障害の理解を深めるために、発達心理学の視座からこの障害の特質を正しく認識できるようにします。その上で、発達障害児に対する適切な教育方法のあり方について、理論と実践の観点から読み解きます。とくに、発達障害児の教育に有効であるとされる応用行動分析について取り上げます。										
学修到達目標										
発達障害児の行動について、発達心理学の視座から理解し、その行動特性を応用行動分析学から解き明かす能力を身につけている。療育プログラムやペアレントトレーニング、ティーチャーストレーニングの構成内容を具体的に知るとともに、それらの活用法について修得している。										
授業の進め方										
理論的な内容については講義形式で、実践的な内容に関してはグループワークやロールプレイをとおして体験的に学びます。配布プリントのレジュメや、体験型学習の振り返りレポートなどが、事前事後の課題になります。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	発達障害児の教育について、これまで学んだことを振り返ります。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
2	応用行動分析学を学ぶ（1）	応用行動分析（ABA）のアプローチの方法（強化子）について学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
3	応用行動分析学を学ぶ（2）	応用行動分析（ABA）のアプローチの方法（般化）について学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
4	応用行動分析学を学ぶ（3）	ABC機能分析を学びます。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
5	発達心理学に学ぶ（1）	知能の発達について学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
6	発達心理学に学ぶ（2）	言語の発達について学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
7	発達心理学に学ぶ（3）	愛着の発達について学びます。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
8	療育プログラムを学ぶ（1）	模倣のプログラムを学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
9	療育プログラムを学ぶ（2）	遊びのプログラムを学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
10	療育プログラムを学ぶ（3）	ソーシャルスキルのプログラムを学びます。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
11	ペアレントトレーニングを学ぶ（1）	親を対象にした家庭における療育に関して、その理論や内容を学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
12	ペアレントトレーニングを学ぶ（2）	親を対象にした家庭における療育に関して、ロールプレイを通して体験的に学びます。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
13	ティーチャーストレーニングを学ぶ（1）	教師を対象にした学校における療育に関して、その理論や内容を学びます。					レジュメを作成する。（4時間）			
14	ティーチャーストレーニングを学ぶ（2）	教師を対象にした学校における療育に関して、ロールプレイを通して体験的に学びます。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
15	まとめ	授業を振り返り、総括をします。					振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準					
適宜、資料を配布します。					レポート：40% 小テスト：40% 受講態度：20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「発達障害がある子のABAケーススタディ」井上雅彦他著（中央法規） 「応用行動分析で特別支援教育が変わる」山本淳一他著（図書文化） 「子育てに活かすABAハンドブック」三田地真実著（日本文化科学社）					理論的な学習に加えて、グループワークやロールプレイをとおして実践的に学びます。授業担当者は、臨床心理士として公立の教育機関や学校において教育相談に従事しました。公認心理師。					

科目名	カウンセリング入門		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	AA36019	研究室	A-15
担当者	羽田 行男		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>カウンセリングの基礎的な理論やその実践の方法について扱い、小学校における様々な教育活動にカウンセリングによる手法を活かせるようにします。カウンセリングを担う側の立場にある自己の心理的特性について客観的に理解できるよう解説します。その上で、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの違いを知り、相手の言葉に耳を傾けること、自分の言葉を相手に伝えることについて幅広く触れていきます。最後に、学校教育においても役立つアセスメントや芸術療法について体験的に扱います。</p>										
学修到達目標										
<p>他者の話を「きく」ことや、自己の気持ちを言葉にすることに、日頃から傾注する姿勢を身につけている。 また、心理アセスメントや芸術療法(アートセラピー)に関して学んだことを、小学校における教育活動に応用する姿勢を身につけている。</p>										
授業の進め方										
<p>理論的な内容については講義形式で、実践的な内容に関してはグループワークやロールプレイをとって体験的に学びます。 配布プリントのレジュメや、体験型学習の振り返りレポートなどが、事前事後の課題になります。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	カウンセリングとはなにかについて考えを深めます。				カウンセリングの理論についてレポートを作成する。(4時間)				
2	自分自身を知る	交流分析>エゴグラムから自分自身の性格特性を知る手掛かりを得ます。				エゴグラムについてレポートを作成する。(4時間)				
3	他者と交流する(1)	交流分析の理論を学びます。				交流分析についてレポートを作成する。(4時間)				
4	他者と交流する(2)	交流分析の理論にもとづいたロールプレイをします。				交流分析のRPについて振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
5	アサーションで伝える(1)	アサーションの理論について学びます。				アサーション理論についてレポートを作成する。(4時間)				
6	アサーションで伝える(2)	アサーションの理論にもとづいたロールプレイをします。				アサーションのRPについて振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
7	傾聴する(1)	話の「きき方」について考察します。				「きき方」についてレポートを作成する。(4時間)				
8	傾聴する(2)	「きく」ことに関するロールプレイをします。				「きく」RPについて振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
9	心理アセスメントを学ぶ(1)	文書完成法について学習します。				文章完成法についてレポートを作成する。(4時間)				
10	心理アセスメントを学ぶ(2)	P-Fスタディについて学習します。				P-Fスタディについてレポートを作成する。(4時間)				
11	心理アセスメントを学ぶ(3)	グッドイナフ人物画知能検査について学習します。				グッドイナフ人物画知能検査についてレポートを作成する。(4時間)				
12	芸術療法に学ぶ(1)	スキュグル法を体験的に学習します。				スキュグル法について振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
13	芸術療法に学ぶ(2)	風景構成法を体験的に学習します。				風景構成法について振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
14	芸術療法に学ぶ(3)	コラージュ療法を体験的に学習します。				コラージュについて振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
15	まとめ	カウンセリングについての総括します。				まとめのレポートを作成する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
適宜、資料を配布します。				<p>レポート:40% 小テスト:40% 受講態度:20%</p> <p>S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「スクールカウンセラー実践活動事例集」文部科学省編 「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」文部科学省編 「『ネット上のいじめ』に関する対応マニュアル・事例集」文部科学省編</p>				<p>理論的な学習に加えて、グループワークやロールプレイをとって実践的に学びます。授業担当者は、臨床心理士として公立の教育機関や学校において教育相談に従事しました。公認心理師。</p>						

科目名	介護等体験入門		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	AL26020	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋・大蔵 真由美		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b> 本授業は、介護等体験(社会福祉施設5日間及び特別支援学校2日間)の事前指導として開講しています。したがって、介護等体験の意義・目的を理解し、介護等体験を行うにあたって必要な基礎的な知識、技能、態度を身につけることを目的とします。介護等体験を行う社会福祉施設や特別支援学校の法的根拠や実態、最近の動向等に関する基礎的な知識をもって実習に臨めるように進めていきます。										
<b>学修到達目標</b> (1) 介護等体験の意義・目的を十分に理解し、介護等体験を行う学校、社会福祉施設に関する基本的な知識を身につけている。 (2) 介護等体験を行うにあたっての基本的な知識、技能、態度を身につけている。 (3) 介護等体験の日々の記録の取り方を理解し、自己の目標がどの程度達成されたか検証する態度を身につけている。										
<b>授業の進め方</b> 介護等体験の準備科目として、授業では介護等体験に向けた準備を具体的に展開します。教室での講義を主として、必要に応じて演習などを行う場合があります。なお、提出物は締め切り期限を厳守して必ず提出して下さい。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の進め方及び介護等体験の意義と目的について説明します。					シラバスの読み、これまでの自己の経験を振り返る(2時間)。			
2	特別支援学校とは	特別支援学校の概要と実態について説明します。					HPで長野県内の特別支援学校について調べる(3時間)。			
3	特別支援学校における介護等体験	特別支援学校での介護等体験の内容と心構えについて説明します。					第2回授業の復習、特別支援学校における介護等体験の目標を考える(4時間)。			
4	社会福祉施設とは	社会福祉施設の制度について説明します。					第3回授業の復習、社会福祉施設の制度について調べる(4時間)。			
5	社会福祉施設における介護等体験1	社会福祉施設での介護等体験の内容と心構えについて説明します。					第4回授業の復習、社会福祉施設のHPを調べる(4時間)。			
6	社会福祉施設における介護等体験2	社会福祉施設での介護等体験について(記録指導・体験先調査等)説明と演習を行います。					第5回授業の復習、「介護等体験記録」の内容を確認する(4時間)。			
7	多様な他者理解	介護等体験に向けて、多様なニーズを有する人々について説明します。					第6回授業の復習、第7回授業内容で気になった内容を確認する(4時間)。			
8	まとめ	総合的調整とこれまでの授業の総括をします。					ここまでの授業の復習、介護等体験に臨むための準備(4時間)。			
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
適宜必要な資料を配布します。					受講態度：50% 課題：50% 受講態度(意欲、内容の理解度)と課題(各種提出物)を総合して評価します。 S:授業内外の課題に積極的かつ自発的に取り組み、必要な知識、態度等を十分に習得し、明確な自己課題を持たた。A:授業内の課題に積極的に取り組み、必要な知識、態度等を習得し、自己課題を持たた。B:授業内の課題を通して、必要な知識、態度等を習得し、自己課題を考えた。C:授業内の課題を通して、必要な知識、態度等を理解し、自己課題を考えた。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック」現代教師養成研究会編(大修館書店) 「フィリア」全国特別支援学校長会編(ジアース教育新社) 他					介護等体験ではいかに事前準備をして臨むかが学びの深さ、広さを決定します。授業内の準備には制約がありますので、自発的に準備を行い、自己課題を明確にもって体験に臨み、自己課題の解決に繋げて下さい。					

科目名	地域活動実習			学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	AA26021	研究室	A-06
担当者	秋田 真・澤柿 教淳			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
地域活動実習は、学校以外の地域教育関係組織や団体において、活動や支援及び補助を行う体験型の授業です。この授業では、実際の現場へ向かい、OJT(On-the-Job Training)で学んでいくこととなります。地域の教育がひとつづくり・まちづくりにどのように関わっているのかを学ぶと共に、ボランティア活動を通して人との繋がりの大切さを身につけます。											
学修到達目標											
小・中・高等学校以外の地域教育関係組織や団体において関わる人々との信頼関係を築くことができ、また、ボランティア活動の際に求められる役割について考え行動することができる。											
授業の進め方											
ガイダンスや報告等以外については地域教育関係組織や団体での活動が中心となります。活動内容の違いにより、求められる役割に多少の違いがありますが、活動先職員の指示の下、積極的に関わっていく姿が求められる活動となります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス(1)	地域活動実習の意義とねらいについて学びます。					今後の体験活動に対し、必要なものは何かをリストアップする。(1時間)				
2	授業ガイダンス(2)	具体的な活動内容を決めます。					今後の体験活動に対し、連絡・調整を行う。(1時間)				
3	体験活動(1)	組織や団体の目的や活動内容を理解します。					内容をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
4	体験活動(2)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
5	体験活動(3)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
6	体験活動(4)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
7	体験活動(5)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
8	中間報告	振り返りと今後の見通しについて考え、活動状況の中間報告を行います。					事例検討を振り返り、整理しておく。(1時間)				
9	体験活動(6)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
10	体験活動(7)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
11	体験活動(8)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
12	体験活動(9)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
13	体験活動(10)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
14	体験活動(11)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					次時の報告資料を完成させてくる。(1時間)				
15	活動報告	これまでの活動を振り返り、活動報告をまとめます。					自己の活動を振り返りまとめる。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
特になし。					レポート:40% 受け入れ側の評価:60% S:積極的に取り組み、活動先の職員や関係者からの信頼を獲得し、活動に求められる役割について考え行動することができた。A:積極的に取り組み、活動先の職員や関係者から信頼され、活動に求められる役割について考えることができた。B:積極的に活動を行い、それらの活動に求められる役割について知ることができた。C:活動を行い、それらの活動に求められる役割について知ることができた。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介する。					活動先で出会う様々な人との繋がりを大切にできる心を、この活動で一層育んでいけるように期待します。						

科目名	学校インターンシップ		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	AA26022	研究室	A-07	
担当者	國府田 祐子・征矢野 達彦・澤柿 教淳		必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスア-	木曜日3限			
関連資格	小一種				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>学校インターンシップは、近隣の指定協力校等で教育活動や校務、クラブ活動や放課後指導等の支援や補助を行う体験型の授業です。教員に求められる資質を理解し教員としての自らの適格性を把握する機会とし、大学で学ぶ理論と小学校現場での実践(体験)とに基づく省察を繰り返すことで、教員としての実践的指導力を育成します。初等教育実習事前・事後指導の授業に入るための準備として、集団指導のための学級経営のあり方や一人一人の児童に適した関わり方等を実践的に学んでもらいます。</p>											
学修到達目標											
<p>小学校での体験や活動を通して教育実習に向かう自分自身の課題をはっきりさせ、豊かな人間観、教育観、教師観に基づく学級経営のあり方や、児童一人ひとりに適した関わり方について学ぶとともに、各種の活動を通して、教員に求められる資質の理解と実践的指導力のあり方を学ぼうとしている。</p>											
授業の進め方											
<p>最初に本授業の意義とねらいを十分に理解した上で、自己の興味・関心をもとに学校インターン活動に参加して、理論と実践に基づく省察を繰り返しながら、自分自身の課題をはっきりさせていきます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	事前指導1	学校インターンシップとは-意義とねらい-					シラバスの読みと小学校学習指導要領の熟読(1時間)				
2	事前指導2	学校インターンシップとは - 児童の視点と教師の視点 -					第1回授業の復習と自己の活動計画の検討(1時間)				
3	事前指導3	事例検討1 - 児童理解とは -					第2回授業の復習と自己の活動計画の検討(1時間)				
4	事前指導4	事例検討2 - 教員に求められる資質 -					第3回授業の復習と、協力校の特色の理解(1時間)				
5	活動参加1	活動参加(主として、教員の職務、校務の理解)					自己の活動態度等についての省察 - 職務・校務の理解 - (1時間)				
6	活動参加2	活動参加(主として、個別指導の補助)					自己の活動態度等についての省察 - 個別指導のあり方 - (1時間)				
7	活動参加3	活動参加(主として、手段の中での指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - ITの指導について - (1時間)				
8	活動参加4	活動参加(主として、授業の中での補助)					自己の活動態度等についての省察 - 学習支援 - (1時間)				
9	活動参加5	活動参加(主として、中間教室・放課後支援での指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - 放課後学習支援 - (1時間)				
10	活動参加6	活動参加(主として、学級活動の指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - 学級活動 - (1時間)				
11	活動参加7	活動参加(主として、学年・学校行事の指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - 学年・学校行事 - (1時間)				
12	活動参加8	活動参加(主として、児童会活動の指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - 児童会活動 - (1時間)				
13	活動参加9	活動参加(主として、クラブ活動の指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - クラブ活動 - (1時間)				
14	活動参加10	活動参加(主として、地域行事の指導補助)					自己の活動態度等についての省察 - 地域社会との連携、記録の整理、報告レポート作成(1時間)				
15	活動のまとめ	活動報告会					他校の学びを踏まえた報告レポート作成(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
特になし。				<p>受講態度:40% 課題:20% レポート:40%          課題は提出物等、受講態度は事前指導及び報告会の参加度、受入先での態度を指す。S:求められる資質と実践的指導力のあり方を十分に理解した上で活動を実践でき、批判的思考力をもって自己課題を明確に表現できる。A:求められる資質と実践的指導力のあり方を理解した上で活動を実践でき、自己課題を明確に表現できる。B:求められる資質と実践的指導力のあり方を理解し自己課題を明確に表現できる。C:求められる資質と実践的指導力のあり方をおおよそ理解し自己課題を表現できる。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
<p>「小学校学習指導要領(平成29年告示)」文部科学省著(東洋館出版社) ISBN:9784491034607          「生徒指導提要」文部科学省著(教育図書) ISBN:9784877302740</p>				<p>本授業は、松本市内を含む長野県他広域の小学校へのボランティア活動を主要内容とするため、本学でのボランティア活動を行う際の諸注意を遵守してください。</p>							

科目名	教育実践特講		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	AA26023	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・國府田 祐子		必修選択	選択	科目種別	講義	ホワイト	火曜日5限、水曜日4限、木曜日1限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
教師の職責の重要性を認識し、教師に求められる資質・能力の基礎を養い、幅広い教養と実践的指導力を身につけるために、授業のDVDや写真を通して分析し、レポートにまとめ、それに基づいてディスカッションを行い、授業に対する基本的な理解を深め、自己課題を明確にします。										
学修到達目標										
学生自らが主体的に授業の基本や心得、よい授業、分かる授業とはどのような授業かを考え、教師の資質を理解し自ら積極的に養っていきます。										
授業の進め方										
ディスカッションにより、よい授業のありかたを考察するとともに、自己表現能力、コミュニケーション能力を向上させていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	具体事例 とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
2	具体事例 とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
3	具体事例 とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
4	具体事例 とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
5	具体事例 とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
6	小学校でよくおこる事例の場面指導	場面指導を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
7	小学校でよくおこる事例の場面指導	場面指導を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
8	小学校でよくおこる事例の場面指導	場面指導を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
9	小学校でよくおこる事例の場面指導	場面指導を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
10	小学校でよくおこる事例の場面指導	場面指導を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
11	教育実践と集団討論	授業DVDを試聴し、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
12	授業場面と集団討論	授業写真を見て、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します。					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
13	模擬授業と集団討論	模擬授業を見て、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します。					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
14	模擬授業と集団討論	模擬授業を見て、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します。					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
15	まとめ	まとめを行い、発表し合い、自己評価、相互評価をしていきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領総則編(新)」文部科学省著(東洋館出版)(生協で購入してください。)学習指導要領改訂時には連絡します。新解説に買い変えてもらいます。その他必要に応じて、プリント等を用意します。					小テスト:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し、高い探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい問題に取り組みることが出来る。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題に取り組み、多数の高度な問題に取り組みることが出来る。B:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題に取り組み、多数の問題に取り組みることが出来る。C:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題に取り組み、問題に支援を受けながら取り組みることが出来る。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介します。					記録をしっかりとることが重要です。					

科目名	地域学校教育活動		学年学期	3年通年	単位数	1	ナパリング	AA36024	研究室	A-06
担当者	秋田 真・大蔵 真由美・安藤 江里		必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：火曜日5限 後期：火曜日5限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
地域の小・中学校や特別支援校における活動です。年間を通し教員に求められる資質や役割について、現場の教員指導の下、OJT（On-the-Job Training）にて研修を積み重ねる活動です。この活動では、児童集団及び個人と関わりを持ち、教員として成長していきます。未来の教員として、現場での即戦力として活躍できることを目指します。										
学修到達目標										
教員の職務や役割，児童・教員への関わり方を理解し，教員としての基礎を身に付けている。										
授業の進め方										
ガイダンスや報告等以外は学校現場での活動となります。現場で指導頂く先生方の意を汲み，研修に取り組んで行くこととなります。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス(1)	地域学校教育活動の意義とねらいについて学びます。					教育実習との関わりを考えながら見直しを持つ。(1時間)			
2	授業ガイダンス(2)	具体的な活動内容と注意点について学びます。					今後の体験活動に対し、連絡・調整を行う。(1時間)			
3	実地研修(1)	教員の職務や校務についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)			
4	実地研修(2)	児童への個別的指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)			
5	実地研修(3)	児童への集団的指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)			
6	実地研修(4)	授業における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)			
7	実地研修(5)	中間教室，保健室登校等児童の学習支援，放課後補充学習支援についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)			
8	中間報告	振り返りと今後の見直しについて考え，活動状況の中間報告を行います。					事例検討を振り返り，整理しておく。(1時間)			
9	実地研修(6)	学級活動における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき，以後の報告に備える。(1時間)			
10	実地研修(7)	学年行事における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき，以後の報告に備える。(1時間)			
11	実地研修(8)	学校行事における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき，以後の報告に備える。(1時間)			
12	実地研修(9)	児童会活動における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき，以後の報告に備える。(1時間)			
13	実地研修(10)	クラブ活動，放課後児童教室における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき，以後の報告に備える。(1時間)			
14	実地研修(11)	地域行事における指導についての研修を行います。					次時の報告資料を完成させてくる。(1時間)			
15	活動報告	これまでの活動を振り返り，活動報告をまとめます。					自己の活動を振り返り，まとめる。(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
特になし。					レポート：40% 受け入れ側の評価：60% S:積極的に取り組み，研修先の指導者や児童からの信頼を獲得し，教員としての基礎を身に付けることができた。A:積極的に取り組み，研修先の指導者や児童と関わりながら，教員としての基礎を身に付けることができた。B:積極的に研修を行い，教員としての基礎について知ることができた。C:研修を行い，教員としての基礎について知ることができた。					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
特になし。授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介します。					現場で指導して下さる先生は「未来の先生」を育てようと指導します。また、実習生であっても、児童にとっては「先生」です。気を引き締めて臨みましょう。					

科目名	初等教育実習事前・事後指導		学年学期	2・3年通年	単位数	1	ナパ'リング	AA26025	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・羽田 行男		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
初等教育実習を円滑に、より効果的に行うために、初等教育実習の事前と事後に行う授業です。事前指導では、大学で学んだ理論と教育実習の距離をできるだけ縮め、抵抗なく臨めるように指導し、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主な狙いとしています。また事後指導では、教育実習を通して学んだことを発表し、教育実習前の自己の教育観、学校観、子ども観などと対比し、今後の学校教育や教師のあり方、および諸課題を認識することを主なねらいとしています。										
学修到達目標										
教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけている。また、これからの教員に求められる資質や能力についての理解を深めるとともに、学校教育の諸課題について理解し、その課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。										
授業の進め方										
教育実習事前・事後指導は、教育実習への正しい認識を深め、意欲を喚起するために教育実習の実際の姿を知る機会を提供します。また、学校教育や教員のあり方及び諸課題を認識するために、教育実習体験を聞く機会を設けます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	教育実習ガイダンス	教育実習の概要、諸手続きと事前指導				教育実習の概要の理解(1時間)				
2	教育実習ガイダンス	教育実習の意義と目的、心得と事前指導				教育実習についての理解-意義と目的-(1時間)				
3	教師像について	あるべき教師像について				期待される教師像の理解(1時間)				
4	教育実習報告会への参加	教育実習の成果と課題の発表				報告会事後レポート(2時間)				
5	教育実習報告会への参加	教育実習の成果と課題の発表				報告会事後レポート(2時間)				
6	教育実習報告会への参加	教育実習の成果と課題の発表				報告会事後レポート(2時間)				
7	学校現場の状況	本学を卒業した先輩教師による講話				報告レポート-先輩教師-(2時間)				
8	教育実習直前ガイダンス	教育実習に向けての自己課題の確認				報告レポート-自己課題-(2時間)				
9	教育実習報告会での報告	これまでの報告会の内容についての発表				本時の報告内容と自己課題のレポート(2時間)				
10	教育実習報告会での報告	教育実習報告会の内容についての発表				本時の報告内容と自己課題のレポート(2時間)				
11	教育実習報告会の総括	報告会の内容についての意見交換会				報告会全般と自己課題のレポート(2時間)				
12	まとめ	自己評価と自己課題の明確化				教育実習へ向けて自己課題のレポート(2時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
使用しない。		受講態度:40% 出席レポート:20% レポート:40% 授業担当者全員で協議し、評価します。受講態度(S:意欲的に目標達成。A:積極的B:普通C:消極的)さらに出席状況を加味します。出席レポートS:授業内容を的確に理解、A:内容理解が十分、B:概ねできている、C:内容理解が不足)。レポート(教育実習に対する理解度と自己課題の分析状況)、S:実習理解や自己課題の分析が的確、A:充分できている、B:普通、C:自己課題の分析が不十分)、教育実習報告レポート、教育実習報告会の内容も総合的に評価します。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
必要に応じて提示します。		教育実習を履修する者は、必ず履修して下さい。								



科目名	初等教育実習		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバリング	AA36026	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・秋田 真		必修選択	選択	科目種別	実習	オイスカー			
関連資格	小一種				履修条件	初等国語科指導法, 初等社会科指導法, 初等算数科指導法, 初等理科指導法, 初等生活科				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
初等教育実習の意義や心構えを理解し、児童理解の方法や授業計画および教材研究、学級経営などを、指導教官について具体的に学びます。現在の小学校や学校教育をめぐる厳しい現状や課題等も把握して、児童に生きる力の育成を目指す教師としての役割や使命感を持って、初等教育に臨める学生を育てます。また、学校の先生方の小学校生活の1日を理解し、普段からの児童との関わり方はもちろん、給食指導・清掃指導等を通して、同僚性を発揮しながら組織として対応している教師の姿からも学ぶ場とします。										
学修到達目標										
授業についての理解を深めると共に授業技術の基礎を身につけている。学級経営・学年経営の方針と実際関連を理解し、教育実践の全体構造についても理解している。										
授業の進め方										
実習期間は原則3週間とし、授業観察、授業参加、授業実習を中心に実習を行います。また、実習担当教諭の指導に基づき実習生それぞれの状況に応じた実習カリキュラムを作成し、最終的に研究授業に臨みます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	教育実習	授業観察、授業参加、授業実習、授業記録、授業分析、授業計画の作成、教材開発、研究授業を通じて教育者としての自覚を養います。					教育実習の手引きを再読し、実習校との打合せ、担当単元、担当学級などの事前確認と準備を行う。			
テキスト					成績評価の方法・基準					
使用しません。					レポート: 30% 教育実習校の評価70%。授業担当者全員で協議し、評価します。受講・教育実習態度(S:探究心を持ち意欲的A:積極的B:普通C:消極的)さらに出席状況を加味します。レポート(教育実習時の指導案、実習記録簿への記入、自己課題の分析状況)、S:正確に記入され、自己分析も完璧、A:充分できている、B:普通、C:記入や分析が不十分)、教育実習報告レポート、教育実習自己評価の内容も総合的に評価します。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じて指示します。					教育実習生としての自覚を持って、児童に接し、先生方の指導を素直に生かしながら、自分自身の教員としての力量を高めましょう。					

科目名	中等教育実習事前・事後指導	学年学期	3・4年通年	単位数	1	ナバリング	AC36027	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘・藤原 隆史	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	前期：火曜日4限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C						
授業概要									
教育実習をより円滑・効果的に行うための授業です。学部における教育と教育実習との間の距離をできるだけ少なくし、教育実習に抵抗感なく臨めるよう教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主たるねらいとします。また、教育実習を通して学んだことを発表し、教育実習前の自己の教育観、学校観、子ども観等と対比し、今後の学校教育や教員のあり方及び諸課題を認識することを主たるねらいとします。									
学修到達目標									
教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につける。これからの教員に求められる資質や能力について理解を深めるとともに、学校教育の諸課題について理解しその課題解決に取り組む姿勢を身につける。									
授業の進め方									
教育実習事前・事後指導は、教育実習への正しい認識を深め、意欲を喚起するために教育実習の実際の姿を知る機会を提供します。また、学校教育や教員のあり方及び諸課題を認識するために、教育実習体験を発表する機会を設けます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	事前指導1:教育実習ガイダンス(3年前期)	・教育実習のスケジュールと諸手続き ・教育実習履修登録と実習校の決定					書類提出、実習予定校への内諾訪問(2時間)		
2	事前指導2:事前指導ガイダンス(3年後期)	・教育実習・事前事後指導の位置づけ ・授業内容と進め方 ・教育実習報告会の持ち方について					本時の講演内容の整理・記録(1時間)		
3	事前指導3:外部講師による講話(3年後期)	教員採用試験に向けて					本時の講演内容の整理・記録(1時間)		
4	事前指導4:教員像について、教育実習報告会に向けて(3年後期)	・あるべき教員像について(自身の考える教員像について、今求められている教員像について) ・教員採用試験に向けての準備					事前学習:「あるべき教員像」 本時の学習内容の整理・記録(1時間)		
5	事前指導5:教育実習グループ別報告会(3年後期)	Aグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について発表し、教職についての理解を深める。					発表・報告会の準備。本時の学習内容の整理・記録。授業レポート提出(1時間)		
6	事前指導6:教育実習グループ別報告会2(3年後期)	Bグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について発表し、教職についての理解を深める。					発表・報告会の準備。本時の学習内容の整理・記録。授業レポート提出(1時間)		
7	事前指導7:教育実習グループ別報告会3(3年後期)	Cグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について発表し、教職についての理解を深める。					発表・報告会の準備。本時の学習内容の整理・記録。授業レポート提出(1時間)		
8	事前指導8:教育実習報告会の総括(3年後期)	教育実習グループ別報告会のまとめ これまでの報告会の内容について意見交換とまとめ					これまでの学習内容をまとめておく。授業レポート提出(1時間)		
9	事前指導9:教育実習に向けて(3年後期)	・教育実習に向けて 教職に就く意思 教育実習の心得と事前準備 ・教育実習に先立つ介護等体験について					学校現場の課題について考えておく。授業後レポートの提出(2時間)		
10	事前指導10:教育実習直前ガイダンス(4年次前期)	教育実習の意義と目的、教育実習のスケジュールと諸手続きについて					教育実習校と事前打ち合わせ(内容・実施時期等)。本時の学習内容の整理・記録(1時間)		
11	事後指導1:教育実習報告会に向けて(4年次後期)	教育実習報告会の持ち方について					教育実習報告会資料の準備(1時間)		
12	事後指導2:教育実習報告会(4年次後期)	学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言					教育実習報告会資料の準備(1時間)		
テキスト		成績評価の方法・基準							
テキストは使用しません。 講義内容に応じて、必要な資料を配布します。		受講態度:40% 出席レポート:20% レポート:40% 授業担当者全員で協議し評価します。受講態度(A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味します)、出席レポート(授業レポートによりA:授業内容の把握が十分できている、B:概ねできている、C:不十分)、レポート(教育実習に対する理解度と自己課題の分析状況 A:充分できている、B:普通、C:やや不十分(教育実習報告レポート、教育実習報告会の内容を含む))を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、3評価の検討をします。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
講義の中で随時、参考となる書籍について紹介します。		教育実習の履修学生は必修です。「中等教育実習事前・事後指導」の単位は、3年次の「中等教育実習事前・事後指導(3年)」と4年次の「教育実習事前・事後指導(4年)」の両方を履修しないと修得できません。							

科目名	中等教育実習		学年学期	4年通年	単位数	4	ナバリング	AC46028	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘		必修選択	選択	科目種別	実習	ワイスアワー	前期：火曜日4限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件	初等教育実習事前・事後指導、初等教育実習、英語科指導法、英語科指導法、英語科				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
<p>本科目は中学校教諭免許状を取得するために必要な教育実習です。教育実習期間は原則として3週間です。教育実習では、学習指導、生徒指導、教育相談、進路指導、学級経営、特別活動、部活動等に関する現在の学校教育の実際の姿について理解を深め、基本的な教育技術の基礎を修得していきます。</p>										
<b>学修到達目標</b>										
<p>・授業記録、授業分析、授業計画の作成、教材開発等にも十分な時間を取り、授業についての理解を深めるとともに、授業技術の基礎を身につけている。  ・実習生それぞれの状況に応じた実習カリキュラムを作成することができる。  ・学級経営への参加、課外活動への参加等、教育実践現場で行われている授業以外の教育活動にも参加することにより、教育実践の全体構造について理解している。</p>										
<b>授業の進め方</b>										
<p>教育実習生は原則として3週間の教育実習を行います。実習を行うためには3年次から始まる『中等教育実習事前・事後指導』を受講し、予め3年次に実習校への内諾を得ておく必要があります。</p>										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	教育実習(3週間)	生徒の心理・行動の理解、教師の仕事の理解、教育課程、学習指導等の実践的理解と教育技術の基礎の修得、自己研鑽課題の発見					実習校との打合せ、指導案の作成			
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
実習校の指示に従ってください。					<p>受講態度：10% 実技：90%</p> <p>教育実習校の教育実習評価報告票、教育実習事前・事後指導の成績及び実習校への訪問指導教員の評価を総合的に行なう。S：事前事後指導をよく理解し、実習でその内容を十分に発揮し、指導等を十分に行なうことができる。A：事前事後指導をよく理解し、実習でその内容を発揮し、指導等を十分に行なうことができる。B：事前事後指導を理解し、実習でその内容を発揮し、指導等を十分に行なうことができる。C：事前事後指導を理解し、実習でその内容を発揮し、指導等を行なうことができる。</p>					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
実習校で使用するテキスト、副読本					<p>教育実習を行うためには、履修条件が設けられています。履修条件については、「教職課程履修要項(教職課程履修の手引き)」等に記載しています。</p>					

科目名	中等教育実習		学年学期	4年通年	単位数	2	ナバリング	AC46029	研究室	N-03	
担当者	藤原 隆史		必修選択	選択	科目種別	実習	ワイスワ-	前期：火曜日5限、金曜日2限			
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件	初等教育実習事前・事後指導、初等教育実習、英語科指導法、英語科指導法、英語科					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
本科目は高等学校教諭免許状のみを取得するために必要な教育実習です。教育実習期間は原則として2週間です。教育実習では、学習指導、生徒指導、教育相談、進路指導、学級経営、特別活動、部活動等に関する現在の学校教育の実際の姿について理解を深め、基本的な教育技術の基礎を修得していきます。											
<b>学修到達目標</b>											
・授業記録、授業分析、授業計画の作成、教材開発等にも十分な時間を取り、授業についての理解を深めるとともに、授業技術の基礎を身につけている。・実習生それぞれの状況に応じた実習カリキュラムを作成することができる。・学級経営への参加、課外活動への参加等、教育実践現場で行われている授業以外の教育活動にも参加することにより、教育実践の全体構造について理解している。											
<b>授業の進め方</b>											
教育実習生は原則として2週間の教育実習を行います。実習を行うためには3年次から始まる『中等教育実習事前・事後指導』を受講し、予め3年次に実習校への内諾を得ておく必要があります。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教育実習(2週間)	生徒の心理・行動の理解、教師の仕事の理解、教育課程、学習指導等の実践的理解と教育技術の基礎の実践及びその修得、自己研鑽課題の発見					実習校との打合せ、指導案の作成				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>						
「特になし」 実習校の指示に従ってください。					実技：90% レポート：10% 教育実習校からの「教育実習評価報告票」の評価、教育実習事前・事後指導の成績、実習校への訪問指導教員の評価を総合的にみて評価する。S:高度な専門知識を有し、極めて高度なレベルの応用実践を含む実習を遂行することができる。A:十分な専門知識を有し、高度なレベルの応用実践を含む実習を遂行することができる。B:一定の専門知識を有し、それを応用した実習を遂行することができる。C:実習に必要な最低限の専門知識を有し、それに基づいて実習を遂行することができる。						
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
実習校で使用するテキスト、副読本					教育実習を行うためには、履修条件が設けられています。履修条件については、「教職課程履修要項(教職課程履修の手引き)」等に記載しています。						

科目名	教職実践演習（初中等）		学年学期	4年後期	単位数	2	ナバリング	AL46030	研究室	A-18
担当者	川島 一夫・増田 吉史・國府田 祐子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日5限		
関連資格	小一種、中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
<p>一クラスおおむね20名程度のクラスでの複数教員による授業です。この授業は、講義形式でなく、毎回のグループワークを中心として、学校現場でのさまざまな課題に対する実践的な対応力を高めるために、小グループでの複数教員による指導を行うとともに履修カルテを利用した振り返り等を行います。</p>										
学修到達目標										
<p>本授業は、大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身についているかどうかを各自に点検させ、受講生に現時点での自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけている。</p>										
授業の進め方										
<p>一クラス20名程度のクラスでの複数教員による授業です。授業も毎回のグループワークを中心として、学校現場でのさまざまな課題について、小グループでの討論、ロールプレイ、バスセッション等を行います。また、履修カルテを利用した振り返りも行います。</p>										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業のガイダンス	ガイダンス - 「教職実践演習」授業の趣旨と目的 -				教職実践演習の趣旨と目的についてのレポート(4時間)				
2	期待される教師像	学校で期待される教師像（履修カルテを利用した自己の振り返りを行う）				履修カルテを利用した自己の振り返り(4時間)				
3	コミュニケーション能力	教師に求められるコミュニケーション能力				教師に求められるコミュニケーション能力について授業の振り返り(4時間)				
4	子どもの心理、児童・生徒理解	子どもの心理、児童・生徒理解 ロールプレイングによる理解				授業時の振り返りレポート(4時間)				
5	発達障害の理解	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方（バスセッション）				授業時の振り返りレポート(4時間)				
6	校則・校内規律の指導	児童・生徒指導上の諸問題 「校則・校内規律」について履修カルテの振り返りを利用したグループ討議				授業時の振り返りレポート(4時間)				
7	「問題行動」について	児童・生徒指導上の諸問題 「問題行動」について履修カルテの振り返りを利用したグループ討議				授業時の振り返りレポート(4時間)				
8	いじめ・不登校の理解	学級経営上の諸問題 - いじめ・不登校を中心に -				授業時の振り返りレポート(4時間)				
9	メディアリテラシーの理解	学級経営上の諸問題 - 進路指導・メディアリテラシー - グループ討議				授業時の振り返りレポート(4時間)				
10	情報管理・事故・災害への対応	学級経営上の諸問題 - 情報管理・事故・災害への対応を中心として -				授業時の振り返りレポート(4時間)				
11	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 - 教師に求められる人権感覚（フィールドワークによる実習） -				授業時の振り返りレポート(4時間)				
12	指導案作成の基礎	教材研究と指導案の作成 - 指導案作成の基礎（各教科教員による少人数クラス） -				授業時の振り返りレポート(4時間)				
13	指導案作成の基礎	教材研究と指導案の作成 - 独自の指導案作成（各教科教員による少人数クラス） -				授業時の振り返りレポート(4時間)				
14	ICT機器の活用法	学校におけるICT機器の活用法 - 各教科教員による少人数クラス -				授業時の振り返りレポート(4時間)				
15	履修カルテを利用した振り返り	履修カルテを利用した振り返りの作成（各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定）				授業時の振り返りレポート(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
特になし。				<p>受講態度：25% 出席レポート：25% 課題：50%  S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。</p>						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
各授業時に適宜配付、案内する。また、各授業時に次回の課題が課されるので注意すること。				教職免許取得のための教職科目の最終チェックとなる授業であり、必ず出席するように努めること。						

科目名	特別支援教育総論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ'リング	AB26031	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・内藤 千尋			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
近年インクルージョン(共生)の理念が世界的に普及し、特別支援教育は重要な教育課題になっています。その中で、教師を志す者すべてが特別な教育的ニーズをもつ子どもについて正しく理解し、適切な対応ができることが求められています。この授業は、特別支援教育の歴史と動向、その現状と課題について基礎的知識を修得し理解を深めることを目的に、特別支援教育とは何か、子どもの発達と障害、特別支援教育の現状と課題、の主要テーマについて解説します。											
学修到達目標											
特別支援教育の歴史と主な動向について学び、理解している。子どもの発達と障害に関する基礎的内容について学び、理解している。障害の特性と教育ニーズに応じた特別支援教育の現状と課題について学び、理解している。											
授業の進め方											
講義形式を基本に進めます。授業の学習内容に応じてグループワークや討論も取り入れます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	特別支援教育とはなにか	特別支援教育の理念と意義について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	特別支援教育とはなにか	特別支援教育の歴史と動向について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	特別支援教育とはなにか	わが国の特別支援教育における近年の動向について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	特別支援教育とはなにか	諸外国における特別支援教育の動向について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	特別支援教育とはなにか	学校教育における特別支援教育の役割と課題について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
7	中間まとめ	講義内容のまとめと補足、質疑応答を行います。					これまでの授業ノートを振り返り質問内容をまとめる。次回講義の下調べをする(4時間)				
8	子どもの発達と障害	脳と中枢神経系、発達との関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	子どもの発達と障害	感覚と運動の発達、障害との関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	子どもの発達と障害	認知と言語・コミュニケーション発達、障害との関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	特別支援教育の現状と課題	知的障害と肢体不自由のある子どもたちの特別支援教育について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	特別支援教育の現状と課題	言語・聴覚障害のある子どもたちの特別支援教育について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	特別支援教育の現状と課題	発達障害<ASD>のある子どもたちの特別支援教育について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	特別支援教育の現状と課題	発達障害<LD, ADHD>のある子どもたちの特別支援教育について解説します。					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行います。					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし						小テスト:30% 定期試験:70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「発達障害白書(最新年度版)CD-ROM付」日本発達障害連盟著日本発達障害連盟編(明石書店) ISBN:9784750343983 授業の中で適宜紹介する						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	知的障害児の心理・生理・病理		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	AB36032	研究室	A-12	
担当者	小島 哲也・関 ひろみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格	特支一種				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
知的障害は脳の器質的あるいは機能的異常によって生じるものであり、その成因は、遺伝要因、環境要因及び両者の相互作用に帰せられます。この授業では、第一に知的障害の定義、知的障害児の心理特性について、心理学と関連領域の研究知見を解説します。第二に、知的障害の原因論に関する発達生理および障害発生病理について解説します。											
学修到達目標											
知的障害の定義、認知や行動の特性に関する心理学の知見を学び、理解している。知的障害の背景となる脳の機能、およびその発達と障害について学び、理解している。知的障害の原因となる遺伝的要因、および代表的な疾患について学び、理解している。知的障害の関連領域における最近の知見について学び、理解している。											
授業の進め方											
講義形式を基本とし、授業の学習内容に応じてグループワークも取り入れて行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	知的障害をどう理解するか	特別支援教育と近接関連領域(心理学など)について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	知的障害をどう理解するか	ICFによる障害理解の枠組みについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	知的障害をどう理解するか	知的障害児の認知と行動の特性について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	知的障害の原因論	脳の発達と障害の関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	知的障害の原因論	知的障害の原因と分類について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
7	知的障害の原因論	知的障害における遺伝と環境の関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	中間まとめ	知的障害の理解と原因論についてまとめ、小テストを行います。					これまでの授業ノートを振り返る。小テストの結果をもとに次回講義の下調べをする(4時間)				
9	知的障害の起因疾患	知的障害と遺伝病の関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	知的障害の起因疾患	知的障害と代謝障害の関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	知的障害の起因疾患	知的障害と染色体異常の関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	知的障害の起因疾患	知的障害と胎児病、その他の疾患との関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	知的障害と関連領域	知的障害と発達障害の関連について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	知的障害と関連領域	知的障害児者の地域生活支援について解説します。					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容をまとめ質疑応答を行います。					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準								
毎時間配付する資料をテキストとして用います。			小テスト:30% 定期試験:70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「知的障害児の心理学」梅谷忠勇・堅田明義著梅谷忠勇・堅田明義編(田研出版) ISBN:9784924339866			授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。								

科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	AB36033	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝・加藤 光朗		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、木曜日3限		
関連資格	特支一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>肢体不自由児の原因となる起因疾患や症状・障害特性について学びを深めます。また、肢体不自由児の理解に向けて心理の特徴や発達・随伴症状などについて学習し、肢体不自由児のQOL向上、自己実現に向けた教育・支援について学びます。</p>										
学修到達目標										
<p>肢体不自由の定義について理解し、肢体不自由の起因疾患の臨床像を正確に把握し説明できる。さらに、運動障害・随伴症状について理解し、専門的な知識を身につけている。</p>										
授業の進め方										
<p>毎時間資料を配布し進めます。さらに、視聴覚教材を活用し、専門的な知識の修得と障害の理解を深めます。毎回、リアクションペーパーを提出し学んだことを確認しながら進めます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 子どもの成長・発達について学びます。	授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。「肢体不自由児の心理・生理・病理」を学ぶにあたり、子どもの発達・発達について学習します。				小児の発達・発達について事前に調べる。子どもの発達・発達について復習する。(4時間)				
2	肢体不自由児の定義について学びます。	肢体不自由児の定義を学びその概念を理解し、これから学ぶ対象の理解を深めます。				肢体不自由とは何か、事前に調べる。肢体不自由の定義を復習する。(4時間)				
3	肢体不自由児の生理・病理 からだの仕組みと解剖・生理	人間のからだの仕組みについて学びます。からだの仕組みと動き・運動を解剖学的・生理学的に理解し、障害の理解を深めます。				人間のからだの仕組みについて事前に調べる。からだの仕組みについて復習する。(4時間)				
4	肢体不自由児の生理・病理 起因疾患・脳性麻痺	肢体不自由児の起因疾患である脳性麻痺の臨床像について学び、基本的な特徴について理解します。				脳性麻痺について基礎的事項を事前に調べる。脳性麻痺の臨床像について復習する。(4時間)				
5	肢体不自由児の生理・病理 起因疾患：二分脊椎	肢体不自由児の起因疾患である二分脊椎の臨床像について学び、基本的な特徴について理解します。				二分脊椎について事前に調べる。二分脊椎の臨床像について復習する。(4時間)				
6	肢体不自由児の生理・病理 起因疾患：進行性疾患他	肢体不自由児の起因疾患である進行性疾患等についての臨床像を学び、基本的な特徴について理解します。				進行性疾患について事前に調べる。進行性疾患について復習する。(4時間)				
7	肢体不自由児の理解 肢体不自由児の心理・情緒の発達	肢体不自由児を心理的な観点から、発達と障害の関係・感覚・知覚・運動・動作・コミュニケーションなどについて学びます。				配布された資料を事前に読む。肢体不自由児の心理・情緒について復習する。(4時間)				
8	肢体不自由児の理解 肢体不自由児の運動・姿勢の発達の特徴	肢体不自由児の運動・姿勢の発達の特徴について学びます。肢体不自由児は様々な運動障害ゆえの日常生活での困難性について学び、運動発達の特徴と可能性について理解を深めます。				配布された資料を事前に読む。肢体不自由児の運動・姿勢の発達特徴を復習する。(4時間)				
9	肢体不自由児の理解 肢体不自由児の心理と発達特徴・随伴症状	肢体不自由児の心理・情緒の発達について学びます。また、併せ有することが多い症状について理解を深め、その対応と支援について考えます。				配布された資料を事前に読む。肢体不自由児の随伴症状について復習する。(4時間)				
10	肢体不自由児の理解 重度重複児の心理について	重症心身障害児の臨床像・感覚、認知機能発達さらに生理・心理学的なアプローチについて学び、実態と発達支援について理解を深めます。				配布された資料を事前に読む。重症心身障害児について復習する。(4時間)				
11	肢体不自由児の支援 肢体不自由児の運動感覚経験と発達支援	肢体不自由児の就学前・学童期のリハビリテーションと療育について学び、発達支援について理解を深めます。特に運動発達の仕組みと認知機能についての基礎的事項を理解します。				配布された資料を事前に読む。リハビリテーション・運動発達について復習する。(4時間)				
12	肢体不自由児の支援 肢体不自由児の身辺自立の支援と社会生活	自立活動支援に必要な、感覚や認知の特性への理解を深めます。また、肢体不自由児の制約要因について学び、身辺自立への支援について考えます。				配布された資料を事前に読む。自立活動への支援について復習する。(4時間)				
13	肢体不自由児の支援 保護者への支援	障害のある子どもを持つ親の心情について、事例を通じて考えます。また、保護者との連携の重要性についての理解を深めます。				配布された資料を事前に読む。保護者との連携の重要性について復習する。(4時間)				
14	肢体不自由児教育の関連領域 肢体不自由児のQOL	肢体不自由児が自立をめざし、生活上の困難を主体的に改善していけるような支援について考えます。また、特別支援学校からの連続した支援の在り方について考えを深めます。				配布された資料を事前に読む。肢体不自由児のQOLの向上とその支援を復習する。(4時間)				
15	肢体不自由児教育の関連領域 肢体不自由児のライフサイクルと自己表現	肢体不自由児の心理社会的発達について理解を深め、自尊心の発達、健康で幸福な生活を営むための支援について考えます。個々のちがいを認めようとして「共に生きる」ことへの支援について考えを深めます。				配布された資料を事前に読む。「共に生きる」社会の実現について復習する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「肢体不自由児の医療・療育・教育」篠田達明著沖 高司 ほか編(金芳堂) ISBN:978-4-7653-1628-6(生協で購入してください。)				定期試験：60% レポート：40% S：基礎的な知識を正確に把握でき、説明できる。探究姿勢を持ち、高い意欲を示している。A：基礎的な知識を正確に把握できている。意欲を示している。 B：基礎的な知識を把握できているものもある。課題をすべて行っている。 C：基礎的な知識の60%程度を把握している。課題をすべて行っている。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版) 「特別支援学校高等部学習指導要領」海文堂出版編				事前に配布された資料をよく読み、事前学習を行って授業に参加してください。						



科目名	病弱児の心理・生理・病理		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	AB36034	研究室	非常勤	
担当者	宮地 弘一郎・関 ひろみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格	特支一種				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
病弱児についての理解を深めるために、その代表的な疾患である心疾患、呼吸器疾患、心身症等の主な対象疾患や、近年の病弱概念の変化について理解します。さらに病弱児の心理についても考察します。また、病弱児教育の現状と課題、多様な対象疾患における障害像を理解し支援するための視点を身につけます。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> <li>病弱児の心理・生理と病理における知識・技能を備え、それらを応用することができる。</li> <li>病弱児のQOL (quality of life) とQOE (quality of education) について理解し、そのための援助視点を身につけている。</li> </ul>											
授業の進め方											
授業は講義を中心に進めるが、一部演習やビデオ視聴を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業で何を学ぶか					病弱児の教育、および自己実現について考える。(4時間)				
2	病弱児の理解	代表的疾患(1)(心臓病、腎臓病を中心に)					授業ノートをまとめ、心臓病、腎臓病等について下調べをする。(4時間)				
3	病弱児の理解	代表的疾患(2)(喘息、血友病、てんかんを中心に)					授業ノートをまとめ、喘息、血友病、てんかん等について下調べをする。(4時間)				
4	病弱児の理解	遺伝性疾患(筋疾患、代謝性疾患を中心に)					授業ノートをまとめ、筋疾患、代謝性疾患等について下調べをする。(4時間)				
5	病弱児の理解	近年の病弱概念の変化(心の病を中心に)					授業ノートをまとめ、心身症、摂食障害等について下調べをする。(4時間)				
6	病弱児の理解	近年の病弱概念の変化(発達障害と二次障害)					授業ノートをまとめ、発達障害と発達障害に関連する二次障害について下調べをする。(4時間)				
7	病弱児の理解	教育の視点からみた病弱児の課題					授業ノートをまとめ、病弱児教育の課題について下調べをする。(4時間)				
8	病弱児の理解	セルフケアと医療的ケア					授業ノートをまとめ、セルフケアと医療的ケアについて下調べをする。(4時間)				
9	病弱児の心理	国際生活機能分類(ICF)モデルについて					授業ノートをまとめ、ICFモデルの概要について下調べをする。(4時間)				
10	病弱児の心理	ICFモデルから考える病弱児の環境因子					授業ノートをまとめ、ICFモデルに基づく病弱児の環境因子について仮説を立てる。(4時間)				
11	病弱児の心理	ICFモデルから考える病弱児の個人因子					授業ノートをまとめ、ICFモデルに基づく病弱児の個人因子について仮説を立てる。(4時間)				
12	病弱児の心理	ICFモデルから考える病弱児の援助視点					授業ノートをまとめ、ICFモデルに基づく病弱児の援助視点について仮説を立てる。(4時間)				
13	病弱児の心理	病気療養児のQOL(1)(CLSの取組から)					授業ノートをまとめ、CLS(チャイルドライフスペシャリスト)について下調べをする。(4時間)				
14	病弱児の心理	病気療養児のQOL(2)(病棟保育士の取組から)					授業ノートをまとめ、我が国の入院児の発達・生活支援の職種について下調べをする。(4時間)				
15	まとめ	病弱児の自己実現を考える					授業ノートをまとめ、病弱児の自己実現について自身の意見をまとめる。(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準								
授業時に資料を配布します。			定期試験：70% レポート：30% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力と学術的見地に基づく探求姿勢をもって課題を達成できる(試験とレポート課題の成績合計90点以上) A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題を達成できる(試験とレポート課題の成績合計80点以上) B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる(試験とレポート課題の成績合計70点以上) C：授業内容を一定程度理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる(試験とレポート課題の成績合計60点以上)								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理」小野次朗・榊原洋一・西牧謙吾著(ミネルヴァ書房) ISBN: 978-4-623-06153-2			疾患についての幅広い知識内容を含む科目であるため、授業は各内容の学習の手がかりの提示となります。授業を踏まえて十分に学修を行ってください。								

科目名	知的障害児の教育課程と指導法		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AB36035	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・都築 繁幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本授業は次の三点を目標として行います。(1)知的障害児の教育課程の考え方、歴史的変遷等の特徴を理解します。(2)知的障害児の教育課程の編成及び実施における留意事項を理解します。(3)知的障害児に対する具体的な指導法及び自立活動の意義を学びます。										
学修到達目標										
知的障害児の教育課程の考え方を説明することができる。 知的障害児の教育課程の内容を説明することができる。 知的障害児の指導法、自立活動の内容と方法を説明することができる。										
授業の進め方										
講義を基本形式とし学習内容に応じてグループワークや討論の形式を取り入れます。指導法に関わる授業では教材を使った実習形式の授業も行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学修の方法について解説する				自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	知的障害児の教育課程	特別支援学校の教育課程の基本的な考え方				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	知的障害児の教育課程	教育課程の考え方と歴史的変遷				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	知的障害児の教育課程	教育課程の編成における留意事項				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	知的障害児の教育課程	教育課程の実施における留意事項				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	知的障害児の教育課程	日常生活の指導の実際と評価				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
7	知的障害児の教育課程	遊びの指導の実際と評価				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	知的障害児の教育課程	生活単元学習の実際と評価				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	知的障害児の教育課程	作業学習の実際と評価				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	知的障害児の教育課程	教科別の指導の実際と評価				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	知的障害児の教育課程	個別の教育支援計画の考え方				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	知的障害児の指導法	個別の指導計画のためのアセスメント:行動観察・分析法				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	知的障害児の指導法	ことば・言語・コミュニケーション				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	知的障害児の指導法	キャリア教育と就労支援				授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答				全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省編(海文堂出版)(生協で購入してください。) 「特別支援学校高等部学習指導要領」文部科学省編(海文堂出版)(生協で購入してください。)				小テスト:30% 定期試験:70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)」文部科学省編(開隆堂出版) 「改定版 特別支援教育の基礎」宮本信也ほか著(東京書籍)				授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。						

科目名	肢体不自由児の教育課程と指導法			学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	AB36036	研究室	非常勤
担当者	渡邊 流理也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
特別支援教育における肢体不自由児教育における具体的な指導法や授業内容(教育課程)について、教育学・心理学の観点から講義を行います。											
学修到達目標											
肢体不自由児の指導方法について、必要な基礎的知識・技能を修得し、肢体不自由児の教育実践について具体的に説明できる。											
授業の進め方											
授業は、基本的に講義形式で行いますが、学習内容に応じてグループワークなどを行う場合があります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	肢体不自由教育の現状と課題	特別支援教育の中における肢体不自由教育の位置づけや、肢体不自由教育に関する現状と課題について学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
2	肢体不自由教育の教育課程	通常学校と特別支援学校に在籍する肢体不自由教育を受ける児童生徒の教育課程について学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
3	肢体不自由児の健康管理と指導	肢体不自由児が合併することの多い疾患に関する知識とそれに対応する指導内容について学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
4	姿勢と運動の発達	肢体不自由児の発達支援で重要となる姿勢と運動に関する発達の知識について学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
5	姿勢と運動を支える感覚機能	姿勢や運動に必要な感覚機能に関する知識について学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
6	姿勢と運動を支える姿勢反射・反応	姿勢の保持と運動の遂行に必要な姿勢反射・反応に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
7	脳性まひの筋緊張障害	脳性まひの意義、類型および筋緊張の特徴とその支援に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
8	姿勢と運動発達支援の実際1(筋緊張障害への対応)	過緊張や低緊張といった筋緊張への対応に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
9	姿勢と運動発達支援の実際2(ポジショニングの支援)	立位や座位などの姿勢の保持とそれらの姿勢での運動の遂行への支援に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
10	肢体不自由児への学習活動の支援	教科などの学習における姿勢の保持や上肢の操作への支援に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
11	肢体不自由教育の実際1(身体の動きの指導)	自立活動など学校生活の中での身体の動きの指導に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
12	肢体不自由教育の実際2(コミュニケーションの指導)	肢体不自由児のコミュニケーションの指導に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
13	肢体不自由教育の実際3(各教科の指導)	教科学習における肢体不自由児の身体的・認知的な困難とその支援について学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
14	肢体不自由教育の実際4(重度・重複障害児の指導)	重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持つ児童生徒の指導内容に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
15	肢体不自由教育における諸課題への対応	インクルーシブ教育システムの構築など新たな取り組みの中での肢体不自由教育の課題と対応に関する知識を学び、説明できるようにします。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、この授業全体で学んだことを整理する。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。授業内で適宜資料を配布します。						出席レポート:20% 定期試験:80% S:授業内容を高度に理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について具体的な例を挙げて詳細に説明することができる。A:授業内容を理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について具体的な例を挙げて説明することができる。 B:授業内容のおおよそを理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について説明することができる。C:授業内容の60%程度を理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について概要を説明することができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「脳性まひ児の発達支援-調和的発達を目指して-」(北大路書房) 「肢体不自由児の教育」(放送大学教育振興会) 「肢体不自由教育ハンドブック」(社会福祉法人全国心身障害児福祉財団)						特別支援教育に関する基礎的な知識を十分に復習した上で、授業に臨んでください。					

科目名	病弱児の教育課程と指導法		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AB36037	研究室	非常勤
担当者	渡邊 流理也・滝川 国芳		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
病弱児教育の状況について、病弱・虚弱の定義や教育目標、児童生徒の実態、教育制度・教育課程の内容といった幅広い視点からの理解を図ります。特に自立活動について具体的な事例を取り上げるとともに、医学的側面および医療との関わりについて理解を深めます。										
学修到達目標										
病弱教育の対象となる児童生徒の具体的な障害状況と教育対応に関する知識・技能を備え、自立活動に必要な指導プログラムの概要を理解することができる。										
授業の進め方										
授業は、基本的に講義形式で行いますが、学習内容に応じてグループワークなどを行う場合があります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	病弱教育の歴史～この授業で何を学ぶか	病弱教育における歴史について学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
2	病弱・虚弱の定義、病弱教育の教育目標	病弱・虚弱の定義や教育目標について学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
3	特別支援教育(病弱)の教育制度と教育課程	特別支援教育における教育制度と病弱・虚弱の児童生徒の教育課程について学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
4	病弱教育の現状と課題	病弱・虚弱の児童生徒への教育の現状やその課題について学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
5	代表的な疾患の特徴と教育対応(喘息、糖尿病、腎疾患など)	喘息、糖尿病、腎疾患などの特徴と、それら疾患をもつ児童生徒への教育に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
6	代表的な疾患の特徴と教育対応(白血病、脳腫瘍、心疾患など)	白血病、脳腫瘍、心疾患などの特徴と、それら疾患をもつ児童生徒への教育に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
7	代表的な疾患の特徴と教育対応(心身症、摂食障害など)	心身症、摂食障害などの特徴と、それら疾患をもつ児童生徒への教育に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
8	自立活動:健康の保持、心理的な安定に関する内容区分について	病弱・虚弱児の自立活動のうち、健康の保持、心理的な安定に関する内容区分の指導に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
9	自立活動:環境の把握、身体の動きに関する内容区分について	病弱・虚弱児の自立活動のうち、環境の把握、身体の動きに関する内容区分の指導に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
10	自立活動:人間関係の形成、コミュニケーションに関する内容区分について	病弱・虚弱児の自立活動のうち、人間関係の形成、コミュニケーションに関する内容区分の指導に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
11	重症心身障害児の理解と教育	重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児の実態とその教育に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
12	超重症児の理解と教育	医療的ケアである超重症児の実態とその教育に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
13	医療ケアについて	医療ケアに関する知識と学校教育で実施されている医療的ケアの知識と実際について学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
14	多職種連携について	病弱児の支援に関わる医療や福祉といった他職種との連携に関する知識を学び、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
15	発達保障と教育保障を考える	様々な環境要因によって生じる病弱児における発達保障と教育保障に関する課題について知り、説明できるようにします。				配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
特になし。授業時に資料を配布します。			課題:50% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について具体的な例を挙げて詳細に説明することができる。A:授業内容を理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について具体的な例を挙げて説明することができる。B:授業内容のおおよそを理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について説明することができる。C:授業内容の60%程度を理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について概要を説明することができる。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「病弱・虚弱児の医療・療育・教育」宮本信也・土橋圭子編(金芳堂) 「特別支援学校幼稚部教育要領」小学部・中学部学習指導要領(海文堂) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂)			特別支援教育に関する基礎的な知識を十分に復習した上で、授業に臨むようにすること。							

科目名	視覚障害児教育総論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AB36038	研究室	非常勤
担当者	大庭 重治			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
視覚障害児を対象とした教育課程の特徴、視覚障害の原因、評価方法、視覚障害児の知覚・認知・運動の各領域における心理学的、生理学的特徴、弱視児や盲児の発達特性に応じた支援・指導法について講述します。											
学修到達目標											
視覚障害児の教育に携わる際に必要とされる教育課程と指導法に関する基礎的知識、視覚障害児の心理、生理、病理に関する基礎的知識を習得する。											
授業の進め方											
パワーポイントの資料を配付し、それに基づきながら講述します。また、内容に応じて、小グループによる話し合いの機会を設定します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	特別支援教育と視覚障害	特別支援教育における視覚障害児教育の位置付けについて講述します。					特別支援教育の流れについて整理する(4時間)				
2	視覚障害の理解	視覚障害の定義と認知特性について講述します。					視覚障害児の認知特性について整理する(4時間)				
3	視覚障害児の教育課程	特別支援学校(視覚障害領域)の教育課程と視覚障害児に対する合理的配慮について講述します。					視覚障害児に対する合理的配慮について整理する(4時間)				
4	視覚障害の原因	視覚系のメカニズムと視覚障害の原因について講述します。					視覚障害の原因について整理する(4時間)				
5	脳と視覚障害	脳機能と視覚障害の関係について講述します。					脳における情報処理について整理する(4時間)				
6	視覚障害の評価	視覚障害の心理・生理学的評価の方法について講述します。					視覚障害の評価方法について整理する(4時間)				
7	弱視児の情報処理特性	弱視児の情報取得にかかわる特性について講述します。					弱視児の情報処理特性について整理する(4時間)				
8	弱視児の表現特性	弱視児の表現活動における特性について講述します。					弱視児の表現特性について整理する(4時間)				
9	弱視児の学習支援	弱視児の学習支援において配慮すべき事項について講述します。					弱視児の学習支援における配慮点について整理する(4時間)				
10	盲児の情報処理特性	盲児の情報取得にかかわる特性について講述します。					盲児の情報処理特性について整理する(4時間)				
11	盲児の表現特性	盲児の表現活動における特性について講述します。					盲児の表現特性について整理する(4時間)				
12	盲児の学習支援	盲児の学習支援において配慮すべき事項について講述します。					盲児の学習支援における配慮点について整理する(4時間)				
13	視覚障害児の運動特性	視覚障害児の運動領域にみられる特性について講述します。					視覚障害児の運動特性について整理する(4時間)				
14	視覚障害者の心理学的支援	視覚障害児及び中途視覚障害者の心理学的支援について講述します。					中途視覚障害者の支援における配慮点について整理する(4時間)				
15	人間社会と視覚障害者	社会における視覚障害者と他者とのかわりについて講述します。					視覚障害児の発達支援のあり方について整理する(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
テキストは使用しません。					課題:30% 定期試験:70% 課題への取組と定期試験の成績を総合して評価します。 S:授業内容を高度に理解し、批判的な探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を十分に理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の概ねを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂出版)					特にありません。						

科目名	聴覚障害児教育総論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ`リング	AB36039	研究室	非常勤
担当者	庄司 和史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	特支一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
聴覚障害の主症状は難聴です。子供の難聴は様々な学習や生活で困難を生じさせ、発達上の問題をもたらします。近年、聴覚障害の早期発見が進み、0歳代から補聴器や人工内耳の適応が進められ教育的支援も展開されています。この授業では、体験活動やディスカッションを行いながら聴覚障害の理解を深めるとともに、乳児期から青年期に至る教育課程および指導法について学習を展開していきます。										
学修到達目標										
聴覚障害の概要を生理・病理の観点から理解する。聴覚障害児の発達期における心理的特性や保護者支援について知り、そのうえで聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法など聴覚障害教育に関する基本的内容や方法を修得している。										
授業の進め方										
学習内容によって、講義形式、グループワーク、疑似体験活動など様々な形で進めます。毎回、ワークシート、ミニレポート等の提出物があります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の進め方や注意点を説明します。また、ICF(国際生活機能分類)等の障害の定義について確認します。					WHOのICF(国際生活機能分類)の図を主な障害に当てはめて説明できること(4時間)			
2	音と音声の基礎	音や音声の物理的性質や心理学的特徴を学習し、人間にとって聴覚とはどのようなものかについて基礎的な事柄を学習します。					日常生活での身の回りにどのような音があるかを記録すること(4時間)			
3	聴覚障害の生理及び病理	聴覚の構造の基礎を理解し、音が聴覚神経に伝達される仕組みを理解します。その上で耳の疾患や、伝音難聴、感音難聴、混合難聴などの聴覚障害の種類と特徴について学習します。					耳の構造図を資料を見ずに描けるようになり各部の名称を覚えること(4時間)			
4	聴覚障害の生理及び病理	聴力レベルを表す単位としてのdBHL(デシベル)を理解し、オーディオグラム(聴力図)の読み方を学習します。聴力の状態によって音や音声がかどのように変化するかをシミュレーションします。					オーディオグラムのサンプルを読み、平均聴力レベルを算出すること(4時間)			
5	聴覚障害児の発達と心理	聴覚障害が子供の発達にどのような影響をもたらすかを考えます。とくにコミュニケーションにおける心理状況と人間関係の問題について、耳栓などを使った疑似体験を通して考えます。					一般的な発達の特徴を確認すること(2時間)。疑似体験について感想をまとめること(2時間)			
6	聴覚障害児の発達と心理	乳児期の聴性行動の発達、音声発達(喃語)における聴覚障害児の特徴を、動画を視聴したり音声録音を聞いたりしながら理解し、言語発達が遅れる要因について考えてみます。					言語と言語発達に関する配布資料を読み、シートに記入すること(4時間)			
7	聴覚障害児の発達と心理	児童期、思春期、青年期の発達の特徴と心理について、とくに学習言語の習得が学力の問題へ関連することを様々な資料から理解します。					生活言語と学習言語の違いを具体的に挙げること(2時間)。障害認識の要素をあげること(2時間)			
8	聴覚障害者のコミュニケーションや情報保障について	手話の言語的な特徴を理解します。簡単な手話や指文字を実際に使い、自己紹介などを行ってみます。また手話以外のコミュニケーション手段についても確認し、情報保障の方法の概要を理解します。					自己紹介を手話でできるように練習すること(4時間)			
9	聴覚の教育的評価と聴覚補償	基本的な評価法及び聴覚補償の方法を学びます。とくに学校における聴力測定や補聴器管理についての基本的事柄を学習します。またFMデバイス等聴覚補償のためのシステムを学習します。					聴覚補償に関する基本事項、基本用語を確実に知ること(4時間)			
10	聴覚障害教育の歴史	フランスやドイツ、アメリカ等の聴覚障害教育の歴史を概観します。また、様々な資料から日本の障害児教育における聾教育の歴史を理解します。					口話と手話の論争について考えること(4時間)			
11	聴覚障害教育の教育課程と指導計画	新生児聴覚スクリーニング後の早期療育の目的と内容、方法について理解します。乳児段階の発達支援と保護者の障害受容の過程と保護者支援について学習します。					配布する障害診断時の保護者の記録等を熟読すること(4時間)			
12	聴覚障害教育の教育課程と指導計画	幼児段階の指導について学習します。聾学校幼稚部の教育課程の編成について理解します。また幼児段階の自立活動の内容や方法(言語指導、聴覚学習)について学習します。					幼児期の発達特性と障害の発達への影響を復習し教育課程との関連についてまとめること(4時間)			
13	聴覚障害教育における教育課程と指導計画	児童期以降の教育課程と指導計画について学習します。準ずる教育課程における教科指導の方法、各教科等を合わせた指導の方法についての基本的事項を理解します。					科目を選択し模擬指導案を作成すること(4時間)			
14	特別支援学校のセンター的機能	特別支援学級に在籍する難聴児への支援、通常の学級に在籍する聴覚障害児の通級による指導等について学びます。また発達障害児に多い聴覚過敏に対する支援等について聴覚補償の立場から学習します。					難聴児が通常の学級に在籍することの意義や問題点を考え、挙げること(4時間)			
15	聴覚障害教育の今後の課題	医療等との連携、センター的機能の発展、発達障害など重複障害への対応、専門性の発展と継承等の課題について学習します。全体をまとめます。					様々な課題と課題への対応策についてまとめること(4時間)			
テキスト			成績評価の方法・基準							
特になし(毎回、授業資料を配付する)			受講態度:50% レポート:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題から難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部/高等部学習指導要領」 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)」 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」			理解を深めるため、発達心理学、教育課程編成法、また他障害の理解や指導法等既習の科目について復習しておいてください。疑似体験やディスカッションを行いますので、積極的な参加を期待しています。							

科目名	発達障害児・者等の支援と教育		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ'リング	AB36040	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・内藤 千尋・羽田 行男・宮地 弘一郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
発達障害児・者への教育的支援は特別支援学校だけでなく通常学級においても重要な教育課題となっています。この授業は、発達障害に含まれる多様な障害の特性について認識・理解を深めることを目的に、教育の観点と発達支援の観点から講義を行います。										
学修到達目標										
発達障害の分類と定義、中枢神経系の発達との関連等について学び、理解している。 主要な発達障害の特徴と教育的支援について学び、理解している。 発達障害の今日的課題について学び、理解している。										
授業の進め方										
授業は基本的に講義形式で行いますが、学習内容に応じてグループワークや討論の形式を取り入れます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学修の方法について解説します。				自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	発達障害とは	発達障害の定義、診断と分類について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	発達障害とは	脳と発達障害の関連について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	障害の理解と教育的支援	学習障害の概要と教育的支援の内容について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	障害の理解と教育的支援	ADHDの概要と教育的支援の内容について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	障害の理解と教育的支援	自閉症スペクトラムの概要と教育的支援の内容について解説します。				授業ノートをまとめ中間テストへの準備をする(4時間)				
7	中間まとめ	前半講義のまとめと補足;中間テストと解説します。				前回までの授業ノートを振り返る。中間テストの結果を踏まえ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	障害の理解と教育的支援	重度・重複障害(教育的処遇の歴史)について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	障害の理解と教育的支援	重度・重複障害児のコミュニケーション支援について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	発達障害における今日的課題	情緒障害・言語コミュニケーション障害児への対応について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	発達障害における今日的課題	発達障害児の教育におけるICT, AACの活用について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	発達障害における今日的課題	発達障害における身体症状について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	発達障害における今日的課題	教育的支援と福祉的支援の連携について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	発達障害における今日的課題	発達障害児・者の問題行動と触法について解説します。				授業ノートをまとめ最終授業での質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容をまとめ質疑応答を行います。				全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
特になし。				小テスト:30% 定期試験:70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省編(海文堂出版) 「特別支援学校高等部学習指導要領」文部科学省編(海文堂出版)				授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。						

科目名	障害児臨床支援演習		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ'リング	AB26041	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・都築 繁幸		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格	特支一種				履修条件	特別支援学校課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本授業では、ガイダンスと予備学習をふまえ、特別支援学校と小・中学校特別支援学級の教育現場において授業参観と支援活動を実際に体験します。その体験を通して知的障害児教育の教育課程と指導法の実際を学びます。										
学修到達目標										
知的障害児教育で大切な「一人ひとりのニーズを見極めそれに対応する力を養う」ことについて、特別支援教育の学校現場で学び、理解している。その体験を通して、広い視野から障害児支援の在り方を考えられる。今後の専門的学習や教育実習に向けた心構えを養い、自身の学習課題を明確にしている。										
授業の進め方										
本授業は講義、グループワーク(地域の協力校を訪問)、およびリフレクションを組み合わせた演習形式で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学習の方法について説明する				自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	臨床演習の予備学習	<講義> 特別支援学校(知的障害)における自立活動と指導法について				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	臨床演習の予備学習	<講義> ライフステージを通じた特別支援の在り方とその重要性				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	臨床演習の予備学習	<講義> 特別支援学級における自立活動と指導法について				授業ノートをまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
5	特別支援学校の支援体験	<グループワーク1> 特別支援学校(知的障害)小学部の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
6	特別支援学校の支援体験	<グループワーク2> 特別支援学校(知的障害)中学部の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
7	特別支援学校の支援体験	<グループワーク3> 特別支援学校(知的障害)高等部の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
8	特別支援学校の支援体験	<グループワーク4> 特別支援学校(盲・ろう)の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
9	特別支援学校の支援体験	<リフレクション> 特別支援学校における臨床経験と学び				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	特別支援学級の支援体験	<グループワーク5> 小学校特別支援学級(知的障害)の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動に向けた下調べをする(4時間)				
11	特別支援学級の支援体験	<グループワーク6> 中学校特別支援学級(知的障害)の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動に向けた下調べをする(4時間)				
12	特別支援学級の支援体験	<グループワーク7> 小学校特別支援学級(言語・情緒障害)の授業参観と支援体験				活動記録をまとめ次回活動に向けた下調べをする(4時間)				
13	特別支援学級の支援体験	<リフレクション> 特別支援学級における臨床経験と学び				活動記録をまとめリフレクションに向けた準備をする(4時間)				
14	演習授業のまとめ	<リフレクション> 成果発表と討論(Aグループ)				発表と討論を踏まえレポートの作成準備をする(4時間)				
15	演習授業のまとめ	<リフレクション> 成果発表と討論(Bグループ)				発表と討論を踏まえレポートの作成準備をする(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省編(海文堂出版)(生協で購入してください。) 「特別支援学校高等部学習指導要領」文部科学省編(海文堂出版)(生協で購入してください。) その他、適宜資料を配布します。				レポート:50% 定期試験:50% レポート(グループワーク、最終):50% 定期試験(成果発表):50% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。						



科目名	障害児臨床支援演習		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AB36042	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝・吉川 知夫		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、木曜日4限		
関連資格	特支一種				履修条件	特別支援学校課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
「障害児臨床支援演習」と同様、本授業は講義、グループワーク、リフレクションを組み合わせた演習形式で行われます。ガイダンスと講義をふまえ、特別支援学校、および特別支援学級における授業参観と自立活動の支援体験を通して、肢体不自由児教育の教育課程と指導法の実際を学びます。また、肢体不自由児水泳教室の見学と支援体験を通してムーブメント教育と障害者スポーツについて理解を深めます。										
学修到達目標										
肢体不自由児の特別支援教育と関連領域の現場の見学を通して、肢体不自由児教育に求められる「一人ひとりのニーズを見極めそれに対応する力」を身につけている。また、広い視野から障害児支援の在り方を捉え、今後の専門学習や教育実習に向けた心構えと自身の学習課題を明確にできる。										
授業の進め方										
随時資料を配布します。授業参観・支援体験は、学外授業となります。授業参観・体験後は、レポートを提出します。また、全体でリフレクションを行い、発表・ディスカッションを通じて自身の学修を確認しさらに学習課題を明確にします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 学外授業の在り方について説明します。	授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。 グループワークの進め方について説明します				肢体不自由児教育に関連した資料を事前に読む。授業の内容をまとめて復習する。(4時間)				
2	講義：特別支援教育(肢体不自由)における自立活動と指導法について	特別支援学校(肢体不自由)の教育課程と自立活動について学び、授業参観・支援体験に必要な援助視点について理解を深めます。				教育課程について事前に学習する。教育課程と自立活動について復習する。(4時間)				
3	講義：ライフステージを通じた特別支援教育の在り方とその重要性	学校教育全般を通じて、自立し社会参加できる資質を養うことの重要性和特別支援教育の在り方について学びます。				特別支援学校教育関連文献を事前に読む。特別支援教育の在り方について復習する。(4時間)				
4	グループワーク1：特別支援学校(肢体不自由)小学部の授業参観と支援体験	特別支援学校(肢体不自由)小学部での授業参観・支援体験を通して、児童への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。				授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめて復習する。(4時間)				
5	グループワーク2：特別支援学校(肢体不自由)中学部の授業参観と支援体験	特別支援学校(肢体不自由)中学部での授業参観・支援体験を通して、生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。				授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめて復習する。(4時間)				
6	グループワーク3：特別支援学校(肢体不自由)高等部の授業参観と支援体験	特別支援学校(肢体不自由)高等部での授業参観・支援体験を通して、生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。				授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめて復習する。(4時間)				
7	グループワーク4：特別支援学校(病弱院内学級)の授業参観と支援体験	特別支援学校(病弱院内学級)の授業参観・支援体験を通して、児童・生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。				授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめて復習する。(4時間)				
8	グループワーク5：特別支援学校(重複障害児学級)の授業参観と支援体験	特別支援学校(重複障害児学級)の授業参観・支援体験を通して、児童・生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。				授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめて復習する。(4時間)				
9	リフレクション：特別支援学校における臨床経験と学び	特別支援学校(肢体不自由)での参観・体験的実習の振り返りを行います。実際の学校現場での様子を振り返り、今後の学習課題について明確化を図ります。				振り返りのプレゼンテーションの準備を行う。今後の課題等について復習する。(4時間)				
10	グループワーク6：特別支援学級(肢体不自由)の授業参観と支援体験	特別支援学級(肢体不自由)での参観・体験的実習の振り返りを行います。実際の学校現場での様子を振り返り、今後の学習課題について明確化を図ります。				授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめて復習する。(4時間)				
11	リフレクション：小学校特別支援学級における臨床体験と学び	特別支援学級(肢体不自由)での参観・体験的実習の振り返りを行います。実際の学校現場での様子を振り返り、今後の学習課題について明確化を図ります。				振り返りのプレゼンテーションの準備を行う。今後の課題等について復習する。(4時間)				
12	講義：肢体不自由児のムーブメント教育と障がい者スポーツ	知覚・運動発達理論とムーブメント教育のプログラムについて学びます。自立活動とムーブメントの経験について理解し、肢体不自由児の運動スキルの獲得について理解を深めます。				配布された資料を事前に読む。ムーブメント教育について復習する。(4時間)				
13	グループワーク7：肢体不自由児水泳教室の見学と支援体験	地域での肢体不自由児支援の実際を体験します。特別支援学校後に続く支援として、活動の実際と地域で支える人々さらに課題について理解を深めます。				配布され資料を事前に読む。障がい児の水泳教室体験のレポートをまとめて復習する。(4時間)				
14	リフレクション：ポスター発表と討論(Aグループ)	全体を通じて、各特別支援学校での体験実習の振り返りを行います。				発表の準備を事前に行う。発表・討論の内容を復習する。(4時間)				
15	リフレクション：ポスター発表とリフレクション(Bグループ)	全体を通じて、各特別支援学校での体験実習の振り返りを行います。				発表の準備を事前に行う。発表と討論の内容を復習する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
適宜資料を配布する。		レポート：50% 出席レポート：50% S：授業内容を高度に理解し、高い意欲と探求姿勢を持ち課題に取り組むことができる。プレゼンテーションの力が身につけている。A：授業内容を理解し説明できる。意欲的に課題に取り組む姿勢を示している。B：授業の内容をおおよそ理解し説明できる。与えられた課題をすべて行っている。 C：授業の内容を60%程度理解している。課題をすべて行っている。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂出版)		「障害の理解・子ども理解」に関連する事前学習を確実にし、意欲的に参加してください。								

科目名	特別支援学校教育実習		学年学期	4年通年	単位数	3	ナパ`リング	AB46043	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・小林 敏枝・内藤 千尋		必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー			
関連資格	特支一種				履修条件	特別支援学校課程履修者 初等教育実習事前・事後指導,初等教育実習,特別支援教育総				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本実習では、これまでに履修した特別支援教育に関する知識・技能を基に、実際の学校現場で児童生徒の育成に直接携わることを通して、教育の意味や内容、方法を学ぶことが目的です。										
学修到達目標										
教師としてのものの見方、考え方、豊かな心情を養い、専門職としての資質や能力を身につけている。特別支援学校の教育理念と教育課程、個別ニーズに対応した教育方法について学び、理解を深めている。教師の姿勢に学び、そこから自己を振り返り、課題を発見するための契機にすることができる。										
授業の進め方										
大学と実習先での事前・事後指導、および実習先での教育実習(観察・基礎・応用)により行われる。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	教育実習の心得、実習中の指導内容、その他の事項について解説する。				自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
2	事前指導	児童生徒の状況と実習の概要				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
3	事前指導	児童生徒の実態把握の方法と協議の進め方				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
4	事前指導	学校目標・方針、各学部の教育実践				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
5	事前指導	各学部の運営方針、学級指導、児童生徒の実態について				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
6	事前指導	授業参観および学級別打ち合わせ				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
7	教育実習	観察実習(10時間以上):授業を参観し、児童生徒と共に生活しながら、その実態を把握する。				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
8	教育実習	基礎実習(30時間以上):児童生徒の実態把握、学習指導案の作成、教材研究を行い、実習生が指導教員の指導の下で授業を実施する。				授業ノートをまとめ各回に向けた準備をする(4時間)				
9	教育実習	応用実習(20時間以上):基礎実習で学んだことを生かして、実習生の力で授業の展開や日常生活の指導を実施する。				授業ノートをまとめ各回に向けた準備をする(4時間)				
10	事後指導	教育実習のリフレクションおよび研究会				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
11	事後指導	教育実習のリフレクションおよび研究会				授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
特になし				受講態度:20% 課題:40% レポート:40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:実習課題を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:実習課題を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B:実習課題をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:実習課題をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「実習の手引き」を配布する。				実習内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。						

科目名	英語学概論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36044	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、金曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
英語の成り立ちと歴史、音韻論、統語論、意味論、語用論、談話分析などの基本的知識及び研究手法等が身につくように授業をします。また学校文法と第二言語習得論も学びます。これらを統合して実際の授業にどのように活用できるかを考えます。授業はPowerPoint等を用いた講義形式および、ペア・グループによるワークを含みます。										
学修到達目標										
英語の成り立ちを理解し、英語を含む言語理論の基礎を理解している。 英語の成り立ちや研究の基礎的な考え方を指導に活用できる。										
授業の進め方										
教科書に即して、言語学の基礎知識を学修します。実際の英文や日本語の文も対象に、言語の成り立ちや統語論・意味論などを分析的に考察します。プリントやPowerPointのライドなども用いながら授業を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	導入・英語の成り立ちと歴史	英語が現在の形になったのは何故なのかについて、歴史的観点を含め考察し、英語学を学ぶとはどういうことかを概観します。				英語を分析的に考察する態度・方法を考える。(4時間)				
2	音韻論(1)理論編	発音器官、発話のメカニズム、有声音と無声音、母音と子音などについて概観し、音声学・音韻論の基礎を身につけます。				各概念を理解した上で、英語の音声がどう作り出されるかを実例を見ながら考える。(4時間)				
3	音韻論(2)実践編	音声学・音韻論の基礎知識に基づき、実際の英語がどう発音されるかを考えます。実際の発話を通して、英語の音が作り出されるメカニズムを理解します。また、アクセントリズム、音節等についても考えます。				理論編で学んだ知識を元に、実際に英単語を発話する練習をする。(4時間)				
4	形態論(1)理論編	英語におけるレキシコンがどのように構成され、語彙がいかんして構築・構成されているかを考えます。また、言語の恣意性や語形成についても考察します。				英語のみならず日本語などにおける語彙身近な語彙を、形態論の観点から考察する。(4時間)				
5	形態論(2)実践編	形態論の理論編での内容を基に、語の成り立ちを具体的な事例から考えます。				講義で取り上げた形態論の理論に関する概念を用いて、身近な語を分析する。(4時間)				
6	統語論(1)理論編	文法研究の歴史を概観します。生成文法をはじめとする形式主義的統語論と機能主義的機能文法の基礎を概観します。				学校文法の基礎を確認し、文法的な術語を把握する。(4時間)				
7	統語論(2)実践編	統語論(理論編)で学修した知識に基づいて、英語の文法的研究について分析的に考察します。				統語論(理論編)での分析を基に、さらに多くの文法事項について分析する。(4時間)				
8	意味論(1)理論編	語彙意味論・認知意味論について概観します。				意味論に於いて用いられる術語を確認する。(4時間)				
9	意味論(2)実践編	意味論(理論編)で触れた概念の理解を基に、実際の意味の探求を行います。具体的な例を分析し、意味論を実践的に捉える練習をします。				意味論の理論編で触れた概念を復習する。各自で身近な語彙の意味を分析する。(4時間)				
10	語用論(1)理論編	会話の協調原理、会話の含意、発話行為など、語用論の基礎について学修します。				教科書の該当部分を読み、術語を自分なりに調べておく。(4時間)				
11	語用論(2)実践編	語用論(理論編)で概観した各理論を基に、実際の具体例を基に分析を行います。				文脈や発話場面の違いによる言語の持つ意味の違いについて考えをまとめる。(4時間)				
12	学校文法概観(1)理論編	学校文法を、これまで見てきた各理論に照らしながら考察します。				高校段階で学んだ英語文法について再確認する。説明する文法項目を選ぶ。(4時間)				
13	学校文法概観(2)実践編	学校文法概観(1)で確認した理論等を基に、各自で選んだ学校文法の項目を全体の前で説明します。				文法説明の準備を行う。各自でプレゼンの内容を振り返り反省する。(4時間)				
14	第二言語習得論(1)理論編	第二言語習得論の各理論を概観します。特に、Focus on Formについて学びます。				これまで学修した言語学の基礎を復習し、英語教育との関りについて意見をまとめる。(4時間)				
15	第二言語習得論(2)実践編	Task-based Language Learning (TBLT)について概観します。また、英語学概論全般についてまとめます。これまで学修してきた知識を基に、言語事象について考察、議論します。				英語学概論の各理論を復習し、ポイントをまとめておく。TBLTに適したタスクを考える。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめての英語学」大井恭子 木全睦子 森田彰 高尾享幸著長谷川瑞穂編(研究者) ISBN:978-4-327-40165-8(生協で購入してください。)				定期試験:70% 受講態度:10% 出席レポート:20% S:授業内容を完全に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				積極的に参加する態度が大切です。また、授業の前に指定された文献や論文を読むことを怠らないようにしてください。						

科目名	英語音声学概論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	AC26045	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日5限、木曜日4限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
英語音声学の基礎理論を学び、その実践を通して理論を体感的に学ぶことを目標とします。さらに、第二言語習得論の視点から、英語と日本語の音声システムの違いを理解することで、どのように生徒へ指導していくか等、英語教育への応用も視野に入れた授業を展開します。										
学修到達目標										
英語音声学の基礎及び英語の音声体系を理解している。 理論的知識を実践的に応用できる。 音声学の知識に基づき言語学習者の発音を改善するための方策について理解している。										
授業の進め方										
まず英語音声学の各理論を概観します。 その理論を実践に応用する活動(発音練習等)を通して、英語の正しい発音を身につけるような授業を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	英語音声学を学ぶ上で必要な基礎知識について学修します。また、英語教育における音声学の位置づけ、その意義についても考えます。				音声学が英語学習において果たす役割について、自分の意見をまとめる。(4時間)				
2	現代英語の標準発音	現代英語における標準発音という観点から、英語方言(アメリカ英語・イギリス英語他)や英語の母語話者について、また、国際音声記号(International Phonetic Alphabet (IPA))について学修します。				予め国際音声記号の一覧を確認しておく。事後はIPAについて講義の内容を復習する。(4時間)				
3	英語単語の綴りと発音	英語で用いられる、母音字と子音字について主に学修します。基本的なルールを、実際に発音をしながら確認します。				事前にルールを確認しておく。事後はルールを復習し、改めて練習する。(4時間)				
4	音素	英単語を構成する最小単位(音素)について学修します。また、異音、音素体系についても考察します。				音素に関する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
5	子音(1)英語の子音	有声音・無声音、音調位置、音調様式による子音の分類について学修します。破擦音、鼻音、側音、半母音、閉鎖音、摩擦音について考察します。				英語の子音を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
6	子音(2)実践編	講義で確認した英語の子音について、実際に発音をして練習します。				英語子音の講義を復習しておく。苦手な音について自主的に練習する。(4時間)				
7	母音(1)英語の基本母音	英語の基本母音について主に学修します。また、強母音・弱母音、抑止母音・開放母音、短母音・長母音についても考察します。				英語の母音を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
8	母音(2)実践編	英語の母音全般について実際に発音して練習します。				英語母音の講義を復習しておく。苦手な音について自主的に練習する。(4時間)				
9	音節(1)理論編	英語の音節について、きこえ度、音節主音、開音節と閉音節、音節主音の子音、鼻腔破裂、側面破裂について学修します。また、実例を発音しながら確認します。				音節に関する述語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
10	音節(2)実践編	音節内の子音の結合、単語間の音連続、音の脱落、同化について学修します。また、実例を発音しながら確認します。				子音連続や音連続等について確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
11	アクセント(1)理論編	英語のアクセントを主として見た上で、日本語のアクセントについても考察します。語アクセント、接辞と語アクセント、複合語アクセント、句アクセント、文アクセント、強形と弱形などについても学修します。				英語特有のアクセント確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
12	アクセント(2)実践編	アクセント(1)理論編で学修した内容に基づき、実際の発音練習を行います。				アクセントの理論編で学修した内容を復習し、発音練習を行う。(4時間)				
13	リズム・イントネーション	日本語と英語の言語的な違いから生じるリズムの違いや、音調群、音調群の構成、音調の種類、各音調の用法(下降調・上昇調・下降上昇調)特殊なイントネーションについて学修します。				リズムとイントネーションを確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
14	第二言語習得論と音声教育(1)理論編	英語音声学の各種理論がどのように教育に応用されているかを概観します。				予め指定された文献を講読し、ポイントを理解しておく。(4時間)				
15	第二言語習得論と音声教育(2)実践編	英語音声学の教育への応用という観点から、実際に用いられる教授法を用いてロールプレイによる教授法の実践を行います。最後に授業全体のまとめを行います。				音声学の各種理論や教授法について再確認し、ロールプレイの準備を行う。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「改訂新版 初級英語音声学 CD付」竹林滋 清水あつ子 斎藤弘子 共著者 (大修館書店) ISBN:978-4469245813 (生協で購入してください。)				定期試験:40% 受講態度:20% 出席レポート:20% 実技:20% S:授業内容を完全に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				理論を学修するだけでなく、実際に発音して試みるのが大切です。普段から発音練習をするよう心掛けてください。						

科目名	英語史概論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36046	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、金曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
英語の歴史を、印欧祖語の時代まで遡って、Old English、Middle Englishさらに現代英語に至るまで概観します。また、世界の中での英語の役割という観点から、現代のグローバル時代の英語とその教育についても理解し、どのように英語教育の視点を持つかについても学びます。										
学修到達目標										
英語史を理解し、自分自身の学習を振り返り、どのように英語教育に生かせるかを考えることができる。また、そのための十分な知識を身につけることができる。										
授業の進め方										
講義を中心として授業を行います。また、必要に応じてグループ討論やペアワークなども行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	英語史を学ぶ上での心構え、英語史を学ぶ意味、英語教育にどう生かしていくかなどについて考えます。また、インド・ヨーロッパ語としての英語をその歴史の始まりから考えます。				指定された教科書を購入し、第1章を読んでおく。(4時間)				
2	世界の語族	英語の成り立ちを考える上で必要となる、世界の語族について概観します。				教科書の第2章を読んでくる。事後は、世界の語族について復習する。(4時間)				
3	英語の祖語	英語の元となった印欧祖語を中心に概観します。				教科書の3章を読んでくる。事後は印欧祖語の発展の歴史を復習する。(4時間)				
4	Old English以前の英国の言語	Old English成立以前にブリテン島で用いられていた言語について学修します。				教科書の第4章を読んでくる。事後は古英語以前の言葉について復習する。(4時間)				
5	Old Englishの成立	古英語の成立の過程を概観します。				教科書の5章を読んでくる。事後は古英語成立の過程について復習する。(4時間)				
6	Old Englishの形態	古英語の形態論について考えます。				教科書の第6章を読んでくる。事後は古英語の格変化について復習する。(4時間)				
7	Middle Englishの成立	中英語の成立について概観します。				教科書の第7章を読んでくる。事後、中英語の成り立ちについて復習する。(4時間)				
8	Middle Englishの形態	中英語の形態論について考えます。				教科書の第8章を読んでくる。事後、中英語の形態論について復習する。(4時間)				
9	Modern Englishの成立	Modern Englishの成り立ちについて概観します。				教科書の第9章を読んでくる。事後、Modern Englishの成立について復習する。(4時間)				
10	Modern Englishの形態	Modern Englishの形態論を扱います。				教科書の第10章を読んでくる。事後、Modern Englishの形態論を復習する。(4時間)				
11	American Englishの成立	アメリカ英語の成立の歴史について概観します。				教科書の第11章を読んでくる。事後、アメリカ英語の特徴について考える。(4時間)				
12	American Englishの特色	アメリカ英語の特色について考え、議論します。				教科書の第12章を読んでくる。事後、イギリス英語との違いを比較する。(4時間)				
13	国際語としての英語	これまで学んできた英語の成り立ちを踏まえ、国際語として認知されるようになった英語の意味について考えます。				これまでの授業内容を復習する。事後、国際語としての英語の特徴を復習する。(4時間)				
14	英語史と英語教育	これまで見てきた英語史全体を踏まえ、学校教育にどのように生かしていけるかを考えます。				英語史と英語教育の関係について意見をまとめる。(4時間)				
15	教室内での英語史活用	英語史が英語教育でどのように活用できるかについて、まとめた意見を発表し議論します。また、これまでの学修の総復習を行います。				これまでの学修を振り返る。今後の英語史の有用性について考える(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ベーシック英語史」家入葉子著(ひつじ書房) ISBN:978-4-89476-349-4 (生協で購入してください。)				定期試験:80% 受講態度:20% S:授業内容を完全に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				予習復習を心がけてください。必ず出席してください。						

科目名	英語発声演習			学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AC36047	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日5限、木曜日4限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C	2018年度～						
授業概要											
英語の音韻体系と綴り、および発音の基礎を踏まえたうえで、英語音声の正しく発音できるように演習を行います。英語の子音及び母音の全体像をつかみ、英語発音を実践的に習得します。また、英語発音の実践的知識をListeningと結び付けながら英語の指導に活用する方策も学びます。											
学修到達目標											
英語の音声を正しく理解、発音ができる。 音声を取り巻く現象について理解し、Listening指導における留意点について考えることができる。											
授業の進め方											
講義を基本としますが、実際の発声練習も行います。 必要に応じてICT教材を用いた発音練習等も行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	講義の目的、進め方、教科書や評価方法について大まかな説明を行います。練習の仕方や勉強の方法などについても概観します。					事前に、教科書の構成や学ぶ内容をある程度確認しておく。(4時間)				
2	英語の音韻体系	英語の音韻体系について概観します。また、International Phonetic Alphabet(国際音声記号、IPA)についても説明を行います。					IPAについて自分なりに調べておく。事後は学修したIPAについてリストを見て復習する。(4時間)				
3	Vowel and Consonants(1) 前舌母音・後舌母音・中舌母音	英語の母音について学修します。特に、前舌母音・後舌母音・中舌母音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
4	Vowel and Consonants(2) 二重母音	英語の母音について学修します。特に、二重母音(Diphthongs)を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
5	Vowel and Consonants(3) 閉鎖音・	英語の子音について学修します。特に、閉鎖音・鼻音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
6	Vowel and Consonants(4) 摩擦音・摩擦音と破擦音	英語の子音について学修します。特に、摩擦音・摩擦音と破擦音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
7	Vowel and Consonants(5) 側音と半	英語の子音について学修します。特に、側音と半母音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
8	Dialogs and Exercises(1) 音節と語強	英語の音節と語強勢(Syllable and word stress)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
9	Dialogs and Exercises(2) 文強勢	英語の文強勢(Sentence stress)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
10	Dialogs and Exercises(3) ピッチとイントネーション	英語のピッチとイントネーション(Pitch and intonation)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
11	Dialogs and Exercises(4) 音のつながり(連結・脱落)	英語の音のつながり(連結・脱落)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
12	Dialogs and Exercises(5) 音のつながり(同化)	英語の音のつながり(同化)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
13	モーラとストレス	Stress-timed languageとMora(Syllable)-timed languageの違いについて考え、実際に発音練習を行います。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
14	英語の発音と英語教育(1)理論編	英語教育における発音指導について学修します。各種理論や教授法を主に扱います。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は各理論の復習を行う。(4時間)				
15	英語の発音と英語教育(2)実践編	英語の発音と英語教育(1)理論編での学修内容を基に、実際にロールプレイを通して発音指導の実践を行います。最後に全体のまとめを行います。					事前に理論編の内容を確認しておく。事後はロールプレイの準備をする。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「英語音声学への扉ー発音とリスニングを中心にー改訂版」今井由美子ほか著(英宝社) ISBN:978-4-269-63014-7(生協で購入してください。)						定期試験:60% 受講態度:10% 実技:30% S:授業内容を完全に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						実際の発音練習に真剣に取り組むことを期待します。					

科目名	英文法演習	学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	AC36048	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日5限、木曜日4限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	A	B	C	2018年度～					
授業概要									
英文法の基礎を確認するとともに、知識としての英文法だけではなく英文法を形成する深層構造をも視野にいれた授業を展開します。規則性の「発見」や分析的説明をする試みを通して、英文法の理解を深めます。認知文法の知見をベースとして、個別の文法項目を考察します。									
学修到達目標									
英文法を分析的に考察し、その構造と用法を理解することができる。 またその知識を活用し、どのような文法指導ができるかを考えることができる。									
授業の進め方									
教科書を基本としながら、必要に応じてプリント等を配布し、グループや全体で議論しながら授業を進めます。説明はプリントのほか、パワーポイント等も使用します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	学校文法のレベルからさらにもう一步先に進み、文法研究の意味や方法について考えます。各文法理論について概観し、講義の中で主に取り上げる分析の仕方について学修します。				英語の学校文法について、自分の知識を再度確認しておく。足りない部分は復習をする。(4時間)			
2	英文の和訳	英文の和訳と誤訳について考察します。日本語と英語の物事の捉え方の違いや、単語が表す範囲の違い等について学修します。				教科書の第1章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
3	コミュニケーションと英文法	英文法の形と意味の対応、文法知識の重要性について考察します。また、受験英語の文法とコミュニケーションのために使う文法の違いについても学修します。				教科書の第2章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
4	日本語訳	日本語訳をする際に誤訳しやすいポイントについて考察します。さらに、AnyとSomeの違い、ever, Yes/No, international, direction, almost等の意味について考察します。				教科書の第3章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
5	比喩	メタファとメトニミー、シネクドキーについて概観し、それらの種類とメカニズムについて学修します。				教科書の第4章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
6	多義語と比喩	語形と意味の関係について考察します。動詞の用法基盤モデルと英語学習や多義との関係について学修します。				教科書の第5章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
7	英語の基本構造	英語の語順について、受動態、be動詞、並置、haveの後続要素、過去分詞等について学修します。				教科書の第6章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
8	冠詞	英語の冠詞、a, an, theについて考察します。aとtheの違い、aとtheでの意味の変化等について学修します。				教科書の第7章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
9	名詞の用法	英語の可算名詞と不可算名詞について考察します。Langackerの認知文法、可算・不可算での名詞の意味の差異、集合名詞等について学修します。				教科書の第8章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
10	時制の表現法	英語の時制について考察します。英語の時制はいくつあるのか、過去形のイメージ、未来表現等について学修します。				教科書の第9章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
11	相の概念	単純相、進行相、完了相について考察します。また、時制と相を用いた表現、動詞の原形のイメージ等についても学修します。				教科書の第10章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
12	過去形と丁寧表現	英語の過去形について考察します。過去形のコアイメージ、相手からの距離感を表す過去形、現実からの距離感を表す過去形、丁寧表現等について学修します。				教科書の第11章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
13	動詞の種類	状態動詞と動作動詞について考察します。また、完了用法、進行形と現在単純形等についても学修します。				教科書の第12章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
14	並置	二つの要素が並置されていることの意味について考察します。並置の基本から、X BE YとX HAVE Yの意味になる並置、with X/Yの並置等について学修します。				教科書の第13章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
15	倒置	英語における倒置について考察します。倒置形のイメージと様々な倒置表現について学修します。				教科書の第14章を読んでおく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「イメージで捉える感覚英文法」今井隆夫著(開拓社) ISBN:978-4758925204(生協で購入してください。)		定期試験:70% 受講態度:10% 課題:20% S:授業内容を完全に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。		履修にあたっては、高校段階で習った英文法について一通り復習しておくようにしてください。							

科目名	英米文学概論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36049	研究室	非常勤
担当者	新田 玲子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(英語)、高一(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
小説を中心に英語文学作品を時代順に取り上げ、その抜粋を原文で読みながら、作品の社会・時代背景と主人公像の変化について学びます。原文に関して学生の理解度を確かめながら、講義内容はパワーポイントを用い、映像や動画を交えてわかりやすく提示します。										
学修到達目標										
英語文学、英語文化圏の社会・時代背景や、人々の考え方や生き方に関する知識を増やし、英語作品をより深く理解できるようになるだけでなく、英語教育における基礎力の充実を目指します。										
授業の進め方										
講義形式ですが、作品の抜粋部分の翻訳をノートに書いてくることを毎回の課題とし、授業では学生があらかじめノートに書いてきた訳を読み上げてもらいます。また原則、授業の最初に前回の理解度を測る小テストを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス&イギリス文学における主人公	イギリス文学における主人公の特徴を概観します。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
2	初期アメリカ	新天地に夢を追うアメリカンヒーローについて学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
3	アメリカ文学の独立	トランセンデンタリズム的アメリカンヒーローについて学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
4	西部開拓とフロンティアの終焉	アメリカンヒーローと夢の限界について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
5	第一次世界大戦とアメリカの興隆	悲劇のアメリカンヒーローの誕生について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
6	ロストジェネレーションのもうひとつの顔	ハードボイルドヒーローの誕生について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
7	映画から見たアメリカンヒーロー(1)	ロバート・レッドフォードの変わらぬアメリカンヒーロー像と米文学作品との関係について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
8	エスニシティの台頭	ユダヤ系アメリカ作家が登場する背景について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
9	第二次世界大戦後の新しいヒーロー像	シュレミールの登場について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
10	1950年代	1950年代の豊かなアメリカ社会と新しいヒロイン像について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
11	1950年代	1950年代の新しい戦争作品とアンチヒーローについて学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
12	1960年代	1960年代の新しい戦争文学とアンチヒーローについて学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
13	1960年代	カウンターカルチャーとユダヤの反逆児について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
14	1970年代	ベトナム戦争と普通の人について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。次回の英文箇所の翻訳をノートに記す。(4時間)				
15	映画から見たアメリカンヒーロー(2)	ジョージ・ペパードのハードボイルドヒーローの変遷とアメリカ社会との関係について学びます。				今回の授業の重要箇所を記憶する。(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
(講義にて配布します。)最初の授業で授業資料のダウンロード方法を指示します。資料は個人の責任で準備してください。ただし初回の授業資料は、当日、プリントしたものを配布します。				レポート:30% 小テスト:40% 課題:20% 授業態度の評価割合は原則上述の通り。ただし、特に優れた授業態度には加点を、問題のある授業態度には減点を加えることもある。 S:授業内容を完全に身に付け、それを高度に理解し、自分の言葉で発信できる。 A:授業内容をほぼ完全に身に付け、それを理解し、おおよそ自分の言葉で発信できる。 B:授業内容をおおよそ身に付け、それをある程度は理解している。 C:授業内容を60%程度は身に付け理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし				学ぼうという意欲が最も大切です。皆さんの熱意を期待しています。						



科目名	英米文学演習		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	AC36050	研究室	非常勤
担当者	新田 玲子		必修選択	選択	科目種別	演習	オイスアワ			
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C	2018年度～					
<b>授業概要</b>										
第二次世界大戦後のユダヤ系アメリカ作家、フィリップ・ロスの処女作品、Goodbye, Columbusに収録された短編、"The Conversion of the Jews"を読み、ユダヤ系アメリカ文学の特徴やカウンターカルチャー世代への理解を深めると同時に、文学を研究するとはどういうことかを学びます。										
<b>学修到達目標</b>										
豊かな文学表現を正確に読み解くことで、英語の運用能力を高めると同時に、時代や文化背景に関する知識を加えて文学作品をより深く分析する方法を身に付けます。										
<b>授業の進め方</b>										
10週までは、正確に英文を理解することをめざします。最後の5週は、作品の背景や論文の書き方について学び、期末レポートを書くための論立てを作成を行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	作家フィリップ・ロスについて学びます。				フィリップ・ロスについて調べる。授業後は、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
2	"The Conversion of the Jews"の精読	p.139の初め～p.141の下から10行目を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
3	"The Conversion of the Jews"の精読	p.141の下から9行目～p.144, l.2を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
4	"The Conversion of the Jews"の精読	p.144, l.3～p.146, l.7を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
5	"The Conversion of the Jews"の精読	p.146, l.8～p.148, l.11を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
6	"The Conversion of the Jews"の精読	p.148, l.12～p.150, l.16を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
7	"The Conversion of the Jews"の精読	p.150, l.17～p.152, l.14を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
8	"The Conversion of the Jews"の精読	p.152, l.15～p.154, l.5を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
9	"The Conversion of the Jews"の精読	p.154, l.6～p.156, l.8を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
10	"The Conversion of the Jews"の精読	p.156, l.9～p.158の終わりを精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、期末レポートの準備にかかる。(4時間)				
11	論文の書き方、論立ての仕方	パワーポイントの講義形式で説明します。				期末レポートのための論立ての準備を進める。(4時間)				
12	Goodbye, Columbusとの比較	DVDで作品の概略を学びます。				期末レポートのための論立てを作成し、グループ人数分用意する。(4時間)				
13	論立て1	論立ての作成とグループ内で批判				論立てを推敲し、あらかじめ教師に送る。(4時間)				
14	論立て2	論立てについて教師による指導				論立てを推敲し、グループ人数分用意する。(4時間)				
15	論立て3	論立ての推敲とグループ内で批評				論立てを推敲し、期末レポートの作成を行う。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
(講義にて配布します。) 適宜プリントを配布。		レポート:40% 小テスト:30% 課題:30% 成績評価の方法と基準は原則、上述の通り。ただし、特に優れた授業態度には加点を、問題のS:授業内容を高度に理解し、レポートはテーマ設定・分析とも非常に優れている。A:授業内容を理解し、レポートはテーマ設定・分析とも優れている。B:授業内容のおおよそを理解し、レポートはテーマ設定または分析のいずれかが優れている。C:授業の内容を一通りは理解しており、レポートはテーマ設定・分析とも一応は合格ラインである。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「さようならコロンバス」フィリップ・ロス著(集英社文庫) ISBN:4087600025 その他、フィリップ・ロス作品や彼に関する資料を読んでもらえれば嬉しい		文学研究では原文を正しく理解することが基本で、文意に納得がゆくまで辞書を丁寧に引いて翻訳してください。また作品を論じる時は、すでに論じられた内容を繰り返さない為にも、先行研究をチェックしておくことが良いでしょう。								

科目名	英米文学演習		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	AC36051	研究室	非常勤
担当者	新田 玲子		必修選択	選択	科目種別	演習	オイスア-			
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
第二次世界大戦後のアメリカ作家、トルーマン・カポーティの代表作、Breakfast at Tiffany'sに収録された短編、"A Christmas Memory"を読み、1950年代アメリカ文学の特徴や時代背景への理解を深めると同時に、文学を研究するとはどういうことを学びます。										
学修到達目標										
豊かな文学表現を正確に読み解くことで、英語の運用能力を高めると同時に、時代や文化背景に関する知識を加えて文学作品をより深く分析する方法を身に付けます。										
授業の進め方										
10週までは、正確に英文を理解することをめざします。最後の5週は、作品の背景や論文の書き方について学び、期末レポートを書くための論立てを作成を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	作家トルーマン・カポーティについて学びます				カポーティについて調べる。授業後は、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
2	"A Christmas Memory"の精読	p.159の初め～p.161, l.5を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
3	"A Christmas Memory"の精読	p.161, l.6～p.163, l.4を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
4	"A Christmas Memory"の精読	p.163, l.5～p.164の終わりまでを精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
5	"A Christmas Memory"の精読	p.165の初め～p.167, l.6を精読します				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
6	"A Christmas Memory"の精読	p.167, l.7～p.169, l.15を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
7	"A Christmas Memory"の精読	p.169, l.16～p.172, l.4を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
8	"A Christmas Memory"の精読	p.172, l.5～p.173, l.8を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
9	"A Christmas Memory"の精読	p.173, l.9～p.176, l.6を精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
10	"A Christmas Memory"の精読	p.176, l.7～p.178の終わりまでを精読します。				予習の翻訳が間違っていた箇所をチェックし、翌週の予習と小テストの準備をする。(4時間)				
11	論文の書き方、論立ての仕方	パワーポイントの講義形式で説明します。				期末レポートのための論立ての準備を進める。(4時間)				
12	The Grass HarpあるいはBreakfast at Tiffany'sとの比較	DVDで作品の概略を学びます。				期末レポートのための論立てを作成し、グループ人数分用意する。(4時間)				
13	論立て1	論立ての作成とグループ内で批判				論立てを推敲し、あらかじめ教師に送る。				
14	論立て2	論立てについて教師による指導				論立てを推敲し、グループ人数分用意する。(4時間)				
15	論立て3	論立ての推敲とグループ内で批評				論立てを推敲し、期末レポートの作成を行う。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
(講義にて配布します。)		レポート:40% 課題:30% 小テスト:30% 成績評価の方法と基準は原則、上述の通り。ただし、特に優れた授業態度には加点を、問題のある授業態度には減点を加えることもある。S:授業内容を高度に理解しており、テーマ設定・分析とも非常に優れている。A:授業内容をほぼ理解しており、テーマ設定・分析とも優れている。B:授業内容をおおよそ理解しており、テーマ設定・分析のどちらかが優れている。C:授業内容を60%程度理解しており、テーマ設定・分析とも一応合格ラインにある。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「草の竖琴」トルーマン・カポーティ著(新潮社) ISBN:4102095047		文学研究では原文を正しく理解することが基本で、文意に納得がゆくまで辞書を丁寧に引いて翻訳して下さい。また作品を論じる時は、すでに論じられた内容を繰り返さない為にも、先行研究をチェックしておくとうれいでしょう。								

科目名	Reading		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ'リング	AC16052	研究室	N-02
担当者	マ-ネット ショ-ン・ルジ'カ デ'イ'ット'		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
	A	B	C	2018年度~						
<b>授業概要</b>										
説明文型および論説文型のパラグラフ・リーディングを通して、読解や速読スキルのポイントを学び、内容や論旨を正確にすばやく把握します。当初は、簡潔なパラグラフから始め、徐々に長く複雑なパラグラフへ移行します。また、常に4技能におけるコミュニケーションの場面においての活用を視野に入れて授業を進めます。										
<b>学修到達目標</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力、読解力を養い速読ができる。</li> <li>・日本語に置き換えしないで、英語で正確に内容を理解できる。</li> <li>・上記の力を身につけ、リーディングにおける文体論を理解し、文体論の4技能への活用を考えることができる。</li> </ul>										
<b>授業の進め方</b>										
説明文型および論説文型のパラグラフ・リーディングを通して、読解や速読スキルのポイントを学び、内容や論旨を正確にすばやく把握します。簡潔なパラグラフから始め、徐々に長く複雑なパラグラフへ移行します。授業はすべて英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション、パラグラフ・リーディングの基礎	オリエンテーションを行い、授業の概要を説明します。また、パラグラフ・リーディングの基礎について学びます。				事前：シラバスの熟読、事後：第1回パラグラフリーディング課題(4時間)				
2	説明文型パラグラフ・リーディング	説明文型パラグラフ・リーディングの主張の把握について学びます。				第2回パラグラフリーディング課題(4時間)				
3	説明文型パラグラフ・リーディング	説明文型パラグラフ・リーディングの具体的要因の把握について学びます。				第3回パラグラフリーディング課題(4時間)				
4	説明文型パラグラフ・リーディング	説明文型パラグラフ・リーディングの抽象的要因の把握について学びます。				第4回パラグラフリーディング課題(4時間)				
5	説明文型パラグラフ・リーディング	説明文型パラグラフ・リーディングの対比の把握について学びます。				第5回パラグラフリーディング課題(4時間)				
6	説明文型パラグラフ・リーディング	説明文型パラグラフ・リーディングの逆説の把握について学びます。				第6回パラグラフリーディング課題(4時間)				
7	説明文型パラグラフ・リーディング	説明文型パラグラフ・リーディングの原因・結果の因果関係の把握について学びます。				第7回パラグラフリーディング課題(4時間)				
8	説明文型パラグラフ・リーディング	これまで学んできた説明文型パラグラフ・リーディングについてのまとめを行います。				第8回パラグラフリーディング課題(4時間)				
9	論説文型パラグラフ・リーディング	論説文型パラグラフ・リーディングの主張の把握について学びます。				第9回パラグラフリーディング課題(4時間)				
10	論説文型パラグラフ・リーディング	論説文型パラグラフ・リーディングの具体的要因の把握について学びます。				第10回パラグラフリーディング課題(4時間)				
11	論説文型パラグラフ・リーディング	論説文型パラグラフ・リーディングの抽象的要因の把握について学びます。				第11回パラグラフリーディング課題(4時間)				
12	論説文型パラグラフ・リーディング	論説文型パラグラフ・リーディングの対比の把握について学びます。				第12回パラグラフリーディング課題(4時間)				
13	論説文型パラグラフ・リーディング	論説文型パラグラフ・リーディングの逆説の把握について学びます。				第13回パラグラフリーディング課題(4時間)				
14	論説文型パラグラフ・リーディング	論説文型パラグラフ・リーディングの原因・結果の因果関係の把握について学びます。				第14回パラグラフリーディング課題(4時間)				
15	論説文型パラグラフ・リーディング	これまで学んできた論説文型パラグラフ・リーディングについてのまとめをします。				第15回パラグラフリーディング課題と全授業のまとめ(4時間)				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
「World English 1: Combo Split A + My World English Online」(Third Edition) John Hughes著 http://cengagejapan.com/elt/CoreProgram/page/?no=15705065476u >>> 2,750 Yen. 編(National Geographic Learning- Cengage) ISBN:978-0-35-713029-2 (生協で購入してください。)			定期試験：40% 小テスト：30% 受講態度：30% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「Any English language dictionary.」			Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.							

科目名	Reading		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ <sup>1</sup> リング	AC26053	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
短編物語という起承転結があり、メッセージ性を内包している英文を読解することによって、語彙力を高めるとともに、物語における登場人物の関係性を把握し、論理的に読む力を養います。またその力をコミュニケーションの場面においての活用を考えます。										
学修到達目標										
・語彙力、読解力をさらに養い速読することができる。 ・日本語に置き換えしないで、英語で内容を正確に理解する能力をさらに養い、併せて物語の背景とメッセージ性を理解できるようにする。 ・上記のメッセージ性を考えることにより、コミュニケーションにおいての活用をすることができる。										
授業の進め方										
短編物語を丁寧に読み進めながら理解を深めます。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション、短編物語に対するリーディングの基礎	授業のオリエンテーションを行い、授業の概要を説明します。また、短編物語の読解の際の基礎について学びます。					事前：シラバスの熟読、事後：短編物語の読解課題(4時間)			
2	短編物語：ノンフィクション小説	ノンフィクション小説における物語の背景の理解しながら、短編物語の読解を行います。					第2回短編物語の読解課題(4時間)			
3	短編物語：ノンフィクション小説	ノンフィクション小説における主人公の感情を把握しながら、短編物語の読解を行います。					第3回短編物語の読解課題(4時間)			
4	短編物語：ノンフィクション小説	ノンフィクション小説における他者との関係性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第4回短編物語の読解課題(4時間)			
5	短編物語：ノンフィクション小説	ノンフィクション小説における物語のメッセージ性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第5回短編物語の読解課題(4時間)			
6	短編物語：ノンフィクション小説	これまでの授業のまとめを行います。					第6回短編物語の読解課題(4時間)			
7	短編物語：ファンタジー小説	ファンタジー小説における物語の背景を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第7回短編物語の読解課題(4時間)			
8	短編物語：ファンタジー小説	ファンタジー小説における主人公の感情を把握しながら、短編物語の読解を行います。					第8回短編物語の読解課題(4時間)			
9	短編物語：ファンタジー小説	ファンタジー小説における他者との関係性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第9回短編物語の読解課題(4時間)			
10	短編物語：ファンタジー小説	ファンタジー小説における物語のメッセージ性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第10回短編物語の読解課題(4時間)			
11	短編物語：ファンタジー小説	これまでのまとめを行います。					これまでの復習課題(4時間)			
12	短編物語：SF小説	SF小説における物語の背景を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第11回短編物語の読解課題(4時間)			
13	短編物語：SF小説	SF小説における主人公の感情を把握しながら、短編物語の読解を行います。					第12回短編物語の読解課題(4時間)			
14	短編物語：SF小説	SF小説における他者との関係性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					第13回短編物語の読解課題(4時間)			
15	短編物語：SF小説	SF小説における物語のメッセージ性を理解しながら、短編物語の読解を行います。また、授業の総まとめを行います。					これまでの復習課題(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「World English 2: Combo Split A + My World English Online」(Third Edition) Becky Tarver Chase & Kristin L. Johannsen 著 http://cengagejapan.com/elt/CoreProgram/page/?no=15705065476uyku >>> 2,750 Yen. 編(National Geographic Learning- Cengage) ISBN: 978-0-35-713031-5 (生協で購入してください。)					定期試験：40% 小テスト：30% 受講態度：30% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.					

科目名	Public Speaking		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リング	AC26054	研究室	N-02
担当者	マ-ネット ショ-ン・ルヅ'カ デ'イ'イ'ット'		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度~					
授業概要										
各テーマに対して、自らの意見を論理立てて話す実践的な演習を行います。また、そのために必要な「話の内容や構成」、「ノンバーバル・コミュニケーション」に関する理論についても触れていきます。さらに各自の発表を考察し合うことにより、どのようにスピーチや他のコミュニケーションに役立つかを考えます。										
学修到達目標										
・人前で論理立てて自分の意見を英語で伝えることができる。 ・ノンバーバルを効果的に用いた英語のスピーキング技法を身につける。また、それらの技法の印象を様々な視点より考察することによって、英語教育の指導に役立てることができる。										
授業の進め方										
各テーマに対して、自らの意見を論理立てて話す実践的な演習を行います。また、そのために必要な「話の内容や構成」、「ノンバーバル・コミュニケーション」に関する理論についても触れていきます。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業のオリエンテーションを行い、授業の概要を説明します。					事前: シラバスの熟読、事後: English Cafe参加(4時間)			
2	スピーチにおける内容や構成	スピーチにおける内容や構成について学びます。					スピーチ作成及びEnglish Cafe参加(4時間)			
3	内容と構成の準備	将来の目的についての内容と構成の準備について学びます。					スピーチ作成及びEnglish Cafe参加(4時間)			
4	スピーチの発表とフィードバック	将来の目的について、スピーチの発表とフィードバックを行います。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
5	内容と構成の準備	尊敬する人物について、内容と構成の準備について学びます。					スピーチ作成及びEnglish Cafe参加(4時間)			
6	スピーチの発表とフィードバック	尊敬する人物について、スピーチの発表とフィードバックを行います。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
7	内容と構成の準備	心に残った授業について、内容と構成の準備について学びます。					他者のスピーチの振り返り及びEnglish Cafe参加(4時間)			
8	スピーチの発表とフィードバック	心に残った授業について、スピーチの発表とフィードバックを行います。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
9	ノンバーバル・コミュニケーションの理論	ノンバーバル・コミュニケーションの理論について学びます。					スピーチ作成及びEnglish Cafe参加(4時間)			
10	ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備	理想とする教師像について、ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備について学びます。					スピーチ作成及びEnglish Cafe参加(4時間)			
11	ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバック	理想とする教師像について、ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバックを行います。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
12	ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備	地域とともにある学校について、ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備について学びます。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
13	ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバック	地域とともにある学校についてノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバックを行います。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
14	ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備	国際社会において必要なスキルについて、ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備について学びます。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
15	ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバック	国際社会において必要なスキルについて、ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバックを行います。					スピーチ発表準備及びEnglish Cafe参加(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「Present Yourself 1 (Second Edition): Experiences Student's Book」 Steven Gershon著C.U.P. Tokyo Telephone: 03-3518-8272. 編 (Cambridge University Press (Tokyo)) ISBN:9781107435636 (生協で購入してください。)					受講態度: 30% 各回の発表に対する評価70% S: 到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A: 授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B: 授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C: 授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.					

科目名	Writing Skills		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバ <sup>ハ</sup> リ <sup>ン</sup> グ	AC16055	研究室	N-02
担当者	マ <sup>ー</sup> メ <sup>ッ</sup> ト シ <sup>ョ</sup> ン <sup>・</sup> ル <sup>ヰ</sup> カ デ <sup>ィ</sup> イ <sup>ッ</sup> ド		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア <sup>ー</sup>	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
当初は、短い文書を書くことから始めて、徐々に複雑でより長い文章を書いていきます。英文法に留意しながら文章全体の構成を組み立て、よりの確に論旨が伝わる英文ライティングを行います。これらを通し文体を理解し、コミュニケーションへの応用を考えます。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法的に正確な英文を書くことができる。</li> <li>・内容を的確に相手に伝え、論旨が明確な英文を書くことができる。</li> <li>・正確な文法力と的確な伝達力を身につけ、表現方法と伝達内容について理解し、文体について考える力を身につけている。</li> </ul>										
授業の進め方										
短い文書を書くことから始めて、徐々に複雑でより長い文章を書いていきます。英文法に留意しながら文章全体の構成を組み立て、よりの確に論旨が伝わる英文ライティングを行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、授業内容の概要を紹介します。				事前：シラバスの熟読、事後：授業内容の振り返り(4時間)				
2	ライティングにおける論理的思考	ライティングにおける論理的思考について学びます。				第1回作文課題に取り組む(4時間)				
3	日本語の文章と英語の文章との対比	日本語の文章と英語の文章を対比しながら、実際に長文を書くことを行います。				第2回作文課題に取り組む(4時間)				
4	お知らせと通知に関するメールの短文	お知らせと通知に関するメールの短文を例に、内容の構成について学びます。				第3回作文課題に取り組む(4時間)				
5	お知らせと通知に関するメールの短文	お知らせと通知に関するメールの短文を例に、表現と文法の確認について学びます。				第4回作文課題に取り組む(4時間)				
6	お知らせと通知に関するメールの短文	お知らせと通知に関するメールの短文のファイナルドラフトを行います。				第5回作文課題に取り組む(4時間)				
7	自己紹介に関する短文	自己紹介に関する短文を例に、内容の構成について学びます。				第6回作文課題に取り組む(4時間)				
8	自己紹介に関する短文	自己紹介に関する短文を例に、表現と文法の確認について学びます。				第7回作文課題に取り組む(4時間)				
9	自己紹介に関する短文	自己紹介に関する短文のファイナルドラフトを行います。				ドラフトの振り返り、他者作成ドラフトの考察(4時間)				
10	松本市の産業に関する長文	松本市の産業に関する長文を例に、内容の構成について学びます。				第8回作文課題に取り組む(4時間)				
11	松本市の産業に関する長文	松本市の産業に関する長文を例に、表現と文法の確認について学びます。				第9回作文課題に取り組む(4時間)				
12	松本市の産業に関する長文	松本市の産業に関する長文のファイナルドラフトを行います。				ドラフトの振り返り、他者作成ドラフトの考察(4時間)				
13	日本の伝統文化に関する長文	日本の伝統文化に関する長文を例に、内容の構成について学びます。				第10回作文課題に取り組む(4時間)				
14	日本の伝統文化に関する長文	日本の伝統文化に関する長文を例に、表現と文法の確認について学びます。				第11回作文課題に取り組む(4時間)				
15	日本の伝統文化に関する長文	日本の伝統文化に関する長文のファイナルドラフトを行います。				ドラフトの振り返り、他者作成ドラフトの考察(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「PATHWAYS 1A: Reading, Writing, & Critical Thinking (Second Edition)」 Laurie Blass And Mari Vargo著 (National Geographic Learning Cengage) ISBN: 978-1337624886 (生協で購入してください。)				課題: 60% 受講態度: 20% 定期試験: 20% S: 到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A: 授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B: 授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C: 授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English language dictionary.」				Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.						

科目名	Writing Skills		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	AC26056	研究室	N-02
担当者	マネット ション		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
Writing Skills と比べると、より自らの主張を相手に伝える、意見サポート型と比較列挙型のエッセイ・ライティングの特徴を学び、実際に自らテーマを選んで英文エッセイを書いていきます。それらを通し、他の技能への応用がどのようにできるかも考えます。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイ・ライティングの特徴を理解することができる。</li> <li>・より豊富な語彙を用いて、的確に自らの主張を表現する英文エッセイを書くことができる。</li> <li>・文体を理解し、他の技能での活用を考え、応用できる。</li> </ul>										
授業の進め方										
エッセイの作成を中心に進めます。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、授業内容の概要を紹介します。					事前：シラバスの熟読、事後：授業内容の振り返り(4時間)			
2	意見サポート型エッセイ	意見サポート型エッセイを例に結論・理由のパターンについて学びます。					第1回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
3	意見サポート型エッセイ	意見サポート型エッセイを実際に作成し、結論・理由の書き方について学びます。					第2回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
4	添削のフィードバックを踏まえての書き直し	前回作成したエッセイの添削のフィードバックを踏まえての書き直しを行います。					添削されたエッセイの修正に取り組む(4時間)			
5	意見サポート型エッセイ	意見サポート型エッセイの分析について、パターンの学習をします。					第3回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
6	意見サポート型エッセイ	意見サポート型エッセイを実際に作成し、分析について学びます。					第4回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
7	意見サポート型エッセイ	意見サポート型エッセイを例に、理論・証明についてパターンの学習をします。					第5回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
8	意見サポート型エッセイ	意見サポート型エッセイを実際に作成し、理論・証明について学びます。					第6回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
9	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイを例に、論争についてパターンの学習をします。					第7回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
10	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイを実際に作成し、論争について学びます。					第8回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
11	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイを例に、比較についてパターンの学習をします。					第9回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
12	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイを実際に作成し、比較について学びます。					第10回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
13	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイを例に、分類についてパターンの学習をします。					第11回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
14	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイを実際に作成し、分類について学びます。					第12回エッセイ課題に取り組む(4時間)			
15	比較列挙型エッセイ	比較列挙型エッセイのまとめを行います。					これまでの授業内容振り返り(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「PATHWAYS 2A: Reading, Writing, And Critical Thinking (Second Edition)」 Laurie Blass And Mari Vargo著 (National Geographic Learning- Cengage) ISBN:978-1-337-62490-9 (生協で購入してください。)					課題：60% 受講態度：20% 定期試験：20% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.					

科目名	Discussion & Presentation		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36057	研究室	N-02
担当者	マネット ション		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
各テーマに対して、ペアワークもしくは小グループによるディスカッションを通して得た結論に対して、口頭にて英語で論理的にプレゼンテーションします。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話す内容から文脈や状況を判断して、批判的思考能力を活用し英語で返答したり自ら意見を述べたりするリスニングとスピーキングができる。</li> <li>その時々々の文脈及び状況に見合った語彙を用いて、批判的に考え、口頭で効果的な英語のプレゼンテーションができる。</li> </ul>										
授業の進め方										
ペアワークもしくは小グループによるディスカッションとプレゼンテーションを行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション、ディスカッションとプレゼンテーションの基礎	中学・高校での英語の授業でのディスカッションやプレゼンテーションを土台とした教育学理論的解釈について紹介する。				教育学的理論を使用して、プレゼンテーションのアウトラインを準備する(4時間)				
2	ペアワークによるディスカッション	自己PRで重視している点とは何か、ペアワークによるディスカッションを行います。				引き続き、教育学理論を使用して、プレゼンテーションのアウトラインを準備する(4時間)				
3	プレゼンテーション	自己PRで重視している点とは何か、ディスカッションで得た結論を各人がプレゼンテーションします。				適切な教育学理論を用いて、個々のプレゼンテーションの準備をする(4時間)				
4	ペアワークによるディスカッション	大学受験を通して学んだものは何か、ペアワークによるディスカッションを行います。				自身の大学の入学試験に基づいたスピーチの準備をする。(4時間)				
5	プレゼンテーション	大学受験を通して学んだものは何か、ディスカッションで得た結論を各人がプレゼンテーションします。				自身の大学の入学試験に基づいたプレゼンテーションを作成する。(4時間)				
6	ペアワークによるディスカッション	なぜ働くのかについて、ペアワークによるディスカッションを行います。				なぜ働くのかについてディスカッションの準備をする。(4時間)				
7	プレゼンテーション	なぜ働くのかについて、ディスカッションで得た結論を各人がプレゼンテーションします。				なぜ働くのかについて正確に説明できるように準備をする。(4時間)				
8	フィードバック	ペアワークに対するフィードバックを行います。				ペアワークの相手のスピーチについて「ピア評価」の準備をする。(4時間)				
9	小グループワークでのディスカッション	学生と社会人との違いについて、小グループワークによるディスカッションを行います。				学生と社会人の違いに関するディスカッションの準備をする。(4時間)				
10	役割担当を決めたプレゼンテーション	学生と社会人との違いについて、ディスカッションで得た結論について役割分担を決めてプレゼンテーションを行います。				学生と社会人との違いについてスピーチの準備をする。(4時間)				
11	小グループワークでのディスカッション	子どもにさせたい習い事について、小グループワークによるディスカッションを行います。				子どもにさせたい習い事についてディスカッションの準備をする。(4時間)				
12	役割担当を決めたプレゼンテーション	子どもにさせたい習い事について、ディスカッションで得た結論について役割分担を決めてプレゼンテーションを行います。				子どもにさせたい習い事についてのスピーチの準備をする。(4時間)				
13	小グループワークによるディスカッション	中学校と高校の教員に求められる能力とは何か、小グループワークによるディスカッションを行います。				中学校と高校の教員に求められる能力について、ディスカッションの準備をする。(4時間)				
14	役割担当を決めたプレゼンテーション	中学校と高校の教員に求められる能力とは何か、ディスカッションで得た結論について役割分担を決めてプレゼンテーションを行います。				中学校と高校の教員に求められる能力について、スピーチの準備をする。(4時間)				
15	フィードバック	小グループワークに対するフィードバックを行います。				グループワークのスピーチの「ピア評価」の準備をする。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「Speaking of Speech New Edition (DVD付)」ハリントン デービッド/ルポー チャールズ著( TOKYO TELEPHONE (03) 4533- 8082. ) 編(株式会社マクミラン ランゲージハウス) ISBN:978-0-2307-2601-7 (生協で購入してください。)		受講態度:30% 各回のプレゼンテーションに対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「Any English language dictionary.」		Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to consolidate material covered in class.								



科目名	Communicative English		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	AC36058	研究室	N-02
担当者	マネット ション		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
個人によるワークを中心に、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を統合的・効果的に活用し、4技能における文体を意識しながら、コミュニケーション能力を向上させるためにアクティブ・ラーニングを取り入れた様々な活動を行います。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の4技能を統合的・効果的に活用し、自己表現ができる。</li> <li>英語の4技能を統合的・効果的に活用し、円滑な相互理解をはかることができる。</li> </ul>										
授業の進め方										
これまでの英語学修を踏まえて、4技能を統合して活用することを中心に進めます。自ら考え、情報収集、分析、考察、発信を英語で行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行います。外国語没入法や授業への積極的な参加などの4技能を念頭に授業内容について説明します。				事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	自己発信型ワーク・プロジェクト	物語を英語で創作するとともに、あらすじを構想します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	自己発信型ワーク・プロジェクト	あらすじを実際にライティングします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	自己発信型ワーク・プロジェクト	あらすじを他者に英語で説明します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	自己発信型ワーク・プロジェクト	他者の意見を参考にしあらすじを再考します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	自己発信型ワーク・プロジェクト	物語のライティングを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	自己発信型ワーク・プロジェクト	作成した物語のプレゼンテーションを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	自己発信型ワーク・プロジェクト	フィードバックを行い、これまでの授業のまとめを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	探求型ワーク・プロジェクト	松本市の産業について探求課題を決めます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	探求型ワーク・プロジェクト	課題に対してインターネットや書物を調べます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	探求型ワーク・プロジェクト	調査結果を他者に説明します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	探求型ワーク・プロジェクト	他者の意見を参考にし調査結果を再考します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	探求型ワーク・プロジェクト	調査結果をまとめ、プレゼンテーションの準備をします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	探求型ワーク・プロジェクト	調査結果のプレゼンテーションを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	探求型ワーク・プロジェクト	フィードバックを行い、授業の総まとめを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「Let's Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD (Second Edition)」Leo Jones著(Cambridge University Press (2007)) ISBN:978-0521692816(生協で購入してください。)		受講態度：30% 各回のプロジェクトに対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「Any English Language Dictionary.」		Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review the material covered in class.								

科目名	Communicative English		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	AC36059	研究室	N-02
担当者	マネット ショーン		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、木曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
	A	B	C	2018年度～						
<b>授業概要</b>										
Communicative English から引き続き、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を統合的・効果的に活用し、相手の意識や文体を理解し、コミュニケーション能力を向上させるためにグループ単位によるアクティブ・ラーニングを取り入れた様々な活動を行います。授業中は英語のみが使用可能です。										
<b>学修到達目標</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の4技能を統合的・効果的に活用し、より高度な自己表現ができる。</li> <li>英語の4技能を統合的・効果的に活用し、聞く側を意識して、より込み入った内容に関して円滑な相互理解をはかることができる。</li> </ul>										
<b>授業の進め方</b>										
コミュニケーション能力を向上させるためにグループ単位によるアクティブ・ラーニングを取り入れた様々な活動を行います。授業は英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、授業の概要について説明します。				事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	自己発信型グループワーク・プロジェクト	グループで話し合い、課題を見つけるワークを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	自己発信型グループワーク・プロジェクト	課題に対して、グループ内で方向性を打ち合わせます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	自己発信型グループワーク・プロジェクト	課題に対して他グループに説明をします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	自己発信型グループワーク・プロジェクト	他グループの意見を参考にし、内容を再考します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	自己発信型グループワーク・プロジェクト	課題に対してのスキットのライティングを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	自己発信型グループワーク・プロジェクト	課題をプレゼンテーションします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	自己発信型グループワーク・プロジェクト	フィードバックを行い、これまでの授業のまとめを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	探求型グループワーク・プロジェクト	グループで話し合い課題を見つけます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	探求型グループワーク・プロジェクト	課題に対してインターネットや書物を調べます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	探求型グループワーク・プロジェクト	調査結果を他グループに説明します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	探求型グループワーク・プロジェクト	他グループの意見を参考にし、内容を再考します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	探求型グループワーク・プロジェクト	調査結果をまとめます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	探求型グループワーク・プロジェクト	調査結果をプレゼンテーションします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	探求型グループワーク・プロジェクト	フィードバックを行い、授業の総まとめを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「Let's Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD (2nd Edition)」Leo Jones著(Cambridge University Press (2008)) ISBN:978-0-521-69284-7(生協で購入してください。)		受講態度：30% 各回のプロジェクトに対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「Any English language dictionary.」		Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review the material covered in class.								

科目名	TOEIC総合演習		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36060	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	演習	オイスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
<p>本授業では、TOEIC L&amp;Rの徹底演習を通じて、英語スキルをより高い次元に引き上げることを目指します。学校教育の現場では高い英語力を備えた教員の必要性が高まり、当教育学部では4年次に小学校教員で550点、中学校英語教員で785点が要求されています。これまで学んできた基礎知識を土台に、これからの英語教育の担い手と成りうるに値する英語力を身に付けることを目指します。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC L&amp;Rで600点程度を取得できる英語力を身に付けている。リスニングでは、応答文のさまざまなパターンに慣れており、長めのアナウンスでも、キーワードと論理的展開から全体の要旨を理解できる。リーディングでは、基礎英文法が理解でき、長い文章でも論理的展開を意識することで読み進めるスキルを保持し、全体の要旨を把握できる。</p>										
授業の進め方										
<p>本番テストと同等の公式問題集、E-ラーニングを使い、多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチし、学生自身が問題の解答方法を考えるなどのグループワークを多く取り入れます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方の説明 個別カウンセリング(スコアレポートを持参すること) 学習計画の立て方説明				学習計画を立てる、Eラーニング 600コースStage1,2 U001,U002(4時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	語尾から品詞を見抜く リスニングPart1 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、形容詞・副詞問題演習、Eラーニング U003,U004(4時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	品詞演習語順の知識を身に付ける リスニングPart2 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、品詞問題演習、Eラーニング U005,U006(4時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	主語・動詞の把握 リスニングPart2 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、主語・動詞の問題演習、Eラーニング U007,U008(4時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	時制 リスニングPart2 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、時制問題演習、Eラーニング U009,U010(4時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	代名詞問題 格違いと指すもの違い リスニング Part3 リーディングPart7、小テスト(part 1-part 2)				単語、音読、シャドーイング、受け身問題演習、Eラーニング U011,U012(4時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	接続詞 リスニング Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、前置詞問題演習、Eラーニング U013,U014(4時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	語彙のコロケーション リスニングPart3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、接続詞問題演習、Eラーニング U015,U016(4時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	語彙のコロケーション リスニング Part4 リーディングPart6				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U017,U018(4時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	文法問題演習 リスニングPart4 リーディングPart6、小テスト(part3)				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U019,U020(4時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニング Part4 リーディングPart6				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U021,U022(4時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニング part4通し リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U023,U024(4時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニング全体通し演習 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U025,U026(4時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	文法問題演習 リスニング全体通し演習 リーディングPart7、小テスト				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U027,U028(4時間)				
15	リーディング通し演習	75分でリーディングの通し演習				これまでの総復習、テストに備えて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「公式TOEIC Listening and Reading 問題集 6」(国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN:978-4-906033-58-4 (生協で購入してください。)				<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEIC400点以上の英語力がある学生を対象とした講座になります。TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期「TOEIC総合演習」も受講することを強く推奨しています。						

科目名	TOEIC総合演習		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AC36061	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度~					
授業概要										
<p>本授業では、TOEIC L&amp;Rの徹底演習を通じて、英語スキルをより高い次元に引き上げることを目指します。学校教育の現場では高い英語力を備えた教員の必要性が高まり、当教育学部では4年次に小学校教員で550点、中学校英語教員で785点が要求されています。これまで学んできた基礎知識を土台に、これからの英語教育の担い手と成りうるに値する英語力を身に付けることを目指します。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC L&amp;Rで650点程度を取得できる英語力を身に付けている。リスニングでは、応答文のさまざまなパターンに慣れており、長めのアナウンスでも、キーワードと論理的展開から全体の要旨を理解できる。リーディングでは、基礎英文法が理解でき、長い文章でも論理的展開を意識することで読み進めるスキルを保持し、全体の要旨を把握できる。</p>										
授業の進め方										
<p>本番テストと同等の公式問題集、E-ラーニングを使い、多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチし、学生自身が問題の解答方法を考えるなどのグループワークを多く取り入れます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方について説明し、自分の弱点や勉強法を検討します。				IPテストスコア持参。自分に合った計画を立てる。Eラーニング600 U001,U002 Stage2,3 (4時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart1 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U003,U004 (4時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U005,U006 (4時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U007,U008 (4時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U009,U010 (4時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	リスニングPart3 リーディングPart7、小テスト (part1-part2)				単語、音読、シャドーイング、問題演習、ELU011,U012 (4時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart3 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U013,U014 (4時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart3 リーディングPart7, part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U015,U016 (4時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	リスニング Part4 リーディングPart7, part6問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U017,U018 (4時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	"リスニングPart4 リーディングPart7 小テスト (part3)"				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U019,U020 (4時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	リスニング Part4 リーディングPart7, part6問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U021,U022 (4時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	リスニング Part1-part2 通し演習 リーディングPart7, part6問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U023,U024 (4時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart3通し演習 リーディングPart5,6通し演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U025,U026 (4時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	リスニング Part4通し演習 リーディングPart5,6通し演習 小テスト (part4)				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U027,U028 (4時間)				
15	リーディング通し演習	75分でリーディングの通し演習				これまでの総復習。定期試験に向けて準備(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「公式TOEIC Listening and Reading 問題集 6」(国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN:978-4-906033-58-4 (生協で購入してください。) 前期のテキストを引き続き使用します。				<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEIC400点以上の英語力がある学生を対象とした講座になります。TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、来年度「TOEIC総合演習」も受講することを強く推奨しています。						

科目名	TOEIC総合演習		学年学期	4年前期	単位数	2	ナパ'リング	AC46062	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業では、TOEIC L&amp;Rの徹底演習を通じて、英語スキルをより高い次元に引き上げることを目指します。学校教育の現場では高い英語力を備えた教員の必要性が高まり、当教育学部では4年次に小学校教員で550点、中学校英語教員で785点が要求されています。これまで学んできた基礎知識を土台に、これからの英語教育の担い手と成りうるに値する英語力を身に付けることを目指します。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC L&amp;Rで600点程度を取得できる英語力を身に付けている。リスニングでは、応答文のさまざまなパターンに慣れており、長めのアナウンスでも、キーワードと論理的展開から全体の要旨を理解できる。リーディングでは、基礎英文法が理解でき、長い文章でも論理的展開を意識することで読み進めるスキルを保持し、全体の要旨を把握できる。</p>										
授業の進め方										
<p>本番テストと同等の公式問題集、E-ラーニングを使い、多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチし、学生自身が問題の解答方法を考えるなどのグループワークを多く取り入れます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方の説明 個別カウンセリング(スコアレポートを持参すること) 学習計画の立て方説明				学習計画を立てる、Eラーニング 600コースStage1,2 U001,U002(4時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	語尾から品詞を見抜く リスニングPart1 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、形容詞・副詞問題演習、Eラーニング U003,U004(4時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	品詞演習語順の知識を身に付ける リスニングPart2 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、品詞問題演習、Eラーニング U005,U006(4時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	主語・動詞の把握 リスニングPart2 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、主語・動詞の問題演習、Eラーニング U007,U008(4時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	時制 リスニングPart2 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、時制問題演習、Eラーニング U009,U010(4時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	代名詞問題 格違いと指すもの違い リスニング Part3 リーディングPart7、小テスト(part 1-part 2)				単語、音読、シャドーイング、受け身問題演習、Eラーニング U011,U012(4時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	接続詞 リスニング Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、前置詞問題演習、Eラーニング U013,U014(4時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	語彙のコロケーション リスニングPart3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、接続詞問題演習、Eラーニング U015,U016(4時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	語彙のコロケーション リスニング Part4 リーディングPart6				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U017,U018(4時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	文法問題演習 リスニングPart4 リーディングPart6、小テスト(part3)				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U019,U020(4時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニング Part4 リーディングPart6				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U021,U022(4時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニング part4通し リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U023,U024(4時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニング全体通し演習 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U025,U026(4時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	文法問題演習 リスニング全体通し演習 リーディングPart7、小テスト				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング U027,U028(4時間)				
15	リーディング通し演習	75分でリーディングの通し演習				これまでの総復習、テストに備えて自己学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「公式TOEIC Listening and Reading 問題集 6」(国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN:978-4-906033-58-4 (生協で購入してください。)				<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEIC400点以上の英語力がある学生を対象とした講座になります。TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期「TOEIC総合演習」も受講することを強く推奨しています。						

科目名	TOEIC総合演習		学年学期	4年後期	単位数	2	ナバリング	AC46063	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本授業では、TOEIC L&amp;Rの徹底演習を通じて、英語スキルをより高い次元に引き上げることを目指します。学校教育の現場では高い英語力を備えた教員の必要性が高まり、当教育学部では4年次に小学校教員で550点、中学校英語教員で785点が要求されています。これまで学んできた基礎知識を土台に、これからの英語教育の担い手と成りうるに値する英語力を身に付けることを目指します。</p>										
学修到達目標										
<p>TOEIC L&amp;Rで650点程度を取得できる英語力を身に付けている。リスニングでは、応答文のさまざまなパターンに慣れており、長めのアナウンスでも、キーワードと論理的展開から全体の要旨を理解できる。リーディングでは、基礎英文法が理解でき、長い文章でも論理的展開を意識することで読み進めるスキルを保持し、全体の要旨を把握できる。</p>										
授業の進め方										
<p>本番テストと同等の公式問題集、E-ラーニングを使い、多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチし、学生自身が問題の解答方法を考えるなどのグループワークを多く取り入れます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方について説明し、自分の弱点や勉強法を検討します。				IPテストスコア持参。自分に合った計画を立てる。Eラーニング600 U001,U002 Stage2,3 (4時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart1 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U003,U004 (4時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U005,U006 (4時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U007,U008 (4時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U009,U010 (4時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	リスニングPart3 リーディングPart7、小テスト (part1-part2)				単語、音読、シャドーイング、問題演習、ELU011,U012 (4時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart3 リーディングPart7,part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U013,U014 (4時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart3 リーディングPart7, part5問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U015,U016 (4時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	リスニング Part4 リーディングPart7, part6問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U017,U018 (4時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	"リスニングPart4 リーディングPart7 小テスト (part3)"				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U019,U020 (4時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	リスニング Part4 リーディングPart7, part6問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U021,U022 (4時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	リスニング Part1-part2 通し演習 リーディングPart7, part6問題演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U023,U024 (4時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart3通し演習 リーディングPart5,6通し演習				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U025,U026 (4時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト	リスニング Part4通し演習 リーディングPart5,6通し演習 小テスト (part4)				単語、音読、シャドーイング、問題演習、EL U027,U028 (4時間)				
15	リーディング通し演習	75分でリーディングの通し演習				これまでの総復習。定期試験に向けて準備(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「公式TOEIC Listening and Reading 問題集 6」(国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN:978-4-906033-58-4 (生協で購入してください。) 前期のテキストを引き続き使用します。				<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%</p> <p>受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、教科書の例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEIC400点以上の英語力がある学生を対象とした講座になります。						

科目名	TOEFL演習		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ <sup>1</sup> リング	AC26064	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C	2018年度～				
授業概要										
TOEFLはアカデミック英語のスキルを測る4技能試験です。本授業では、試験の概要と問題のタイプを理解した上で各自が学習計画を立て、テキストやウェブサイトなどの教材を用いて学習を進めます。将来留学を可能にする準備として、米国大学入門レベルのテキストのリーディングやリスニングで概要が把握できるよう演習を行います。特に基礎となる語彙力をつけることを重視し、小テストを行います。										
学修到達目標										
TOEFLの問題形式に慣れる。短い英語の論文や講義ならば概要を理解することができる程度の英語運用能力を目指す。講座終了時までTOEFL iBT(もしくはTOEFL Practice Test Online)で45点以上を取得、またはそれと同等の英語運用能力を獲得する。										
授業の進め方										
リーディングとリスニングの問題演習を通してインプットした情報を、ライティング・スピーキングの練習でアウトプットするというサイクルでトレーニングをします。スピーキングはネイティブスピーカーの講師が担当します。少人数クラスで行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	TOEFLの概要	TOEFL iBTの概要を理解し、到達目標を確認した上で、各自学習計画を立てる。スマートフォン、タブレット、PCのアプリケーションなど、学習環境を整える。授業で利用するウェブサイトの利用方法を確認。				単語とフレーズの学習(4時間)				
2	学習コーチング	講師と面談を行い実行可能な学習計画を立てる。その間、他の履修生はテキストのリーディング問題に取り組む。				リーディングとリスニング問題の予習、復習(4時間)				
3	スピーキング演習(1)	TOEFL iBTのスピーキング問題の特徴を把握する。				スピーキングのトレーニング(4時間)				
4	スピーキング演習(2)	スピーキングの基本を学ぶ。				スピーキングのトレーニング(4時間)				
5	リーディング問題演習(1)	アカデミックな文書を読むための読解の基礎を学ぶ。				単語、リーディング問題の復習(4時間)				
6	リスニング問題演習(1)	大学生の日常生活に関する会話を聞き、要点をノートに取る練習を行う。				問題演習、音読トレーニング(4時間)				
7	アカデミックライティングの基礎	アカデミックライティングの基本的ルールを学ぶ。さらに、実際に書くトレーニングを行う。				単語、ライティング課題(4時間)				
8	リーディング問題演習(2)	テキストのリーディング問題の精読に取り組む。				問題演習、ライティング演習(4時間)				
9	TOEIC S&Wを受験する	コンピューターベースの試験を実際に受験し、受験形式に慣れる。				リスニングトレーニング(4時間)				
10	リーディング問題演習(3)	基本文法を復習しながら、テキストのリーディング問題の精読に取り組む。				単語、リーディング問題の復習				
11	リスニング問題演習(2)	大学の講義や講演を聞き、要点を書き取るトレーニングを行う。				リスニングのトレーニング(4時間)				
12	スピーキング演習(3)	身近な話題について話すトレーニングを行う。				スピーキングのトレーニング(4時間)				
13	スピーキング演習(4)	TOEFL iBTのIndependent Taskに似た形式の問題に取り組む。				単語、スピーキングトレーニング(4時間)				
14	リーディングとライティング 実践問題	実際の問題形式に近い問題に取り組む。				これまでの単語の復習、読解問題の復習、リスニングのトレーニング(4時間)				
15	定期試験	リーディング、リスニング、ライティングの試験を行う。				定期試験に向けての学習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「講師配布プリント」(講義にて配布します。)				定期試験:30% 小テスト:30% 課題:30% 受講態度:10% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEFLスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「GET READY FOR THE TOEFL TEST」董 忠義 Bill Benfield著(成美堂) ISBN:9784791960316 「英作文基礎10題ドリル」竹岡 広信著(駿台文庫) ISBN:978-4-7961-				TOEIC500点または英検2級程度の英語力があることを想定した講座です。不安がある学生は講師に相談してください。またノートPCが使える環境が必須です。						

科目名	TOEFL演習		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	AC26065	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
TOEFLは、アカデミック英語のスキルを測る4技能試験です。このコースでは、語彙力・文法力の基礎を固め、英語圏の大学での入門レベルのリーディングやリスニングに対応できる素地を作ります。さらに、グループワークやペアワークを通して、アカデミックな文脈でのスピーキングとライティングの基礎も学びます。なお、TOEFL iBT、または模試を受験することを推奨します。										
学修到達目標										
アカデミックな場面で必要となる語彙力・文法力の基礎を習得し、簡単な英語のテキストを読み、理解できる。また、短い講義や会話を聞き取り、それについてコメントすることができる。講座終了時までTOEFL iBT(または模試)で50点以上を取得できる、あるいはそれとほぼ同等の能力を有している。										
授業の進め方										
様々な分野のトピックに関するパッセージを読んだり聞いたりした後、それについて話し、書くトレーニングを行います。毎週の課題(単語の学習、リーディング、リスニング、スピーチ、ライティングなど)について授業内でフィードバックをします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	TOEFLの概要復習 Introduction	サンプル問題を解き、自分の得意・不得意を把握し、学習計画を立てる。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
2	Vocabulary Unit 1-3 芸術	単語の学習、芸術に関するパッセージを読み、リスニング問題に取り組む。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
3	Vocabulary Unit 5-7 生命科学	単語の学習、生命科学に関するパッセージを読み、リスニング、スピーキングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
4	Vocabulary Unit 9-11 社会科学	単語の学習、社会科学に関するパッセージを読み、リスニング、スピーキングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
5	Vocabulary Unit 13-15 自然科学	単語の学習、自然科学に関するパッセージを読み、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
6	Vocabulary Unit 17-20 日常生活	大学生の日常生活に関する語彙を学び、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				S単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
7	Grammar Unit 1-2 動詞の形と冠詞	単語の学習、文法(動詞の形と冠詞の復習)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
8	Grammar Unit 3-4 主述の呼応と比較表現	単語の学習、文法(主述の呼応と比較表現)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
9	Grammar Unit 5-6 助動詞と仮定法	単語の学習、文法(助動詞、仮定法)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
10	Grammar Unit 7-8 問題提起の表現、間接話法	単語の学習、文法(問題提起の表現、間接話法)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
11	Grammar Unit 9-10 動名詞と不定詞	単語の学習、文法(動名詞と不定詞)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
12	Grammar Unit 11-12 代名詞と受動態	単語の学習、文法(代名詞と受動態)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
13	Grammar Unit 13-14 接続詞、関係代名詞	単語の学習、文法(接続詞、関係代名詞)、リスニング、スピーキング、ライティングのトレーニングを行う。				単語とフレーズの学習、文法問題、音読など(4時間)				
14	リーディングとリスニングの総合演習	TOEFL形式の問題を解き、見直す。				総合演習問題の復習(4時間)				
15	スピーキングとライティングの総合演習	TOEFL形式の問題を解き、見直す。				定期試験に向けての準備(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
『『はじめてのTOEFLテスト完全対策 改訂版』』 Paul Wadden, Robert Hülke, 松谷 偉弘 著(旺文社) ISBN:4010944331(生協で購入してください。)				定期試験:30% 小テスト:30% 課題:30% 受講態度:10% 受講態度は授業中の発言回数、意欲等が評価されます。S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、難しい応用問題が解ける。TOEFLスコアにおいて著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
『VOCABULARY AND GRAMMAR FOR THE TOEFL TEST』 Ingrid Wisniewska著 ISBN:978-0-00-749966-3 『英作文基礎10題ドリル』竹岡広信著(駿台文庫) ISBN:978-4-7961-				TOEIC500点または英検2級取得程度の英語力があることを想定した講座です。不安がある学生は講師に相談してください。またノートPCが使える環境が必須です。						



科目名	異文化理解概論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	AC16066	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、金曜日3限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
イギリス、アメリカ、インド、フィリピンなどの英語圏社会における日常生活、風俗習慣、地理、歴史、文化、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションに関して具体的に事例を示しながら、日本の社会・文化と比較することによって、それぞれの異文化に対して理解を深めます。										
学修到達目標										
1.英語圏の社会および文化が理解できる。 2.異文化と比較することによって自文化に対する理解を深め、物事を多角的に捉えることができる。										
授業の進め方										
講義を中心としますが、適宜、グループディスカッションを行い、各授業テーマに対する理解を深めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方等について				テキスト第1章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
2	日本人、イギリス人、アメリカ人に対するステレオタイプ	ステレオタイプ概念、そしてそれらの具体例を通して。グループディスカッション。				テキスト第2章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
3	日本とアメリカにおける行事・風習の比較(クリスマス、ハロウィーン等)	クリスマス、ハロウィーン、イースター等の比較。グループディスカッション。				テキスト第3章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
4	日本、イギリス、アメリカの食文化の特徴	各国固有の食に関わる事柄について具体例を通して。グループディスカッション。				テキスト第4章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
5	日本、イギリス、アメリカの教育制度の比較	小学校から大学までの教育制度の違いについて。グループディスカッション。				テキスト第5章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
6	日本とアメリカのボディランゲージの違い	ノンバーバル・コミュニケーションについて。グループディスカッション。				テキスト第6章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
7	日本で使われているカタカナの英語表現とアメリカで使われている日本語表現	輸入された双方の言葉について具体例を通して。グループディスカッション。				テキスト第7章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	英国国教会とピューリタンに関する歴史の変遷	英国における宗教そして価値観について。グループディスカッション。				テキスト第8章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
9	イギリスにおける産業革命による資本主義社会の確立	英国における近代化について。グループディスカッション。				テキスト第9章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
10	イギリスにおける階級制	英国における社会階層について。グループディスカッション。				テキスト第10章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
11	アメリカにおけるWASP	米国における社会階層について。グループディスカッション。				テキスト第11章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
12	パックスブリタニカによるアジアへの影響(インド)	英国の世界への影響について。グループディスカッション。				テキスト第12章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
13	パックスアメリカーナによるアジアへの影響(フィリピン)	米国の世界への影響について。グループディスカッション。				テキスト第13章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
14	アメリカにおけるハワイ州の成り立ち	米国の太平洋地域への影響について。グループディスカッション。				テキスト第14章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
15	イギリスにおけるコモンウェルスレルムの成り立ち	英国の世界における影響力について。グループディスカッション。				テキスト第15章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「異文化理解入門」原沢伊都夫著(研究社) ISBN:978-4327377342(生協で購入してください。)		定期試験:60% レポート:30% 受講態度:10%(受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
適宜、授業中に紹介します。		問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:旅行会社に勤務し、米国駐在経験を有しますので、具体例を多く紹介します。								

科目名	英語圏文化演習		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36067	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、金曜日4限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
各授業にて、アメリカの文化に関して様々な視点から概観するテーマを設定してあります。それらのテーマに対して、具体的な事例を通して文化を学びます。身近な話題も取り上げており、日本と比較しながらアメリカの文化的特徴の理解を深めます。										
学修到達目標										
1. アメリカの文化的特徴を理解できる。 2. アメリカと日本の文化を比較することによって、多様性を理解しそれらに対する寛容性を身につける。 3. アメリカの文化に関して自らの視点で考え発表できる。										
授業の進め方										
テーマに沿って各授業の前半は講義を行います。その後、ペアもしくはグループディスカッションを行って理解を深めていきます。また、履修生は指定された授業にて、自ら選んだテーマに関する発表が求められます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方等について				テキスト第1章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
2	アメリカと日本の家族文化の比較	家族のあり方等具体例の比較を通して				テキスト第2章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
3	アメリカのボランティア活動文化	様々な形態のボランティア活動の具体例を通して				テキスト第3章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
4	アメリカと日本の企業文化の比較	働き方等に関して具体例の比較を通して				テキスト第4章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
5	アメリカと日本の就職活動文化の比較	就職活動に関して具体例の比較を通して				テキスト第5章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
6	学生の発表	第2回～第5回のテーマに関する発表				発表の準備(4時間)				
7	アメリカにおける移民による社会と文化への影響	アングロサクソン系について				テキスト第6章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	アメリカにおける移民による社会と文化への影響	アフリカ系について				テキスト第7章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
9	アメリカにおける移民による社会と文化への影響	アジア系について				テキスト第8章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
10	アメリカにおける異文化摩擦	異文化摩擦に関する具体例を通して				テキスト第9章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
11	学生の発表	第7回～第10回のテーマに関する発表				発表の準備(4時間)				
12	アメリカと日本の若者文化の比較	50年代以降の若者文化の比較を通して				テキスト第10章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
13	アメリカにおける消費文化	消費文化に関する具体例を通して				テキスト第11章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
14	アメリカにおける娯楽文化	スポーツ、テーマパーク、カジノ等について				テキスト第12章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
15	学生の発表	第12回～第14回のテーマに関する発表				発表の準備(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実」有賀夏紀、油井大三部編(有斐閣アルマ) ISBN:978-4641121621(生協で購入してください。)				定期試験:60% 受講態度:10% 発表30% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
適宜、授業中に紹介します。				問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:旅行会社に勤務し、米国駐在経験を有します。						

科目名	英語圏文化演習		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	AC36068	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、金曜日3限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
カナダの文化に対して様々な視点から理解を深めます。特に、アメリカの文化と比較することによって、カナダの文化的特徴を明らかにします。各授業では様々なテーマを設定しており、各事例を通して具体的に学びます。										
学修到達目標										
1. カナダの文化的特徴を理解できる。 2. 隣国アメリカとどのような文化的差異があるのかを理解できる。 3. カナダの文化に関して自らの視点で考え発表できる。										
授業の進め方										
テーマに沿って各授業の前半は講義を行います。その後、ペアもしくはグループディスカッションを行って理解を深めていきます。また、履修生は指定された授業にて、自ら選んだテーマに関する発表が求められます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方等について				テキスト第1章～第2章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
2	カナダ人に対するステレオタイプ	ステレオタイプに関して具体例を通して				テキスト第3章～第4章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
3	カナダとアメリカにおける食文化の比較	両国固有の食に関する事柄について具体例を通して				テキスト第5章～第6章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
4	カナダとアメリカにおける英語表現の比較	両国の表現の違いについて具体例を通して				テキスト第7章～第8章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
5	カナダとアメリカにおける宗教的文化的比較	両国の宗教事情と価値観について				テキスト第9章～第10章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
6	学生発表	第2回～第5回のテーマに関する発表				発表の準備(4時間)				
7	カナダにおける移民による社会と文化への影響	イギリス系について				テキスト第11章～第12章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	カナダにおける移民による社会と文化への影響	フランス系について				テキスト第13章～第14章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
9	カナダにおける移民による社会と文化への影響	アジア系について				テキスト第15章～第16章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
10	カナダにおける異文化摩擦	異文化摩擦に関する具体例を通して				テキスト第17章～第18章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
11	学生発表	第7回～第10回のテーマに関する発表				発表の準備(4時間)				
12	カナダの公用語	二言語政策について				テキスト第19章～第20章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
13	カナダの教育	イマージョンプログラムについて				テキスト第21章～第22章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
14	カナダにおける文化の捉え方の現状	多文化主義について				テキスト第23章～第24章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
15	学生発表	第12回～第14回のテーマに関する発表				発表の準備(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめて出会うカナダ」日本カナダ学会編(有斐閣) ISBN:978-4-641-17358-3(生協で購入してください。)				定期試験:60% 受講態度:10% 発表30% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
適宜、授業中に紹介します。				問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:旅行会社に勤務し、米国駐在経験を有します。						

科目名	異文化交流海外研修		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ・リッジ	AC26069	研究室	N-01
担当者	大石 文朗・和田 順一		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、金曜日3限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2018年度～					
授業概要										
この授業科目は、英語の教員免許取得希望学生のために設けられた短期留学プログラムです。2～3月に約2週間、米国ハワイ州にあるハワイ大学マノア校が実施する留学プログラムに参加します。留学中は基本的に、月曜日から金曜日の午前中は「英語」もしくは「英語教授法」に関する授業があり、午後は様々なアクティビティに参加します。宿泊はホームステイです。(諸事情により時期、研修先、滞在方法等を変更する場合があります。変更した場合には、事前にプログラム内容を周知します)										
学修到達目標										
1. 現地の人々との交流を通して文化や生活習慣の違いを自らの体験を通して理解できる。2. 様々な人々と積極的にコミュニケーションをとることができる。3. 英語が日常言語の環境で生活し、語学力を向上させる。4. 英語教授法を学び、英語を使って教える経験をする。5. 留学先に関する情報などを自ら調べ、計画的に物事を進めていく習慣を身につける。										
授業の進め方										
研修を突りあるものにするために、与えられた情報だけではなく、学生自ら探求し、一人ひとりが得た情報を皆で共有することを行います。さらに、渡航のために必要な事務手続きも進めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	研修の内容について				授業の内容についてまとめる。(4時間)				
2	研修先の歴史と文化	米国ハワイ州について				研修先の下調べを行う。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
3	学生が自ら調べてきた留学先に関する情報を発表し共有する	グループディスカッションと発表				留学先の情報を調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
4	現地にて英語で教えるための準備	自身の町(松本市)等について				松本市等について調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
5	現地にて英語で教えるための準備	日本の伝統文化等について				日本の伝統文化等について調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
6	現地にて英語で教えるための準備	日本の若者文化等について				日本の若者文化等について調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
7	出入国やホームステイに関する英語表現	研修で必要と想定される英会話表現について				日常英会話について予習する。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	海外における危機管理と自己管理	移動中そして滞在中の諸注意について				質問事項をまとめる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
9	出発前の最終確認	渡航に関する全般的な確認等について				質問事項をまとめる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
10	現地研修	午前(英語)、午後(キャンパス・市内見学等)				授業の予習と復習をする。(4時間)				
11	現地研修	午前(英語教授法)、午後(交流会:英語で松本市の紹介等)				授業の予習と復習をする。(4時間)				
12	現地研修	午前(英語)、午後(小旅行等)				授業の予習と復習をする。(4時間)				
13	現地研修	午前(英語教授法)、午後(交流会:英語で日本文化の紹介等)				授業の予習と復習をする。(4時間)				
14	現地研修	午前(英語)、午後(現地の伝統文化見学等)				授業の予習と復習をする。(4時間)				
15	報告会	一人ひとり口頭での報告				報告の準備をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
開講時に指示します。				課題:20% (課題とは報告会での発表です)、出発前ガイダンスへの取り組み20%、留学中の現地担当教員による評価60%、として評価します。 S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
適宜、授業中に紹介し、必要な資料はコピーを配布します。				様々な書類の提出期限は厳守してください。【実務経験のある教員が担当】実務経験の内容:旅行会社に勤務し、米国駐在を行い、多数の大学の留学プログラムに携わった経験。気軽に質問してください。						

科目名	国際交流演習		学年学期	2年通年	単位数	2	ナパ`リング	AC26070	研究室	N-02
担当者	マ-メット ショ-ン		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：火曜日2限、木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C	2018年度～				
授業概要										
グローバル化は急速に広がり、私たちを取り巻く環境は日常生活においても、国際的な交流と協力なくしては成りたちません。異なる言語、考え方、価値観、ライフスタイルを持つ人との交流は、新たな発見があり、自分自身を再確認し、新しい自分の価値を創造します。この授業では、国際交流の意義・目的について、外国人留学生やグローバル企業、松本地域に訪れた外国人観光客など様々な分野の方々との交流を通じて、国際交流について実践的に考えていきます。										
学修到達目標										
1) 国際交流について体験等を通して基礎的な知識を身につけている。 2) 実際に国際交流を体験し、自身や自文化について発信できる。 3) 外国人留学生と積極的な関わりを持つことが出来る。										
授業の進め方										
外国人留学生との交流を深め、自己理解・他者理解をします。そのうえで自身の考えを英語を使って発信します。最終的には留学プログラムやEnglish Cafeの運営を通じて、大学内において国際交流を広める活動を行っていきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	教育のグローバル化	日本の大学におけるグローバル化の状況を調べ、われわれを取り巻く環境の変化を学びます。				他国の大学教育におけるグローバル化について調べる。English Cafe準備。（4時間）				
2	企業のグローバル化	日本の企業におけるグローバル化の状況についてゲストスピーカーの話を聞き、われわれを取り巻く環境の変化を学びます。				日本企業のグローバル化調査とゲスト講話レポート作成。English Cafe参加。（4時間）				
3	外国人留学生との交流	外国人留学生と実際に交流します。自身についてお互いに話し合い、理解を深めます。				自己紹介の作成。他者の自己紹介をまとめる。English Cafe参加。（4時間）				
4	外国人留学生との交流	外国人留学生と実際に交流します。自身についてお互いに話し合い、理解を深めます。				自己紹介の作成。他者の自己紹介をまとめる。English Cafe参加。（4時間）				
5	外国人留学生との交流	外国人留学生と実際に交流します。自身についてお互いに話し合い、理解を深めます。				自己紹介の作成。他者の自己紹介をまとめる。English Cafe参加。（4時間）				
6	外国人留学生との交流まとめ	外国人留学生との交流を通じて学んだこと、体験して得たことをプレゼンテーションします。				プレゼンテーションの準備。English Cafe参加。（4時間）				
7	松本市内での交流	松本城での、通訳ガイドボランティアを見学します。				通訳ガイド準備。事前調査。English Cafe参加。（4時間）				
8	松本市内での交流	アルプス善意通訳協会から講師を招き、インバウンドおよび通訳ガイドについて学びます。				見学のまとめ。English Cafe参加。（4時間）				
9	松本市内での交流	松本城での、通訳ガイドボランティアを見学・体験します。				体験準備とまとめ。English Cafe参加。（4時間）				
10	松本市内での交流	松本城での、通訳ガイドボランティアを見学・体験します。				体験準備とまとめ。English Cafe参加。（4時間）				
11	留学プログラムの事前準備	本学で行われるサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わるための準備を行います。				留学プログラムの準備。English Cafe参加。（4時間）				
12	留学プログラム	本学でのサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わり、自身も参加します。				留学プログラムの準備。English Cafe参加。（4時間）				
13	留学プログラム	本学でのサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わり、自身も参加します。				留学プログラムの準備。English Cafe参加。（4時間）				
14	留学プログラム	本学でのサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わり、自身も参加します。				留学プログラムの準備。English Cafe参加。（4時間）				
15	まとめ	この授業を通じて学んだこと、体験して得たことをプレゼンテーションします。				プレゼンテーションの準備。English Cafe参加。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Macmillan Cinema English 1: American Society in Focus」Hiromi Akimoto And Mayumi Hamada (2004)著Japan Publications Trading Company Limited (Japan Publications Trading)編 (Japan Publctns. Email: maced@jptco.co.jp) ISBN:978-4-89585-505-1 (生協で購入してください。)				受講態度：30% レポート：10% 課題：60% S:国際交流の意義を正しく理解し、英語を使い自分自身について深く発信でき、積極的に交流を行うことができる。すべての課題が期待以上である。A:国際交流の意義を正しく理解し、英語を使い自分自身について発信でき、積極的に交流することができる。すべての課題が期待どおりである。B:国際交流の意義を理解し、英語での交流できる。すべての課題がおおむね期待どおりである。C:国際交流の意義を理解し、英語での交流ができる。課題がおおむね期待どおりである。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
適宜指示します				日頃から新聞等を読んで、日本と世界で起きている問題に関心を持ちましょう。コミュニケーション力を鍛える授業です。						

科目名	英語科指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リング	AC26071	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件	中高英語課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
	A	B	C	2018年度～							
授業概要											
英語を学習するということはどのようなことであるのかを、教師の立場として考えます。英語科の学習によって、生徒にどのような力をつけ、どのように育んでいくかの基本的な理解を深めます。											
学修到達目標											
英語科教育に関する教員として指導法やその背景にある理論的理解している。											
授業の進め方											
講義形式で進めますが、自分自身の経験を振り返り、友人と共有したり、議論していく必要があります。意見交換の際には積極的に発言してください。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション 英語教育の目的(英語学習の意義:自己を振り返って)	英語を学習する意義を、自分自身の学習経験を振り返り、考え理解する。					自身の英語教育経験を振り返り、今後の学習に活用するためにまとめる。(4時間)				
2	英語教育の目的(英語学習の意義)	英語を学習する意義を世界的視点から問題点等を考え理解する。					振り返った自身の英語教育と比較し、今後の英語教育の在り方の理解を深める。(4時間)				
3	英語教育の目的(教育の目的と英語教育)	教育の目的と、英語教育の目的を考え理解する。					英語教育の目的を深く理解する。(4時間)				
4	教育基本法、英語教育の指導目標(現行学習指導要領について)	教育基本法の基本的内容と現行外国語学習指導要領について理解する。					現行学習指導要領と次期学習指導要領の比較のため、現行指導要領を深く理解する。(4時間)				
5	英語教育の指導目標(次期学習指導要領について)	新外国語学習指導要領について、その学習の仕方と内容を理解する。					現行学習指導要領と次期学習指導要領の比較のため、次期指導要領を深く理解する。(4時間)				
6	英語教育の指導目標(コミュニケーション能力の構成要素:言語能力)	新学習指導要領と現行学習指導要領の外国語の目標について理解する。またコミュニケーション能力というものの全体像を理解し、さらに詳細に、言語能力について理解する。					英語を指導するために英語コミュニケーション能力を深く理解する。(4時間)				
7	英語教育の指導目標(コミュニケーション能力の構成要素:言語能力)	コミュニケーション能力というものの全体像を理解し、さらに詳細に、言語能力について理解する。					英語を指導するために英語コミュニケーション能力を深く理解する。(4時間)				
8	英語教育の指導目標(コミュニケーション能力の構成要素:方略能力等)	コミュニケーション能力というものの全体像を理解し、さらに詳細に、方略能力について理解する。					英語を指導するために英語コミュニケーション能力を深く理解する。(4時間)				
9	英語指導方法(評価基準)	英語指導に関する、目標設定と指導、評価について考え理解する。また評価基準について考え理解する。					英語指導の評価と指導の関係を深く理解する。(4時間)				
10	英語指導方法(授業の構成)	英語授業の全体的な流れと、各部分の詳細について理解する。					授業の流れ、またどのような活動を実施するかを深く理解する。(4時間)				
11	英語指導方法(授業での言語活動・ALTとの授業)	言語活動がどのようなものであるかを理解し、実際にどのような言語活動ができるか考える。					言語活動並びにALTとのTTの在り方について深く理解する。(4時間)				
12	英語指導方法(読解活動)	読解活動において、目標の設定やその実施の仕方について考え理解する。					「読むこと」の言語活動について深く理解する。(4時間)				
13	英語指導方法(文法指導と言語活動・ICTの活用)	文法指導に焦点を置く際の言語指導との関りについて考え理解する。					文法指導やICTの活用をした言語活動について深く理解する。(4時間)				
14	英語教師論(英語教師の役割)	教師の役割とはどのようなものであるのかを、自分自身の経験を振り返りながら考え理解する。					英語教師の生徒に対する役割を深く理解し、実践できるようにする。(4時間)				
15	小学校外国語活動との連携	小学校外国語科並びに外国語活動と中学校・高等学校の連携を考え理解する。					小学校・中学校・高等学校の外国語教育の連携を深く理解する。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」望月明彦編著(大修館書店) ISBN:978-4-469-24621-6(生協で購入してください。)					定期試験:50% 受講態度:10%						
「中学校学習指導要領」(東山書房) ISBN:978-4-8278-1558-0(生協で購入してください。)					小テスト・レポート・提出物等:40%						
「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂) ISBN:978-4-304-05169-2(生協で購入してください。)					S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
「高等学校学習指導要領」(東山書房) ISBN:978-4827815672(生協で購入してください。)											
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校学習指導要領」文部科学省著(東京書籍)					欠席は原則2回までです。英語力考査を実施し、評価に入れます。常に英語の勉強をしておいてください。主体的に考え、受け身ではなく積極的に取り組む必要があります。						
「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」文部科学省著(東洋館出版社)											

科目名	英語科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	AC26072	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件	中高英語課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～						
授業概要											
英語学習に関する理論等を応用し、指導案作成を学びます。その指導案の内容的中心となる教材をどのように扱っていくかを分析する教材分析、その指導案を基に実際に指導していくことを学びます。											
学修到達目標											
英語学習の理論等を基にし、教材分析を通し指導案が作成できる。指導案を基に授業を行うことができる。											
授業の進め方											
講義形式で進めますが、途中友人と意見交換をしたり、自分自身の計画を実施することがあります。それらに向け積極的に取り組んでください。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション(指導案の書き方)	学習指導案の全体的な流れと書き方を理解する。					指導案の全体像を深く理解する。(4時間)				
2	指導案の書き方(主眼)	1時間の授業の構成を理解し、主眼の立て方と授業構成を理解する。					授業構成と主眼の関係について深く理解する。(4時間)				
3	指導案の書き方(授業構成)	指導案の主たる活動の授業構成を理解し、具体的活動について考える。					主眼達成のための言語活動について深く理解する。(4時間)				
4	本時案の書き方(全体)	本時案の各部分の全体的バランスを理解し、本時案を書き上げる。					指導案の書き方を深く理解し、指導案を完成させる。(4時間)				
5	研究授業案の書き方(生徒の分析・評価の観点)	生徒の学習の分析の仕方と、指導における評価の観点を理解し、指導案に組み込む。					単元構想を理解し、研究指導案の書き方を深く理解する。(4時間)				
6	教材分析の仕方	授業で使用する教材を分析する視点を理解し、どのような教材でどのように教えるのかを理解する。					教材分析の在り方を理解し、その教材の活用を深く理解する。(4時間)				
7	教材分析(読みの活動)	「読むこと」に関する教材を教材分析の視点から考え、実際にどのような活動ができるかを考える。					「読むこと」の活動について深く理解し、実施できるようにする。(4時間)				
8	教材分析(書きの活動)	「書くこと」に関する教材を教材分析の視点から考え、実際にどのような活動ができるかを考える。					「書くこと」の活動について深く理解し、実施できるようにする。(4時間)				
9	教材分析(話す・聞くの活動)	「話すこと」「聞くこと」に関する教材を教材分析の視点から考え、実際にどのような活動ができるかを考える。					「話すこと」「聞くこと」の活動について深く理解し、実施できるようにする。(4時間)				
10	教材分析(4技能統合的活動)	4技能統合の在り方を理解し、それらを活用した教材分析を理解し考える。					4技能統合の言語活動について深く理解し、実践できるようにする。(4時間)				
11	言語活動教材作成	言語活動の教材を作成し、実際に実施する。					言語活動の在り方を深く理解し、教材を作成できるようにする。(4時間)				
12	言語活動教材作成(前時作成教材の改善)	統合的な言語活動の教材を作成・実施し、再度検討をする。					技能統合的な言語活動の実施を振り返り、再度検討をし、理解を深める。(4時間)				
13	模擬授業とリフレクション	模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。					模擬授業のリフレクションを行い、自身の授業を深く振り返る。(4時間)				
14	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	前時のリフレクションから指導案を改善し、新たな指導案に活かす。					前時のリフレクションが活かされているか検討をし、更に指導案を改善する。(4時間)				
15	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の再改善)	模擬授業を実施し、再度リフレクションを実施、指導案の再検討を行う。					これまでの理解から、指導案の再検討を深く行う。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」望月明彦編著(大修館書店) ISBN:978-4-469-24621-6 購入済み 「中学校学習指導要領」文部科学省著(東山書房) ISBN:978-4827815580 購入済み 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂出版) ISBN:978-4304051692 購入済み 「中学校外国語検定教科書(New Crown/New Horizon/Columbus)」他2冊を指定します。掲示で確認してください					定期試験:50% 受講態度:10% 小テスト・レポート・提出物・パフォーマンス等:40% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校学習指導要領」文部科学省著(東洋館出版社) 購入済み 「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」文部科学省著(開隆堂出版) 購入済み					欠席は原則2回までです。英語力考査を実施し、評価に加えます。常に英語の勉強をしておいてください。模擬授業を実施するには十分な準備をしてください。						

科目名	英語科指導法			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	AC36073	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件	中高英語課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C	2018年度～						
授業概要											
英語の授業を行っていくのに必要な様々な知識や指導法を理解し、コミュニケーション・アプローチを使用した授業が実践できることを目指します。											
学修到達目標											
授業を行う新たな知識や指導法を知り、それらを活用した模擬授業を行えるようにする。また模擬授業のリフレクションを通し、指導案を改善することができるようにする。											
授業の進め方											
講義形式で進めますが、模擬授業をしたり、友人の模擬授業を見てリフレクションを行います。積極的に意見を言うようにしてください。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション コミュニカティブ・アプローチの生成過程とその意味	コミュニケーション・アプローチの生成過程とその意味を理解する。またそれを自分自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
2	コミュニケーション・アプローチの生成過程とその意味：歴史的概観	コミュニケーション・アプローチの生成過程における歴史的指導方法の変遷を理解し、それらのメリット・デメリットを理解する。またそれを自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
3	コミュニケーション・アプローチの生成過程とその意味：理念	コミュニケーション・アプローチ中心の理念を理解し、それらを自身の活動に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
4	日本の英語教育の問題点	これまでの、また現代の日本の教育の問題点について理解をし、今後の自身の英語教育に活用する。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
5	英語授業デザイン：文法指導	文法指導のメリットとデメリット、並びに伝統的な指導法を理解し、自身の指導に活用する。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
6	英語授業デザイン：リーディング指導	リーディングの伝統的な指導の在り方、メリット・デメリットを理解し、コミュニケーション指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
7	英語授業デザイン：リーディング指導(具体的活動)	リーディングの様々な活動を体験し、どのようなプロセスが進行しているかを分析し、自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
8	英語授業デザイン：ライティング指導	ライティング指導の在り方と方法を理解し、自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
9	英語授業デザイン：スピーキング指導	スピーキングの伝統的な指導の在り方、メリット・デメリットを理解し、コミュニケーション指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
10	内容中心指導法	内容中心指導法について理解し、自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
11	指導案の作成	これまでの学習を指導案に活かし、実際の活動を構想する。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
12	模擬授業とリフレクション	作成した指導案に沿って、実際に模擬授業を実施し、リフレクションを行う。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
13	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	模擬授業のリフレクションから、再度指導案を検討し修正する。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
14	模擬授業とリフレクション(新指導案による模擬授業)	修正指導案を実施し、さらにリフレクションを重ねる。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
15	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	模擬授業のリフレクションをもう一度指導案に反映し、模擬授業並びに指導案の構築について理解する。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「英語授業デザイン」山岸信義・高橋貞雄・鈴木政浩編(大修館書店) ISBN:978-4-469-14241-9(生協で購入してください。) 「中学校学習指導要領」文部科学省著(東山書房) ISBN:978-4827815580 購入済み。 「中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省著(開隆堂出版) ISBN:978-4304051692 購入済み。 「高等学校学習指導要領」(東山書房)(生協で購入してください。) 購入済み。他3冊指定します。掲示を確認してください。					定期試験：50% 受講態度：10% 小テスト・レポート・提出物・パフォーマンス等：40% S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は別途指示します。					欠席は原則2回までです。英語力考査を実施し、評価に加えます。常に英語の勉強をしておいてください。難しい理論を学びます。積極的に復習をし、実際の指導に活かせるように練習をしてください。						



科目名	英語科指導法		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	AC36074	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	講義	ワイスア-	月曜日2限		
関連資格	中一(英語)、高一(英語)				履修条件	中高英語課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
	A	B	C	2018年度～						
授業概要										
これまでに学習を積み重ねてきた理論等や指導法を応用し、授業の内容とその指導法を改善していきます。										
学修到達目標										
実施した模擬授業の振り返りを適切に行い、次の指導案の改善へと向けることができる。また模擬授業をその目的とあつたコミュニケーションを中心としたより良いものに行うことができる。										
授業の進め方										
これまでの英語科指導法 ~ の内容を振り返り、指導案を作成、実施します。友人の模擬授業を観察したり、自分自身の模擬授業を観察してもらい、リフレクションを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション 学習指導要領の理解	これまでの学習を復習し、学習指導要領の理解を深める。				テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
2	指導案の作成	これまでの学習を復習し、実際の指導案を作成する。				テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
3	教材研究	教材分析の視点を復習し、各技能に対する教材分析を行う。				テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
4	模擬授業とリフレクション	作成した指導案を実施し、リフレクションを行う。				模擬授業のリフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
5	模擬授業とリフレクション(技能統合に基づいた活動:読み書き等)	「読むこと」「書くこと」の技能統合を目的とした指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。				テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
6	模擬授業とリフレクション(技能統合に基づいた活動:書き話す等)	「書くこと」「話すこと」技能統合を目的とした指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。				テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
7	模擬授業とリフレクション(技能統合に基づいた活動:聞く書く等)	「聞くこと」「書くこと」の技能統合を目的とした指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。				テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
8	模擬授業とリフレクション	技能統合を目指した指導案を作成、実施し、リフレクションを行う。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
9	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	技能統合を目指した指導案を、前時のリフレクションから再検討し指導案を改善していく。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
10	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の再改善)	前時のリフレクションから指導案を再度検討し、改善していく。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
11	模擬授業とリフレクション(新指導案による模擬授業)	改善した指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
12	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	改善した指導案と模擬授業のリフレクションから、再度指導案を改善する。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
13	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の再改善)	再度検討した指導案を実施し、さらにリフレクションを行う。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
14	模擬授業とリフレクション(改善新指導案による模擬授業)	改善が済んでいる指導案を使用し、模擬授業とリフレクションを行う。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
15	模擬授業とリフレクション(改善新指導案による模擬授業とまとめ)	指導案に沿って模擬授業を実施し、指導案の検討の仕方や改善の仕方を振り返り、指導案の構築方法を理解する。				理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「英語授業デザイン」山岸信義ほか編(大修館書店) ISBN:978-4469142419 購入済み 「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」望月明彦編著(大修館書店) ISBN:978-4-469-24621-6 購入済み 「中学校学習指導要領」文部科学省著(東山書房) 購入済み 「中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省著(開隆堂出版) 購入済み。他4冊指定します。揭示、要確認。 「高等学校学習指導要領」(東山書房)(生協で購入してください。) 購入				定期試験:30% 受講態度:10% 小テスト・レポート・提出物・パフォーマンス等:60% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
別途指示します。				欠席は原則2回までです。英語力考査を実施し、評価に加えます。常に英語の勉強をしておいてください。理論を実際の授業へむすびつけます。模擬授業の準備は十分に行ってください。						

科目名	教職入門ゼミナール			学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	AL26075	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
教職入門ゼミナールは1年次に行われた学生生活へのオリエンテーションに加えて、教育学部の学生として様々な活動に参加し、4年生における卒業論文製作を目指した研究や学修について学ぶことで、自らがどのような領域での教育に関する学問に興味があるかを検討します。それぞれの専門領域から教職についての課題を設定し、教職研究基礎ゼミナールを選択するための学習も行います。											
学修到達目標											
教職について理解し、自らの課題を設定しながら、卒業までを見通した学修計画を立てることができる。自ら課題テーマを設定し、情報収集、分析、考察のうえ、自らの意見を発表できる。											
授業の進め方											
授業の学習内容により、グループワークや、講義、討論を組み合わせで行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業のガイダンスと履修相談、及びキャリアアップセミナー準備を行います。					自分の履修計画を作成します。(1時間)				
2	教職研究基礎ゼミ説明	後期から始まる教職研究基礎ゼミを選択するための、ゼミ説明会を行います。以下4回に分けて全教員がプレゼンを行う。					各ゼミの先生方の専門分野について調べる。(1時間)				
3	教職研究基礎ゼミ説明	後期から始まる教職研究基礎ゼミを選択するための、ゼミ説明会を行います。					各ゼミの先生方の専門分野について調べる。(1時間)				
4	教職研究基礎ゼミ説明	後期から始まる教職研究基礎ゼミを選択するための、ゼミ説明会を行います。					各ゼミの先生方の専門分野について調べる。(1時間)				
5	教職研究基礎ゼミ説明	後期から始まる教職研究基礎ゼミを選択するための、ゼミ説明会を行います。					各ゼミの先生方の専門分野について調べる。(1時間)				
6	ゼミ決定相談	各ゼミごとに後期から始まる教職研究基礎ゼミ選択のための面談を行います。					面談で話し合い、決めたことを遂行する。(1時間)				
7	松大模試の返却と解説	3月に行われた松大模試の返却を受け、解説を聞いて理解を深めます。					松大模試の復習。(1時間)				
8	松大模試の返却と解説	松大模試の返却を受け、解説を聞いて理解を深めます。併せて教職研究基礎ゼミの希望予備調査を発表します。					松大模試の復習。(1時間)				
9	グループ研究	ゼミナールごとに行うグループ研究のテーマを決め、計画を立てます。					各自の興味関心のある分野について調べる。(1時間)				
10	教職研究基礎ゼミの所属発表と抽選およびグループ研究	予備調査を元に決定した教職研究基礎ゼミの所属を発表します。また人数が多くて決定に至らなかったゼミについては抽選を行います。					関心のある研究分野・領域等について教員と相談したり、調査したりする。(1時間)				
11	グループ研究	決めたテーマに沿ってグループ研究を進めます。					グループ研究を各自すすめる。(1時間)				
12	グループ研究	グループ研究をまとめ、発表の準備を行います。					発表の準備と練習をする。(1時間)				
13	グループ研究	資料を作成し、発表の練習を行います。					発表補助資料の作成を行う。(1時間)				
14	グループ研究	全体で発表会を行います。					発表を聞いてレポートを書く。(1時間)				
15	履修カルテとポートフォリオの作成	前期のまとめとして、履修カルテとポートフォリオを作成します。					前期の振り返り。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜資料を配付します。				受講態度：50% レポート：50% S：教職に就くことの意義とそのために必要な自分の課題を設定し、より良い教師像を描き、意欲を高めることができる A：教職に就くことの意義を理解し、意欲をもって自分の課題を設定できる B：教職に就くための意欲を高め、卒業までの課題を設定できる C：教職に就くために必要な課題を理解し、意欲的に学習できる							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				自分の専門分野を決める大切なゼミナール活動となります。将来を見据えて、自己開拓力を身に付けることを期待しています。ポートフォリオを持参、ファイリングすること							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
3年次の教職研究ゼミナールから4年次の卒業論文作成までを見通した、研究の基礎を学ぶゼミナールです。心理学的知見や教員の実践知を基盤にして、学級経営や特別活動、生徒指導、教育相談等の分野の論文や実践を読むことで、学校における人間関係づくりや学級集団づくりの大切さを理解します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、学級経営や生徒指導の研究を学ぶことで、学校教育の両輪といわれる教科指導と生徒指導の大切さを学びます。併せて自分の興味関心のある研究分野を探索し、論文の書き方についても理解することを目指します。											
授業の進め方											
主として一般的な学校場面での生徒指導上の課題(いじめ・不登校等)に関する研究や実践をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるかを考察・議論します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを熟読し、興味の研究分野について考える。事後は資料をまとめる(1時間)				
2	学級経営の基礎的研究について	学級経営や生徒指導上の今日的課題を資料等から理解し、その分野の研究を知って、全員で討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
3	学級経営の基礎的研究について	現在、学級経営や学級集団づくりの研究がどのように行われているのかを考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
4	学級経営の基礎的研究について	集団づくりと学級経営のあり方、子供たちの人間関係の今日的な課題について論文をもとに議論して、自分の考えを深めます。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
5	生徒指導の基礎的研究について	生徒指導上の実態を資料から読み解き、どのような研究が行われているかを知って議論します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
6	生徒指導の基礎的研究について	生徒指導上の課題を研究テーマから検索して、興味ある内容を精査します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
7	特別活動の基礎的研究について	特別活動と学級経営、生徒指導などの関係を議論によって深め、どのような研究が行われているかを理解します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
8	教育相談の基礎的研究について	教育相談と学級経営、生徒指導などの関係を議論によって深め、どのような研究が行われているかを理解します。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
9	構成的グループエンカウンターと人間関係づくり	構成的グループエンカウンター(SGE)について資料から議論し、体験(グループワーク)によって理解を深めます。					SGEの先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
10	対人関係ゲームと人間関係づくり	対人関係ゲーム(SIG)について資料から議論し、体験(グループワーク)によって理解を深めます。					SIG先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
11	論文検索の方法	論文の検索方法を知り、自分の興味関心のある分野の論文を実際に入手します。					論文以外の文献等について調べる。事後は入手した論文を要約する(1時間)				
12	先行研究や文献の利用	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味関心と課題意識を明確にします。					発表資料を用意する。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
13	課題発表会	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
14	課題発表会	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
15	まとめ	1年間の振り返りを行います。					振り返りのための資料を準備する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。						課題:50% レポート:50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み授業で学んだことを表現できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパ`リング	AL26076	研究室	A-15
担当者	羽田 行男		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
専門ゼミナールの基礎を成すのがこのゼミナールで、担当教官のもとで、2年次後期から卒業論文作成まで一貫した指導を受けます。内容としては、心理学、教育学、比較認知科学などに関連したテキストを読むことをとおして、人間とは何かという中心テーマに沿った学習をします。論理的思考力や批判的思考力を身につけるとともに、文章を要約する力や発表する力を養います。										
学修到達目標										
教員としての一般的な知識や能力に加えて、教育への理念や理想をもち、心理学や教育学に関する専門的なテキストを輪読・発表することをとおして、小学校教員としての基礎的な素養を身につけている。										
授業の進め方										
毎回、全員がテキストを下読みし、レジュメを準備します。担当者(輪番)の内容発表を受けて、全員で考察しながら、意見を出し合います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	教職研究基礎ゼミナールの目的を理解します。					霊長類の進化についてレジュメを作成する。(1時間)			
2	心の進化をさぐる	霊長類の進化と人間の進化について学習します。					チンパンジーの研究についてレジュメを作成する。(1時間)			
3	アイ・プロジェクト	チンパンジーを丸ごと理解する研究について学習します。					比較認知科学についてレジュメを作成する。(1時間)			
4	アフリカにゆく	「比較認知科学」の野外実験や参与観察について学習します。					野生のチンパンジーについてレジュメを作成する。(1時間)			
5	ボソソウの野生チンパンジー	野生チンパンジーのユニークな暮らしについて学習します。					チンパンジーの親子関係についてレジュメを作成する。(1時間)			
6	お母さんになったアイ	実験室におけるチンパンジー親子関係や子どもの発達について学習します。					チンパンジーの子育てについてレジュメを作成する。(1時間)			
7	子どもを育てる	チンパンジーの子育てと人間の子育ての違いについて学習します。					社会的知性の発達についてレジュメを作成する。(1時間)			
8	相手の心を理解する	社会的知性の発達の4段階説について学習します。					心の働きについてレジュメを作成する。(1時間)			
9	仲間とかかわる知性	利他性、連携、協力、互惠性などの心の働きについて考えます。					チンパンジーの文化継承についてレジュメを作成する。(1時間)			
10	教えない教育・見習う学習	チンパンジーの文化継承に関わる教育の方法について学習します。					言語の起源についてレジュメを作成する。(1時間)			
11	どうして言葉は生まれたか	言語の起源について学習します。					芸術に進化についてレジュメを作成する。(1時間)			
12	芸術の誕生	芸術の進化について学習します。					ボノボとチンパンジーを比較しレジュメを作成する。(1時間)			
13	ボノボとチンパンジー	チンパンジー属の別種であるボノボとチンパンジーについて学びます。					人間の想像力についてレジュメを作成する。(1時間)			
14	希望を生みだす知性	人間をして人間たらしめている想像する力について学習します。					研究基礎ゼミで獲得した能力にをノートにまとめる。(1時間)			
15	まとめ	研究基礎ゼミで学んだ内容を総括します。					まとめのレポートを作成する。(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「心の進化をさぐる」松沢哲郎著(NHKシリーズ) ISBN:978-4149109794 (生協で購入してください。) その他、適宜授業のなかで配布します。					レポート:50% 課題:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室」井上ひさし著文学の蔵編(新潮社(新潮文庫)) ISBN:4-10-116829-6 その他、適宜紹介します。					演習形式の授業が多くなるので、共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。授業担当者は、臨床心理士として公立の教育機関や学校において教育相談に従事しました。公認心理師。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナパ`リング	AL26076	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア`	火曜日3限、金曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
北米の文化や社会に関連した論文や著書等を精読することによって、異文化理解を深めるとともに、様々な視点から考察して論理的思考力と批判的思考力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
北米の文化や社会の特徴を理解し、物事を多角的に捉えることができる。多様性を理解し、異質な人々に対する寛容性の重要性を深く理解することができる。											
授業の進め方											
精読した論文または著書に対する概要を各自が発表し、それに対してディスカッションを行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方、今後の各自の研究テーマについて確認します					各自研究テーマについて検討する。(1時間)				
2	アメリカに関する基礎的研究	旧移民の特徴について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
3	アメリカに関する基礎的研究	新移民の特徴について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
4	アメリカに関する基礎的研究	日系移民の特徴について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
5	カナダに関する基礎的研究	旧移民の特徴について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
6	カナダに関する基礎的研究	新移民の特徴について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
7	カナダに関する基礎的研究	日系移民の特徴について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
8	アメリカにおける人種問題に関する研究	公民権運動について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
9	アメリカにおける人種問題に関する研究	アファーマティブ・アクションについて理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
10	カナダにおける人種問題に関する研究	多文化主義について理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
11	カナダにおける人種問題に関する研究	マイノリティについて理解します					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
12	先行研究の検索	自らのテーマに関連した先行研究の見つけ方について検討します					自らのテーマを具体的にする。(1時間)				
13	課題の発表	各自テーマについてプレゼンテーションを行います					発表の準備。(1時間)				
14	課題の発表	各自テーマについてプレゼンテーションを行います					発表の準備。(1時間)				
15	まとめ	これまでのまとめと今後の課題について整理します					これまでの学習内容のポイントをまとめる。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
テキストは指定しません。適宜、必要な資料を配布します。						レポート:50% 課題:50% S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
適宜、授業中に紹介します。						問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。また、発表に関してはしっかりと準備をして臨んでください。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日2限、金曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員によって行われる専門ゼミナールの基礎部分です。教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、特に興味のある研究領域での論文を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送ることを目的とします。特に、内容のみならず研究方法を学ぶことを通じて、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。											
学修到達目標											
体育・スポーツの今日的課題の文献の精読を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究に取り組むことができる。											
授業の進め方											
各自、興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、文献の精読、対話を通して論理的思考や批判的思考を高め、プレゼンテーションで発表します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	各自、興味をもって取り組むことができる研究課題を検討します。					研究課題の検討(1時間)				
2	体育・スポーツにおける今日的課題(1)	体育・スポーツにおける今日的課題について調べ、発表し、問題意識をもちます。(主に学校体育に関して)					各自事前に調べ、体育・スポーツにおける今日的課題について理解する(1時間)				
3	体育・スポーツにおける今日的課題(2)	体育・スポーツにおける今日的課題について調べ、発表し、問題意識をもちます。(主に運動部活動に関して)					各自事前に調べ、体育・スポーツにおける今日的課題について理解する(1時間)				
4	体育・スポーツにおける今日的課題(3)	体育・スポーツにおける今日的課題について調べ、発表し、問題意識をもちます。(主に地域スポーツに関して)					各自事前に調べ、体育・スポーツにおける今日的課題について理解する。(1時間)				
5	文献精読(1)	問題意識をもった論文や文献を精読し、その内容と所感を発表します。					問題意識の拡散をする。(1時間)				
6	文献精読(2)	問題意識をもった論文や文献を精読し、その内容と所感を発表します。					問題意識の拡散をする。(1時間)				
7	文献精読(3)	問題意識をもった論文や文献を精読し、その内容と所感を発表します。					問題意識の拡散をする。(1時間)				
8	文献精読(4)	問題意識をもった論文や文献を精読し、その内容と所感を発表します。					問題意識の収束をする。(1時間)				
9	文献精読(5)	問題意識をもった論文や文献を精読し、その内容と所感を発表します。					問題意識の収束をする。(1時間)				
10	プレゼンテーション作成(1)	問題意識と論文や文献の調査から、章立てを考え、プレゼンテーションを作成します。					パワーポイントの操作を習得する。(1時間)				
11	プレゼンテーション作成(2)	所感を取り入れながら、プレゼンテーションを作成します。					パワーポイントの操作習得する。(1時間)				
12	プレゼンテーション作成(3)	聞き手に伝わる内容になっているかを検討し、プレゼンテーションを修正します。					章立て、内容の再検討をする。(1時間)				
13	発表会(1)	発表を行い、お互いのプレゼンテーションに関して意見交換をし、発表の方法や内容を検討します。					発表および内容の検討をする。(1時間)				
14	発表会(2)	本番の発表会をおこない、研究方法や内容の検討をします。					発表および研究方法と内容の検討をする。(1時間)				
15	まとめ	課題意識から論文や文献調査を通し、次年度の研究につなげられるか検討をし、研究計画を作成します。					研究内容の検討と研究計画の作成をする。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「体育科教育の現在」日本体育科教育学会編(創文企画) ISBN:987-4-86413-020-2(生協で購入してください。)						課題:50% 受講態度:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、優れた論文が書ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや優れた論文が書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に合った論文が書ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に対し論文が書ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「新版 体育科教育学入門」高橋健夫他編(大修館書店) 「体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」高橋健夫著(明和出版)						論理的思考力や批判的思考力を身につけるには、まず、「当たり前」だと思われることを疑ってみましょう。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、理科の教育実践に関わる論文を読むことで、論理的思考力や批判的思考力や、プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。										
学修到達目標										
教員としての基本的な知識に加えて、理科教育が果たす基本的役割についての見方・考え方を深め、理想をもって教育の知見を生活に生かそうとすることができる。										
授業の進め方										
主として小学校理科の授業実践に関わる研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるのか等を加えて考察・討議します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。				事前にシラバスを読み自分の興味を掘り起こし、事後に自分の研究について考えましょう(1時間)。				
2	理科教育における実践的研究の進め方(1)	現在、理科教育における実践的研究が一般的にどのように行われているのかについて考え、討議します。				事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
3	理科教育における実践的研究の進め方(2)	現在、理科教育における実践的研究が一般的にどのように行われているのかについて考え、討議します。				事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
4	理科の授業改善に関わる実践的研究(1)	理科教育における実践的研究が、日々の授業改善にどのように生かされているのかについて考え、討議します。				事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
5	理科の授業改善に関わる実践的研究(2)	理科教育における実践的研究が、日々の授業改善にどのように生かされているのかについて考え、討議します。				事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
6	理科教育の今日的課題(1)	理科教育における実践的研究において、どのようなことが今日的な課題となっているのかについて考え、討議します。				事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
7	理科教育の今日的課題(2)	理科教育における実践的研究において、どのようなことが今日的な課題となっているのかについて考え、討議します。				事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
8	先行研究や文献の利用(1)	先行研究や文献を読み、まとめることで、自分の興味や関心の所在を明らかにしていきます。				事前に先行研究や文献を課題発表に生かし、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
9	先行研究や文献の利用(2)	先行研究や文献を読み、まとめることで、自分の興味や関心の所在を明らかにしていきます。				事前に先行研究や文献を課題発表に生かし、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
10	課題発表に向けての準備(1)	主として理科教育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について討議し、発表の準備をします。				事前に発表資料を試作し、事後に問題の所在を整理して修正しておく(1時間)。				
11	課題発表に向けての準備(2)	主として理科教育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について討議し、発表の準備をします。				事前に発表資料を試作し、事後に問題の所在を整理して修正しておく(1時間)。				
12	課題発表(1)	これまで取り組んできたテーマについてプレゼンテーション形式で発表し、それぞれについて集団で討議します。				事前に発表資料を完成し、授業後は討議内容を整理しておく(1時間)。				
13	課題発表(2)	これまで取り組んできたテーマについてプレゼンテーション形式で発表し、それぞれについて集団で討議します。				事前に発表資料を完成し、授業後は討議内容を整理しておく(1時間)。				
14	課題発表(3)	これまで取り組んできたテーマについてプレゼンテーション形式で発表し、それぞれについて集団で討議します。				事前に発表資料を完成し、授業後は討議内容を整理しておく(1時間)。				
15	まとめ	1年間のゼミナール活動について振り返り、本年度の改善点や次年度への見通しについて考えます。				事前に振り返りのための資料を準備し、事後に討議内容を整理しておく(1時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
各回、各自に内容に応じた資料を配布します。				レポート:30% 課題:30% 受講態度:40% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				演習形式での授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。						

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	AL26076	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	火曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
授業実践報告会や中間発表会、ゼミ卒論発表会、地域の授業実践及び協議会、社会科見学等に参加することで社会科授業づくりを学びます。さらに、社会科授業において大切な中心発問づくりを学びます。											
学修到達目標											
様々な授業研究協議会等に参加し、授業内容や目的を理解できる。また、社会科授業における中心発問を設定できる。											
授業の進め方											
指導案作成は単学年でのゼミ形式で行います。指導案分析等を3学年と共に行い、ゼミの発表会や地域授業・社会見学等では3・4学年と共に行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教職研究基礎ゼミナール概要	本授業の目的及び授業の流れを確認します。					見通しを立て研究を進めるために、2年次後半の計画を作成すること。(1時間)				
2	ゼミ中間発表会	中間発表会に参加し、3・4年生の取組について学びます。					発表から、自己の研究に役立ちそうなことをまとめる。(1時間)				
3	授業実践報告(1)	実践した授業についての報告検討会に参加します。					実践報告に対し述べられた意見をまとめ、自己の研究に活かせるようにする。(1時間)				
4	授業実践報告(2)	実践した授業についての報告検討会に参加します。					実践報告に対し述べられた意見をまとめ、自己の研究に活かせるようにする。(1時間)				
5	地域授業実践研究	地域で行われる社会科授業の見学及び検討会参加を行います。					授業記録や研究協議会での発言内容を振り返り、まとめること。(1時間)				
6	地域教材研究(1)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を培います。					見学に対する事前の調査や、質問等を考えておくこと。(1時間)				
7	地域教材研究(2)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を培います。					見学で学んだことをまとめておくこと。(1時間)				
8	指導案分析(1)	作成した指導案について、導入の妥当性について検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
9	指導案分析(2)	作成した指導案について、展開がアクティブ・ラーニングの視点に揃っているかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
10	指導案分析(3)	作成した指導案について、省察が適切に行われているかどうかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
11	指導案分析(4)	各々の指導案に沿った模擬授業及び研究協議会を行います。					作成した指導案にて模擬授業ができるようにすること。(1時間)				
12	指導案作成基礎(1)	3・4学年社会科指導案の中心発問までを作成・検討します。					指摘された内容について、再考し、指導案の修正を行うこと。(1時間)				
13	指導案作成基礎(2)	5学年社会科指導案の中心発問までを作成・検討します。					指摘された点について、再検討すること。(1時間)				
14	指導案作成基礎(3)	6学年社会科指導案の中心発問までを作成・検討します。					指摘された点について、再検討すること。(1時間)				
15	ゼミ卒論発表会参加	ゼミの卒業論文発表会及び研究協議会に参加します。					発表会の内容より、自己の研究の方向性をまとめる。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
なし。					課題：100% S:研究協議会等へ主体的に参加し、かつ、児童の主体的な学びを引き出す社会科授業の中心発問を作成することができる。A:研究協議会等へ主体的に参加し、かつ、一般的な学習課題を想定した社会科授業の中心発問を作成することができる。B:研究協議会へ参加し、かつ、一般的な学習課題を想定した社会科授業の中心発問を作成することができる。C:研究協議会へ参加し、かつ、発問を設定できる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし。					地域へ出たの見学等については、見学先の都合により予定が前後することがあります。また、一部を巡検とし、集中で行います。						



科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナバ'リング	AL26076	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	月曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。2年次は、教材研究として文学教材を読み、自分の解釈を持ち客観的に発表する学修を行って、文学的文章を読む力と論理的文章を書く力を総合的に高める15コマとなります。演習や課題発表を通して、論理的思考力や表現力、批判的思考力を身につけることをめざしています。											
学修到達目標											
1 卒業論文作成までの見通しを持っている。2 教員(含む社会人)としての一般的な知識や能力を身につけ、論理的思考力や表現力を修得している。3 国内外の文学作品の描写の読み方の基本を身につけている。4 専門と結びついた学習と研究を通して、豊かな教員(含む社会人)生活を送るための基礎的な知識を修得している。											
授業の進め方											
教材研究として文学を読み、作品に対する講義を聞くほかに、解釈の発表、解釈に対する討議、演習が中心です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	講義全体の見通しを持ちます。指導者の提示した文学作品を用いて読み方、まとめ方の基本を学びます。					シラバスを読む。読み方の基本をまとめ、指定範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
2	世界の文学(1)	指定作品を読み進め、自分の解釈を発表します。互いに検討することで読みの力を深めます。					読み方の基本をまとめ、指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
3	世界の文学(2)	指定作品を読み進め、自分の解釈を発表します。互いに検討することで読みの力を深めます。					テキストを読み進める。指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
4	世界の文学(3)	指定作品を読み進め、自分の解釈を発表します。討議を通して複数の解釈の視点をもちます。					テキストを読み進める。指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
5	世界の文学(4)	指定作品を読み進め、自分の解釈を発表します。討議を通して複数の解釈の視点をもちます。					テキストを読み進める。指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
6	世界の文学(5)	指定作品を読み進め、自分の解釈を発表します。解釈を客観的に述べる学習を行い、プレゼンテーション力を高めます。					テキストを読み進める。自らのプレゼンテーション力を省察する。(1時間)				
7	世界の文学(6)	指定作品を読み進め、自分の解釈を発表します。解釈を客観的に述べる学習を行い、プレゼンテーション力を高めます。					テキストを読み進める。自らのプレゼンテーション力を省察する。(1時間)				
8	日本の文学(1)	日本の近代文学の特徴や背景を知り、作家に対する多様な見方があることを知ります。研究対象とする作家を決めるための観点を理解します。					資料を読み観点を踏まえて引用する。考察を記述して次回持参する。(1時間)				
9	日本の文学(2)	研究対象とする作家を決める観点をもち、作品分析を深めます。					資料を読み観点を踏まえて引用する。考察を記述して次回持参する。(1時間)				
10	日本の文学(3)	研究対象とする作家を決める観点をもち、作品分析を深めます。					資料を読み観点を踏まえて引用する。考察を記述して次回持参する。(1時間)				
11	日本の文学(4)	研究対象とする作家を決める観点を踏まえ、作品分析を深めます。					作品を読み観点を踏まえて引用する。考察を記述して次回持参する。(1時間)				
12	日本の文学(5)	研究対象としていく作家を決め、読みを踏まえて報告し合います。全体で討議します。					作家の文体分析を進め引用し考察を書く。(1時間)				
13	日本の文学(6)	研究する作家の特色ある描写に対する読みを考察し、報告し合います。全体で討議します。					発表に向けて準備をする。(1時間)				
14	日本の文学(7)	仮決定した作家について、自分の解釈を客観的に述べ、プレゼンテーション力を高めます。					発表に向けて準備をする。(1時間)				
15	日本の文学(8)・総括	仮決定した作家について、自分の解釈を客観的に述べ、プレゼンテーション力を高めます。					発表を受けてまとめる。3年次に向けて見通しを持つ。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「レポートの組み立て方」木下是雄著(ちくま学芸文庫) ISBN:4480081216(生協で購入してください。) 「父と子」ツルゲーネフ・工藤精一郎訳著(新潮社) ISBN:978-4-10-201806-4 c0197(生協で購入してください。) 「ボバリー夫人」フローベール・吉川泰久訳著(新潮社) ISBN:978410208502-8(生協で購入してください。) 「若きウェルテルの悩み」ゲーテ・高橋義孝訳著(新潮社) ISBN:978-4102015018(生協で購入してください。)他1冊あり。連絡します。						課題:80% 実技:20% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき、適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき、適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり、表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり、表現している。課題をすべて行っている。欠席4回で単位を認定せず、遅刻・早退2回で1回の欠席となります。30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。欠席・遅刻は講義前までに連絡をしてください。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
講義中に適宜紹介します。						難易度の高い作品に取り組むことで、初等教育における物語や詩、社会人に必要な論理的文章に対する研究力を高めることにつながります。担当教員とアクトスへ出かける日もあります。(講演、研究授業等)					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	AL26076	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
これまで理解した外国語教育に関する知識や理解をさらに深めながら、自分自身の興味関心のある分野を探し、その分野等についての論文を読み、批判的に考え、発表します。											
学修到達目標											
外国語教育に関する論文を読んでいくために必要な知識や理解を深めている。また批判的思考をしながら論文を読むことを通し、論文のポイントや外国語教育の理論について深く理解している。											
授業の進め方											
各自で読んだ論文を発表し、それらに対しコメントや質疑応答を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	今後の研究に関して方向性を考え検討し、どのような研究を行っていくかを考えます。					研究の方向性について興味関心のある分野を検討する。(1時間)				
2	第二言語獲得モデル	第二言語を獲得する理論について基本的な理解します。					第二言語獲得のモデルを理解し、研究の在り方を考える。(1時間)				
3	第二言語獲得の認知的プロセス 1	第二言語獲得の認知的プロセスについての概要を理解します。					第二言語獲得の認知的プロセスの概要を理解し、研究の在り方を考える。(1時間)				
4	第二言語獲得の認知的プロセス 2	第二言語獲得の認知的プロセスのそれぞれの詳細部分について理解します。					第二言語獲得の認知的プロセスの詳細を理解し、研究の在り方を考える。(1時間)				
5	第二言語獲得の認知的プロセス 3	第二言語獲得の認知的プロセスのそれぞれの詳細部分について理解します。					第二言語獲得の認知的プロセスの詳細を理解し、研究の在り方を考える。(1時間)				
6	第二言語獲得の認知プロセスを活性化する英語指導法 1	第二言語獲得の認知的プロセスを活性化する英語指導法の在り方の概要について理解します。					実際の指導法の概要を理解し、研究の在り方を考える。(1時間)				
7	第二言語獲得の認知プロセスを活性化する英語指導法 2	第二言語獲得の認知的プロセスを活性化する英語指導法の在り方の詳細について理解します。					実際の指導法の詳細を理解し、研究の在り方を考える。(1時間)				
8	インプット重視の第二言語学習法・指導法 1	インプットを重視した第二言語学習法・指導法の在り方の概要とインプットの役割について理解します。					インプットの役割とその指導法の概要を理解し、研究の在り方について考える。(1時間)				
9	インプット重視の第二言語学習法・指導法 2 英語学習用	インプット重視の第二言語学習法・指導法におけるインプットの特徴について理解します。					インプットあり方の特徴を理解し、研究の在り方について考える。(1時間)				
10	インプット重視の第二言語学習法・指導法 3 英語指導法	インプットを重視した英語指導法の概要について理解します。					インプット重視の指導法を理解し、研究の在り方について考える。(1時間)				
11	論文の読み方と発表の仕方	先行研究を読み、どのように読んでいくのか、またどのように発表していくのかを理解します。					先行研究を読み、プレゼンの仕方を理解し、プレゼン準備をする。(1時間)				
12	先行研究講読と発表 1	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをします。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。(1時間)				
13	先行研究講読と発表 2	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをします。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。(1時間)				
14	先行研究講読と発表 3	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをします。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。(1時間)				
15	先行研究講読と発表 4 まとめ	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをします。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」村野井仁著(大修館書店) ISBN:978-4-469-24513-4 (生協で購入してください。)						レポート:50% 課題:50% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし						原則、欠席は2回までです。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	月曜日3限、火曜日4限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後半から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分です。内容は音楽と人間の発達の関わり、音楽教育の歴史、学校教育における音楽科の意義について、アウトキャンパスや関連する文献を読むことで論理的思考力や批判的思考力と共に、プレゼンテーション能力を身に付けることを目指します。また地域や学内ミニコンサートの企画、運営にも取り組みます。</p>										
学修到達目標										
<p>教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想を持ち、音楽と人間の発達の関わりや音楽教育に関する研究領域を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな生活を送るための知識を得ていること、またコンサートの企画、運営などに意欲的、協動的に取り組めることです。</p>										
授業の進め方										
<p>音楽と人間の発達と関わりや音楽教育の歴史、地域の伝統文化などについて文献資料を分担してプレゼンテーションをしながら様々な演習や討議を行います。またアウトキャンパス、コンサートの練習、企画、運営を行います。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えを持ちます。資料の分担を決めます。				事前にシラバスを読み、自分の興味に合った研究課題について考える。(1時間)				
2	音楽と人間の発達の関わりについて	人間は生まれてからどのように音楽と関わりながら発達していくのか、特に歌うことについて文献、映像資料から考察し討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
3	音楽教育の歴史について	明治以降の学制に伴う音楽教育の歴史から今日の学校教育における音楽科への変遷を捉え、様々な課題について考察し討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
4	音楽科の教科書の変遷	旧開智小学校資料館でアウトキャンパススタディーを行います。歴史的資料や教科書の変遷について討議しまとめます。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。コンサートの準備を進める。(1時間)				
5	楽器との関わりについて	子どもの身体の発達と楽器との関わりについて文献資料を読み、演習しながら討議します。新村文化祭に向けて練習します。				テーマについて自分なりに資料を読んでおく。コンサートに向けて練習する。(1時間)				
6	小学校における器楽教育について	学校教育現場での音楽科の意義と器楽教育の歴史について考察、討議します。新村文化祭に向けて練習します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。コンサートに向けて練習する。(1時間)				
7	新村文化祭参加	松本大学教育学部合奏隊として新村文化祭に参加し、地域の方々と交流し、多様な文化に触れます。				コンサートに向けて仕上げる。(1時間)				
8	子どもの聴く力	身の回りの生活の中の音や自然の音に気づき、人は音とどのように関わっているか、各自の経験を踏まえて討議します。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
9	鑑賞教育について	幼児教育や学校教育における鑑賞教育の史的展開を踏まえ、演習しながらあり方を討議します。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
10	創造性について	子どもの発達と創造性について文献を読み、各自の経験を踏まえて討議します。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
11	音楽教育における音楽づくりの活動	音楽教育における音楽づくりについて、各自の経験を踏まえて討議し演習を通してあり方を討議します。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
12	わらべうたについて	子どもの文化としてのわらべうたの教育的意義について、資料や実践を通して学びます。				テーマについて自分の知っているわらべうたを整理しておく。(1時間)				
13	日本の伝統文化について	我が国の伝統文化について考え、音楽教育としてどう伝承していくか考えます。様々な和楽器にも触れます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
14	新入生歓迎コンサートの企画	コンサートについて学内に発信し、演奏者の募集、チラシの作成など運営に必要な準備をします。				各自分担した作業を進める。(1時間)				
15	まとめ	これまで取り組んできた研究課題テーマの中から、各自が興味を持ったことについて発表します。1年間の振り返りとまとめを行います。				振り返りのための資料を準備する。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「音楽を学ぶということ」今川恭子 他著志民一成 他編(教育芸術社) ISBN:978-4-87788-766-7(生協で購入してください。)				<p>受講態度:50% レポート:50%</p> <p>S:探求姿勢を持って課題に取り組み、積極的な討論と理解した内容を正しく文章表現できる。A:探求姿勢を持って課題に取り組み、討論を通して理解した内容を文章表現できる。B:探求姿勢を持って課題に取り組み、討論しながら概ね理解し文章表現できる。C:課題に取り組み理解したことをまとめることができる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし				演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、及び討論への積極的な参加が望まれます。						

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-04
担当者	佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限、水曜日4限、金曜日3限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
これまでの学修を基礎として、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われるゼミナールの基礎部分です。内容は、心理学や算数・数学教育に関わる論文を読むことで、「算数・数学教育の立場から児童を育てる」ことを求めていきます。特に指導上の問題点を明確にすることを中心に進めて、それらの改善案を議論していきます。その中で、論理的思考力、批判的思考力を身につけ、さらに、プレゼンテーション能力を身につけていくことを目指します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、教育への理念や理想をもち、心理学や算数・数学教育の研究を学ぶことで、専門と結び付いた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を獲得している。											
授業の進め方											
主として、教育活動の学校場面で出会う子どもたちの算数数学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるかなどを考察・討議していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを読み質問を考えておく。自分の興味がある研究について見つける。(1時間)				
2	算数・数学教育の基礎的研究について(1)	現在の一般的な算数・数学教育の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
3	算数・数学教育学の研究について(2)	現在の一般的な算数・数学教育学の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
4	教育の場面における算数・数学教育学の研究について(1)	算数・数学教育学の研究が教育場面にどのような形で関わっているのかについて考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
5	教育の場面における算数・数学教育学の研究について(2)	算数・数学教育学の研究が教育場面にどのような形で関わっているのかについて考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
6	算数・数学教育学の諸問題(1)	算数・数学教育学の研究が実際の教育場面においてどのようなことが問題になっているのか考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
7	算数・数学教育学の諸問題(2)	算数・数学教育学の研究が実際の教育場面においてどのようなことが問題になっているのか考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
8	先行研究や文献の利用(1)	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
9	先行研究や文献の利用(2)	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
10	先行研究や文献の利用(3)	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
11	課題発表に向けての準備	主として、算数・数学教育学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について発表・討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
12	課題発表会(1)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議をします。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
13	課題発表会(2)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議をします。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
14	課題発表会(3)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議をします。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
15	まとめ	1年間の振り返りを行います。					振り返りのための資料を準備する。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
担当教員が内容に応じた必要資料を配付します。尚、資料は必ず保管して下さい。また、必要に応じて購入する場合があります。					課題:20% レポート:80% S:授業内容を高度に理解する。また、クリティカルに物事を捉え、論理的に考えることができる。さらに、探究心をもち自ら課題を設定して取り組むことができる。A:授業内容を理解する。また、クリティカルに物事を捉え考えることができる。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。B:授業内容を概ね理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。C:授業内容を60%程度理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
学習指導要領解説算数編 その他、参考図書は指示します。					ゼミ前のレポート作成が重要です。演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、及び討論への積極的な参加が望まれます。						

科目名	教職研究基礎ゼミナール		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパ`リング	AL26076	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	月曜日5限、木曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
英語学を含めた言語学分野の知識を用いながら、様々な言語事象を観察しそれらを分析的に説明する方法を考えます。グループでの議論を通じて理解を深め、多角的に言語事象を観察する癖をつけます。また、論文を批判的に読み、論理的に議論を組み立て、発表します。										
学修到達目標										
英語学を含む言語学分野の知識を持っており、当該分野の論文を批判的に読む方法を理解している。 言語事象を多角的に観察し、意見を共有することができる。 言語学的な理論を理解しており、論理的に議論を組み立て発表することができる。										
授業の進め方										
言語学分野の論文を読み、それらに対する考察や批判・反論を論理的に組み立て発表し議論します。 また、興味深い言語事象を取り上げ、それらを言語学的に分析し言語学的動機付けについて議論します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	このゼミナールの進め方や研究の方向性などについて理解します。				言語学分野について、自分の興味関心を掘り下げる。(1時間)				
2	言語学理論	言語学分野の全体像や研究の歴史を概観し、各理論とそれらの関係性を理解します。				事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
3	統語論1(音韻論)	英語学分野の中でも統語論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に音韻論について考えます。				音韻論に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
4	統語論2(形態論)	英語学分野の中でも統語論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に形態論について考えます。				形態論に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
5	統語論3(文法)	英語学分野の中でも統語論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に英文法について考えます。				英文法に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
6	意味論1(語彙意味論)	英語学分野の中でも意味論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に語彙意味論について考えます。				意味論に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
7	意味論2(認知意味論)	英語学分野の中でも意味論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に認知意味論について考えます。				認知意味論に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
8	意味論3(統・認知意味論)	英語学分野の中でも意味論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。認知意味論の理解をさらに深めます。				認知意味論の課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
9	語用論1(発話行為)	英語学分野の中でも語用論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に発話行為について考えます。				発話行為に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
10	語用論2(グライス)	英語学分野の中でも語用論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特にグライスの協調の原理について考えます。				会話の格率に関する課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
11	語用論3(語用論関連理論)	英語学分野の中でも語用論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。特に談話分析や会話分析について考えます。				事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
12	批判的に論文を読む1	事前に言語学分野の論文(英文法)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。				事前に英文法の論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
13	批判的に論文を読む2	事前に言語学分野の論文(意味論)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。				事前に意味論の論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
14	批判的に論文を読む3	事前に言語学分野の論文(語用論)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。				事前に語用論の論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
15	批判的に論文を読む4およびまとめ	事前に言語学分野の論文(応用言語学)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。				応用言語学の論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「授業毎に指示します。」				レポート:30% 課題:30% 実技:40% S:授業内容を完全に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解している。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「特になし。」				全回出席を前提にゼミを進めます。前向きに取り組む姿勢が大切です。						

科目名	教職研究基礎ゼミナール		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-02	
担当者	大蔵 真由美		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、金曜日3限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学修を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。本ゼミでは、教育の歴史に関する知見を深めるとともに、文献検索や文献収集の方法、論文の読み方といった専門ゼミナールで必須となる研究をする上での基本的スキルについて身につけることを目的としています。											
学修到達目標											
1.文献検索の方法を知り、必要な文献を探することができる。2.収集の方法について理解し、興味あるテーマに関する文献(論文)を収集できる。3.収集した論文を精読し、論文を読むということについて理解している。4.教育の歴史に興味を持ち、考察を深めたいテーマを定めることができる。											
授業の進め方											
演習及び報告を中心に進めていきます。文献検索や文献収集については、図書館で実際に検索を行うなど、実際に体験しながら研究するために必要な基本的スキルを身につけていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容及び授業の進め方の説明をします。					シラバスの熟読及び教育の歴史に関するこれまでの授業内容を復習する(1時間)。				
2	教育についての歴史	教育に関する事柄(主に教育の歴史について)で、各自がどのような内容に興味をもっているかを共有します。					教育の歴史に関するこれまでの授業内容を復習する(1時間)。				
3	教育に関する歴史遺産に触れる1	大学周辺の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる(1時間)。				
4	教育に関する歴史遺産に触れる2	松本市内の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる(1時間)。				
5	教育に関する歴史遺産に触れる3	松本市周辺の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる(1時間)。				
6	文献検索の方法1	文献検索の基本的方法を学びます。					図書館で教育関連図書の配架場所確認と興味を持った書籍タイトルを5冊以上メモしてくる(1時間)。				
7	文献検索の方法2	専門的な文献の検索方法を学びます。					文献検索の基本的方法を復習し、確実に行えるようにする(1時間)。				
8	文献検索の方法3	専門的な文献の収集方法を学びます。					専門的な文献の検索方法を復習し、確実に行えるようにする(1時間)。				
9	文献検索の方法4	読書ノート、レジュメの書き方について学びます。					専門的な文献の収集方法を復習し、確実に行えるようにする(1時間)。				
10	教育史の論文を読んでみよう1	小学校の成立に関する文献を担当者が報告し、検討します。					報告の準備及び練習(1時間)。				
11	教育史の論文を読んでみよう2	小学校の成立と地域とのかわりに関する文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
12	教育史の論文を読んでみよう3	小学校成立期から普及期の小学校・教員と家庭・保護者との関係に関する文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
13	教育史の論文を読んでみよう4	小学校成立期から普及期の小学生の生活に関わる文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
14	教育史の論文を読んでみよう5	小学校成立期から普及期の小学生の生活の変化に関わる文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
15	まとめ	授業全体のまとめを行います。					これまでの授業の復習をする(1時間)。				
テキスト			成績評価の方法・基準								
使用しません。必要に応じて、資料を配布します。			受講態度：35% レポート：35% 課題：30% 受講態度(意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、課題(期末課題)を総合して評価します。 <評価基準> S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業内容で取り上げた事柄を理解している。								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
授業の進捗に合わせて、紹介していきます。			卒業論文作成に必要な基本的スキルを身につける授業であるので、積極的に受講して下さい。提出物は締め切り期限を厳守し必ず提出して下さい。								

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	AL26076	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、特別支援教育に関して、専門と結びついた学習と研究を通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて特別支援教育分野の研究を学び、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための観点や知識を得る。											
授業の進め方											
主として、発達障害や知的障害等の本人・当事者のニーズに応じた教育のあり方や特別支援教育に関わる研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・検討します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを読んでくる。事後に自分の関心のあるテーマについて考える。(2時間)				
2	文献検索の方法	関心のある領域やテーマの発表と文献検索方法などの確認を行います。					自分の関心のあるテーマについて考える。(1時間)				
3	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。(2時間)				
4	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。(2時間)				
5	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。(2時間)				
6	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。(2時間)				
7	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。(2時間)				
8	先行研究や文献の利用	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
9	先行研究や文献の利用	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
10	先行研究や文献の利用	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
11	先行研究や文献の利用	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
12	先行研究や文献の利用	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
13	課題発表会に向けての準備	主として発達障害・知的障害や特別支援教育に関する研究をテーマとして各自が取り組んだ課題について発表・討議します。					発表資料を作成してくる。事後に討議内容を資料に反映させる。(2時間)				
14	課題発表会	これまで取り組んできたテーマについての内容を、プレゼンテーションの形で発表します。					発表資料の作成と準備をしてくる。(3時間)				
15	まとめ	これまでの振り返りを行います。					事後に再度内容を確認する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
内容に応じた必要資料を配布しますので、各自保管しておいてください。						課題：50% レポート：50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容を十分に理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標を理解して、課題に取り組み、各回の授業で学んだことを表現できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパ`リング	AL36077	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：火曜日4限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また卒業研究を視野に入れ、学級経営、生徒指導、特別活動等の領域における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解できる。その具体的な目標は 教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解すること、ゼミナールの中での討論や講読を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけること、プレゼンテーション能力を身につけること、研究のテーマを決定すること。											
授業の進め方											
前期は担当教員が専門分野の研究について概説し、同時に各自の関心のあるテーマの論文をレポートして、質疑応答による討論を行います。また後期は各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導(個別把握)をします。					自分の履修状況を把握しておく。事後は研究についての概略をまとめる(1時間)				
2	専門入門	興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。以下、各回では一人ひとりがレポート発表を行います。					事前にゼミ担当教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える(1時間)				
3	専門入門	各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。					事前にゼミ担当教員の専門分野を予習し、演習後に、演習後の確認テストを実施します。(1時間)				
4	専門入門	同様に議論を深めて自分の関心ある研究を見極めます。					事前にゼミ担当教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後に小テストを実施します(1時間)				
5	文献検索の方法	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。できるだけ自分で検索しておく(1時間)				
6	文献検索の方法	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。(1時間)				
7	研究の方法	質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える(1時間)				
8	研究の方法	フィールドワークとして学校現場などで子供や先生を観察してデータを集めて、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく(1時間)				
9	研究の方法	学校現場などで自分が実際に子どもとかかわりながら、参与観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。(1時間)				
10	研究の方法	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
11	研究の方法	一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
12	研究の方法	卒業生(先輩等)が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
13	教育実習と卒業研究	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。(1時間)				
14	教育実習と卒業研究	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。					夏休み中の研究推進予定を立てておく。(1時間)				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。					夏休み中の研究成果をまとめておく。(1時間)				
17	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				
18	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
20	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
21	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
22	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
23	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
24	研究テーマの決定	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。特に「問題と目的」を明確にし、研究の計画を議論します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
25	研究テーマの決定	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。特に「問題と目的」を明確にし、研究の計画を議論します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
26	研究テーマの決定	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。特に「問題と目的」を明確にし、研究の計画を議論します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
27	研究テーマの決定	問題と目的を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
28	卒論構想発表会	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
29	卒論構想発表会	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:観察方法、分析方法を正しく理解し、討論や発表に意欲的に取り組み、卒業研究テーマに沿った準備ができている。A:観察方法、分析方法をほぼ理解し、討論や発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B:観察方法、分析方法をある程度理解し、討論や発表に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C:観察方法、分析方法を60%程度理解し卒業研究テーマに沿った準備を始めることができている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナバリング	AL36077	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、教育心理学、認知心理学、社会心理学領域における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に 学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、理解を深められるようになる。その具体的な目標は 教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を活用できる。討論や講読を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけている。プレゼンテーション能力を身につけている。研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導(個別把握)をします。					自分の履修状況を把握しておく。(1時間)				
2	専門入門(1)	興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える。(1時間)				
3	専門入門(2)	(1)同様に各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。					事前に教員の専門分野を予習し、演習後に、演習後の確認テストを実施します。(1時間)				
4	専門入門(3)	(1)(2)同様に議論深めて自分の関心ある研究を見極めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後に小テストを実施します。(1時間)				
5	文献検索の方法(1)	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。(1時間)				
6	文献検索の方法(2)	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。(1時間)				
7	研究の方法(1)	質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
8	研究の方法(2)	学校現場などでの実験的手法によるデータ収集、分析、検討の方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。(1時間)				
9	研究の方法(3)	学校現場などで気づいた現象について、より厳密な状況でデータを収集、分析検討する実験室実験手法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。(1時間)				
10	研究の方法(4)	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
11	研究の方法(5)	一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
12	研究の方法(6)	卒業生(先輩等)が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
13	教育実習と卒業研究(1)	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。(1時間)				
14	教育実習と卒業研究(2)	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
15	前期のまとめ	前期の学修内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。					夏休み中の研究推進予定を立てておく。(1時間)				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。					夏休み中の研究成果をまとめておく。(1時間)				
17	文献発表(1)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				
18	文献発表(2)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
20	文献発表(4)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
21	文献発表(5)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
22	文献発表(6)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
23	文献発表(7)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定(1)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定(2)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定(3)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定(4)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
別途指示します。		課題：50% レポート：50% S：観察方法、分析方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。A：観察方法、分析方法を理解し、討論や発表、課題に積極的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。B：観察方法、分析方法を概ね理解し、討論や発表、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。C：観察方法、分析方法を最低限理解し、討論や発表、課題に取り組み、卒業研究テーマを設定できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
別途指示します。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパ'リング	AL36077	研究室	A-12
担当者	小島 哲也			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、最終的に学生が自ら興味ある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究の方法と内容について具体的な計画を立てます。											
学修到達目標											
教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解している。ゼミナールでの討論や講義を通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけている。プレゼンテーション能力を身につけている。卒業研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期は、担当教員が専門分野と関連分野の研究について概説し、質疑応答による討論を行います。後期は2グループに分かれて文献検索やレポートを交互に行い、最終的に自分の研究テーマ、方法と内容を決めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と方法、事前事後学修について解説します。					事前にシラバスを読み、自分の興味関心のある研究テーマについて考える(1時間)				
2	専門入門	興味のある分野の文献を読み、レポート発表と討論により理解を深めます。					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
3	専門入門	前回のレポート発表を踏まえて同じ文献を再読し、レポート発表と討論によりさらに理解を深めます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
4	専門入門	関連文献のレポート発表と討論を行い、自分の関心のある研究テーマを定めます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
5	文献検索の方法	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
6	文献検索の方法	自分の研究テーマに関連する文献を実際に収集します。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
7	研究の方法	行動観察：障害児の音声発話をサンプルに観察手法を学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
8	研究の方法	行動観察：障害児の対人コミュニケーション行動をサンプルに観察手法を学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
9	研究の方法	行動の機能分析：障害児の問題行動をサンプルに機能分析の手法を学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
10	研究の方法	質問紙調査：学校現場における課題をサンプルに調査手法を学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
11	研究の方法	インタビュー調査：大学生の臨床経験と意識変容を対象に調査手法を学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
12	研究の方法	データ分析：統計的処理の手法について学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
13	研究の方法	データ分析：図表化の手法について学びます。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
14	教育実習と卒業研究	教育実習やボランティア活動を通して、自分の興味関心のある研究テーマを振り返り、研究内容を具体化します。					授業ノートをまとめ最終回に向けた準備をする(1時間)				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返り、夏季休暇中に進めるべき課題を明らかにします。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
16	後期ガイダンス	夏休み中の課題の報告を行い後期の研究の進め方について検討します。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
17	文献発表	関連文献(1)について発表と討論を行います(Aグループ)。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				
18	文献発表	主要文献(1)について発表と討論を行います(Bグループ)。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表	主要文献(2)について発表と討論を行います(Aグループ)。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
20	文献発表	主要文献(2)について発表と討論を行います(Bグループ)。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
21	文献発表	主要文献(3)について発表と討論を行います(Aグループ)。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
22	文献発表	主要文献(3)について発表と討論を行います(Bグループ)。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
23	文献発表	これまでの文献検討について全体討論を行います。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
24	研究テーマ決定	研究テーマの決定に向けた検討を行います(Aグループ)。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
25	研究テーマ決定	研究テーマの決定に向けた検討を行います(Bグループ)。	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
26	研究テーマ決定	研究テーマの発表を行います(Aグループ)	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする(1時間)
27	研究テーマ決定	研究テーマの発表を行います(Bグループ)。	授業ノートをまとめ構想発表に向けた準備をする(1時間)
28	卒論構想発表会	プレゼンテーションによる卒業研究の構想発表を行います(Aグループ)。	授業ノートをまとめ構想発表に向けた準備をする(1時間)
29	卒論構想発表会	プレゼンテーションによる卒業研究の構想発表を行います(Bグループ)。	授業ノートをまとめ実施計画作成に向けた準備をする(1時間)
30	授業のまとめ	1年間の授業活動を振り返り来年度の研究実施計画を確認します。	来年度の研究実施計画の内容を再確認する(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要な資料を授業で適宜配布する		レポート：60% 課題：40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B：授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし		演習形式の授業が多くなるため、授業の中で行うグループワークや討論への積極的な参加が望まれます。授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。	

科目名	教職研究ゼミナール		学年学期	3年通年	単位数	2	ナパリング	AL36077	研究室	A-10	
担当者	小林 敏枝		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限、木曜日4限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
<p>教員としての一般的な知識や能力に加えて、指導教員の専門領域を中心にした研究の基礎知識を学びます。教育への理念や理想を持ち、専門と結びつけた学修と研究を始めるゼミナールです。卒業研究を視野に入れ、障がい児・者が地域で豊かに暮らすためにはどうしたらよいか、特に余暇活動やスポーツの支援方法などの研究に触れながら、興味あるテーマをみつけ研究に関する計画を立てます。</p>											
学修到達目標											
<p>学校や教育現場を知り、卒業研究に向けたテーマを決める。教員としての課題解決能力の育成、考察や討論を通じて論理的思考や表現力、またプレゼンテーション能力を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>文献検索・論文の紹介などにより、基礎的内容について理解します。また、フィールドワークを通じて、観察・データ収集・分析・考察する方法を学びます。レポート・発表などを通じて、テーマを深めます。</p>											
<p>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導を行います。					履修状況を把握しておく。（1時間）				
2	専門入門（1）	興味のある分野に関連した文献・論文を読み、レポートにまとめます。					障がい者の余暇・健康・教育・福祉に関する文献を読み授業で扱った文献の復習をする。（1時間）				
3	専門入門（2）	興味のある分野に関連した文献・論文を読み、レポートにまとめ、発表し討論により深めます。					障がい者の余暇・健康・教育・福祉に関する文献を読み授業で扱った文献の復習をする。（1時間）				
4	テーマの決定（1）	各自のテーマを発表し、意見交換をします。					研究テーマを決定し、動機・問題・課題について考察しておく（1時間）				
5	テーマの決定（1）	各自のテーマを発表し、意見交換をします。					研究テーマを決定し、動機・問題・課題について考察しておく（1時間）				
6	文献検索方法（1）	図書館やパソコンを利用して、文献検索の方法を学び、実際に検索し収集します。					図書館やパソコンの利用について習熟しておく。文献検索の方法を復習する。（1時間）				
7	文献検索方法（2）	図書館やパソコンを利用して、文献検索の方法を学び、実際に検索し収集し、レポートにまとめます。					図書館やパソコンの利用について習熟しておく。文献検索の方法を復習する。（1時間）				
8	教育実習と卒業研究（1）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録・ボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
9	教育実習と卒業研究（2）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録・ボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
10	研究の方法（1）	フィールドワークとして教育現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動を観察して、データ収集します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
11	研究の方法（2）	フィールドワークとして教育現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動の観察データを分析します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
12	研究の方法（3）	観察・アセスメントにより調査する方法を学び、フィールドワークとして現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動の観察データを分析します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
13	研究の方法（4）	現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動の観察データを分析し、先行研究や文献を読み、分析・考察します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
14	「運動遊び」企画準備	障がい児対象の「運動遊び」講座の準備を行います。					障がい児の運動遊びについて調べる。（1時間）				
15	障がい児「運動遊び」講座を実施する	障がいのある子どもたちの運動遊び講座を実施します。（アウトキャンパス）					運動遊びの企画。事後の振り返り（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏休中の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会について理解し、見通しを持ちます。					夏休み中の研究進捗状況をまとめておく。（1時間）				
17	調査・測定（1）	データ収集を目的として、調査・測定を行います。					調査・測定準備と実施スケジュールの作成（1時間）				
18	調査・測定（2）	データ収集を目的として、調査・測定を行います。					調査・測定準備と実施スケジュールの作成（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	調査・測定（3）	データ収集を目的として、調査・測定を行います。	調査・測定準備と実施要領の作成（1時間）
20	調査・測定（4）	データ収集を目的として、調査・測定を行います。	調査・測定準備と実施要領の作成（1時間）
21	データ集計・分析（1）	テーマごとに収集したデータを集計します。	収集したデータの整理を行う（1時間）
22	データ集計・分析（2）	テーマごとに収集したデータを集計・分析します。	収集したデータの整理を行う（1時間）
23	データ集計・分析（3）	テーマごとに収集したデータを集計・分析します。	収集したデータの整理を行う（1時間）
24	中間報告の準備（1）	自分のテーマに沿って調査・測定した内容の報告準備をします。	調査結果のまとめ。（1時間）
25	中間報告の準備（2）	自分のテーマに沿って調査・測定した内容の報告準備をします。	調査結果のまとめ。（1時間）
26	中間発表会（1）	テーマに沿って1年間調査・研究した内容を報告します。	調査・研究内容をまとめる。（1時間）
27	中間発表会（1）	テーマに沿って1年間調査・研究した内容を報告します。	調査・研究内容をまとめる。（1時間）
28	卒論構想発表会（1）	卒業研究の構想発表会を行い、お互いの研究を理解し合い意見交換を行い、問題点を修正します。	研究構想発表会の準備を行う。4年次の研究に向けて計画を立てる。（1時間）
29	卒論構想発表会（2）	卒業研究の構想発表会を行い、お互いの研究を理解し合い意見交換を行い、問題点を修正します。	研究構想発表会の準備を行う。4年次の研究に向けて計画を立てる。（1時間）
30	まとめ	1年間の振り返り、来年度の本格的な研究の進め方の確認をします。	1年間の振り返りをまとめる。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜資料を配布します。		レポート：50% 課題：50% S：調査方法や分析方法を高度に理解している。卒業研究テーマに添った準備ができている。A：調査方法や分析方法を理解している。卒業研究のテーマに沿った準備ができている。B：調査方法や分析方法をおおよそ理解している。卒業研究のテーマに沿った準備ができている。C：調査方法や分析方法の60%理解できている。卒業研究のテーマの沿った準備がある程度できている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業時に紹介します。		フィールドワークを通じての体験が重要です。主体的に学ぶ姿勢を持ち、意欲的に取り組むことを望みます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナバリング	AL36077	研究室	A-15
担当者	羽田 行男			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教官の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、教育方法、教育相談、発達心理学領域におけるさまざまな研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に、学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解をしている。具体的には、教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解している。ゼミナールでの講読や議論を通して、論理思考力や批判的思考力を習得している。プレゼンテーションの能力を身につけている。研究テーマを決定する。											
授業の進め方											
毎回、全員がレポートやレジユメを準備します。担当者が発表し、全員で考察しながら理解を深めたり、意見を出し合ったりします。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	教職研究ゼミナールの目的を理解します。					発表用のレジユメを作成する。（4時間）				
2	研究テーマ発表（その1）	興味関心のある研究テーマについて発表し意見交換します。					第3のチンパンジーについてレジユメを作成する。（4時間）				
3	3種のチンパンジーの物語	霊長類の系譜について学びます。					大躍進についてレジユメを作成する。（4時間）				
4	大躍進	氷河期を生きたネアンデルタール人について学びます。					ヒトの性行動についてレジユメを作成する。（4時間）				
5	ヒトの性行動	ヒトの要求を満たした社会システムについて学びます。					人種の起源についてレジユメを作成する。（4時間）				
6	人種の起源	特徴と好みと配偶者の選択について学びます。					加齢についてレジユメを作成する。（4時間）				
7	人はなぜ歳をとって死んでいくのか	進化と加齢について学びます。					言語の不思議についてレジユメを作成する。（4時間）				
8	言葉の不思議	”言葉話す”類人猿について学びます。					芸術の起源についてレジユメを作成する。（4時間）				
9	芸術の起源	類人猿の芸術家たちについて学びます。					農業がもたらした明暗についてレジユメを作成する。（4時間）				
10	農業がもたらした光と影	階級格差の出現について学びます。					危険な薬物についてレジユメを作成する。（4時間）				
11	なぜタバコを吸い、酒を飲み、危険な薬物にふけるのか	危険で対価の大きい人間の行動について学びます。					一人ぼっちの宇宙についてレジユメを作成する。（4時間）				
12	一人ぼっちの宇宙	宇宙に存在する文明の数え方について学びます。					最後のファーストコンタクトについてレジユメを作成する。（4時間）				
13	最後のファーストコンタクト	人間社会のもうひとつのモデルについて学びます。					征服者になった人たちについてレジユメを作成する。（4時間）				
14	思いがけず征服者になった人々	地理学の基本原理について学びます。					シロカクロカについてレジユメを作成する。（4時間）				
15	シロカクロカ	ジェノサイドの歴史について学びます。					黄金時代の幻想についてレジユメを作成する。（4時間）				
16	黄金時代の幻想	環境保護主義の過去と未来について学びます。					新世紀の電撃戦と感謝祭についてレジユメを作成する。（4時間）				
17	新世界の電撃戦と感謝祭	マンモス絶滅について学びます。					第二の雲についてレジユメを作成する。（4時間）				
18	第二の雲	種の絶滅について学びます。					研究ゼミ前半で学んだことをノートに整理する。（4時間）				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間のまとめ	研究ゼミの前半で学んだことを振り返ります。	発表用のレジюмеを作成する。（4時間）
20	研究テーマ発表（その2）	興味関心のある研究テーマをレポートし発表します。	応用行動分析のレジюмеを作成する。（4時間）
21	ABC教育法の基礎	応用行動分析の理論について学びます。	ABC教育法のレジюмеを作成する。（4時間）
22	ABC教育法の進め方	ABC教育法による支援の実際について学びます。	落ち着きのない子のレジюмеを作成する。（4時間）
23	個の理解と支援	落ち着きのない子どもについて学びます。	学習遅滞の子のレジюмеを作成する。（4時間）
24	個の理解と支援	学習が進まない子どもについて学びます。	注意欠如の子のレジюмеを作成する。（4時間）
25	個の理解と支援	自発的な行動が極端に少ない子どもについて学びます。	対人関係が苦手な子に関するレジюмеを作成する。（4時間）
26	個の理解と支援	対人関係がとりにくい子どもについて学びます。	対人相互作用に関するレジюмеを作成する。（4時間）
27	子どもとクラスの相互作用	対人相互作用の理解と活かし方について学びます。	仲間づくりに関するレジюмеを作成する。（4時間）
28	クラス全体への支援	個々を受け入れる仲間づくりについて学びます。	読み書きに関するレジюмеを作成する。（4時間）
29	学習の基礎を形成する支援	聞くこと・読むこと・書くことについて学びます。	研究ゼミ後半で学んだことをノートに整理する。（4時間）
30	まとめ	教職研究ゼミナールで学んだ内容を総括します。	まとめのレポートを作成する。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「第3のチンパンジー」ジャレッド・ダイヤモンド著（草思社（草思社文庫）） ISBN:978-4-7942-2280-0（生協で購入してください。） 「できる！をのばす行動と学習の支援」山本淳一・池田聡子著（日本標準） ISBN:978-4-8208-03-4-1（生協で購入してください。） 適宜、資料を配布します。		課題：50% レポート：50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜、紹介します。		演習形式の授業が多くなるので、共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。授業担当者は、臨床心理士として公立の教育機関や学校において教育相談に従事しました。公認心理師。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパリング	AL36077	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
教職研究基礎ゼミナールに引き続き、北米の文化や社会に関連した研究に対する基礎知識を学ぶとともに、卒業研究のテーマを絞り込んでいきます。											
学修到達目標											
北米の文化に関する様々な先行研究での知見を理解するとともに、多様な調査方法や分析方法をも理解できる。論理的思考によって自らの意見を導き出し、それらをプレゼンテーションすることができる。											
授業の進め方											
前半は、先行研究について概説し、質疑応答による討論等によって各々の理解を深めていきます。また、後半は、各自が希望する研究対象について文献を検索し、卒業研究に繋がる研究テーマを決めます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	ガイダンス	学生生活全般に関して、個々に対するガイダンスを行います。				各自、履修状況を把握しておく。事後は今後の研究課題について構想を考える。（1時間）					
2	研究テーマ	北米の文化に関する興味のあるテーマについて文献を読み、その概略を口頭で発表し、その後全員で議論します。				発表の準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）					
3	研究テーマ	北米の文化に関する興味のあるテーマについて文献を読み、その概略を口頭で発表し、その後全員で議論します。				発表の準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）					
4	研究テーマ	北米の文化に関する興味のあるテーマについて文献を読み、その概略を口頭で発表し、その後全員で議論します。				発表の準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）					
5	文献の検索	図書館やパソコン室を利用して文献を検索します。				自ら図書館やパソコン室で文献を検索する。（1時間）					
6	文献の検索	図書館やパソコン室を利用して文献を検索します。				自ら図書館やパソコン室で文献を検索する。（1時間）					
7	研究の方法	社会現象を考察するための社会調査について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
8	研究の方法	量的調査と質的調査について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
9	研究の方法	パネル調査と継続調査について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
10	研究の方法	全数調査とサンプリング調査について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
11	研究の方法	結果を導く帰納と演繹について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
12	研究の方法	アンケート調査の種類について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
13	研究の方法	社会調査の倫理規定について理解します。				配布した資料を熟読する。（1時間）					
14	研究テーマの模索	自らの研究テーマの構想を考えていきます。				興味のある研究テーマをいくつか列挙する。（1時間）					
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、各自が研究テーマを引き続き熟考します。				興味のある研究テーマをいくつか列挙する。（1時間）					
16	後期のガイダンス	各自が現時点での研究テーマを発表します。				研究テーマの発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）					
17	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。				文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）					
18	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。				文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）					

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
20	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
21	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
22	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
23	文献発表	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論します。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
24	研究テーマの決定	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論します。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
25	研究テーマの決定	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論します。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
26	研究テーマの決定	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論します。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
27	研究テーマの決定	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論します。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
28	卒業論文の構想発表会	各自が構想について発表し、それについて全員で議論します。	構想の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
29	卒業論文の構想発表会	各自が構想について発表し、それについて全員で議論します。	構想の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
30	全体のまとめ	これまでの活動を振り返り、卒業論文の執筆準備に取りかかります。	卒業論文の構成を具体的に考える。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜、必要な資料を配布します。		レポート：50% 課題：50% S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜、紹介します。		問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。また、発表に関してはしっかりと準備をして臨んでください。	

科目名	教職研究ゼミナール		学年学期	3年通年	単位数	2	ナパリング	AL36077	研究室	A-01	
担当者	征矢野 達彦		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、道徳教育における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、各自の興味関心から課題解決に向けた方策をより理解できるようになる。その具体的な目標は 教員としての課題発見能力を身に付け、様々な観察方法や分析方法を理解している。ゼミナールの中での討論や講読を通して論理的思考力や批判的思考力を身に付けている。プレゼンテーション能力を身に付けている。研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、担当教員や外部講師が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導(個別把握)をします。					自分の履修状況を把握しておく。(1時間)				
2	専門入門(1)	興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。					事前に担当教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後の確認テストに備える。(4時間)				
3	専門入門(2)	(1)同様に各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。					事前に担当教員の専門分野を予習し、演習後に、演習後の確認テストを実施します。(1時間)				
4	専門入門(3)	(1)(2)同様に議論深めて自分の関心ある研究を見極めます。					事前に担当教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後に小テストを実施します。(1時間)				
5	文献検索の方法(1)	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。(1時間)				
6	文献検索の方法(2)	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。(1時間)				
7	研究の方法(1)	質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
8	研究の方法(2)	フィールドワークとして学校現場などで子供や先生を観察してデータを集めて、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。(1時間)				
9	研究の方法(3)	学校現場などで自分が実際に子どもとかかわりながら、参与観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。(1時間)				
10	研究の方法(4)	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
11	研究の方法(5)	一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
12	研究の方法(6)	卒業生(先輩等)が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
13	教育実習と卒業研究(1)	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。(1時間)				
14	教育実習と卒業研究(2)	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。(1時間)				
15	前期のまとめ	前期の習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。					夏休み中の研究推進予定を立てておく。(1時間)				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。					夏休み中の研究成果をまとめておく。(1時間)				
17	文献発表(1)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				
18	文献発表(2)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
20	文献発表(4)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
21	文献発表(5)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
22	文献発表(6)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
23	文献発表 (7)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定(1)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定(2)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定(3)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定(4)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:観察方法、分析方法を正しく理解し、討論や発表課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A:観察方法、分析方法をほぼ理解し、討論や課題発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B:観察方法、分析方法をある程度理解し、討論や発表課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C:観察方法、分析方法を60%程度理解し、討論や発表、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパリング	AL36077	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：木曜日2限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
<p>教員として一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、教員生活を送るための専門領域の学習と研究方法を学ぶことで、専門と結びついた学修と研究を始めるゼミナールです。小学校における体育科は「身体性」のみならず、「知性」「感性」を含んだ子どもの学びや育ちを総合的に捉えていく教科なので、幅広い専門分野の内容を取り扱います。体育・スポーツに関する図書、論文の輪読、学生同士の対話や学校での体育指導実習を通して、からだを育むという意味を理解していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究に取り組むことができる。そして、卒業研究専門ゼミナールへの基礎を修得している。</p>											
授業の進め方											
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践、先行研究の検討、研究方法の検討、研究資料の収集・分析・考察を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究を進めます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考えていきます。					事前にシラバスを読んでくる。ゼミ活動の構想を立てる。（1時間）				
2	学校体育における今日的課題（1）	学校体育における今日的課題について考察・討議します。（主に体育授業に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
3	学校体育における今日的課題（2）	学校体育における今日的課題について考察・討議します。（主に学習内容に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
4	学校体育における今日的課題（3）	学校体育における今日的課題について考察・討議します。（主に体育教師に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
5	学校体育における今日的課題（4）	学校体育における今日的課題について考察・討議します。（主にコンピテンシーベースに関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
6	学校体育における今日的課題（5）	学校体育における今日的課題について考察・討議します。（主に評価に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
7	運動部活動における今日的課題（1）	運動部活動における今日的課題について考察・討議します。（主に顧問・指導者に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
8	運動部活動における今日的課題（2）	運動部活動における今日的課題について考察・討議します。（主に練習の方法・内容、大会運営に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
9	運動部活動における今日的課題（3）	運動部活動における今日的課題について考察・討議します。（主に練習環境や社会との関連に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
10	地域スポーツにおける今日的課題（1）	スポーツクラブなどの地域スポーツにおける今日的課題について考察・討議します。（主に指導者に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
11	地域スポーツにおける今日的課題（2）	スポーツクラブなどの地域スポーツにおける今日的課題について考察・討議します。（主に指導方法、練習内容、大会運営に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
12	地域スポーツにおける今日的課題（3）	スポーツクラブなどの地域スポーツにおける今日的課題について考察・討議します。（主に練習環境や社会との関連に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
13	スポーツをめぐる様々な問題（1）	プロスポーツにおける今日的課題について考察・討議します。（主にお金に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
14	スポーツをめぐる様々な問題（2）	企業スポーツにおける今日的課題について考察・討議します。（主にお金に関わる問題）					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）				
15	前期まとめ	前期に学習した内容を振り返り、まとめるとともに、後期への見通しを立てます。					前期の学修をまとめ、後期への見通しを立てる。（1時間）				
16	先行研究や文献の利用（1）	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。					事前に自分が興味をもった課題を決める。先行研究や文献をよく読みまとめる。（1時間）				
17	先行研究や文献の利用（2）	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。					先行研究や文献をよく読みまとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）				
18	先行研究や文献の利用（3）	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。					先行研究や文献をよく読みまとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	先行研究や文献の利用（4）	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。	先行研究や文献をよく読みまとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）
20	先行研究や文献の利用（5）	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。	先行研究や文献をよく読みまとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）
21	先行研究の整理	先行研究や文献の整理をし、研究のテーマを絞り込んでいきます。	自分が調べた先行研究や文献を整理しておく。（1時間）
22	先行研究の検討	先行研究や文献から、具体的に研究する内容や調査、実験等の方法を検討していきます。	調査実験の方法を考えてくる。（1時間）
23	研究資料の収集（1）	実践または実験等の方法によって研究資料の収集をします。	研究資料の収集と分析をしてくる。（1時間）
24	研究資料の収集（2）	実践または実験等の方法によって研究資料の収集をします。	研究資料の収集と分析をしてくる。（1時間）
25	研究資料の分析（1）	研究資料の分析および考察をし、検討をします。	研究資料の分析および考察をしてくる。（1時間）
26	研究資料の分析（2）	研究資料の分析および考察をし、検討をします。	研究資料の分析および考察をしてくる。（1時間）
27	レポートの作成（1）	先行研究や文献、研究資料をもとにレポートを作成します。	レポートを作成し、発表できるようにする。（1時間）
28	レポートの作成（2）	先行研究や文献、研究資料をもとにレポートを作成します。	レポートを作成し、発表できるようにする。（1時間）
29	研究成果の発表（1）	研究成果をプレゼンテーションし、発表および討議を行います。	研究成果発表の準備をする。（1時間）
30	研究成果の発表（2）	研究成果をプレゼンテーションし、発表および討議を行います。	研究成果発表の準備をする。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「体育科教育の現在」日本体育科教育学会編編（創文企画） ISBN:987-4-86413-020-2 C3075（生協で購入してください。）		課題：50% 受講態度：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、優れた論文が書ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや優れた論文が書ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に合った論文が書ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に対し論文が書ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「新版 体育科教育学入門」高橋健夫他編（大修館書店） 「体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」高橋健夫著（明和出版）		どのような「からだを育む」ことが求められているのか。そのために体育学習はどうあるべきなのかを考えていきましょう。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナバ'リング	AL36077	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：月曜日5限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
2年後期からの教職研究ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、理科教育における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に、自分の関心がある研究テーマを見つけ、そのテーマ解明に向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
教員としての課題発見能力を身につけ、課題解決のための方法を理解し、ゼミナールの討論等で論理的思考力や批判的思考力を高め、的確にプレゼンテーションする能力を発揮しながら、自分の研究テーマを定めることができる。											
授業の進め方											
前期の概説では、理科教育の分野の研究について概説し、質疑応答による討論を行います。後期の演習では、各自が希望する研究テーマについて文献を検索したり、レポートしたりして、自分の研究テーマを絞り込み、研究の方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	前期のガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導や個別指導をします。					自分の履修状況を把握しておき、事後に今後の見通しを整理しておく(1時間)。				
2	専門入門(1)	関心のある分野の文献を読み、レポート発表をし、討論によって理解を深めます。					事前に演習を受ける分野の内容を確認し、事後に演習後の確認テストを行う。				
3	専門入門(2)	関心のある分野の文献を読み、レポート発表をし、討論によって理解を深めます。					事前に演習を受ける分野の内容を確認し、事後に演習後の確認テストを行う(1時間)。				
4	専門入門(3)	関心のある分野の文献を読み、レポート発表をし、討論によって理解を深めます。					事前に演習を受ける分野の内容を確認し、事後に演習後の確認テストを行う(1時間)。				
5	文献検索の方法(1)	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					事前に図書館やパソコン室の利用方法を習熟しておき、事後に実際に検索してみる(1時間)。				
6	文献検索の方法(2)	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					事前に図書館やパソコン室の利用方法を習熟しておき、事後に実際に検索してみる(1時間)。				
7	研究の方法(1)	学校現場等において、子どもの行動や発言を記録して分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
8	研究の方法(2)	学校現場等において、授業者の発問や関わり方を記録して分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
9	研究の方法(3)	学校現場等において、VTRやレコーダーを用いて分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
10	研究の方法(4)	個の追究を時系列で追いながら変容を分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
11	研究の方法(5)	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
12	研究の方法(6)	学生の卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
13	教育実習と卒業研究(1)	教育実習やボランティア活動等を経験して、自分の関心のある分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に実習やボランティア活動の記録を整理し、事後に研究との関連をまとめる(1時間)。				
14	教育実習と卒業研究(2)	教育実習やボランティア活動等を経験して、自分の関心のある分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に実習やボランティア活動の記録を整理し、事後に研究との関連をまとめる(1時間)。				
15	前期のまとめ	前期の内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。					事前におおよその見通しを立て、事後に夏休み中の予定を作成する(1時間)。				
16	後期のガイダンス	夏休み中の課題報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスをします。卒業構想発表会の持ち方を理解し、今後の見通しをもちます。					事前に夏休み中の取り組みの成果をまとめ、事後に今後の見通しを加える(1時間)。				
17	文献発表1	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。					事前にレジュメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。				
18	文献発表2	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。					事前にレジュメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
20	文献発表(4)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
21	文献発表(5)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
22	文献発表(6)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
23	文献発表(7)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
24	研究テーマの決定(1)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
25	研究テーマの決定(2)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
26	研究テーマの決定(3)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
27	研究テーマの決定(4)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
28	卒論構想発表(1)	構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	事前に発表の準備を進め、事後に論点を整理しておく(1時間)。
29	卒論構想発表(2)	構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	事前に発表の準備を進め、事後に論点を整理しておく(1時間)。
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	事前に1年間の取り組みをポートフォリオにまとめ、事後に整理しておく(1時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
特になし。		レポート：30% 課題：30% 受講態度：40% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパ`リング`	AL36077	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	演習	オイスア-`	前期：火曜日5限 後期：火曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
<p>先行研究の指導案分析及び授業記録より、研究と授業実践との関わりについて理解を進めます。これらを通して、研究に耐えられる授業実践を構築できるようにしていきます。後半では、卒業研究に繋がる研究計画を作成していきます。</p>											
学修到達目標											
指導案を作成し、社会科の授業及び分析ができる。そして、卒業研究に向けた計画を作成できる。											
授業の進め方											
<p>研究計画作成、指導案作成等は単学年でのゼミ形式で行います。また、前期は指導案分析や授業実践、協議会等を4学年と共に行います。後期は実践論文分析等を2学年と共に行い、ゼミの発表会や地域授業・社会見学等では2・4学年と共に行います。</p>											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教職研究ゼミナール概要	本授業の目的及び授業の流れを確認します。					見通しを立て研究を進めるために、3年次の計画を作成すること。（1時間）				
2	指導案分析(1)	先行研究による指導案分析を行います。					取り上げたい指導案を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。（1時間）				
3	指導案分析(2)	先行研究による指導案分析を行います。					取り上げたい指導案を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。（1時間）				
4	指導案分析(3)	先行研究による指導案分析を行います。					取り上げたい指導案を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。（1時間）				
5	指導案プロット作成(1)	指導案の骨組みとなるプロットを作成します。					指導案のプロットを作成し、検討・見直しを図ること。（1時間）				
6	指導案プロット作成(2)	指導案の骨組みとなるプロットを作成します。					指導案のプロットを作成し、検討・見直しを図ること。（1時間）				
7	指導案作成(1)	作成した指導案について、ねらいや各発問が適切か検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。（1時間）				
8	指導案作成(2)	作成した指導案について、導入の妥当性について検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。（1時間）				
9	指導案作成(3)	作成した指導案について、展開がアクティブ・ラーニングの視点に揃っているかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。（1時間）				
10	指導案作成(4)	作成した指導案について、省察が適切に行われているかどうかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。（1時間）				
11	模擬授業準備(1)	各々の指導案に沿った模擬授業及び研究協議会を行います。					作成した指導案にて模擬授業ができるようにすること。（1時間）				
12	模擬授業準備(2)	各々の指導案に沿った模擬授業及び研究協議会を行います。					作成した指導案にて模擬授業ができるようにすること。（1時間）				
13	模擬授業(1)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。					指摘された点について、再検討すること。（1時間）				
14	模擬授業(2)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。					指摘された点について、再検討すること。（1時間）				
15	中間発表準備(1)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。					中間発表会の準備をしておくこと。（1時間）				
16	中間発表準備(2)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。					中間発表会の準備をしておくこと。（1時間）				
17	ゼミ中間発表会	これまでの研究をまとめ、ゼミにおいて発表を行います。					これまで学んだことと、今後の見通しを発表できるようにしておくこと。（1時間）				
18	授業実践報告(1)	実践した授業について報告・検討を行います。					授業実践について、報告・説明できるようにしておくこと。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	授業実践報告(2)	実践した授業について報告・検討を行います。	授業実践について、報告・説明できるようにしておくこと。(1時間)
20	地域授業実践研究	地域で行われる社会科授業の見学及び検討会参加を行います。	授業記録や研究協議会での発言内容を振り返り、まとめること。(1時間)
21	地域教材研究(1)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学に対する事前の調査や、質問等を考えておくこと。(1時間)
22	地域教材研究(2)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学で学んだことを整理すること。(1時間)
23	実践論文分析(1)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
24	実践論文分析(2)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
25	実践論文分析(3)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
26	実践論文分析(4)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
27	研究計画作成概要	研究論文作成のための研究計画について学びます。	研究計画を作成し、研究の見通しを持つこと。(1時間)
28	研究計画作成(1)	研究論文作成のための研究計画を作成及び修正します。	計画再考の指摘については修正すること。(1時間)
29	研究計画作成(2)	研究論文作成のための研究計画を作成及び修正します。	計画再考の指摘については修正すること。(1時間)
30	ゼミ卒業論文発表会	ゼミの卒業論文発表会に参加し、協議に参加します。	発表会の内容を受け、自分の研究と照らし合わせ方向性を再考すること。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
なし。		課題：50% 指導案及び授業実践：50% S:先行研究分析より課題を明確にした指導案を作成し、児童の主体的な学びによる授業実践ができる。A:児童の実態より課題を設定した指導案を作成し、児童の主体的な学びによる授業実践ができる。B:一般的な学習課題を設定した指導案を作成し、児童の主体的な学びによる授業実践ができる。C:一般的な学習課題を設定した指導案を作成し、授業実践ができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
なし。		地域へ出たの見学等については、見学先の都合により予定が前後することがあります。2年次同様、一部を巡検とし、集中で行います。教育実習も行われるため、見通しを持ち計画的に取り組んで下さい。	

科目名	教職研究ゼミナール		学年学期	3年通年	単位数	2	ナパリング	AL36077	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日3限 後期：月曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、文学作品を作家別に数人研究する。研究したい作家を選ぶ。作家ごとの特色をいくつかの観点でとらえる。研究テーマを設定する見通しを持つ、この手順を進めるとともに研究方法について具体的に計画を立てます。										
学修到達目標										
学校や社会の現状を踏まえ、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解できるようになる。具体的には、1作家を複数人選択し、作家ごとのいくつかの特色を知り特色に沿った読み方を身につける。2 全集を読み、ゼミナールの中での討論や購読を通して、論理的思考力・表現力、プレゼンテーション力を習得する。3 研究テーマを決定する。										
授業の進め方										
前期の概説では、それぞれの担当教員が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を把握しておく。（1時間）				
2	専門入門	興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。				演習を受ける教員の専門分野を確認し予習しておく、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
3	専門入門	同様に、各自がレポート発表し、討論の仕方や論文の書き方について理解を深めます。				演習を受ける教員の専門分野を事前に確認し予習し、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
4	専門入門	同様に、各自がレポート発表し、関心のある研究を見極めます。				演習を受ける教員の専門分野を事前に確認し予習し、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
5	文献検査の方法	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）				
6	文献検索の方法	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。				各自が研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）				
7	研究の方法	研究対象とする作家の代表作を読み進め、引用の仕方と考察の書き方を学びます。				代表作を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
8	研究の方法	研究対象とする作家の代表作を読み進め、引用と考察について討議します。				代表作を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
9	研究の方法	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。				作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
10	研究の方法	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。				作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
11	研究の方法	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。				作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
12	研究の方法	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。				作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
13	研究の方法	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。				作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
14	研究の方法	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。				作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の研究内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにし、その準備をします。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスをします。特に、卒論構想発表会の持ち方を理解し、見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
17	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。（1時間）				
18	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
20	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
21	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
22	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
23	文献発表	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定	各自でテーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定	各自でテーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒業構想発表会	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と、4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒業構想発表会	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と、4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の研究を振り返り、来年度の研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
テキストは特に指定しませんが、研究対象とする作家の全集の購入を義務づけています。教員が必要に応じ資料を配付しますので必ず保管してください。		課題：70% 実技：20% レポート：10% S:資料を読み取り考察し分析方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A:資料を読み取り考察し分析方法をほぼ理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B:資料を読み取り考察し分析方法をある程度理解し設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C:資料を読み取り考察し分析方法を60%程度理解し、設定した卒業研究テーマに沿った準備を始めている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「理科系の作文技術」木下是雄著（中央公論社） ISBN：4121006240 参考資料等は状況に応じて紹介します。必要な先行文献等は自費購入する必要があります。		授業で行う共同作業および討論へ積極的に参加してください。欠席8回で単位を認定しません。遅刻・早退2回で1回の欠席、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。担当教員の講演先等へ出かける学びを予定しています。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナバリング	AL36077	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	演習	オイスカー	前期：月曜日2限 後期：月曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
教職研究基礎ゼミナールで学んだことをより深く、自分自身の研究したい分野の先行研究を読み、テーマを明確にします。また卒業研究の書き方を理解し、それに向け先行研究を批判的に読みます。											
学修到達目標											
外国語教育の知識を深め、研究方法ならびに論文の書き方を学び、自分自身の研究のテーマを決め、その分野の先行研究を批判的に読むことができる。											
授業の進め方											
前半は講義形式を主としながら指定された部分を読み発表します。後半部分は先行研究を批判的に読み発表する。ならびに自身の研究の方向性についても発表します。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	3年次の研究の進め方についての見通しを持ち、興味のある分野について考えます。					興味のある分野を調べ、研究の方向性を考える。（1時間）				
2	インタラクション重視の第二言語学習法・指導法 1	第二言語習得に関するインタラクションの役割やその認知プロセスについて理解します。					インタラクションが第二言語習得に及ぼす影響について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
3	インタラクション重視の第二言語学習法・指導法 2	インタラクションを使用した英語指導法の具体的な活動やその理論について理解します。					インタラクションを使用した指導法とその背景を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
4	アウトプット重視の第二言語学習法・指導法 1 アウトプットの役割	第二言語習得におけるアウトプットの役割とそれらの理論を理解します。					アウトプット役割と理論を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
5	アウトプット重視の第二言語学習法・指導法 2 英語学習法・指導法	アウトプットを活用した学習法や指導法の実態を理解し、その背景にある理論の働きも理解します。					アウトプットを使用した理論を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
6	フォーカス・オン・フォームによる文法指導 1 定義	EFL環境におけるフォーカス・オン・フォームの在り方とその考え方を理解します。					フォーカス・オン・フォームの考え方を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
7	フォーカス・オン・フォームによる文法指導 2 文法習得・語彙習得	第二言語習得の文法や語彙の習得に関する理論やその在り方を理解します。					第二言語の文法や語彙の理解プロセスを理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
8	フォーカス・オン・フォームによる文法指導 3 学習法・指導法	フォーカス・オン・フォームを使用した英語学習法や指導法の具体的な活動や、活動の焦点の置き方の比重などについて理解します。					フォーカス・オン・フォームの実際の指導の在り方を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
9	第二言語学習と個人差	第二言語学習における個人差の要因や動機づけ考え方のWillingness To Communicateについて理解します。					個人差要因について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
10	社会文化要因と第二言語学習	第二言語学習における社会言語的要因について理解します。					言語学習における言語使用の社会言語的要因を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
11	第二言語学習の目的	第二言語を学習する目的について考え、明確に理解します。					第二言語学習の目的を明確に理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
12	第二言語コミュニケーション能力 4 構成要素・第二言語学習の対象	第二言語コミュニケーション能力の構成要素と学習対象としての総合的コミュニケーション能力について理解します。					コミュニケーション能力について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
13	第二言語コミュニケーション能力 2 身につけるべき英語	国際補助語としての英語を理解し、その中で身につけるべき英語の在り方について理解します。					身につけるべき英語を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
14	先行研究発表 1	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをします。					興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）				
15	前期のまとめ	これまでの理解と方向性を確認し、必要となる文献について検索し、それを読みます。					研究したい分野の文献を読み概要を知る。また研究方法についても文献を読み理解する。（1時間）				
16	研究の方法 1	研究とはどのようなものなのか、その目的や種類、プロセスについて理解します。					具体的な研究方法について知り、研究の方向性を考える。（1時間）				
17	研究の方法 2	研究のテーマの決め方について、どのようにテーマを決めていくのか、その視点について理解します。					研究のテーマ決めの視点を理解し、研究のテーマを決める。（1時間）				
18	研究の方法 3	先行研究から自分の研究の位置を明らかにすることや、先行研究の検索の仕方やポイントについて理解します。					先行研究の検索方法を理解し、自分の研究の位置を理解する。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究の方法 4	研究の課題の設定の仕方とそのデータ収集の方法、データのタイプ、データの分析・解釈方法について理解します。	研究課題の設定方法やデータの収集・分析方法について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）
20	研究の方法 5	質的研究についてどのようなアプローチを行うのか、データ収集方法や分析・解釈、考察の在り方について理解します。	質的研究について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）
21	研究の方法 6	量的研究について、量的研究の選択の仕方、研究デザイン、データ収集、分析・解釈について理解します。	量的研究について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）
22	先行研究発表 2	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをします。	興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）
23	先行研究発表 3	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをします。	興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）
24	先行研究発表 4	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをします。	興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）
25	研究テーマ決定 1	研究テーマとその方法について発表し、批判的コメントを受け改善します。	研究の大まかな方向性を決め、発表する。（1時間）
26	研究テーマ決定 2	研究テーマとその方法について発表し、批判的コメントを受け改善します。	研究の大まかな方向性を決め、発表する。（1時間）
27	研究テーマ決定 3	研究テーマとその方法について発表し、批判的コメントを受け改善します。	研究の大まかな方向性を決め、発表する。（1時間）
28	卒論構想発表 1	卒業論文の構想について発表し、批判的視点からコメントをしたり、もったりすることにより、卒業論文の構想を改善します。	卒業論文の構想発表準備とコメントによる改善。（1時間）
29	卒論構想発表 2	卒業論文の構想について発表し、批判的視点からコメントをしたり、もったりすることにより、卒業論文の構想を改善します。	卒業論文の構想発表の準備とコメントによる改善。（1時間）
30	まとめ	卒業論文の方向性を決め、その分野の文献を読み、執筆準備を行います。	これまでの理解を振り返り、卒業論文の構成を完成させる。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」村野井仁著（大修館書店） ISBN:978-4-469-24513-4（生協で購入してください。） 「はじめの英語教育研究」浦野研・亘理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹著（研究社） ISBN:978-4-327-42197-7（生協で購入してください。）		レポート：50% 課題：50% 実技とは授業中での発表等の評価を意味します。 S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		研究を進める上では、早めの行動と計画、積極的な取り組みが求められます。常に積極的に自分と他人の考えに対して批判的に考えてください。	

科目名	教職研究ゼミナール		学年学期	3年通年	単位数	2	ナバ'リング	AL36077	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、音楽教育の目標に沿って具体的な指導内容や指導方法を学び、教育現場の実態把握と共にカリキュラム研究や教材開発研究を行います。最終的に各自が興味のある研究テーマを見つけ、研究方法について具体的な計画を立て発表します。また地域イベント、学内コンサートの企画や運営、アウトキャンパスも行います。										
学修到達目標										
学校現場や地域の現状を知り、教員としての課題発見能力を身につけ、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解しています。またゼミナールの中での討議や文献資料、模擬授業実践を通して論理的思考力や批判的思考力及びプレゼンテーション能力を身に付け、最終的に自分の研究テーマを決定できることです。										
授業の進め方										
前期は音楽科の具体的な指導内容や方法を学び教材研究やITを用いた教材開発を行い、地域や教育現場での実践を通して子供の状況を把握します。後期は研究授業等を参考に各自が取り組みたい研究の手法や文献資料を調べて収集しテーマを決定していきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 音楽科の目標	2年次の履修状況や学生生活について全体指導(個別把握)をします。演習担当の振り分けをします。				自分の履修状況を把握しておく。学習指導要領解説を読んでおく(1時間)				
2	学習指導要領の低学年の目標と指導内容	教科書や指導書から低学年の指導内容を把握し、教材研究をします。				担当分野の事前予習をし、発表できるよう準備する。(1時間)				
3	学習指導要領の中学年の目標と指導内容	教科書や指導書から中学年の指導内容を把握し、教材研究をします。				担当分野の事前予習をし、発表できるよう準備する。(1時間)				
4	学習指導要領の高学年の目標と指導内容	教科書や指導書から高学年の指導内容を把握し、教材研究をします。				担当分野の事前予習をし、発表できるよう準備する。(1時間)				
5	地域の伝統音楽の教材の可能性	地域の祭りやお囃子の練習会から学校における教材開発の可能性について学び討議します。サマーコンサートの企画準備を始め発信します。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)				
6	歌唱、器楽指導の方法と教材開発研究	歌唱や器楽演習による様々な指導法を学び教材研究をします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)				
7	音楽づくりの指導法とICT教材開発研究	様々な音楽づくりの演習を通して指導法を学びICTを活用した教材研究をします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)				
8	能動的な鑑賞授業の方法と教材開発研究	能動的な鑑賞の指導方法と教材研究をします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)				
9	合科的、総合的な学習と教材開発	音楽科と他の教科との関わりや総合的な学習の可能性について学び、具体的な指導方法を探求します。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)				
10	学内サマーコンサートの企画・運営	サマーコンサートに向けての練習をします。またチラシ及びプログラム作成などの準備を進め、リハーサル準備を行います。				各自が担当した作業を進めて準備をする。(1時間)				
11	幼小接続カリキュラム、特別支援について	子どもの発達を考慮し、幼小接続における音楽活動の可能性や特別支援での活動、特にわらべうたの教育的意義について触れます。サマーコンサートに向けての練習もします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案や活動案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)				
12	活動実践例の発表(1)音遊び、リズム遊び	教育実習や地域イベントに向けて、授業または音楽活動の実践例を模擬的に発表し、全体で討議します。				レジュメを作成しプレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				
13	活動実践例の発表(2)楽器遊び ドラムサークル	教育実習や地域イベントに向けて、授業または音楽活動の実践例を模擬的に発表し、全体で討議します。				レジュメを作成しプレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				
14	活動実践例の発表(3)わらべうた	教育実習や地域イベントに向けて、授業または音楽活動の実践例を模擬的に発表し、全体で討議します。				レジュメを作成しプレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、夏休み中に行う地域イベントについて計画します。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。(1時間)				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題と活動報告、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。(1時間)				
17	研究課題と文献資料(1)	各自が取り組みたい課題テーマと収集した資料を発表し全員で討議します。				夏休み中の研究成果をまとめて発表できるように準備する。(1時間)				
18	研究課題と文献資料(2)	各自が取り組みたい課題テーマと収集した資料を発表し全員で討議します。またアウトキャンパスに向けて事前学習をします。				夏休み中の研究成果をまとめて発表できるように準備する。(1時間)				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	地域の音楽教育	鈴木鎮一記念館を見学しアウトキャンパスを行います。スズキメソードの理念と特色を学び討議します。	事前に資料を読み、授業後感想をまとめる。(1時間)
20	アウトキャンパスのまとめと研究授業参観の準備	地域の音楽や文化についてのまとめと、研究授業参観の準備をします。	演習後は各自で整理しまとめておく。研究授業の事前資料をよんでおく(1時間)
21	研究授業参観	研究授業の参観と協議会に参加しアウトキャンパススタディーを行います。	参観後は各自で整理しまとめておく。(1時間)
22	研究授業の振り返りとまとめ	研究授業を振り返り、目的、指導内容、指導法、評価についてまとめ、発表し合いながら討議します。	演習後、各自で整理しまとめておく。(1時間)
23	地域イベントの企画、運営	地域でのクリスマスイベントでのコンサートを企画し大学内や地域と交渉し発信します。	コンサートの内容や演奏者の募集、チラシの作成など協力して計画、準備する。
24	研究方法の検討(1)文献研究と資料収集	研究課題を共有し、具体的な研究方法を討議検討します。特に文献検索法や資料の分類、分析について学びます。	研究課題テーマの動機や問題と目的、方法について考察しておく。(1時間)
25	研究方法の検討(2)事例研究とアンケート調査	研究課題を共有し、具体的な研究方法を討議検討します。特に事例研究やアンケート調査について学びます。	研究課題テーマの動機や問題と目的、方法について考察しておく(1時間)
26	研究構想発表の準備	各自の卒業研究にむけた課題テーマ、動機、目的、方法などの研究構想を発表する準備をします。	それぞれを文章化し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
27	クリスマスコンサートの運営	企画したコンサートの最終準備と運営の打ち合わせを行います。	プログラム、演奏者の決定、司会進行、セッティングの打ち合わせ等を行う。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を討議し修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を討議し修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編」文部科学省著（東洋館出版社） ISBN:978-4-491-03465-2（生協で購入してください。）内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50％ レポート：50％ S:目標及び指導内容を正しく理解し意欲的に教材研究や発表を行い、研究テーマの設定に沿った準備ができている。A:目標及び指導内容を理解し意欲的に教材研究や発表を行い、研究テーマの設定に沿った準備ができている。B:目標及び指導内容をある程度理解し教材研究や発表を行い、研究テーマを設定できている。C:目標及び指導内容に沿った教材研究を通して研究テーマを設定できている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナバ'リング	AL36077	研究室	A-04
担当者	佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：水曜日3限、金曜日1限、金曜日2限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
<b>授業概要</b> 2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れます。 算数・数学教育学における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的な知識を学びます。 最終的に、学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
<b>学修到達目標</b> 学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、より理解できるようになる。具体的目標は、教員としての課題発見能力を身に付け、観察方法や分析方法を理解することができ、ゼミナールの中で、討議や講読を通して、論理的思考力や批判的思考力を身に付け、プレゼンテーション能力を身に付け、研究のテーマを決定する。											
<b>授業の進め方</b> 概説では、それぞれの担当教員や外部講師が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について、文献を検索したりまとめたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。					自分の履修状況を把握しておく。（1時間）				
2	専門入門（1）	興味のある分野の文献を読み、レポートを発表して討論により理解を深めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
3	専門入門（2）	同様に各自がレポートを発表し、討論の仕方や論文の書き方について理解を深めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
4	専門入門（3）	同様に議論を深めて自分の関心のある研究を見極めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
5	文献検索の方法（1）	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）				
6	文献検索の方法（2）	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）				
7	研究の方法（1）	質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する方法を学びます。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
8	研究の方法（2）	フィールドワークとして学校現場などで子供や教師を観察し、データを集め分析検討する方法を学びます。					学校現場等での学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）				
9	研究の方法（3）	学校現場などで、実際に子どもと関わりながら、観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）				
10	研究の方法（4）	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
11	研究の方法（5）	ある学級について深く関わり、自ら支援することでよりよい指導法を探る事例研究の方法を学びます。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
12	研究の方法（6）	過去の卒業生や他大学の卒業論文を読み、研究の進め方や方法について具体的に理解します。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
13	教育実習と卒業研究（1）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録やボランティア活動を整理、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
14	教育実習と卒業研究（2）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、夏季休業中に行う課題を明らかにします。そして準備をしていきます。					夏季休業中の研究予定を立てておく。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏季休業中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスをします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解し、これからの見通しを持ちます。					夏季休業中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
17	文献発表（1）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）				
18	文献発表（2）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表（3）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
20	文献発表（4）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
21	文献発表（5）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
22	文献発表（6）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
23	文献発表（7）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
24	研究テーマの決定（1）	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
25	研究テーマの決定（2）	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
26	研究テーマの決定（3）	問題と目的を発表し、全員で討議します。	問題と目的を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
27	研究テーマの決定（4）	問題と目的を発表し、全員で討議します。	問題と目的を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
28	卒論構想発表会（1）	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
29	卒論構想発表会（2）	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をまとめておく。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配付します。また、学生自身も資料を準備してください。尚、資料は必ず保管しておいてください。		課題：20% レポート：80% S：授業内容を高度に理解する。また、クリティカルに物事を捉え、論理的に考えることができる。さらに、探究心をもち自ら課題を設定して取り組むことができる。A：授業内容を理解する。また、クリティカルに物事を捉え考えることができる。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。B：授業内容を概ね理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。C：授業内容を60%程度理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
参考図書は、随時紹介したり指示したりします。		レポート作成は事前に行うことです。主体的な学びを子どもに求めていく時代です。学生自身がそのことを意識して参加することです。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパリング	AL36077	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、金曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
<p>教職研究基礎ゼミナールで学んだことを基にして、研究したい分野の先行研究を読みながら自分自身の研究テーマを明確にします。さらに、卒業論文の研究の指針や計画の立て方、先行研究の批判的読み方などを総合的に学びます。また、必要に応じて教員が指定するオンライン上の参考動画を視聴し議論に活かします。</p>											
学修到達目標											
<p>英語学を含む言語学の知識を深め、研究方法や論文執筆の方法などを学び、研究テーマを設定することができる。先行研究を批判的に読むことができる。</p>											
授業の進め方											
<p>前期は、認知言語学を中心に基礎的な知識に関する講義を主に行います。また、指定された文献等を批判的に読み議論します。後期は、先行研究を批判的に読み、その内容を発表し議論します。また、自分の研究の方向性を考えたり、発表したりします。</p>											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	3年次の研究の進め方について考え、自分の興味のある分野について考えます。また、認知言語学とはどんな研究分野かを学修します。					英語学・言語学分野で興味や関心のある分野について考える。（1時間）				
2	言語的動機付け・記号性と意味	なぜ言葉がそのように存在しているのか、言葉の記号性とその意味などについて学修します。					言葉の恣意性と動機付けについて考える。（1時間）				
3	ものの見方と意味	認知的際立ち、焦点化、心的走査と主観的移動などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された視点に関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
4	プロトタイプ	プロトタイプ理論、カテゴリー化とその境界、文化によるステレオタイプなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					プロトタイプ理論に関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
5	抽象化とスキーマ	抽象性と具体性、抽象化、スキーマとその活用などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					スキーマに関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
6	イメージスキーマ	英語前置詞のイメージスキーマ、イメージスキーマの定義、容器のイメージスキーマ、トラジェクタとランドマークなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					イメージスキーマに関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
7	意味ネットワーク	意味ネットワーク、言葉の多義性などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					意味論に関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
8	メタファ	言語学研究における「比喻」について学修します。特に、メタファ、類似性によるメタファと類似性のレベルなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					メタファに関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
9	メトニミー	メトニミーと近接性、メトニミーの方向性などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					メトニミーに関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
10	概念メタファ	修辭学的なメタファにとどまらない、認知言語学の理論の中でも特に重要な概念メタファについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					概念メタファの文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
11	方向性のメタファ	位置関係とメタファ、メタファと共起性などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					方向性のメタファの文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
12	言語における色	言語によって色がどのように捉えられているか、また言語によって色の切り分け方がどうなっているかなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					言語学と色に関する文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
13	構文と意味	行為の連鎖・ピリヤードモデル、構文における主語、二重目的語構文などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					構文文法の文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
14	言葉のダイナミズムと文化	変化し続ける言葉について考えます。言葉のシステムがどう変化するか、文化が言葉に及ぼす影響などについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期で見てきた認知言語学の各概念についてのまとめを行います。また、後期に向けて、文献の検索の仕方や研究テーマの探し方などについて考えます。					これまでに学修した各概念を復習し、自分の興味のある研究分野について考える。（1時間）				
16	後期へのオリエンテーション	前期で学修した認知言語学の基礎知識を基にして、研究をどのように進めていけばよいか、目的や方法、そのプロセスなどについて考えます。					自分の興味のある分野や言語学的に興味のある現象などをリストアップしておく。（1時間）				
17	言語研究の方法1	自分の興味・関心や言語学的に特異な現象を基に、どのように分析し研究を進めていけばよいかについて考えます。各自が言語学的に面白いと感じた現象を発表し、グループで議論します。					言語学的に不思議な現象や文法的に疑問に思うことなどについてリストアップする。（1時間）				
18	言語研究の方法2	各自がリストアップした言語現象や疑問に思う文法項目などについて、分析的にその現象を捉えグループで議論します。					言語学的に不思議な現象や文法的に疑問に思うことなどについてリストアップする。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）			事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	言語研究の方法3	各言語現象を分析し、言語学的に理論的な説明を行う方法を考えます。言語現象を論理的に説明できるようにするにはどうすればよいかを議論し発表します。	リストアップした言語現象について、各理論を元に、どのように説明できるか考える。（1時間）
20	言語研究の方法4	言語現象を論理的に説明する方法を学びながら、自分自身が関心のあるテーマを考えます。グループで議論した言語現象とその説明が、自分の興味関心のある分野とどうつながるかなどについて考えます。	リストアップした言語現象について、各理論を元に、どのように説明できるか考える。（1時間）
21	言語研究の方法5	興味関心のあるテーマについて、論理的に説明するためにはどのようにデータを収集すればよいか、データをどのように分析すればよいか等について学修します。	コーパス（COCA）の使い方について予め調べておく。（1時間）
22	研究方法の検討1	各自のテーマに基づき、研究の方向性や分析方法などについて考えます。関心のあるテーマについて、先行研究や分析方法などについて順番に発表し、批判的にコメントします。	大まかな研究テーマとそれに関する先行研究を読み、内容や分析方法についてまとめる。（1時間）
23	研究方法の検討2	各自のテーマに基づき、研究の方向性や分析方法などについて考えます。関心のあるテーマについて、先行研究や分析方法などについて順番に発表し、批判的にコメントします。	大まかな研究テーマとそれに関する先行研究を読み、内容や分析方法についてまとめる。（1時間）
24	研究方法の検討3	各自のテーマに基づき、研究の方向性や分析方法などについて考えます。関心のあるテーマについて、先行研究や分析方法などについて順番に発表し、批判的にコメントします。	大まかな研究テーマとそれに関する先行研究を読み、内容や分析方法についてまとめる。（1時間）
25	研究テーマ決定1	具体的な研究テーマとその研究方法について順番に発表し、批判的コメントをもらいます。それらを受け、研究の方向性について再検討します。	具体的な研究テーマを決め、研究の方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）（1時間）
26	研究テーマ決定2	具体的な研究テーマとその研究方法について順番に発表し、批判的コメントをもらいます。それらを受け、研究の方向性について再検討します。	具体的な研究テーマを決め、研究の方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
27	研究テーマ決定3	具体的な研究テーマとその研究方法について順番に発表し、批判的コメントをもらいます。それらを受け、研究の方向性について再検討します。	具体的な研究テーマを決め、研究の方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
28	卒業論文テーマの確定1	卒業論文のテーマを確定させ、研究を実現させるための道筋を再確認します。それぞれのテーマについて批判的にコメントをし、卒業論文執筆のための方向性を再検討し改善します。	卒業論文のテーマを確定させ、具体的な研究方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
29	卒業論文テーマの確定2	卒業論文のテーマを確定させ、研究を実現させるための道筋を再確認します。それぞれのテーマについて批判的にコメントをし、卒業論文執筆のための方向性を再検討し改善します。	卒業論文のテーマを確定させ、具体的な研究方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
30	後期まとめ	卒業論文執筆のための最終確認を行います。先行研究の再検討や更なる文献を検索するなどの準備を行います。	1年間の学修を振り返り、卒業論文執筆の最終準備を行う。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各授業毎に、事前に文献や論文等を指定します。		課題：40% レポート：30% 実技：30% S:授業内容を完全に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		積極的に授業に参加する姿勢が大切です。また、各概念や理論の予習を必ず行ってください。指定された文献には必ず目を通してください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナバリング	AL36077	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
2年次後期の教職研究基礎ゼミナールで学んだ内容を基礎として、卒業論文作成の準備を行うゼミナールです。本ゼミでは、教育の歴史に関する知見を広め、深めることを目的としていますので、これまでに身につけた文献収集の技能を活用して、各自の興味関心のある領域の文献を読み込みます。さらに、卒業論文作成に向け、研究の進め方や論文の書き方といった具体的事柄についても理解し、その実践として、研究レポートをまとめることを目指します。											
学修到達目標											
1.研究の進め方、論文の書き方について理解している。2.研究を進める方法、報告の方法を身につけている。3.積極的に考え、議論する態度を身につけている。4.自分で考察を深めたい教育の歴史に関するテーマを明確に定めている。5.自分が設定した研究テーマを深め、まとめる力を身につけている。											
授業の進め方											
担当者による報告とその内容に関する考察を深めるためのディスカッションを中心に進めていきます。必要に応じて講義形式の授業も行います。必要に応じて4年次ゼミと合同になることがあります。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス1	授業内容及び授業の進め方の説明をします。					シラバスの熟読、教職研究基礎ゼミナールの復習及び教育に関する歴史の復習(1時間)。				
2	教育についての歴史	教育の歴史に関する事柄について、各自がどのような内容に興味を持っているかを共有します。また、報告の順番を決めます。					前時の復習、教育に関する歴史の復習、報告の準備(1時間)。				
3	研究の方法1	研究の進め方について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
4	研究の方法2	論文の書き方について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
5	研究の方法3	教育史の史料、資料について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
6	研究の方法4	教育史の時期区分について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
7	研究の方法5	教育史の問題意識について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
8	研究の方法6	教育史の研究に関するここまでのまとめを行います。					前時の復習、授業時に指示した課題の作成、報告の準備(1時間)。				
9	文献講読1	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の復習、報告の準備(1時間)。				
10	文献講読2	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
11	文献講読3	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
12	文献講読4	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
13	文献講読5	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
14	文献講読6	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
15	前期のまとめ	各自の報告及びディスカッションの内容を振り返り、総括します。また、夏休み中のそれぞれの課題を明確にします。					第9回から第14回の報告及びディスカッションの復習(1時間)。				
16	ガイダンス2	後期授業の進め方について説明します。また、報告の順番を決めます。					前期授業の復習(1時間)。				
17	課題の報告1	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。				
18	課題の報告2	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	課題の報告3	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。	報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。
20	課題の報告4	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。	報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。
21	研究テーマの検討1	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
22	研究テーマの検討2	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
23	研究テーマの検討3	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
24	研究テーマの検討4	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
25	研究テーマの検討5	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
26	研究レポート発表会1	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
27	研究レポート発表会2	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
28	研究レポート発表会3	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
29	研究レポート発表会4	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
30	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、総括します。また、卒業論文作成に向けた自己課題を明確にします。	これまでの授業全体の復習(1時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要に応じて資料を配布します。		受講態度：30% レポート：70% 受講態度(討論等への意欲)、レポート(報告、討論のまとめ等)を総合して評価します。 <評価基準> S:自発的学修、意欲的授業参加。多角的視点から研究テーマを探究し、自らの知見を論理的に説明できる。A:意欲的授業参加。いくつかの視点から研究テーマを捉え論理的に説明できる。B:授業に参加し、研究テーマを一つの視点から論じることができる。C:授業に参加し、研究テーマに必要な事柄を調べ、まとめた。	
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)	
授業の進捗に合わせて紹介していきます。		報告とディスカッションにより進む授業ですので、互いに学びあう姿勢を大切にしてください。また、卒業論文執筆に向けた授業であることを常に意識して参加してください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	AL36077	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、発達障害、知的障害等や特別支援教育・特別ニーズ教育領域における先行研究の検討を通して課題の整理を行い、卒業論文テーマを決定していきます。											
学修到達目標											
(1)知的障害や発達障害等に関わる学校や教育現場の研究動向を知り、各自が取り組む課題を具体的に決定する。(2)教員としての問題発見能力を身につけ、様々な研究方法について理解する。(3)ゼミナールの中での討論や学習を通して論理的思考力や批判的思考力を身につける。(4)プレゼンテーション能力を身につける。											
授業の進め方											
関心のある領域に関する先行研究の検討を重ね、研究動向や議論の状況を丁寧に把握していきます。後期には検討した研究動向をふまえて各自の研究テーマと方法を決定します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や今後の課題について確認と指導をします。					自分の履修状況を把握しておく。(1時間)				
2	先行研究や文献の検討	2年次後期に引き続き、関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
3	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
4	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
5	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
6	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
7	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
8	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
9	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
10	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
11	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
12	先行研究や文献の検討	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				
13	教育実習と卒業研究	教育実習やボランティア活動の経験を、卒業研究と関連させて研究テーマを検討します。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。(2時間)				
14	教育実習と卒業研究	教育実習やボランティア活動の経験を、卒業研究と関連させて研究テーマを検討します。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。(2時間)				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、夏休みに進めるべき課題を明らかにします。					夏休み中の研究推進予定を立てておく。(2時間)				
16	後期のゼミガイダンス	後期の研究の進め方についてガイダンスします。					夏休み中の課題報告をまとめる(2時間)				
17	夏休みの課題報告	夏休みの課題報告と、報告を踏まえて特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。					夏休み中の課題報告と今後の課題を確認する。(1時間)				
18	先行研究や文献の検討	引き続き、関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(2時間)				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	先行研究や文献の検討	引き続き、関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。	先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）
20	研究テーマの決定	先行研究や文献の検討を通して、各自の研究テーマを決定します。	これまでの検討内容を振り返り、具体的なテーマ案を作成する。（2時間）
21	研究テーマの決定	先行研究や文献の検討を通して、各自の研究テーマを決定します。	これまでの検討内容を振り返り、具体的なテーマ案を作成する。（2時間）
22	研究テーマの決定	先行研究や文献の検討を通して、各自の研究テーマを決定します。	これまでの検討内容を振り返り、具体的なテーマ案を作成する。（2時間）
23	研究構想の検討	決定した研究テーマについて、問題の所在・目的・方法等の具体的な構想を作成・検討します。	研究構想の項目に合わせて資料を作成する。（2時間）
24	研究構想の検討	決定した研究テーマについて、問題の所在・目的・方法等の具体的な構想を作成・検討します。	研究構想の項目に合わせて資料を作成する。（2時間）
25	研究構想の検討	決定した研究テーマについて、問題の所在・目的・方法等の具体的な構想を作成・検討します。	研究構想の項目に合わせて資料を作成する。（2時間）
26	卒論構想発表会準備	卒論構想発表会に向けて資料を作成・検討します。	プレゼンテーション資料作成の準備を行なう。（2時間）
27	卒論構想発表会準備	卒論構想発表会に向けて資料を作成・検討します。	プレゼンテーション資料作成の準備を行なう。（2時間）
28	卒論構想発表会	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	他者からの意見や指導を踏まえて構想を修正する。（2時間）
29	卒論構想発表会	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	他者からの意見や指導を踏まえて構想を修正する。（2時間）
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。（2時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		受講態度：50% 課題：50% S：論文検索や検討方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A：論文検索や検討方法をほぼ理解し、討論や課題、発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B：論文検索や検討方法をある程度理解し討論や発表、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C：論文検索や検討方法を理解し、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備を努力している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が中心となりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-03
担当者	増田 吉史		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日4限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
教科指導（算数教育）と学級経営の関連を中心に、3年次の教職研究ゼミナールの研究主題や設定理由で方向付けしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目ごとに、学生自ら研究主題を決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめていきます。										
学修到達目標										
学生自ら発表や論文をまとめる前に、お互いを尊重し相互評価を繰り返し、質疑応答を通して、より精度の高い研究になるように協力し合うことができる。また、ゼミナールの意義を考え、ゼミナールの仲間の存在を大切にしながら最終まとめができる。										
授業の進め方										
4年間の学びをまとめ、卒業後の自分の進路と関係づけ、卒業研究を通して、自らの研究に取り組む姿勢を高め、子どもを見る目や教育への愛情を高めるように進めます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	研究論文作成の計画を確認します	4年次は自分の研究の完成だけでなく、ゼミナール仲間をしっかりと意識しあう姿勢を持ちます。				研究主題を明確にします。(4時間)				
2	研究主題を再確認します	4年次は自分の研究の完成だけでなく、ゼミナール仲間から多くのことを学ぶ姿勢を大切にします。				研究主題設定の理由を確認します。(4時間)				
3	研究主題に対する検討をします	4年次は自分の研究の完成だけでなく、ゼミナール仲間から多くのことを学ぶ姿勢を大切に、お互いに質問し合い、高め合います。				研究の方法をまとめます。(4時間)				
4	研究主題設定理由の検討をします	ゼミナール仲間の研究も完成に近づきます。あらためて仲間から多くのことを学ぶ姿勢を大切に、お互いに高め合います。				研究計画をまとめます。(4時間)				
5	研究構想図の最終確認をします	ゼミナール仲間の研究を自分のとらえ、様々な感性を持った教員を尊重しあう姿勢を持ちます。				研究構想図を完成します。(4時間)				
6	研究内容の章立てを決めます	ゼミナール仲間の研究を自分のとらえ、様々な感性を持った教員を尊重しあう姿勢を持ちます。				論文の体裁を整えます。(4時間)				
7	研究内容の完成を目指します	ゼミナール仲間の研究を自分のとらえ、様々な感性を持った教員を尊重しあう姿勢を持ちます。				論文の体裁を整えます。(4時間)				
8	研究論文としてまとめます	ゼミナール仲間から表現の工夫をお互いに学び合います。				文章表現を最後まで確認します。(4時間)				
9	研究論文としてまとめます	ゼミナール仲間から表現の工夫をお互いに学び合います。				文章表現を最後まで確認します。(4時間)				
10	研究論文の初稿に入ります	ゼミナール仲間のプレゼンの工夫をお互いに学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。(4時間)				
11	研究論文の初稿に入ります	ゼミナール仲間のプレゼンの工夫をお互いに学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。(4時間)				
12	研究論文の初稿に入ります	ゼミナール仲間のプレゼンの工夫をお互いに学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。(4時間)				
13	研究論文の初稿完成を目指します	ゼミナール仲間の最終段階をお互いに助け合い、学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。(4時間)				
14	研究論文の初稿完成を目指します	ゼミナール仲間の最終段階をお互いに助け合い、学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。(4時間)				
15	夏休みの研究計画を立てます	ゼミナール仲間の最終段階をお互いに助け合い、学び合います。				前期のまとめをし、後期に備えます。(4時間)				
16	中間報告書を完成します	ゼミナール仲間の中間報告をお互いにしっかりと読み合います。				プレゼンの工夫をします。(4時間)				
17	中間発表のプレゼンを完成します	ゼミナール仲間の中間報告をお互いにしっかりと読み合います。				プレゼンの工夫をします。(4時間)				
18	中間発表のプレゼンを完成します	ゼミナール仲間の中間報告をお互いにしっかりと読み合います。				プレゼンの工夫をします。(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会をします	中間報告をお互い助け合います。	中間発表を成功させます。 (4時間)
20	論文の修正に入ります	中間報告をお互い助け合います。	中間発表を成功させます。 (4時間)
21	論文の第2稿を作成します	後輩のために、よりよい報告書作成を意識します。	記録を残します。(4時間)
22	論文の第2稿を作成します	後輩のために、よりよい報告書作成を意識します。	記録を残します。(4時間)
23	論文の第2稿を検証します	後輩のために、よりよい報告書作成を意識します。	記録を残します。(4時間)
24	論文の最終稿を作成します	後輩のために、研究の記録を残します。	記録を残します。(4時間)
25	論文の提出準備に入ります	後輩のために、研究の記録を残します。	将来展望を待ちます。(4時間)
26	論文の提出を完了します	よりよい将来展望を持ち、希望と期待を高めます。	将来展望を待ちます。(4時間)
27	ゼミ発表会のプレゼン準備をします	よりよい将来展望を持ち、希望と期待を高めます。	将来展望を待ちます。(4時間)
28	ゼミ発表会をします	よりよい将来展望を持ち、希望と期待を高めます。	将来展望を待ちます。(4時間)
29	研究のまとめをします	4年間の総まとめをします。	将来展望を待ち、準備をします。 (4時間)
30	研究のまとめをします	4年間の総まとめをします。	将来展望を待ち、準備をします。 (4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じた参考書を必要に応じて提示します。		課題：20% レポート：80% S:学生自ら高度に相互評価をし、質の高い質疑応答をし、精度の高い研究にしようと協力しゼミナルの意義を体現している。A:学生自ら相互評価し合い、質疑応答をし合い協力し合いながら、ゼミナルの意義を体現している。B:学生自ら相互評価し合い、質疑応答をし合い協力し合いながら、ゼミナルの意義を支援を受けながら体現している。C:学生自ら相互評価し、質疑応答をし、支援を受けながら最終的にゼミナルの意義を外さないように体現する努力をしている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
必要に応じて提示します。		研究論文をまとめることが目標ではなく、その過程を通し学校教育に対する積極姿勢を持ち、教員と資質を高め、見識の高い人間の育成を自ら目指します。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-13
担当者	今泉 博		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、授業や生活指導（「いじめ」や不登校、体罰問題）等、学校現場、学校教育で課題となっているさまざまな課題が研究対象になります。										
学修到達目標										
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。				事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討（1）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討（2）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討（3）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集（1）	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケートの作成など各自テーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。				検討結果を受けて最終的なテーマを設定する。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集（2）	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集（3）	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集（4）	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集（5）	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方（1）	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方（2）および論文の初稿を作成する（1）	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する（3）	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する（3）	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表（1）	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表（2）	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成します。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成します。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させて来る。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探究姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探究姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探究姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心をもつことが研究を深め視野を広げます。多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-18
担当者	川島 一夫		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日4限 後期：木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め卒業論文にまとめます。研究の領域は、社会性の発達を中心とした児童・生徒の発達に関する内容、不登校やいじめなどの学校および学校を中心とした教育場面での生徒指導に関する内容、臨床心理学を基礎とした子どもの問題行動に関する内容に分けることができます。また、学校に限らず子どもに関連する心理学的な内容であればどのような課題も研究の対象となります。さらに学際的な研究も可能です。										
学修到達目標										
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめることができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。				事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は持ち回りとする）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は持ち回りとする）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は持ち回りとする）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。				検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する(2)	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させて来る。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】」向後千春、富永敦子著（技術評論社） ISBN：978-4774137070 各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限、木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、児童・生徒の発達に関する内容、不登校やいじめなどの学校および学校を中心とした教育場面での生徒指導に関する内容、学級経営や学級集団づくりに関する内容に分けることができます。										
学修到達目標										
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得することができる。										
授業の進め方										
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。				事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は第1グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は第2グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は第3グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始します。				検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	プロットの最終検討と決定・論文の書き方	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方 および、論文の初稿を作成する	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を修正し、討議・指導された内容についてさらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。				プレゼンテーションの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させて来る。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：70% レポート：20% 受講態度：10% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の対象は学校教育に関わるすべての現象が含まれますが、データ取得して科学的に実証できるような研究方法を用いることが求められます。また、学校に限らず子どもに関連する心理学的な内容であれば、どのような課題も研究の対象となります。さらに、学際的な研究も可能です。										
学修到達目標										
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。課題の取り組みと研究の進行状況によって発表や討論を通して、受講者相互に問題点の問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。				事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第1グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第2グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	統計学の基礎知識	卒業研究に必要な統計学の基礎知識について総復習する。参考図書の内容で理解できていないところを確認し、学びなおす。				参考図書の内容を復習しておく。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。				検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する(2)	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を修正する。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させて来る。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
別途、指示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S：探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A：探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を理解し、優れた内容が論文作成されている。B：探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を理解し、論文作成されている。C：積極的に課題に取り組み、研究課題や方法がある程度理解し、論文作成されている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
別途、指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。積極的に自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-12
担当者	小島 哲也		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業研究にまとめます。障害のある子どもの心理または指導法の分野に限らず、特別支援教育に関連する内容であればどのような課題でも研究の対象になります。										
学修到達目標										
これまでの学習を活かし、研究を進め研究論文にまとめていくことができる。研究を進める上で必要となる論理的思考力、情報リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション等のスキルを獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じて継続的に行う個別指導が中心となります。同時に、受講生が相互に研究情報や問題点を共有し、多角的な視点で研究を深めながら論文完成を目指します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	専門ゼミナールの目的、事前事後学習の方法等について解説を行います。				研究テーマを明確にしておく。（4時間）				
2	卒論作成のスケジュール	卒論発表会までのスケジュールを確認して研究計画書の作成にとりかかります。				次回までに研究計画書を作成する。発表準備をしておく。（4時間）				
3	研究テーマ	各自の研究テーマを再確認します。				発表準備をしておく（4時間）				
4	研究テーマ	研究計画の発表を行います（Aグループ）。				発表準備をしておく（4時間）				
5	研究テーマ	研究計画の発表を行います（Bグループ）。				発表準備をしておく。資料・データ収集の状況を把握しておく。（4時間）				
6	資料・データ収集	資料・データ収集に関する個別指導を行います（Aグループ）。				発表準備をしておく。資料・データ収集の状況を把握しておく。（4時間）				
7	資料・データ収集	資料・データ収集に関する個別指導を行います（Bグループ）。				発表準備をしておく。資料・データ分析の状況を把握しておく。（4時間）				
8	資料・データ分析	資料・データ分析に関する個別指導を行います（Aグループ）。				発表準備をしておく。資料・データ分析の状況を把握しておく。（4時間）				
9	資料・データ分析	資料・データ分析に関する個別指導を行います（Bグループ）。				論文構成を検討しておく（4時間）				
10	論文構成	論文構成の指導を行います（Aグループ）。				論文構成を検討しておく（4時間）				
11	論文構成	論文構成の指導を行います（Bグループ）。				初稿の筋立てを検討しておく（4時間）				
12	論文初稿	初稿執筆に関する指導を行います（Aグループ）。				初稿の筋立てを検討しておく（4時間）				
13	論文初稿	初稿執筆に関する指導を行います（Bグループ）。				発表準備をしておく（4時間）				
14	論文初稿	初稿発表と内容検討を行います（Aグループ）。				発表準備をしておく（4時間）				
15	論文初稿	初稿発表と内容検討を行います（Bグループ）。				プレゼン資料の準備をする（4時間）				
16	中間発表	発表用プレゼン資料の作成指導を行います（Aグループ）。				プレゼン資料の準備をする（4時間）				
17	中間発表	発表用プレゼン資料の作成指導を行います（Bグループ）。				口頭発表原稿を作成しておく（4時間）				
18	中間発表	A,Bグループおよび3年ゼミ生が合同で卒論中間発表を行います。				発表会で明らかになった課題を整理しておく（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	論文第2稿	第2稿執筆に関する指導を行います（Aグループ）	指導内容をふまえ発表準備をしておく（4時間）
20	論文第2稿	第2稿執筆に関する指導を行います（Bグループ）。	指導内容をふまえ発表準備をしておく（4時間）
21	論文第2稿	第2稿発表と内容検討を行います（Aグループ）。	指摘事項を踏まえ最終稿の内容を検討しておく（4時間）
22	論文第2稿	第2稿発表と内容検討を行います（Bグループ）。	指摘事項を踏まえ最終稿の内容を検討しておく（4時間）
23	論文最終稿	最終稿＜序論＞執筆に関する指導を行います（Aグループ）。	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
24	論文最終稿	最終稿＜序論＞執筆に関する指導を行います（Bグループ）。	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
25	論文最終稿	最終稿＜本論＞執筆に関する指導を行います（Aグループ）。	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
26	論文最終稿	最終稿＜本論＞執筆に関する指導を行います（Bグループ）。	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
27	論文最終稿	最終稿完成のための指導を行います（A,Bグループ合同）。	指導事項を踏まえ修正加筆する。ゼミ発表の準備をしておく。（4時間）
28	卒論ゼミ発表	A,Bグループおよび3年ゼミ生が合同で卒論発表を行います。	指導事項を踏まえ修正加筆する。卒論発表の準備を始める。（4時間）
29	卒論ゼミ発表	卒業論文発表会のプレゼン用資料の作成指導を行います（A,Bグループ合同）。	指導事項を踏まえ卒論発表のプレゼン資料、口頭発表原稿を作成する。（4時間）
30	卒論ゼミ発表	卒業論文発表会における口頭発表を行います。	卒論冊子を2部作成する（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要な資料は個別に適宜紹介または配布します。		レポート：60% 課題：40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：研究課題を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって論文執筆にとり組んでいる。A：研究課題を理解し、探求姿勢をもって論文執筆にとり組んでいる。B：研究課題をおおよそ理解し、論文執筆に誠実に取り組んでいる。C：研究課題をある程度理解し、論文執筆に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
参考図書は個別に適宜紹介します。		授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限、木曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
これまで教職研究ゼミナールや授業で学んできた内容を基礎として、研究テーマを設定し研究を深め、卒業論文としてまとめます。研究の領域は、障がいのある子どもの余暇・健康・スポーツ支援に関わる分野で各自の研究テーマを設定し、先行研究・文献などにより課題を深めます。また、ムーブメント教育についての理解を深め、特別支援教育における運動発達支援について、広い視野から研究を進め論文を完成させます。										
学修到達目標										
基礎的な学習を活かして、卒業論文をまとめることができる。研究を進める過程で、論理的な思考力を身につけ、データを分析・考察する力を養い、論文発表に必要なプレゼンテーション能力を身につける。										
授業の進め方										
研究テーマの決定や研究の進め方などに関する個別指導と相互の研究を共有化するなどのグループでの学習を組み合わせ進めます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成の進め方の確認	卒業論文作成・発表のスケジュールを確認し、各自の研究計画作成に取り掛かります。				事前に研究テーマを明確にしておく。研究計画を作成する。(4時間)				
2	研究テーマの設定	研究テーマと設定理由について確認します。				研究テーマと設定理由を事前にレポートにまとめる。テーマの設定について再確認する。(4時間)				
3	先行研究の収集と分析(1)	先行研究・文献を参考として、研究テーマの概要および研究計画を作成します。				先行研究・文献を検索し、一覧を事前に作成する。テーマ概要の見直しと研究計画立案。(4時間)				
4	先行研究の収集と分析(2)	先行研究・文献を参考として、研究テーマの概要および研究計画を作成します。				先行研究・文献を検索し、一覧を事前に作成する。テーマ概要の見直しと研究計画立案。(4時間)				
5	研究テーマ・目的について相互に共有します。	研究構想のプレゼンテーションを行い、相互に問題点や課題を共有します。				研究構想のプレゼンテーションの準備を行う。研究構想の問題点・課題をまとめる。(4時間)				
6	研究目的の検討と文章化	研究目的の文章化を行い、検討します。				研究目的を文章化したレポートを準備する。研究目的の見直しを行う。(4時間)				
7	調査計画及び資料の収集(1)	研究目的・概要を踏まえて、調査計画を立案します。さらに、実施準備に関わる資料の収集を行います。				調査計画概要の事前準備。関連資料収集。調査計画の見直し、資料の読み直しを行う。(4時間)				
8	調査計画及び資料の収集(2)	研究目的・概要を踏まえて、調査計画を立案します。さらに、実施準備に関わる資料の収集を行います。				調査計画概要の事前準備。関連資料収集。調査計画の見直し、資料の読み直しを行う。(4時間)				
9	調査実施・データ収集(1)	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。				調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。(4時間)				
10	調査実施・データ収集(2)	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。				調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。(4時間)				
11	調査実施・データ収集(3)	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。				調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。(4時間)				
12	調査実施・データ収集(4)	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。				調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。(4時間)				
13	データ集計・分析(1)	調査結果の集計を行う。集計方法・分析方法の検討を行います。				収集したデータのとりまとめを行う。また分析結果の検討を行う。(4時間)				
14	データ集計・分析(2)	調査結果の集計を行う。集計方法・分析方法の検討を行います。				収集したデータのとりまとめを行う。また分析結果の検討を行う。(4時間)				
15	データ集計・分析(3)	調査結果の集計を行う。集計方法・分析方法の検討を行います。				収集したデータのとりまとめを行う。また分析結果の検討を行う。(4時間)				
16	論文の章立てと論文作成	論文の章立てを発表し合い、お互いに意見交換を行います。さらに論文の書き方について学び、「研究動機・目的」の作成に取りかかります。				章立てをレポートにまとめ準備する。論文の書き方を復習し「研究動機・目的」を書く。(4時間)				
17	結果の考察と検討および論文作成(1)	論文作成に取りかかります。結果の考察の検討を合わせて行います。				結果の考察と関連資料を収集する。論文作成に取りかかる。(4時間)				
18	結果の考察と検討および論文作成(2)	論文作成に取りかかります。結果の考察の検討を合わせて行います。				結果の考察と関連資料を収集する。論文作成に取りかかる。(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表の資料作成	中間発表の準備をします。プレゼンテーション資料の作成を行います。	中間発表の準備計画を行う。発表資料の確認と検討を行う。(4時間)
20	中間発表会	中間発表報告を行います。相互に問題点や課題などディスカッションを行い、意見交換でお互いに高め合います。	中間発表の準備をする。中間発表の反省を踏まえ、課題・検討事項をまとめる。(4時間)
21	論文執筆と内容の検討(1)	最終稿の作成に向けて、確認事項および執筆の個別指導を行います。	中間報告を受けて、修正・検討をする。論文を作成する。(4時間)
22	論文執筆と内容の検討(2)	最終稿の作成に向けて、確認事項および執筆の個別指導を行います。	中間報告を受けて、修正・検討をする。論文を作成する。(4時間)
23	卒業論文の最終稿の作成(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。(4時間)
24	卒業論文の最終稿の作成(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。(4時間)
25	卒業論文の最終稿の作成(3)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。(4時間)
26	卒業論文の最終稿の完成。	論文の最終稿を指導し、提出用の論文を最終点検します。	論文の最終確認と修正。(4時間)
27	ゼミ発表会の資料作成等準備	ゼミ発表会の資料作成など準備を行います。プレゼンテーション資料を作成し、最終確認をします。	ゼミ発表会の準備をしていく。プレゼンテーション資料の見直し・修正を行う。(4時間)
28	ゼミ発表会	ゼミ内で発表会を開催します。卒論発表会を想定し、最終チェックを行います。	ゼミ発表会の資料の準備をする。発表会後の検討・修正を行う。(4時間)
29	卒業論文発表会の資料作成・準備	発表会のプレゼンテーション準備を行う。発表資料の作成、最終確認を行う。	卒業論文発表会用の資料を作成していく。確認事項・検討内容の修正を行う。(4時間)
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷など総まとめを行います。	最終原稿を完成させていく。最後のまとめと最終処理を行う。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
各テーマに沿った資料を随時提示します。		レポート：80% 課題：20% S：探求姿勢を持って課題に取り組み、高度な論文が作成されている。A：意欲的に課題に取り組み、正しい表現で論文が作成されている。B：意欲的に課題に取り組み、研究内容をおおよそ理解し論文作成されている。C：これまでの研究をある程度理解し、論文作成されている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業の中で紹介します。		関心のあるテーマを探し、自ら課題を探求する姿勢を持ちましょう。関連図書を読み、意欲的に研究に取り組みましょう。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	AL46078	研究室	A-15
担当者	羽田 行男		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでに授業で学んだ内容をベースにして、研究課題や研究方法を探究し、それを卒業研究にまとめます。研究の領域は療育を含む教育の方法について、教育相談に関する臨床心理学について、神経発達障害を含む発達障害について等を範疇にしています。また、学校教育のほかにも、家庭教育に関連して、子育てや親育ちなどの課題についても研究対象にできます。										
学修到達目標										
これまでの学修を活かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめることができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考や情報リテラシーの能力や、パワーポイントを使ったプレゼンテーションに関する能力を獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じて、個人指導を実施します。また、課題の取り組みと研究の進捗状況に応じて、受講者が相互に卒業研究の課題を共有化し、多角的な視点から研究を再考したり、視座を広げたりしながら、論文の完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成のスケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認し、研究計画書の作成に取りかかります。				レポートを作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて再確認し、必要があれば変更や修正をします。				レポートを作成する。（4時間）				
3	研究内容・研究計画の検討（1）	研究内容や研究計画を発表し、相互に検討します。				レジュメを作成する。（4時間）				
4	研究内容・研究計画の検討（2）	研究内容や研究計画を発表し、相互に検討します。				レジュメを作成する。（4時間）				
5	研究内容・研究計画の検討（3）	研究内容や研究計画を発表し、相互に検討します。				レジュメを作成する。（4時間）				
6	資料・データの収集（1）	先行研究に関する資料・データを収集し、互いに発表し議論します。				レジュメを作成する。（4時間）				
7	資料・データの収集（2）	先行研究に関する資料・データを収集し、互いに発表し議論します。				レジュメを作成する。（4時間）				
8	資料・データの収集（3）	先行研究に関する資料・データを収集し、互いに発表し議論します。				レジュメを作成する。（4時間）				
9	論文構成を検討する（1）	論文の章立てを互いに検討し、意見を出し合います。				レジュメを作成する。（4時間）				
10	論文構成を検討する（2）	論文の章立てを互いに検討し、意見を出し合います。				レジュメを作成する。（4時間）				
11	論文の書き方を学ぶ（1）	論文の書き方について学び、「はじめに」研究動機や研究目的を執筆します。				原稿を書く。（4時間）				
12	論文の書き方を学ぶ（2）	論文の書き方について学び、「はじめに」研究動機や研究目的を執筆します。				原稿を書く。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する（1）	研究の方法等に関する原稿を執筆します。				原稿を書く。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する（2）	研究の方法等に関する原稿を執筆します。				原稿を書く。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる	夏休みの研究計画・執筆計画を立てます。				レポートを書く。（4時間）				
16	論文初稿の発表（1）	初稿原稿を発表し合い、全員で検討します。				発表用レジュメを作成する。（4時間）				
17	論文初稿の発表（2）	初稿原稿を発表し合い、全員で検討します。				発表用レジュメを作成する。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーションの資料作成	プレゼンテーション用の資料を作成し、発表練習をします。				プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表	中間発表を行い、発表内容について検討します。	振り返りのレポートを作成する。（4時間）
20	論文第2稿を作成する（1）	論文の第2稿を執筆します。	原稿を執筆する。（4時間）
21	論文第2稿を作成する（2）	論文の第2稿を執筆します。	原稿を執筆する。（4時間）
22	論文第2稿を作成する（3）	論文の第2稿を執筆します。	原稿を執筆する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	第2稿を発表し合い、全員で検討します。	原稿を修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する（1）	論文の最終稿を個別指導します。	原稿を修正・推敲する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する（2）	論文の最終稿を個別指導します。	原稿を修正・推敲する。（4時間）
26	論文の最終稿を作成する（3）	論文の最終稿を個別指導します。	原稿を修正・推敲する。（4時間）
27	ゼミ発表会用プレゼンテーション資料を作成する	合同ゼミの発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成し、発表練習をします。	プレゼンテーション用の資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生の合同ゼミで研究論文の内容を発表し、最終点検をします。	振り返りのレポートを作成する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	卒業論文発表会用のプレゼンテーション資料を作成し、発表練習をします。	振り返りのレポートを作成する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業研究の総まとめをし、研究の成果を確認します。	卒業論文の最終点検をする。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		レポート：50% 課題：50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		教育に関する課題を自ら発見し、探究する姿勢が求められます。授業担当者は、臨床心理士として公立の教育機関や学校において教育相談に従事しました。公認心理師。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ <sup>®</sup> リング	AL46078	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限、金曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
これまでのゼミナールで学んだ内容をさらに深めて行き、北米の文化や社会に関する卒業論文を書き上げます。										
学修到達目標										
論理的思考に基づいた論旨が明確な文書表現ができる。多角的な視点から物事を捉えることができる。説得力の高いプレゼンテーションができる。										
授業の進め方										
個々の研究テーマに対応するため、個別指導が中心となります。そして適宜、研究の進捗状況に関して発表や討論を行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文執筆のスケジュール	執筆完了までの大まかなスケジュールを確認します。				研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの確認	研究テーマに関して、その具体性の検討を行います。				研究テーマを再確認し、授業後、必要であれば変更を考える。（4時間）				
3	研究テーマの検討	先行文献を調べ熟読し、研究テーマを検討します。				先行文献を通して、自らの研究テーマを確認する。（4時間）				
4	研究テーマの検討	先行文献を調べ熟読し、研究テーマを検討します。				先行文献を通して、自らの研究テーマを確認する。（4時間）				
5	研究テーマの検討	先行文献を調べ熟読し、研究テーマを検討します。				先行文献を通して、自らの研究テーマを確認する。（4時間）				
6	資料・データの収集	必要な資料・データを検討し収集します。				各自、必要な資料・データの収集を行う。（4時間）				
7	資料・データの収集	必要な資料・データを検討し収集します。				各自、必要な資料・データの収集を行う。（4時間）				
8	卒業論文の構成を検討	卒業論文の全体像を視野に入れ、構成を検討します。				各自、卒業論文の構成を考える。（4時間）				
9	章立ての検討	具体的に各章立てを行います。				各自、章立てを考える。（4時間）				
10	章立ての検討	具体的に各章立てを行います。				各自、章立てを考える。（4時間）				
11	章立ての決定	章立てを最終決定します。				各自、章立てに関して最終的な検討をする。（4時間）				
12	卒業論文の初稿を作成	卒業論文の初稿を作成します。（論文の書き方については指導します）				卒業論文の執筆。（4時間）				
13	卒業論文の初稿を作成	卒業論文の初稿を作成します。（論文の書き方については指導します）				卒業論文の執筆。（4時間）				
14	卒業論文の初稿を作成	卒業論文の初稿を作成します。（論文の書き方については指導します）				卒業論文の執筆。（4時間）				
15	夏休み中の執筆計画	夏休み中に初稿を完成できるように、執筆計画を立てます。				夏休み中の執筆計画を検討する。（4時間）				
16	卒業論文初稿の発表	初稿を相互に読み合い討議します。				卒業論文の初稿を完成させる。（4時間）				
17	卒業論文初稿の発表	初稿を相互に読み合い討議します。				卒業論文の初稿を完成させる。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーションの準備	現時点での卒業論文に関するプレゼンテーションの準備のため資料作成を行います。				プレゼンテーションの資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、内容について検討します。	プレゼンテーションの資料を完成する。（4時間）
20	卒業論文の第2稿の作成	第2稿に関して、個別指導を行います。	第2稿を作成する。（4時間）
21	卒業論文の第2稿の作成	第2稿に関して、個別指導を行います。	第2稿を作成する。（4時間）
22	卒業論文の第2稿の作成	第2稿に関して、個別指導を行います。	第2稿を作成する。（4時間）
23	卒業論文第2稿の発表	第2稿を発表し、相互に検討します。	各自、発表の準備をし、検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	卒業論文の最終稿の作成	卒業論文の最終稿に関して個別指導します。	最終稿を作成する。（4時間）
25	卒業論文の最終稿の作成	卒業論文の最終稿に関して個別指導します。	最終稿を作成する。（4時間）
26	卒業論文の最終稿の完成	最終稿を完成させ、卒業論文提出の準備をします。	最終稿を完成させる。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料の作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会のために、プレゼンテーションの資料を作成します。	プレゼンテーションの資料を作成する。（4時間）
28	合同ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行います。	プレゼンテーションの資料を完成する。（4時間）
29	卒業論文発表会の準備	卒業論文発表会の資料の準備を行います。	卒業論文発表会の準備をする。（4時間）
30	まとめ	卒業論文の印刷等、卒業研究に関する総まとめを行います。	印刷原稿を完成させる。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜、必要な資料を配布します。		課題：30% 卒業論文：70% S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待通りである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜、紹介します。		卒業論文の執筆を通して、何かを明らかにするという調査・研究の面白さを感じてもらえればと思います。論文作成を楽しんでください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）	学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦	必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）							
	A B C								
授業概要									
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、道徳教育に関する内容、学校場面での生徒指導に関する内容、特別活動に関する内容に分けることができます。また、学校に限らず子どもに関連する道徳性の育成に関する内容であれば、どのような課題も研究の対象となります。									
学修到達目標									
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。									
授業の進め方									
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）			
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。				事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）			
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討します。（担当は第1グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）			
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討します。（担当は第2グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）			
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討します。（担当は第3グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）			
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始します。				検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）			
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）			
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）			
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）			
10	章立てを検討する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）			
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）			
12	論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）			
13	論文の初稿を作成する(2)	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）			
14	論文の初稿を作成する(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）			
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）			
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）			
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）			
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）			

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒業発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させて来る。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探究姿勢を持って課題に取り組み、研究や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探究姿勢を持って課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探究姿勢を持って課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日2限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
<p>教職研究ゼミナールの学修を基礎とし、専門と結びついた卒業論文の作成を目指すゼミナールでの学修の集大成です。体育研究の基本的な考え方や研究方法を理解し、研究テーマを選定し追究していくことで、体育の専門的知識を獲得していきます。また、自らの研究テーマを探究するとともに、体育・スポーツに関する多様なテーマを研究する学生同士が仲間の研究テーマについても有機的に関わることで、体育・スポーツの幅広い知識と、そこで得た知識を背景とした高い指導力を身につけます。</p>										
学修到達目標										
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践、先行研究の検討、研究方法の検討、研究資料の収集・分析・考察を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究に取り組むことができる。その成果を卒業論文にまとめるとともに発表できる。</p>										
授業の進め方										
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践、先行研究の検討、研究方法の検討、研究資料の収集・分析・考察を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究を進めます。</p>										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	教職研究ゼミナールの学修から、卒業論文についてのテーマを決定し、研究計画の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて再確認し、研究が可能かどうかを確認します。				研究テーマの確認をし、授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討（1）	各自の研究テーマについての先行研究や文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。				発表者は発表準備をする。発表内容について自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討（2）	各自の研究テーマについての先行研究や文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。				発表者は発表準備をする。発表内容について自分なりに調べる。（4時間）				
5	資料・データの収集（1）	資料・データの収集に関して個別指導します。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
6	資料・データの収集（2）	資料・データの収集に関して個別指導します。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
7	論文の章立て検討（1）資料・データの収集（3）	論文の構成について全体指導し、各自で章立てを考えます。資料・データの収集に関して個別指導します。				論文の構成を考えてくる。各自のテーマに応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
8	論文の章立て検討（2）資料・データの収集（4）	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。資料・データの収集に関して個別指導します。				論文の構成を考えてくる。各自のテーマに応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
9	論文の章立て最終検討と決定。資料・データの収集（5）	章立てを決定します。論文の書き方について復習をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
10	論文の書き方（1）	論文の書き方を指導し、第1章「はじめに（研究の動機、目的）」の作成に取り掛かります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
11	論文の書き方（2）	第1章を互いに読み合い、内容や書き方について検討します。				事前に第1章を作成する。結果に基づき修正をする。（4時間）				
12	論文の初稿を作成する（1）	第2章「研究の方法」について互いに読み合い、内容や書き方について検討します。				事前に第2章を作成する。結果に基づき修正をする。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する（2）	資料やデータの収集状況を確認し、どのようにまとめていくかの検討をし個別指導します。				資料やデータの整理をする。まとめ方を考えておく。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する（3）	資料やデータの収集状況を確認し、どのようにまとめていくかの検討をし個別指導します。				資料やデータの整理をする。まとめ方を考えておく。（4時間）				
15	前期まとめ	前期の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆についての計画を練り直します。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文の初稿発表（1）	論文の初稿を互いに読み合い、討議します。合わせて個別指導を行います。				論文の初稿を完成させる。討議・指導された内容について加筆修正する。（4時間）				
17	論文の初稿発表（2）	論文の初稿を互いに読み合い、討議します。合わせて個別指導を行います。				論文の初稿を完成させる。討議・指導された内容について加筆修正する。（4時間）				
18	中間発表準備	中間発表に向けて、プレゼンテーションの準備をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表	中間発表を行い、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文第2稿を作成する（1）	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文第2稿を作成する（2）	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文第2稿を作成する（3）	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文の第2稿の発表	論文の第2稿を発表し、検討します。	論文の第2稿を完成し、発表準備をする。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する（1）	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する（2）	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を作成する（3）	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
27	プレゼンテーション作成	ゼミ発表会に向けて、プレゼンテーションを作成します。	プレゼンテーションの作成と修正をする。（4時間）
28	ゼミ発表会	作成したプレゼンテーションを発表し合い、相互に検討をします。	ゼミ発表用のプレゼンテーション準備と修正をする。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーションの資料を作成します。	卒論発表会用のプレゼンテーション資料を完成させる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状作成など、卒業研究の総まとめをします。	印刷原稿を完成させる。礼状などの準備をする。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「体育科教育の現在」日本体育科教育学会編 ISBN:987-4-86413-020-2（生協で購入してください。）		レポート：50% 受講態度：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、優れた論文が書ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや優れた論文が書ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に合った論文が書ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に対し論文が書ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「新版 体育科教育学入門」高橋健夫他編（大修館書店） 「体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」高橋健夫著（明和出版）		体育・スポーツの歴史や文化を知り、「これから求められる体育学習」について考えていきましょう。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日5限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、理科教育に関する内容であれば、学校に限らず科学史や教育史、社会教育等との関連からの研究も可能です。											
学修到達目標											
これまでの学修を生かして研究を進めるとともに、研究を進めていく上で必要となる論理的思考や情報リテラシー等の能力、プレゼンテーション能力等、論文作成や発表に必要な能力を身につけ、卒業論文としてまとめることができる。											
授業の進め方											
研究テーマに応じた個別指導が中心となります。課題の取り組みと研究の進行状況によって、発表や討論を通して受講者が相互に問題を共有し、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文の完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にし、事後に研究計画書を作成する(4時間)。				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どんな方法で」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、必要に応じて修正します。					事前に研究計画書を概観し、事後に計画書を見直す(4時間)。				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究計画や研究テーマについて調べた内容について発表し、全体で討論しながら検討します。					事前に発表者は発表準備をし、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究計画や研究テーマについて調べた内容について発表し、全体で討論しながら検討します。					事前に発表者は発表準備をし、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究計画や研究テーマについて調べた内容について発表し、全体で討論しながら検討します。					事前に発表者は発表準備をし、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
6	研究テーマの最終検討	研究テーマ及び研究計画の最終検討を行い、以後は、先行研究や文献の検索、データの分析等、各自の計画に合わせて進めます。					事前に進捗状況を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
7	資料・データの収集(1)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
8	資料・データの収集(2)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
9	資料・データの収集(3)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
10	資料・データの収集(4)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
11	論文の構成(1)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えたり、見直したりします。					事前に章立てを考え、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
12	論文の構成(2)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えたり、見直したりします。					事前に章立てを考え、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
13	論文の初稿の作成(1)	第1章から順番に相互に読み合い、内容及び書き方や言い回しについて検討します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
14	論文の初稿の作成(2)	前時の続きから順番に相互に読み合い、内容及び書き方や言い回しについて検討します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
15	夏休み中の研究・執筆計画	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
16	論文の初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い検討するとともに、個別指導で論点を確認します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
17	論文の初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い検討するとともに、個別指導で論点を確認します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成するとともに、全体指導と個別指導を行います。					事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で発表内容について検討します。	事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。
20	論文の第2稿の作成(1)	論文の第2稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
21	論文の第2稿の作成(2)	論文の第2稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
22	論文の第2稿の作成(3)	論文の第2稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
23	論文の第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表するとともに、相互に検討します。	事前に発表準備をしておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
24	論文の最終稿の作成(1)	論文の最終稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
25	論文の最終稿の作成(2)	論文の最終稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
26	論文の最終稿の完成	論文の最終稿を完成させるとともに、提出用の卒業論文を相互に点検します。	事前に論文を完成させておき、事後に最終点検に応じて修正する(4時間)。
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料の作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。
28	ゼミ発表会	3・4年生合同ゼミにおける発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料等の完成	各自の発表に向けて、プレゼンテーション資料や原稿等の資料の準備を整えます。	事前に準備を整えておき、事後に最終点検をする(4時間)。
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成等、卒業研究の総まとめを行います。	事前に印刷原稿を完成させ、事後に礼状を送付する等の事務的な処理を確実に(4時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
特になし。		課題：30% レポート：30% 受講態度：40% S:到達目標の達成のために探究姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書等を指示します。		課題について自ら探究して行く姿勢が大切で、できるだけ多くの関連図書を読んだり、自他の研究内容に関心をもって積極的に討議したりすることが研究を深め広げる上で重要なこととなります。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	AL46078	研究室	A-06
担当者	秋田 真		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：火曜日5限 後期：火曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
授業実践及び分析より、実践論文を完成させていきます。主に先行研究の読み方や研究授業の組み立て方、授業後の質的分析法などを学びます。これらを通して、授業が有効であったかどうかを元実践論文にまとめ、卒業論文とします。										
学修到達目標										
研究テーマをもち、授業実践ができる。さらに、授業を分析する力を身に付けている。そして、実践論文を書くことができる。										
授業の進め方										
研究計画作成、授業計画作成、論文作成等は単学年でのゼミ形式で行います。また、前期は先行研究の整理や授業実践及び協議会を3学年と共に行います。後期は4学年単独で行いますが、ゼミ内の発表会や地域授業・社会見学等では2・3学年と共に行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業研究専門ゼミナール概要	本授業の目的及び授業の流れを確認します。				見通しを立て研究を進めるために、4年次の計画を作成すること。（4時間）				
2	先行研究の整理(1)	教科書を用いた先行研究の分析について学びます。				自分の研究と関連するページを学習指導要領と共に確認しておくこと。（4時間）				
3	先行研究の整理(2)	小学校研究紀要を用いた先行研究の分析について学びます。				自分の研究と関連するページを学習指導要領と共に確認しておくこと。（4時間）				
4	先行研究の整理(3)	教育実践論文を用いた先行研究の分析について学びます。				自分の研究と関連するページを学習指導要領と共に確認しておくこと。（4時間）				
5	研究計画省察	先行研究の整理より、これまでの研究計画を見直し、見通しを立てます。				研究計画が妥当かどうかについて見直し、指摘については修正しておくこと。（4時間）				
6	論文章立て(1)	論文の章立てと検討を行います。				章立て案を作成してくること。また、節・項以下についても検討すること。（4時間）				
7	論文章立て(2)	論文の章立てと検討を行います。				章立て案を作成してくること。また、節・項以下についても検討すること。（4時間）				
8	論文章立て(3)	論文の章立てと検討を行います。				章立て案を作成してくること。また、節・項以下についても検討すること。（4時間）				
9	授業実践モデルの検討(1)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（目標と中心発問）				論文の中核となる指導案を作成し、見直すこと。（4時間）				
10	授業実践モデルの検討(2)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（児童の必要感と導入）				指導案について指摘されたことを見直し、完成を目指すこと。（4時間）				
11	授業実践モデルの検討(3)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（展開）				指導案について指摘されたことを見直し、完成を目指すこと。（4時間）				
12	授業実践モデルの検討(4)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（省察の有効性）				指導案について指摘されたことを見直し、完成を目指すこと。（4時間）				
13	模擬授業(1)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。				模擬授業の練習をしておくこと。また、指摘された点について、再検討すること。（4時間）				
14	模擬授業(2)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。				模擬授業の練習をしておくこと。また、指摘された点について、再検討すること。（4時間）				
15	中間発表準備(1)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。				中間発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。（4時間）				
16	中間発表準備(2)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。				中間発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。（4時間）				
17	ゼミ中間発表会	これまでの研究をまとめ、ゼミにおいて発表を行います。				中間発表会で指摘されたことについて検討し、加除・修正すること。（4時間）				
18	授業実践報告(1)	実践した授業について報告・検討を行います。				授業実践について、論文との関わりを明確にしなが説明できるようにしておくこと。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	授業実践報告(2)	実践した授業について報告・検討を行います。	授業実践について、論文との関わりを明確にしながら説明できるようにしておくこと。（4時間）
20	地域授業実践研究	地域で行われる社会科授業の見学及び検討会参加を行います。	授業記録や研究協議会での発言内容を振り返り、参考にすべき点をまとめること。（4時間）
21	地域教材研究(1)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学に対する事前の調査や、質問等を考えておくこと。（4時間）
22	地域教材研究(2)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学で学んだことを整理し、単元の中にどのように組み込むのかを想定すること。（4時間）
23	論文概要発表	卒業論文の概要について発表します。	これまでの研究計画や授業実践を踏まえ、卒業論文の概要を発表できるようにすること。（4時間）
24	論文作成(1)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。（4時間）
25	論文作成(2)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。（4時間）
26	論文作成(3)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。（4時間）
27	論文作成(4)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。（4時間）
28	卒業論文発表準備(1)	卒業論文発表会に向けて、資料作成やプレゼンの準備を行います。	卒論発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。（4時間）
29	卒業論文発表準備(2)	卒業論文発表会に向けて、資料作成やプレゼンの準備を行います。	卒論発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。（4時間）
30	ゼミ卒業論文発表会	これまでの研究をまとめ、ゼミにおいて発表を行います。	卒論発表会で指摘されたことについて検討し、加除・修正すること。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
なし。		課題：50% 卒業研究論文：50% S: 先行研究より問題点を絞り、授業実践を通し、児童の姿から指導の効果を明らかとした実践論文を作成できる。A: 一般的な学習の課題から授業実践を行い、児童の姿より指導の効果を明らかとした実践論文を作成できる。B: ねらいを明確にした授業実践を行い、児童の姿より指導の効果を考察した実践論文を作成できる。C: 授業実践を行い、児童の姿を考察した実践論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
なし。		地域へ出たの見学等については、見学先の都合により予定が前後することがあります。また、採用試験等も実施されると思いますので、見直しを持って取り組んで下さい。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	AL46078	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：木曜日3限 後期：月曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究は、3年次までのテーマを具体化し、文章例をたくさん集めて選択し、論の組み立てを工夫していきます。卒業論文を仕上げます。										
学修到達目標										
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシー能力、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。作家研究を進め、先行研究の調査や分析、考察を行って卒業論文を書き上げることができる。										
授業の進め方										
個別指導を行うと同時に、課題の取り組みと研究の進行状況によって口頭発表や文書による発表、討論を行い、相互の問題を共有し助言し合います。共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールと、卒業論文提出までのスケジュールを確認し、研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて、「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究範囲を確認します。				事前研究の内容について外観して外観しておく。授業を、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。内容について、相互に検討します。				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。内容について、相互に検討します。				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。内容について、相互に検討します。				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行います。また、先行研究、文献、アンケート作成などの各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始します。				検討結果を受けて、最終的なテーマの設定をする。資料・データ収集の準備をする。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導します。				各自のテーマ内容に応じた資料・データ収集を進める。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導します。				各自のテーマ内容に応じた資料・データ収集を進める。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導し、各自で章立てを考えます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導します。				事前に論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
10	章立てを決定する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導します。				章立てを考え発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定、論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、初稿の作成(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	初稿の作成(2)	第1章について相互に読み合い、執筆内容について検討します。				事前に第1章を執筆し、検討結果に基づき修正する。（4時間）				
14	初稿の作成(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容及び書き方について検討します。				事前に第2章をまとめておき、検討結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成するようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い、討議します。				初稿を完成してくる。討議・指導された内容について加筆・修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文初稿を相互に読み合い討議します。				初稿を完成してくる。討議・指導された内容について加筆・修正を行う。（4時間）				
18	中間発表資料の作成	中間発表会に向けて、発表資料を作成します。				初稿に基づき、発表資料の構想を練る。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行います。ゼミナールの3年生も含めた形で行い、発表内容について検討します。	発表資料・プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）
20	論文第2稿の作成(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文第2稿の作成(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文第2稿の作成	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の題2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させる。発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文最終稿の作成(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文最終稿の作成(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文最終稿の作成(3)、提出準備の完了	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検を踏まえ修正する。（4時間）
27	ゼミ発表会の発表資料の作成	3.4年合同ゼミにおける発表会に向けて、資料を作成します。	発表資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3.4年合同のゼミ発表会を行い、最終チェック並びに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒業論文発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総合的まとめを行います。	印刷原稿を完成させる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料・書籍を提示します。		課題：70% 実技：20% レポート：10% 卒業論文：80%。S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。 欠席8回で単位を認定しません。遅刻・早退2回で1回の欠席となります。30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を示します。研究する作家の全集の購入を義務づけます。参考資料等は状況に応じて紹介します。必要な先行文献等は自費で購入する必要があります。		積極的に自らの研究内容を示すことはもちろん、仲間の研究に関心を持ち、論理的・批判的に発言すること研究の視野を広げます。多くの関連図書を読むことも必須です。担当教員の講演先等へ出かける学びを予定しています。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限 後期：月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
これまでのゼミナールの理解を振り返り、新しい先行研究や文献を理解して、卒業論文を執筆します。第二言語教育分野、またその学校への応用について考え、論文をまとめます。										
学修到達目標										
計画的に論文を執筆する能力、論理的思考と批判的思考による文章を書く能力、それを効果的に発表するために必要な能力を獲得している。										
授業の進め方										
発表や進捗状況による個別対応方式の授業形態です。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	論文執筆の計画	論文を執筆していく大まかな計画について検討する。				計画が決定し次第、その計画に沿って先行研究の収集や文献講読をする。(4時間)				
2	研究テーマ確認	研究テーマについて、どのように追及していくのか、研究が可能であるかを検討、確認する。				研究テーマについて事前に明確にしておく。(4時間)				
3	研究テーマ検討 1	先行研究について調べ、それを読み、研究テーマを検討する。				先行研究を調べ、それを読み、自身の研究テーマを明確にする。(4時間)				
4	研究テーマ検討 2	先行研究について調べ、それを読み、研究テーマを検討する。				先行研究を調べ、それを読み、自身の研究テーマを明確にする。(4時間)				
5	研究テーマ検討 3	先行研究について調べ、それを読み、研究テーマを検討する。				先行研究を調べ、それを読み、自身の研究テーマを明確にする。(4時間)				
6	資料・データ収集 1	卒業論文執筆に必要な先行研究や文献、資料等を検討し収集する。				研究テーマに関する文献や資料を読み、必要な資料をリストアップする。(4時間)				
7	資料・データ収集 2	卒業論文執筆に必要な先行研究や文献、資料等を検討し収集する。				研究テーマに関する文献や資料を読み、必要な資料をリストアップする。(4時間)				
8	卒業論文構成作成 1	卒業論文の構成を考え、骨子を作成する。				研究の流れを明確にしておく。				
9	卒業論文構成作成 2	卒業論文の構成を考え、骨子を作成する。				研究の流れを明確にしておく。(4時間)				
10	初稿作成 1	卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。(4時間)				
11	初稿作成 2	卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。(4時間)				
12	初稿作成 3	卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。(4時間)				
13	初稿作成 4	卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。(4時間)				
14	初稿作成 5	卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。(4時間)				
15	長期休業中の研究・執筆計画	長期休業中の研究・執筆計画について考え、計画を立てる。				長期休業中に計画通り研究・執筆を行う。(4時間)				
16	第二稿作成 1	長期休業中の進捗を確認し、第二稿の作成を行う。				卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)				
17	第二稿作成 2	卒業論文の進捗を確認し、第二稿の作成を行う。				卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)				
18	卒業論文中間発表準備	卒業論文中間発表準備を行い、論文の進捗状況を理解する。				卒業論文中間発表の準備を行う。(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文中間発表	卒業論文の中間発表を行う。	卒業論文中間発表の準備を行う。 (4時間)
20	第二稿作成 3	個別指導で修正をチェックし、第二稿の作成を行う。	卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)
21	第二稿作成 4	個別指導で修正をチェックし、第二稿の作成を行う。	卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)
22	第二稿作成 5	個別指導で修正をチェックし、第二稿を完成させる。	卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)
23	卒業論文最終稿への準備	卒業論文最終稿を作成するために詳細な部分について形式等を整える。	最終稿を作成し、全体の統一を図る。(4時間)
24	卒業論文最終稿作成 1	卒業論文の最終稿に関し、個別指導を行う。	最終稿の作成。(4時間)
25	卒業論文最終稿作成 2	卒業論文の最終稿に関し、個別指導を行う。	最終稿の作成。(4時間)
26	ゼミ発表会準備	ゼミでの発表会の資料等の準備を行う。	ゼミ発表会準備をする。(4時間)
27	ゼミ発表会	ゼミでの発表会を行い、発表形式に慣れる。	ゼミ発表会準備をする。(4時間)
28	卒業論文発表会準備 1	卒業論文発表会の資料の準備やパワーポイント作成をする。	卒業論文発表会の準備をする。 (4時間)
29	卒業論文発表会準備 2	卒業論文発表会の資料の準備やパワーポイント作成をする。	卒業論文発表会の準備をする。 (4時間)
30	まとめ	卒業論文の印刷等、卒業論文に関するまとめを行います。	卒業論文完成・印刷、その後の対応を行う。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
とくになし。		課題：20% 卒業論文：80% S：卒業論文のテーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：卒業論文のテーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：卒業論文のテーマに関し探求し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：卒業論文のテーマに関し理解し、課題に誠実に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		必ず期日には課題を提出する責任感が必要です。先を見通し、計画的に進めてください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は人間の発達における音楽教育の意義、学校教育における学習や様々な音楽活動、また地域社会における伝統行事としての音楽活動など、様々な課題が研究対象になります。										
学修到達目標										
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができることです。同時に研究を進めていく上で必要とされる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得していることです。										
授業の進め方										
研究テーマに応じて個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して受講者相互に問題点の共有を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取り掛かります。				研究テーマを明確にしておく。次回までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマと研究方法の再確認	研究テーマについて「何を」「どの方法で」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、研究計画書を見直します。				研究テーマの内容について概観し、研究計画書を見直す。（4時間）				
3	研究計画書の発表	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表し、全員で討議します。				発表の準備をする。（4時間）				
4	資料等の収集	各自の研究テーマに沿って文献・教材など資料収集に関する個別指導をします。				各自の研究テーマに応じて必要な資料や教材を収集する。（4時間）				
5	論文構成の検討	論文の書き方、構成の仕方について全体指導後、各自で作業を進めます。				論文の構成について考えてくる。（4時間）				
6	章立ての検討(1)	章立てについて全体指導後、個別指導します。				章立てについて考えてくる。（4時間）				
7	章立ての検討(2)	章立てについて個別指導します。				章立てについて考えてくる。（4時間）				
8	章立ての決定と、論文構成の発表	各自決定した論文構成を発表し、全員で討議します。				章立ての発表準備をしておく。（4時間）				
9	論文の書き方 第1章	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに(研究の動機、目的)」の作成に取り掛かります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
10	論文の書き方 第2章	引き続き、第1章「はじめに(研究の方法)」の執筆を進めます。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
11	論文の書き方の検討	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				第2章まで執筆作業を進める。検討後、修正する。（4時間）				
12	論文の初稿作成(1)2章	引き続き個別指導しながら第2章の初稿作成を進めます。				初稿の執筆を進める。（4時間）				
13	論文の初稿作成(2)3章	引き続き個別指導しながら第3章の初稿作成を進めます。				初稿の執筆を進める。（4時間）				
14	論文の初稿作成(3)4章	引き続き個別指導しながら論文の初稿作成を進めます。				初稿の執筆を進める。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や執筆について計画を練り直し、初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い、討議します。併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成させてくる。討議後、加筆修正する。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い、討議します。併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成させてくる。討議後、加筆修正する。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーションの準備	中間発表に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受けプレゼン資料を作成する。（4時間）				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成させてくる。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	中間発表の検討を受け、第2稿を個別指導します。	加筆修正しながら第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	中間発表の検討を受け、第2稿を個別指導します。	加筆修正しながら第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	中間発表の検討を受け、第2稿を個別指導します。	加筆修正しながら第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表の準備をしてくる。検討後、修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	最終稿完成と提出準備	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成させてくる。最終点検に心じて修正する。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同ゼミにおける発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成させてくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用のプレゼン資料を完成させてくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめをします。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて必要な資料を個別に提示します。		課題：20% レポート：80% S:探求姿勢を持って課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢を持って課題に取り組み、研究内容が論文作成されている。B:探求姿勢を持って課題に取り組み、研究について概ね理解し論文を作成できる。C:これまでの研究を理解し論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を提示します。		課題を自ら探求していく姿勢が大切です。また積極的に自分の研究内容について発表するとともに、仲間の研究にも関心を持つことで研究を深く視野を広げます。卒論完成に向けて計画的に進めてください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-04
担当者	佐藤 茂太郎		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日3限、金曜日1限、金曜日2限、金曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基盤として、研究内容、方法を深めます。そして、論文にまとめます。研究領域は、算数・数学教育学に関わる内容とします。現状の指導の問題点は何か、それに対する手立てや具体的な指導方法をまとめていきます。実際の現場での経験を生かしながら進めていきます。										
学修到達目標										
これまでの学修を生かして研究を深めることができる。「なぜ」に対する正対した議論ができるように論理的思考力を高める。文章表現力、プレゼンテーション能力を身につけている。										
授業の進め方										
研究内容に応じた個別指導が中心となります。また、進捗状況によっては、中間発表や仲間との議論を通して受講者同士の相互活動を行います。そして、論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒論発表会までのスケジュール確認をします。研究計画書の作成を進めます。				研究テーマを明確にしておく。次回までに計画書を作成。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて研究が可能かどうか確認します。				研究テーマを概観しておく。研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討（1）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、相互評価します。				発表準備を行う。発表された内容を自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討（2）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、相互評価します。				発表準備を行う。発表された内容を自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討（3）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、相互評価します。				発表準備を行う。発表された内容を自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討資料・データの収集（1）	研究テーマ及び研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて資料・データ収集を開始します。				最終的にテーマを決定する。資料・データの収集を行う。（4時間）				
7	資料・データの収集（2）	資料・データ収集に関して個別指導を行います。				テーマ内容に応じた資料・データの収集を行う。（4時間）				
8	資料・データの収集（3）	資料・データ収集に関して個別指導を行います。				テーマ内容に応じた資料・データの収集を行う。（4時間）				
9	論文構成を考える資料・データの収集（4）	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導を行います。				論文構成を考えてくる。資料・データの収集を行う。（4時間）				
10	章立てを検討資料・データの収集（5）	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導を行います。				章立ての発表準備を行う。資料・データの収集を行う。（4時間）				
11	章立ての決定論文の書き方（1）	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方（2）論文初稿作成（1）	第1章「はじめに」の内容の、研究の動機、目的の作成に取り掛かります。				第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文初稿（2）	第1章について、相互評価し合いながら検討していきます。				第1章を執筆、修正する。（4時間）				
14	論文初稿（3）	第2章「研究の方法」について、相互評価し合いながら検討していきます。				第2章を執筆する。また、修正する。（4時間）				
15	夏季休業中の計画を立てる	夏季休業中にどんなことを行うか確認し、休業後に初稿が完成できるようにします。				夏季休業中の計画を立てておく。（4時間）				
16	論文初稿発表（1）	論文の相互評価を基に議論し深めていきます。場合によっては、個別指導を行います。				論文初稿の完成。加筆修正を行っていく。（4時間）				
17	論文初稿発表（2）	論文の相互評価を基に議論し深めていきます。場合によっては、個別指導を行います。				初稿の修正、加筆を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体や個別の指導を行います。				初稿に基づきプレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行います。ゼミナールの3年生も含めた形で発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成させておく。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する（1）	論文の第2稿を指導します。場合によっては相互評価をしていきます。	論文第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する（2）	論文の第2稿を指導します。場合によっては相互評価をしていきます。	論文第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する（3）	論文の第2稿を指導します。場合によっては相互評価をしていきます。	論文第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文第2稿の発表を行い、相互評価します。	論文第2稿の完成、検討後の修正。（4時間）
24	論文の最終稿を作成（1）	論文最終稿を個別指導します。場合によっては、相互評価します。	論文最終稿の作成を行う。（4時間）
25	論文の最終稿を作成（2）	論文最終稿を個別指導します。場合によっては、相互評価します。	論文最終稿の作成を行う。（4時間）
26	論文最終稿完成 提出準備完了	論文の最終稿を指導します。また、相互評価します。	最終稿の完成、加筆修正する。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3,4年生の合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3,4年生の合同ゼミにおける発表会を行い、最終チェック並びに相互評価します。	ゼミ発表の準備を行う。内容の加筆修正を行う。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	プレゼンテーション資料を完成させてくる。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じた資料を作成する場合があります。保管を確実に行ってください。		課題：20% レポート：80% S：授業内容を高度に理解する。また、クリティカルに物事を捉え、論理的に考えることができる。さらに、探究心をもち自ら課題を設定して取り組むことができる。A：授業内容を理解する。また、クリティカルに物事を捉え考えることができる。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。B：授業内容を概ね理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。C：授業内容を60%程度理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
随時、参考図書を示します。必要な文献は自身で用意することも大切になってきます。		机上の空論にならないようにしたいと思います。授業を分析する力も身に付けてもらいます。実際の授業をさせていただく学校を見つけていきましょう。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	N-03	
担当者	藤原 隆史		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、金曜日2限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
これまで学んできた英語学・言語学の分野での学修を振り返り、卒業論文を執筆します。特に認知言語学やその周辺分野を中心として、参考文献や先行研究を基に自分のテーマを探求し、論理的に議論を組み立て論文にまとめます。											
学修到達目標											
論理的・批判的に言語現象を捉え議論を構成することができる。 テーマに基づいて自ら議論を組み立て、分かりやすく表現し発表することができる。 独自に追及するテーマを基に、議論を発展させ一編の論文としてまとめることができる。											
授業の進め方											
各個人の研究テーマに応じた個別指導が中心です。また、必要に応じて全体で進捗状況の発表や議論を行い、それぞれの研究を深めたり視野を広げたりする機会を設けます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	執筆計画1	卒業論文執筆のおおよその計画について検討します。					執筆計画に従って、関係する先行研究などを収集し読んでおく。（4時間）				
2	執筆計画2	研究のテーマや先行研究を確認し、実際に研究が可能か確認します。見直しが必要な場合は、相談の上執筆計画に修正を加えます。					研究可能かどうかを様々な角度から検討しておく。（4時間）				
3	先行研究の検討1	研究テーマに関係する先行研究を調べ、研究計画を検討します。					関連する先行研究を調べ、それらを収集する。さらにそれらを批判的に読みまとめる。（4時間）				
4	先行研究の検討2	研究テーマに関係する先行研究を調べ、研究計画を検討します。					関連する先行研究を調べ、それらを収集する。さらにそれらを批判的に読みまとめる。（4時間）				
5	先行研究の検討3	研究テーマに関係する先行研究を調べ、研究計画を検討します。					関連する先行研究を調べ、それらを収集する。さらにそれらを批判的に読みまとめる。（4時間）				
6	データ収集1	先行研究および研究計画に基づいて、必要な資料やデータを収集します。必要に応じて、さらに先行研究等を読みます。					研究計画に従って、必要なデータを集めます。（4時間）				
7	データ収集2	先行研究および研究計画に基づいて、必要な資料やデータを収集します。必要に応じて、さらに先行研究等を読みます。					研究計画に従って、必要なデータを集めます。（4時間）				
8	卒業論文の構成の検討1	卒業論文全体の構成を考えます。					卒業論文の構成を考え、大まかな流れを明確にしておく。（4時間）				
9	卒業論文の構成の検討2	卒業論文全体の構成を考えます。必要に応じてテーマの再検討、議論の再構築を行います。					卒業論文の構成を考え、大まかな流れを明確にしておく。（4時間）				
10	初稿作成1	卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。					卒業論文の初稿を作成する。（4時間）				
11	初稿作成2	卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。また、必要に応じて文献や資料の収集、議論の再検討等も行います。					卒業論文の初稿を作成する。（4時間）				
12	初稿作成3	卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。また、必要に応じて文献や資料の収集、議論の再検討等も行います。					卒業論文の初稿を作成する。（4時間）				
13	初稿作成4	卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。また、必要に応じて文献や資料の収集、議論の再検討等も行います。					卒業論文の初稿を作成する。（4時間）				
14	初稿作成5	卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。また、必要に応じて文献や資料の収集、議論の再検討等も行います。					卒業論文の初稿を作成する。（4時間）				
15	長期休暇中の研究及び論文執筆	長期休業中の研究計画及び論文執筆計画について検討し、明確な計画を立てます。					長期休業中の研究・執筆計画に従って論文を執筆する。（4時間）				
16	第2稿作成1	前期および長期休業中に作成した初稿を基に、第2稿を作成します。また、必要に応じて議論の再構築や文献や資料等の収集、検証実験等も行います。					初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）				
17	第2稿作成2	前期および長期休業中に作成した初稿を基に、第2稿を作成します。また、必要に応じて議論の再構築や文献や資料等の収集、検証実験等も行います。					初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）				
18	卒業論文中間発表の準備	卒業論文中間発表の準備を行います。					卒業論文中間発表の発表準備をする。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文中間発表	卒業論文の中間発表を行います。お互いが批判的にコメントし合い、卒業論文の方向性の確認や、必要があれば修正を行います。	卒業論文中間発表の準備をする。（4時間）
20	第2稿作成3	作成した初稿を基に、卒論中間発表のコメントなどを踏まえ第2稿を作成します。また、必要に応じて議論の再構築や文献や資料等の収集、検証実験等も行います。	初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）
21	第2稿作成4	作成した初稿を基に、卒論中間発表のコメントなどを踏まえ第2稿を作成します。また、必要に応じて議論の再構築や文献や資料等の収集、検証実験等も行います。	初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）
22	第2稿作成5	作成した初稿を基に、卒論中間発表のコメントなどを踏まえ第2稿を作成します。また、必要に応じて議論の再構築や文献や資料等の収集、検証実験等も行います。	初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）
23	最終稿作成1	卒業論文の最終稿を書く準備をし、最終稿を完成させます。また、必要があれば論文の書き方や議論の妥当性等について相談に応じます。	最終稿を作成する。（4時間）
24	最終稿作成2	卒業論文の最終稿を書く準備をし、最終稿を完成させます。また、必要があれば論文の書き方や議論の妥当性等について相談に応じます。	最終稿を作成する。（4時間）
25	最終稿作成3	卒業論文の最終稿を書く準備をし、最終稿を完成させます。また、必要があれば論文の書き方や議論の妥当性等について相談に応じます。	最終稿を作成する。（4時間）
26	最終稿仕上げとゼミ発表準備	卒業論文の最終稿を完成させ、最終確認を行います。また、ゼミ発表に向けて準備を行います。	最終稿を仕上げる。（4時間）
27	ゼミ発表会準備	ゼミ発表会に向け最終的な確認などを行い、発表用資料（パワーポイントスライドなど）を準備します。	ゼミ発表会の準備を行う。（4時間）
28	ゼミ発表会	ゼミ発表会を行い、批判的なコメントをします。それを受けて、最終稿の提出前の最終確認を行います。	ゼミ発表会の準備を行う。（4時間）
29	卒業論文発表会準備	卒業論文発表会の準備を行います。必要な資料やパワーポイントなどを作成します。	卒業論文発表会の準備を行う。（4時間）
30	まとめ	卒業論文の印刷などを行います。また、卒業論文研究のまとめをします。	卒業論文の完成、印刷などを行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
特になし。		課題：80% レポート：20% S:卒業論文のテーマに関して積極的に探求し課題に取り組み、テーマについて特に優れた理解と知識を有する。A:卒業論文のテーマに関して積極的に探求し課題に取り組み、テーマについて深い理解と知識を有する。B:卒業論文のテーマを探求し課題に取り組み、テーマについての十分な理解と知識を有する。C:卒業論文のテーマを探求し課題に取り組み、テーマについて基礎的な理解と知識を有する。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		卒業論文は計画的に書くことがとても重要です。決められた期日までには課題等を提出し、普段から積極的に文献やデータを収集してください。あなたの卒業論文を書くのは、他ならないあなた自身であることを肝に銘じてください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
2年次後期の教職研究基礎ゼミナール、3年次の教職研究ゼミナールで学んだ内容を基礎として、4年間の学修の集大成としての卒業論文を作成するためのゼミナールです。本ゼミでは、教育の歴史に関するこれまでの学修を総括するとともに、教育の歴史に関する卒業論文の作成を行います。										
学修到達目標										
1.自らの考えを伝えるためのさまざまな方法を学び、実践できる。2.自らの研究テーマに関する先行研究を批判的に検討し、自らの問題意識を深めることができる。3.自らの研究テーマを多角的視点から捉えることができる。4.自らの研究テーマを論理的にまとめる力を身につけ、卒業論文を完成させることができる。										
授業の進め方										
担当者による報告と考察を深めるためのディスカッションを主に進めます。但し、授業や事前事後学修に関係なく、自発的に卒業論文の執筆は進めましょう。必要に応じて講義形式の授業や個別指導を行います。3年次ゼミと合同で行うこともあります。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス1	授業内容及び授業の進め方の説明をします。					シラバスの熟読、教職研究ゼミナールの復習(4時間)。			
2	課題の報告1	春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(4時間)。			
3	課題の報告2	春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(4時間)。			
4	課題の報告3	春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(4時間)。			
5	課題の報告4	春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(4時間)。			
6	研究の方法1	教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールで学んだ研究の方法を再確認します。					教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールの該当箇所の復習(4時間)。			
7	研究の方法2	教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールで学んだ研究の方法を再確認します。					教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールの該当箇所の復習(4時間)。			
8	研究テーマ及び内容構成の決定1	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
9	研究テーマ及び内容構成の決定2	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
10	研究テーマ及び内容構成の決定3	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
11	研究テーマ及び内容構成の決定4	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
12	研究テーマ及び内容構成の決定5	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
13	研究テーマ及び内容構成の決定6	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
14	研究テーマ及び内容構成の決定7	研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
15	前期のまとめ	ここまでの各自の報告及び検討内容を振り返り、総括します。また、卒業論文執筆、完成のための各自の課題を明確にします。					前期授業の復習(4時間)。			
16	ガイダンス2	後期授業の進め方について説明します。また、報告の順番を決めます。					夏季休業中に行った課題の振り返り(4時間)。			
17	研究テーマの探求1	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			
18	研究テーマの探求2	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。					報告の準備、検討のまとめ(4時間)。			

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究テーマの探求3	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
20	研究テーマの探求4	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
21	研究テーマの探求5	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
22	研究テーマの探求6	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
23	研究テーマの探求7	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
24	研究テーマの探求8	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
25	卒業論文ゼミ発表会の準備	卒業論文ゼミ発表会に向け、役割分担、レジュメ印刷などの準備を行います。	発表用レジュメの作成(1時間)。
26	卒業論文ゼミ発表会1	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
27	卒業論文ゼミ発表会2	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
28	卒業論文ゼミ発表会3	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
29	卒業論文ゼミ発表会4	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
30	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、総括します。	これまでの授業全体の復習(4時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
使用しません。必要に応じて資料を配布します。		受講態度：30% レポート：70% 受講態度(討論等への意欲)、レポート(報告、討論のまとめ等)を総合して評価します。 <評価基準> S:自発的学修、意欲的授業参加。多角的視点から研究テーマを探究し、自らの知見を論理的に説明できる。A:意欲的授業参加。いくつかの視点から研究テーマを捉え論理的に説明できる。B:卒論完成の為の授業参加。研究テーマを一つの視点から論じることができる。C:卒論完成の為の授業参加。執筆要件に沿って卒論を完成した。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業の進捗に合わせて紹介していきます。		本授業は、自分の興味関心に基づき自発的に学修(卒業論文の執筆)を進めることが前提となります。能動的に学修を進めることのできる学生の受講を強く期待しています。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	AL46078	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。特に発達障害や知的障害、特特別支援教育・特別ニーズ教育に関わる内容を中心のテーマとし、文献検討や調査研究を通して、本人・当事者のニーズに寄り添った教育のあり方や発達支援の課題を検討します。										
学修到達目標										
(1)これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめる。(2)研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得する。										
授業の進め方										
研究テーマに応じて課題を進めていきます。受講者相互の報告や問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視野を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	各自の研究構想の確認と、卒業論文発表会までのスケジュールを確認して研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究計画の確認	卒業論文作成の研究計画書を確認します。				研究計画書を作成してくる。（4時間）				
3	関連する文献の検討	テーマに関連する先行研究や文献を確認し、調査準備につなげていきます。				関連する先行研究や文献を読みまとめておく。（4時間）				
4	関連する文献の検討	テーマに関連する先行研究や文献を確認し、調査準備につなげていきます。				関連する先行研究や文献を読みまとめておく。（4時間）				
5	調査実施準備	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）				
6	調査実施準備	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）				
7	調査実施準備	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）				
8	調査実施準備	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）				
9	調査等の実施・データ収集	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）				
10	調査等の実施・データ収集	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）				
11	調査等の実施・データ収集	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）				
12	調査等の実施・データ収集	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）				
13	調査等の実施・データ収集	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）				
14	調査等の実施・データ収集	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）				
15	夏休みの作業計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行なう研究やまとめについて確認をします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	中間発表会準備	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。				プレゼンテーション資料を作成してくる。指導を受けて内容を完成させる。（4時間）				
17	中間発表会	中間発表を行い、今後の具体的な課題を確認します。				今後の計画を練り直す。（4時間）				
18	調査等実施と分析	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				データ収集を進める。（4時間）				



授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	調査等実施と分析	各自の取り組み状況に合わせながら、実際の調査等を実施します。進捗状況にあわせて分析状況を確認します。	分析方法を確認する。（4時間）
20	調査結果分析	調査結果について、先行研究等との比較を通しての分析状況を確認します。	分析方法に従い分析を進める。（4時間）
21	調査結果分析	調査結果について、先行研究等との比較を通しての分析状況を確認します。	分析方法に従い分析を進める。（4時間）
22	調査結果分析	調査結果について、先行研究等との比較を通しての分析状況を確認します。	分析方法に従い分析を進める。（4時間）
23	卒業論文執筆作業	各章の論文執筆状況を確認・指導します。	各章の論文を執筆する。（4時間）
24	卒業論文執筆作業	各章の論文執筆状況を確認・指導します。	各章の論文を執筆する。（4時間）
25	卒業論文執筆作業	各章の論文執筆状況を確認・指導します。	各章の論文を執筆する。（4時間）
26	卒業論文完成と提出準備	論文全体を確認・指導します。	論文の最終稿を完成してくる。論文提出に必要な書類を準備する。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの手続きを行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容の論文が作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を提示します。		課題を自ら探求していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	